

2026 SYLLABUS

情報メディア学部

北海道情報大学

【 目次 】

日本語表現 2023 年度入学生までは「日本語表現Ⅰ」になります。	8
日本語アカデミック・ライティング 2023 年度入学生までは「日本語表現Ⅱ」になります。	10
AI ビジネスライティング	12
基礎数学	14
基礎数学【再】	16
English for Media	18
ReadingⅠ【再】	21
CommunicationⅠ 2026 年度以降の入学生は、「English for Communication」になります。	24
English for Communication（国際情報プログラム）	27
ビギナーズセミナーⅠ（情報メディア学科）	30
ビギナーズセミナーⅡ（情報メディア学科）	32
ReadingⅡ	34
WritingⅡ	37
CommunicationⅡ 2026 年度以降の入学生は、「English Communication Technology」になります。	39
CommunicationⅡ 2026 年度以降の入学生は、「English Communication Technology」になります。	42
CommunicationⅡ（国際情報プログラム）	46
SpeakingⅡ	49
SpeakingⅡ（国際情報プログラム）	53
職業英語 A 2024 年度以降の入学生は、「Advanced EnglishⅠ」になります。	57
職業英語 B 2024 年度以降の入学生は、「Advanced EnglishⅡ」になります。	60
中国語基礎Ⅰ 2023 年度入学生までは、「中国語Ⅰ A」になります。	63
中国語基礎Ⅱ 2023 年度入学生までは、「中国語Ⅰ B」になります。	66
中国語会話Ⅱ	69
複言語演習Ⅰ -2027 年度開講-	72
複言語演習Ⅱ -2027 年度開講-	73
情報倫理	74
情報倫理	77
情報の世界	80
心理学	84
文学	86
歴史学	88
哲学	91
経済学Ⅰ	93
経済学Ⅱ	95
法学	97
社会学	99
憲法	102
国際関係論	104
身近な数学	107
線形代数Ⅰ	109
線形代数	112
線形代数Ⅱ	114
微分積分Ⅰ	117
微分積分	119
微分積分Ⅰ(教職クラス)	121
微分積分Ⅱ	123
微分積分Ⅱ(教職クラス)	125
確率論	128
統計学	131
物理学	133

生物学.....	136
化学	139
健康とスポーツ概論Ⅰ	141
健康とスポーツ概論Ⅱ	144
スポーツ実技Ⅰ	147
スポーツ実技Ⅱ	150
海外語学・文化研修（中国大連編）	153
海外事情（中国編）	155
海外事情（米国編） ※2026年度休講	157
国際コラボレーションA.....	158
国際コラボレーションB.....	161
キャリアデザインⅠ（情報メディア学科）	164
キャリアデザインⅡ（情報メディア学科）	166
キャリアデザインⅢ（システム情報学科、情報メディア学科）	168
日本語Ⅰ	170
日本語Ⅰ（編入生）	172
日本語Ⅱ	174
日本語Ⅱ（編入生）	177
日本語Ⅲ	180
日本語Ⅳ	182
日本語Ⅳ（編入生）	184
日本事情.....	186
情報メディア入門Ⅰ	188
情報メディア入門Ⅱ	190
情報メディア学Ⅰ	192
情報メディア学Ⅱ	194
メディアの行列	196
芸術論.....	198
オーディオビジュアルアート	200
メディアの確率と統計	203
暗号の数学	206
発想法演習	209
ICT入門	212
ビジュアルプログラミング演習.....	215
情報メディア特別演習Ⅰ	217
経営系科目A<ベンチャービジネス論>	220
Webビジネス論（情報メディア学科は「経営系科目B<Webビジネス論>」）	223
経営系科目B<マーケティング論>	225
デジタルマーケティング（情報メディア学科は「経営系科目C<デジタルマーケティング>」）	227
ビジネスプラン（情報メディア学科は「経営系科目D<ビジネスプラン>」）	230
HTMLコーディング演習.....	233
メディア技術演習	236
コンピュータ	239
プログラミング演習Ⅰ【再】	242
プログラミング演習Ⅰ	245
プログラミング演習Ⅱ	249
特別実習A	253
Webデザイン基礎演習.....	256
デッサン	259
メディアデザインの基礎演習	263
デザインエレメンツ演習.....	266
サウンドプログラミング演習	270
図形科学の基礎	274

デジタルサウンド演習	277
特別実習 B	280
情報システム特別講義	282
メディアデザイン特別講義 -2026 年度休講-	284
行動とデザイン	285
Web プログラミング演習	288
インターンシップ	292
CG プログラミング	294
インフォグラフィックス演習	296
インストラクショナルデザイン演習	298
プロジェクト・マネージメント	301
デザインシンキング	304
デザインシンキング（国際情報プログラム）	307
情報メディア特別演習Ⅱ	310
情報メディア特別ゼミナールⅠ	313
情報メディア特別ゼミナールⅡ	316
卒業研究Ⅰ	319
卒業研究Ⅱ	322
卒業研究Ⅲ	325
卒業研究Ⅳ	328
コンピュータゲーム開発論	331
SQL 入門	333
SQL 入門【再】	336
インターネットの仕組み	339
Web フロントエンド演習	342
フィジカルコンピューティング演習	346
ゲームプログラミング演習	350
ゲーム制作演習	353
ゲーム開発の最新動向	356
音声情報処理	359
画像情報処理	363
サイバーセキュリティの技術	365
Web アプリケーション開発演習Ⅰ	369
Web アプリケーション開発演習Ⅱ	372
Linux 演習	375
情報メディアのデータ処理	378
ビジュアル構成演習	381
色彩・デザイン演習	385
イラスト制作演習	389
Web 制作演習	394
3DCG 演習	398
3DCG 演習	402
ゲームCG 演習	405
映画制作演習	407
アニメーション演習	411
ビジュアルエフェクト演習	415
PA 技術演習	418
DTP 演習	420
映像制作プロジェクト	423
Web 制作プロジェクト	427
メディアアート制作プロジェクト	431
ゲーム制作プロジェクト	435
アプリ制作プロジェクト	439

ネットワーク演習	443
プロジェクトⅠ	447
プロジェクトⅡ	449
ステップアッププロジェクトⅢ 2024年度以降の入学生は、「プロジェクトⅢ」になります。...	451
プロジェクトトライアル.....	453
BⅠとビッグデータⅠ	456
BⅠとビッグデータⅡ	459
クリエイティブ・マネージメント【再】	462
ゼミナールⅠ	465
ゼミナールⅡ	468
ゼミナールⅢ.....	471
ゼミナールⅣ.....	474
ゼミナールⅠ	478
ゼミナールⅡ	481
ゼミナールⅢ.....	484
ゼミナールⅣ.....	487
ゼミナールⅠ	490
ゼミナールⅡ	492
ゼミナールⅢ.....	494
ゼミナールⅣ.....	496
ゼミナールⅠ	498
ゼミナールⅡ	500
ゼミナールⅢ.....	502
ゼミナールⅣ.....	504
ゼミナールⅠ	506
ゼミナールⅡ	509
ゼミナールⅢ.....	512
ゼミナールⅣ.....	515
ゼミナールⅠ	518
ゼミナールⅡ	520
ゼミナールⅢ.....	522
ゼミナールⅣ.....	524
ゼミナールⅠ	526
ゼミナールⅡ	529
ゼミナールⅢ.....	532
ゼミナールⅣ.....	535
ゼミナールⅠ	538
ゼミナールⅡ	541
ゼミナールⅢ.....	544
ゼミナールⅣ.....	546
ゼミナールⅠ	548
ゼミナールⅡ	551
ゼミナールⅢ.....	554
ゼミナールⅣ.....	557
ゼミナールⅠ	560
ゼミナールⅡ	563
ゼミナールⅢ.....	565
ゼミナールⅣ.....	568
ゼミナールⅠ	571
ゼミナールⅡ	573
ゼミナールⅢ.....	575
ゼミナールⅣ.....	577
ゼミナールⅠ	579

ゼミナールⅡ	581
ゼミナールⅢ	583
ゼミナールⅣ	586
ゼミナールⅠ	589
ゼミナールⅡ	592
ゼミナールⅢ	594
ゼミナールⅣ	596
ゼミナールⅠ	598
ゼミナールⅡ	600
ゼミナールⅢ	602
ゼミナールⅣ	604
ゼミナールⅠ	606
ゼミナールⅡ	608
ゼミナールⅢ	610
ゼミナールⅣ	612
ゼミナールⅠ	614
ゼミナールⅡ	617
ゼミナールⅢ	620
ゼミナールⅣ	623
ゼミナールⅠ	626
ゼミナールⅡ	628
ゼミナールⅢ	630
ゼミナールⅣ	632
ゼミナールⅠ	634
ゼミナールⅡ	637
ゼミナールⅢ	640
ゼミナールⅣ	643
ゼミナールⅠ	646
ゼミナールⅡ	649
ゼミナールⅢ	652
ゼミナールⅣ	655
ゼミナールⅠ	658
ゼミナールⅡ	660
ゼミナールⅢ	662
ゼミナールⅣ	664
ゼミナールⅠ	666
ゼミナールⅡ	668
ゼミナールⅢ	670
ゼミナールⅣ	672
ゼミナールⅠ	674
ゼミナールⅡ	676
ゼミナールⅢ	679
ゼミナールⅣ	682
ゼミナールⅠ	685
ゼミナールⅡ	688
ゼミナールⅢ	691
ゼミナールⅣ	694
ゼミナールⅠ	697
ゼミナールⅡ	699
ゼミナールⅢ	701
ゼミナールⅣ	703
ゼミナールⅠ	705
ゼミナールⅡ	707

ゼミナールⅢ	709
ゼミナールⅣ	711
ゼミナールⅠ	713
ゼミナールⅡ	716
ゼミナールⅢ	719
ゼミナールⅣ	722
ゼミナールⅠ	725
ゼミナールⅡ	727
ゼミナールⅢ	729
ゼミナールⅣ	731
ゼミナールⅠ	733
ゼミナールⅡ	735
ゼミナールⅢ	737
ゼミナールⅣ	739
ゼミナールⅠ	741
ゼミナールⅡ	743
ゼミナールⅢ	745
ゼミナールⅣ	747
ゼミナールⅠ	749
ゼミナールⅡ	751
ゼミナールⅢ	753
ゼミナールⅣ	755
ゼミナールⅠ	757
ゼミナールⅡ	760
ゼミナールⅢ	763
ゼミナールⅣ	766
ゼミナールⅠ	769
ゼミナールⅡ	771
ゼミナールⅢ	773
ゼミナールⅣ	775
マレーシア短期留学	777
海外語学・文化研修（フィンランド編）	781
海外事情（オーストラリア編）	784
課題解決型国際 WS	787
I C T入門（国際情報プログラム）	789
Introduction to Global Information（国際情報入門）	792
国際情報概論	795
国際情報演習	798
グローバルヘルスリテラシー -2026 年度休講-	800
グローバルインターンシップ	801

日本語表現 2023 年度入学生までは「日本語表現Ⅰ」になります。

Japanese Expression

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IBC110
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(4),(6)				
授業概要						
テーマ：日本語表現の基礎的な知識やスキルについて学ぶ						
日本の大学生にとって学問の基礎となるのは母国語である日本語力です。書かれたものを的確に読み、自分の考えたことを適切に表現すること、それはすべての学びの基礎といえます。しかし、その日本の大学生の日本語能力が近年著しく低下してきているといわれます。この講義では、そうした傾向に歯止めを掛け、一人一人がより適切な日本語表現ができるようにするために、日本語そのものの基礎力を身につけることを目指します。						
ドリルや演習課題に取り組む方法で学習しますので、しっかりトレーニングを行い一步一步ステップアップを図って下さい。計画的に学習を進めるためには、課題の提出期限をしっかりと守って下さい。						
授業における学修の到達目標						
日本語表現の基礎力を身につけることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス（授業の進め方について）				
	事後学修	「公的な文章の基本」「常体と敬体」「話し言葉と書き言葉の違い」についてまとめる				2.0
2	事前学修	トレーニングシート第 1 章の問題を解く				2.0
	授業	アカデミックワードと日常語				
	事後学修	「アカデミックワードと日常語の違い」についてまとめる				2.0
3	事前学修	トレーニングシート第 2 章の問題を解く				2.0
	授業	仮名遣い・送り仮名				
	事後学修	現代仮名遣いと送り仮名について復習する				2.0
4	事前学修	トレーニングシート第 3 章、第 6 章の問題を解く				2.0
	授業	句読点／見やすい表記				
	事後学修	・適切な句読点の打ち方について復習する ・切れ続きを見やすくするための方法についてまとめる				2.0
5	事前学修	トレーニングシート第 4 章の問題を解く				2.0
	授業	四字熟語・ことわざ・慣用句				
	事後学修	四字熟語・ことわざ・慣用句について復習する				2.0
6	事前学修	トレーニングシート第 5 章の問題を解く				2.0
	授業	漢字の使い分け				
	事後学修	同訓異字や同音異義語についてまとめる				2.0
7	事前学修	トレーニングシート第 7 章の問題を解く				2.0
	授業	敬語				
	事後学修	基本的な敬語の使い方について復習する				2.0

8	事前学修	トレーニングシート第 8 章の問題を解く	2.0
	授業	手紙	
	事後学修	お世話になった目上の人に手紙を書く	2.0
9	事前学修	トレーニングシート第 9 章の問題を解く	2.0
	授業	E メール	
	事後学修	メールの文章を書く	2.0
10	事前学修	トレーニングシート第 10 章の問題を解く	2.0
	授業	あいまいな文	
	事後学修	あいまいな文を書かないためのポイントをまとめる	2.0
11	事前学修	トレーニングシート第 11 章の問題を解く	2.0
	授業	分かりやすい語順	
	事後学修	基本的な語順についてまとめる	2.0
12	事前学修	トレーニングシート第 12 章の問題を解く	2.0
	授業	長い文を分ける	
	事後学修	授業内容をまとめる	2.0
13	事前学修	トレーニングシート第 13 章の問題を解く	2.0
	授業	文のねじれ	
	事後学修	適切なかかりうけについて復習する	2.0
14	事前学修	トレーニングシート第 14 章の問題を解く	2.0
	授業	接続表現の使い方	
	事後学修	接続表現の基本的な使い分けや、不適切な接続表現の修正の仕方について復習する	2.0
15	事前学修	トレーニングシート 15 章の問題を解く	2.0
	授業	結論を先に述べる	
	事後学修	授業内容をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト：70% ■演習課題：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題は採点または添削後返却する。

教科書	書名：大学生のための日本語表現トレーニング（ドリル編），著者名：安部朋世・福嶋健伸・橋本修，出版社：三省堂，備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	本講義では必要に応じてペアワーク、グループワークを行う。
担当教員の実務経験	実務経験なし

日本語アカデミック・ライティング 2023 年度入学生までは「日本語表現Ⅱ」になります。 Japanese Academic Writing

担当教員	田中 里実(339 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IBC104
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(6)				
授業概要						
テーマ：レポート・論文作成に役立つ文章力を身につける						
大学生には、学習や研究の成果をレポートや論文としてまとめ提出（発表）することが日常的に求められます。また情報化社会の今日、単に与えられた課題に取り組むばかりでなく、自ら問題を発見し、関連する資料や情報を集め、的確に分析・判断する能力が求められてもいます。そうした思考プロセスと成果を言葉でまとめ記述する「文章表現能力」こそが大学生の基礎学力と言っても過言ではないのです。このような認識に立って、この授業では、レポートや論文に対する基礎知識を習得し、文章作成の基本的な技能を身につけるための練習をします。						
授業における学修の到達目標						
レポートや論文に対する基礎知識を習得し、文章作成の基本的な技能を身につけることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	・ シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する ・ 教科書（第 1 回）を読んでおく				2.0
	授業	・ ガイダンス ・ 論文・レポートの骨格を知る				
	事後学修	講義内容の整理				2.0
2	事前学修	・ 教科書（第 2 回）を読んでおく ・ 第 2 回のスタートテストの問題を解く				2.0
	授業	学術的な文章にふさわしい表現				
	事後学修	講義内容の整理				2.0
3	事前学修	・ 教科書（第 3 回）を読んでおく ・ 第 3 回のスタートテストの問題を解く				2.0
	授業	読みやすい文章の書き方、読点・記号の使い方				
	事後学修	講義内容の整理				2.0
4	事前学修	・ 教科書（第 4 回）を読んでおく ・ 第 4 回のスタートテストの問題を解く				2.0
	授業	接続表現の使い方				
	事後学修	講義内容の整理				2.0
5	事前学修	教科書（第 5 回）を読んでおく				2.0
	授業	文献の引用の仕方、事実と意見の区別				
	事後学修	講義内容の整理				2.0
6	事前学修	・ 教科書（第 6 回）を読んでおく ・ 提示された資料をあらかじめ読んでおく				2.0
	授業	レポート課題の把握				

	事後学修	講義内容の整理	2.0
7	事前学修	教科書（第7回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成①「序論（背景）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
8	事前学修	教科書（第8回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成②「序論（研究目的）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
9	事前学修	教科書（第9回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成③「本論（文献の引用）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
10	事前学修	教科書（第10回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成④「本論（解釈）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
11	事前学修	教科書（第11回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑤「本論（考察）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
12	事前学修	教科書（第12回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑥「結論（まとめ・今後の課題）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
13	事前学修	教科書（第13回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑦「参考文献リスト」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
14	事前学修	教科書（第14回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑧「提出前の原稿チェック（体裁）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
15	事前学修	教科書（第15回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑨「提出前の原稿チェック（推敲）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：60% ■演習課題：40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート、演習課題は採点または添削後返却する。

教科書	書名：大学生のための日本語アカデミック・ライティング基礎講座ーレポート・論文のアウトラインから執筆まで、著者名：金銀珠・田中里実、出版社：学術図書出版社、備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	日本語表現
備考	本講義では必要に応じてペアワーク、グループワークを行う。
担当教員の実務経験	実務経験なし

AI ビジネスライティング AI Business Writing

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IBC113
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	1 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(6)				
授業概要						
テーマ：AI で効率的なビジネス文書作成を実践的に学ぶ						
AI（ChatGPT、Claude など）を活用し、効率の良いビジネス文書の作成方法を身につける。具体的には、AI 利用の際の倫理的配慮やプロンプトの試行・工夫、議事録の作成、会議報告書の作成、Web 記事の作成、SNS 投稿の作成等を扱う予定である。PC での実習とディスカッション等のグループワークを主体に学習する。						
授業における学修の到達目標						
・生成 AI を活用し、業務目的や読み手に応じたビジネス文章を、プロンプトの工夫を通して構想・設計・実装・改善のプロセスとして作成できるようになる。						
・AI が生成した文章を批判的に読み、倫理的観点を踏まえて、実務で使用可能な表現・構成へ修正する判断力を身につける。						
・グループでの検討や相互評価を通して、他者の視点を取り入れながら文章を改善する協働的な学習姿勢を養う。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読む				2.0
	授業	ガイダンス（授業概要、生成 AI 利用における倫理）				
	事後学修	授業内容・AI 利用上の注意点を振り返る				2.0
2	事前学修	指示された動画「AI について」を視聴する				2.0
	授業	プロンプト①（生成 AI の基礎）				
	事後学修	生成 AI の基礎を復習し、簡単なプロンプトを作成・実行する				2.0
3	事前学修	指示された動画「電話応対について」を視聴する				2.0
	授業	プロンプト②（電話応対マニュアル作成）				
	事後学修	電話応対マニュアルを見直し、改善する				2.0
4	事前学修	指示された動画「ビジネス用 E メールについて」を視聴する				2.0
	授業	ビジネス E メール作成（日程調整）				
	事後学修	日程調整における Eメールの構成と表現のポイントを整理する				2.0
5	事前学修	指示された動画「アンケート作成について」を視聴する				2.0
	授業	アンケート項目の作成・アンケート分析				
	事後学修	アンケート項目と分析結果を見直し、改善点を整理する				2.0
6	事前学修	指示された動画「報告書について」を視聴する				2.0
	授業	ビジネス書類テンプレートの作成（業務報告書・会議報告書・出張報告書）				
	事後学修	作成した各種報告書テンプレートを見直し、改善する				2.0
7	事前学修	指示された動画「面接について」を視聴する				2.0
	授業	面接マニュアル作成・面接練習：アルバイト				
	事後学修	面接マニュアルを見直し、回答内容や表現を改善する				2.0

8	事前学修	指示された動画「広報活動について」を視聴する	2.0
	授業	キャッチコピーの作成・SNS 投稿の作成	
	事後学修	作成したキャッチコピーと SNS 投稿文を見直し、改善する	2.0
9	事前学修	指示された動画「Web 記事の作成について」を視聴する	2.0
	授業	Web 記事の作成	
	事後学修	作成した Web 記事を見直し、改善する	2.0
10	事前学修	指示された動画「アジェンダ・会議・業務マニュアルについて」を視聴する	2.0
	授業	アジェンダ作成・会議の実施・業務マニュアル作成：蒼天祭	
	事後学修	蒼天祭の運営を想定し、アジェンダや業務マニュアルの実用性を見直す	2.0
11	事前学修	指示された動画「議事録・タスク管理について」を視聴する	2.0
	授業	議事録の作成・ToDo リストの作成	
	事後学修	議事録と ToDo リストを見直し、実務で使いやすい形に整える	2.0
12	事前学修	指示された動画「企画書について」を視聴する	2.0
	授業	企画書の作成（上司同行・取引先対応）	
	事後学修	上司や取引先の視点を意識し、企画書の構成や表現を見直す	2.0
13	事前学修	指示された動画「幹事の仕事について」を視聴する	2.0
	授業	イベント運営（忘年会の幹事業務）	
	事後学修	忘年会の運営を振り返り、改善点を整理する	2.0
14	事前学修	指示された動画（研修担当の仕事について①）を視聴する	2.0
	授業	研修担当業務「AI の入門的な使い方と注意点について」（スクリプト・読み上げ音声作成）	
	事後学修	スクリプトと読み上げ音声を見直し、改善点を整理する	2.0
15	事前学修	指示された動画（研修担当の仕事について②）を視聴する	2.0
	授業	研修担当業務「AI の入門的な使い方と注意点について」（動画作成）	
	事後学修	作成した動画を見直し、内容や構成の改善点を整理する	2.0

成績評価の方法およびその基準

■ 演習課題：100%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で作成した成果物に対し、口頭による全体フィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	一般社団法人生成 AI 活用普及協会（GUGA）、『生成 AI パスポート公式テキスト』、2026 年改訂版。 （※本テキストは試験シラバスの改訂に応じて不定期に更新されている。）
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	本講義では必要に応じてペアワーク、グループワークを行う。
担当教員の実務経験	実務経験なし

基礎数学 Basic Mathematics

担当教員	松井 伸也(224 研究室), 辻 順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC105	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：基礎的な代数計算						
1) 数学および数学関連の講義を受講する上で、基礎的な計算を思い直すのは重要な事です。普段何気なく行っている計算が、どのような計算であるかを考え直し、形式的な計算ではなく納得した計算をして頂きたいです。						
2) 学籍番号が「25」で始まる情報メディア学科の学生は、インターネットの講義を受講します。通信教育で開講されている e ラーニング講義です。それ以外の学生は、辻先生が対面で講義を行いますので、そちらを受講してください。						
3) 松井の講義、辻先生の講義に関しての詳細は 1 回目の講義で述べます。必ず受講してください。						
4) インターネットで行う講義の受講は、場所は原則講義室ですが、それぞれの都合に合わせて、自宅などで受講しても構いません。出席の代わりに受講の記録を見ます。なおノートパソコン、大学の Gmail アカウントとパスワードが必要です。講義は 30 分程度の講義と演習問題からなります。演習問題を正解すると平常点が付きます。講義室での受講には「イヤフォン」等を用意して来て下さい。						
5) 質問は講義中でも研究室（松井 224, 辻 223）でも答えます。						
授業における学修の到達目標						
一つ一つの計算を、その意味を考えながら計算することを、この講義のねらいとします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	今まで行った数学を思い出して下さい。				2
	授業	オリエンテーションです。なお 1 年生は e ラーニング教材「基礎数学」のアカウントの確認等があります。				
	事後学修	講義の振り返りをして下さい。				2
2	事前学修	前回の講義の振り返りをして下さい。				2
	授業	分数 (1) 基礎				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
3	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	分数 (2) 演習				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
4	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	式の計算				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
5	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	式の展開 (1) 基礎計算				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
6	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	講義で行った計算を今一度行って下さい。				

	事後学修	式の展開（２）演習	2
7	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	因数分解（１）基礎計算	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
8	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	因数分解（２）演習	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
9	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	今までの演習	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
10	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	ルートの意味	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
11	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	ルートの計算	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
12	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	1 次方程式と 2 次方程式	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
13	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	分数式の計算	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
14	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	連立 1 次方程式	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
15	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	全体の演習	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2

成績評価の方法およびその基準

松井と辻先生では評価方法が異なります。最初の講義，POLITE で詳細をお知らせします。なお松井の評価基準は POLITE にもあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義時間中に対応します。

教科書	
参考書・Web サイト	ありません。
単位修得が望ましい科目	ありません。
備考	ありません。
担当教員の実務経験	ありません。

基礎数学【再】 Basic Mathematics

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IBC105
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：基礎的な代数計算						
1) 数学および数学関連の講義を受講する上で、基礎的な計算を思い直すのは重要な事です。普段何気なく行っている計算が、どのような計算であるかを考え直し、形式的な計算ではなく納得した計算をして頂きたいです。						
2) 再履修の学生に対しては辻が対面で講義を行います。ただし、講義室では 1 年生の学生がインターネットで行う講義を受講していますので、再履修の学生は別室にて個別に対応します。						
3) 松井先生の講義、辻の講義に関しての詳細は 1 回目の講義で述べます。必ず受講してください。						
4) 質問があれば、講義中や研究室（辻 223）のいずれかで質問してください。						
授業における学修の到達目標						
一つ一つの計算を、その意味を考えながら計算することを、この講義のねらいとします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	今まで行った数学を思い出して下さい。				2
	授業	オリエンテーションです。				
	事後学修	講義の振り返りをして下さい。				2
2	事前学修	前回の講義の振り返りをして下さい。				2
	授業	分数（1）基礎				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
3	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	分数（2）演習				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
4	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	式の計算				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
5	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	式の展開（1）基礎計算				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
6	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	式の展開（2）演習				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
7	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	因数分解（1）基礎計算				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
8	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2

English for Media English for Media

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室), JOEL RIAN (308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IBC115	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
授業テーマ：メディアを通じた英語コミュニケーション 本授業では、映像、デザイン、イラストレーション、ゲーム、ウェブサイト、UI/UX、サウンドなど、情報メディア分野に関連するさまざまなテーマを取り上げます。学生が日頃学んでいる内容を手がかりにしながら、基礎的な英語コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の基礎に自信がない学生でも参加しやすいよう、身近なテーマを通じて学習を進めていきます。 授業では、やさしい語彙と短い表現を用いながら、視覚教材や実際の制作例も取り入れ、理解を深めます。毎週のテーマを通して、スピーキングとリスニングを中心に練習し、メディア分野で必要となる基本的な英語表現や専門用語にも触れていきます。 また、本授業ではアクティブ・ラーニングの要素も取り入れます。学内 LMS である MOODLE (POLITE) に加え、SOCRATIVE や KAHOOT! などの学習支援アプリも活用します。授業の進め方や評価方法については初回授業で説明しますので、必ず出席してください。 **詳細については POLITE をご覧ください。						
授業における学修の到達目標						
1. 情報メディアに関する基本的な英語用語を理解し、簡単な場面で正確に使用できるようにします。 2. 学んだメディア関連の英語語彙を使って、短いタスクで適切に表現できるようにします。 3. メディアに関する基本的な仕組みやプロセスを理解し、やさしい英語で説明できるようにします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバス全体を確認し、授業の流れや重要なポイントを把握しておきましょう。				2
	授業	Week 1: Video & Animation — describing actions and story sequence				
	事後学修	授業で扱った重要な内容を整理し、理解できたか振り返ってみましょう。				2
2	事前学修	グラフィックデザインの主要な要素について調べ、イメージを膨らませてみましょう。				2
	授業	Week 2: Graphic Design — describing visuals with adjectives				
	事後学修	新しく学んだ語彙やスライドの内容を確認し、宿題を仕上げましょう。				2
3	事前学修	宿題を見直した上で、好きなキャラクターデザインの例を探し、どの点が魅力的か考えてみましょう。				2
	授業	Week 3: Illustration & Character Design — appearance + personality				
	事後学修	授業で学んだ表現や語彙を復習し、宿題を完了させてください。				2
4	事前学修	宿題を振り返り、3DCG の作品例を見ながら表現方法や構造を確認してみましょう。				2
	授業	Week 4: 3DCG — spatial language and object description				
	事後学修	新しい語彙やスライド内容を整理し、宿題を完成させましょう。				2
5	事前学修	宿題を確認し、自分の好きなゲームを観察し、なぜそのゲームが面白いと思うか考えてみましょう。				2
	授業	Week 5: Game Design — rules and instructions				

	事後学修	学んだ語彙やスライド内容を振り返り、宿題をしっかりと終わらせましょう。	2
6	事前学修	宿題を復習し、インターネット上で様々なメディアアートを探し、印象に残った作品をメモしてみましょう。	2
	授業	Week 6: Media Arts — expressing feelings about artworks	
	事後学修	新しい語彙や授業内容を確認し、宿題を仕上げてください。	2
7	事前学修	宿題を見直し、自分の好きなウェブサイト进行分析し、なぜそのサイトが使いやすい・面白いと思うか考えてみましょう。	2
	授業	Week 7: Website Creation — page functions and structure	
	事後学修	授業で習った語彙や内容を整理し、宿題を完成させましょう。	2
8	事前学修	宿題を確認した後、UI と UX の違いについて調べ、ウェブサイトやアプリでの例を考えてみましょう。	2
	授業	Week 8: UI/UX — usability, clarity, comparison	
	事後学修	新しく学んだ語彙やスライド内容を復習し、宿題を終わらせてください。	2
9	事前学修	宿題を振り返り、AR と VR の例を探し、どちらが自分にとって魅力的か考えてみましょう。	2
	授業	Week 9: VR/AR — comparing real and virtual	
	事後学修	授業で習った語彙や表現を整理し、宿題を完成させましょう。	2
10	事前学修	宿題を確認し、日常的に使用しているモバイルアプリを思い浮かべ、それぞれの特徴を考えてみましょう。	2
	授業	Week 10: Mobile Apps — describing features and purpose	
	事後学修	新しい語彙やスライド内容を振り返り、宿題を終えてください。	2
11	事前学修	宿題を見直し、「プログラムとは何か」を考え、身近な例を挙げてみましょう。	2
	授業	Week 11: Game Programming — basic logic (if/when/start)	
	事後学修	授業で習った基本的な論理や語彙を復習し、宿題をしっかりと仕上げましょう。	2
12	事前学修	宿題を振り返り、オンライン上で安全に過ごすための方法や注意点を考えてみましょう。	2
	授業	Week 12: Internet Security — warnings and advice	
	事後学修	新しい語彙やスライド内容を整理し、宿題を完成させましょう。	2
13	事前学修	宿題を確認し、音声の質や特徴をどのように説明するか考えてみましょう。	2
	授業	Week 13: Sound — describing audio	
	事後学修	授業で学んだ語彙や表現を復習し、宿題を終わらせてください。	2
14	事前学修	宿題を振り返り、データの傾向や情報を整理して視覚的に表現する方法を考えてみましょう。	2
	授業	Week 14: Data Science & Infographics — describing data + making visuals	
	事後学修	新しく学んだ語彙やスライド内容を確認し、宿題を仕上げましょう。	2
15	事前学修	宿題を確認し、これまで学んだ語彙・内容・表現を全て振り返りましょう。	2
	授業	Week 15: 全体のまとめ	
	事後学修	授業全体をまとめ、最も印象に残ったテーマや学びを整理しましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験：30% ■平常点・参加：20% ■宿題：30% ■その他[発言／小テスト等]：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

LMS システム(POLITE, SOCRATIVE, KAHOOT!)で表示した課題については、授業中および授業後にチェックし指導・フィ

ードバックを行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	なし（資料は POLITE 上）
単位修得が望ましい科目	未定
備考	未定
担当教員の実務経験	未定

Reading I 【再】 Reading 1

担当教員	加澤 雅裕(302 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IBC107
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	2 年	冬期集中	○
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ「読解力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める」 自律的学習を中心とした講義である。PC を使って News in Levels のニュース記事や動画を利用して、高校までに獲得した英語力を、さらに上積みすることをねらいとする。半期を通じて、どこまで英語力が伸長するかを追求する。具体的には、上位者は英検 2 級相当以上、中位者は準 2 級相当以上を目指す。 News in Levels の英文ニュース記事では、読解力や単熟語力を身につける。リスニング力向上も目指す。予習して授業に臨むことで、より確実な英語力が身につく。積極的に自学自習を行い、授業においても積極的に関わることを望む。 授業の指針を下に示す。 1 1 回目の授業にて重要な授業の方針を伝えるので必ず出席すること 2 未知の単語をその場で引く。予習・復習を怠らないこと						
授業における学修の到達目標						
1. 英文を読んで内容を理解することができる 2. 英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる 3. 自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し、使うことができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	ガイダンス。3 つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を 60 語～70 語の英語で POLITE に書き、音読練習をする。それをペアで発表する。				
	事後学修	1. 3 つのニュース記事を音読する。 2. 3 つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。				2
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	3 つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を 60 語～70 語の英語で POLITE に書き、音読練習をする。それをペアで発表する。				
	事後学修	1. 3 つのニュース記事を音読する。 2. 3 つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。				2
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	3 つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を 60 語～70 語の英語で POLITE に書き、音読練習をする。それをペアで発表する。				
	事後学修	1. 3 つのニュース記事を音読する。 2. 3 つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。				2
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2

	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を60語～70語の英語でPOLITEに書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を60語～70語の英語でPOLITEに書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を60語～70語の英語でPOLITEに書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を60語～70語の英語でPOLITEに書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
8	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を60語～70語の英語でPOLITEに書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
9	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を60語～70語の英語でPOLITEに書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
10	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を60語～70語の英語でPOLITEに書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
11	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を60語～70語の英語でPOLITEに書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	

	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
12	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を 60 語～70 語の英語で POLITE に書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
13	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を 60 語～70 語の英語で POLITE に書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
14	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を 60 語～70 語の英語で POLITE に書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2
15	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	3つの英文記事の単語、熟語、文法を説明する。それぞれの記事の動画を観る。記事についての考察を 60 語～70 語の英語で POLITE に書き、音読練習をする。それをペアで発表する。	
	事後学修	1. 3つのニュース記事を音読する。 2. 3つの記事の単語、熟語、文法を学習する。 2. 記事の動画を再度観る。	2

成績評価の方法およびその基準

■小テスト： 50% ■演習課題： 50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	News in Levels のサイト
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	加澤は高等学校の英語教員及び管理職として、また、北海道教育委員会の外国語担当指導主事として北海道の英語教育の発展に寄与してきた。

Communication I 2026 年度以降の入学生は、「English for Communication」になります。 Communication 1

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC102	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	1 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
授業テーマ：英語のマイクロスキルを積み重ねて身につけるコミュニケーション力						
本授業では、スピーキング、リスニング、インタラクション、リーディング、ライティングという五つの基礎的なコミュニケーション技能を総合的に育成します。中心となるのはスピーキング・リスニング・やり取りの技能であり、リーディングとライティングはこれらを支える形で活用します。						
授業はスキル重視の構成となっており、毎週一つの実践的なマイクロスキル（短い場面で使える具体的なコミュニケーション技能）を学びます。前半（第 1～7 週）は、会話の始め方、自己紹介、基本的な質問表現、要点の聞き取り、意味確認、日常行動の説明、短い指示の理解など、基礎的な技能の習得に重点を置きます。後半（第 8～14 週）では、意見表明、短いディスカッション、簡単な視覚情報の説明、フォローアップ質問、短いプレゼンテーションなど、これらの技能を応用するタスクに取り組みます。						
このような段階的な学習を通して、学生は日常的な学修場面や社会的な場面で、簡潔で効果的な英語によるコミュニケーションができるようになることを目指します。						
なお、この授業ではアクティブラーニングの要素も取り入れます。大学の LMS である MOODLE（POLITE）に加え、SOCRATIVE や KAHOOT! などの学習支援アプリも活用します。授業の進め方や評価方法については初回の授業で説明しますので、必ず出席してください。						
*詳細については POLITE をご覧ください。						
**対象スキルの順序は担当教員によって異なる場合があります。						
授業における学修の到達目標						
1. 英語による基礎的なスピーキング・リスニング・インタラクション技能を身につけ、短い場面で簡潔なやり取りができるようにします。						
2. 毎週のマイクロスキルを通して、自己紹介、質問、意見表明、説明など、日常的で実用的なコミュニケーションが行えるようにします。						
3. 視覚情報の説明や簡単なディスカッション、短いプレゼンテーションなど、複数の技能を組み合わせたタスクを、正確かつ分かりやすく遂行できるようにします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の流れと評価方法を把握しておきましょう。				2.0
	授業	Week 1: マイクロスキル：会話の始め方と基本的な応答（挨拶、自己紹介、自然な返答）				
	事後学修	授業内容を整理し、基本表現が理解できているか確認してください。				2.0
2	事前学修	自己紹介に関する簡単な語彙や表現を事前に見ておきましょう。				2.0
	授業	Week 2: マイクロスキル：簡単な個人情報を伝える（名前、学科、出身、興味など）				
	事後学修	新しく学んだ語彙や例文を復習し、宿題に取り組みましょう。				2.0
3	事前学修	基本的な WH 質問（What / Where / When / Why）に目を通しておきましょう。				2.0

	授業	Week 3: マイクロスキル：基本的な WH 質問で会話をつなげる（What / Where / When の基礎）	
	事後学修	授業で扱った質問表現を見直し、宿題を完成させてください。	2.0
4	事前学修	短い音声を聞くための準備として、前週の語彙を確認しておきましょう。	2.0
	授業	Week 4: マイクロスキル：必要な情報を聞き取る（who / what / when）（要点をつかむ）	
	事後学修	音声の要点を振り返り、語彙や宿題を確認してください。	2.0
5	事前学修	聞き返しに関連する英語表現（例：Pardon? Sorry?）を簡単に確認しましょう。	2.0
	授業	Week 5: マイクロスキル：聞き返しと意味確認の基本表現（理解があいまいなときの対応）	
	事後学修	聞き返しの表現を復習し、関連する宿題を進めましょう。	2.0
6	事前学修	日常の行動や頻度を表す語彙を事前に確認しておきましょう。	2.0
	授業	Week 6: マイクロスキル：日常の行動や習慣を説明する（スケジュール、頻度表現）	
	事後学修	ルーティン表現や語彙を整理し、宿題を仕上げてください。	2.0
7	事前学修	教室や日常に関する短い指示表現に目を通しておきましょう。	2.0
	授業	Week 7: マイクロスキル：短い指示や案内を聞き取る力（教室・生活場面のリスニング）	
	事後学修	指示表現やリスニング内容を確認し、宿題を終えましょう。	2.0
8	事前学修	意見を述べる際の簡単な表現（I think… / because…）を確認しましょう。	2.0
	授業	Week 8: マイクロスキル：簡単な意見を述べ、理由を添える（I think… / because… の基本）	
	事後学修	意見表現と理由づけを復習し、宿題を完成させてください。	2.0
9	事前学修	ディスカッションで使われる基本的なリアクション表現を見ておきましょう。	2.0
	授業	Week 9: マイクロスキル：簡単なディスカッションに参加する（順番の取り方・基本的な反応）	
	事後学修	ディスカッションで使った表現を見直し、宿題を仕上げましょう。	2.0
10	事前学修	写真・地図・図に関連する基本語彙を事前に確認しましょう。	2.0
	授業	Week 10: マイクロスキル：写真や地図などの視覚情報を説明する（要点を整理して伝える練習）	
	事後学修	視覚情報の説明ポイントを整理し、語彙や宿題を確認してください。	2.0
11	事前学修	フォローアップ質問の例（Why? How? Really? など）に目を通しておきましょう。	2.0
	授業	Week 11: マイクロスキル：フォローアップ質問で会話を続ける（話題を自然に広げる）	
	事後学修	フォローアップ質問の使い方を復習し、宿題を終えましょう。	2.0
12	事前学修	短いプレゼンの構成（導入→要点→まとめ）を確認しておきましょう。	2.0
	授業	Week 12: マイクロスキル：60～90 秒の短いプレゼンテーション（導入・要点・まとめの構成）	
	事後学修	プレゼンテーションの構成を振り返り、宿題に取り組んでください。	2.0
13	事前学修	これまでのマイクロスキルを復習し、統合練習の準備をしましょう。	2.0
	授業	Week 13: マイクロスキル：複数技能を使った総合練習（説明・質問・意見をまとめて使う）	
	事後学修	複数技能をまとめて使う練習内容を復習し、宿題を仕上げてください。	2.0
14	事前学修	最終タスクに向けて、発表内容のメモやアイデアを整理しておきましょう。	2.0
	授業	Week 14: マイクロスキル：最終の総合タスク（小発表）（ペア／グループでまとめの発表）	
	事後学修	最終タスクの発表内容を整理し、語彙や宿題を確認しましょう。	2.0
15	事前学修	これまでの授業内容を軽く整理し、試験範囲を確認しておきましょう。	2.0
	授業	Week 15: 全体のまとめ	
	事後学修	授業全体を振り返り、学んだ内容を整理してください。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■試験：30% ■平常点・参加：20% ■宿題：30% ■その他[発言／小テスト等]：20%			

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
LMS システム(POLITE, SOCRATIVE, KAHOOT!)で表示した課題については、授業中および授業後にチェックし指導・フィードバックを行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	なし（資料は POLITE 上）
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

English for Communication (国際情報プログラム) Communication 1

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC102	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	1 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
授業テーマ：英語のマイクロスキルを積み重ねて身につけるコミュニケーション力 本授業では、スピーキング、リスニング、インタラクション、リーディング、ライティングという五つの基礎的なコミュニケーション技能を総合的に育成します。中心となるのはスピーキング・リスニング・やり取りの技能であり、リーディングとライティングはこれらを支える形で活用します。 授業はスキル重視の構成となっており、毎週一つの実践的なマイクロスキル（短い場面で使える具体的なコミュニケーション技能）を学びます。前半（第 1～7 週）は、会話の始め方、自己紹介、基本的な質問表現、要点の聞き取り、意味確認、日常行動の説明、短い指示の理解など、基礎的な技能の習得に重点を置きます。後半（第 8～14 週）では、意見表明、短いディスカッション、簡単な視覚情報の説明、フォローアップ質問、短いプレゼンテーションなど、これらの技能を応用するタスクに取り組みます。 このような段階的な学習を通して、学生は日常的な学修場面や社会的な場で、簡潔で効果的な英語によるコミュニケーションができるようになることを目指します。 なお、この授業ではアクティブラーニングの要素も取り入れます。大学の LMS である MOODLE（POLITE）に加え、SOCRATIVE や KAHOOT! などの学習支援アプリも活用します。授業の進め方や評価方法については初回の授業で説明しますので、必ず出席してください。 *詳細については POLITE をご覧ください。 **対象スキルの順序は担当教員によって異なる場合があります。						
授業における学修の到達目標						
1. 英語による基礎的なスピーキング・リスニング・インタラクション技能を身につけ、短い場面で簡潔なやり取りができるようにします。 2. 毎週のマイクロスキルを通して、自己紹介、質問、意見表明、説明など、日常的で実用的なコミュニケーションが行えるようにします。 3. 視覚情報の説明や簡単なディスカッション、短いプレゼンテーションなど、複数の技能を組み合わせたタスクを、正確かつ分かりやすく遂行できるようにします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の流れと評価方法を把握しておきましょう。				2
	授業	Week 1: Micro-skill: Starting a conversation and giving simple responses (Greetings, self-introduction, natural basic replies)				
	事後学修	授業内容を整理し、基本表現が理解できているか確認してください。				2
2	事前学修	自己紹介に関する簡単な語彙や表現を事前に見ておきましょう。				2
	授業	Week 2: Micro-skill: Giving simple personal information (Name, department, hometown, interests)				
	事後学修	新しく学んだ語彙や例文を復習し、宿題に取り組みましょう。				2
3	事前学修	基本的な WH 質問（What / Where / When / Why）に目を通しておきましょう。				2
	授業	Week 3: Micro-skill: Using basic WH-questions to continue a conversation (What / Where /				

		When / Why fundamentals)	
	事後学修	授業で扱った質問表現を見直し、宿題を完成させてください。	2
4	事前学修	短い音声を聞くための準備として、前週の語彙を確認しておきましょう。	2
	授業	Week 4: Micro-skill: Listening for key information (who / what / when) (Understanding short, simple audio to extract essentials)	
	事後学修	音声の要点を振り返り、語彙や宿題を確認してください。	2
5	事前学修	聞き返しに関連する英語表現（例：Pardon? Sorry?）を簡単に確認しましょう。	2
	授業	Week 5: Micro-skill: Asking for repetition and clarification (“One more time?”, “What does that mean?”)	
	事後学修	聞き返しの表現を復習し、関連する宿題を進めましょう。	2
6	事前学修	日常の行動や頻度を表す語彙を事前に確認しておきましょう。	2
	授業	Week 6: Micro-skill: Describing daily routines and habits (Routines, schedules, frequency expressions)	
	事後学修	ルーティン表現や語彙を整理し、宿題を仕上げてください。	2
7	事前学修	教室や日常に関する短い指示表現に目を通しておきましょう。	2
	授業	Week 7: Micro-skill: Understanding short instructions or announcements (Basic real-life listening comprehension)	
	事後学修	指示表現やリスニング内容を確認し、宿題を終えましょう。	2
8	事前学修	意見を述べる際の簡単な表現（I think… / because…）を確認しましょう。	2
	授業	Week 8: Micro-skill: Expressing simple opinions and giving reasons (“I think… because…”)	
	事後学修	意見表現と理由づけを復習し、宿題を完成させてください。	2
9	事前学修	ディスカッションで使われる基本的なリアクション表現を見ておきましょう。	2
	授業	Week 9: Micro-skill: Participating in short pair or group discussions (Turn-taking, simple reactions)	
	事後学修	ディスカッションで使った表現を見直し、宿題を仕上げましょう。	2
10	事前学修	写真・地図・図に関連する基本語彙を事前に確認しましょう。	2
	授業	Week 10: Micro-skill: Explaining visual information (photos, maps, simple charts) (Organizing and clearly conveying key points)	
	事後学修	視覚情報の説明ポイントを整理し、語彙や宿題を確認してください。	2
11	事前学修	フォローアップ質問の例（Why? How? Really? など）に目を通しておきましょう。	2
	授業	Week 11: Micro-skill: Asking follow-up questions to extend a conversation (Showing interest, expanding topics)	
	事後学修	フォローアップ質問の使い方を復習し、宿題を終えましょう。	2
12	事前学修	短いプレゼンの構成（導入→要点→まとめ）を確認しておきましょう。	2
	授業	Week 12: Micro-skill: Giving a short prepared presentation (60–90 seconds) (Basic structure, introduction, main points, closing)	
	事後学修	プレゼンテーションの構成を振り返り、宿題に取り組んでください。	2
13	事前学修	これまでのマイクロスキルを復習し、統合練習の準備をしましょう。	2
	授業	Week 13: Micro-skill: Combined-skill practice for integrated tasks (Using opinions, explanations, and questions together)	
	事後学修	複数技能をまとめて使う練習内容を復習し、宿題を仕上げてください。	2
14	事前学修	最終タスクに向けて、発表内容のメモやアイデアを整理しておきましょう。	2

	授業	Week 14: Micro-skill: Final integrated communication task (Paired or small-group performance using all skills)	
	事後学修	最終タスクの発表内容を整理し、語彙や宿題を確認しましょう。	2
15	事前学修	これまでの授業内容を軽く整理し、試験範囲を確認しておきましょう。	2
	授業	Week 15: Wrap-up and revision	
	事後学修	授業全体を振り返り、学んだ内容を整理してください。	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 ■□試験：30% ■□平常点・参加：20% ■□宿題：30% ■□その他[発言／小テスト等]：20%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
LMS システム(POLITE, SOCRATIVE, KAHOOT!)で表示した課題については、授業中および授業後にチェックし指導・フィードバックを行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		なし（資料は POLITE 上）	
単位修得が望ましい科目		未定	
備考		未定	
担当教員の実務経験		未定	

ビギナーズセミナーⅠ（情報メディア学科） Beginners' Seminar 1

担当教員	情報メディア学科教員 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IBC108
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(6)				
授業概要						
テーマ：大学生としての「学びの技法」の習得（基本編）						
本科目では、新入学生が大学での学習や生活へスムーズに移行できるように「大学生としての学びの技法」の習得を目指します。特に、本学の各種施設の利用方法や大学生活の習慣やルールについての理解を深めるとともに、コミュニケーションスキルをはじめとする学びの技法を、実践的な演習（グループワークやディスカッション）を通して学びます。なお、授業計画の実施回はクラスの状況によって変更になる場合がありますので、担当教員からの説明を確認してください。						
授業における学修の到達目標						
・大学での学習における規則や仕組みを理解する。 ・コミュニケーションスキルを高め、自身の学習活動に活用する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	なし				0.0
	授業	ガイダンス・履修指導・時間割確認				
	事後学修	スタートアッププログラム等で配布された全ての資料をよく読み、疑問点をメモする。				4.0
2	事前学修	クラス内で行う自己紹介を準備する。				4.0
	授業	自己紹介				
	事後学修	クラス内の学競とコミュニケーションを図る。				6.0
3	事前学修	POLITE にアクセスして、内容を確認する。				2.0
	授業	POLITE の使い方				
	事後学修	授業の内容を復習し、わからないことをメモする。				2.0
4	事前学修	メールの書き方を自分で調べ、要点を確認する。				2.0
	授業	メールの書き方（Gmail の使い方）				
	事後学修	授業の内容を復習し、わからないことをメモする。				2.0
5	事前学修	なし				0.0
	授業	ディスカッション 1（社会）・個人面談				
	事後学修	議論した内容をインターネット等で確認・検討する。				4.0
6	事前学修	なし				0.0
	授業	ディスカッション 2（科学）・個人面談				
	事後学修	議論した内容をインターネット等で確認・検討する。				4.0
7	事前学修	なし				0.0
	授業	ディスカッション 3（情報メディア）・個人面談				
	事後学修	議論した内容をインターネット等で確認・検討する。				4.0
8	事前学修	なし				0.0
	授業	プロジェクトトライアルⅡ発表会見学				

	事後学修	見学した内容をまとめ、POLITE でレポートを提出する。	4.0
9	事前学修	なし	0.0
	授業	タイピング練習	
	事後学修	タイピング練習を行い、自分の癖や苦手な部分を洗い出す。	6.0
10	事前学修	資格取得ガイドブックを確認する。	2.0
	授業	資格取得ガイドブック、コミュニケーション（観察・発信のトレーニング）	
	事後学修	興味のある資格についてまとめる。	2.0
11	事前学修	なし	0.0
	授業	クラスの自由課題1（調査）	
	事後学修	取り組んだ内容についてノートやパソコンにまとめる。	2.0
12	事前学修	なし	0.0
	授業	クラスの自由課題2（実施）	
	事後学修	取り組んだ内容についてノートやパソコンにまとめる。	2.0
13	事前学修	なし	0.0
	授業	クラスの自由課題3（振り返り）	
	事後学修	取り組んだ内容についてノートやパソコンにまとめる。	2.0
14	事前学修	自己カリキュラム計画について確認する。	2.0
	授業	自己カリキュラム計画（作成）	
	事後学修	自己カリキュラム計画を提出する。	2.0
15	事前学修	なし	0.0
	授業	図書館ガイダンス	
	事後学修	説明の内容をまとめ、POLITE でレポートを提出する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート及び演習課題：100% □その他[]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

適宜対面やPOLITE を活用してフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、担当教員より提示します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

ビギナーズセミナーⅡ（情報メディア学科） Beginners' Seminar 2

担当教員	情報メディア学科教員 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IBC109
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(4),(6)				
授業概要						
テーマ： 大学生としての「学びの技法」の習得（応用編）						
本科目では、ビギナーズセミナーⅠで習得した「大学生としての学びの技法（基本）」を踏まえ、さらにそれらを発展させることによって、大学生としての学びの技法と習慣を身につけます。また、実践的な演習（グループワークやディスカッション） によって、コミュニケーションスキルの向上を目指します。なお、授業計画の実施回はクラスの状況によって変更になる場合がありますので、担当教員からの説明を確認してください。						
授業における学修の到達目標						
・ 大学での学習における目標を設定し、達成までのプロセスを見出す。 ・ コミュニケーションスキルを高め、自身の学修活動に活用する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	なし				0.0
	授業	ガイダンス				
	事後学修	授業内容についてノートやパソコンにまとめる。				6.0
2	事前学修	なし				0.0
	授業	クラス応用課題・個人面談				
	事後学修	課題に取り組み，POLITE で提出する。				4.0
3	事前学修	なし				0.0
	授業	図書館ガイダンス（文献検索講習）				
	事後学修	実際に図書館システムを用いて文献検索を行い，操作方法について不明な点をメモする。				2.0
4	事前学修	取り組むテーマについて考える。				2.0
	授業	個人テーマ選定・個人面談				
	事後学修	選定したテーマについて調べる。				2.0
5	事前学修	テーマについて必要な文献を検討する。				2.0
	授業	文献収集・個人面談				
	事後学修	収集した文献を整理して，要点をまとめる。				2.0
6	事前学修	なし				0.0
	授業	キャリアガイダンス講座				
	事後学修	説明の内容をまとめ，POLITE でレポートを提出する。				2.0
7	事前学修	通読する文献を用意する。				2.0
	授業	文献通読				
	事後学修	文献の内容を整理する。				2.0
8	事前学修	文献の内容を確認する。				2.0
	授業	調査課題資料作成 1（内容を書き出す）				

	事後学修	作成した資料を整理する。	2.0
9	事前学修	作成した資料を確認する。	2.0
	授業	調査課題資料作成 2（要点をまとめる）	
	事後学修	作成した資料を整理する。	2.0
10	事前学修	作成した資料を確認する。	2.0
	授業	調査課題のグループ発表	
	事後学修	発表内容を整理し、わからない用語は調べる。	2.0
11	事前学修	なし	0.0
	授業	大学生としての思考	
	事後学修	授業内容についてノートやパソコンにまとめる。	2.0
12	事前学修	ポートフォリオについて調べる。	2.0
	授業	ポートフォリオ制作（解説・成果物確認）	
	事後学修	これまでの学習の成果物をまとめる。	2.0
13	事前学修	ポートフォリオ制作について確認する。	2.0
	授業	ポートフォリオ制作（作成）	
	事後学修	ポートフォリオを完成させる。	4.0
14	事前学修	発表の準備をする。	2.0
	授業	ポートフォリオ制作（発表）	
	事後学修	発表内容についてレポートを作成する。	2.0
15	事前学修	自己カリキュラム計画を確認する。	2.0
	授業	自己カリキュラム制作（更新）	
	事後学修	自己カリキュラム計画を POLITE で提出する。	4.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート及び演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面や POLITE を活用してフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、担当教員より提示します。
単位修得が望ましい科目	ビギナーズセミナー I
備考	なし
担当教員の実務経験	担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

Reading II Reading 2

担当教員	竹内 典彦(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC203
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：Reading I に引き続き、英語の基礎力をさらに高め実践的な英語力を養う Reading I で学んできたことがらを再確認しながら英語力の基礎をさらに固めることを目標とします。特にリーディングの技能を高めることに主眼を置き、文法の復習やスピーキングの活動も取り入れた授業を行います。 教材として、News in Levels を使用して、語彙、文法、構文、リスニング、ライティング、スピーキング、の総合的な演習を行います。アクティブ・ラーニングとして 1 回の講義で複数回のペアワークを実施します。						
授業における学修の到達目標						
1. 語彙力を増やし文構造などを理解し基礎的な英文読解力をさらに高めていく。						
2. 学習内容をペアで発表することができる。						
3. 人前で自分の意見を言ったり書いたりして伝えることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	・ POLITE のコースのガイダンスをあらかじめ読んでおく・ POLITE の課題にあらかじめ目を通して おく				2.0
	授業	・ コースのガイダンス ・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク				
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする				2.0
2	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく				2.0
	授業	・ 単語テスト ・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク				
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする				2.0
3	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく				2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク				
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする				2.0
4	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく				2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク				
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする				2.0

5	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
6	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
7	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
8	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
9	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
10	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク ・ 個別小テスト	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
11	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク ・ 個別小テスト	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0

12	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク ・ 個別小テスト	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
13	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク ・ 個別小テスト	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
14	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク ・ 個別小テスト	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0
15	事前学修	・ POLITE の課題にあらかじめ目を通しておく ・ 上記の課題の不明な点を調べておく	2.0
	授業	・ News in Levels の読解とコメント作成とペアワーク ・ 指定英作文とペアワーク ・ 単語テスト	
	事後学修	・ 今回の講義内容について振り返る ・ 提出した課題の見直しをする	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目に基づき総合評価する。

■授業内課題：50 % ■授業内小テスト：50 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・ 個別小テストに関しては、コメントをする。

教科書	
参考書・Web サイト	News in Levels
単位修得が望ましい科目	Reading I
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

Writing II Writing2

担当教員	谷 さつき(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ILC204
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：伝わりやすい文章を書くための思考方法を考える。 文章を書きます。 お互いが書いたものを客観的に読み、情報の漏れに気づく練習をします。 言いたいことを伝わりやすくする文章の順番や枠組みを考えます。 英語表現に必要な文法を教科書で復習・学習します。 授業は「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行います。ノートパソコンを持参してください。						
授業における学修の到達目標						
自分の文章を客観的に見直し、修正できる。 自分の意図が他者に伝わりやすい表現形式を理解し、実践できる。 自分の意図を伝えるために必要な英語表現が身につく。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読む。				2.0
	授業	ガイダンス（POLITE コース登録，学習の進め方，評価方法，日ごろから心がけること）。				
	事後学修	課題に取り組む。				2.0
2	事前学修	課題に取り組む。				2.0
	授業	Writing に必要な用具を使用する練習				
	事後学修	課題に取り組む。				2.0
3	事前学修	課題に取り組む。				2.0
	授業	論理の抜けに気づく 1				
	事後学修	課題に取り組む。				2.0
4	事前学修	課題に取り組む。				2.0
	授業	論理の抜けに気づく 2				
	事後学修	課題に取り組む。				2.0
5	事前学修	課題に取り組む。				2.0
	授業	1 文 1 情報で書く 1				
	事後学修	課題に取り組む。				2.0
6	事前学修	課題に取り組む。				2.0
	授業	1 文 1 情報で書く 2				
	事後学修	課題に取り組む。				2.0
7	事前学修	課題に取り組む。				2.0
	授業	説明する 1：目の前にあるもの				
	事後学修	課題に取り組む。				2.0
8	事前学修	課題に取り組む。				2.0

	授業	説明する 2：出来事	
	事後学修	課題に取り組む。	2.0
	事前学修	課題に取り組む。	2.0
9	授業	描写する 1：生き物	
	事後学修	課題に取り組む。	2.0
	事前学修	課題に取り組む。	2.0
10	授業	描写する 2：景色	
	事後学修	課題に取り組む。	2.0
	事前学修	課題に取り組む。	2.0
11	授業	読んだり聞いたりしたことを人に伝える 1	
	事後学修	課題に取り組む。	2.0
	事前学修	課題に取り組む。	2.0
12	授業	読んだり聞いたりしたことを人に伝える 2	
	事後学修	課題に取り組む。	2.0
	事前学修	課題に取り組む。	2.0
13	授業	読んだり聞いたりしたことを人に伝える 3	
	事後学修	課題に取り組む。	2.0
	事前学修	課題に取り組む。	2.0
14	授業	要約する 1	
	事後学修	課題に取り組む。	2.0
	事前学修	課題に取り組む。	2.0
15	授業	要約する 2	
	事後学修	課題に取り組む。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■提出物：50 % ■教科書の練習問題および応用問題：50 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出物には直接教室で、または POLITE で、コメントします。

教科書	書名：マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版, 著者名：Raymond Murphy, 出版社：Cambridge University Press, 備考：学生が書いた文章について学生同士で気づいたことを遠慮なしに（でも攻撃的にらずに）指摘しあいます。思考を修正して文章を改善するためです。そのつもりで出席してください。
参考書・Web サイト	初回に紹介します。
単位修得が望ましい科目	Reading I
備考	学生が書いた文章について学生同士で気づいたことを遠慮なしに（でも攻撃的にらずに）指摘しあいます。思考を修正して文章を改善するためです。そのつもりで出席してください。各回の内容は、授業の進行状況によってずれる可能性があります。
担当教員の実務経験	中学・高校での教員経験に加え、小学2年生から大人まで様々な年齢層の方々に英語を指導してきた。フリーランスで翻訳業（主に日→英）と通訳業にも従事している。これらの経験を生かし、他者に分かりやすく意図を伝えるための思考方法・表現形式について学生が理解し実践できるように導く。

Communication II 2026 年度以降の入学生は、「English Communication Technology」になります。 Communication 2

担当教員	ブレンドン ミュア (非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC201	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
Communication II will provide students with the tools to use their existing knowledge of English and further develop their oral communication skills, focusing on functional language and English expressions in an international context. Students will research using English resources, compile their research into an easily communicated form, and use their English communication skills to present the information to their peers. Students will practice speaking English in pairs and groups and present to the class in English.						
授業における学修の到達目標						
This class aims to develop oral communication skills through oral activities, presentations, and group projects. With a focus on foreign cultures and international relations, students will discuss, compare, and contrast the similarities and differences among various countries. There is a theme of using English to communicate as global citizens. While exploring the focus topics, vocabulary development is integral to this course.						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	Create a list of vocabulary, phrases and sentence patterns for introductions.				2
	授業	Introductions and personal information. Introduce yourself. Understand conversations about interests and hobbies.				
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.				2
2	事前学修	Choose the country you want to research.				2
	授業	Planning an overseas trip and brainstorming topics of interest.				
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.				2
3	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 1.				2
	授業	Topic 1: The environment. Climate, seasons and natural features.				
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.				2
4	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 2.				2
	授業	Topic 2: Lifestyle. What does daily life look like?				
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.				2
5	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 3.				2
	授業	Topic 3: Facts and figures. With a focus on using large numbers - discover the data.				
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.				2
6	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 4.				2

	授業	Topic 4: Sports. A focus on recreation.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2
7	事前学修	Mid-term assignment preparation and practice.	2
	授業	Mid-term assignment. Consolidation of topics 1~4.	
	事後学修	Reflect on strong and weak areas in the assignment and write a plan to approach the next assignment with improved meta-skills.	2
8	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 5.	2
	授業	Topic 5: Entertainment. Discuss how citizens enjoy themselves.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2
9	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 6.	2
	授業	Topic 6: Traditions. What practices have continued over multiple generations.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2
10	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 7.	2
	授業	Topic 7: Sightseeing. What attractions receive the most visitors?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2
11	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 8.	2
	授業	Topic 8: Current affairs. What are the important areas of focus at the national level?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2
12	事前学修	Review lessons 1 ~ 11 and prepare to use powerpoint software.	2
	授業	Preparation. Create visual aids to support your country's information in topics 1~8.	
	事後学修	Complete the powerpoint file and rehearse your presentation.	2
13	事前学修	Memorize your script for noteless presentations.	2
	授業	Pair presentations. Present your country to a single partner. Discuss the content and ask for details and clarification.	
	事後学修	Review content and make improvements based on feedback received.	2
14	事前学修	Do mirror practice of presentation and memorize content.	2
	授業	Group presentations. Present your country to an audience.	
	事後学修	Review notes from presentations and prepare a report.	2
15	事前学修	Prepare questions and feedback.	2
	授業	Presentation feedback and review of course content.	
	事後学修	Reflect on strong and weak areas in the presentation and write a review of how your conversation meta-skills improved during the course.	4

成績評価の方法およびその基準

Weekly assignments: 40%.

Final presentation: 60%.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Students will be given one on one verbal feedback on their performance in oral communication assessments and

written feedback on problem areas in weekly assignments. Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong independent learners of language.	
教科書	
参考書・Web サイト	There is no assigned textbook for this course. Materials will be provided by the teacher. サイト：大学内の POLITE
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation are this course's most important requirements. 2. Please note that ENGLISH will be spoken in class. You should be motivated to improve if you are not a confident speaker yet. 3. Students must be prepared to take notes and develop their vocabulary as a self-learning exercise. 4. Students must bring their iPads or notebook computers to class. Internet research will be used to learn about foreign countries. 5. The final assessment will include a presentation to the class in English.
担当教員の実務経験	なし

Communication II 2026 年度以降の入学生は、「English Communication Technology」になります。 Communication 2

担当教員	竹内 典彦(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC201
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：会話演習を中心に、英語での発信力と意欲を育む Communication (particularly speaking in English) is the focus of this course. We will do many speaking activities in pairs and groups. As necessary we will address vocabulary and language structure, but the main goal is developing a willingness and confidence to communicate in English. Also, we acquire the vocabulary, conversational phrases, and grammar needed to think in English. We will use the British Council Speaking Skills website as a primary resource for this course. この講座は「コミュニケーション」（特に英語で話すこと）が中心です。アクティブ・ラーニングとして、ペア又はグループでいろいろな英会話練習を行います。必要に応じて語彙や文型を学習しますが、コミュニケーションができる自信を養い、自分なりの英語を活用することがメインです。また、「英語で考える」ための語彙と会話の慣用句と文法を身につけます。 British Council Speaking Skills というウェブサイト、教材として使用します。						
授業における学修の到達目標						
This course continues the tradition of Communication I and Speaking I, targeting English communication ability and confidence through actual in-class conversation practice as well as a review of communication strategies. Students will have held all-English conversations for 10 minutes or more by the end of this course. 本コースは「コミュニケーション I」および「スピーキング I」の流れを汲み、クラス内での実践的な会話演習とコミュニケーション戦略の復習を通じて、英語での発信力と自信を高めることを目的としています。本コースの修了までに、受講生全員が英語のみで 10 分間以上の継続的な会話ができるようになることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	・ Read POLITE course guidance in advance. (POLITE のガイダンスを読んでおく) ・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく)				2.0
	授業	・ Course Guidance (コースのガイダンス) ・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)				
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)				2.0
2	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)				2.0
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)				
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る)				2.0

		・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	
3	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
4	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
5	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
6	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
7	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0

8	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
9	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
10	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
11	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
12	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
13	事前学修	Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく)	2.0

		・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
14	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0
15	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2.0
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2.0

成績評価の方法およびその基準

■ 授業内課題：50 % ■ 授業内小テスト：50 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・ 小テストについては個人的にコメントします。

教科書	
参考書・Web サイト	British Council Speaking Skills (https://learnenglish.britishcouncil.org/skills/speaking)
単位修得が望ましい科目	Communication I
備考	メール： nt55@do-johodai.ac.jp 遠慮なく、連絡ください。 ※ 出席について：この授業は、出席を重視します。
担当教員の実務経験	なし

Communication II (国際情報プログラム) Communication 2

担当教員	JOEL RIAN (308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC201
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
This course, an extension of Communication I, develops spoken English through pair and group activities, with emphasis on willingness and confidence to communicate. Language support is provided as needed. As such, this class is the epitome of 'active learning'.						
授業における学修の到達目標						
1. Understand basic vocabulary and phrases related to a variety of talk topics. 2. Learn and employ interactional communication strategies. 3. Participate in a small-group discussion using ONLY English for 10 minutes.						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスに目を通しておく。とくに、"※ 出席について"（備考欄）、Performance #1, Performance #2 はいつか。カレンダーに書いておく。				2.0
	授業	Orientation. Topic #1: Junk Food: Good or Bad? Part 1: 使える語彙・表現紹介、ペア・グループ対話				
	事後学修	プリント：質問作り。				2.0
2	事前学修	POLITE: ミニ対話（A さん B さん）の書く練習。				2.0
	授業	Topic #1: Junk Food: Good or Bad? Part 2: グループトーク・ロールプレイ				
	事後学修	Topic に関する会話ノートをきれいに書き直し、ファイリングする。				2.0
3	事前学修	大卒後、正社員はベスト？キャリアとして、パート・派遣でも良い？調べてみる。				2.0
	授業	Topic #2: Full-Time or Part-Time? Part 1: 使える語彙・表現紹介、ペア・グループ対話				
	事後学修	プリント：質問作り。				2.0
4	事前学修	POLITE: ミニ対話（A さん B さん）の書く練習。				2.0
	授業	Topic #2: Full-Time or Part-Time? Part 2: グループトーク・ロールプレイ				
	事後学修	Topic に関する会話ノートをきれいに書き直し、ファイリングする。				2.0
5	事前学修	オンラインゲームは盛んになっているが、危ないところもない？調べよう。				2.0
	授業	Topic #3: Online Gaming: Delight or Danger? Part 1: 使える語彙・表現紹介、ペア・グループ対話				
	事後学修	プリント：質問作り。				2.0
6	事前学修	POLITE: ミニ対話（A さん B さん）の書く練習。				2.0
	授業	Topic #3: Online Gaming: Delight or Danger? Part 2: グループトーク・ロールプレイ				
	事後学修	Topic に関する会話ノートをきれいに書き直し、ファイリングする。				2.0

7	事前学修	これまで学んだ 語彙、表現、演習内容を総復習する (topics #1, #2, #3)。	2.0
	授業	グループトーク・ロールプレイ (performance の総合練習)	
	事後学修	performance が上手くいくためのヒントプリントを読んでおく。	2.0
8	事前学修	対話におけるアイディア (プラス・マイナス立場から言えること) を整理しておく。	2.0
	授業	CONVERSATION PERFORMANCE #1 (speaking & writing)	
	事後学修	POLITE: performance #1 に関する自己評価を提出する。	2.0
9	事前学修	日本における「国際化」は一体、どういう意味？調べてみよう。	2.0
	授業	Topic #4: Internationalization (Those Damn Foreigners!) Part 1: 使える語彙・表現紹介、ペア・グループ対話	
	事後学修	プリント：質問作り。	2.0
10	事前学修	POLITE: ミニ対話 (A さん B さん) の書く練習。	2.0
	授業	Topic #4: Internationalization (Those Damn Foreigners!) Part 2: グループトーク・ロールプレイ	
	事後学修	Topic に関する会話ノートをきれいに書き直し、ファイリングする。	2.0
11	事前学修	SNS は、何？SNS による人々と繋ぎのプラスマイナスを検討してみよう。	2.0
	授業	Topic #5: SNS: Social Network Suffering? Part 1: 使える語彙・表現紹介、ペア・グループ対話	
	事後学修	プリント：質問作り。	2.0
12	事前学修	ミニ対話 (A さん B さん) の書く練習。	2.0
	授業	Topic #5: SNS: Social Network Suffering? Part 2: グループトーク・ロールプレイ	
	事後学修	Topic に関する会話ノートをきれいに書き直し、ファイリングする。	2.0
13	事前学修	大学は会社？大学経営について調べて来よう。	2.0
	授業	Topic #6: "Higher Education" as Myth? Part 1: 使える語彙・表現紹介、ペア・グループ対話	
	事後学修	プリント：質問作り。	2.0
14	事前学修	ミニ対話 (A さん B さん) の書く練習。	2.0
	授業	Topic #6: "Higher Education" as Myth? Part 2: グループトーク・ロールプレイ	
	事後学修	Topic に関する会話ノートをきれいに書き直し、ファイリングする。	2.0
15	事前学修	これまで学んだ 語彙、表現、演習内容を総復習する (topics #4, #5, #6)。	2.0
	授業	CONVERSATION PERFORMANCE #2 (speaking & writing)	
	事後学修	授業評価を提出する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

■その他 [writing + group conversation performance x 2 (50% x 2 = 100%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

In-class writing は毎週お返しします。

教科書	
参考書・Web サイト	https://polite.do-johodai.ac.jp/moodle/
単位修得が望ましい科目	Communication I
備考	メール： rianjp48@do-johodai.ac.jp 遠慮なく、いつでも連絡ください。日本語でも O K で

	す。 注： 出席について：出席は重視です。欠席気味の方の登録はご遠慮ください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

Speaking II Speaking2

担当教員	竹内 典彦(非常勤), ブレンドン ミュア (非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC202	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：対話を中心に、英語での実用的な発信力を磨く Speaking in English is the core focus of this course. We will engage in intensive speaking activities, including role-plays and discussions in pairs and groups. In addition to fluency, we will address practical aspects such as pronunciation, intonation, and organizing thoughts quickly. The main goal is to move beyond basic survival English and build the confidence to express personal opinions clearly in English. Also, we acquire the vocabulary, conversational phrases, and grammar needed to think in English. We will use the British Council Speaking Skills website as a primary resource for this course. この講座は英語の「スピーキング（発話）」に特化した内容です。アクティブ・ラーニングとして、ペアやグループでの英会話練習に加え、ロールプレイや意見交換のトレーニングを重点的に行います。単に言葉を繋ぐだけでなく、伝わりやすい発音やイントネーション、論理的な話の組み立て方についても学びます。コミュニケーションへの自信を深め、自分の考えを英語で具体的に発信する力を養うことがメインです。また、「英語で考える」ための語彙と会話の慣用句と文法を身につけます。 British Council Speaking Skills というウェブサイトを、教材として使用します。						
授業における学修の到達目標						
This course continues the tradition of Speaking I, targeting English communication ability and confidence through actual in-class conversation practice as well as a review of communication strategies. Students will have held all-English conversations for 10 minutes or more by the end of this course. 本コースは「コミュニケーション I」および「スピーキング I」の流れを汲み、クラス内での実践的な会話演習とコミュニケーション戦略の復習を通じて、英語での発信力と自信を高めることを目的としています。本コースの修了までに、受講生全員が英語のみで 10 分間以上の継続的な会話ができるようになることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	・ Read POLITE course guidance in advance.（POLITE のガイダンスを読んでおく） ・ Review POLITE assignments beforehand.（POLITE の課題に目を通しておく）				2
	授業	・ Course Guidance（コースのガイダンス） ・ Learning with Video Content（動画コンテンツの学習） ・ Conversation Practice in Pairs（ペアワーク会話練習） ・ Website Practice Exercises（ウェブサイトの練習問題） ・ In-class free speaking activity x 2.（自由会話活動 2 本）				
	事後学修	・ Review the content of the lecture.（講義内容を振り返る） ・ Reflect on the assignments you submitted.（提出した課題の見直しをする）				2
2	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand.（POLITE の課題に目を通しておく） ・ Research any unclear points regarding the above assignments.（上記の課題の不明な点を調べておく）				2
	授業	・ Learning with Video Content（動画コンテンツの学習） ・ Conversation Practice in Pairs（ペアワーク会話練習） ・ Website Practice Exercises（ウェブサイトの練習問題） ・ In-class free speaking activity x 2.（自由会話活動 2 本）				

	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
3	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
4	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
5	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
6	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
7	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る)	2

		・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	
8	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
9	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
10	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
11	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
12	事前学修	・ Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) ・ Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	・ Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) ・ Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) ・ Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) ・ Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	・ Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) ・ Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2

13	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
14	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - Conversation Quiz (Interview with the instructor) (教員との会話小テスト)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2
15	事前学修	- Review POLITE assignments beforehand. (POLITE の課題に目を通しておく) - Research any unclear points regarding the above assignments. (上記の課題の不明な点を調べておく)	2
	授業	- Learning with Video Content (動画コンテンツの学習) - Conversation Practice in Pairs (ペアワーク会話練習) - Website Practice Exercises (ウェブサイトの練習問題) - In-class free speaking activity x 2. (自由会話活動 2 本)	
	事後学修	- Review the content of the lecture. (講義内容を振り返る) - Reflect on the assignments you submitted. (提出した課題の見直しをする)	2

成績評価の方法およびその基準

■授業内課題：50 % ■授業内小テスト：50 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・小テストについては個人的にコメントします。

教科書	
参考書・Web サイト	British Council Speaking Skills (https://learnenglish.britishcouncil.org/skills/speaking)
単位修得が望ましい科目	Speaking I
備考	メール：nt55@do-johodai.ac.jp 遠慮なく、連絡ください。 ※ 出席について：この授業は、出席を重視します。
担当教員の実務経験	なし

Speaking II (国際情報プログラム) Speaking2

担当教員	JOEL RIAN(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC202	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：英語での基本会話と情報伝達力の習得 本コースは、学生の基礎から中級レベルの英語コミュニケーション能力を体系的に育成する。 授業は、自己紹介やあいさつ、グループでのやり取りに必要な表現やスキルを含む基本的な会話表現の復習・再確認から始まる。 Oral Q&A、グループワーク、ペアワーク、ハンドアウト活動を通じて、実践的な聞く・話す能力を強化する。 また、日常的に用いられるモーダル表現、会話における質問作成、命令・依頼表現を学び、サンプル会話やミニプレゼンテーションで実践・応用・定着させる。 最終週には、短いスピーチを作成・発表し、プレゼンテーション能力や自己表現力を向上させる。ピア評価を通じて、多様な文脈で情報を効果的に伝える力を育む。						
授業における学修の到達目標						
1. 自己紹介やあいさつ表現を効果的に使用し、日常的な場面で質問・応答・意見を正確に伝えられる 2. グループワークやペアワーク、インタラクティブな活動を通して実践的な聞く・話すスキルを強化する 3. スピーチやプレゼンテーションスキルを磨き、国際的な文脈で情報を伝える英語表現力・自己表現力を向上させる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスと学習到達目標を読む 自己紹介文を簡単に準備する				2.0
	授業	Icebreaker task Course overview and objectives Student profiles (in English) & notebook system (journal / notes) の説明				
	事後学修	自己紹介を書く クラスメートに質問する内容を 2 つ準備する (Oral Q&A exercise) ※各回で繰り返し実施 ウィークリージャーナルを開始する				2.0
2	事前学修	事前学修 自己紹介の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナルの修正				2.0
	授業	Oral Q&A exercise Self-introduction activities Group work Handout (印刷物) による学習の補強				
	事後学修	第 2 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる				2.0
3	事前学修	自己紹介キーワードの復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正				2.0
	授業	Oral Q&A exercise Classroom English (基本表現) Group work / mini-presentations				
	事後学修	第 3 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する				2.0

		Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	
4	事前学修	Classroom English の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Greetings: usage and variations Group role-plays	
	事後学修	第 4 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
5	事前学修	Greeting vocabulary の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Introducing people Group work / pair work	
	事後学修	第 5 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
6	事前学修	Introducing people の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Like/Dislike expressions Group work Handout ("Find someone who..." activity) による補強	
	事後学修	第 6 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
7	事前学修	Like/Dislike expressions の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Listening activity (song/movie) : rhythm, rhyme, listening strategies Group work Handout による補強	
	事後学修	第 7 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
8	事前学修	Listening vocabulary の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Use of "Be" verb: adjectives and nouns (過去／現在／未来／仮定) Group work Handout ("Find someone who..." activity) による補強	
	事後学修	第 8 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
9	事前学修	前回の語彙の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Dictation game (会話ベースの発話・書き取りゲーム) Pair work Handout による補強	

	事後学修	第 9 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
10	事前学修	Dictation の語彙の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Common modals (1) and slang variants: I want to / I'm going to Pair practice Handout ("Find someone who..." activity)	
	事後学修	第 10 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
11	事前学修	Modals (1) の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Common modals (2) and casual forms: I should / I have to / I've got to Pair practice Handout ("Find someone who..." activity)	
	事後学修	第 11 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
12	事前学修	Modals (2) の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Making and asking questions Pair practice / group work	
	事後学修	第 12 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
13	事前学修	Oral question asking strategies の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise Commands: positive / negative "Simon Says" command activity/game Group work	
	事後学修	第 13 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
14	事前学修	Commands の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正	2.0
	授業	Oral Q&A exercise How to present in English without reading (1-minute speech introduction and practice) Group activity	
	事後学修	第 14 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する Oral Q&A の準備／宿題を完成させる	2.0
15	事前学修	Presentation skills の復習 口頭質問 2 つの確認／宿題確認／ジャーナル修正 次のスピーチ練習	2.0
	授業	Oral Q&A exercise	

		Speech criteria explanation Speech delivery and peer evaluation + Q&A Notebook submission explanation	
	事後学修	第 15 回ジャーナルを書く、授業内容を整理する ジャーナル提出の準備／宿題を完成させる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■ジャーナル：20% ■平常点・参加：20% ■スピーチ・プレゼンテーション：30% ■宿題：20% ■その他[小テスト]：10%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
LMS システム(POLITE, SOCRATIVE, KAHOOT!)で表示した課題については、授業中および授業後にチェックし指導・フィードバックを行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		未定	
単位修得が望ましい科目		Communication1 (国際情報プログラム) Speaking1 (国際情報プログラム) Communication2 (国際情報プログラム)	
備考		未定	
担当教員の実務経験		未定	

職業英語 A 2024 年度以降の入学生は、「Advanced English I」になります。 Professional English A

担当教員	吉村 裕彦(非常勤), JOEL RIAN(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			CBL315
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	前期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
テーマ「リスニング力や語彙力を高めることで、TOEIC 得点の向上に努める」						
本講義は TOEIC 資格対策に特化した演習授業である。						
1 TOEIC は企業で要求される英語力の指標として重要視されている。高得点を取ることは社会人として国際社会を生きるための条件であることはもちろん、企業によっては昇進・昇級の必要条件となっている場合もある。また、入社に向けたエントリーシートでのスコア記入を必須要件としている企業も多く、学生としても受験することが求められる。						
本講義では TOEIC 得点のアップとともに、ビジネスや日常における英語運用能力の向上を目的としている。具体的にはトピック別に TOEIC 受験に必要な知識の習得と基礎文法力・リスニング力・リーディング力の向上を図る。						
2 テキスト（必ず購入のこと）の演習を中心に進めることになるが、自己学修用の補助教材も使用する。						
3 各 Unit を 2 回の講義で実施する。テキストの前半までとし、後半は職業英語 B で扱う。						
4 Unit ごとに語句の確認小テストを実施し、単語力や基礎英語力の向上を図る。						
5 関連性が高いので、職業英語 A を履修する者は職業英語 B も履修することが望ましい。						
授業における学修の到達目標						
1 TOEIC に必要な単語・語句を理解することができる。						
2 TOEIC 受験に必要な基礎文法を理解することができる。						
3 音声を聞いて正しく内容を理解することができる。						
4 英文の概要をつかみ、適切に理解することができる。						
5 TOEIC の問題形式を理解し、積極的に受験する態度を身につける。						
6 英語を聞く力、読む力を元に英語コミュニケーションの基礎力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の目的や全体の内容を把握する				2.0
	授業	トライアル・テストの受験、品詞と文型の概要を学ぶ				
	事後学修	解答解説を復習し、自分の得意・苦手分野を確認する				2.0
2	事前学修	新出単語を調べる				2.0
	授業	Unit 1-Travel①: Who 疑問文の理解とリスニング演習				
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う				2.0
3	事前学修	単語小テストの準備				2.0
	授業	Unit 1-Travel②:時制の確認、旅行に関するリーディング演習				
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する				2.0
4	事前学修	新出単語を調べる				2.0
	授業	Unit 2-Dining Out①: Where 疑問文の理解とリスニング演習				
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う				2.0
5	事前学修	単語小テストの準備				2.0

	授業	Unit 2-Dining Out②: 主述の一致、食事・料理に関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
6	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 3-Media①: When 疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
7	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 3-Media②: 能動態・受動態、メディアに関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
8	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 4-Entertainment①: Why 疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
9	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 4-Entertainment②: 動名詞・不定詞、エンタメに関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
10	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 5-Purchasing①: How 疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
11	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 5-Purchasing②: 代名詞、買い物に関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
12	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 6-Clients①: How+α 疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
13	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 6-Clients②: 品詞、顧客との取引に関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
14	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 7-Recruiting①: Yes/No 疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
15	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 7-Recruiting②: 品詞、採用活動に関するリーディング演習、試験範囲の確認	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■期末試験：60% ■小テスト：10% ■アンサー・シートによる自己評価・分析の提出とその内容：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説、およびアンサー・シートへのコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST, 著者名：早川幸治 他, 出版社：金星堂, 備考：
参考書・Web サイト	http://www.kinsei-do.co.jp/download/4045 (教科書の音声ファイル) https://www.iibc-global.org/toeic.html (TOEIC 公式サイト)

	※以下は個人的に取り組んでほしい参考図書 ・ TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ（朝日新聞出版） （基本となる語彙力のため必須。上級者は「金のフレーズ（増補改訂版）」を推薦する） ・ TOEIC L & R テスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル（アルク） （TOEIC 視点での基礎的文法の復習に適切。少し得意な人は「続・～」も良い） ・ 公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 12（国際ビジネスコミュニケーション協会） （音読者が公開テスト同じなのが有利。問題を解き、その後解説を重点的に読むのが良い）
単位修得が望ましい科目	なし
備考	1 第 1 回目の講義において TOEIC 形式の体験トライアル・テストを実施します。必ず出席のこと。また、テキストは学習内容が多いため一部を自己学修に充てます。各自で取り組む姿勢での受講をしてください。 2 毎回ノート PC を持参してください。講義ごとに取組状況の自己評価と振り返り（新たに学んだこと・今後の課題等）を POLITE 上から提出してもらいます。同時に質問があれば記載してもらい、後日教員側から回答やコメントを返すことで理解を深めてもらいます。 3 2 の提出を以て出席を確定します。毎回必ず提出してください。 4 試験は 16 回目に実施する予定です。 5 履修者が確定したら座席を指定します。
担当教員の実務経験	高校の英語教員として 2018 年までの 37 年間英語教育指導にあたった。その後、本学及び専門学校で TOEIC 受験に特化した対策授業を担当している。こうした経験を、TOEIC をとおした学生の英語コミュニケーション能力向上を図る授業づくりに活かしている。 2001 年～2002 年 実用英語技能検定面接員。

職業英語B 2024 年度以降の入学生は、「Advanced English II」になります。 Professional English B

担当教員	吉村 裕彦(非常勤), JOEL RIAN(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			CBL316
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		4 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
テーマ「職業英語 A をうけて、さらなる TOEIC 得点の向上に努める」						
本講義は TOEIC 資格対策に特化した演習授業である。						
1 TOEIC は企業で要求される英語力の指標として重要視されている。高得点を取ることは社会人として国際社会を生きるための条件であることはもちろん、企業によっては昇進・昇級の必要条件となっている場合もある。また、入社に向けたエントリーシートでのスコア記入を必須要件としている企業も多く、学生としても受験することが求められる。本講義では TOEIC 得点のアップとともに、ビジネスや日常における英語運用能力の向上を目的としている。具体的にはトピック別に TOEIC 受験に必要な知識の習得と基礎文法力・リスニング力・リーディング力の向上を図る。						
2 テキスト（必ず購入のこと）の演習を中心に進めることになるが、必要に応じて理解を深めるための補助教材を使用する。						
3 各 Unit を 2 回の講義で実施する。本講義では職業英語 A の続きとしてテキストの後半を扱う。						
4 Unit ごとに語句の確認小テストを実施し、語彙力や基礎英語力の向上を図る。						
5 関連性が高いので、職業英語 A を履修した者が職業英語 B を履修することが望ましい。						
授業における学修の到達目標						
職業英語 A の学修成果を踏まえ、						
1 TOEIC に必要な単語・語句を活用することができる。						
2 文法を元に文構造を理解し文章全体を把握することができる。						
3 Overlapping や Shadowing を積極的に行い音声をとおした理解ができる。						
4 TOEIC の問題形式を理解し、積極的に受験する態度を身につける。						
5 TOEIC 学習をとおし基礎的な英語コミュニケーション力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	新出単語を調べる				2.0
	授業	Unit 8-Personnel①: Yes/No 疑問文の理解とリスニング演習				
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う				2.0
2	事前学修	単語小テストの準備				2.0
	授業	Unit 8-Personnel②:品詞の確認①、人事に関するリーディング演習				
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する				2.0
3	事前学修	新出単語を調べる				2.0
	授業	Unit 9-Advertising①: Yes/No 疑問文の理解とリスニング演習				
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う				2.0
4	事前学修	単語小テストの準備				2.0
	授業	Unit 9-Advertising②: 品詞の理解②、広告に関するリーディング演習				
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する				2.0

5	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 10-Meeting①: 付加疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
6	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 10-Meeting②: 前置詞の理解、会議に関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
7	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 11-Finance①: 否定疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
8	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 11-Finance②: 接続詞の理解、財政・予算に関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
9	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 12-Offices①: 依頼・許可疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
10	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 12-Offices②: 接続詞・前置詞の使い分け、会社に関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
11	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 13-Daily Life①: 提案・勧誘文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
12	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 13-Daily Life②: 関係代名詞の理解、日常生活に関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
13	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 14-Sales & Marketing①: 選択疑問文の理解とリスニング演習	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0
14	事前学修	単語小テストの準備	2.0
	授業	Unit 14-Sales & Marketing②: 販売に関するリーディング演習	
	事後学修	英文の精読を行い学習内容を復習する	2.0
15	事前学修	新出単語を調べる	2.0
	授業	Unit 15-Events: 平叙文形式疑問文の理解とリスニング演習、試験範囲の確認	
	事後学修	音声教材を用い音読と Overlapping 練習を行う	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 期末試験：60% ■ 小テスト：10% ■ アンサー・シートによる自己評価・分析の提出とその内容：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説、およびアンサー・シートへのコメントによりフィードバックを行う。

教科書

書名：THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST, 著者名：早川幸治
他, 出版社：金星堂, 備考：

参考書・Web サイト	http://www.kinsei-do.co.jp/download/4045（教科書の音声ファイル） https://www.iibc-global.org/toEIC.html（TOEIC 公式サイト） ※以下は個人的に取り組んでほしい参考図書 ・ TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ（朝日新聞出版） （基本となる語彙力のため必須。上級者は「金のフレーズ（増補改訂版）」を推薦する） ・ TOEIC L & R テスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル（アルク） （TOEIC 視点での基礎的文法の復習に適切。少し得意な人は「続・～」も良い） ・ 公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 12（国際ビジネスコミュニケーション協会） （音読者が公開テスト同じなのが有利。問題を解き、その後解説を重点的に読むのが良い）
単位修得が望ましい科目	なし
備考	1 テキストは学習内容が多いため一部を自己学修に充てます。各自で取り組む姿勢での受講をしてください。 2 毎回ノート PC を持参してください。講義ごとに取り組状況の自己評価と振り返り（新たに学んだこと・今後の課題等）を POLITE 上から提出してもらいます。同時に質問があれば記載してもらい、後日教員側から回答やコメントを返すことで理解を深めてもらいます。 3 2 の提出を以て出席を確定します。毎回必ず提出してください。 4 試験は 16 回目を実施する予定です。 5 履修者が確定したら座席を指定します。
担当教員の実務経験	高校の英語教員として 2018 年までの 37 年間英語教育指導にあたった。その後、本学及び専門学校で TOEIC 受験に特化した対策授業を担当している。こうした経験を、TOEIC をとおした学生の英語コミュニケーション能力向上を図る授業づくりに活かしている。 2001 年～2002 年 実用英語技能検定面接員。

中国語基礎Ⅰ 2023 年度入学生までは、「中国語ⅠA」になります。

Basic Chinese 1

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 山田 千尋(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC205	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：基礎から初級程度の中国語の習得 この講義では、授業担当者自身が書いた教科書を使い、主に発音と文法の基礎を習得することを目指して、初級中国語の発音・文法・読解能力の養成を図りたいです。 一、初級中国語の発音編 初級中国語のピンイン（ローマ字表記）には 36 個の母音と 21 個の子音があります。母音だけの音節,「子音＋母音」で構成される音節を加えると中国語の音節は全部で 400 余りにもなります。 指定教科書『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』発音編の内容を学習します。 1. 初級中国語の基礎を学習します。 （1）汉语（hànyǔ）とは？ （2）普通话（pǔtōnghuà）とは？ （3）简体字（jiǎntǐzì）とは？ （4）汉语拼音（hànyǔpīnyīn）と音节（yīnjié）とは？ （5）声調（shēngdiào）とは？ 2. 初級中国語の母音を学習します。 初級中国語の母音は 36 個ですが、次の 3 種類があります。 （1）単母音(7 個)とは？ （2）複母音(13 個)とは？ （3）n と ng を伴う母音(16 個)とは？ （4）母音からなる音節の綴りの規則とは？ 3. 初級中国語の子音を学習します。 初級中国語の子音は 21 個ですが、次の内容を中心に学習します。 （1）6 つのグループに分かれる子音とは？ （2）有気音と無気音の子音とは？ （3）子音と母音の構成からなる音節の綴りの規則とは？ 4. 初級中国語「音節の綴りの規則」を復習します。 本教科書発音編では、初級中国語の音節の仕組みを体系的にまとめ、簡潔に解説したことが最大の特徴 ですが、次のような内容を中心に復習を行います。 （1）母音からなる音節（基本と例外） （2）子音＋母音からなる音節（基本と例外） 二、初級中国語の文法・読解編 文法・読解編では、指定教科書『中国語基礎～よく使う基本文法だけ覚えよう～』（音声再生アプリ付）会話集 第 1 課と第 2 課の内容を学習します。 1. 第 1 課の本文・単語・文法 2. 第 2 課の本文・単語・文法 第 1 課と第 2 課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題 三、映像で知る中国文明の謎（その 1） 「映像で知る中国文明の謎」を通して、中国文明史に対する知識と関心を高めてゆきたい。						
授業における学修の到達目標						
1. 初級中国語のピンインと声調を正しく習得します。						

2. 初級中国語の簡体字や基礎文法を習得します。			
3. 初級中国語の読解力を養成します。			
授業計画			
回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し、授業全体の内容を把握します。	2.0
	授業	第1回のガイダンスでは、この科目で学習する中国と初級中国語の基礎知識を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、中国と初級中国語の基礎知識力を高めます。	2.0
2	事前学修	教科書発音編の内容を確認し、初級中国語の基礎（その1）を把握します。	2.0
	授業	第2回では、汉语、普通话、簡体字などを詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、汉语、普通话、簡体字などをマスターします。	2.0
3	事前学修	教科書発音編の内容を確認し、初級中国語の基礎（その2）を把握します。	2.0
	授業	第3回では、汉语拼音、音节、声調などを詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、汉语拼音、音节、声調などをマスターします。	2.0
4	事前学修	配布資料の内容を確認し、中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第4回では、「中国文明の謎シリーズⅠ（中華の源流）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、中華の源流への理解を深めます。	2.0
5	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し、単母音を把握します。	2.0
	授業	第5回では、単母音を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、単母音をマスターします。	2.0
6	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し、複母音を把握します。	2.0
	授業	第6回の授業では、複母音を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、複母音をマスターします。	2.0
7	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し、n と ng を伴う母音を把握します。	2.0
	授業	第7回の授業では、n と ng を伴う母音を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、n と ng を伴う母音をマスターします。	2.0
8	事前学修	教科書発音編の子音内容を確認し、子音（その1）を把握します。	2.0
	授業	第8回の授業では、子音（その1）を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、子音（その1）をマスターします。	2.0
9	事前学修	教科書発音編の子音内容を確認し、子音（その2）を把握します。	2.0
	授業	第9回の授業では、子音（その2）を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、子音（その2）をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書発音編の音節内容を確認し、母音からなる音節の綴りの規則を把握します。	2.0
	授業	第10回の授業では、母音からなる音節の綴りの規則を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、母音からなる音節の綴りの規則をマスターします。	2.0
11	事前学修	教科書発音編の音節内容を確認し、子音＋母音からなる音節の綴りの規則を把握します。	2.0
	授業	第11回の授業では、子音＋母音からなる音節の綴りの規則を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、発音編「復習とまとめ」の二者択一式課題（その1とその2）を解答します。	

	事後学修	授業内容を復習し、音節の綴りの規則をマスターします。	2.0
12	事前学修	配布資料の内容を確認し、中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第12回では、「中国文明の謎シリーズⅡ（漢字の誕生）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、中華の源流への理解を深めます。	2.0
13	事前学修	指定教科書会話集 第1課の内容を確認し、本文・単語・文法を把握します。	2.0
	授業	第13回の授業では、会話編第1課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、第1課の本文と文法をマスターします。	2.0
14	事前学修	指定教科書会話集 第2課の内容を確認し、本文・単語・文法を把握します。	2.0
	授業	第14回の授業では、会話集 第2課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、会話集 第1課と第2課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話集 第1課と第2課の本文と文法をマスターします。	2.0
15	事前学修	配布資料の内容を確認し、中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第15回では、「中国文明の謎シリーズⅢ（始皇帝の野望）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。 受講者の第1単元～第5単元課題の解答を回収します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、始皇帝の中華統一野望への理解を深めます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

- 第1単元～第5単元課題の解答：80%
- 映像授業（1回～3回）の感想文：20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題の解答解説は各単元の講義終了後に行う予定です。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付）、著者名：田中英夫、出版社：朝日出版社、備考：
	書名：『中国語基礎～よく使う基本文法だけ覚えよう～』（音声再生アプリ付）、著者名：田中英夫、出版社：朝日出版社、備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	「海外語学・文化研修（中国大連編）」 「海外事情（中国編）」
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

中国語基礎Ⅱ 2023 年度入学生までは、「中国語ⅠB」になります。

Basic Chinese 2

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 山田 千尋(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC206
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：初級中国語文法と読解の基礎知識の習得 一、初級中国語の文法・読解編 この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,基礎文法の習得を目指して,初級中国語の基礎文法と読解能力の養成を図りたいです。 文法・読解編では,指定教科書『中国語基礎～よく使う基本文法だけ覚えよう～（音声再生アプリ付）』会話集 第 3 課～第 10 課の内容を学習します。「中国語基礎Ⅱ」で実施する授業の具体的な内容は以下の通りです。 1. 講義授業を実施し,発音編（その 1）を復習します。 2. 講義授業を実施し,発音編（その 2）を復習します。 発音編「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。 3. 講義授業を実施し,会話集 第 1 課と第 2 課を復習します。 会話集 第 1 課と第 2 課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。 4. 講義授業を実施し,会話集 第 3 課の本文・単語・文法を学習します。 5. 講義授業を実施し,会話集 第 4 課の本文・単語・文法を学習します。 会話集 第 3 課と第 4 課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。 6. 映像授業「三国史英雄伝（その 1） 諸葛孔明の知恵～天下三分の計～」を放映します。 7. 講義授業を実施し,会話集 第 5 課の本文・単語・文法を学習します。 8. 講義授業を実施し,会話集 第 6 課の本文・単語・文法を学習します。 会話集 第 5 課と第 6 課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。 9. 講義授業を実施し,会話集 第 7 課の本文・単語・文法を学習します。 10. 講義授業を実施し,会話集 第 8 課の本文・単語・文法を学習します。 会話集 第 7 課と第 8 課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。 11. 映像授業「三国史英雄伝（その 2） 諸葛孔明の知恵～千年の時をこえる教え～」を放映します。 12. 講義授業を実施し,会話集 第 9 課の本文・単語・文法を学習します。 13. 講義授業を実施し,会話集 第 10 課の本文・単語・文法を学習します。 会話集 第 9 課と第 10 課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。 14. 映像授業「中国の絶景（九寨溝など）」を放映します。 15. 「中国語基礎Ⅱ」の学習内容をまとめます。受講者の「第 1 単元～第 5 単元課題」解答を回収します。						
授業における学修の到達目標						
1. 初級中国語の基礎文法（疑問文・反復疑問文など）を身に付けます。 2. 初級中国語の読解力を高めます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,母音と子音などを把握します。				2.0
	授業	講義授業を実施し,発音編（その 1）を復習します。				
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（母音と子音）をマスターします。				2.0
2	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,音節の綴りの規則などを把握します。				2.0
	授業	講義授業を実施し,発音編（その 2）を復習します。				

		グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、発音編「復習とまとめ」の二者択一式課題（その１とその２）を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、発音編の内容（母音・子音・音節の綴りの規則など）をマスターします。	2.0
	事前学修	教科書の会話集を確認し、第１課と第２課の内容を把握します。	2.0
3	授業	講義授業を実施し、会話集 第１課と第２課を復習します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、会話集 第１課と第２課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話集 第１課と第２課の内容をマスターします。	2.0
	事前学修	教科書の会話集を確認し、第３課の内容を把握します。	2.0
4	授業	講義授業を実施し、会話集 第３課の本文・単語・文法を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話集 第３課の内容をマスターします。	2.0
	事前学修	教科書の会話集を確認し、第４課の内容を把握します。	2.0
5	授業	講義授業を実施し、会話集 第４課の本文・単語・文法を学習します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、会話集 第３課と第４課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話集 第３課と第４課の内容をマスターします。	2.0
	事前学修	配布資料の内容を確認し、三国史英雄（天才軍師諸葛孔明）への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
6	授業	映像授業「三国史英雄伝（その１） 諸葛孔明の知恵～天下三分の計～」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、三国史英雄（天才軍師諸葛孔明）への理解を深めます。	2.0
	事前学修	教科書の会話編を確認し、第５課の内容を把握します。	2.0
7	授業	講義授業を実施し、会話集 第５課の本文・単語・文法を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話集 第５課の内容をマスターします。	2.0
	事前学修	教科書の会話集を確認し、第６課の内容を把握します。	2.0
8	授業	講義授業を実施し、会話集 第６課の本文・単語・文法を学習します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第５課と第６課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話集 第５課と第６課の内容をマスターします。	2.0
	事前学修	教科書の会話編を確認し、第７課の内容を把握します。	2.0
9	授業	講義授業を実施し、会話集 第７課の本文・単語・文法を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話集 第７課の内容をマスターします。	2.0
	事前学修	教科書の会話集を確認し、第８課の内容を把握します。	2.0
10	授業	講義授業を実施し、会話集 第８課の本文・単語・文法を学習します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、会話集 第７課と第８課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話集 第７課と第８課の内容をマスターします。	2.0
	事前学修	配布資料の内容を確認し、三国史英雄（天才軍師諸葛孔明）への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
11	授業	映像授業「三国史英雄伝（その２） 諸葛孔明の知恵～千年の時をこえる教え～」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	

	事後学修	映像授業の内容を復習し,三国史英雄（天才軍師諸葛孔明）への理解を深めます。	2.0
12	事前学修	教科書の会話集を確認し,第9課の内容を把握します。	2.0
	授業	講義授業を実施し,会話集 第9課の本文・単語・文法を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話集第9課の内容をマスターします。	2.0
13	事前学修	教科書の会話集を確認し,第10課の内容を把握します。	2.0
	授業	講義授業を実施し,会話集 第10課の本文・単語・文法を学習します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,会話集 第9課と第10課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話集 第9課と第10課の内容をマスターします。	2.0
14	事前学修	配布資料の内容を確認し,中国の風光明媚な絶景（世界遺産・聖地・秘境）への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	映像授業「中国の絶景（九寨溝など）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,中国の風光明媚な絶景（世界遺産・聖地・秘境）への理解を深める	2.0
15	事前学修	後期の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	後期の課題で解けなかった問題を解説します。 受講者の「第1単元～第5単元課題」解答を回収します。	
	事後学修	「中国語基礎Ⅱ」の学習内容をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

■第1単元～第5単元課題の解答：80%

■映像授業（1回～3回）の感想文：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の解答解説は各単元の講義終了後に行う予定です。

教科書	書名：『中国語基礎～よく使う基本文法だけ覚えよう～』（音声再生アプリ付），著者名：田中英夫，出版社：朝日出版社，備考：
	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付），著者名：田中英夫，出版社：朝日出版社，備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	「海外語学・文化研修（中国大連編）」 「海外事情（中国編）」
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

中国語会話Ⅱ Chinese Conversation 2

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 山田 千尋(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC302	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：初級から中級の「誰でも簡単に話せる中国語日常会話」の習得 この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,主に中級レベルの中国語日常会話の習得を目指して,中国人と日常会話を話せる実践的な会話能力の養成を図りたいです。 一、コラボ型日常会話（後半）の学習 日常の会話で大事なものは,「相手に聞きたい」と「相手に伝えたい」ことです。 本教科書会話編では,ネイティブ・スピーカーの発想でまとめた主要動詞と主要助詞・副詞・介詞・助動詞とのコラボで「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学習します。 1. 「会話編」学習のねらい 初級中国語を学習した学習者を対象に、「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学び、誰でも簡単に話せる中国語日常会話のコツを身に付けます。 2. 「会話編」学習のながれ 会話編第九課～第十八課は主要動詞「吃 chī（食べる）、喝 hē（飲む）、买 mǎi（買う）、卖 mài（売る）、借 jiè（借りる）、还 huán（返す）、来 lái（来る）、去 qù（行く）、穿 chuān（着る）、脱 tuō（脱ぐ）」を学びます。同時に、最も使える 3 個の主要助詞（吗 ma、了 le、过 guo）、4 個の主要副詞（没 méi、不 bù、在 zài、也 yě）、1 個の主要介詞（在 zài）、1 個の主要助動詞（想 xiǎng）を学びます。 二、映像で知る日中交流史（後半）の学習 「映像で知る日中交流史」を通して,「溥儀・溥傑と日本」、「山口淑子（李香蘭）と中国」の知識と関心を高めてゆきたい。						
授業における学修の到達目標						
1. 会話Ⅱで学習する主要動詞（看・坐・买・卖・借・还・来・去・穿・脱）の使い方を身に付けます。 2. 中国語の主要動詞（看など）と主要助詞・副詞・介詞・助動詞との「コラボ型日常会話」力を高めます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	中国語会話Ⅰで学習した教科書会話編 第一課～第八課の内容を把握します。				2.0
	授業	中国語会話Ⅰで学習した教科書会話編 第一課～第八課を復習します。				
	事後学修	授業内容を復習し,中国語会話Ⅰで学習した教科書会話編 第一課～第八課をマスターします。				2.0
2	事前学修	教科書会話編 第九課の内容を確認し,動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。				2.0
	授業	動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。				
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。				2.0
3	事前学修	教科書会話編 第十課の内容を確認し,動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。				2.0
	授業	・動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。				
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。				2.0
4	事前学修	教科書会話編 第十一課の内容を確認し,動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。				2.0
	授業	動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。				
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。				2.0

5	事前学修	教科書会話編 第十二課の内容を確認し、動詞「賣」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	動詞「賣」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「賣」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
6	事前学修	配布資料の内容を確認し、「溥儀と日本」の映像授業概要を把握します。	2.0
	授業	・「ラストエンペラー溥儀と日本」を放映します。 ・グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、「溥儀と日本」への理解します。	2.0
7	事前学修	教科書会話編 第十三課の内容を確認し、動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
8	事前学修	教科書会話編 第十四課の内容を確認し、動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
9	事前学修	教科書会話編 第十五課の内容を確認し、動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書会話編 第十六課の内容を確認し、動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
11	事前学修	配布資料の内容を確認し、「溥儀と日本」の映像授業概要を把握します。	2.0
	授業	・「溥儀と日本 侯爵家令嬢の国際結婚秘話」を放映します。 ・グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、溥儀と日本への理解します。	2.0
12	事前学修	教科書会話編 第十七課の内容を確認し、動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
13	事前学修	教科書会話編 第十八課の内容を確認し、動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	・動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」を学習します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
14	事前学修	配布資料の内容を確認し、「李香蘭（山口淑子）と中国」の映像授業概要を把握します。	2.0
	授業	・「李香蘭（山口淑子）と中国」映像を放映します。 ・グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、「李香蘭（山口淑子）と中国」への理解を深めます。	2.0
15	事前学修	各単元の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	・各単元の課題で解けなかった問題を解説します。 ・受講者の第1単元～第5単元課題の解答を回収します。	
	事後学修	授業内容全体（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0
成績評価の方法およびその基準			

■第1単元～第5単元課題の解答：80%	
■映像授業（1回～3回）の感想文：20%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題の解答解説は各単元の講義終了後に行う予定です。	
教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付），著者名：田中英夫，出版社：朝日出版社，備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	「海外語学・文化研修（中国大連編）」 「海外事情（中国編）」
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

複言語演習 I -2027 年度開講- Plurilingual Workshop 1

担当教員	金 銀珠 (319 研究室), SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ILC213
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	未定	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ： 複言語力と異文化視野を育てる演習						
本講義は、英語・日本語・韓国語による複言語演習を通じて、基礎的コミュニケーション能力を習得するとともに、異文化理解および国際的視野を養うことを目的とする。事前学習では、オンデマンド教材を活用し、各言語の基本表現、文法、文化的背景を学ぶ。講義内では、確認クイズやミニゲーム、グループワークなどの活動を通じて学習内容の定着を図るとともに、異文化シミュレーション演習を取り入れ、さまざまな文化的視点を体験的に理解する。これにより、複言語の運用能力と複文化的メタ認知力の育成を目指す。						

複言語演習Ⅱ -2027 年度開講- Plurilingual Workshop 1

担当教員	金 銀珠 (319 研究室), SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		ILC213	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	未定	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：複言語を活用した実践的運用力と問題解決力の育成						
本講義は、複言語演習Ⅰで習得した基礎表現を応用し、実生活の多様な場面での運用力を高めることを目指す。事前学習では、オンデマンド教材を用いて重要表現と文化的背景を復習し、知識を整理・定着させる。講義内では、ミニゲーム・ディスカッション・ケーススタディを通じて即興表現力を鍛えるとともに、異文化問題解決型シミュレーション演習を通じて、問題発見から解決策提案までを体験し、複言語運用力と複文化的メタ認知力を一層強化する。						

情報倫理 Information Ethics

担当教員	棚橋 二郎(335 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			CL1102
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択	○	2 年	前期・後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(4),(6)				
授業概要						
テーマ：情報社会を生きるのに必要な倫理を身につける						
※この科目は経営情報学部および医療情報学部の学生向けに開講される「情報倫理」です。他の学部の学生向けの「情報倫理」はシラバスや教科書が異なりますので注意してください。						
情報モラルの必要性については高等学校共通教科「情報」までで学びますが、IT 技術の発達に伴って急速に進んだ情報化と社会の中で、 インターネットや AI をはじめとする情報通信技術の進歩は「1 年ひと昔」と言えるほど早く、 情報モラルやマナーもその変化とともに変わりゆくものです。情報通信社会では、 技術動向や著作権等の知的所有権をはじめとする法律の変遷にも注意しながら自らの行為を決定していく必要があります。						
このような社会では、人間らしく健全かつ秩序ある生活を送るために、 情報やネットという今や我々の生活になくてはならないものとどのように付き合っていくかを考えなければなりません。そのために、 最低限知らなければならないことや守らなければならないことを『自ら考えること』が必要です。そのクリティカルシンキングの手助けとなるのがこの情報倫理という科目です。						
授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行います。						
授業における学修の到達目標						
1. 社会の成員として健全に生きてゆくための基本的倫理を、 情報社会の特性に即して理解する。						
2. 情報に関する規範や規律を身につける。						
3. 著作権をはじめとする知的所有権を正しく理解し、 適切に利活用できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスおよび教科書第 1 章を読み、必要に応じて参考書を参照する				2.0
	授業	情報倫理とは				
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する				2.0
2	事前学修	教科書 2 章および 3 章を読み、POLITE の事前学習指示に従う				2.0
	授業	情報通信社会とネット上のコミュニケーション				
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する				2.0
3	事前学修	教科書 11 章を読み、POLITE の事前学習指示に従う				2.0
	授業	義務論的な理論				
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する				2.0
4	事前学修	POLITE の事前学習指示に従う				2.0
	授業	義務論的な理論と法律				
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する				2.0
5	事前学修	POLITE の事前学習指示に従う				2.0
	授業	義務論的な理論と社会				
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する				2.0
6	事前学修	教科書 4 章、5 章および 13 章を読み、POLITE の事前学習指示に従う				2.0

	授業	表現・言論の自由とメディアリテラシー	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	教科書 6 章を読み, POLITE の事前学習指示に従う	2.0
7	授業	情報技術とセキュリティ	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	教科書 7 章を読み, POLITE の事前学習指示に従う	2.0
8	授業	インターネットと犯罪	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	教科書 8 章を読み, POLITE の事前学習指示に従う	2.0
9	授業	個人情報とプライバシー	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	教科書 9 章を読み, POLITE の事前学習指示に従う	2.0
10	授業	知的所有権と著作権	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	POLITE の事前学習指示に従う	2.0
11	授業	知的所有権と産業財産権	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	教科書 10 章を読み, POLITE の事前学習指示に従う	2.0
12	授業	企業と情報倫理	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	教科書 12 章を読み, POLITE の事前学習指示に従う	2.0
13	授業	ビッグデータと AI の倫理	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	教科書 14 章を読み, POLITE の事前学習指示に従う	2.0
14	授業	SNS と情報モラル	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0
	事前学修	教科書 15 章を読み, POLITE の事前学習指示に従う	2.0
15	授業	情報通信社会とリテラシー	
	事後学修	POLITE にて示されるテーマで小テストを論述する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト：100% □レポート： % □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストなどの課題やそれらに対するフィードバックはすべて POLITE 上で行う。

教科書	書名：【改訂 3 版】情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー, 著者名：高橋慈子, 原田隆史, 佐藤翔, 岡部晋典, 出版社：技術評論社, 備考：
参考書・Web サイト	Deborah G. Johnson 「コンピュータ倫理学」 オーム社 Anthony Weston 「ここからはじまる倫理」 春秋社 実教出版編修部「事例でわかる情報モラル&セキュリティ」 実教出版
単位修得が望ましい科目	なし

備考	「授業の概要」に明記したように、この科目は経営情報学部および医療情報学部の学生向けに開講される「情報倫理」です。他の学部の学生向けの「情報倫理」はシラバスや教科書が異なりますので注意してください。
担当教員の実務経験	実務経験なし。

情報倫理 Information Ethics

担当教員	守 啓祐 (225 研究室), 三浦 洋 (221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC207	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(4),(6)				
授業概要						
テーマ：情報社会を生きるのに必要な倫理を身につける						
この科目は情報メディア学部の学生向けに開講される「情報倫理」です。他の学部の学生向けの「情報倫理」はシラバスや教科書が異なりますので注意してください。						
IT 技術の発達に伴って急速に進んだ情報化と社会の中で、かつての伝統的社会では見られなかった新たな問題が様々な分野で起こっています。そのため、旧来一般的だった「伝統倫理」とはやや違った視点や考え方をまじえた「情報倫理」という思想・規範の分野が成立してきました。						
この授業では、情報社会の歴史と特質を様々な角度から学び、情報モラルの尊重など現代社会を人間らしく健全に生きてゆくための情報倫理について考えます。併せて、人類の福祉増進という観点から情報社会の課題を考え、著作権等の知的所有権利活用など IT の分野で現代人のニーズに応じてゆくにはどうすればよいかについても検討します。						
授業における学修の到達目標						
1. 社会の成員として健全に生きてゆくための基本的倫理を、情報社会の特性に即して理解する。						
2. 情報に関する規範や規律を身につける。						
3. 著作権をはじめとする知的所有権を正しく理解し、適切に利活用できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	情報倫理とは何か				
	事後学修	一般的な規範倫理と情報倫理の違いをノートにまとめる				2.0
2	事前学修	教科書のうち情報と情報社会の特徴について予習する				2.0
	授業	情報と情報社会の特徴				
	事後学修	情報と情報社会の特徴についてノートにまとめる				2.0
3	事前学修	教科書のうち携帯電話・スマートフォンのマナーについて予習する				2.0
	授業	携帯電話・スマートフォンのマナー				
	事後学修	携帯電話・スマートフォンのマナーについてノートにまとめる				2.0
4	事前学修	教科書のうちネット上のコミュニケーションについて予習する				2.0
	授業	ネット上のコミュニケーション				
	事後学修	ネット上のコミュニケーションについてノートにまとめる				2.0
5	事前学修	教科書のうち情報発信者の責任について予習する				2.0
	授業	情報発信者の責任				
	事後学修	情報発信者の責任についてノートにまとめる				2.0
6	事前学修	教科書のうち身近な生活における情報について予習する				2.0
	授業	身近な生活における情報				
	事後学修	身近な生活における情報についてノートにまとめる				2.0

7	事前学修	教科書のうちネット社会におけるトラブルと犯罪について予習する	2.0
	授業	ネット社会におけるトラブルと犯罪	
	事後学修	ネット社会におけるトラブルと犯罪についてノートにまとめる	2.0
8	事前学修	教科書のうち個人情報の流出について予習する	2.0
	授業	個人情報の流出	
	事後学修	個人情報の流出についてノートにまとめる	2.0
9	事前学修	教科書のうち個人情報の保護について予習する	2.0
	授業	個人情報の保護	
	事後学修	個人情報の保護についてノートにまとめる	2.0
10	事前学修	教科書のうち知的財産権について予習する	2.0
	授業	知的財産権	
	事後学修	知的財産権についてノートにまとめる	2.0
11	事前学修	教科書のうち著作権について予習する	2.0
	授業	著作権	
	事後学修	著作権についてノートにまとめる	2.0
12	事前学修	教科書のうち情報セキュリティについて予習する	2.0
	授業	情報セキュリティ	
	事後学修	情報セキュリティについてノートにまとめる	2.0
13	事前学修	教科書のうちコンピュータへの被害について予習する	2.0
	授業	コンピュータへの被害	
	事後学修	コンピュータへの被害についてノートにまとめる	2.0
14	事前学修	教科書のうちネット社会のセキュリティ技術について予習する	2.0
	授業	ネット社会のセキュリティ技術	
	事後学修	ネット社会のセキュリティ技術についてノートにまとめる	2.0
15	事前学修	教科書のうち情報社会の現在について予習する	2.0
	授業	情報社会の現在	
	事後学修	情報社会の現在についてノートにまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストで誤答の多かった内容について授業で解説する。

教科書	書名：2026 事例でわかる情報モラル&セキュリティ, 著者名：, 出版社：実教出版, 備考：教科書は必ず 2026 年版(紙媒体)を入手すること。これは情報メディア学部 of 学生向けの教科書で、他の学部の学生向けの教科書とは異なるので要注意。
参考書・Web サイト	越智貢「情報倫理学入門」ナカニシヤ出版 Deborah G. Johnson 「コンピュータ倫理学」オーム社 Anthony Weston 「ここからはじまる倫理」春秋社 西垣通・竹之内禎編著訳「情報倫理の思想」NTT 出版
単位修得が望ましい科目	なし
備考	上記のように、教科書は必ず 2025 年版(紙媒体)を入手すること。2024 年以前の版は内容が旧く

	なっているため使用できない。「授業の概要」に明記したように、この科目は情報メディア学部 の学生向けに開講される「情報倫理」です。他の学部の学生向けの「情報倫理」はシラバスや教 科書が異なりますので注意してください。
担当教員の実務経験	実務経験なし。

情報の世界 Introduction to Information Society

担当教員	内山 俊郎(117 研究室), 越野 一博(303 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IBC112	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(4),(6)				
授業概要						
本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基本的素養を身に付けること、および数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能を扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思で AI の恩恵を享受し、これを説明・活用できることを目指します。 講義においては、知識やスキルを理解するための実習などを用意し、学生が主体的に学べるようにします。 授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム (POLITE)」を利用して行います。事前学修では教科書だけでなく、POLITE の資料を見て予習してください。						
授業における学修の到達目標						
・社会におけるデータ・AI の利活用に関連し、社会の動向、実際のデータ、活用領域、技術、を知る。 ・データ・AI 利活用における留意事項（情報倫理など）について知る。 ・データを読み、扱い、説明するというデータリテラシーを身に付ける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	データ駆動型社会や Society5.0 について、指定した参考資料を読み、内容を把握しておいてください。				2.0
	授業	社会で起きている変化、特に AI の進化による変化について事例と共に学びましょう。AI の歴史（推論・探索の時代、エキスパートシステムが登場する知識の時代、・・・）や「強い AI と弱い AI」、更に生成 AI などの意味について理解しましょう。				
	事後学修	社会で起きている変化の事例、それを説明するための用語について復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。				2.0
2	事前学修	社会で活用されているデータについて講義資料を読み、内容を把握しておきましょう。				2.0
	授業	社会で活用されているデータの事例を、紹介します。データの分類について学んだ後、文書データなどの例を示します。				
	事後学修	データの事例について、いくつかの分類がありました。その違いについて復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。				2.0
3	事前学修	データ・AI 利活用のための技術について講義資料を読み、内容を把握しておきましょう。				2.0
	授業	データ・AI 利活用のための技術のうち、データの可視化について示します。				
	事後学修	講義で出てきた用語、技術について復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。				2.0
4	事前学修	講義資料を事前に読み、疑問があるところについてメモを取り、授業に備えてください。				2.0
	授業	データ・AI 利活用のための技術のうち、教師なし学習であるクラスタリング技術や文書データの処理について示します。				
	事後学修	講義で出てきた用語、技術について復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。				2.0
5	事前学修	講義資料を読み、内容を把握してください。社会の問題を解決するために AI が使われるようになり				2.0

		ました。AI の出す答えを鵜呑みにしてよいのか？ 問題意識を持って授業に臨んでください。	
	授業	AI を活用した新しいビジネスモデルや、画像認識を中心とする AI 最新技術の活用例について学びます。	
	事後学修	画像、動画、音声・音楽データを提供しているサービスを調べてみましょう。	2.0
6	事前学修	講義資料を読み、内容を把握してください。自分のパソコンやスマホにあるデータの種類、利用目的や利用方法について調べてみましょう。	2.0
	授業	コンピュータで扱うデータ（数値、文章、画像、音声、動画）、データに対する並び替え（ソート）や探索（サーチ）のアルゴリズムとその表現方法（フローチャート）、プログラミングにおいて重要な関数・引数・戻り値の概念について学びます。	
	事後学修	画像、動画、音声・音楽データを提供しているサービスを調べてみましょう。	2.0
7	事前学修	講義資料を読み、内容を把握してください。人間にしかできないと自分が思う作業をノートに書き出してください。	2.0
	授業	これまで人間しかできなかった作業を AI やロボット・IoT が行う活動代替が始まっています。マーケティング、製造や物流において、仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援のために活用される AI について学びます。	
	事後学修	AI が使われているサービスや家電製品を調べてみましょう。	2.0
8	事前学修	講義資料を読み、内容を把握してください。インターネットで提供されている代表的な生成 AI サービスと利用できる機能を調べてみましょう。	2.0
	授業	機械学習の代表的なアルゴリズム、AI の種類（教師あり学習・教師なし学習・強化学習）を学びます。第 1 回で取り上げた生成 AI について、さらに詳しく学びます。基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデルとは何か？ 生成 AI について留意すべきこと（ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など）を知りましょう。	
	事後学修	自分が普段行っている行動や学習は、教師あり学習・教師なし学習・強化学習のどれに該当するのか、考えてみましょう。	2.0
9	事前学修	CT の三次元画像についてインターネットで調べてみましょう。三次元画像についての知識を得ておいてください。	2.0
	授業	医療の世界では診断装置の性能が向上し、小さな病気が早期に見つかりようになりました。一方、医療データを扱う上で倫理上の問題も発生しています。機微な医療情報について情報の取り扱いについて講義をします。[上杉正人@医療情報学部]	
	事後学修	医療情報と倫理についてインターネットで調べてみましょう	2.0
10	事前学修	センサの活用例についてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	データとセンシングの概要について、スポーツやゲームなどの身近に活用されている実例を交えて講義を行います。オープンデータ、シビックテック、AI 倫理、AI の社会的受容性についても講義内で扱います。（湯村）	
	事後学修	センサの活用方法について考えてみましょう	2.0
11	事前学修	都市のオープンデータについてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	都市で利用されるセンサやデータの種類や活用方法について、スマートシティや自動運転車などの事例を交えて講義を行います。都市のオープンデータのプラットフォーム PLATEAU に触れる簡易な演習も行います。（湯村）	
	事後学修	都市のオープンデータの活用方法について考えてみましょう	2.0
12	事前学修	パーソナルデータの取り扱いにおける課題についてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	個人で利用されるセンサやデータの種類や活用方法について、IoT、ウェアラブルデバイス、家庭内センサなどの事例を交えて講義を行います。プライバシー保護、個人情報の取り扱い、パーソナルデータに関わるセンサデータ(行動データ、生体データなど)の取り扱いにおける要点や課題について、	

		実際に起こった事例を交えながら講義を行います。（湯村）	
	事後学修	パーソナルデータの取り扱いにおける課題の解決策について考えてみましょう	2.0
13	事前学修	資料に目を通し、学習内容のアウトラインを把握しておいてください。	2.0
	授業	分布の状況、変化、構成、比率などを評価する上で効果のあるデータ可視化の手法のいくつかについて、実習を通して学びます。	
	事後学修	実習を通して、データより現象の状況を客観的に説明することを意識するようになりましょう。	2.0
14	事前学修	資料に目を通し、学習内容のアウトラインを把握しておいてください。	2.0
	授業	データより観測変量間の関係性を評価する際に有効となる可視化の技術と見方について、実習を通して体験します。	
	事後学修	実習を通して、2つの現象間の関係性を可視化し、その特徴を説明できるようになりましょう。	2.0
15	事前学修	資料に目を通し、学習内容のアウトラインを把握しておいてください。	2.0
	授業	実際の現象を分析する際にデータ分析の進め方をどのように考えていくとよいかという点について、1つの例を紹介します。	
	事後学修	実習を通して、2つの現象間の関係性をモデル化して、その状況を客観的に説明できるようになりましょう。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□レポート：0 % □演習課題：0 % ■小テスト：100 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストに対して、達成度を伝えて正解例を示すことで、フィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	なし。
単位修得が望ましい科目	なし。
備考	・
担当教員の実務経験	内山俊郎 2006 年から 2012 年度まで企業の研究所に所属し、文書データ解析、レコメンドの研究を行うとともに、これら研究の成果を関連事業会社において利用可能なものとする実用化（プロダクト化）を行い、事業会社への技術支援を行った。これら実務において、実用化プロジェクトに関わり、これらの技術を現場において適用する過程を見てきた。これら実務経験を生かす形で、講義の中で示す技術の実応用例などを学生に伝え、技術の先にある現場の様子が想像できるような教育を実施する。 越野一博 2003 年度から 2018 年度まで国立の研究所に所属し、医用画像の処理・解析研究を遂行した。その間、医師との共同研究として、機械学習・深層学習手法にもとづく人工知能を利用して、医用画像からの病変領域検出やノイズ除去などを行ってきた。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。 甫喜本司

	企業の研究所に所属し、データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきた。本講義では、データ科学の基本的な枠組みについて紹介する。統計学や確率論を基礎として、現象をデータを手がかりとして理解していくための科学的な方法を紹介することとあわせて、企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介する。

心理学 Psychology

担当教員	木下 弘基(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ILC104
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(4),(6)				
授業概要						
テーマ：人の心のありようを学ぶ。 この授業では心理学の諸領域について幅広く学びます。心理学的な理論や現象を実体験や実際の事例を通して学ぶことで、体験的に「心理学」や「心」への理解を深めます。また、心理学を単に知識として学ぶのではなく、様々な心理学の理論をとおして、自分自身や社会で起きる出来事について、新たな見方を学びます。						
授業における学修の到達目標						
1.様々な領域の心理学に関する基礎知識を身につける。 2.身近な現象や対象を心理学的な視点から考えることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	1.講義のガイダンスと心理学概説				
	事後学修	POLITE の第 1 回講義資料「1.心理学概説」等を利用し、学習内容を整理する。				2.0
2	事前学修	POLITE の第 2 回講義資料「2.行動、学習の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。				2.0
	授業	2.行動、学習の心理学				
	事後学修	POLITE の第 2 回講義資料「2.行動、学習の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。				2.0
3	事前学修	POLITE の第 3 回講義資料「3.パーソナリティ、性格の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。				2.0
	授業	3.パーソナリティ、性格の心理学				
	事後学修	POLITE の第 3 回講義資料「3.パーソナリティ、性格の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。				2.0
4	事前学修	POLITE の第 4 回講義資料「4.知覚、認知、記憶の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。				2.0
	授業	4.知覚、認知、記憶の心理学				
	事後学修	POLITE の第 4 回講義資料「4.知覚、認知、記憶の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。				2.0
5	事前学修	POLITE の第 5 回講義資料「5.社会心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。				2.0
	授業	5.社会心理学				
	事後学修	POLITE の第 5 回講義資料「5.社会心理学」等を利用し、事前に学習内容を整理する。				2.0
6	事前学修	POLITE の第 6 回講義資料「6.発達心理学史」等により、事前に学習範囲を把握する。				2.0
	授業	6.発達心理学				
	事後学修	POLITE の第 6 回講義資料「6.発達心理学」等を利用し、学習内容を整理する。				2.0
7	事前学修	POLITE の第 7 回講義資料「7.心理学の研究法」等により、事前に学習範囲を把握する。				2.0
	授業	7.心理学の研究法				
	事後学修	POLITE の第 7 回講義資料「7.心理学の研究法」等を利用し、学習内容を整理する。				2.0
8	事前学修	POLITE の第 8 回講義資料「8.臨床心理学（1）」等により、事前に学習範囲を把握する。				2.0
	授業	8.臨床心理学（1）				
	事後学修	POLITE の第 8 回講義資料「8.臨床心理学（1）」等を利用し、学習内容を整理する。				2.0

9	事前学修	POLITE の第 9 回講義資料「9.臨床心理学（2）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	9.臨床心理学（2）	
	事後学修	POLITE の第 9 回講義資料「9.臨床心理学（2）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
10	事前学修	POLITE の第 10 回講義資料「10.心理学的アセスメント（1）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	10.心理学的アセスメント（1）	
	事後学修	POLITE の第 10 回講義資料「10.心理学的アセスメント（1）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
11	事前学修	POLITE の第 11 回講義資料「11.心理学的アセスメント（2）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	11.心理学的アセスメント（2）	
	事後学修	POLITE の第 11 回講義資料「11.心理学的アセスメント（2）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
12	事前学修	POLITE の第 12 回講義資料「12.心理学の歴史」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	12.心理学の歴史	
	事後学修	POLITE の第 12 回講義資料「12.心理学の歴史」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
13	事前学修	POLITE の第 13 回講義資料「13.健康と心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	13.健康と心理学	
	事後学修	POLITE の第 13 回講義資料「13.健康と心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
14	事前学修	POLITE の第 14 回講義資料「14.情報と心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	14.情報と心理学	
	事後学修	POLITE の第 14 回講義資料「14.情報と心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
15	事前学修	POLITE の第 15 回講義資料「15.思春期、青年期の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	15.思春期、青年期の心理学	
	事後学修	POLITE の第 15 回講義資料「15.思春期、青年期の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■試験：50% ■演習課題：50%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題の回答、質問については講義内で解説する。 試験結果、課題の回答について質問、照会に応じる。			
教科書			
参考書・Web サイト		「心理学概論 歴史・基礎・応用」 川畑直人・大島剛・郷式徹（監修）加藤弘通 川田学（編） ミネルヴァ書房 （2020） 「心理学・入門：心理学はこんなに面白い（改訂版）」 サトウタツヤ・渡邊芳之 有斐閣（2019）	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		なし	
担当教員の実務経験		札幌市病院局市立札幌病院静療院（2005 年～2012 年）、札幌市保健福祉局児童心療センター（2012 年～2015 年）、札幌市保健福祉局子ども発達支援総合センター（2015 年～2021 年）における臨床心理士としての実務経験を活かし、心理学の体系的な知識の習得と実践的な理解を促していく。	

文学 Japanese Literature

担当教員	韓 然善(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		ILC105	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(3),(6)				
授業概要						
テーマ：日本近現代文学と異文化体験						
本講義では日本近現代文学と異文化体験との関係に注目し、そうした体験が生み出す様々な矛盾や問題について把握します。講義では具体的な作品を取り上げ、同時代の様々な状況を理解するとともに、ひいては現在の私たちを取り巻く環境についての理解を深めることを目指します。						
授業における学修の到達目標						
1. 比較文化・比較文学的な視点から日本文学を理解することができる。						
2. 文学作品の多様な解釈や読み方を身に付けることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。				2.0
	授業	ガイダンス				
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。				2.0
2	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。				2.0
	授業	日本近代文学のヨーロッパ体験(1)：夏目漱石の文学におけるロンドン				
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。				2.0
3	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。				2.0
	授業	日本近代文学のヨーロッパ体験(2)：日本近代文学におけるパリ（与謝野晶子）				
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。				2.0
4	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。				2.0
	授業	日本近代文学のヨーロッパ体験(3)：日本近代文学におけるパリ（永井荷風・高村光太郎）				
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。				2.0
5	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。				2.0
	授業	日本近代文学のヨーロッパ体験(4)：横光利一「罌粟の中」を読む				
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。				2.0
6	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。				2.0
	授業	日本近代文学の上海体験(1)：芥川龍之介と上海				
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。				2.0
7	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。				2.0
	授業	日本近代文学の上海体験(2)：横光利一「上海」を読む				
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。				2.0
8	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。				2.0
	授業	日本近代文学の台湾体験(1)：帝国日本と植民地台湾				
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。				2.0

9	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	日本近代文学の台湾体験(2): 佐藤春夫「魔鳥」を読む	
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。	2.0
10	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	日本近代文学の朝鮮体験(1): 帝国日本と植民地朝鮮	
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。	2.0
11	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	日本近代文学の朝鮮体験(2): 中島敦「巡査の居る風景」を読む	
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。	2.0
12	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	戦後の日本文学(1): 戦争の記憶について	
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。	2.0
13	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	戦後の日本文学(2): 後藤明生「夢かたり」を読む	
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。	2.0
14	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	戦後の日本文学(3): 紀行文学について	
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。	2.0
15	事前学修	これまでの講義内容を復習・整理しておく。	2.0
	授業	全体のまとめ	
	事後学修	講義内容をまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% □小テスト： % ■レポート：20% □演習課題： % ■その他[リアクションペーパー：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックは授業中に行う。また授業感想や質問に対するコメントは次回以降に取り上げる。

教科書	書名：なし（講義資料を毎回配付する）、著者名：., 出版社：., 備考：.
参考書・Web サイト	講義中に随時紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

歴史学 History

担当教員	小田島 数幸(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		CLH228
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3・4 年	前期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
テーマ： わが国の歴史に登場する人物をダイナミックに考察しよう						
○ 高等学校学習指導要領の関係で、皆さんの中には日本の歴史は中学校以来という方もいるでしょう。そこで、高校での日本史の修得状況に関わらず、原始古代から太平洋戦争までを通史で扱うのが本講義になります。						
○ 日本史の基礎知識が備わっている皆さんも、または少々心細い皆さんも、わが国の歴史を探索面白さを一緒に感じ合える授業を目指します。歴史上の人物の魅力を発見し、出来事の歴史的意義を深めていく展開になります。事前学習では、各回で紹介する書籍に目を通し、事後学習では、後段の参考書一覧から興味・関心に応じて活用し、教養を深めていきましょう。						
○ 授業は、本学が開発した「学習適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して、授業の最中も含めて反転学習を取り入れます。						
授業における学修の到達目標						
1 歴史的出来事を、科学的見地から読み取り、現在の価値観にとらわれることなく考察することができる。						
2 歴史上の人物の功績・魅力を説明するための知識・教養と、それを表現する力を身に付けることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	『三国志』または、テキスト（2～7 ページ）に関連する史料の検索と読込				2.0
	授業	【原始・古代①】考古学上の発見、わが国最古の史料解説、卑弥呼と邪馬台国の謎				
	事後学修	興味を持つ歴史上の人物を抽出し、200 字の説明文を作成する				2.0
2	事前学修	『日出処の天子』または、テキスト（7～13 ページ）に関連する史料の検索と読込				2.0
	授業	【古代②】古墳時代、大陸文化の伝来、聖徳太子の政治・外交と飛鳥文化				
	事後学修	生没年が57～644 年の期間に該当する人物を抽出し、200 字の説明文を作成する				2.0
3	事前学修	『恋ふらむ鳥は』または、テキスト（13～20 ページ）に関連する史料の検索と読込				2.0
	授業	【古代③】大化改新、白村江の戦、壬申の乱、天武朝と白鳳文化				
	事後学修	生没年が645～709 年の期間に該当する人物を抽出し、200 字の説明文を作成する				2.0
4	事前学修	『空海の風景』または、テキスト（20～23、90～95 ページ）に関連する史料の検索と読込				2.0
	授業	【古代④】平城京遷都、奈良時代の政変、遣唐使と天平文化				
	事後学修	生没年が710～793 年の期間に該当する人物を抽出し、200 字の説明文を作成する				2.0
5	事前学修	『源氏物語（光る君へ）』『枕草子』または、テキスト（23～41 ページ）に関連する史料の検索と読込				2.0
	授業	【古代⑤】平安京遷都、藤原氏の他氏排斥、弘仁・貞観文化、摂関政治の全盛と国風文化				
	事後学修	生没年が794～1018 年の期間に該当する人物を抽出し、200 字の説明文を作成する				2.0
6	事前学修	『炎立つ』または、テキスト（42～55 ページ）に関連する史料の検索と読込				2.0
	授業	【古代・中世①】承平・天慶の乱、奥州藤原氏、院政と保元・平治の乱				
	事後学修	生没年が1019～1179 年の期間に該当する人物を抽出し、200 字の説明文を作成する				2.0
7	事前学修	『鎌倉殿の13人』または、テキスト（55～66 ページ）に関連する史料の検索と読込				2.0
	授業	【中世②】源平の争乱と鎌倉幕府成立、将軍暗殺と承久の乱、蒙古襲来と幕府の衰退				

	事後学修	生没年が1180～1296年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0
8	事前学修	『太平記』または、テキスト（66～81、95～101ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	【中世③】鎌倉新仏教と鎌倉文化、南北朝の内乱、建武新政と室町幕府成立	
	事後学修	生没年が1297～1441年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0
9	事前学修	『国盗り物語』または、テキスト（81～89、101～117ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	【中世・近世①】応仁の乱、室町文化、戦国大名の領国支配、織田信長の統一事業	
	事後学修	生没年が1442～1582年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0
10	事前学修	『真田太平記』または、テキスト（117～134、162～168ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	【近世②】秀吉の全国統一、関ヶ原の戦い、大坂冬の陣・夏の陣、安土・桃山文化、江戸初期の外交	
	事後学修	生没年が1583～1632年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0
11	事前学修	『赤穂浪士』または、テキスト（134～185ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	【近世③】幕藩体制、鎖国の成立、元禄文化、江戸幕府三大改革と幕政衰退	
	事後学修	生没年が1633～1709年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0
12	事前学修	『竜馬がゆく』『新選組』または、テキスト（187～198ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	【近代①】黒船来航、尊王攘夷と薩長連合・江戸幕府の滅亡、戊辰戦争と明治維新	
	事後学修	生没年が1710～1876年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0
13	事前学修	『翔ぶが如く』または、テキスト（198～211ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	【近代②】征韓論と西南戦争、大日本帝国憲法、条約改正交渉	
	事後学修	生没年が1877～1894年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0
14	事前学修	『坂の上の雲』または、テキスト（211～236ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	【近代③】日清戦争、日英同盟、日露戦争、韓国併合	
	事後学修	生没年が1895～1910年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0
15	事前学修	「知覧特攻平和会館の書籍」、テキスト（237～260ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	【近代・現代】五・一五事件、国際連盟脱退、真珠湾攻撃、東京大空襲、神風攻撃隊、原爆投下、東京裁判	
	事後学修	生没年が1911～1948年の期間に該当する人物を抽出し、200字の説明文を作成する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。」

■試験：70% □小テスト： % ■レポート： 30% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートについて講評する

教科書	書名：概論日本歴史, 著者名：佐々木潤之介他編, 出版社：吉川弘文館, 備考：購入は任意とする
参考書・Web サイト	小和田哲男著 『人物比較でわかる日本史』 (KADOKAWA、2017年) ISBN 978-4-04-400216-9 松本一夫著 『史料で解き明かす日本史－歴史学者の謎解きを体験する』 (ベレ出版、2021年) ISBN 978-4-86064-654-7
単位修得が望ましい科目	なし

備考	なし
担当教員の実務経験	1984 年から 2022 年までの 38 年間、道立高等学校で地歴・公民科教員（2015 年からは教頭・校長）の経験を持つ。主に日本史 A・B を担当し、物語のように演じる劇場型の授業で生徒を魅了し、暗記型教科からの脱却を図る。本学においても学生による評価は満足度の高い傾向にある。 歴史上の人物を、自分の言葉で説明する手法を反復し、社会に出てから応用可能な教養として身に付く授業を実践する。 2024 年～25 年、砂川市教育委員会生涯学習推進アドバイザー就任。2026 年～道内 3 大学にて講義を受け持つ。

哲学 Philosophy

担当教員	三浦 洋 (221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			CLH129
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3・4 年	前期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
テーマ：西洋哲学史を学び、哲学的思考を身につける						
哲学は元来、すべての学問を包摂する知的探究の営みです。情報サイエンスを含め、理科系・文科系あらゆる学問の祖が哲学なのです。この講義では、哲学が始まった最も古い時代にあたる西洋古代哲学の歴史を概観しながら、現代哲学まで受け継がれてきた問題群と、哲学独特の探究方法を学びます。						
哲学には人間の思考の原型が秘められていますので、哲学を学ぶことは他の様々な学習にも役立ちます。というのも、自分の力で物事を粘り強く考え、考えたことを論理的に整理する姿勢・能力を養うことができるからです。講義の中でときどき難しい言葉に出会っても敬遠せず、哲学者がその言葉をあえて使った意味を根気よく考えてみてください。						
授業における学修の到達目標						
1 哲学という学問の基本的なあり方や文化・思想の歴史的多様性を説明できる。						
2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表すことの重要性を説明できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	学問としての「哲学」				
	事後学修	学問としての「哲学」の特徴について復習する				2.0
2	事前学修	教科書のうちイオニア学派について説明した部分を読む				2.0
	授業	ミレトスの自然哲学				
	事後学修	ミレトスの自然哲学の特徴について復習する				2.0
3	事前学修	教科書のうちヘラクレイトスの思想について説明した部分を読む				2.0
	授業	ヘラクレイトスの思索				
	事後学修	ヘラクレイトスの思索の特徴について復習する				2.0
4	事前学修	教科書のうちピタゴラス派について説明した部分を読む				2.0
	授業	ピタゴラス派の問題				
	事後学修	ピタゴラス派の問題について復習する				2.0
5	事前学修	教科書のうちエレア学派について説明した部分を読む				2.0
	授業	エレア派のパラドックス				
	事後学修	エレア派のパラドックスの特徴について復習する				2.0
6	事前学修	教科書のうちエンペドクレスとアナクサゴラスについて説明した部分を読む				2.0
	授業	機械論と目的論の対立				
	事後学修	機械論と目的論の対立について復習する				2.0
7	事前学修	教科書のうちソフィストについて説明した部分を読む				2.0
	授業	ソフィストの登場				
	事後学修	ソフィストの思想の特徴について復習する				2.0

8	事前学修	教科書のうち紀元前5世紀の思想状況について説明した部分を読む	2.0
	授業	ソクラテス以前の哲学のまとめ	
	事後学修	ソクラテス以前の哲学の特徴について復習する	2.0
9	事前学修	教科書のうちソクラテスの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	ソクラテスの転換	
	事後学修	ソクラテスの思想の特徴について復習する	2.0
10	事前学修	教科書のうちプラトンの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	プラトンとイデア論	
	事後学修	プラトンのイデア論について復習する	2.0
11	事前学修	教科書のうちアリストテレスの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	アリストテレスの思想	
	事後学修	アリストテレスの思想の特徴について復習する	2.0
12	事前学修	教科書のうち中世哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	中世哲学の課題	
	事後学修	中世哲学の課題について復習する	2.0
13	事前学修	教科書のうち近世哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	近世哲学の展開	
	事後学修	近世哲学の展開について復習する	2.0
14	事前学修	教科書のうち近代哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	近代哲学の問題	
	事後学修	近代哲学の問題について復習する	2.0
15	事前学修	教科書のうち現代哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	現代哲学の発展	
	事後学修	現代哲学の発展について復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト（数回行う）：100%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストの採点后、設問に関する質問に対応するとともに、正解率の低かった設問の正解について解説する。

教科書	書名：西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相, 著者名：岩田靖夫ら, 出版社：有斐閣, 備考：紙媒体に限る。電子書籍は不可。
参考書・Web サイト	とくに指定しないが、授業内容に関連する書籍については適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし。

経済学 I Economics 1

担当教員	伊藤 好一(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		CLS101
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	冬期集中	○
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
日本では、長く続く不況やコロナ禍、インフレなどさまざまな経済的課題が発生し、家計や企業は絶えず変化や対応が求められてきました。今後も様々な局面で経済的課題は発生し続けるでしょう。先の見えないこれからの時代に活躍するためには経済を分析し、本質を捉え、対応できる“力”が求められます。経済学は、家計や企業の経済行動に対して市場メカニズムを基に分析するミクロ経済学と、政府・企業・家計を総体的に捉えて一国レベルで分析するマクロ経済学の2つに大別されます。本講義では前者のミクロ経済学の基礎を学修します。市場メカニズムを理解しつつ、家計や企業の経済行動について分析ができるようになることを目指します。 本講義ではスライドを用いた講義形式を主としつつ、適宜、アクティブ・ラーニング形式も取り入れる予定です。区切りごとに小テストの提出を求めます。						
授業における学修の到達目標						
① ミクロ経済学の基礎と考え方を理解すること。 ② 家計と企業の経済行動および市場メカニズムについて分析ができるようになること。 ③ 公務員試験のミクロ経済学の分野に関して問題を解けるようになること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読む				2.0
	授業	ガイダンス：ミクロ経済学とは？				
	事後学修	本講義の内容を把握する				2.0
2	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	経済学の系譜				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
3	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	需要と供給				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
4	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	需要曲線				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
5	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	消費者行動				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
6	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	供給曲線				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
7	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	費用の構造				

	事後学修	講義内容の復習	2.0
8	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	供給行動	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
9	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	余剰分析	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
10	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	資源配分のゆがみ	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
11	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	独占	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
12	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	市場の失敗	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
13	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	不確実性と不完全情報	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
14	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	ゲーム理論	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
15	事前学修	前回の復習・講義範囲の復習	2.0
	授業	まとめ：これからの市場経済のあり方について考える	
	事後学修	講義内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■小テスト：60% ■レポート：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テストの解説、レポートに対するコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：入門 経済学〈第4版〉，著者名：伊藤元重，出版社：日本評論社，備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	経済学Ⅱ（経済学Ⅰを履修し、次に経済学Ⅱを履修することが望ましい）
備考	特に無し
担当教員の実務経験	実務経験なし

経済学Ⅱ Economics 2

担当教員	伊藤 好一(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		CLS201
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中	○
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
現在の日本は急激な円安やインフレ、拡大する財政赤字といった経済問題が山積しています。日本経済のこれからを考えるためには、まずはこれら経済問題のメカニズムを理解して、その対策について勘案することが欠かせません。経済学は、家計や企業の経済行動に対して市場メカニズムを基に分析するミクロ経済学と、政府・企業・家計を総体的に捉えて一国レベルで分析するマクロ経済学の2つに大別されます。本講義では後者のマクロ経済学の基礎を学修します。ニュース等で見聞きする一国レベルの経済現象のメカニズムおよびマクロ経済政策の効果などについて理解し、分析ができるようになることを目指します。 本講義ではスライドを用いた講義形式を主としつつ、適宜、ディスカッションやQ&Aなどのアクティブ・ラーニング形式も取り入れる予定です。区切りごとに小テストやレポートの提出を求めます。						
授業における学修の到達目標						
① マクロ経済学の基礎と考え方を理解すること。 ② マクロ経済政策などについて理解し、分析ができるようになること。 ③ 公務員試験のマクロ経済学の分野に関して問題を解けるようになること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読む				2.0
	授業	ガイダンス：マクロ経済学とは？				
	事後学修	本講義の内容を把握する				2.0
2	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	世界経済・経済危機の歴史①：大恐慌まで				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
3	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	世界経済・経済危機の歴史②：アジア通貨危機まで				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
4	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	世界経済・経済危機の歴史③：コロナ禍まで				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
5	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	日本経済の歴史				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
6	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	マクロ経済学のキーワード：GDP など				
	事後学修	講義内容の復習				2.0
7	事前学修	前回の復習・教科書による予習				2.0
	授業	有効需要と乗数メカニズム				

	事後学修	講義内容の復習	2.0
8	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	マネーストック	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
9	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	信用乗数	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
10	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	マクロ経済政策：財政政策	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
11	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	マクロ経済政策：金融政策	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
12	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	失業	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
13	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	インフレ・デフレ	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
14	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	国際経済学	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
15	事前学修	前回の復習・講義範囲の復習	2.0
	授業	まとめ：これからのマクロ経済のあり方について考える	
	事後学修	講義内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■小テスト：60% ■レポート：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テストの解説、レポートに対するコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：入門 経済学〈第4版〉，著者名：伊藤元重，出版社：日本評論社，備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	経済学Ⅰ（経済学Ⅰを履修し、次に経済学Ⅱを履修することが望ましい）
備考	特に無し
担当教員の実務経験	実務経験なし

法学 Law

担当教員	関根 洋 (229 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ILC107
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：法律学に関する基礎的な知識の習得						
六法の使い方、条文の構造と読み方から始めて、法律学を専攻しない皆さんが、法律学に関する概括的知識を習得することを目的とします。						
民法・商法の履修を考えている皆さんは、この科目を履修することを強く希望します。						
授業における学修の到達目標						
民法・商法の履修に際して前提となる、法律学に関する基礎的な知識を習得すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読んできて下さい				2
	授業	開講に際して(履修上の諸注意)				
	事後学修	ノートを読み直してください 手許の六法が「条件に適ったもの」であるかどうか確認してください				2
2	事前学修	前回の授業時に配布されたプリントを通読				2
	授業	六法の使い方・条文の構造と読み方(プリント配布)				
	事後学修	配布されたプリントを参照しながら(実際に条文の検索を練習して)六法の使用方法に慣熟				2
3	事前学修	教科書の指定箇所を通読				2
	授業	紛争と法(教科書第 6 章 1)				
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読				2
4	事前学修	教科書の指定箇所を通読				2
	授業	裁判のしくみ(教科書第 6 章 2)				
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読				2
5	事前学修	教科書の指定箇所を通読				2
	授業	紛争解決方法のいろいろ(教科書第 6 章 3)				
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読				2
6	事前学修	教科書の指定箇所を通読				2
	授業	一般法と特別法(教科書第 7 章 1)				
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読				2
7	事前学修	教科書の指定箇所を通読				2
	授業	判例法(教科書第 7 章 2)				
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読				2
8	事前学修	教科書の指定箇所を通読				2
	授業	法の解釈(教科書第 7 章 3)				
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読				2

9	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	公法と私法(教科書第 7 章 4)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
10	事前学修	教科書の指定箇所を熟読 前回の授業時に提示された課題について自分の考えをまとめる	2
	授業	民事責任と刑事責任(1) 「民法・刑法」の条文にはどのようなことが書かれているか (教科書第 7 章 5・以下第 14 回授業まで同じ)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
11	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(2) 民事法および刑事法の趣旨・目的	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
12	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(3) 責任の顕れ方	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
13	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(4) 未遂犯	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
14	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(5) 過失の取扱	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
15	事前学修	前回の授業時に提示された「応用問題」「時事問題」について自分の考え方をまとめる	2
	授業	応用問題又は時事問題	
	事後学修	授業ノートと対照しながら、事前学習でまとめた「自分の考え」についてもう一度考えてみる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 100 % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験問題・成績について質問・照会に応じます(成績に関する陳情は勿論不可です)。

教科書	書名：ポケット六法 令和 8 年版, 著者名：, 出版社：有斐閣, 備考：
	書名：法の世界へ 第 10 版, 著者名：池田真朗ほか, 出版社：有斐閣, 備考：
参考書・Web サイト	特にありません。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	初回の授業で、履修に関する重要な諸注意を与えます。知らずに不利益を被るおそれがあるので、履修予定者は、初回の授業には必ず出席してください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

社会学 Sociology

担当教員	呉 亦悦(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		ILC108	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：社会と個人の関係について考える						
社会学は、これまで社会と個人との関係がどのようなものであるのかを問題にしてきた。この講義では、社会学という学問領域で蓄積されてきた基本的な知識を紹介・解説していくことを通じて、「社会学とは何か」「社会学ではどのようなことが問題とされているのか」「社会学ではどのような方法で社会現象を分析するのか」「その結果、どのような発見ができるのか」といったことについての理解を深めてもらうことを目的とする。						
受講生には、社会学の諸概念を知識として理解するだけでなく、社会システムの変化や新しい社会現象に目を向け、それらの現実の問題を考察する手がかりとすることを学んでほしい。そのための材料として、本講では少子高齢化、格差と貧困、ジェンダー、社会福祉、家族、教育など、近年の問題として取り上げられている様々な現象を話題・教材として取り上げる。						
授業における学修の到達目標						
(1) 社会に対する関心を深め、社会の一員としての自覚をもつ。						
(2) 社会学的センスを磨き、現状分析や問題解決の力とする。						
(3) 社会学的方法を駆使してレポートを書く力を身につける。						
(4) 社会学の理論を用いて、あらゆる社会現象を解釈できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握すること				2.0
	授業	「社会学」の概観と社会調査				
	事後学修	社会学の中で関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること				2.0
2	事前学修	第 2 回講義資料「人間の行為と相互行為を理解する」を確認し、学習範囲を把握しておくこと				2.0
	授業	人間の行為と相互行為を理解する				
	事後学修	人間の行為と相互行為のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること				2.0
3	事前学修	第 3 回講義資料「家族：家族関係の変容」を確認し、学習範囲を把握しておくこと				2.0
	授業	家族：家族関係の変容				
	事後学修	家族関係の類型および変容について、講義から理解したことをまとめること				2.0
4	事前学修	第 4 回講義資料「教育：学歴社会と文化的再生産」を確認し、学習範囲を把握しておくこと				2.0
	授業	教育：学歴社会と文化的再生産				
	事後学修	社会学の視点から教育を説明してみること				2.0
5	事前学修	第 5 回講義資料「労働：非正規雇用と若者の就職問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと				2.0
	授業	労働：非正規雇用と若者の就職問題				
	事後学修	労働に関わる問題の例を考え、まとめること				2.0
6	事前学修	第 6 回講義資料「階層と階級：格差と社会的排除」を確認し、学習範囲を把握しておくこと				2.0
	授業	階層と階級：格差と社会的排除				
	事後学修	階層と階級の相違点を説明してみること				2.0
7	事前学修	第 7 回講義資料「ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT」を確認し、学習範囲を把握				2.0

		しておくこと	
	授業	ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT	
	事後学修	セクシュアルマイノリティが直面している問題の例を考え、まとめること	2.0
8	事前学修	第 8 回講義資料「政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ	
	事後学修	政治と社会運動のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみる	2.0
9	事前学修	第 9 回講義資料「グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ	
	事後学修	グローバル化のメリットとデメリットを考え、まとめること	2.0
10	事前学修	第 10 回講義資料「メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影	
	事後学修	メディア社会のメリットとデメリットを考え、まとめること	2.0
11	事前学修	第 11 回講義資料「宗教：宗教の社会貢献」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	宗教：宗教の社会貢献	
	事後学修	宗教の社会的役割について、講義から理解したことをまとめること	2.0
12	事前学修	第 12 回講義資料「少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護	
	事後学修	少子高齢社会の問題点を、考えてまとめること	2.0
13	事前学修	第 13 回講義資料「社会福祉：医療と社会保障」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	社会福祉：医療と社会保障	
	事後学修	日本の社会福祉の特徴を整理し、まとめること	2.0
14	事前学修	第 14 回講義資料「地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型	
	事後学修	地域社会づくりの設計について、考えてみる	2.0
15	事前学修	第 15 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること	2.0
	授業	全体のまとめ	
	事後学修	15 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること	2.0

成績評価の方法およびその基準

■ 期末レポート：60 %

■ 演習課題：40 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各回講義末尾に質疑応答の時間を設けます。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求めます。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭（あるいは末尾）で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとします。

教科書	書名：ウェルビーイングの社会学, 著者名：櫻井義秀編, 出版社：北海道大学出版会, 備考：
参考書・Web サイト	① 櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編『アンビシャス社会学』北海道大学出版会, 2014 年 ② 友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』丸善出版, 2021 年

単位修得が望ましい科目	日本語表現Ⅱ（レポートの書き方），情報の世界（情報収集と分析方法）
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

憲法 Constitution

担当教員	小谷 大整(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ILC109
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
憲法の概観を条文や判例に触れながら講義していきます。憲法は、中学時代から学習するもっとも基本的かつ根本的なルールです。この基本的・根本的なルールが真にどのような意味を持つのか、具体的な事例や判例などを織り交ぜながらわかりやすく解説していきます。自由や平等という良く耳にする言葉から憲法独特の用語までひとつずつ深い意味を理解していきましょう。 社会に出てから必要となる憲法の教養やコンプライアンスと法的思考力の養成を目指します。 教科書を指定しますが、授業に出席して、講義ノートをとることを心がけてください。講義中に他人の迷惑となる行為をした場合は厳格に対応します。						
授業における学修の到達目標						
日本国憲法の基本的な学習、法の基礎を学ぶ 日本国憲法の概要を把握し、基本的な条文、基本的な判例を理解すること						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する				1
	授業	オリエンテーション				
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる				3
2	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する				1
	授業	憲法 13 条と新しい人権について				
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる				3
3	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する				1
	授業	憲法 14 条と法の下での平等について				
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる				3
4	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する				1
	授業	人権の享有主体性について				
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる				3
5	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する				1
	授業	憲法 19 条と思想良心の自由について				
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる				3
6	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する				1
	授業	信教の自由について				
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる				3
7	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する				1
	授業	学問の自由について				
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる				3
8	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する				1

	授業	憲法 21 条と表現の自由について	
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる	3
	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する	1
9	授業	経済的自由権、職業選択の自由について	
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる	3
	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する	1
10	授業	社会権（１）生存権	
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる	3
	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する	1
11	授業	社会権（２）教育権、労働に関する権利	
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる	3
	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する	1
12	授業	参政権、国務請求権	
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる	3
	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する	1
13	授業	立法権、国会の地位・組織・構成について	
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる	3
	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する	1
14	授業	行政権、内閣について	
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる	3
	事前学修	シラバスを確認し講義の内容を把握する	1
15	授業	司法権、司法権の範囲と限界について	
	事後学修	講義の内容を確認し、考え、まとめる	3

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験（50％） ■ 小テスト（50％） □ レポート（ ）％ □ 演習課題（ ）％
□ その他〔 〕

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストについては、適宜次の講義においてフィードバックを行います。

教科書	書名：憲法・法学講義, 著者名：柏崎敏義, 出版社：敬文堂, 備考：
参考書・Web サイト	コンパクト六法（岩波書店）、デイリー六法（三省堂）などの六法書
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

国際関係論 International Relations

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		CLS135
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3・4 年	前期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
テーマ：日本の国連と近隣諸国外交及び日米同盟について学ぶ 冷戦終結から 30 年以上が過ぎた。 米国の一極支配は揺らぎ,中国の台頭などによる多極化時代を迎えている。 この変動する世界で,平和と繁栄へつながる確かな戦略をどう描き出していくのか。それは国際社会が直面する重要な課題である。 日本が国連加盟した翌年の 1957 年に発行された「外交青書」には,「国連中心」を日本外交の三つの柱の第一として掲げている。二番目が「日米同盟」,三番目が「アジア重視」である。これは日本の外交活動の基調をなすものとして定めた日本外交の三原則である。 本講義では,「国際関係論」の基本的な知識を整理し,用語と映像で「首相談話と戦前日本外交の総括」,「日本の国連外交」,「日本の近隣諸国外交」,「日米同盟の強化」を中心に講義を進めていきたい。						
授業における学修の到達目標						
「国際関係論」では,首相談話と戦前日本外交の総括,日本の国連外交,近隣諸国外交,日米同盟強化の基礎知識習得を目標としている。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書とシラバスを確認し,授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	・ ガイダンス ・ 「戦後 70 年首相談話」などの映像を放映する。 ・ 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「首相談話」についてまとめる。				2.0
2	事前学修	教材内容を確認し,「満州事変」の関連用語を把握する。				2.0
	授業	・ 「満州事変」の映像を放映する。 ・ 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「満州事変」についてまとめる。				2.0
3	事前学修	教材内容を確認し,「朝鮮戦争」の関連用語を把握する。				2.0
	授業	・ 「朝鮮戦争秘録」の映像を放映する。 ・ 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「朝鮮戦争」についてまとめる。				2.0
4	事前学修	教材内容を確認し,「戦後の日本外交」関連用語を把握する。				2.0
	授業	・ 「戦後の日本外交」映像を放映する。 ・ 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「戦後の日本外交」についてまとめる。				2.0
5	事前学修	教材内容を確認し,「冷戦下の日本外交」関連用語を把握する。				2.0
	授業	・ 「冷戦下の日本外交」映像を放映する。 ・ 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「冷戦下の日本外交」についてまとめる。				2.0

6	事前学修	教材内容を確認し、「冷戦」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「冷戦終結への道」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「冷戦」についてまとめる。	2.0
7	事前学修	教材内容を確認し、「日本の国連外交」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「国連安保理の姿」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入すると同時に、 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、「日本の国連外交」についてのクイズ式課題の解答を求める。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日本の国連外交」についてまとめる。	2.0
8	事前学修	教材内容を確認し、「国連の挑戦」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「国連の挑戦」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「国連の挑戦」についてまとめる。	2.0
9	事前学修	教材内容を確認し、「日中関係」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「日中国交正常化への道」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日中関係」についてまとめる。	2.0
10	事前学修	教材内容を確認し、「日韓関係」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「日韓基本条約交渉の内幕」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日韓関係」についてまとめる。	2.0
11	事前学修	教材内容を確認し、「日朝関係」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「秘録 日朝交渉」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日朝関係」についてまとめる。	2.0
12	事前学修	教材内容を確認し、「日ロ関係」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「北方領土解決の道は？」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入すると同時に、グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、「日ロ関係」についてのクイズ式課題の解答を求める。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日ロ関係」についてまとめる。	2.0
13	事前学修	教材内容を確認し、「日米関係」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「沖縄返還の全貌」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「沖縄返還と米軍基地」についてまとめる。	2.0
14	事前学修	教材内容を確認し、「日本の国際貢献」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「日米同盟と日本の国際貢献」映像を放映する。 ・今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日米同盟と日本の国際貢献」についてまとめる。	2.0
15	事前学修	教材内容を確認し、「自由で開かれたインド太平洋」関連用語を把握する。	2.0
	授業	・「秩序なき世界～日本外交への遺言」映像を放映する。 ・受講者の第1単元～第5単元課題の解答を回収する。	

	事後学修	授業内容を復習し、「自由で開かれたインド太平洋」についてまとめる。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			
■映像授業の感想文：50% ■第1単元～第5単元課題の解答：50%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題の解答解説は各単元の講義終了後に行う予定です。			
教科書		書名：『用語でわかる国際経済と国際関係』，著者名：田中英夫, 出版社：丸善プラネット, 備考：	
参考書・Web サイト		なし	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		なし	
担当教員の実務経験		なし	

身近な数学 Elementary Mathematics

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ILC110
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	冬期集中	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
科目テーマ 数学をもっと身近に						
科学技術のさまざまな分野において数式を用いて表現したり、数学の計算を用いて解析することが行われています。一方で、世の中の多くの人は必ずしも数学に慣れているわけではありません。それゆえに、数学に習熟していることはしばしば有利に働きます。						
本講義では身近な例を題材に、少しでも数学に慣れることを目標とします。特に、数学で用いられる記法を理解したり、数や数式の扱い方に習熟することはとても重要です。正しく数学を理解することで、さまざまな問題に対して数学を活用できる力を身につけましょう。						
講義資料や演習課題は POLITE を通して提供します。						
授業における学修の到達目標						
1. 数学的な記号や記法の定義を理解する。						
2. 簡単な数式の取り扱いに習熟する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。				2
	授業	分数・小数				
	事後学修	講義内容を再度確認する。				2
2	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。				2
	授業	比・割合				
	事後学修	講義内容を再度確認する。				2
3	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。				2
	授業	単位				
	事後学修	講義内容を再度確認する。				2
4	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。				2
	授業	拡大縮小				
	事後学修	講義内容を再度確認する。				2
5	事前学修	ここまでの内容を復習する。				2
	授業	演習 1				
	事後学修	講義内容を再度確認する。				2
6	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。				2
	授業	記数法				
	事後学修	講義内容を再度確認する。				2
7	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。				2

	授業	数列と総和	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
8	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。	2
	授業	漸化式	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
9	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。	2
	授業	平均・分散	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
10	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。	2
	授業	演習 2	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
11	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。	2
	授業	対数	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
12	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。	2
	授業	弧度	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
13	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。	2
	授業	円と三角関数	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
14	事前学修	POLITE の内容を確認しておく。	2
	授業	組み合わせ	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
15	事前学修	ここまでの内容を復習する。	2
	授業	演習 3	
	事後学修	演習の内容を再度確認する。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % ■小テスト：40% □レポート： % ■演習課題：60% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を用いて課題提出・フィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

線形代数 I Linear Algebra 1

担当教員	森山 洋一(116 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		CLN101	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：線形代数学の基本的な道具である「行列と行列式」の概念の修得とその応用						
線形代数学は、微分積分学と並び大学教養課程の数学では最も基本的な科目であり、将来の専門科目(コンピュータ・グラフィックス、画像処理、データ解析、オペレーションズ・リサーチ、etc) や自然科学の為の予備知識として必要不可欠の科目です。						
線形代数Ⅰにおいては、連立 1 次方程式を一般的に解く事を応用として、線形代数学の基本的な概念である行列と行列式について学習します。行列は数を長方形の形に並べたものですが、この行列によって連立 1 次方程式を表現することができます。行列に対しては“階数”や“行列式”といった量が定義できますが、これらの量を調べる事によって連立 1 次方程式の解の形を知ることができます。このことを具体的な計算によって追求していきます。						
なお、用語の概念や計算力を定着させるために、POLITE にある Web 演習も併用します。これは授業時間外に、放課後や自宅で宿題として取り組んでもらいます。						
授業における学修の到達目標						
1. 行列の演算（特に、積）に慣れ、数の場合の演算と異なる点を理解する。						
2. 行列の簡約化の計算をミスなくできるようにし、連立 1 次方程式の解法や逆行列を求める方法である“掃き出し法”を修得する。さらに、行列の階数と連立 1 次方程式の解との関係を理解する。						
3. 2 次、3 次の行列式の計算法（サラスの方法）を完全に修得する。そして、クラメールの公式を利用して連立 1 次方程式を解いたり、余因子行列や逆行列を求められるようにする。						
4. 行列式を計算することによって何が分かるのか、それを理解する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE から第 1 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0
	授業	行列の定義と行列についてのいくつかの用語（成分、ベクトル、スカラーなど）をまず、学習する。後半は、行列の演算、行列の和とスカラー倍（ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍も含む）と行列の積について学習する。特に行列の積は、ベクトルの内積と関係していることを学ぶ。				
	事後学修	1 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。				2.0
2	事前学修	POLITE から第 2 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0
	授業	正方行列と行列の演算法則、数の演算との違いを学習する。				
	事後学修	2 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。				2.0
3	事前学修	POLITE から第 3 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0
	授業	連立 1 次方程式の解法である掃き出し法の概要をまず、学習する。後半は、掃き出し法で必要になる簡約な行列について学習する。				
	事後学修	3 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。				2.0
4	事前学修	POLITE から第 4 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0

	授業	掃き出し法の準備として、行列の簡約化と行列の階数について学習する。	
	事後学修	4 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
5	事前学修	POLITE から第 5 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	連立 1 次方程式を掃き出し法で解く方法を学習する。特に、解が存在する場合を重点的に学習する。	
	事後学修	5 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
6	事前学修	第 3 回目から第 5 回目までの内容を復習する。また、6 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	連立 1 次方程式を掃き出し法で解く方法の 2 回目。特に、解が存在しない場合を重点的に学習する。その後、連立 1 次方程式の解と行列の階数との関係を述べた定理を学習し、後半は演習を行う。	
	事後学修	6 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	逆行列と、逆行列を用いた連立 1 次方程式の解法を学習する。	
	事後学修	7 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
8	事前学修	第 1 回目から第 7 日目までの講義の復習を行う。さらに、Web 課題をもう一度解く。	3.0
	授業	第 7 回までの範囲の試験（中間試験）を行う。	
	事後学修	試験問題を思い出し、解法を確認する。	1.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	順列の符号についてまず、学習する。その後、行列式の定義を学習し、2 次、3 次の行列式の計算法（サラスの方法）も学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
10	事前学修	POLITE から第 10 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	行列式の基本的な性質について学習する。最後に、それを用いた 4 次の行列式の計算法を学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
11	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	行列の積の行列式について、まず学習する。さらに行列式の幾何学的な応用も学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
12	事前学修	9 回目から 11 回目までの講義を復習しておく。	2.0
	授業	行列式の計算や応用に関する演習を行う。	
	事後学修	もう一度、9 回目から 11 回目までの講義の内容を復習する。さらに、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	行列式の余因子展開について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	余因子行列と逆行列の関係について学習する。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
15	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0

	授業	連立 1 次方程式の解の公式である，クラメルの公式を学習する。	
	事後学修	15 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■試験：60% ■平常点: 40%（小テスト，Web 課題，演習課題，宿題，レポート）			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業中に行った小テスト，中間試験や演習のプリントは，採点后返却します。間違った箇所を確認し，修正して再提出してもらいます。 Web 課題については，取り組み状況を POLITE に掲示します。			
教科書		書名：線形代数入門 [第 2 版]，著者名：森山洋一，出版社：ムイスリ出版，備考：	
参考書・Web サイト		POLITE の線形代数 I のページ	
単位修得が望ましい科目		基礎数学 I	
備考		☆講義中の板書をメモし，復習用のノートを作ってください。 関連科目：線形代数 II，統計学，確率論	
担当教員の実務経験		実務経験なし	

線形代数 Linear Algebra

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ILC208
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：線形代数学の基礎である行列と行列式の概念の理解 線形代数学は、微分積分学と並び大学教養課程の数学では最も基本的な科目であり、将来の専門科目(コンピューター・グラフィックス、画像処理、オペレーションズ・リサーチ、etc) や自然科学の為の予備知識として必要不可欠の科目です。 線形代数Ⅰにおいては、連立 1 次方程式を一般的に解く事を応用として、線形代数学の基本的な概念である行列と行列式について学習します。行列は数を長方形の形に並べたものですが、この行列によって連立 1 次方程式を表現することができます。行列に対しては“階数”や“行列式”といった量が定義できますが、これらの量を調べる事によって連立 1 次方程式の解の形を知ることができます。このことを具体的な計算によって追求していきます。 ガイダンスで講義全体の詳細を説明しますので、必ず初回講義に出席するようにしてください。						
授業における学修の到達目標						
1. 行列の演算（特に、積）に慣れ、数の場合の演算と異なる点を理解する。 2. 行列の簡約化の計算をミスなくできるようにし、連立 1 次方程式の解法や逆行列を求める方法である“掃き出し法”を修得する。さらに、行列の階数と連立 1 次方程式の解との関係を理解する。 3. 2 次、3 次の行列式の計算法（サラスの方法）を完全に修得する。そして、余因子行列や逆行列を求められるようにする。 4. 行列式を計算することによって何が分かるのか、それを理解する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE に登録し内容を確認する。				2
	授業	ガイダンスを行います。				
	事後学修	1 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2
2	事前学修	POLITE で内容を確認する。				2
	授業	行列の基本演算①				
	事後学修	2 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2
3	事前学修	POLITE で内容を確認する。				2
	授業	行列の基本演算②				
	事後学修	3 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2
4	事前学修	POLITE で内容を確認する。				2
	授業	連立一次方程式と行列の基本変形①・小テスト 1				
	事後学修	4 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2
5	事前学修	POLITE で内容を確認する。				2
	授業	連立一次方程式と行列の基本変形②				
	事後学修	5 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2
6	事前学修	POLITE で内容を確認する。				2

	授業	連立一次方程式と行列の基本変形③	
	事後学修	6 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
7	授業	連立一次方程式と行列の基本変形④・小テスト 2	
	事後学修	7 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
8	授業	中間試験・逆行列と連立一次方程式①	
	事後学修	試験問題を思い出し、解法を確認する。8 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
9	授業	逆行列と連立一次方程式②	
	事後学修	9 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
10	授業	逆行列と連立一次方程式③	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
11	授業	行列式①	
	事後学修	11 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
12	授業	行列式②	
	事後学修	12 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
13	授業	行列式③	
	事後学修	13 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
14	授業	線形変換と回転行列	
	事後学修	14 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2
	事前学修	POLITE で内容を確認する。	2
15	授業	線形代数の工学への応用・小テスト 3	
	事後学修	15 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2

成績評価の方法およびその基準

■試験：60% □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[平常点: 40%（小テスト、Web 課題、演習課題、宿題、レポート）]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テスト、中間試験や演習のプリントは、採点后返却します。

教科書

参考書・Web サイト

POLITE 上の線形代数のページ

単位修得が望ましい科目

基礎数学

備考

講義中の板書をメモし、復習用のノートをきちんと作って下さい。

担当教員の実務経験

実務経験なし

線形代数Ⅱ Linear Algebra 2

担当教員	森山 洋一(116 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		CLN201	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：線形代数学の現代的な概念である「ベクトル空間と線形写像」の概念の修得とその応用						
線形代数Ⅱにおいては、ベクトル空間と線形写像という現代的な概念を学習します。その応用例として、連立1次方程式、座標変換や図形の変形などの幾何学的変換を、ベクトル空間と線形写像の立場で表現し直して考えます。						
学習を進めて行く上で線形代数Ⅰの知識が必要となりますので、線形代数Ⅰを必ず修得しておいて下さい。なお、用語の概念や計算力を定着させるために、POLITEにあるWeb演習も併用します。これは授業時間外に、放課後や自宅で宿題として取り組んでももらいます。						
線形代数Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、線形現象を記述し解析するという行列や線形写像の役割を認識し、且つそれらを使いこなす事によって、専門分野への応用力が養われる事を期待します。						
授業における学修の到達目標						
1. 数ベクトル空間、部分空間及び基底の概念に慣れ、幾何学的イメージを掴む。						
2. ベクトルの内積や外積を図形の計量に応用できるようにする。						
3. 線形写像と行列の関係（表現行列と基底の変換との関連）を理解し、幾何学的な変換(対称移動や回転移動)に応用できるようにする。						
4. 固有値、固有ベクトル、行列の対角化の意味を理解し、それらを求めることができるようにする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE から第1回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0
	授業	数ベクトル空間とその部分空間について学習する。				
	事後学修	1回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。				2.0
2	事前学修	POLITE から第2回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0
	授業	数ベクトルと有向線分の関係、数ベクトル空間と幾何学との関係を学習する。				
	事後学修	2回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。				2.0
3	事前学修	POLITE から第3回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0
	授業	数ベクトル空間において基本となる「基底」の概念を学習する。そのために1次独立の概念も学習する。				
	事後学修	3回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
4	事前学修	POLITE から第4回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0
	授業	基底の変換と変換行列、座標変換の関係について学習する。				
	事後学修	4回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
5	事前学修	POLITE から第5回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2.0
	授業	ベクトルの内積と図形の計量へ応用について学習する。				
	事後学修	5回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。				2.0

		く。	
6	事前学修	POLITE から第 6 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	正規直交基底と直交行列の関係、それらと幾何学の関係について学習する。	
	事後学修	6 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	ベクトルの外積と図形の計量への応用を学習する。	
	事後学修	7 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
8	事前学修	3 回目から 7 回目までの講義の内容を復習する。	3.0
	授業	基底の変換行列、ベクトルの内積・外積に関する試験（中間試験をおこなう）。	
	事後学修	試験問題を思い出し、解法を確認する。	1.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	線形写像、特に線形変換とその表現行列について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
10	事前学修	POLITE から第 10 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	線形変換と表現行列と基底の変換との関係について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
11	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	直交変換（特に回転移動）とその幾何学への応用について学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
12	事前学修	POLITE から第 12 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	合成変換と合成変換の表現行列、その表現行列の行列の積の関係について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	行列の固有値と固有ベクトルとその意味について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2.0
	授業	行列の対角化とその応用について学習する。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
15	事前学修	13 回目と 14 回目の講義の内容を復習する。	2.0
	授業	行列の対角化についての演習を行う。	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■試験：60% ■平常点：40%（Web 課題、演習課題、宿題、レポート）			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
中間試験は、採点后返却します。間違った箇所を確認し、修正して再提出してもらいます。 Web 課題については、取り組み状況を POLITE に掲示します。			
教科書		書名：線形代数入門 [第 2 版]，著者名：森山洋一，出版社：ムイスリ出版，備考：	

参考書・Web サイト	POLITE の線形代数 II のページ
単位修得が望ましい科目	基礎数学 I，線形代数 I
備考	☆講義中の板書をメモし，復習用のノートを作ってください。 関連科目：統計学，確率論
担当教員の実務経験	実務経験なし

微分積分 I Calculus 1

担当教員	森山 洋一(116 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		CLN102	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：関数の解析のための強力な道具である「微分積分法」の入門						
17 世紀後半、ニュートンとライプニッツにより発見された微分積分学は、数学史上最大の発見といわれ、微分積分学の影響をうけていない数学の分野は、ほとんどないとさえいわれています。また、数学の中にとどまらず、他の学問分野（自然科学、人文・社会科学、工学、医学 etc.）への貢献も計り知れないものがあります。						
この科目ではその微分積分学の入門として、多項式関数・三角関数・指数関数・対数関数などの 1 変数関数の微分法と積分法について学習します。その修得のためには関数の極限の概念が不可欠で、始めにそれらを扱い、関数の変化量を表す量として微分係数や導関数（微分）を定義します。次に、図形の面積の求め方を発展させて定積分を定義し、微分と積分を関連づけた「微分積分学の基本定理」を証明します。この定理により、「微分の逆」を考えることにより、定積分の計算が簡単にできるようになることを学習します。						
授業における学修の到達目標						
1. 微分係数の定義を覚えて、関数の変化量やグラフの接線との関係を理解する。						
2. 定積分の定義を覚えて、図形の面積との関係を理解する。						
3. 「微分積分学の基本定理」を理解し、定積分の計算に応用できるようにする。						
4. 多項式関数・三角関数・指数関数・対数関数の導関数・定積分の計算を習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE から第 1 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2
	授業	基本的な関数（三角関数、指数関数、対数関数）の復習をする。				
	事後学修	1 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。 宿題や Web 演習課題を解く。				2
2	事前学修	POLITE から第 2 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2
	授業	関数の極限と連続性について学習する。				
	事後学修	2 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2
3	事前学修	POLITE から第 2 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2
	授業	微分係数の定義と導関数の定義を学習し、基本的な関数の導関数を求める。				
	事後学修	3 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2
4	事前学修	POLITE から第 4 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2
	授業	微分法の基本公式について学習する。特に「積の公式」と「商の公式」について、重点的に学習する。				
	事後学修	4 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2
5	事前学修	POLITE から第 5 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2
	授業	微分法の基本公式のうち、「合成関数の微分法」について学習する。				
	事後学修	5 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2
6	事前学修	POLITE から第 6 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。				2

	授業	微分係数の意味と関数の増減について学習する。	
	事後学修	6 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2
	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2
7	授業	関数の最大値・最小値の求め方について学習する。	
	事後学修	7 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2
	事前学修	1 回目～7 回目までの講義内容の復習をし、やり残した問題を解いておく。	2
8	授業	微分法の学習のまとめとして、中間試験を行う。	
	事後学修	できなかった問題を思い出し、解き方をレジメで確認する。	2
	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2
9	授業	数列の和と級数について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2
	事前学修	POLITE から第 10 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2
10	授業	定積分の定義と区分求積法、「微分積分学の基本定理」について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2
	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2
11	授業	原始関数の定義と計算法を学習する。	
	事後学修	11 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2
	事前学修	POLITE から第 12 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2
12	授業	「微分積分学の基本公式」を用いて、定積分の計算を行う。	
	事後学修	12 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2
	事前学修	10 回目～12 回目のレジメで、積分法の授業内容を復習しておく。	2
13	授業	演習として、原始関数と定積分の計算練習を行う。	
	事後学修	13 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2
	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2
14	授業	積分法の応用として、関数のグラフで囲まれた図形（縦線形）の面積を求める。	
	事後学修	14 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2
	事前学修	POLITE から第 15 回目の学習用資料をダウンロードし、プリントアウトして内容を確認する。	2
15	授業	積分法の応用として、回転体の体積を求める。	
	事後学修	15 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2

成績評価の方法およびその基準

■試験：60% ■平常点：40%（演習課題・Web 演習・小テスト・宿題・report 等で評価）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テストや演習のプリントは、採点后返却します。間違った箇所を確認し、修正して再提出してもらいます。宿題も同様です。

教科書

参考書・Web サイト POLITE の微分積分Ⅰ（森山）のページ

単位修得が望ましい科目 基礎数学Ⅰ

備考 関連科目：微分積分Ⅱ（この科目は微分積分Ⅰの履修を前提としています）、統計学、確率論

担当教員の実務経験 なし

微分積分 Calculus

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ILC111
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
科目テーマ 解析学の初歩として 関数の変化と量						
17 世紀後半、ニュートンとライプニッツにより発見された微分積分学は、現在解析学の一領域であるが、数学史上最大の発見といわれ、微分積分学の影響をうけていない数学の分野は、ほとんどないとさえいわれています。また、数学の中にとどまらず、他の学問分野（自然科学、人文・社会科学、工学、医学 etc.）への貢献も計り知れないものがあります。						
この科目では、多項式関数・三角関数・指数関数・対数関数を含む初等関数を用いて、微分積分学の初歩、特に 1 変数関数の微分法、積分法について学習します。最初に、関数の極限を扱い、その極限を利用し、関数の傾きと微分の関係を考察します。次に、区分求積法により、積分と面積の関係を考察します。最後に、1 変数関数の性質を利用し、微分積分学の基本定理を証明します。						
ガイダンスで講義全体の詳細を説明しますので、必ず初回講義に出席するようにしてください。						
授業における学修の到達目標						
1.微分係数の定義を理解する。						
2.定積分の定義を理解する。						
3.微分積分学の基本定理を理解する。						
4.多項式関数・三角関数・対数関数の導関数・定積分の計算を習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する POLITE から第 1 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	ガイダンス。傾きについて学習する。				
	事後学修	1 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2.0
2	事前学修	POLITE から第 2 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	平均変化率について学習する。				
	事後学修	2 回の目講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2.0
3	事前学修	POLITE から第 3 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	関数の極限ついて学習する。				
	事後学修	3 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2.0
4	事前学修	POLITE から第 4 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	微分係数の定義と導関数の定義、それらの意味について学習する。				
	事後学修	4 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2.0
5	事前学修	POLITE から第 5 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	導関数の基本公式について学習する。				
	事後学修	5 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。				2.0
6	事前学修	POLITE から第 6 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	三角関数の導関数について学習する。				

	事後学修	6 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	指数関数・対数関数の導関数について学習する。	
	事後学修	7 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
8	事前学修	POLITE から第 8 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	図形の面積（縦線形の面積）について学習する。	
	事後学修	8 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	数列の和と級数について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
10	事前学修	第 4 回から第 9 回までの講義内容を、レジメやノートを参照し復習しておく。	2.0
	授業	区分求積法について学習する。	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。 また、宿題を行う。	2.0
11	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	定積分を定義し、図形の面積との関係について学習する。	
	事後学修	11 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
12	事前学修	POLITE から第 12 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	定積分を利用し、図形の面積を求める。	
	事後学修	12 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	連続関数の性質について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	微分積分学の基本定理を学習する。	
	事後学修	14 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
15	事前学修	POLITE から第 15 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	三角関数・指数関数・対数関数の定積分の計算について学習する。	
	事後学修	15 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験 60% ■小テスト、演習、宿題・レポートによる平常点 40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE にて提出・フィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	POLITE
単位修得が望ましい科目	基礎数学
備考	関連科目：確率論、統計論
担当教員の実務経験	なし

微分積分 I (教職クラス) Calculus 1

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		CLN102	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：変化する量の解析						
微分法を講義する。微分法と積分法を使い、何らかの解析を行うための学問領域を解析学という。この解析学は Newton, Leibniz らにより始まった道具としての数学である。Newton 達以降 300 年以上経つが、進化し続け、現在でも色あせることなく強力な道具である。本講義では 1 変数の微分法を講義し、道具として使えるようにしたい。微積分の応用の場として、三角関数、指数関数、対数関数などの初等関数の知識は必須である。また微分積分学Ⅱでは、積分を講義するが、積分の計算には微分が必要となる事に注意したい。						
なお、本講義は教職（数学）免許の取得のための必修科目です。また教科書（pdf）は POLITE にアップロードします。						
授業における学修の到達目標						
基本的な定義、定理を理解し、実際に微分法を使いグラフの形状、極限、関数展開など様々な計算が出来ることを目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	高校で学んだ関数について復習して下さい。				2
	授業	基本的な不等式				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
2	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。				2
	授業	極限と実数の連続性について				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
3	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。				2
	授業	関数の極限について				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
4	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。				2
	授業	微分の定義と計算				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
5	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。				2
	授業	微分の計算				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
6	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。				2
	授業	合成関数とその微分				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
7	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。				2
	授業	演習問題				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
8	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。				2

	授業	平均値の定理と関数の増減	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。	2
9	授業	コーシーの平均値の定理とロピタルの定理	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。	2
10	授業	高階導関数	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。	2
11	授業	2 階微分の符号と関数の凸性	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。	2
12	授業	グラフ	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。	2
13	授業	Taylor（テーラー）の定理	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。	2
14	授業	無限級数展開	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を、度確認して下さい。	2
15	授業	漸近展開	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：60% ■レポート：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

質問には講義後、研究室で答えます。分からない課題は質問に来て下さい。

またレポート等に関するフィードバックは講義中に適宜与えます。

教科書	書名：，著者名：松井伸也，出版社：なし，備考：POLITE に PDF ファイルをアップします。
参考書・Web サイト	教科書は「1 変数の微分法，松井伸也著」です。POLITE に PDF をアップします。 参考書： 松井伸也 著「三角関数・指数関数・対数関数」ムイスリ出版 高木貞治 著「解析概論」岩波書店 宮腰忠 著「高校数学+アルファ」共立出版
単位修得が望ましい科目	数学関係科目全般
備考	微分積分Ⅰ（教職）は，教職（数学）をとる学生向けの講義です。他にも微分積分Ⅰの講義が開講されますが，この講義以外では教職（数学）の単位とならないことに注意して下さい。教職を取らない学生も履修可能ですが，内容は高度になります。
担当教員の実務経験	実務経験はありません。

微分積分Ⅱ Calculus 2

担当教員	森山 洋一(116 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		CLN202	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：「微分積分法」のより発展的な内容（微分積分Ⅰの続き）の学習						
微分積分Ⅰでは、基本的な関数の微分積分法について学習しましたが、この科目ではより複雑な関数を扱い、内容を深めていきます。それによって、さまざまな事象での最大値・最小値を求める問題へのアプローチを可能にします。また、より複雑な図形の面積や体積を求めることが可能になります。						
さらに、高次の導関数を考えることに、関数を多項式関数で近似できるようになり、関数の値の計算がより簡単にできるようになることも学習します。						
微分積分Ⅰでは、微分法での計算の逆を考える事により、積分の計算が簡単にできることを学習しましたが、逆に、積分法の計算を微分法の問題（微分方程式）に応用することも可能になります。その応用に対応するために、より複雑な関数の原始関数の計算法を、この科目で学習します。						
授業における学修の到達目標						
1. 微分法の応用として関数の最大値・最小値を求められるようにする。						
2. 置換積分法と部分積分法を修得する。						
3. パラメータ表示による曲線の長さや図形の面積を求められようにする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE から第 1 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	基本的な導関数の復習を行う。				
	事後学修	1 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
2	事前学修	POLITE から第 2 目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	微分法の公式の復習を行う。				
	事後学修	2 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
3	事前学修	POLITE から第 3 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	合成関数の微分法 について学習する。				
	事後学修	3 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
4	事前学修	POLITE から第 4 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	対数微分法について学習する。				
	事後学修	4 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
5	事前学修	POLITE から第 5 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	関数の最大値・最小値 について学習する。				
	事後学修	5 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
6	事前学修	POLITE から第 6 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	高次導関数と Taylor の定理ついて学習する。				
	事後学修	6 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0

7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	Maclaurin の定理と関数の近似について学習する。	
	事後学修	7 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
8	事前学修	1 回目～7 回目までの授業内容を、レジメやノートで復習しておく。	2.0
	授業	復習をかねて、「中間試験」を行う。	
	事後学修	解けなかった問題を思い出し、レジメやノートで解法を確認する。	2.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	原始関数と置換積分について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
10	事前学修	POLITE から第 10 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	部分積分法について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
11	事前学修	9 回目と 10 回目の授業内容を、レジメとノートで復習しておく。	2.0
	授業	原始関数の計算の演習を行う。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
12	事前学修	POLITE から第 12 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	「微分積分学の基本定理」, 「微分積分学の基本公式」と定積分の計算について学習する。	
	事後学修	12 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	色々な定積分の計算法について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	積分法の応用として、図形の面積を求める。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
15	事前学修	POLITE から第 15 回目の学習用資料をダウンロードしてプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	積分法の応用として、曲線の長さや回転体の体積を求める。	
	事後学修	15 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

■試験：60% ■平常点：40%（演習課題、小テスト、宿題・レポートなど）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テストや演習のプリントは、採点后返却します。間違った箇所を確認し、修正して再提出してもらいます。宿題も同様です。

教科書	
参考書・Web サイト	POLITE の微分積分Ⅱ（森山）のページ。
単位修得が望ましい科目	基礎数学Ⅰ，基礎数学Ⅱ，微分積分Ⅰ
備考	関連科目：統計学，確率論
担当教員の実務経験	なし

微分積分Ⅱ(教職クラス) Calculus 2

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		CLN202	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：無限和としての積分 定積分（単に積分とよぶ）は、何らかの量の総量を計算をするために Newton により導入された道具です。現在では量の計算ばかりでなく、様々な関数の表現（ベッセル関数、画像へのフィルター、フーリエ変換など）にも使われ、積分に関する知識は学問の幅を広げる手段の一つとなります。 （定）積分は、実数上の関数 $f(x)$ のグラフと x 軸とで囲まれる部分の面積で定義をされます。具体的には、長方形の無限和として定積分は定義されます。この無限和が $(dF/dx)(x) = f(x)$ を満たす原始関数 $F(x)$ とどのように関係があるかを示し（解析学の基本定理）、積分の様々な計算を行います。置換積分・部分積分・部分分数分解などは、単純な手法ですが、これらを駆使して多くの積分が計算できます。なお、これらを使いこなすためには、「微分の計算・知識」，「初等関数の知識」は必須です。積分の応用として 1) 面積の計算, 2) 曲線の長さの計算が行えます。 なお、本科目は教職（数学）の経営情報学部を選択必修科目です。教職仮定を選択する学生は、時間割に「微分積分Ⅱ（教職）」があるので、そちらを履修して下さい。教職を取らない学生も履修可能ですが、内容は高度だと思います。 教科書（pdf）は POLITE にアップロードします。						
授業における学修の到達目標						
和の極限としての積分の定義を理解し、微分と積分がなぜ関係するかを理解する。さらに置換積分・部分積分・部分分数分解などの手法を使い、定積分の計算が出来ること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	微分法について、復習して下さい。				2
	授業	和と和の記号				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
2	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。				2
	授業	微分の計算				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
3	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。				2
	授業	部分分数分解				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
4	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。				2
	授業	積分の定義				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
5	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。				2
	授業	積分に関する定理				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2
6	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。				2
	授業	原始関数を使った積分の計算				
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。				2

7	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	積分の変数変換	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
8	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	積分の変数変換の計算例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
9	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	部分積分	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
10	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	部分積分と漸化式を使った積分計算の例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
11	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	部分分数展開（分解）を利用した積分の計算例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
12	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	根号と三角関数を含んだ分数式の積分例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
13	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	広義積分の定義	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
14	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	広義積分の例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2
15	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い、さらに定理の証明を、理解し直して下さい。	2
	授業	曲線の長さの計算	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験 60% ■レポート 40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

質問には講義後、研究室で答えます。分からない課題は質問に来て下さい。

またレポート等に関するフィードバックは講義中に適宜与えます。

教科書

参考書・Web サイト

教科書は POLITE にアップします。

参考書

三宅敏恒著, 「入門微分積分」培風館

石村 園子 著, 「数学入門」共立出版

松井 伸也 著, 「三角関数・指数関数・対数関数」ムイスリ出版

岩堀 長慶 著, 「微分積分学」, 裳華房

宮腰忠 著「高校数学+アルファ」共立出版

単位修得が望ましい科目	微分積分Ⅰ
備考	微分積分Ⅱ（教職）は、教職（数学）をとる学生向けの講義です。他にも微分積分Ⅱの講義が開講されますが、この講義以外では教職（数学）の単位とならないことに注意して下さい。教職を取らない学生も履修可能ですが、内容は高度になります。
担当教員の実務経験	実務経験はありません。

確率論 Probability Theory

担当教員	甫喜本 司 (327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		CLN204	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：確率論に基づくものの見方と現象分析への応用						
「確率・統計Ⅰ」で学んだ統計学的方法の背景について、確率論の観点から学びます。また、確率的な考え方を実際の現象のリスク評価へ応用するための考え方についても紹介します。具体的には、確率の基本概念、確率分布や期待値、分散をはじめとする確率論の諸概念について学ぶと共に、実現象の解析も体験しながらその理解を深めます。						
授業における学修の到達目標						
1. 確率に関する考え方を数学的に理解し、説明することができる。						
2. 様々な確率分布の特性を知り、実現象の評価に応用することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する				2.0
	授業	確率の定義について学習する				
	事後学修	1 回目講義の宿題(問)を解く				2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する 2 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	条件付き確率の考え方について学習する				
	事後学修	1 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 2 回目講義の宿題(問)を解く				2.0
3	事前学修	1 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 2 回目講義の宿題(問)を解く				2.0
	授業	ベイズの定理の考え方とその応用について学習する				
	事後学修	2 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 3 回目講義の宿題(問)を解く				2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する 4 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	独立性について学習する				
	事後学修	3 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 4 回目講義の宿題(問)を解く				2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する 5 回目で学習する内容を確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する				2.0
	授業	確率変数と 1 次元確率分布の考え方について学習する				
	事後学修	4 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 5 回目講義の宿題(問)を解く				2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する 6 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	様々な離散的確率分布について学習する				
	事後学修	5 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 6 回目講義の宿題(問)を解く				2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する				2.0

		7 回目で学習する内容を確認する	
	授業	様々な連続的確率分布について学習する	
	事後学修	6 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 7 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する 8 回目で学習する内容を確認する POLITE から学習用資料ををダウンロードし, 内容を確認する	2.0
	授業	確率変数の期待値について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 8 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する 9 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	期待値に関する数学的諸性質について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 9 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する 10 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	確率変数の分散について学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 10 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する 11 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	分散に関する数学的性質について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 11 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する 12 回目で学習する内容を確認する POLITE から学習用資料ををダウンロードし, 内容を確認する	2.0
	授業	2 次元確率分布に関する基本的な考え方について学習する	
	事後学修	11 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 12 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する 13 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	和の確率分布に関する期待値と分散の計算方法を学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 13 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する 14 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	共分散とその数学的性質について学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 14 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する 15 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	相関とその数学的性質について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 15 回目講義の宿題(問)を解き, POLITE で確認する	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 試験 60% ■ 平常点(40%, 小テスト・レポート等で評価)			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
レポート課題は, 解決のヒントを学習ポータル (POLITE) にアップしますので, 確認しながら学習を進めてください。解決			

方法がどうしてもわからない場合には, 教員に相談してください。	
教科書	書名：データサイエンス演習 (改訂版), 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	POLITE の「確率・統計Ⅱ」のページ
単位修得が望ましい科目	確率・統計Ⅰ, 微分積分Ⅰ, 微分積分Ⅱ, 線形代数Ⅰ, 線形代数Ⅱ
備考	教職（教科：数学）選択必修科目。
担当教員の実務経験	企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資の技術開発に携わってきた。本講義で扱う内容は, データ科学の考え方を考える上での数学的な基礎となる。確率という考え方を学術的観点から紹介することと併せて, 企業の技術開発の中で確率の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介したい。

統計学 Statistics

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		CLN203	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：データを分析するための統計学的なものの見方と方法						
「ビッグデータ」や「IoT」への関心と共に、複雑な現象をデータに基づいて分析するテクノロジーの基礎となる確率や統計の考え方への関心が高まりました。本講義では、計測や調査によって取得された観測データの情報を分析するための基本的な技術を習得すると共に、その背景となる統計学的, 確率論的なものの見方について学びます。						
授業における学修の到達目標						
1. 統計的なものの見方や方法を理解し、説明できる。						
2. 統計的な思考を実践できる。						
3. データ分析を通して実際の現象を評価できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	本科目の学習内容に関するアウトラインをシラバスで把握する POLITE の資料をダウンロードして、1 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	データの集計法について学習する				
	事後学修	1 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する				2.0
2	事前学修	2 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	平均の考え方について学習する				
	事後学修	2 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する				2.0
3	事前学修	3 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	分散と標準偏差の考え方について学習する				
	事後学修	3 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する				2.0
4	事前学修	4 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	分布の代表値について学習する				
	事後学修	4 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する				2.0
5	事前学修	5 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	偏差値の考え方について学習する				
	事後学修	5 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する				2.0
6	事前学修	6 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	散布図に基づく相関関係の見方について学習する				
	事後学修	6 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する				2.0
7	事前学修	7 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	共分散の考え方と定義について学習する				
	事後学修	7 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する				2.0
8	事前学修	8 回目で学習する内容を確認する				2.0

	授業	相関係数の考え方と定義について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する	2.0
	事前学修	9 回目で学習する内容を確認する	2.0
9	授業	偽相関と偏相関係数について学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する	2.0
	事前学修	10 回目で学習する内容を確認する	2.0
10	授業	相関関係と因果関係の違いについて学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する	2.0
	事前学修	11 回目で学習する内容を確認する	2.0
11	授業	回帰直線を推定する方法について学習する	
	事後学修	11 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する	2.0
	事前学修	12 回目で学習する内容を確認する	2.0
12	授業	回帰直線の推定方法について実習を行う	
	事後学修	12 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する	2.0
	事前学修	13 回目で学習する内容を確認する	2.0
13	授業	R 言語システムを用いてデータを集計、可視化する技術を学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する	2.0
	事前学修	14 回目で学習する内容を確認する	2.0
14	授業	R 言語システムを用いた散布図の作成、および相関係数の計算方法について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する	2.0
	事前学修	15 回目で学習する内容を確認する	2.0
15	授業	R 言語システムを用いた回帰分析の方法について学習する	
	事後学修	15 回目講義の宿題(小テスト)を解答し、誤った内容を確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 試験 60% ■ 平常点(40%, レポート・小テスト等で評価)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題は、解決のヒントを POLITE にアップロードしますので、確認しながら学習を進めてください。解決方法がどうしてもわからない場合には、教員に相談してください。

教科書	書名：データサイエンス演習 (改訂版), 著者名：甬喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	POLITE の「確率・統計Ⅰ」のページ
単位修得が望ましい科目	微分積分Ⅰ, 微分積分Ⅱ, 線形代数Ⅰ, 線形代数Ⅱ
備考	教職(教科：数学)選択必修科目。電卓(平方根の計算機能をもつもの)を使用しますので、用意して下さい。
担当教員の実務経験	企業の研究所において、データ科学に基づく投資の技術開発に携わってきた。本講義で扱う内容は、データ科学の方法を学ぶための数学的な基礎となる。統計学そのものを学術的な観点から紹介することと併せて、企業の技術開発の中で、統計の考え方がどのように役立っているかという実務面についても紹介したい。

物理学 Physics

担当教員	露木 孝尚 (304 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		ILC112	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：社会人の教養として必要な物理学						
本科目では教養としての物理学を幅広く学びます。物理学は自然界の根本的な法則を扱う分野であるだけでなく、身の回りの様々な技術に応用されています。変化の激しい現代において、不変の真理である物理学を学ぶことは大切です。また、公務員や教員、民間企業への就職活動の際、教養試験で物理学が出題されることもありますし、ME 技術実力検定試験や臨床工学技士国家試験の基礎固めとしても重要です。						
本科目では写真や動画を積極的に用いることによって、視覚的かつ具体的に物理学を学びます。基本的な内容から扱うため高校で物理学科目を履修していない方でも問題ありません。一方で素粒子や宇宙、未解決問題などの発展的内容も扱うため、最先端の現代物理学にも触れることができます。						
授業には、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム (POLITE)」を利用し、資料の配布や小テストを行います。また POLITE で授業中に質問を受け付けることで、双方向型の授業を行います。また参考書には QR コードが載っており、それをスマートフォン等で読み取ると実験動画や自分の手で動かせるアニメーション等を見ることができます。						
授業における学修の到達目標						
1. 身の回りの様々な自然現象について物理学の概念を用いて理解すること。						
2. 身近な科学技術に応用されている物理学の原理を理解すること。						
3. 社会人の教養として必要な水準の物理学を理解すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する 自分の興味のある分野と物理学に関わりがあるかを調べる POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する				2.0
	授業	物理学の全体像と宇宙の謎				
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。				2.0
2	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく				2.0
	授業	国際単位系、速度				
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。				2.0
3	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく				2.0
	授業	加速度				
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める				2.0
4	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく				2.0
	授業	重力				
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。				2.0
5	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく				2.0
	授業	運動の法則・ばね				
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。				2.0
6	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく				2.0

	授業	天体や人工衛星の運動	
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
7	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく	2.0
	授業	仕事とエネルギー	
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
8	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく	2.0
	授業	宇宙速度	
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
9	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく	2.0
	授業	熱と温度	
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
10	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく	2.0
	授業	波動	
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
11	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく	2.0
	授業	電子と電流	
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
12	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく	2.0
	授業	電気回路	
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
13	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく	2.0
	授業	電力	
	事後学修	課題に取り組む。授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
14	事前学修	POLITE の資料を確認し、疑問をまとめておく	2.0
	授業	原子・素粒子	
	事後学修	授業ノートを復習し、間違えた問題を解きなおす。	2.0
15	事前学修	これまでに解けなかった問題を解きなおし、これまでの疑問点をまとめておく	2.0
	授業	授業内試験とその解説を行う	
	事後学修	解けなかった問題や、疑問が解決できていることを確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：60% ■小テスト：40% □レポート： % □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

- ・試験については第 15 回で解説を行います。
- ・小テストは実施直後に採点結果が表示され、授業内で解説を行います。

教科書	
参考書・Web サイト	新課程 視覚でとらえるフォトサイエンス 物理図録, 数研出版編集部編, 数研出版 SCOA のトリセツ, LEC 東京リーガルマインド編著, 東京リーガルマインド
単位修得が望ましい科目	基礎数学 I
備考	なし

担当教員の実務経験	IT 企業及び国家公務員の経験があり、実社会で役に立つ内容を扱うことに経験を生かしている。

生物学 Biology

担当教員	本間 直幸(119 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		ILC113	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：生物の基本的な構造やはたらきを理解し、生物が社会に果たしてきた役割について考察する						
生物学は、我々人間をはじめ、地球上の多種多様な生物が織りなす生命活動を理解するうえでの基礎となります。また、「生命」に関わる多くの学問領域の基盤になります。						
現在、生物学で得られた知見は、さまざまな技術の進歩と融合し、医療や食糧、そして環境など、現代社会が抱えるさまざまな問題の解決に貢献しています。						
「生物学」の講義では、生物を構成する物質から生態系に至るまで、幅広い視野で生物学全体を俯瞰していきながら生物学の進歩による成果や生物機能をヒントに生まれた技術等についても学修していきます。						
授業における学修の到達目標						
・分子、細胞、組織・器官といった個体を構成する要素から、個体を取り巻く生態系まで、生物のもつ「階層性」を十分に理解したうえで、生物の基本的な性質を学修する						
・生命現象を理解するために必要な生物学の共通事項や基礎事項を理解する。						
・生物学が果たした社会への貢献について理解する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	生物とは何か：生物の条件（定義）と構造を理解する。				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
2	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	生物を構成する物質：生物をつくっている物質にはどのような性質のものがあるか理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
3	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	炭酸同化と窒素同化：生物が生命活動のエネルギーをどのように得ているか理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
4	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	消化・異化：生物が取り入れたエネルギーをどのように使うのか理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
5	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	遺伝子の構造：遺伝情報を伝える物質について理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
6	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	遺伝子の発現：遺伝子情報を伝える仕組みについて理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
7	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	細胞分裂：細胞分裂のメカニズムについて理解する				

	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
8	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	遺伝：遺伝の基本的な法則について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
9	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	神経と恒常性の維持：神経の構造と生体内での情報伝達の仕組みについて理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
10	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	ホルモンと恒常性の維持：ホルモンのはたらき等、内分泌系について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
11	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	免疫：高等動物の身の守り方について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
12	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	免疫とアレルギー反応：アレルギー反応について仕組みを理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
13	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生態系：生物間の関係と生態系について理解する。	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
14	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生物の多様性と環境問題：生物にとっての環境の大切さについて理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
15	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生物機能の工学的応用：生物の形態や機能の工学的応用について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 60% ■小テスト： 20% □レポート： % ■演習課題： 20% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義中に実施した練習問題は、その都度解説を行います。

教科書	書名：大学生のための考えて学ぶ基礎生物学, 著者名：堂本 光子, 出版社：共立出版, 備考：
参考書・Web サイト	「ヒトを理解するための生物学」八杉 貞雄 著（裳華房） 「ワークブック ヒトの生物学」八杉 貞雄 著（裳華房） 「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」和田 勝 著（羊土社） 「大学で学ぶ 身近な生物学」吉村 成弘著（羊土社）
単位修得が望ましい科目	なし
備考	講義時には事後学習のための復習用資料を配布する。各回の小テストはオンラインで必ず実施すること。
担当教員の実務経験	担当教員は生命科学系研究開発企業の学術部門に所属し、生命科学研究を推進する試薬等の開発支援や技術サポート業務に従事した経験を有する。本授業においてはこうした実務経験を生かし、生物学の基礎から生物学の知見が現代社会にどのように貢献してきたのか等について学生が

	興味を持つように分かりやすく授業を展開していく。

化学 Chemistry

担当教員	東野 史裕 (218 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		ILC114	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：生活を支える化学について学ぶ。						
講義は、私達のからだを構成する原子の構造や原子の性質などの基礎化学を学ぶ。医療現場では、医薬品や臨床診断薬などは液体や粉末であることが多く、医療用ガスは気体である。医療従事者は種々の濃度の液体や気体を使用することから、原子量と分子量、モル、濃度、物質の三態、状態図などを学ぶ。これらの知識をもとに体を構成する血液やリンパ液、組織液、体腔液、細胞内液ではさまざまな物質が水に溶けた状態でその機能を担っていることを学ぶ。講義は POLITE を利用して行う。						
授業における学修の到達目標						
1) 基礎的な化学知識の理解とその習得を目標とする。						
2) 化学の基礎的知識を用いた応用レベルに興味を持ち理解につながることを目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、当科目の講義の内容を把握する。また、第 1 章のテキストをあらかじめ読み、原子構造について予習しておく。				2.0
	授業	第 1 章：ガイダンスの実施。原子構造の理解と、同位体、放射性同位体などについて学習し、放射能と放射線について理解を深める。				
	事後学修	POLITE の第 1 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために第 1 章末の演習問題を解答する。				2.0
2	事前学修	第 2 章のテキストをあらかじめ読み、原子の電子構造について予習しておく。				2.0
	授業	第 2 章：原子の電子構造、電子殻、電子配置、最外殻と価電子などについて学習する。				
	事後学修	POLITE の第 2 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために章末の演習問題を解答する。				2.0
3	事前学修	第 3 章のテキストをあらかじめ読み、周期表と元素について予習しておく。				2.0
	授業	第 3 章：電子配置と周期表、遷移元素、周期性などについて学習する。				
	事後学修	POLITE の第 3 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために章末の演習問題を復習する。				2.0
4	事前学修	第 4 章のテキストをあらかじめ読み、化学結合と分子について予習しておく。				2.0
	授業	第 4 章：イオン結合、共有結合などについて学習する。				
	事後学修	POLITE の第 4 回目の学習資料を復習する。				2.0
5	事前学修	第 4 章の続きのテキストをあらかじめ読み、化学結合と分子について予習しておく。				2.0
	授業	第 4 章：結合の極性、分子間力などについて学習する。				
	事後学修	POLITE の第 5 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために章末の演習問題を復習する。				2.0
6	事前学修	第 5 章のテキストをあらかじめ読み、物質の量と状態について予習しておく。				2.0
	授業	第 5 章：原子量と分子量、モル、濃度、物質の三態などについて学習する。				
	事後学修	POLITE の第 6 回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。				2.0
7	事前学修	第 6 章のテキストをあらかじめ読み、溶液の化学について予習しておく。				2.0
	授業	第 6 章：溶解と溶媒和、溶解度、浸透圧、コロイドなどについて学習する。				
	事後学修	POLITE の第 7 回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。				2.0

8	事前学修	第7章のテキストをあらかじめ読み、酸・塩基と酸化・還元について予習しておく。	2.0
	授業	第7章：酸・塩基の定義、中和などについて学習する。	
	事後学修	POLITE の第8回目の学習資料を復習する。	2.0
9	事前学修	第7章のテキストをあらかじめ読み、酸・塩基と酸化・還元について予習しておく。	2.0
	授業	第7章：水溶液の pH、酸化・還元などについて学習する。	
	事後学修	POLITE の第9回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。	2.0
10	事前学修	基礎化学1章から7章の重要ポイントについて教科書と POLITE の内容を確認し、覚える知識を確認しておく。	2.0
	授業	基礎化学の知識について確認のための講義を行う。	
	事後学修	POLITE の第10回目の学習資料を復習する。	2.0
11	事前学修	第8章「有機化合物の構造」のテキストをあらかじめ読み、共有結合、アルカンの命名法の基本を確認する。アルキル基と置換基の種類を読み、教科書に書かれた化合物の名称を予習しておく。	2.0
	授業	第8章：有機化合物の種類と名称、性質、有機化合物の構造の標記を学習する。	
	事後学修	POLITE の第11回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。	2.0
12	事前学修	第12章のテキストをあらかじめ読み、生体膜について予習しておく。	2.0
	授業	第12章：脂質、生体膜、細胞膜の機能などについて学習する。	
	事後学修	POLITE の第12回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。	2.0
13	事前学修	第13章のテキストをあらかじめ読み、アミノ酸の種類、構造、化学的性質、タンパク質の立体構造について予習しておく。	2.0
	授業	第13章：アミノ酸の種類と構造、化学的性質などについて学習する。	
	事後学修	POLITE の第13回目の学習資料を復習する。	2.0
14	事前学修	第13章のテキストをあらかじめ読み、タンパク質の種類と機能について予習しておく。	2.0
	授業	第13章：酵素をはじめとする種々のタンパク質の機能などについて学習する。	
	事後学修	POLITE の第14回目の学習資料を復習する。課題演習問題の復習をし、理解を深める。	2.0
15	事前学修	これまで授業で行った内容のまとめを確認する。	2.0
	授業	これまで学習した全体のないようについてまとめの講義を行い試験範囲を確認する。	
	事後学修	講義内容をまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 80% ■小テスト（出席）： 20% □レポート：0% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストを実施した後、試験問題について解答解説を行う。また単位認定試験にも小テストから出題する。

教科書	書名：コ・メディカル化学 医療・看護系のための基礎化学, 著者名：齊藤勝裕ほか, 出版社：裳華房, 備考：
参考書・Web サイト	理工系学生のための基礎化学, 著者名：田島正弘・熊沢 隆・吉田康彦共著編, 出版社：培風館
単位修得が望ましい科目	生化学
備考	臨床工学技士国家試験受験には必須科目
担当教員の実務経験	担当教員はこれまで、各種化学機器分析による分子量決定や、画像解析などの実務に従事した。これらの経験を生かし、われわれの身近な医療技術・健康・食品に利用されている化学知識や技術についてわかりやすく講義する。

健康とスポーツ概論Ⅰ Introduction to Health and Sports 1

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室), 織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	体育実技	○	ILC115	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(4),(6)				
授業概要						
テーマ：人々が抱える健康における課題と保持増進の実践方法						
本講義は、健康とスポーツの基本概念から始まり、生涯を通じての健康維持とスポーツの実践、そしてスポーツデータサイエンスの応用に関して学習する。全 15 回にわたり、講義と実技の両方を通じて、学生に健康とスポーツの重要性を深く理解してもらう。						
前半部分では、健康とスポーツの関連性、身体活動、生涯スポーツの実践、予防医学、高齢者とスポーツ、そして健康とスポーツの未来に焦点を当てる。						
後半部分では、スポーツデータサイエンスの概論から始まり、心拍数と運動強度、身体活動量の計測、体力測定、スポーツパフォーマンスのデータ分析、データビジュアライゼーション、そしてスポーツデータサイエンスの応用と展望に至るまで、データを活用したスポーツ科学の最前線に触れる。						
授業における学修の到達目標						
・健康増進におけるスポーツの役割を理解する						
・年齢やライフステージに応じた運動プログラムの重要性を認識し、自身の生活に適用する方法を理解する						
・スポーツ科学におけるデータの収集、分析、解釈の基本技術を習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	健康とは何か、スポーツの定義に関する基本文献の読解				2
	授業	【講義】生涯スポーツの重要性についての概論				
	事後学修	健康増進のためのスポーツの役割に関するレポート作成				2
2	事前学修	身体活動の基本ガイドラインを読む				2
	授業	【講義】身体活動が健康に及ぼす影響				
	事後学修	自身の身体活動量を記録する				2
3	事前学修	生涯を通じて運動習慣を形成し維持するための戦略に関する文献を読む				2
	授業	【講義】運動習慣の形成				
	事後学修	自身の運動習慣の形成と維持に関する計画の立案				2
4	事前学修	スポーツが個人の社会的結びつきに及ぼす影響に関する基本文献を読む				2
	授業	【講義】チームスポーツと社会性の向上				
	事後学修	運動がいかにして社会的結びつきを強化するかについての考察をまとめる				2
5	事前学修	生涯を通じたスポーツ参加の利点に関する記事を読む				2
	授業	【講義】年代別のスポーツ活動				
	事後学修	自身に適した生涯スポーツの選定と理由の説明				2
6	事前学修	予防医学の基本概念の理解に関する文献を読む				2
	授業	【講義】スポーツによる健康寿命の延伸				
	事後学修	疾病予防に役立つスポーツ活動に関するレポート作成				2

7	事前学修	高齢者の身体機能と運動能力に関する文献を読む	2
	授業	【講義】 高齢者向けの運動プログラム	
	事後学修	高齢者を対象としたスポーツプログラムの提案	2
8	事前学修	テクノロジーが健康とスポーツに及ぼす影響に関する記事を読む	2
	授業	【講義】 将来のスポーツ科学の動向	
	事後学修	スポーツとテクノロジーの融合に関するレポート作成	2
9	事前学修	データサイエンスの基礎知識に関する文献を読む	2
	授業	【スポーツ実技】 スポーツデータサイエンスの基本概念	
	事後学修	スポーツデータの収集方法に関するレポート作成	2
10	事前学修	運動強度の測定方法に関する予習	2
	授業	【スポーツ実技】 心拍計を使用した実測	
	事後学修	スポーツ実践を通して自身の運動中の心拍データを分析する	2
11	事前学修	身体活動量計の原理と活用法についての文献を読む	2
	授業	【スポーツ実技】 スポーツ実践を通して身体活動量を推定する	
	事後学修	自身の身体活動量の記録と分析を行う	2
12	事前学修	体力測定の方法と重要性に関する文献を読む	2
	授業	【スポーツ実技】 各種体力測定機器を使用したデータの収集と解析	
	事後学修	スポーツ実践を通して自身の体力測定データの解析と評価を行う	2
13	事前学修	スポーツパフォーマンス分析に関する文献を読む	2
	授業	【スポーツ実技】 スポーツパフォーマンスデータの収集方法	
	事後学修	スポーツ実践を通してスポーツのパフォーマンスデータ分析	2
14	事前学修	データの視覚化の手法に関する文献を読む	2
	授業	【スポーツ実技】 スポーツデータの視覚化	
	事後学修	スポーツ実践を通して自身のスポーツデータを視覚化する	2
15	事前学修	スポーツデータサイエンスの現状と将来性に関する論文の調査	2
	授業	【スポーツ実技】 スポーツデータサイエンスの未来	
	事後学修	自身の体力に関するデータをもとにパフォーマンスデータをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

・定期試験，追試験，再試験は実施しない。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された課題やレポートに対しては，そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・本講義は第8回までを講義形式，第9回目以降は実技形式で行う。 ・公認欠席，特別欠席等は必ず事前の届け出を行うこと。 ・受講希望者が過剰の場合は人数の調整をおこなうこともある。 ・後半の実技セッションでは，履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること（ジーンズやチノパンなど，伸縮性の乏しいものはけが予防の観点から受講を許可しない）

担当教員の実務経験	2014 年から 2016 年にかけて青森県スポーツ科学センターに勤務し、スポーツ科学および健康分野における理論的知識と実践的技術を活用して、一般市民からアスリートに至るまで多様な層への支援を実施した。

健康とスポーツ概論Ⅱ Introduction to Health and Sports 2

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室), 織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	体育実技	○	ILC116	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(4),(6)				
授業概要						
テーマ：アスリートの競技力向上に必要なトレーニングと実践方法						
本講義は筋力、パワー、体力向上などに関連するトレーニング理論を深く理解させるとともに、バドミントン、卓球、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボールといったスポーツ実技を通じてスポーツデータサイエンスの基本概念を学ばせることを目的とする講義である。この講義は全 15 回にわたり展開され、前半 8 回では主にトレーニング理論と体力向上に焦点を当て、筋力とパワーの基礎、トレーニングの原則、体力の要素とその評価、筋力トレーニング、パワートレーニング、持久力トレーニング、柔軟性の向上、そしてトレーニングプログラムの設計と調整について深掘りする。後半 7 回は、具体的なスポーツ実技形式の講義に移行し、バドミントン、卓球、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボールを取り上げる。これらのセッションでは、実際のスポーツのプレイを通じて、学生がスポーツデータサイエンスの概念を理解し、運動パフォーマンスの分析に必要なデータ収集と解析技術を学ぶ。各スポーツ実技では、技術の向上はもちろん、チームワーク、戦略立案、そしてデータを用いたパフォーマンスの評価と改善が重視される。						
授業における学修の到達目標						
・トレーニング理論に関する深い理解を獲得し、筋力、パワー、体力向上のための具体的な方法を計画し、実施できる能力を身につける ・バドミントン、卓球、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボールなどのスポーツ実技において、スポーツデータサイエンスの基本概念を理解し、データ収集と分析を通じて運動パフォーマンスを評価し改善する技術を習得する ・スポーツ実践におけるチームワークとコミュニケーション能力を高め、効果的な戦略立案とパフォーマンス向上のための話し合いを実現できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	筋肉の構造と機能に関する文献を読む				2
	授業	【講義】筋力とパワー				
	事後学修	筋力トレーニングの基本原則に関するレポート作成				2
2	事前学修	運動生理学におけるトレーニングの原則に関する文献を読む				2
	授業	【講義】トレーニングの原則とその応用				
	事後学修	個人のトレーニング計画の例を作成、原則の適用を示す				2
3	事前学修	体力の各要素に関する文献を読む				2
	授業	【講義】各体力要素の重要性				
	事後学修	自己の体力レベルを評価し、強化が必要な領域を特定する課題				2
4	事前学修	筋力トレーニングの種類に関する文献を読む				2
	授業	【講義】各トレーニング方法の特徴				
	事後学修	自身に適した筋力トレーニングプログラムの計画				2
5	事前学修	パワーを向上させるトレーニング方法に関する文献を読む				2
	授業	【講義】具体的なトレーニング技術とプログラム				
	事後学修	パワー向上トレーニングの計画と実施				2

6	事前学修	持久力トレーニングに関する文献を読む	2
	授業	【講義】持久力の向上に有効なトレーニング方法	
	事後学修	個人の持久力トレーニング計画の作成	2
7	事前学修	柔軟性トレーニングに関する文献を読む	2
	授業	【講義】柔軟性を向上させるためのストレッチング	
	事後学修	柔軟性トレーニングの立案	2
8	事前学修	効果的なトレーニングプログラムに関する文献を読む	2
	授業	【講義】目標設定とプログラムの周期性	
	事後学修	個別のニーズに合わせたトレーニングプログラムの作成とその理由の説明	2
9	事前学修	バドミントンの基本ルールを予習する	2
	授業	【スポーツ実技】ラリー、サーブ、フットワークの基礎練習およびゲーム	
	事後学修	自身のバドミントンプレイのビデオ分析	2
10	事前学修	バドミントンの基本ルールを予習する	2
	授業	【スポーツ実技】試合中のポイント獲得パターンのデータ分析	
	事後学修	自身のバドミントンプレイのビデオ分析	2
11	事前学修	卓球の基本ルールを予習する	2
	授業	【スポーツ実技】ドライブ、サービスの基礎練習およびゲーム	
	事後学修	試合の戦術分析レポート作成	2
12	事前学修	卓球の基本ルールを予習する	2
	授業	【スポーツ実技】試合データを用いた戦術分析	
	事後学修	試合の戦術分析レポート作成	2
13	事前学修	スポンジテニスの基本ルールを予習する	2
	授業	【スポーツ実技】ボレー、ストローク、ダブルス戦術、試合中のポイントパターンの分析	
	事後学修	パートナーとの連携向上のための作戦の立案	2
14	事前学修	バレーボールの基本ルールを予習する	2
	授業	【スポーツ実技】サーブ、レシーブ、アタックの技術練習	
	事後学修	自チームの試合分析と強化策の提案	2
15	事前学修	バスケットボールの基本ルールを予習する	2
	授業	【スポーツ実技】ドリブル、シュート、パスの基本練習およびゲーム	
	事後学修	個人及びチームのパフォーマンス改善のための分析レポートの作成	2
成績評価の方法およびその基準			
・定期試験，追試験，再試験は実施しない。			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
提出された課題やレポートに対しては、そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて指示をする	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		・本講義は第 8 回までを講義形式，第 9 回目以降は実技形式で行う。	

	・公認欠席，特別欠席等は必ず事前の届け出を行うこと。 ・受講希望者が過多の場合は人数の調整をおこなうこともある。 ・後半の実技セッションでは，履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること（ジーンズやチノパンなど，伸縮性の乏しいものはけが予防の観点から受講を許可しない）
担当教員の実務経験	2014 年から 2016 年にかけて青森県スポーツ科学センターに勤務し，スポーツ科学および健康分野における理論的知識と実践的技術を活用して，一般市民からアスリートに至るまで多様な層への支援を実施した。

スポーツ実技Ⅰ Sports Practical 1

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室), 織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	体育実技	○	IPC101	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー		(3),(5)				
授業概要						
テーマ：スポーツ体験を通じた他者との共生と運動習慣の形成						
現代社会においては日常での健康や体力の維持，増進のために多くの時間や費用，努力を要す。また，平均寿命の伸び，ストレス源の増加など，いっそう生涯スポーツの重要性が増大している。授業では，比較的身近な，かつ，中・高校の体育ではあまり深く触れることのなかった種目を通じて，これらについて若いこの時期に考える機会を持つ。						
さらに，スポーツ活動を通じて団体生活を送る上での基本的なルールやマナーの大切さを学び，この種目に主体的に関わっていくことができるようになる事を目指す。講義，および実習中に触れたルールや練習方法，プレイ等についてはノートあるいはレポートの提出を通じて各自の理解度を確認する。						
授業における学修の到達目標						
バドミントンと卓球は生涯スポーツを代表するスポーツ種目であるが，そのルールの詳細や練習方法等については周知されていないことが多い。そこで，受講者全員が相互にコミュニケーションをとり協力しながらルールの理解や技能の向上につとめる。加えて，審判やゲーム運営等にも積極的に携われるようになることを目指す。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	卓球のルール・マナーを理解しておく。				3.0
	授業	【卓球】 ガイダンス，ルールについての解説				
	事後学修	連続				0.0
2	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 用具の扱いについて，得点システムについて				
	事後学修	連続				0.0
3	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 基礎的な打球技術の練習				
	事後学修	連続				0.0
4	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 基礎的な技術（サーブ，フォアハンド，バックハンド）				
	事後学修	連続				0.0
5	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦（1）				
	事後学修	学習内容をまとめて自身の課題を抽出し，その解決方法を考察する。				2.0
6	事前学修	シングルス・ダブルスのルールと特性を理解しておく。				3.0

	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦 (2)	
	事後学修	連続	0.0
7	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦 (3)	
	事後学修	連続	0.0
8	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (1)	
	事後学修	連続	0.0
9	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (2)	
	事後学修	連続	0.0
10	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (3)	
	事後学修	シングルス・ダブルスゲームでのより効果的な戦術，自身のプレー動画を視聴してその技術的課題をまとめる	2.0
11	事前学修	バドミントンに関するルール・マナーを調べる，試合動画を視聴する．	3.0
	授業	【バドミントン】 基礎的な打球技術，審判の役割と得点システム	
	事後学修	連続	0.0
12	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム (1)	
	事後学修	連続	0.0
13	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム (2)	
	事後学修	連続	0.0
14	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム (1)	
	事後学修	連続	0.0
15	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム (2)	
	事後学修	授業全体を通して振り返り，気づいたことや学んだことをまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
・ 定期試験，追試験，再試験は実施しない．			

・次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 □試験： % □小テスト：0% ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[ゲーム成績，スコア，および実習への取り組み]: 90%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
提出された課題やレポートに対しては、そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・集中講義として実施するため，講義を遅刻・欠席しないこと。 ・施設と用具の関係上，定員を 20-24 名程度とする ・種目実施に十分な人数がいけない場合には，他の種目に振り替えて実施する場合がある。 ・履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること
担当教員の実務経験	2014 年から 2016 年にかけて青森県スポーツ科学センターに勤務し，スポーツ科学および健康分野における理論的知識と実践的技術を活用して，一般市民からアスリートに至るまで多様な層への支援を実施した。

スポーツ実技Ⅱ Sports Practical 2

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室), 織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	体育実技	○	IPC102	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	冬期集中	
対応するディプロマポリシー		(3),(5)				
授業概要						
テーマ：テーマ：スポーツ体験を通じた他者との共生と運動習慣の形成						
現代社会においては日常での健康や体力の維持，増進のために多くの時間や費用，努力を要す。また，平均寿命の伸び，ストレス源の増加など，いっそう生涯スポーツの重要性が増大している。授業では，比較的身近な，かつ，中・高校の体育ではあまり深く触れることのなかった種目を通じて，これらについて若いこの時期に考える機会を持つ。						
さらに，スポーツ活動を通じて団体生活を送る上での基本的なルールやマナーの大切さを学び，この種目に主体的に関わっていくことができるようになる事を目指す。講義，および実習中に触れたルールや練習方法，プレイ等についてはノートあるいはレポートの提出を通じて各自の理解度を確認する。						
授業における学修の到達目標						
卓球とバドミントンは，なじみはあってもルールの詳細や練習方法等についてはあまり知られていないことが多い。そこで，受講者全員が相互にコミュニケーションをとり協力しながらルールの理解や技能の向上につとめる。加えて，審判やゲーム運営等にも積極的に携われるようになることを目指す。講義ノート，レポートを作成する過程では，この科目で学んだことを系統立てて理解し，説明できるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	卓球のルール・マナーを理解しておく				3.0
	授業	【卓球】 ガイダンス，ルールについての解説				
	事後学修	連続				0.0
2	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 用具の扱いについて，得点システムについて				
	事後学修	連続				0.0
3	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 基礎的な打球技術の練習（フォア，バック）				
	事後学修	連続				0.0
4	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 基礎的な技術（サーブ，レシーブ）				
	事後学修	連続				0.0
5	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦（1）				
	事後学修	学習内容をまとめて自身の課題を抽出し，その解決方法を考察する				2.0

6	事前学修	シングルス・ダブルスのルールと特性を理解しておく	3.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦 (2)	
	事後学修	連続	0.0
7	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦 (3)	
	事後学修	連続	0.0
8	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (1)	
	事後学修	連続	0.0
9	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (2)	
	事後学修	連続	0.0
10	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (3)	
	事後学修	シングルス・ダブルスゲームでのより効果的な戦術，自身のプレー動画を視聴してその技術的課題をまとめる	2.0
11	事前学修	バドミントンに関するルール・マナーを調べる，試合動画を視聴する。	3.0
	授業	【バドミントン】 基礎的な打球技術，審判の役割と得点システム	
	事後学修	連続	0.0
12	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム (1)	
	事後学修	連続	0.0
13	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム (2)	
	事後学修	連続	0.0
14	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム (1)	
	事後学修	連続	0.0
15	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム (2)	
	事後学修	授業全体を通して振り返り，気づいたことや学んだことをまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			

・定期試験，追試験，再試験は実施しない。 ・集中講義として実施するため，講義を遅刻・欠席しないこと。 ・次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 □試験： % □小テスト：% ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[ゲーム成績，スコア，および実習への取り組み]: 90%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
提出された課題やレポートに対しては，そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・集中講義として実施するため，講義を遅刻・欠席しないこと。 ・施設と用具の関係上，定員を 20-24 名程度とする ・種目実施に十分な人数がいけない場合には，他の種目に振り替えて実施する場合がある。 ・履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること
担当教員の実務経験	2014 年から 2016 年にかけて青森県スポーツ科学センターに勤務し，スポーツ科学および健康分野における理論的知識と実践的技術を活用して，一般市民からアスリートに至るまで多様な層への支援を実施した。

海外語学・文化研修（中国大連編） Overseas Language and Culture Course (Dalian China)

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング	
		1 単位	実験, 実習			IPC103	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO	
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中		
対応するディプロマポリシー		(2),(3)					
授業概要							
テーマ：現代中国の言語と文化及び習慣について学びます。 本学と学士課程学生教育に関する共同プロジェクト実施協定を結んでいる大連東軟信息学院で,夏期休暇期間に 2 週間程度開催される中国語・中国文化研修（「大連東軟信息学院短期留学プログラム」）に参加する授業です。 具体的な実施計画案及び参加資格については,5 月頃から案内します。 なお,当該科目の単位は,現地に行って研修した学生にしか認定しないので,履修届は年度始めではなく,研修が決定した後,指定された期間内に提出することになります。							
授業における学修の到達目標							
1. 大連での実践的な中国語の習得を通じて,日常生活における中国語を理解できる力を養います。 2. 大連での異文化体験や研修旅行を通じて,中国の地理や文化に関する基礎知識を習得します。							
授業計画							
回数	授業、事前・事後学修						時間
1	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。					0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（キャンパス見学と大連市内観光）に参加します。					
	事後学修	第 1 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容（大連市内観光）を復習します。					0.5
2	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。					0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と大連現代博物館見学）に参加します。					
	事後学修	第 2 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。					0.5
3	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。					0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と IT 企業見学）に参加します。					
	事後学修	第 3 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。					0.5
4	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。					0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（日露戦争遺跡・旅順見学）に参加します。					
	事後学修	第 4 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。					0.5
5	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。					0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国人社員との交流会）に参加します。					
	事後学修	第 5 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。					0.5
6	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。					0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国人学生との交流会）に参加します。					
	事後学修	第 6 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。					0.5
7	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。					0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国市場の発展現状勉強会）に参加します。					
	事後学修	第 7 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。					0.5

8	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と太極拳：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第8回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
9	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と餃子作り：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第9回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
10	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国茶試飲会：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第10回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
11	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と京劇観賞：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第11回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
12	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国の若者文化勉強会）に参加します。	
	事後学修	第12回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
13	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（修了式など）に参加します。	
	事後学修	第13回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
14	事前学修	これまでの「大連東軟信息学院短期留学プログラム」内容をまとめます。	0.5
	授業	短期留学報告書（短期留学日記）の整理と提出（帰国後も可）します。	
	事後学修	短期留学報告書提出後、短期留学の成果と課題をまとめます。	0.5
15	事前学修	短期留学中の課題を調べておきます。	0.5
	授業	短期留学報告書（短期留学日記）の評価を行います。	
	事後学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」をまとめます。	0.5

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。

■現地の研修成績：70% ■レポート（研修日記）：20% ■現地の研修態度（積極性など）：10%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート（研修日記など）提出後、修正が必要な場合、メールで連絡します。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

海外事情（中国編） Global Studies (China)

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	実験, 実習		IPC105	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー		(2),(3)				
授業概要						
テーマ： 南京大学での中国語会話能力の養成と異文化理解の体得 この科目は、実際に学生各自が中国の南京大学における語学研修に参加し、また日帰り研修旅行を通して、彼らが実践的な中国語を体得し、かつ現代中国事情と中国文化に対する理解も一層深めることを目的としている。また、学生各自が異文化を理解する能力を向上させると同時に、国際的視野と見識も確実に養成してゆくねらいもある。 本年度も、本学と学術交流協定を結んでいる南京大学で、夏季休暇期間に 2 週間の中国語研修を実施する予定である。具体的な実施計画案及び参加資格については、4 月上旬頃から、学内に掲示するので、参加希望者は、必ず担当教員の正式な承諾を得てから、各自の履修届けを提出すること。 なお、研修の参加者には、人数制限が設けられているので、場合によっては、一部の学生には、当該科目の履修が許可されないこともある。また、中国語研修及び日帰り研修旅行の日程などは、様々な事情により、計画が変更される可能性もあるので、十分に注意して欲しい。						
授業における学修の到達目標						
現地における実践的な中国語の習得及び日帰り研修旅行などを通して、学生各自が現代中国事情や中国文化に対する理解を深めてゆくと同時に、彼らの異文化理解能力と国際的視野及び見識なども大いに養成させたい。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	中国語研修の日程や活動などを確認して、教科書を準備すること。				2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説				
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。				2
2	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。				2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説				
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。				2
3	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。				2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説				
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。				2
4	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。				2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説				
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。				2
5	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。				2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説				
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。				2
6	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。				2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説				
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。				2
7	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。				2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説				

	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
8	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
9	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
10	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
11	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
12	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
13	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
14	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
15	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■事前授業：20%

■レポート（日記形式）：30%（帰国後提出）

■研修先の成績：30%

■帰国報告会でのプレゼンテーション：20%

注：レポート（日記形式）の提出と帰国報告会の発表は必須

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート（研修日記など）提出後、修正が必要な場合、メールで連絡します。

教科書	
参考書・Web サイト	辞書は、『プログレッシブ中国語辞典』（小学館）あるいは『クラウン中日辞典』（三省堂）を推薦するが、他の中国語辞典でも構わない。必ず、現地に一冊は持参すること。
単位修得が望ましい科目	「中国語基礎Ⅰ」2023年度入学生までは、「中国語ⅠA」になります。
備考	研修で使用する教科書は、南京大学より配付される。
担当教員の実務経験	なし

海外事情（米国編） ※2026 年度休講 Global Studies (America)

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	実験, 実習			IPC104
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー		(2),(3)				
授業概要						
・海外事情アメリカ編は、英語圏であるアメリカにおいて、習得した英語の基礎力をさらに実践の場で活用するための短期集中研修です。そのためには、英語力だけでなく、アメリカの地理や文化などの背景知識を確認する必要があります。また、アメリカの学生や市民と交流するためには、日本の地理や文化についての基礎知識も確認する必要があります。（そのため、2～4 回の事前授業が予定されている。） ・具体的な計画は 4 月か 5 月に掲示され、受講希望者は通常の登録期間とは別に、掲示されたスケジュールに従って講師の承認を得て受講登録手続きを行う必要がある。 ・現地授業（ショアライン・コミュニティ・カレッジ）では、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを行いますので、頑張ってください！授業は通常午前中に行われ、午後は文化イベントやツアーがあります。 ・海外事情アメリカ編は、いくつかの IT スタディ／ワークショップを行います。大手 IT 企業（マイクロソフトなど）への訪問、プログラミング・ワークショップへの参加、IT メディア／音楽研究所への訪問などが含まれます。 ----- ----> 事前授業以外、本学での海外事情報告会(12 月)もあります。どちらも必須です。 ----> ホスト学校（留学先）の都合で、授業計画が変わる可能性があります。 ----> 円安と旅行費の高騰により、海外事情（アメリカ編）はこれまでの 3 週間ではなく、およそ 2 週間に短縮される見込みです。						

国際コラボレーション A International Collaborative Studies (ICS) A

担当教員	隼田 尚彦 他(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	実験, 実習	○		IPC106
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：タイの学生と一緒に、社会課題を解決する ICT 作品やビジネスプランを共同制作し、グローバル人材としての資質を身につける						
この科目は、タイ王国・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校（RMUTT）への短期海外留学を含む国際交流科目です。履修者は、学内で行われる各種 ICT コンテスト（WEB デザイン、ショートフィルム、コンピュータプログラム）受賞作品の制作者およびビジネス分野などに適した学力・適性をもつ学生から選抜されます。学内コンテスト受賞作品は本学と RMUTT との国際コンテストへのエントリー作品とされ、優秀な作品は表彰されます。						
国際コンテストとは別に、履修者は、学内で事前に行われる講義・演習を受講したのち、本学と RMUTT を会場として行われる一連のワークショップに参加します。ワークショップでは、RMUTT の学生とグループをつくり、共同で作品を作したり、調査・分析結果を纏めたりします。履修者選抜の条件などは、以下の備考を参照してください。						
この授業は、与えられた課題を解決する方策を学生が考え、グループで ICT 作品を完成させたり、調査・分析結果を纏めたりする PBL 形式で行われます。英語でのディスカッションが非常に重要となるため、ある程度の英語力が必要となります。						
授業における学修の到達目標						
1.現実社会の課題を解決するための調査・分析スキルを向上させる						
2.ICT 作品制作技術などの専門的スキルを向上させる。						
3.グローバルコミュニケーション力を向上させる。 （グローバルコミュニケーション言語は英語とする。）						
4.相互の文化を理解する。						
5.国際的な人間関係を構築する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE の事前配布資料と、講義概要をよく読み、授業の内容を把握し、ノートにまとめておく。				2.0
	授業	科目の趣旨，タイ王国の地理，歴史，文化，言語。 タイ短期留学中の取材場所の調査計画。 チーム編成				
	事後学修	タイ短期留学中の取材場所を調査する。 課題に関する事前情報を調べる。				2.0
2	事前学修	課題に関する事前情報を共有するための準備を行う。 英語でのバックグラウンド紹介を準備する。				2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 1 （バックグラウンド紹介プレゼン指導を受ける。）				
	事後学修	課題に関する事前情報を調べ，タイ短期留学中の取材場所を調査する。				2.0
3	事前学修	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成に着手する。				2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 1 （国際コンテスト用に学内コンテスト受賞作品を英語化する。）				
	事後学修	学内コンテスト受賞作品を英語化する。				2.0

		課題に関する事前情報を調べ、タイ短期留学中の取材場所を調査する。	
4	事前学修	タイ現地取材の調査結果報告を準備し、ノートにまとめておく。	2.0
	授業	海外渡航指導。 タイ現地取材の調査結果報告。	
	事後学修	学内コンテスト受賞作品を英語化する。	2.0
5	事前学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを準備する。	2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 2 (英語化した国際コンテスト用作品の英語コンテンツの添削指導を受ける。)	
	事後学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを完成し、作品を提出する。	2.0
6	事前学修	課題に関する事前情報を深掘りする	2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 2 オンラインでバックグラウンド紹介、アイスブレイクなどを行う	
	事後学修	課題に関する事前情報を深掘りする	2.0
7	事前学修	課題に関する事前情報共有プレゼンを練習する。	2.0
	授業	ワークショップⅠ (HIU) アイスブレイク、英語コミュニケーション指導、チーム編成。	
	事後学修	チームごとに、チーム内での意思疎通の確認を行う。	2.0
8	事前学修	チームごとに課題に関する情報を共有しておく。	2.0
	授業	ワークショップⅠ (HIU) 講義 (グループワークの方法など)、課題に関する調査 (チーム単位)。	
	事後学修	作品制作のスケジュールを確認する。	2.0
9	事前学修	作品制作のための現地取材先を確認し、事前調査しておく。	2.0
	授業	ワークショップⅠ (HIU) テーマに関わる調査地を訪問し、課題を発見する。 作品制作のために、現地取材を行う。(道内)	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
10	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
	授業	ワークショップⅠ (HIU) チーム単位で作品制作を進める。	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い、チーム間で共有する。	2.0
11	事前学修	ワークショップⅠで制作を進めてきた作品の仕上がりを確認し、ワークショップⅡでのスケジュールを確認する。	2.0
	授業	ワークショップⅡ (タイ・RMUTT) 作品制作のために、現地取材を行う。(RMUTT キャンパス内外、バンコク、アユタヤ等)	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
12	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
	授業	ワークショップⅡ (タイ・RMUTT) チーム単位で作品制作を進める。	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い、チーム間で共有する。	2.0
13	事前学修	作品制作のスケジュールを確認する。	2.0
	授業	ワークショップⅡ (タイ・RMUTT) チーム単位で作品制作を進める。	

	事後学修	作品報告会の PowerPoint 作成等を行う。	2.0
	事前学修	作品報告会での英語プレゼンの練習を行う。	2.0
14	授業	ワークショップⅡ（タイ・RMUTT） ワークショップで制作した作品の報告会で、チーム単位で英語でのプレゼンを行う。 国際コンテストの表彰式に参加する。	
	事後学修	ワークショップⅠ・Ⅱ全体を振り返り、総括を行う。	2.0
	事前学修	学内報告会及び蒼天祭展示の準備を行う。	2.0
15	授業	ワークショップ作品の学内報告会及び蒼天祭展示	
	事後学修	学内報告会の振り返りを行う。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：15% ■演習課題・グループワーク：70%

■その他[プレゼンテーション] 15%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

- ・コンテスト応募作品の受賞結果は、表彰式で公表される。
- ・英文コンテンツ作成、英語プレゼン資料作成などは、提出時に添削指導する。
- ・ワークショップで制作した作品については、ワークショップ最終日のプレゼンテーションで講評される。

教科書	
参考書・Web サイト	参考書については、事前授業やワークショップで必要に応じて紹介します。
単位修得が望ましい科目	Web 技術関係科目、映像制作関係科目、プログラミング関係科目、ビジネス関係科目、英語科目、デザインシンキング
備考	履修者は、学内で行われる WEB デザインコンテスト、ショートフィルムコンテスト、コンピュータプログラミングコンテスト受賞作品制作者およびビジネス分野などに適した学力・適性をもつ学生の中から、GPA（総合成績及び英語）・プロジェクト対応力等を考慮して選抜します。ただし、1年生については、高校までの成績を考慮して選抜します。なお、海外渡航の旅費等の一部は補助しますが、現地活動費を含めて費用の一部は自己負担してもらいます。
担当教員の実務経験	安田教授は、企業でデザイナーとして勤務した経験を生かして、ICT 作品制作の指導にあたります。 島田准教授は、企業でクリエイターとして勤務し映像制作を手がけてきた経験を生かして、映像作品制作指導にあたります。 隼田教授は、日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験を生かして、国際的なコミュニケーションの指導に当たります。

国際コラボレーション B International Collaborative Studies (ICS) B

担当教員	隼田 尚彦 他(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	実験, 実習	○		IPC107
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：タイの学生と一緒に、社会課題を解決する ICT 作品やビジネスプランを共同制作し、グローバル人材としての資質を身につける						
この科目は、タイ王国・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校（RMUTT）への短期海外留学を含む国際交流科目です。履修者は、学内で行われる各種 ICT コンテスト（WEB デザイン、ショートフィルム、コンピュータプログラム）受賞作品の制作者およびビジネス分野などに適した学力・適性をもつ学生から選抜されます。学内コンテスト受賞作品は本学と RMUTT との国際コンテストへのエントリー作品とされ、優秀な作品は表彰されます。						
国際コンテストとは別に、履修者は、学内で事前に行われる講義・演習を受講したのち、本学と RMUTT を会場として行われる一連のワークショップに参加します。ワークショップでは、RMUTT の学生とグループをつくり、共同で作品を作したり、調査・分析結果を纏めたりします。履修者選抜の条件などは、以下の備考を参照してください。						
この授業は、与えられた課題を解決する方策を学生が考え、グループで ICT 作品を完成させたり、調査・分析結果を纏めたりする PBL 形式で行われます。英語でのディスカッションが非常に重要となるため、ある程度の英語力が必要となります。						
授業における学修の到達目標						
1.現実社会の課題を解決するための調査・分析スキルを向上させる						
2.ICT 作品制作技術などの専門的スキルを向上させる。						
3.グローバルコミュニケーション力を向上させる。 （グローバルコミュニケーション言語は英語とする。）						
4.相互の文化を理解する。						
5.国際的な人間関係を構築する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE の事前配布資料と、講義概要をよく読み、授業の内容を把握、ノートにまとめておく。				2.0
	授業	科目の趣旨，タイ王国の地理，歴史，文化，言語。 タイ短期留学中の取材場所の調査計画。 チーム編成。				
	事後学修	タイ短期留学中の取材場所を調査する。 課題に関する事前情報を調べる。				2.0
2	事前学修	課題に関する事前情報を共有するための準備を行う。 英語でのバックグラウンド紹介を準備する。				2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 1 （バックグラウンド紹介プレゼン指導を受ける）				
	事後学修	課題に関する事前情報を調べ，タイ短期留学中の取材場所を調査する。				2.0
3	事前学修	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成に着手する。				2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 1 （国際コンテスト用に学内コンテスト受賞作品を英語化する。）				
	事後学修	学内コンテスト受賞作品を英語化する。				2.0

		課題に関する事前情報を調べ、タイ短期留学中の取材場所を調査する。	
4	事前学修	タイ現地取材の調査結果報告を準備する。	2.0
	授業	海外渡航指導。 タイ現地取材の調査結果報告。	
	事後学修	学内コンテスト受賞作品を英語化する。	2.0
5	事前学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを準備する。	2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 2 (英語化した国際コンテスト用作品の英語コンテンツの添削指導を受ける。)	
	事後学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを完成し、作品を提出する。	2.0
6	事前学修	課題に関する事前情報を深掘りする。	2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 2 (オンラインでバックグラウンド紹介、アイスブレイクなどを行う。)	
	事後学修	課題に関する事前情報を深掘りする	2.0
7	事前学修	課題に関する事前情報共有プレゼンを練習する。	2.0
	授業	ワークショップ I (HIU) アイスブレイク、英語コミュニケーション指導、チーム編成。	
	事後学修	チームごとに、チーム内での意思疎通の確認を行う。	2.0
8	事前学修	チームごとに課題に関する情報を共有しておく。	2.0
	授業	ワークショップ I (HIU) 講義 (グループワークの方法など)、課題に関する調査 (チーム単位)	
	事後学修	作品制作のスケジュールを確認する。	2.0
9	事前学修	作品制作のための現地取材先を確認し、事前調査しておく。	2.0
	授業	ワークショップ I (HIU) テーマに関わる調査地を訪問し、課題を発見する。 作品制作のために、現地取材を行う。(道内等)	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
10	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
	授業	ワークショップ I (HIU) チーム単位で作品制作を進める。	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い、チーム間で共有する。	2.0
11	事前学修	ワークショップ I で制作を進めてきた作品の仕上がりを確認し、ワークショップ II でのスケジュールを確認する。	2.0
	授業	ワークショップ II (タイ・RMUTT) 作品制作のために、現地取材を行う。(RMUTT キャンパス内外、バンコク、アユタヤ等)	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
12	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
	授業	ワークショップ II (タイ・RMUTT) チーム単位で作品制作を進める。	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い、チーム間で共有する。	2.0
13	事前学修	作品制作のスケジュールを確認する。	2.0
	授業	ワークショップ II (タイ・RMUTT) チーム単位で作品制作を進める。	

	事後学修	作品報告会の PowerPoint 作成等を行う。	2.0
	事前学修	作品報告会での英語プレゼンの練習を行う。	2.0
14	授業	ワークショップⅡ（タイ・RMUTT） ワークショップで制作した作品の報告会で、チーム単位で英語でのプレゼンを行う。 国際コンテストの表彰式に参加する。	
	事後学修	ワークショップⅠ・Ⅱ全体を振り返り、総括を行う。	2.0
	事前学修	学内報告会及び蒼天祭展示の準備を行う。	2.0
15	授業	ワークショップ作品の学内報告会及び蒼天祭展示	
	事後学修	学内報告会の振り返りを行う。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：15% ■演習課題・グループワーク：70%

■その他[プレゼンテーション] 15%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

- ・コンテスト応募作品の受賞結果は、表彰式で公表される。
- ・英文コンテンツ作成、英語プレゼン資料作成などは、提出時に添削指導する。
- ・ワークショップで制作した作品については、ワークショップ最終日のプレゼンテーションで講評される。

教科書	
参考書・Web サイト	参考書については、事前授業やワークショップで必要に応じて紹介します。
単位修得が望ましい科目	Web 技術関係科目、映像制作関係科目、プログラミング関係科目、英語科目、デザインシンキング
備考	履修者は、学内で行われる WEB デザインコンテスト、ショートフィルムコンテスト、コンピュータプログラミングコンテスト受賞作品制作者およびビジネス分野などに適した学力・適性をもつ学生の中から、GPA（総合成績及び英語）・プロジェクト対応力等を考慮して選抜します。ただし、1年生については、高校までの成績を考慮して選抜します。なお、海外渡航の旅費等の一部は補助しますが、現地活動費を含めて費用の一部は自己負担してもらいます。
担当教員の実務経験	安田教授は、企業でデザイナーとして勤務した経験を生かして、ICT 作品制作の指導にあたります。 島田准教授は、企業でクリエイターとして勤務し映像制作を手がけてきた経験を生かして、映像作品制作指導にあたります。 隼田教授は、日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験を生かして、国際的なコミュニケーションの指導に当たります。

キャリアデザイン I (情報メディア学科) Career Design 1

担当教員	近澤 潤(330 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義	○	IPC201	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(4)				
授業概要						
本講義は、3 年次から本格化する就職活動を見据え、自身の将来を主体的に描き出すための基盤を築く科目です。単なる知識習得にとどまらず、社会のニーズと自己の適性を照らし合わせながら、自らのキャリアを「構想」する力を養います。具体的には、自己分析や他己分析を通じて「自己の資源」を言語化すると同時に、現代の産業構造や企業活動の現状をリサーチします。講義内では、他者とのディスカッションを通じて多様な価値観に触れることで、自分にあった「キャリア構想」を練り上げていきます。自ら問いを立て、進むべき方向性を導き出すプロセスを重視します。						
授業における学修の到達目標						
・自己分析や他己分析の各種手法を習得し、自身の強みや価値観を言語化できるとともに、社会の産業構造や業界動向を客観的に説明できる。						
・自己の適性と社会のニーズを照らし合わせ、卒業後の進路に向けた具体的な「キャリアビジョン」を構想し、表現できる。						
・自身の考えを論理的に伝えることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	ガイダンス				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				1
2	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	どのような時代を生活しているのか／キャリアとは				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				1
3	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	業界・業種・職種				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				1
4	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	自分自身を言語化する（自己分析／他己分析）				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				2
5	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	キャリアを選択する（就職・進学・起業）				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				2
6	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	就職①：企業の採用プロセス（SPI・面接・IS）				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				1
7	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	就職②：自己 PR・ポートフォリオ				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				2

8	事前学修	事前に資料を確認する	1
	授業	就職③：情報収集の方法／インターンシップを探す	
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む	1
9	事前学修	事前に資料を確認する	1
	授業	就職④：インターンシップ体験談（4年生）	
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む	1
10	事前学修	事前に資料を確認する	1
	授業	進学：大学院とは	
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む	1
11	事前学修	事前に資料を確認する	1
	授業	起業：アンプレ・マインド	
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む	1
12	事前学修	なし	
	授業	キャリアゲスト講演①	
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む	1
13	事前学修	なし	
	授業	キャリアゲスト講演②	
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む	1
14	事前学修	なし	
	授業	キャリアゲスト講演③	
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む	1
15	事前学修	事前に資料を確認する	1
	授業	ライフプランの視点でのキャリア・まとめ	
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む	1

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE により演習のフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、担当教員より提示します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

キャリアデザインⅡ（情報メディア学科） Career Design 2

担当教員	近澤 潤(330 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義		IPC202	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(4)				
授業概要						
「キャリアデザインⅡ」は、「キャリアデザインⅠ」に引き続き3年生から始まる就職活動を円滑に行えるようにするための講義です。キャリアデザインⅡでは、具体的に、これからの就職活動で必要になる就活サイトや逆求人サイトの使い方、実際のインターンシップの内容や応募の仕方について学習します。更に、外部講師として北海道情報大学を卒業し、現在 IT 業界や IT に関連する仕事をしている卒業生を招き、講話を聞くことで実際の仕事に対するイメージを掴む。また、IT ベンチャーや大手 IT 企業の現役エンジニアの講演を聞くことで企業規模による仕事の違いなどをイメージできるようにする。 授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行う。						
授業における学修の到達目標						
・就職活動で必要になる就職サイトやインターンシップについて理解する ・卒業生はどのような仕事をしているのかを知る ・IT ベンチャーや IT 大手企業における仕事とはどのようなものかを理解する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	これからの就職活動について考える				1
	授業	講義ガイダンス、就職活動とは、3年生からの就職活動に向けた活動				
	事後学修	講義資料を使ってこれからの就職活動について復習する				1
2	事前学修	公務員と公務員試験について事前調査する				1
	授業	公務員と公務員試験				
	事後学修	講義内容を基に公務員への進路について考える				1
3	事前学修	就職サイト、逆求人サイトについて事前調査する				1
	授業	就職支援サイトの使い方、逆求人サイトの使い方				
	事後学修	講義内容に基づき実際に就職支援サイト、逆求人サイトを利用してみる				1
4	事前学修	インターンシップについて考える				1
	授業	インターンシップとは、その重要性				
	事後学修	インターンシップサイトからどのようなインターンシップがあるのかを調査する				1
5	事前学修	就職活動時の面接について事前調査する				1
	授業	面接対策 質問の意図				
	事後学修	就職活動における面接において答えるべき内容を今一度復習する				1
6	事前学修	システムエンジニアという仕事について事前調査する				1
	授業	システムエンジニアという仕事				
	事後学修	自身のシステムエンジニアとしての適性を考える				1
7	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する				1
	授業	キャリアセミナー その1				
	事後学修	談話内容に基づきその企業や仕事について詳しく調査する				1

8	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する	1
	授業	キャリアセミナー その2	
	事後学修	談話内容に基づきその企業や仕事について詳しく調査する	1
9	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する	1
	授業	キャリアセミナー その3	
	事後学修	談話内容に基づきその企業や仕事について詳しく調査する	1
10	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する	1
	授業	キャリアセミナー その4	
	事後学修	談話内容に基づきその企業や仕事について詳しく調査する	1
11	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する	1
	授業	卒業生談話 その1	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1
12	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する	1
	授業	卒業生談話 その2	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1
13	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する	1
	授業	卒業生談話 その3	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1
14	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する	1
	授業	卒業生談話 その4	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1
15	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する	1
	授業	卒業生談話 その5	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE における演習によりフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	キャリアデザイン I
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

キャリアデザインⅢ（システム情報学科、情報メディア学科） Career Design 3

担当教員	向田 茂(125 研究室), 近澤 潤(330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義	○	CLC356	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
この授業では、働くことの楽しさや意義、そしてインターンシップの必要性と方法について解説し、将来のキャリア形成に向けて高い意識を持つことを目指します。働くことが自己実現や社会貢献につながる重要性や、職場での成長や達成感の喜びを示します。						
授業では、具体的な事例や体験を通して、働くことの意義を理解し、積極的な職業観を育むとともに自信をもって就職活動へ臨む意識を醸成することを目指します。自身の経験を言語化するワークショップやインターンシップへの応募なども体験します。						
授業における学修の到達目標						
就職や進学への意識を高め、実際の行動へと移す準備をする						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	ガイダンスと SPI 試験（1 回目）				
	事後学修	テストの問題を振り返る				2
2	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	就活基礎知識・企業研究の方法				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				1
3	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	エントリーシートの書き方①				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				2
4	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	エントリーシートの書き方②				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				2
5	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	先輩の就職活動体験①（講演（4 年生））				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				1
6	事前学修	事前に資料を確認する				1
	授業	インターンシップにエントリー				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				1
7	事前学修	なし				2
	授業	外部講師講演①				
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む				1
8	事前学修	事前に資料を確認する				1

担当教員の実務経験	なし

日本語 I Japanese 1

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC117
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：中級後半の日本語総合力の習得 中級後半レベルの日本語を，日本語能力試験 N1 に対応した問題集を解いていくことによって総合的に身に付ける。 多数の練習問題を解いていくが，教員からの一方的な解説ではなく，クラスで話し合って解答を導き出していくことによって，自ら考える力を培う。 POLITE に参考資料をアップするので，それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語力を総合的に向上させ，大学の講義に積極的に参加できる力を養う。 2 日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション，これまでの日本語学習状況についての発表，効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション，教材第 1 回文字・語彙，文法 問題解答・解説 教材第 1 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				
	事後学修	教材第 1 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 2 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 2 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 3 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 3 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 4 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 4 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 5 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 5 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 6 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 6 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 7 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 7 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0

	授業	小テスト, 第 8 回文字・語彙, 文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 8 回文字・語彙, 文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙, 文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 第 9 回文字・語彙, 文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 9 回文字・語彙, 文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙, 文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 第 10 回文字・語彙, 文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙, 文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告, 日本語に関する DVD 視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	DVD の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 11 回文字・語彙, 文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 第 11 回文字・語彙, 文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 11 回文字・語彙, 文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 12 回文字・語彙, 文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 第 12 回文字・語彙, 文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 12 回文字・語彙, 文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 13 回文字・語彙, 文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 第 13 回文字・語彙, 文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 13 回文字・語彙, 文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 14 回文字・語彙, 文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 第 14 回文字・語彙, 文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 14 回文字・語彙, 文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■小テスト 70%, ■提出物・授業中の課題 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験直前対策 N 1 文字・語彙・文法, 著者名：日本語能力試験問題研究会【編】, 出版社：国書刊行会, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	日本語能力試験 N1 に合格していない者は、日本語能力試験 N1 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語 I (編入生) Japanese 1

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC117
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：中級後半の日本語総合力の習得 中級後半レベルの日本語を，日本語能力試験 N1 に対応した問題集を解いていくことによって総合的に身に付ける。 多数の練習問題を解いていくが，教員からの一方的な解説ではなく，クラスで話し合っ て解答を導き出していくことによって，自ら考える力を培う。 POLITE に参考資料をアップするので，それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語力を総合的に向上させ，大学の講義に積極的に参加できる力を養う。 2 日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション，これまでの日本語学習状況についての発表，効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション，教材第 1 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 1 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 2 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 2 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 3 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 3 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 4 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 4 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 5 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 5 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 6 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 6 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 7 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 7 回文字・語彙，文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙，文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト，第 8 回文字・語彙，文法 問題解答・解説				

	事後学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 9 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 10 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語に関する DVD 視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	DVD の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 11 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 12 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 13 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 14 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■小テスト 70%、■提出物・授業中の課題 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験直前対策 N1 文字・語彙・文法、著者名：日本語能力試験問題研究会【編】、出版社：国書刊行会、備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	日本語能力試験 N1 に合格していない者は、日本語能力試験 N1 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅱ Japanese 2

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC118
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：中級前半の日本語総合力の習得 中級前半の日本語の語彙を学習し、大学生活に必要な日本語の知識と運用能力の獲得を目指す。また、日本語能力試験 N2 の模擬試験も実施する。 テキストの語彙を学ぶとともに、連想に基づいて各自の語彙も増やしていく。語彙の関連性についてグループに分かれてディスカッションを行い、それを通して口頭表現能力、説明能力も培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 中級前半レベルの語彙を、意味、用法、コロケーション等、総合的に理解する。 2 日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	入学前の日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、入学前の日本語学習状況の発表、漢字テスト				
	事後学修	漢字テストの復習				2.0
2	事前学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
3	事前学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
4	事前学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
5	事前学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
6	事前学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
7	事前学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考				

		えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
8	事前学修	テレビやラジオでなるべくたくさんの日本語を聞いておく。	2.0
	授業	小テスト、日本語能力試験模擬問題 N2 聴解 解答・解説	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
9	事前学修	前回配布された聴解問題のスキットの単語調べ	2.0
	授業	日本語能力試験模擬問題 N2 文字・語彙、文法、読解	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
10	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語の文字に関する DVD 視聴、グループに分かれて DVD 視聴後の所感についてディスカッション	
	事後学修	DVD 視聴後の感想文作成	2.0
11	事前学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
12	事前学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 8 体の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
13	事前学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
14	事前学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
15	事前学修	復習試験範囲の語彙の読み書き、意味、用法の復習	2.0
	授業	復習試験	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■復習試験 40%、■小テスト 40%、■提出物・授業中の課題 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：語彙マップで覚える 漢字と語彙 中級 1500, 著者名：徳弘康代監修・著, 出版社：J リサーチ出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I

備考	日本語能力試験 N1 に合格していない者は、日本語能力試験 N1 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅱ（編入生） Japanese 2

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC118
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：大学で必要な中級前半の日本語総合力の習得 中級前半の日本語の語彙を学習し、大学生活に必要な日本語の知識と運用能力の獲得を目指す。また、日本語能力試験 N2 の模擬試験も実施する。 テキストの語彙を学ぶとともに、連想に基づいて各自の語彙も増やしていく。語彙の関連性についてグループに分かれてディスカッションを行い、それを通して口頭表現能力、説明能力も培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 中級前半レベルの語彙を、意味、用法、コロケーション等、総合的に理解する。 2 日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	入学前の日本語の学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、入学前の日本語学習状況の発表、漢字テスト				
	事後学修	漢字テストの復習				2.0
2	事前学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
3	事前学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
4	事前学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
5	事前学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
6	事前学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
7	事前学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考				

		えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
8	事前学修	テレビやラジオでなるべくたくさんの日本語を聞いておく。	2.0
	授業	小テスト、日本語能力試験模擬問題 N2 聴解 解答・解説	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
9	事前学修	前回配布された聴解問題のスク립トの単語調べ	2.0
	授業	日本語能力試験模擬問題 N2 文字・語彙、文法、読解	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
10	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語の文字に関する DVD 視聴、グループに分かれて DVD 視聴後の所感についてディスカッション	
	事後学修	DVD 視聴後の感想文作成	2.0
11	事前学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
12	事前学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 8 体の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
13	事前学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
14	事前学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
15	事前学修	復習試験範囲の語彙の読み書き、意味、用法の復習	2.0
	授業	復習試験	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■復習試験 40%、■小テスト 40%、■提出物・授業中の課題 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：語彙マップで覚える 漢字と語彙 中級 1500, 著者名：徳弘康代監修・著, 出版社：J リサーチ出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I

備考	日本語能力試験 N1 に合格していない者は、日本語能力試験 N1 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅲ Japanese 3

担当教員	田中 里実(339 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC119
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(4)				
授業概要						
テーマ：上級前半の日本語総合力の習得 上級前半レベルの日本語を、日本語能力試験 N1 に対応した問題を解答していくことによって総合的に身に付ける。 多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、クラスで話し合って解答を導き出していくことによって、自ら考える力を培う。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語力を総合的に向上させ、大学の講義に積極的に参加できる力を養う。 2 日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	夏休み中の日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙問題解答・解説				
	事後学修	教材第 1 回文字・語彙の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 2 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク				
	事後学修	教材第 2 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 3 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク				
	事後学修	教材第 3 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 4 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク				
	事後学修	教材第 4 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 5 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク				
	事後学修	教材第 5 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 6 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク				
	事後学修	教材第 6 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 7 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク				
	事後学修	教材第 7 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 8 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク				
	事後学修	教材第 8 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0

9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 9 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク	
	事後学修	教材第 9 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 10 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語に関する DVD 視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	DVD の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 11 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク	
	事後学修	教材第 11 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 12 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク	
	事後学修	教材第 12 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 13 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク	
	事後学修	教材第 13 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 14 回文字・語彙、問題解答・解説・グループワーク	
	事後学修	教材第 14 回文字・語彙、問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
成績評価の方法およびその基準			
グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 小テスト 70%、提出物・授業中の課題 30%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業中に実施しクラス全体で共有する。			
教科書		書名：使う順と連想マップで学ぶ漢字 & 語彙 日本語能力試験 N1, 著者名：飯嶋美知子 他, 出版社：国書刊行会, 備考：	
参考書・Web サイト		授業中にその都度紹介する。	
単位修得が望ましい科目		日本語Ⅰ、日本語Ⅱ	
備考		なし	
担当教員の実務経験		なし	

日本語Ⅳ Japanese 4

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC211
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(4)				
授業概要						
テーマ：中級後半～上級の聴解を中心とした日本語力の習得 日本語能力試験 N1 の文字語彙・文法の問題集と聴解問題を解いていくことによって、総合的な日本語力を向上させる。 多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、自ら調べ、クラスで話し合って解答を導き出していくことによって、思考力を培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語の文字語彙・文法及び聴解の能力を向上させ、大学の講義を聞き取って理解できる力を養う。 2 日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法 問題解答・解説、聴解課題理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 2 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 3 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 4 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 5 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 6 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 7 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0

	授業	小テスト, 教材第 8 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解即時応答(2)問題, 意味調べ, 音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解統合理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 教材第 9 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解統合理解(1)問題, 意味調べ, 音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解統合理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 教材第 10 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解統合理解(2)問題, 意味調べ, 音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	教材第 11 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解課題理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 教材第 11 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解課題理解(3)問題, 意味調べ, 音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
12	事前学修	教材第 12 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解ポイント理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 教材第 12 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解ポイント理解(3)問題, 意味調べ, 音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 13 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 教材第 13 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解概要理解(3)問題, 意味調べ, 音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 14 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解即時応答(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 教材第 14 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解即時応答(3)問題, 意味調べ, 音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 15 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト, 教材第 15 回文字・語彙, 文法 問題及び聴解概要理解(3)問題, 意味調べ, 音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■小テスト 70%、■提出物・授業中の課題 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験 N1 直前対策ドリル&模試 文字・語彙・文法, 著者名：森本智子・高橋尚子・黒岩しづ可, 出版社：Jリサーチ出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ
備考	聴解用の教材としてプリントを配布する。 日本語能力試験 N1 に合格していない者は、日本語能力試験 N1 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅳ（編入生） Japanese 4

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ILC211
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(4)				
授業概要						
テーマ：中級後半～上級の文字語彙・文法、聴解を中心とした日本語力の習得 日本語能力試験 N1 の文字語彙・文法の問題集と聴解問題を解いていくことによって、総合的な日本語力を向上させる。 多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、自ら調べ、クラスで話し合って解答を導き出していくことによって、思考力を培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語の文字語彙・文法及び聴解の能力を向上させ、大学の講義を理解できる力を養う。 2 日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法 問題解答・解説、聴解課題理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 2 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 3 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 4 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 5 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 6 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 7 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0

	授業	小テスト、教材第 8 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 9 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 10 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 11 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
12	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 12 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 13 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 14 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 15 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 15 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■小テスト 70%、■提出物・授業中の課題 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験 N1 直前対策ドリル&模試 文字・語彙・文法, 著者名：森本智子・高橋尚子・黒岩しづ可, 出版社：J リサーチ出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ
備考	聴解用の教材としてプリントを配布する。 日本語能力試験 N1 に合格していない者は、日本語能力試験 N1 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本事情 View of Today's Japan

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IPC205	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(3),(4)				
授業概要						
テーマ：日本の風俗習慣について学ぶ 日本の社会生活におけるマナーを中心とした風俗習慣に関し、毎回定められたテーマについて、資料や視聴覚教材を通して学ぶ。 毎回講義を通して学んだことを書く課題を課す。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本の風俗習慣を学ぶとともに、自国との相違を認識する。 2 ディスカッションを通し、日本語の総合力を向上させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	電話のマナーについて調べてくる。				2.0
	授業	オリエンテーション、電話のかけ方のマナー				
	事後学修	電話のかけ方をまとめたミニレポート作成				2.0
2	事前学修	友人、親戚、会社などを訪問する際の自国のマナーについて調べてくる。				2.0
	授業	訪問のマナー、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション				
	事後学修	訪問のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成				2.0
3	事前学修	自国で多い姓について調べてくる				2.0
	授業	日本人の姓名 1、日本と自国との相違についてディスカッション				
	事後学修	日本人の姓名 1 について、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成				2.0
4	事前学修	自国で多い名前について調べてくる				2.0
	授業	日本人の姓名 2、日本と自国との相違についてディスカッション				
	事後学修	日本人の姓名 2 について、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成				2.0
5	事前学修	食事に関する自国のマナーについて調べてくる。				2.0
	授業	食事（和食）のマナー、日本と自国との相違についてディスカッション				
	事後学修	食事のマナー（和食）について、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成				2.0
6	事前学修	食事に関する自国の各地域のマナーについて調べてくる。				2.0
	授業	食事のマナー（洋食）、日本と自国との相違についてディスカッション				
	事後学修	食事のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成				2.0
7	事前学修	飲み会に関する自国のマナーについて調べてくる。				2.0
	授業	飲み会のマナー、日本と自国との相違についてディスカッション				
	事後学修	飲み会のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成				2.0
8	事前学修	宴会、立食パーティーに関する自国のマナーについて調べてくる。				2.0
	授業	宴会、立食パーティーのマナー、日本と自国との相違についてディスカッション				
	事後学修	宴会、立食パーティーのマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成				2.0

9	事前学修	結婚式に関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	結婚式のマナー1, 日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	結婚式のマナーについて, 自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
10	事前学修	結婚式の際の服装, 贈り物, 食事, スピーチ等の自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	結婚式のマナー2, 日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	前回と今回の授業で学んだことについてのミニレポートの作成	2.0
11	事前学修	葬式に関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	葬式のマナー1, 日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	葬式について, 自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
12	事前学修	葬式での服装, 遺族への対応等, 自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	葬式のマナー2, 日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	前回と今回の授業で学んだことについてのミニレポートの作成	2.0
13	事前学修	ビジネスに関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	ビジネスマナー, フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	ビジネスマナーについて, 自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
14	事前学修	見舞いに関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	お見舞い, フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	お見舞いのマナーについて, 自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
15	事前学修	これまでのテーマに関する自国との比較について考えをまとめておく。	2.0
	授業	まとめのレポート作成	
	事後学修	レポートで不十分だったと考える点を復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては, グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い, その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■まとめのレポート: 40% ■課題: 30% ■授業中の課題: 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

情報メディア入門Ⅰ Introduction to Information Media 1

担当教員	向田 茂 (125 研究室), 伊藤 正彦 (325 研究室), 近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC101	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1)				
授業概要						
大学生活を円滑にするための情報環境の整備と、大学生活を豊かにするための意識や知識の修得を行います。 大学生活を有意義に過ごすかどうかは、みなさんの意識と行動しだいです。4 年間の大学生活を有意義なものにするために必要な知識、仕組み、そして意識の持ち方を解説しながら、より具体的な大学生生活のイメージを構築していきます。また、情報メディア学科の学びや教員の専門分野について、学科の教員がオムニバス形式で講演します。						
授業における学修の到達目標						
4 年後の自分を想像し、充実した大学生活とするための計画を立てます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	配布された PC にてインターネットへの接続を確認する。				2
	授業	ガイダンス・授業支援ツール (Google) に関する演習				
	事後学修	授業支援ツール(Google)の動作を検証する。				2
2	事前学修	2026 履修のガイドの学生生活全般に関わる内容を調べる。				2
	授業	大学での学びについて				
	事後学修	卒業のために必要な要素について確認し、これからの学生生活についての目標を考える。				2
3	事前学修	情報メディア学科の専攻・領域について調べる。				2
	授業	情報メディア学科の専攻・領域について				
	事後学修	身につけたい知識や技術について考える。				2
4	事前学修	なし				0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 1				
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む				4
5	事前学修	なし				2
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 2				
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む				2
6	事前学修	なし				2
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 3				
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む				2
7	事前学修	なし				0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 4				
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む				4
8	事前学修	なし				0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 5				
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む				4

9	事前学修	なし	0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 6	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
10	事前学修	なし	0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 7	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
11	事前学修	学内コンテストについて調べる	2
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 8	
	事後学修	参加したい学内コンテストについて確認する	2
12	事前学修	なし	0
	授業	自己カリキュラム計画	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
13	事前学修	なし	0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 10	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
14	事前学修	なし	0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 11	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
15	事前学修	前期の自己の学修への取り組みについて考える	2
	授業	まとめ	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り、今後の履修科目の計画を練る	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：100% □演習課題：0% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE のフィードバック機能を用いて提出物の総評を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	2025 履修のガイド
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

情報メディア入門Ⅱ Introduction to Information Media 2

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室), 佐野 和哉(132 研究室), 向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IBC102
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2)				
授業概要						
テーマ：今後大学で学びを深めるうえで必要となる基礎知識の理解、および卒業に至るまでのヴィジョンの明確化						
この講義では、今後大学で学びを深めるうえで必要となる基礎知識を身に付けてもらいます。特に、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養にまつわる内容を学んでもらいます。これにより、今後履修することとなる専門科目の内容の理解を支えることを目的にしています。						
開講ごとに専門科目担当の教員が登壇し、この講義で学習する基礎知識が、後に選択するコースの内容や、学習する専門科目とどのようにリンクしているのかを解説することにより、卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし、今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進めるための手助けをします。						
授業における学修の到達目標						
・ 今後履修する「専門科目」の内容を理解する上で不可欠な基礎知識を学習する。						
・ 卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし、今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進める。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読み、講義の目標と全体スケジュールを把握する				2.0
	授業	ガイダンス 情報メディア入門Ⅱの趣旨と流れ 専門分野の基礎教養の知識				
	事後学修	情報メディア入門Ⅱの趣旨と流れを理解する				2.0
2	事前学修	インターネットでメディアアートについて事前に調査する				2.0
	授業	メディアアートに関連する基礎教養の解説				
	事後学修	メディアアートの具体例などを見てみる。				2.0
3	事前学修	インターネットで3DCGについて事前に調査する				2.0
	授業	3DCGに関連する基礎教養の解説				
	事後学修	3DCGの具体例や応用例などを探してみる。				2.0
4	事前学修	インターネットでアプリ開発について事前に調査する				2.0
	授業	アプリ開発に関連する基礎教養の解説				
	事後学修	アプリ開発の具体例や応用例などを探してみる。				2.0
5	事前学修	インターネットでグラフィックデザインについて事前に調査する				2.0
	授業	グラフィックデザインに関連する基礎教養の解説				
	事後学修	グラフィックデザインの具体例や応用例などを探してみる。				2.0
6	事前学修	インターネットでゲーム開発について事前に調査する				2.0
	授業	ゲーム開発に関連する基礎教養の解説				
	事後学修	ゲーム開発の具体例や応用例などを探してみる。				2.0

7	事前学修	インターネットでアニメーション制作について事前に調査する	2.0
	授業	アニメーション制作に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	アニメーション制作の具体例や応用例などを探してみる。	2.0
8	事前学修	映画製作事情について事前に調査する	2.0
	授業	映画製作事情	
	事後学修	映画製作の具体例を探してみる	2.0
9	事前学修	インターネットで Web 開発について事前に調査する	2.0
	授業	Web 開発に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web 開発の具体例や応用例などを探してみる。	2.0
10	事前学修	インターネットで Web アプリ開発について事前に調査する	2.0
	授業	Web アプリ開発に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web アプリ開発の具体例や応用例などを探してみる。	2.0
11	事前学修	インターネットで IoT について事前に調査する	2.0
	授業	IoT に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	IoT の具体例や応用例などを探してみる。	2.0
12	事前学修	資格について事前に調査する	2.0
	授業	資格と大学生について	
	事後学修	自分にあう資格の種類などを調べてみる。	2.0
13	事前学修	IT パスポート・基本情報について事前に調査する	2.0
	授業	IT パスポート・基本情報の説明と対策の準備	
	事後学修	IT パスポート・基本情報の対策方法などを他に探してみる。	2.0
14	事前学修	インターネットで Web デザインについて事前に調査する	2.0
	授業	Web デザインに関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web デザインの具体例や応用例などを探してみる。	2.0
15	事前学修	今までの資料を振り返ってみる	2.0
	授業	情報メディア入門Ⅱの復習・まとめ	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り、今後の履修科目の計画を練る	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

☐試験： % ☐小テスト： % ☒レポート： 100% ☐演習課題： %

☐その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義中に質疑応答の時間を確保している。

レポートでは採点時に Polite 上でフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要な場合は、開講時に都度案内する。
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	登壇する教員で実務の経験があるものは、解説する基礎教育の中で、自らの実務経験により得た経験や実例を提示し、より具体的な解説を行う。

情報メディア学Ⅰ Information Media 1

担当教員	近澤 潤(330 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 佐野 和哉(132 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC201	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2)				
授業概要						
本科目では、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養および応用技術にまつわる内容について学習することを目的として取り組みます。特に、ビッグデータや人工知能（AI）に関して、基礎知識およびリテラシーの習得を目指します。また、専門科目担当の教員から、様々な専門分野と結びついたビッグデータ・人工知能の応用技術や最新動向について解説することで、これからの時代を生き抜くための知識とビジョンの習得も目指します。						
授業における学修の到達目標						
・人工知能（AI）やビッグデータに関して、基礎知識，リテラシー，および応用技術に関する知識を学習する。 ・専門分野を学ぶための情報を調査し，卒業に至るまでのビジョンを明確にする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読み，講義の目標と全体スケジュールを把握する				2
	授業	ガイダンス、情報メディア学Ⅰの趣旨と流れ				
	事後学修	情報メディア学Ⅰの趣旨と流れを理解する				2
2	事前学修	インターネットで人工知能とビッグデータについて事前に調査する				2
	授業	人工知能とビッグデータに関する基礎知識の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				2
3	事前学修	インターネットで「3DCG・ゲーム」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				2
	授業	「3DCG・ゲーム」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				2
4	事前学修	インターネットで「映像技術」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				2
	授業	「映像技術」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				2
5	事前学修	インターネットで「サウンド技術」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				2
	授業	「サウンド技術」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				2
6	事前学修	インターネットで「宇宙観測」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				2
	授業	「宇宙観測」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				2
7	事前学修	インターネットで「情報可視化」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				2
	授業	「情報可視化」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				2
8	事前学修	インターネットで「デザイン」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				2
	授業	「デザイン」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説				

情報メディア学Ⅱ Information Media 2

担当教員	斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC202	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2)				
授業概要						
情報メディア学Ⅰに続き、情報メディア学科で学ぶ意義と目標を明確にしつつ、意識を持続するためのさまざまな取り組みを実施します。ゼミナールやそれに関わる専門知識をはじめ、就職などの将来についても意識します。 また、ゼミ選択のために必要となる知識を獲得し、希望するゼミとその周辺分野に対する理解を深めることを目的とします。その中で、実習として各自で学科内の教員に対する調査をします。						
授業における学修の到達目標						
進路となる専門分野を意識し、卒業までの具体的な学修イメージを醸成する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読み、講義の目標と全体スケジュールを把握する				2.0
	授業	ガイダンス、情報メディア学Ⅱの趣旨と流れ				
	事後学修	情報メディア学Ⅱの趣旨と流れを理解する				2.0
2	事前学修	ゼミナールについて調べる				2.0
	授業	研究室説明会 1（4 ゼミ）				
	事後学修	説明を受けたゼミナールについてまとめる				2.0
3	事前学修	ゼミナールについて調べる				2.0
	授業	研究室説明会 2（4 ゼミ）				
	事後学修	説明を受けたゼミナールについてまとめる				2.0
4	事前学修	ゼミナールについて調べる				2.0
	授業	研究室説明会 3（4 ゼミ）				
	事後学修	説明を受けたゼミナールについてまとめる				2.0
5	事前学修	ゼミナールについて調べる				2.0
	授業	研究室説明会 4（4 ゼミ）				
	事後学修	説明を受けたゼミナールについてまとめる				2.0
6	事前学修	ゼミナールについて調べる				2.0
	授業	研究室説明会 5（4 ゼミ）				
	事後学修	説明を受けたゼミナールについてまとめる				2.0
7	事前学修	ゼミナールについて調べる				2.0
	授業	研究室説明会 6（4 ゼミ）				
	事後学修	説明を受けたゼミナールについてまとめる				2.0
8	事前学修	ゼミナールについて調べる				2.0
	授業	研究室説明会 7（4 ゼミ）				
	事後学修	説明を受けたゼミナールについてまとめる				2.0
9	事前学修	ゼミナールについて調べる				2.0

	授業	研究室説明会 8（残りのゼミ）	
	事後学修	説明を受けたゼミナールについてまとめる	2.0
10	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する	2.0
	授業	配属希望ゼミナール検討（第一希望ゼミナールの調査）	
	事後学修	配属希望ゼミナールについて検討する	2.0
11	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する	2.0
	授業	大学院の紹介	
	事後学修	大学院についての紹介・説明を受けて、進学に対する考えをまとめる。	2.0
12	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する	2.0
	授業	配属希望ゼミナール検討（第 1 ステージ開始）	
	事後学修	面談の手配をする	2.0
13	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する	2.0
	授業	配属希望ゼミナール検討（第 2 ステージ開始）	
	事後学修	面談の手配をする	2.0
14	事前学修	面談結果と活動状況について確認する	2.0
	授業	面談結果と活動状況についての確認	
	事後学修	面談結果と活動状況についてまとめる	2.0
15	事前学修	ゼミナール活動について考える	2.0
	授業	ゼミナールでの過ごし方や目標を考える	
	事後学修	ゼミナールでの目標をまとめる	2.0

□試験： % □小テスト： % ■レポート：100% □演習課題： % □その他[]

調査状況について随時確認をし、進捗にあわせた指導をする

参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	特になし

メディアの行列 Matrices for Media Technology

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IBC106
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
科目のテーマ プログラミングを通してベクトル・行列に親しむ						
データをまとめて扱ったり，計算することができる数学的な概念である「ベクトル」「行列」について学ぶ科目です。情報メディア学科においてこうした概念の習得は重要です。 ベクトルや行列について学ぶ科目に「線形代数」があります。本講義で線形代数に向けた導入科目の位置付けで，ベクトルや行列に慣れること「なぜ行列を学ぶのか？」を理解することを目標とします。 また，専門科目で今後必要となる概念についても解説します。						
数学的な苦手であっても着いてこれるように手計算は少なめとし，プログラミングを取り入れて実際の例をコンピュータで計算する方法を紹介します。Google Colaboratory を使った方法を紹介する予定です。 (プログラミングはあくまで補助的な位置付けであり，単位取得の必須要件とはしません。)						
授業における学修の到達目標						
ベクトルや行列に慣れること，「なぜ行列を学ぶのか？」を理解することを目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	高校で学んだ数学を復習して下さい。				2
	授業	ガイダンス，ベクトルとは				
	事後学修	講義の説明を振り返って復習してください。				2
2	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。				2
	授業	プログラミング環境の導入(1)				
	事後学修	講義の説明を振り返り，講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。				2
3	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。				2
	授業	プログラミング環境の導入(2)				
	事後学修	講義の説明を振り返り，講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。				2
4	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。				2
	授業	三角比とは				
	事後学修	講義の説明を振り返り，講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。				2
5	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。				2
	授業	弧度法と三角関数				
	事後学修	講義の説明を振り返り，講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。				2
6	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。				2
	授業	ベクトルの演算				
	事後学修	講義の説明を振り返り，講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。				2
7	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。				2
	授業	ベクトルの内積(1)				

	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2
8	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。	2
	授業	ベクトルの内積(2)	
	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2
9	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。	2
	授業	行列とは	
	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2
10	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。	2
	授業	行列の_x0000_掛け算	
	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2
11	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。	2
	授業	行列とベクトル（一次変換）	
	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2
12	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。	2
	授業	回転行列・さまざまな行列	
	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2
13	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。	2
	授業	3次元ベクトルの変換	
	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2
14	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。	2
	授業	連立方程式と行列	
	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2
15	事前学修	前回の講義で解説した内容を思い出して下さい。	2
	授業	データサイエンスへの応用	
	事後学修	講義の説明を振り返り、講義内で出てきた計算例や小テストを再度実行してください。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■講義で提供される演習：60% ■小テスト：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回小テストを行い、テスト後解答を解説します。

教科書	
参考書・Web サイト	中西崇文 著「Python ハンズオンによる はじめての線形代数」森北出版
単位修得が望ましい科目	基礎数学
備考	なし。
担当教員の実務経験	なし。

芸術論 Art Theory

担当教員	三浦 洋 (221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IBC111
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(3)				
授業概要						
美術, 演劇, 音楽など広範囲のジャンルにわたる芸術について体系的に考察する方法は無数にありえますが, この「芸術論」では西洋芸術の原型が誕生した古代ギリシャの芸術の特質を中心に検討します。そのため、古代ギリシャの哲学者アリストテレスが芸術創作について考察した『詩学』の内容に沿って授業を進めていきます。 とくに、古代ギリシャの芸術の中核となっていたギリシャ悲劇は, ストーリー創作法や視覚効果、音楽、合唱舞踊隊であるコロスの使い方などにおいて、後世の様々な芸術ジャンルに影響を与えました。中世のオペラ、近世のオラトリオ、近代の演劇、現代の映画に見られる古代芸術からの影響を知れば、現代のマルチメディア開発のヒントも得られます。それゆえ、現代の映画作品なども随時、参考資料として取り上げ、芸術表現の普遍性と進化の両面を考えます。						
授業における学修の到達目標						
1. 芸術表現の技法について, その歴史的多様性を説明できる。						
2. 芸術表現が人間の感覚や思想に与える影響・効果について説明できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し, 授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	どのように芸術を定義するか				
	事後学修	芸術の定義についてノートにまとめる				2.0
2	事前学修	教科書のうち古代ギリシャ文化史の部分を読む				2.0
	授業	古代ギリシャにおける芸術の始まり				
	事後学修	古代ギリシャにおける芸術の始まりについてノートにまとめる				2.0
3	事前学修	教科書のうち古代ギリシャ悲劇の時代背景の部分を読む				2.0
	授業	古代ギリシャ悲劇の時代背景				
	事後学修	古代ギリシャ悲劇の時代背景についてノートにまとめる				2.0
4	事前学修	教科書のうち三大悲劇詩人の創作の部分を読む				2.0
	授業	三大悲劇詩人の創作				
	事後学修	三大悲劇詩人の創作についてノートにまとめる				2.0
5	事前学修	教科書のうちアイスキュロスの作品の部分を読む				2.0
	授業	アイスキュロスの作品の特徴				
	事後学修	アイスキュロスの作品についてノートにまとめる				2.0
6	事前学修	教科書のうちソフォクレスの作品の部分を読む				2.0
	授業	ソフォクレスの作品の特徴				
	事後学修	ソフォクレスの作品の特徴についてノートにまとめる				2.0
7	事前学修	教科書のうちエウリピデスの作品の部分を読む				2.0
	授業	エウリピデスの作品の特徴				
	事後学修	エウリピデスの作品の特徴についてノートにまとめる				2.0
8	事前学修	教科書のうち「逆転」の説明を読む				2.0

	授業	創作技法としての「逆転」	
	事後学修	創作技法としての「逆転」についてノートにまとめる	2.0
9	事前学修	教科書のうち「再認」の説明を読む	2.0
	授業	創作技法としての「再認」	
	事後学修	創作技法としての「再認」についてノートにまとめる	2.0
10	事前学修	教科書のうち「受難」の説明を読む	2.0
	授業	創作技法としての「受難」	
	事後学修	創作技法としての「受難」についてノートにまとめる	2.0
11	事前学修	教科書のうち「イリアス」の説明を読む	2.0
	授業	ホメロスの叙事詩「イリアス」	
	事後学修	「イリアス」の特徴についてノートにまとめる	2.0
12	事前学修	教科書のうち「オデュッセイア」の説明を読む	2.0
	授業	ホメロスの叙事詩「オデュッセイア」	
	事後学修	「オデュッセイア」の特徴についてノートにまとめる	2.0
13	事前学修	教科書のうちオペラの誕生についての説明を読む	2.0
	授業	オペラの誕生	
	事後学修	オペラの誕生についてノートにまとめる	2.0
14	事前学修	教科書のうちコロスについての説明を読む	2.0
	授業	オラトリオとシェイクスピア劇におけるコロス	
	事後学修	オラトリオとシェイクスピア劇におけるコロスの役割についてノートにまとめる	2.0
15	事前学修	教科書のうち『詩学』から影響を受けた映画についての説明を読む	2.0
	授業	映画に対する『詩学』の影響	
	事後学修	映画に対する『詩学』の影響についてノートにまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト（数回行う）：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストで誤答の多かった内容について授業で説明する。

教科書	書名：『詩学』，著者名：アリストテレス著、三浦洋訳、出版社：光文社、備考：紙媒体に限る。電子書籍は不可。
参考書・Web サイト	とくに指定しないが、授業で紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	上記のように、教科書は紙媒体に限る。電子書籍は不可なので注意すること。
担当教員の実務経験	実務経験なし。

オーディオビジュアルアート Audiovisual Art

担当教員	平山 晴花(128 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 佐野和哉(132 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		IBD201
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
視覚メディアと聴覚メディア、そしてそれらが統合する視聴覚メディアによるさまざまな表現について学ぶ。 特に、芸術学の観点から作品の美学や思想に触れ、芸術や表現とは何かを思考していく。 授業は講義と関連する課題、ディスカッションや発表から構成されている。						
授業における学修の到達目標						
芸術への理解を深め、鑑賞力を豊かにすること。特に、近代から現在につながる芸術分野について理解を深める。さらに、テクノロジーを応用することでどのような新しい表現が可能か、クリエイティブな発想力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修					0.0
	授業	ガイダンスと音映像表現の概要				
	事後学修	音映像メディアによるアート表現について調べる				4.0
2	事前学修					0.0
	授業	音映像表現に関する技術発展と表現の変遷（1: 模索）				
	事後学修	授業で取り扱った作品に関する課題				4.0
3	事前学修					0.0
	授業	音映像表現に関する技術発展と表現の変遷（2: 発展）				
	事後学修	授業で取り扱った作品に関する課題				4.0
4	事前学修					0.0
	授業	音映像表現に関する技術発展と表現の変遷（3: コンピュータ）				
	事後学修	授業で取り扱った作品に関する課題				4.0
5	事前学修					0.0
	授業	近年のさまざまな試みや演出				
	事後学修	授業で取り扱った作品に関する課題				4.0
6	事前学修	メディアアートについての事前リサーチ				0.0
	授業	メディアアート史 1（テクノロジーとアート）				
	事後学修	レポート課題				2.0
7	事前学修	メディアアート史 2（テクノロジーとアート現在）				2.0
	授業	レポート課題				
	事後学修	レポート課題				2.0
8	事前学修	アプリケーションの事前リサーチ				2.0
	授業	メディアアート実践ワークショップ 1				
	事後学修	課題についての自己評価、オペレーションの復習				2.0

9	事前学修	アプリケーションの事前リサーチ	2.0
	授業	メディアアート実践ワークショップ 2	
	事後学修	課題についての自己評価、オペレーションの復習	2.0
10	事前学修	アプリケーションの事前リサーチ	2.0
	授業	メディアアート実践ワークショップ 3	
	事後学修	課題についての自己評価、オペレーションの復習	2.0
11	事前学修	映画の歴史についての事前リサーチ	2.0
	授業	視覚芸術としての映像史	
	事後学修	課題についての自己評価	2.0
12	事前学修	アナログメディアについての事前リサーチ	2.0
	授業	動く映像の仕組み	
	事後学修	映像のメカニズムについてのレポート	2.0
13	事前学修	ワークショップの準備	2.0
	授業	動く映像の仕組みワークショップ	
	事後学修	ワークショップ成果の自己評価	2.0
14	事前学修	映像作家、アニメーション作家のリサーチ	2.0
	授業	映像表現鑑賞	
	事後学修	鑑賞レポート	2.0
15	事前学修	映像作家、アニメーション作家のリサーチ	2.0
	授業	映像表現鑑賞	
	事後学修	鑑賞レポート	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Polite 上で個別に対応。

教科書	
参考書・Web サイト	(1) 松平頼暁著 『現代音楽のパサージュー20.5 世紀の音楽』 (青土社) (2) 片桐功著 ほか 『決定版 はじめての音楽史：古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 (音楽之友社) (3) 岩宮眞一郎著 『音と音楽の科学』 (技術評論社) (4) 岩宮眞一郎著 『音楽と映像のマルチモーダル・コミュニケーション』 (九州大学出版社) (5) ミテイラー千穂著 『サウンドパワー わたしたちは、いつのまにか「音」に誘導されている！？』 (Discover 社) (6) 重野純著 『音の世界の心理学』 第2 版 (ナカニシヤ出版) (7) Curtis Roads 著 『コンピュータ音楽: 歴史・テクノロジー・アート』 (東京電機大学出版局) (8) Simon Emmerson 著 『The Language of electroacoustic music』 (Macmillan) (9) Simon Emmerson 著 『Living electronic music』 (Ashgate) その他、授業内で必要に応じて指示。
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド、デジタルサウンド・演習 (必須ではない)

備考	個人のコンピュータの持ち込み可能（Win/Mac）。後期アニメーション演習を履修予定の場合は事前に本科目を履修することを強く薦める（必須ではない）。サウンド・映像・メディアアート各分野毎の授業スケジュールはフレキシブルに変更・調整する場合があります。
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。映像作家としての視覚芸術における表現研究及び、作品制作、上映・展示の実践的な経験を有する。地域的な芸術企画における活動やメディアアートの実践的な制作・研究の経験を有する。

メディアの確率と統計 Mathematics for Statistics and Probability

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IBC203
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：統計的、確率的な現象の解析方法とその背景を知る						
インターネット上で目にするデータは、情報量の大規模化が加速するばかりでなく、属性や構造において多様化が進んでいる。データサイエンスの普及と共に、このようなデータがもつ特徴を活かして、現象を知る上で重要な情報を最大限引き出すための技術が考案されており、その技術をコンピュータ上で利用することも容易になってきた。こうした技術の背景を知る上で、統計的・確率的な考え方は重要な役割を果たす。本講義では、統計的・確率的な見方が実現象の解析の中で役立つのかという実際面を通して、統計と確率の世界をみていくことにする。						
授業における学修の到達目標						
1. 確率的・統計的な思考を通して現象を読み解くことができる						
2. 計算機を援用して、不規則な現象の分析を科学的な観点から検討することができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE で本科目の学習内容について確認する				2.0
	授業	本科目の学習内容と学習方法について確認する(ガイダンス) 実現象の分析における確率的・統計的思考の重要性を学習する				
	事後学修	受講者アンケートを POLITE で確認し、回答する				1.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 2 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	確率分布とその種類について学習する				
	事後学修	2 回目講義の宿題を POLITE で確認, 2 回目講義の宿題(問)を実施する				2.0
3	事前学修	2 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 3 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	観測値のヒストグラムから確率分布を推定する考え方を学習する				
	事後学修	3 回目講義の宿題を POLITE で確認, 3 回目講義の宿題(問)を実施する				2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 4 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	相関関係の度合いが回帰モデルの利用に及ぼす影響について学習する				
	事後学修	4 回目講義の宿題を POLITE で確認, 4 回目講義の宿題(問)を実施する				2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 5 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	様々な確率分布に従う人工的乱数と、時系列データの人工的乱数の生成方法について学習する				
	事後学修	5 回目講義の宿題を POLITE で確認, 5 回目講義の宿題(問)を実施する				2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 6 回目で学習する内容を確認する				2.0
	授業	ゲームの勝敗に関する確率的モデルを学習する				

	事後学修	6 回目講義の宿題を POLITE で確認, 6 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 7 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	資産運用のポートフォリオ効果について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題を POLITE で確認, 7 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 8 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	時系列データの相関関係を推定する方法について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題を POLITE で確認, 8 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 9 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	時系列データのスペクトル構造を推定する方法について学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題を POLITE で確認, 9 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 10 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	単回帰モデルを用いた量的データのモデル化について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題を POLITE で確認, 10 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 11 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	重回帰モデルを用いた量的データのモデル化について学習する	
	事後学修	11 回目講義の宿題を POLITE で確認, 11 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 12 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	主成分分析とその応用について学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題を POLITE で確認, 12 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 13 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	2 値データに対するロジットモデルについて学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題を POLITE で確認, 13 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 14 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	名義尺度のデータを説明変数としたモデル化について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題を POLITE で確認, 14 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を POLITE へ提出する 15 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	順序尺度のデータを説明変数とした質的データのモデル化について学習する	
	事後学修	15 回目講義の宿題を POLITE で確認, 15 回目講義の宿題(問)を実施する	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■ 試験 60% ■ 平常点(40%, レポート・小テスト等で評価)			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
各回の学習が終わった後に出される宿題やレポート課題は, 解決のヒントを POLITE にアップロードすることがありますので, 確認しながら学習を進めてください。解決方法がどうしてもわからない場合, メール等で教員に相談していただければ			

ば、ヒントを示します。	
教科書	書名：データサイエンス演習 (改訂版), 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	POLITE の「メディアの確率と統計」のページ
単位修得が望ましい科目	確率論, 統計学, BI とビッグデータⅠ, BI とビッグデータⅡ
備考	R 言語環境を用いた計算機実習があります。
担当教員の実務経験	企業の研究所において、データ科学に基づく投資の技術開発に携わってきた。本講義で扱う内容は、データ科学の方法を学ぶための数学的な基礎となる。統計学そのものを学術的な観点から紹介することと併せて、企業の技術開発の中で、統計の考え方がどのように役立っているかという実務面についても紹介したい。

暗号の数学 Mathematics for Cryptography

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IBC204
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
テーマ：現代暗号の数理的基礎と実装を学ぶ						
現代のネットワーク社会を支える暗号技術について、その基礎となる整数論および代数学の初歩から解説する。数式の厳密な証明よりも、暗号が守られる論理的な仕組みの理解に重点を置く。また、本講義は CDIO プロセスの「Implement（実装）」を重視し、Google Colab を用いた暗号アルゴリズムの動作実験・検証を行うことで、数理的な理論が実際に機能する様子を体験的に学習する。						
授業における学修の到達目標						
1. 剰余演算，ユークリッドの互除法などの基礎的な整数論の手計算ができる。						
2. 公開鍵暗号（RSA，楕円曲線暗号）の仕組みと安全性の根拠（素因数分解問題，離散対数問題）を説明できる。						
3. Python（Google Colab）を用いて，暗号アルゴリズムのパラメータを変更しながら動作実験（実装・検証）を行い，結果を考察できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE に自己登録する。講義予習動画を視聴し，要点をノートにまとめる。				2.0
	授業	反転授業，演習：【ガイダンスと演習環境の準備】 講義の進め方，成績評価基準の説明，および Google Colab のセットアップと基本操作演習を行う。				
	事後学修	Google Colab 上で Python の動作確認（Hello World 等）を行い，スクリーンショットを提出する。また，POLITE の課題に回答する。				2.0
2	事前学修	講義予習動画を視聴し，例示した暗号の仕組みをノートにまとめる。				2.0
	授業	反転授業，演習：【暗号の歴史と古典暗号】 暗号の役割，古典的な暗号（シーザー暗号）の仕組みと，基礎となる「余り」の世界を解説する。				
	事後学修	Google Colab を用いて，シーザー暗号（文字のシフト）の実装実験を行う。また，POLITE の課題に回答する。				2.0
3	事前学修	講義予習動画を視聴し，コンピュータにおける 2 進数と XOR（排他的論理和）の演算ルールをノートにまとめる。				2.0
	授業	反転授業，演習：【共通鍵暗号と XOR】 バーナム暗号から現代のブロック暗号（AES）への進化，および利用モード（ECB/CBC）の違いによる安全性を解説する。				
	事後学修	Google Colab 上で画像データを暗号化し，モードの違いによる見た目の変化を検証する。また，POLITE の課題に回答する。				2.0
4	事前学修	講義予習動画を視聴し，素数の定義および約数・倍数の性質についてノートにまとめる。				2.0
	授業	反転授業，演習：【整数の基礎と素数】 約数・倍数，素数と素因数分解，エラトステネスの篩について演習を行う。				
	事後学修	巨大な数の素因数分解にかかる時間を計測・検証する。また，POLITE の課題に回答する。				2.0
5	事前学修	講義予習動画を視聴し，素数の定義および約数・倍数の性質についてノートにまとめる。				2.0
		反転授業，演習：【整数の基礎と素数】				

		約数・倍数、素数と素因数分解、エラトステネスの篩について演習を行う。 巨大な数の素因数分解にかかる時間を計測・検証する。また、POLITE の課題に回答する。 講義予習動画を視聴し、最大公約数の求め方（筆算の手順）をノートにまとめる。	
	授業	反転授業、演習:【最大公約数とユークリッドの互除法】 2つの数の最大公約数を効率的に求めるアルゴリズムを解説する。	
	事後学修	互除法の手計算演習を行い、課題を提出する。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
6	事前学修	講義予習動画を視聴し、前回の互除法の計算手順を復習し、要点をノートにまとめる。	2.0
	授業	反転授業、演習:【拡張ユークリッドの互除法】 1次不定方程式の解法および暗号の「鍵」生成への応用を解説する。	
	事後学修	拡張互除法を用いて逆元を求める計算演習を行う。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
7	事前学修	講義予習動画を視聴し、時計の計算（13時は1時）のルールと合同式の定義をノートにまとめる。	2.0
	授業	反転授業、演習:【合同式（Mod）の世界】 合同式の定義と、加減乗除のルール（剰余演算）について演習を行う。	
	事後学修	Mod 演算を用いた計算ドリル（POLITE）に取り組む。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
8	事前学修	講義予習動画を視聴し、累乗（べき乗）の計算ルールを整理し、ノートにまとめる。	2.0
	授業	反転授業、演習:【フェルマーの小定理とオイラーの定理】 べき乗計算の性質と、RSA 暗号の復号原理となる定理を解説する。	
	事後学修	定理が実際に成り立つか、Python を用いて数値検証する。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
9	事前学修	講義予習動画を視聴し、共通鍵暗号のデメリットおよび公開鍵暗号の基本概念をノートにまとめる。	2.0
	授業	反転授業、演習:【公開鍵暗号と DH 鍵共有】 鍵配送問題の解決策としての公開鍵暗号、Diffie-Hellman 鍵共有法を学ぶ。	
	事後学修	鍵共有プロトコルのシミュレーション実験を行う。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
10	事前学修	講義予習動画を視聴し、オイラーの定理（第 8 回）の内容を振り返り、公式をノートにまとめる。	2.0
	授業	反転授業、演習:【RSA 暗号：仕組みと実装】 RSA 暗号の鍵生成、暗号化、復号のアルゴリズムを解説し、安全性（素因数分解の困難性）の実装実験を行う。	
	事後学修	Python で RSA 鍵生成・暗号化・復号プログラムを実行・検証する。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
11	事前学修	講義予習動画を視聴し、対数（log）の定義と基本的な性質についてノートにまとめる。	2.0
	授業	反転授業、演習:【離散対数問題と ElGamal 暗号】 「回数」を当てる難しさを利用した暗号方式と離散対数問題について学ぶ。	
	事後学修	離散対数問題の解を探索する実験を行う。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
12	事前学修	講義予習動画を視聴し、デジタル署名の仕組みと社会的役割についてノートにまとめる。	2
	授業	反転授業、演習:【ハッシュ関数と電子署名】 改ざん検知と本人確認の仕組み、ブロックチェーンへの応用を解説する。	
	事後学修	ハッシュ値の衝突困難性に関する検証実験を行う。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
13	事前学修	講義予習動画を視聴し、楕円曲線の概形と特徴についてノートにまとめる。	2.0
	授業	反転授業、演習:【楕円曲線暗号（1）幾何学的な足し算】 楕円曲線のグラフと、図形的な「点の足し算」のルールを視覚的に学ぶ。	
	事後学修	楕円曲線上の点加算デモを操作し、演算規則を理解する。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
14	事前学修	講義予習動画を視聴し、DH 鍵共有（第 9 回）の流れを復習し、手順をノートにまとめる。	2.0
	授業	反転授業、演習:【楕円曲線暗号（2）ECDH 鍵共有】 楕円曲線を用いた鍵共有方式と、短い鍵長で安全性が保たれる理由を学ぶ。	

	事後学修	実際に楕円曲線を用いた鍵共有プロセスを実験する。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
	事前学修	講義予習動画を視聴し、NIST や CRYPTREC の概要および等価安全性の概念についてノートにまとめる。	2.0
15	授業	反転授業、演習:【未来の暗号 (PQC) 】 量子コンピュータの脅威と、それに耐えうる次世代暗号 (耐量子計算機暗号) を紹介する。	
	事後学修	格子暗号の概念 (格子点探索) に関するデモを実行する。また、POLITE の課題に回答する。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験: 0% ■小テスト: 60% □レポート: 0% □演習課題: 0% ■その他[Google Colab での実験結果と講義ノートの提出]: 40%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE 上の小テストは即時採点されフィードバックされます。			
教科書			
参考書・Web サイト		・結城浩, 2015: 暗号技術入門 - 秘密の国のアリス -, SB クリエイティブ, 978-4-7973-8222-8	
単位修得が望ましい科目		特に無し	
備考		3 年前期「サイバーセキュリティの技術」の前提科目となっています。	
担当教員の実務経験		通算で 15 年程度、大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また、他大学と連携した学際研究拠点の公開サーバ複数台を構築し運用している。これらの経験を踏まえ、現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。	

発想法演習 Idea Generation Practical

担当教員	近澤 潤 (330 研究室), 安田 光孝 (135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IBC205	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(5),(6)				
授業概要						
本科目は、創造的な思考力を育成することを目的とした演習形式の授業である。 現代社会では技術革新が加速し、複雑化する課題に対応するため、柔軟で新しい視点からの問題解決が求められている。そこで、ブレインストーミング、マインドマップ、KJ 法など、多様な発想法を用いてアイデア創出や問題解決を体験することを目的とする。個人ワークとグループワークを組み合わせ、柔軟な思考と協働的な発想力を磨くことを重視する。思い込み（バイアス）を取り除き、自由な発想を引き出す手法にも取り組むほか、アイデアの評価や具体化のプロセスを体験する。 CDIO のフレームワークにおいては、Conceive (構想)の部分を講義で扱う。						
授業における学修の到達目標						
将来変化の激しい社会でイノベーションを起こして、地域や企業などの持続可能な成長を支えるための基礎的素養を習得し、今後のプロジェクト活動や制作活動などに活用できるようになることを目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読み、わからないことをメモする。				2.0
	授業	シラバスの説明、発想力が求められる社会的背景、イノベーションの重要性				
	事後学修	POLITE の教材を用いて、社会的な背景とイノベーションの重要性について復習し、ノートにまとめる。				2.0
2	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。				2.0
	授業	アイデア発想の基本、グループで発想するために必要なこと				
	事後学修	POLITE の教材を用いて、アイデア発想の基本やグループでの発想について復習し、ノートにまとめる。				2.0
3	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。				2.0
	授業	<グループワーク>KJ 法を用いて情報を整理する				
	事後学修	グループワークにおいて作成した内容を確認し、十分に把握する。わからない用語は調べる。				2.0
4	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。				2.0
	授業	<グループワーク>KJ 法を使って新しいアイデアを生み出す				
	事後学修	グループ演習において作成した内容を確認し、十分に把握する。わからない用語は調べる。				2.0
5	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。				2.0
	授業	マンダラートを用いて目標を考える				
	事後学修	友人や知人に作成したものを見てもらいコメントをもらう。				2.0
6	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。				2.0
	授業	ロジックツリーを用いて構造を分解する				
	事後学修	友人や知人に作成したものを見てもらいコメントをもらう。				2.0
7	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。				2.0

	授業	SWOT 分析などの分析手法を用いて状況を把握する	
	事後学修	友人や知人に作成したのを見てもらいコメントをもらう。	2.0
	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。	2.0
8	授業	5W2H 思考を用いて発想を引き出す	
	事後学修	友人や知人に作成したのを見てもらいコメントをもらう。	2.0
	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。	2.0
9	授業	5W2H 思考を用いて発想をさらに引き出す	
	事後学修	友人や知人に作成したのを見てもらいコメントをもらう。	2.0
	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。	2.0
10	授業	なぜなぜ分析を用いて問題を深掘りする	
	事後学修	友人や知人に作成したのを見てもらいコメントをもらう。	2.0
	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。	2.0
11	授業	なぜなぜ分析を用いて問題をさらに深掘りする	
	事後学修	友人や知人に作成したのを見てもらいコメントをもらう。	2.0
	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。	2.0
12	授業	これまでの発想技法を用いてイベントを企画する（情報収集・整理）	
	事後学修	関連するイベントや情報を調べ、メモする。	2.0
	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。	2.0
13	授業	これまでの発想技法を用いてイベントを企画する（発想）	
	事後学修	関連するイベントや情報を調べ、メモする。	2.0
	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。	2.0
14	授業	これまでの発想技法を用いてイベントを企画する（企画書作成）	
	事後学修	データの整理や誤字脱字修正を行い、共有する準備を行う。	2.0
	事前学修	前回提出した課題に対するフィードバックを確認し、改善を図る。	2.0
15	授業	これまでの発想技法を用いてイベントを企画する（共有）	
	事後学修	もらったコメントを参考に、改善案を模索する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中および POILTE など適宜フィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、担当教員より提示します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	担当者の一人は、アイリーニ・デザイン思考センターが提供するデザイン思考ファシリテータ養成プログラムを終了し、デザイン思考ワークショップのファシリテータを行ってきた。また、一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務を経験している。

	担当者の一人は、アイリーニ・デザイン思考センターが提供するデザイン思考ファシリテータ養成プログラム、東京大学 i.School のイノベーション教育ファシリテータ養成プログラムを修了し、数々のデザイン思考ワークショップのファシリテータを行ってきた。その経験を講義で活用する。また、フィンランド OAMK Lab に 6 ヶ月間招聘研究員として滞在した際に受けたワークショップ、手法も講義に還元する。

ICT入門 Introduction to ICT

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室), 辻 順平 (223 研究室), 湯村 翼 (315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IBC103	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2)				
授業概要						
テーマ：ICT の基礎技術を習得する 現在の情報化社会においてコンピュータを自由自在に利活用できる技術は必要不可欠なものになっています。コンピュータを自由自在に利活用するとは、単にソフトウェアの使い方がわかるということだけではなく、自分に必要なコンピュータ環境を自ら構築し、その中で必要とされるソフトウェアを自由自在に操ることができるということを意味します。本講義では、自分に必要とされるコンピュータ環境の作成方法、及び、必須とされるソフトウェアの使い方を実習により学習します。また、授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行う。						
授業における学修の到達目標						
コンピュータとはどのようなものであるかを理解し、また、自分の目的に合ったコンピュータ環境の作成方法、更に、その環境、及び、ソフトウェアの利用技術を習得することを目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。本学 P C の利用方法を把握しておく。				2
	授業	ガイダンス、コンピュータとは、大学のコンピュータ環境				
	事後学修	POLITE の第 1 回目講義資料「コンピュータとは、大学のコンピュータ環境」を復習する				2
2	事前学修	テキストを利用し、Windows のウィンドウの操作、エクスプローラの操作を把握しておく。				2
	授業	Windows の操作基礎 -ウィンドウの操作、エクスプローラの操作 実習				
	事後学修	POLITE の第 2 回目講義資料「Windows の操作基礎 -ウィンドウの操作、エクスプローラの操作」を復習する				2
3	事前学修	テキストを利用し、Windows におけるファイルのコピー、移動、ファイルの圧縮などの基本操作について把握しておく。				2
	授業	Windows の操作基礎 -ファイルの操作 実習				
	事後学修	POLITE の第 3 回目講義資料「Windows の操作基礎 -ファイルの操作」を復習する				2
4	事前学修	テキストを利用し、Windows の設定画面における環境設定方法やコントロールパネルによる環境設定方法を把握しておく。				2
	授業	Windows の環境設定 実習				
	事後学修	POLITE の第 4 回目講義資料「Windows の環境設定」を復習する				2
5	事前学修	Windows のコマンドプロンプトの基本的な使い方、基本的なコマンドについて把握しておく。				2
	授業	Windows の操作基礎 -コマンドプロンプトの使い方 実習				
	事後学修	POLITE の第 5 回目講義資料「Windows の操作基礎 -コマンドプロンプトの使い方」を復習する				2
6	事前学修	情報倫理とは何か、情報倫理に関係する内容を事前調査しておく。				2

	授業	情報倫理ビデオ教材視聴	
	事後学修	テキスト「スライドで学ぶ ICT 入門」の情報倫理の章を読み復習する	2
7	事前学修	テキストを利用し、メーラの使い方、PCメールの基本的な書き方について把握しておく。	2
	授業	メールの正しい書き方 実習	
	事後学修	POLITE の第 7 回目講義資料「メールの正しい書き方」を復習する	2
8	事前学修	テキストを利用し、インターネットにはどのような情報が存在し、どのように利用することで学習や作業の効率化が図れるか事前調査しておく。	2
	授業	インターネットの使い方 実習	
	事後学修	POLITE の第 8 回目講義資料「インターネットの使い方」を復習する	2
9	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Word の基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Word 基礎編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 9 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Word 基礎編-」を復習する	2
10	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Word を利用した美しく整った文書の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Word 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 10 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Word 応用編-」を復習する	2
11	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel の基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 基礎編- 実習	
	事後学修	POLITE3 の第 11 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 基礎編-」を復習する	2
12	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel における関数を利用した計算方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 12 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編-」を復習する	2
13	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel における条件付き書式やピボットテーブルについて把握しておく。また、プレゼンテーションとは何かを把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- + Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 基礎編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 13 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- + Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-」を復習する	2
14	事前学修	テキストを利用し、Microsoft PowerPoint の基本的な利用方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 14 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 応用編-」を復習する	2
15	事前学修	テキストを利用し、Microsoft PowerPoint を利用した効果的なプレゼンテーション資料の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 実践編- 実習	

	事後学修	POLITE の第 15 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 実践編-」を復習する	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。			
☐ 試験： % ■小テスト：20% ☐ レポート： % ■演習課題：80% ☐ その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE により課題に対する評価をフィードバックする			
教科書	書名：【電子教科書】スライドで学ぶ ICT 入門 Windows11/Office2021, 著者名：長尾光悦, 出版社：コロナ社, 備考：		
参考書・Web サイト	特になし		
単位修得が望ましい科目	なし		
備考	なし		
担当教員の実務経験	通信機器設計開発業務経験 9 年の経験をふまえ, ICT に関する授業を進める。		

ビジュアルプログラミング演習 Visual Programming Practical

担当教員	佐野 和哉(132 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IBC206	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(6)				
授業概要						
本講義では、ビジュアルプログラミングの基礎から応用までを実習で学び、TouchDesigner を用いたインタラクティブな表現技術を習得します。前半では、TouchDesigner の基本操作、入力デバイスとの連携、音や画像、映像の取り扱いについて学び、視覚的なプログラミングの概念を理解します。後半では、CG 表現の応用や外部機器との連携、スクリプトを活用した高度なプログラミング手法を学び、創造的なメディアアート作品の制作に取り組みます。最終課題として、各自のアイデアを形にした作品を制作し、発表会で成果を共有します。実践を通じて、インタラクティブなビジュアル表現の可能性を探求し、表現力を高めることを目指します。音や映像による空間演出やアート作品の制作に興味があるという方はぜひ受講してください。						
授業における学修の到達目標						
本講義では、TouchDesigner を用いたビジュアルプログラミングの技術を習得する。受講生は、音声処理や映像処理を用いたインタラクティブな表現の実現方法を学び、アイデアを形にする力を身につける。最終的には自分が作りたい作品を制作できる力を身につけることを目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	TouchDesinger やビジュアルプログラミングについて調べる				2
	授業	ビジュアルプログラミング概要				
	事後学修	TouchDesinger やビジュアルプログラミングについてまとめる				2
2	事前学修	TouchDesigner のオペレータについて調べる				2
	授業	TouchDesigner 基礎(1)：オペレータ				
	事後学修	TouchDesigner のオペレータについて演習を行い理解を深める				2
3	事前学修	TouchDesigner の入力について調べる				2
	授業	TouchDesigner 基礎(2)：入力				
	事後学修	TouchDesigner の入力について演習を行い理解を深める				2
4	事前学修	TouchDesigner の音声処理について調べる				2
	授業	TouchDesigner 基礎(3)：音声				
	事後学修	TouchDesigner の音声処理について演習を行い理解を深める				2
5	事前学修	TouchDesigner の画像処理について調べる				2
	授業	TouchDesigner 基礎(4)：画像 1				
	事後学修	TouchDesigner の画像処理について演習を行い理解を深める				2
6	事前学修	TouchDesigner の画像処理について調べる				2
	授業	TouchDesigner 基礎(5)：画像 2				
	事後学修	TouchDesigner の画像処理について演習を行い理解を深める				2
7	事前学修	TouchDesigner の映像処理について調べる				2
	授業	TouchDesigner 基礎(6)：映像 1				
	事後学修	TouchDesigner の映像処理について演習を行い理解を深める				2

8	事前学修	TouchDesigner の映像処理について調べる	2
	授業	TouchDesigner 基礎(7)：映像 2	
	事後学修	TouchDesigner の映像処理について演習を行い理解を深める	2
9	事前学修	TouchDesigner の CG について調べる	2
	授業	TouchDesigner 応用(1)：CG1	
	事後学修	TouchDesigner の CG について演習を行い理解を深める	2
10	事前学修	TouchDesigner の CG について調べる	2
	授業	TouchDesigner 応用(2)：CG2	
	事後学修	TouchDesigner の CG について演習を行い理解を深める	2
11	事前学修	TouchDesigner の外部機器連携について調べる	2
	授業	TouchDesigner 応用(3)：外部機器連携	
	事後学修	TouchDesigner の外部機器連携について演習を行い理解を深める	2
12	事前学修	TouchDesigner のスクリプトについて調べる	2
	授業	TouchDesigner 応用(4)：スクリプト	
	事後学修	TouchDesigner のスクリプトについて演習を行い理解を深める	2
13	事前学修	最終課題制作に取り組む	2
	授業	最終課題制作(1)	
	事後学修	最終課題制作のテーマを考える	2
14	事前学修	最終課題制作に取り組む	2
	授業	最終課題制作(2)	
	事後学修	最終課題制作に取り組む	2
15	事前学修	最終課題発表会の準備を行う	2
	授業	最終課題発表会	
	事後学修	授業で得た知見についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

■レポート：30% ■演習課題：70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業資料やレポートは POLITE のレポート機能または、共有ディレクトリを使ってやり取りします。

教科書	
参考書・Web サイト	Visual Thinking with TouchDesigner (BNN) ビジュアルクリエイターのための TOUCHDESIGNER バイブル (誠文堂新光社)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習
備考	なし
担当教員の実務経験	電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

情報メディア特別演習Ⅰ Information Media Applied Practical 1

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMC319	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
高度に情報化された社会で、職業人として ICT を有効活用するために必要不可欠な基礎知識の定着を目的とした科目です。 コンピュータの基礎要素であるハードウェアとソフトウェアから始め、それらを意図した通りに動かすためのアルゴリズムとその実現手段であるプログラミングについて扱います。 その後、コンピュータを中心とした情報システムを支えるデータベース・ネットワーク・マルチメディア及び情報セキュリティについて取り扱います。 その後、情報システムの開発とそのマネジメントを学び、情報システム分野に関連する法規や標準について学びます。 講義は教科書に書いてある事をベースにプレゼンテーション資料など各種コンテンツで補いながら進めますので、必ずメモを取る様にしてください。 成績は随時課す小テストの成果と必要に応じ課されるレポートをもとに評価します。 授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（LMS）」を利用して行います。						
授業における学修の到達目標						
ICT に関する基本的な知識の再確認をして定着させる事						
IT パスポート試験の合格						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の準備、タブレット端末への電子教科書および特典アプリケーションのインストール				2
	授業	初修ガイダンス・資料映像の鑑賞				
	事後学修	指定した教科書の範囲の予習				2
2	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	ハードウェア				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
3	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	ソフトウェア				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
4	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	コンピュータで扱うデータ データベース				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
5	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	ネットワーク				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
6	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	セキュリティ				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2

7	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	システムの導入	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
8	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	システム開発とプロジェクトマネジメント	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
9	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	企業活動と IT の活用	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
10	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	法務と財務	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
11	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	2 進数の計算／基数変換	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
12	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	システムの性能評価	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
13	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	アルゴリズムとデータ構造	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
14	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	アローダイアグラム／順列と組合せ	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
15	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	全開講回の振り返り 未完・未着手の小テストへの取り組み	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

教科書	書名：かんたん合格 IT パスポート教科書 令和 8 年度, 著者名：坂下 タ里 著/ラーニング編集部 著, 出版社：インプレスブックス, 備考：（学内販売を行わない場合があります。その場合は出版社の Web サイト https://book.impress.co.jp/books/1121101059 から「電子版」を優先して購入してください。）
参考書・Web サイト	講義中に適宜紹介
単位修得が望ましい科	なし

目	
備考	この科目は、情報処理の促進に関する法律第 7 条第 1 項に基づき経済産業大臣が行う国家試験である情報処理技術者試験の内「IT パスポート」を取得する上で必要な知識を扱っています。この科目で扱っていない内容を自主的に勉強する事によって、資格取得に役立ちます。
担当教員の実務経験	なし

経営系科目 A <ベンチャービジネス論> Business Administration A

担当教員	坂本 英樹(321 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMC302	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
ベンチャービジネスの主要なプロセスはイノベーションとマーケティングに基づいた新たな市場の開拓である。 Schumpeter の『景気循環論』によると、通常市場は均衡しており同じレベルで経済システムが循環している。そこになんらかの理由で外生的に生まれた科学の成果や発見が出現すると、そのもたらす新結合の可能性を見抜いた企業者が登場する。ベンチャーキャピタルやエンジェルによってかれらに信用創造が行われるとイノベーションが生まれ、経済の循環軌道が上方に離れて経済発展が生起する。 こんにち、デジタル化が社会に大きな変化をもたらしている。デジタルトランスフォーメーションによるビジネスモデルの変革は「民主化」と「中抜き現象」を生起させ、生産コストの低下と技術使用の簡易化によって広範な層の人びとがコンテンツ、情報、財やサービスにアクセスでき、それらの生成までできるようになり、製品やコンテンツは伝統的仲介を迂回して直接見込み顧客に到達可能になった。 小売業界におけるアマゾン、タクシー業界におけるウーバー・テクノロジーズ、ホテル業界におけるエアビーアンドビーをはじめとする企業は、まったく新しいビジネスモデルを生みだし既存企業にとってかわっている。生産者余剰はシェアリングエコノミーのプラットフォームが独占し、旧来型の生産者がかつて確保していた生産者余剰は押しつぶされている。 こうした環境を踏まえ、ベンチャービジネス論ではイノベーションとはいかなる概念なのか、ベンチャー企業創造の出発点となる新しい価値を生み出すアイデアと起業機会はいかにして発見されるのか、アイデアを具現化するイノベーションの概念、ビジネスモデルの構築、ベンチャービジネスの資金調達、ベンチャービジネスを成功に導いてくれる競争戦略の最新理論に関する理論を学習していく。						
授業における学修の到達目標						
・ベンチャービジネス論の理論の習得をとおして、新しい価値を生み出すアイデアを創出し、アイデアを具現化するイノベーションの本質を理解することができるようになる。 ・競争優位をコンカレントに生みだし続ける組織能力、そのケイパビリティを有するビジネスモデルを理解することができるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	ガイダンス				
	事後学修	ガイダンスを踏まえて教科書を参照しながら、改めて授業全体の内容を把握する。				2.0
2	事前学修	教科書の「ベンチャービジネスとは何か」を読んでポイントをまとめる。				2.0
	授業	ベンチャービジネスとは何か				
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ベンチャービジネスとは何かを整理する。				2.0
3	事前学修	教科書の「Schumpeter のイノベーション」を読んでポイントをまとめる。				2.0
	授業	Schumpeter のイノベーション				
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、Schumpeter のイノベーションを整理する。				2.0
4	事前学修	教科書の「Schumpeter 以外のイノベーション」を読んでポイントをまとめる。				2.0
	授業	Schumpeter 以外のイノベーション				
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、Schumpeter 以外のイノベーションを整理する。				2.0
5	事前学修	教科書の「ドメインとコンセプトの概念」を読んでポイントをまとめる。				2.0

	授業	ドメインとコンセプトの概念	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ドメインとコンセプトの概念を整理する。	2.0
6	事前学修	教科書の「マーケティングマイオピア」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	マーケティングマイオピア	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケティングマイオピアを整理する。	2.0
7	事前学修	教科書の「花王のコンセプト・富士フィルムグループのコンセプト」を読んで、ポイントをまとめる。	2.0
	授業	花王のコンセプト・富士フィルムグループのコンセプト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、花王のコンセプト・富士フィルムグループのコンセプトを整理する。	2.0
8	事前学修	教科書の「ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）」を読んで、ポイントをまとめる。	2.0
	授業	ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）を整理する。	2.0
9	事前学修	教科書の「ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）」を読んで、ポイントをまとめる。	2.0
	授業	ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）を整理する。	2.0
10	事前学修	教科書の「競争戦略」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	競争戦略	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、競争戦略を整理する。	2.0
11	事前学修	教科書の「会社設立・財務諸表」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	会社設立・財務諸表	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、会社設立・財務諸表を整理する。	2.0
12	事前学修	教科書の「ベンチャービジネスと資本市場」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	ベンチャービジネスと資本市場	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ベンチャービジネスと資本市場を整理する。	2.0
13	事前学修	教科書の「アントレプレナーシップ」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	アントレプレナーシップ	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、アントレプレナーシップを整理する。	2.0
14	事前学修	教科書の「アイデアと起業機会」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	アイデアと起業機会	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、アイデアと起業機会を整理する。	2.0
15	事前学修	試験の準備として 10-14 回の内容を復習する。	2.0
	授業	総括 試験	
	事後学修	試験を踏まえて講義内容を総括する。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
下記の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。			
■試験：90% ■平常点：10%（講義中の発言）			

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
採点答案の開示	
教科書	書名：経営学とベンチャービジネス, 著者名：坂本英樹, 出版社：白桃書房, 備考：
参考書・Web サイト	適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	経営系科目 B（マーケティング論） 経営系科目 C（デジタルマーケティング）
備考	該当なし
担当教員の実務経験	該当なし

Webビジネス論（情報メディア学科は「経営系科目B<Webビジネス論>」） Business Administration B

担当教員	佐野 和哉(132 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IMC313
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
本講義では、Web の歴史や身近に存在する Web サービスのビジネスモデルについて Web1.0～Web3.0 の時代区分に沿って概観しつつ、各時代を支えてきた Web 関連技術について理解を深める。 企業事例や身近な Web サービスを題材に、グループワークや分析演習を通じて、Web ビジネスの設計や改善の考え方を身に付ける。 なお、この授業は、本学が開発した LMS（POLITE）を利用して実施する。						
授業における学修の到達目標						
・ Web ビジネスの基本概念、主要なビジネスモデルや仕組みを理解する。 ・ 企業事例や身近な Web サービスを分析し、課題や改善の方向性を考察できるようになる。 ・ グループワークを通じて、Web サービスの改善案や事業計画を立案し、論理的に発表できるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	事前にシラバスを確認し、講義全体を概観する。				2.0
	授業	ガイダンス				
	事後学修	POLITE をもとに、講義の全体像を復習する。				2.0
2	事前学修	身近な Web サービスをネットで調べる。				2.0
	授業	Web ビジネスの基本概念、B2B/B2C の違い				
	事後学修	POLITE をもとに、Web サービスを復習する。				2.0
3	事前学修	ビジネスモデルの種類（サブスクリプション、広告型、EC など）				2.0
	授業	サービスマネジメントの基本フレームワーク				
	事後学修	POLITE をもとに、自分の事例をモデル分類して整理・復習する。				2.0
4	事前学修	主要な Web 企業の事例を調べる。				2.0
	授業	成功事例・失敗事例の分析				
	事後学修	事例分析の結果をまとめ POLITE にて提出する。				2.0
5	事前学修	Web 1.0～3.0 についてをネットで調べる。				2.0
	授業	Web の進化（Web1.0→Web2.0→Web3.0）と特徴				
	事後学修	POLITE をもとに、Web の世代ごとの違いを復習する。				2.0
6	事前学修	デジタルプラットフォームの事例を調べる。				2.0
	授業	プラットフォームビジネスの仕組みと特徴				
	事後学修	POLITE をもとに、プラットフォーム型サービスの仕組みを復習する。				2.0
7	事前学修	EC サイトやアプリの事例を調べる。				2.0
	授業	EC・アプリビジネスの運営・課題				
	事後学修	POLITE をもとにアプリビジネスについて復習する。				2.0
8	事前学修	データ活用事例を調べる。				2.0

	授業	Web ビジネスにおけるデータ活用（アクセス解析、顧客分析）	
	事後学修	POLITE をもとに、自分の事例に適用できる点を確認する。	2.0
	事前学修	グループで扱うサービス候補を事前に調査する。	2.0
9	授業	グループワーク①：テーマ決定・Web1.0～3.0 の概要調査	
	事後学修	POLITE をもとに、調査結果を整理し、次回課題の準備をする。	2.0
	事前学修	各世代の特徴と課題をまとめる。	2.0
10	授業	グループワーク②：課題分析（Web1.0～3.0 の比較）	
	事後学修	POLITE をもとに、課題分析を整理し、発表の方向性を考える。	2.0
	事前学修	前回の分析を確認し、今後の展望について考える	2.0
11	授業	グループワーク③：課題改善・今後の展望について	
	事後学修	POLITE をもとに、課題改善案や展望についてまとめる	2.0
	事前学修	前回の案を整理し、補足情報を調べる。	2.0
12	授業	グループワーク④：プレゼン資料作成	
	事後学修	資料の最終チェック、発表練習を行う。	2.0
	事前学修	発表資料の準備	2.0
13	授業	中間発表・フィードバック	
	事後学修	POLITE をもとに、フィードバックを整理し、計画案の修正を行う。	2.0
	事前学修	発表内容の最終確認を行う。	2.0
14	授業	最終プレゼンテーション	
	事後学修	POLITE をもとに、他グループの発表内容を振り返り、自グループの改善点をまとめる。	2.0
	事前学修	講義ノートなどを使用しこれまでの復習をする。	2.0
15	授業	講義全体のまとめ・振り返り	
	事後学修	本講義の内容を整理し自身の学びとしてレポートに整理して POLITE に提出する。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。			
■レポート：30% ■演習・課題：70%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE により、レポートや演習課題のフィードバックを行います。演習課題については講義の中で解説します。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて適時指示します。	
単位修得が望ましい科目		デジタルビジネス概論	
備考		なし	
担当教員の実務経験		10 年間にわたる IT 企業勤務の実務経験を活かして、その内容や知見を講義内容に盛り込んでいる。 授業では実務経験を生かすかたちで、Web ビジネス移り変わりや企業の現状について解説を行います。	

経営系科目B＜マーケティング論＞ Business Administration B

担当教員	坂本 英樹(321 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMC313	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
企業は人びとに自らのプロダクトを推奨してもらうために活動している。企業は消費者を知ることとおして自らにとっての顧客を選別し、効果的なビジネス展開をおこなうことができるようになる。						
講義ではマーケティングの理論を学習していく。具体的には、マーケット機会の分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、マーケティングミックスの策定というマーケティングプロセスの考え方を整理する。						
授業における学修の到達目標						
・マーケティング論の理論を習得することとおして、顧客が製品や商品、サービスに対するニーズをもつてから最終的な購入や利用にいたるまでの過程を理解し、自社のプロダクトを継続的に反復的に購買してもらうための組織的な取り組みが理解できるようになる。						
・マーケティングの手法を学ぶこととおして、自らが組織のマーケティングを実行していくことができるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	ガイダンス				
	事後学修	ガイダンスを踏まえて教科書を参照しながら、改めて授業全体の内容を把握する。				2.0
2	事前学修	教科書の「マーケティングの定義」を読んでポイントをまとめる。				2.0
	授業	マーケティングの定義				
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケティングの定義を整理する。				2.0
3	事前学修	教科書の「マーケティングコンセプト」を読んでポイントをまとめる。				2.0
	授業	マーケティングコンセプト				
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケティングコンセプトを整理する。				2.0
4	事前学修	教科書の「ニーズ・ウォンツ・デマンズ・シーズ」を読んで、ポイントをまとめる。				2.0
	授業	ニーズ・ウォンツ・デマンズ・シーズ				
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ニーズ・ウォンツ・デマンズ・シーズを整理する。				2.0
5	事前学修	教科書の「顧客価値」を読んでポイントをまとめる。				2.0
	授業	顧客価値				
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、顧客価値を整理する。				2.0
6	事前学修	教科書の「顧客はなぜ満足するのか」を読んでポイントまとめる。				2.0
	授業	顧客はなぜ満足するのか				
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、顧客はなぜ満足するのかを整理する。確認テストの準備として 1-6 回の内容を復習する。				2.0
7	事前学修	事教科書の「マーケット機会」を読んでポイントをまとめる。				2.0
	授業	マーケット機会 確認テスト				

	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケット機会を整理する。	2.0
8	事前学修	教科書の「マーケットセグメンテーション」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	マーケットセグメンテーション	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケットセグメンテーションを整理する。	2.0
9	事前学修	教科書の「ターゲティング」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	ターゲティング	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ターゲティングを整理する。	2.0
10	事前学修	教科書の「ポジショニング」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	ポジショニング	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ポジショニングを整理する。	2.0
11	事前学修	教科書の「プロダクト」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	プロダクト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、プロダクトを整理する。	2.0
12	事前学修	教科書の「プライス」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	プライス	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、プライスを整理する。	2.0
13	事前学修	教科書の「プレイス」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	プレイス	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、プレイスを整理する。	2.0
14	事前学修	教科書の「プロモーション」を読んでポイントをまとめる。	2.0
	授業	プロモーション	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、プロモーションを整理する。	2.0
15	事前学修	試験の準備として 11-14 回の内容を復習する。	2.0
	授業	総括 試験	
	事後学修	試験を踏まえて講義内容を総括する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

下記の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：90% ■平常点：10%（講義中の発言）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

採点答案の開示

教科書	書名：ここから始める経営学, 著者名：坂本英樹, 出版社：千倉書房, 備考：
参考書・Web サイト	適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	経営系科目 A（ベンチャービジネス論） 経営系科目 C（デジタルマーケティング）
備考	該当なし
担当教員の実務経験	該当なし

デジタルマーケティング（情報メディア学科は「経営系科目C＜デジタルマーケティング＞」） Business Administration C

担当教員	坂本 英樹(321 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IMC321
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
20 世紀初頭に登場したマーケティングはマクロ環境の変化に対応して、製品中心の考え方「マーケティング 1.0」から消費者中心の考え方「マーケティング 2.0」、そして、消費者中心から人間中心の考え方「マーケティング 3.0」へと移行してきた。消費者は、物質的充足にくわえて精神的な豊かさを求めるようになってきている。こうした環境を背景としたマーケティング 3.0 の世界では、企業もまた自社の文化に価値を織り込まなければ参加の時代を構成するクリエイティブな人々を納得させることは不可能となっている。 そして、社会がアナログの世界からデジタルの世界に移行するなかで、企業のマーケティング活動には大幅な見直しが求められている。顧客はもはや企業のセグメンテーションやターゲティングや、ポジショニングの受動的な受け手ではない。「なりたい自分」、「あるべき姿」を発見して自己実現を目指している消費者に購買を促し、かれらによる情報の拡散をとおして顧客を増やすことをめざすマーケティングが生起しているのである。 社会のデジタル化がもたらした社会の接続性は、企業、組織構成員、チャネルパートナー、顧客、その他の関係者間における交流のコストを大幅に低下させ、企業から市場へと縦に進んでいたイノベーションの流れが横になり、企業は顧客コミュニティやパートナーとつながって価値を共創したり、競争相手とつながって協力しなければ高い競争力を維持できなくなっている。 顧客の信頼という概念ももはや縦のものではなく、もの心がついたときからインターネットの世界で生活するデジタルネイティブにとっては、マーケティングコミュニケーションよりも Friends, Families, Facebook fans, Twitter followers であらわされる「F ファクター」が大きな影響力をもつようになった。 こうした環境の中で、顧客がもっとも信頼する横のつながり上に、確実に自社の推奨者が存在する状況を創りだしておくことがこころにちの「マーケティング 4.0」の最大の目的となっている。 社会環境が変化しても学問体系において普遍的な理論が存在する。講義ではマーケティングの基礎理論を習得するとともに、現実のビジネスシーンにおけるマーケティング活動を学習していく。						
授業における学修の到達目標						
・ デジタルマーケティング論を学習することをとおして、デジタル技術が可能にしたマーケティングの新しい手法を実践できるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	ガイダンスを踏まえて、教科書を参照しながら改めて授業全体の内容を把握する。				2
2	事前学修	マーケティングの定義を予習する。				2
	授業	マーケティングの定義				
	事後学修	マーケティングの定義を復習する。				2
3	事前学修	マーケット機会の分析を予習する。				2
	授業	マーケット機会の分析				
	事後学修	マーケット機会の分析を復習する。				2
4	事前学修	セグメンテーションを予習する。				2
	授業	セグメンテーション				

	事後学修	セグメンテーションを復習する。	2
5	事前学修	ターゲティングを予習する。	2
	授業	ターゲティング	
	事後学修	ターゲティングを復習する。	2
6	事前学修	ポジショニングを予習する。	2
	授業	ポジショニング	
	事後学修	ポジショニングを復習する。	2
7	事前学修	マーケティングミックスを予習する。	2
	授業	マーケティングミックス	
	事後学修	マーケティングミックスを復習する。	2
8	事前学修	サービスマーケティングミックスを予習する。	2
	授業	サービスマーケティングミックス	
	事後学修	サービスマーケティングミックスを復習する。	2
9	事前学修	デジタルエコノミーを予習する。	2
	授業	デジタルエコノミー	
	事後学修	デジタルエコノミーを復習する。	2
10	事前学修	DX時代のリテールを予習する。	2
	授業	DX時代のリテール	
	事後学修	DX時代のリテールを復習する。	2
11	事前学修	カスタマージャーニーを予習する。	2
	授業	カスタマージャーニー	
	事後学修	カスタマージャーニーを復習する。	2
12	事前学修	プラットフォームのビジネスモデルを予習する。	2
	授業	プラットフォームのビジネスモデル	
	事後学修	プラットフォームのビジネスモデルを復習する。	2
13	事前学修	アマゾンのビジネスモデルを予習する。	2
	授業	アマゾンのビジネスモデル	
	事後学修	アマゾンのビジネスモデルを復習する。	2
14	事前学修	マーケティング5.0を予習する。	2
	授業	マーケティング5.0	
	事後学修	マーケティング5.0を復習する。	2
15	事前学修	試験準備として講義内容を復習する。	2
	授業	総括 試験	
	事後学修	試験を踏まえて講義内容を総括する。	2

成績評価の方法およびその基準

下記の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：90% ■平常点：10%（講義中の発言）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

採点答案の開示

教科書	書名：ここから始める経営学, 著者名：坂本英樹, 出版社：千倉書房, 備考：
	書名：エッセンシャル講義 流通論教室, 著者名：坂本英樹, 出版社：白桃書房, 備考：
参考書・Web サイト	適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	経営情報学部：経営学への招待 流通の仕組み マーケティング論 ベンチャービジネス論 情報メディア学部：経営系科目 A（ベンチャービジネス論） 経営系科目 B（マーケティング論）
備考	該当なし
担当教員の実務経験	該当なし

ビジネスプラン（情報メディア学科は「経営系科目D＜ビジネスプラン＞」） Business Administration D

担当教員	藤本 直樹(220 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IMC322
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
本講義では、新しいビジネスアイデアや情報通信技術（ICT）などの専門知識を駆使して、企業家精神に富んだ、独創的なビジネスプランを作成する方法を学びます。 現代では、ビジネスの仕組みや経営環境は早いスピードで変化し続けており、企業の規模や業種に関係なく、それらに対応する考え方や手法を身に付ける必要があります。また、社会経済の変化が急激であるということは、それだけ新たなビジネスチャンスが世の中に存在していることでもあります。将来、起業を目指す人だけではなく、皆さんが様々な団体・組織・企業の中で活躍できるよう、組織の運営者や経営者の立場に立ってプランニングの手法を学びます。 この授業は、本学が開発した LMS（POLITE）を利用して行います。						
授業における学修の到達目標						
起業や組織運営の基礎的な考え方から、ビジネスプラン（事業計画書）作成までの基本知識や方法を理解できるようになること。 自らの考えに基づき事業アイデアの企画を立案し、ビジネスプランの市場性、発展性、実現性、採算性等を客観的に評価できるようになること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス（講義の進め方、学修の方法、成績評価の基準、ビジネスプランとは何か 等）				
	事後学修	LMS（POLITE）の第 1 回目学修資料をもとに「授業全体の内容」について復習する				2.0
2	事前学修	LMS（POLITE）の第 2 回目学修資料をもとに「事業アイデアの掘り起こし方法」について予習する				2.0
	授業	事業アイデアの掘り起こし方法				
	事後学修	LMS（POLITE）の第 2 回目学修資料をもとに「事業アイデアの掘り起こし方法」について復習する				2.0
3	事前学修	LMS（POLITE）の第 3 回目学修資料をもとに「ビジネスプランの作成方法」について予習する				2.0
	授業	ビジネスプランの作成方法				
	事後学修	LMS（POLITE）の第 3 回目学修資料をもとに「ビジネスプランの作成方法」について復習する				2.0
4	事前学修	予めビジネスプレコンに提出するビジネスアイデアを検討しておく				2.0
	授業	ビジネスプラン演習①				
	事後学修	教員の指導やビジネスプランの新規性・実現性を踏まえて、検討したビジネスアイデアを見直す				2.0
5	事前学修	ビジネスアイデアを深度化し、予めビジネスプランの骨子を作成しておく				2.0
	授業	ビジネスプラン演習②				
	事後学修	教員の指導を踏まえて、検討したビジネスプランの内容（ターゲット、強み・弱み、競合相手等）を見直す				2.0
6	事前学修	予め検討したビジネスプランの収益性を検討しておく				2.0
	授業	ビジネスプラン演習③				
	事後学修	教員の指導を踏まえて、検討したビジネスプランの収益性（マネタイズ、収支計画）を見直す				2.0
7	事前学修	LMS（POLITE）の第 7 回目学修資料をもとに「IoT、ビッグデータ、人工知能」について予習する				2.0

	授業	IoT、ビッグデータ、人工知能	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 7 回目学修資料をもとに「IoT、ビッグデータ、人工知能」について復習する	2.0
	事前学修	POLITE の第 8 回目学修資料をもとに「経営環境の評価」について予習する	2.0
8	授業	経営環境の評価 (SWOT 分析)	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 8 回目学修資料をもとに「経営環境の評価」について復習する	2.0
	事前学修	LMS (POLITE) の第 9 回目学修資料をもとに「ブルーオーシャン戦略」について予習する	2.0
9	授業	ブルーオーシャン戦略と戦略キャンパス	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 9 回目学修資料をもとに「ブルーオーシャン戦略」について復習する	2.0
	事前学修	LMS (POLITE) の第 10 回目学修資料をもとに「会社の設立方法」について予習する	2.0
10	授業	企業・起業の形態と会社の設立方法、法人格の有無	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 10 回目学修資料をもとに「会社の設立方法」について復習する	2.0
	事前学修	LMS (POLITE) の第 11 回目学修資料をもとに「収支計画」について予習する	2.0
11	授業	資金調達、クラウドファンディング、収支計画の立案	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 11 回目学修資料をもとに「収支計画」について復習する	2.0
	事前学修	LMS (POLITE) の第 12 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析 (勘定科目法)」について予習する	2.0
12	授業	収支予測、損益分岐点分析 (勘定科目法)	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 12 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析 (勘定科目法)」について復習する	2.0
	事前学修	LMS (POLITE) の第 13 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析 (回帰分析法)」について予習する	2.0
13	授業	損益分岐点分析 (回帰分析法)	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 13 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析 (回帰分析法)」について復習する	2.0
	事前学修	LMS (POLITE) の第 14 回目学修資料をもとに「プレゼンテーション」について予習する	2.0
14	授業	プレゼンテーション (伝わりやすい構成、伝わりやすい説明、伝わりやすい表現)	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 14 回目学修資料をもとに「事業計画の改善方法」について復習する	2.0
	事前学修	LMS (POLITE) の第 15 回目学修資料をもとに「事業計画の改善方法」について再確認しておく	2.0
15	授業	事業計画の改善方法 (PDCA サイクル、AISAS の法則、OODA ループ)	
	事後学修	期末試験に向けて、LMS (POLITE) の学修資料や演習課題、それまでの配付資料などをもとに復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験 (50%) □ 小テスト (%) □ レポート (%) ■ 演習課題 (50%)
□ その他 []

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された毎講義の課題やビジネスプランの素案は、速やかに POLITE 上でフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中に適宜、紹介します。
単位修得が望ましい科目	経営学への招待、簿記原理システム論Ⅰ，経営戦略論
備考	受講者は、本学のビジネスプレゼンテーション・コンテストへの参加を必須とします。

	ビジネスプレコン（二次審査）に進出した学生には期末試験を免除します。（優 or 秀が確定）
担当教員の実務経験	道内外において手がけた公共プロジェクトの企画・運営や自身の起業経験などの業務実績を活かし、その内容やノウハウを講義内容に盛り込んでいます。

HTML コーディング演習 HTML Coding Practical

担当教員	齋藤 一 (122 研究室), 齋藤 健司 (314 研究室), 辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		IBT101
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
情報を HTML によって Web ページとして記述することは、今日において重要な表現手法の一つです。Web ページ制作は、必ずしも高度な技術を必要とせず、適切なツールを用いれば、初学者でも情報を表現することが可能です。一方で、情報技術に携わる者には、ユーザにとって分かりやすく、使いやすい高度な情報表現やデザインが求められます。本講義では、Web 制作の基礎となる HTML およびスタイルシート（CSS）を実際に記述しながら、Web デザインを実現するためのコーディングの基礎を、実習を通して学びます。						
授業における学修の到達目標						
・ HTML およびスタイルシート（CSS）を記述し、基本的なレイアウトや装飾を備えた Web ページを作成できるようになる。 ・ コードエディタを用いて、Web ページ制作の基礎的なコーディングができるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読み、授業内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス： 本講義の学習目的や実習の方法を説明する				
	事後学修	授業の内容を復習し、Web 制作における「コーディング」の作業について理解を深める				2.0
2	事前学修	Web 教材「WEB ページの構成や表示の仕組み」を予め読んでおく				2.0
	授業	HTML の構成とタグ： Web ページの構成や表示の仕組みを理解する				
	事後学修	授業の内容を復習し、Web ページの構成や表示の仕組みについて理解を深める				2.0
3	事前学修	Web 教材「アップロードの方法」を予め読んでおく				2.0
	授業	コーディングガイド、アップロード： 簡単な Web ページ制作とアップロードの実習を行う				
	事後学修	授業内容を復習し、課題の作成と提出の方法を確認する				2.0
4	事前学修	自己紹介または地域紹介の Web 制作の内容を調べて決めておく				2.0
	授業	ステップアップ・コーディング 1： 自己紹介または地域紹介の Web を制作する実習を行う。また、制作した Web ページについて、他の学生や SA と改善点がないか等のディスカッションを行う。				
	事後学修	自分や他の学生が制作したページの改善点がないかを検討する				2.0
5	事前学修	Web 教材「CSS を使って Web ページをデザインしよう！」を予め読んでおく				2.0
	授業	スタイルシート： CSS を使った Web ページを制作する実習を行う				
	事後学修	授業内容を復習し、CSS について理解を深める				2.0
6	事前学修	Web 教材「CSS を使った Web デザイン（ID とクラス）」を予め読んでおく				2.0
	授業	ID とクラス：				

		CSS を用いた Web ページを制作する実習を行う	
	事後学修	授業を復習し、ID とクラスの理解を深める	2.0
	事前学修	Web ページ制作して紹介したい観光地を調べておく	2.0
7	授業	ステップアップ・コーディング 2： 観光地を紹介する Web ページを作成する実習を行う。また、制作した Web ページについて、他の学生や SA と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページについて改善点がないかを検討する	2.0
	事前学修	Web 教材「ナビゲーションメニュー」を予め読んでおく	2.0
8	授業	レイアウト： ナビゲーションメニューのある Web ページを制作する実習を行う	
	事後学修	授業を復習し、CSS の理解を深める	2.0
	事前学修	オリジナルのアプリまたはゲームのサイトのイメージを考えておく	2.0
9	授業	ステップアップ・コーディング 3： CSS を使ったオリジナルの Web ページを作成する実習を行う。また、制作した Web ページについて、他の学生や SA と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作したオリジナルの Web ページの改善点がないかを検討する	2.0
	事前学修	Web 開発者向けのツールについて調べてみる	2.0
10	授業	デザインからプロトタイプ作成： Web 開発者向けツールを外観する	
	事後学修	授業で紹介した Web 開発者向けツールの機能を復習する	2.0
	事前学修	Web 教材「ボックスモデル」を予め読んでおく	2.0
11	授業	ボックスモデルに基づいた Web ページ制作の実習を行う	
	事後学修	授業を復習し、ボックスモデルについての理解を深める	2.0
	事前学修	レスポンシブデザインの意味と必要性について調べてみる	2.0
12	授業	レスポンシブデザイン： これまでの課題を改良し、レスポンシブデザインに対応させる実習を行う	
	事後学修	授業を復習し、レスポンシブデザインの理解を深める	2.0
	事前学修	「テーブルとフォーム」について調べておく	2.0
13	授業	ステップアップ・コーディング 4： フォームのある Web ページをデザインする実習を行う。また、制作した Web ページについて、他の学生や SA と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページの相互チェックを行う	2.0
	事前学修	最終課題の内容を考えておく	2.0
14	授業	これまでの技術を用いた課題を作成する。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページについて、ディスカッションを行う。	2.0
	事前学修	これまでの制作内容を振り返り、まとめのページ（リンク集またはポートフォリオサイト）のイメージを考えておく	2.0
15	授業	ふりかえり： これまでに制作した課題へのリンク集を作成する実習を行う	
	事後学修	これまでに制作した課題を整理し、授業を振り返る	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			

■演習課題：100%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
POLITE を通じてコメント等をフィードバックします。	
教科書	
参考書・Web サイト	Mana 著「一冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」第 2 版 SB Creative 大藤幹著「プロを目指す人の HTML&CSS の教科書 [HTML Living Standard 準拠]」マイナビ出版 千貫りこ著「これからはじめる HTML & CSS の本」技術評論社
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習
備考	課題（Web ページ制作）を重視して評価をします。制作の過程も評価の対象としますので，途中まででしか出来上がっていない場合でも，課題は必ず提出するようにしましょう。
担当教員の実務経験	実務経験なし。

メディア技術演習 Media Technologies Practical

担当教員	向田 茂(125 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 辻 順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		IBT102
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
コンピュータは様々な問題を高速に、正確に処理してくれる便利な道具ですが、それらを実現するためには利用者が適切な指示をコンピュータに与えることが必要です。その指示がプログラムです。画像や音声など多様なメディアをコンピュータで処理するためにもプログラムが必要です。本演習では、こうしたプログラムを作成（プログラミングといいます）するために必要となる基本的な考え方、知識、そしてスキルを身に付けることを目的としています。具体的には、プログラミングを通して、「課題を理解し」「解決方法を考え」「実際にプログラムとして実装し」「動作させて改善する」の一連のプロセスを体験します。 本科目は、プログラミングの体験を通してプログラミングの楽しさを感じてもらうことを期待しています。授業では、複数のプログラミング言語を体験し、共通していることや異なること、プログラミング言語ごとの得意不得意を感じてもらいます。具体的には、Scratch, JavaScript, Processing, そして AI を使うプログラミングをおこないます。						
授業における学修の到達目標						
プログラミングを体験し、その基本概念の理解を目指します。したがって、プログラムの基本となる「順次」、「選択」、「反復」という 3 つの制御構造を使って、正常に動作するプログラムを書くことができるようになることと、プログラミングとはどのようなものかを知ることが目標です。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。				2
	授業	ガイダンス 反転授業: scratch 入門、scratch(1): 変数				
	事後学修	scratch での操作を復習する。				2
2	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。				2
	授業	反転授業: scratch (2): 基本構文				
	事後学修	課題に取り組む				2
3	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。				2
	授業	反転授業: scratch (3): 処理の組み合わせ				
	事後学修	課題に取り組む				2
4	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。				2
	授業	反転授業: scratch (4): scratch を使った作品のアイデアを考える				
	事後学修	課題に取り組む				2
5	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。				2
	授業	反転授業: JavaScript (1): JavaScript によるプログラミングの方法と実行方法				
	事後学修	課題に取り組む				2
6	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。				2

	授業	反転授業: JavaScript (2): 変数・基本構文	
	事後学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
7	授業	反転授業: JavaScript (3): UI パーツを使ったアプリ制作の基本	
	事後学修	課題に取り組む	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
8	授業	反転授業: JavaScript (4): UI パーツを使った複雑なロジックの実現	
	事後学修	課題に取り組む	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
9	授業	反転授業: JavaScript でゲーム制作 (1): 部品の表示と動かす方法	
	事後学修	課題に取り組む	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
10	授業	反転授業: JavaScript でゲーム制作 (2): ゲームのための部品制作	
	事後学修	課題に取り組む	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
11	授業	反転授業: JavaScript でゲーム制作 (3): かんたんなゲームの制作 (完成)	
	事後学修	課題に取り組む	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
12	授業	反転授業: AI (1) : 生成 AI 系サービスに触れてみよう	
	事後学修	課題に取り組む	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
13	授業	反転授業: AI (2) : AI 系ライブラリに触れてみよう	
	事後学修	課題に取り組む	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
14	授業	反転授業: Processing (1) : Processing の使い方と図形の描画	
	事後学修	課題に取り組む	2
	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、該当の講義スライドを熟読する。	2
15	授業	反転授業: Processing (2) : アニメーションの表示と応用	
	事後学修	課題に取り組む	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に口頭によるフィードバックをおこないます。

教科書

参考書・Web サイト

・岩田 宇史 著, いちばんやさしい JavaScript の教本 第 2 版 ECMAScript 2017(ES8)対応 人気講師が教える Web プログラミング入門, インプレス
 ・谷尻 かおり, これからはじめるプログラミング基礎の基礎, 技術評論社
 ・JavaScript | MDN, <https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/JavaScript>
 ・p5js をはじめよう | 文系大学生のための p5.js 入門, <https://zenn.dev/ojk/books/intro-to-p5js/viewer/p5-basic>

単位修得が望ましい科目	なし
備考	詳細は第一回目の講義で説明します。
担当教員の実務経験	1名は16年間、他の1名は通算で4年間システムエンジニアとしてIT企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。 1名の教員は17年間のシステムエンジニアとしての実績があり、動くプログラムだけではなく、見やすいプログラム、メンテナンスしやすいプログラムを意識できる授業を実施する。

コンピュータ Computers

担当教員	山北 隆典(139 研究室), 柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBT103	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
本講では、コンピュータの概要を学びます。コンピュータ内でのデータ（数値、文字、音声、画像、他）の表現方法、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、計測・制御への適用法等を学習します。ネットワークとインターネットの基本的な仕組みを学びます。また、データ処理を行うときに必要となるデータ構造とアルゴリズムについても学習します。						
授業における学修の到達目標						
・コンピュータのしくみや動作原理を専門的な用語を使って説明できる。 ・コンピュータ内での基本的なデータ表現方法を説明できる。 ・データ処理の基本的なアルゴリズムを説明できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する。また、コンピュータについて基本的なことを調べておく。				2
	授業	ガイダンス、コンピュータとは、補助単位、2進数、ビットとバイト				
	事後学修	コンピュータの基本的な機能について復習をする。補助単位、2進数について復習をする。				2
2	事前学修	基数について調べる。				2
	授業	基数変換				
	事後学修	基数変換について復習する。				2
3	事前学修	負の数、少数の表現の仕方を予習する。				2
	授業	負の数、少数の数値表現				
	事後学修	負の数、少数の表現の仕方について復習する。				2
4	事前学修	コンピュータ内での文字表現について予習する。				2
	授業	コンピュータ内での文字表現				
	事後学修	コンピュータ内での文字表現について復習する。				2
5	事前学修	コンピュータ内での音声・画像表現について予習する。				2
	授業	コンピュータ内での音声・画像表現				
	事後学修	コンピュータ内での音声・画像表現について復習する。				2
6	事前学修	コンピュータの構成について予習する。				2
	授業	コンピュータの構成				
	事後学修	コンピュータの構成について復習する。				2
7	事前学修	CPU の役割と動作について予習する。				2
	授業	CPU の役割と動作				
	事後学修	CPU の役割と動作について復習する。				2
8	事前学修	これまでの授業内容を確認する。				2
	授業	中間テストおよび問題の解説				

	事後学修	テストの復習を通して、理解できてないところを確認する。	2
9	事前学修	アドレス指定方式、CPU の高速化について予習する。	2
	授業	アドレス指定方式、CPU の高速化	
	事後学修	アドレス指定方式、CPU の高速化について復習する。	2
10	事前学修	記憶装置について予習する。	2
	授業	記憶装置	
	事後学修	記憶装置について復習する。	2
11	事前学修	オペレーティングシステムについて予習する。	2
	授業	オペレーティングシステム（OS）について	
	事後学修	オペレーティングシステムについて復習する。	2
12	事前学修	ソフトウェア・データ構造について予習する。	2
	授業	ソフトウェア・データ構造	
	事後学修	ソフトウェア・データ構造について復習する。	2
13	事前学修	ソートについて予習する。	2
	授業	アルゴリズム：ソート	
	事後学修	ソートについて復習する。	2
14	事前学修	ネットワーク・インターネットについて予習する。	2
	授業	ネットワーク・インターネット	
	事後学修	ネットワーク・インターネットについて復習する。	2
15	事前学修	生成 AI について調べる	2
	授業	生成 AI について	
	事後学修	生成 AI の活用方法を考える	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40% □小テスト：0% □レポート： % ■演習課題：20%

■その他[中間テスト：40%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験結果は POLITE で確認できるようにします。

疑問点については随時質問してください。

教科書	書名：改訂新版 ファーストステップ IT の基礎, 著者名：國友義久, 出版社：近代科学社, 備考：2023 年 8 月 1 日
参考書・Web サイト	かんたん合格 IT パスポート教科書 令和 7 年度版, インプレス 2023 年版 基本情報技術者標準教科書, オーム社
単位修得が望ましい科目	なし
備考	この科目は資格「IT パスポート」や「基本情報技術者」を取得する上で必要な知識を扱っています。自主的な勉強を追加することにより資格取得が可能です。
担当教員の実務経験	柿並 通算で 4 年間システムエンジニアとして、IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。 山北 通算で約 10 年間、民間企業及び民間企業の研究所でソフトウェアシステム開発に携わった。制御系システムの開発で得たハードウェアとソフトウェアに関する知見をもとに、具体例の紹介や

	学習目的に対する気付きを与えるといった形で、実務経験を学生に還元できるよう授業を進めたい。

プログラミング演習 I 【再】 Programming Practical 1

担当教員	齋藤 健司(314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		IBT104
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
C++言語（ゲームプログラミングなどの講義などで使用する予定）を用いて、コンピュータに何らかの処理をさせるプログラムを作成するプログラミングについて学びます。コンピュータが理解する機械語と、人間の間を取り持つのがプログラミング言語です。C++は、その中でオブジェクト指向言語と呼ばれる種類の言語です。 コンピュータを動かすのはプログラム、そのプログラムの基本となるのが「逐次」「選択」「反復」という3つの制御構造です。これらは、古くからある手続き型言語だけでなく、C++のようなオブジェクト指向言語でも同様に基本となっています。多くのプログラミング言語に共通するこうした基本を、実際にコンピュータ上でプログラミング及び実行を繰り返す実習を通じて、身に付けます。また、より複雑なプログラムに必要とされる関数や配列について学びます。						
授業における学修の到達目標						
プログラムの3つの基本制御構造「逐次」「選択」「反復」を組み合わせたプログラムの作成に習熟します。 配列や関数を利用して、多数のデータを繰り返し処理するプログラムの作成に習熟します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握するとともに、教科書 Lesson1（p.1～p.14）を読んでプログラミングの手順を整理しましょう。				2
	授業	講義の目標と講義の進め方を理解します。 簡単なプログラムをコンパイルして実行し、その手順を学びます。 文字や数字の表示方法を学びます。				
	事後学修	実習室だけでなく、自分のノート PC などでもプログラムがコンパイル、実行できるか試してみましょう。				2
2	事前学修	教科書 p.15～p.57 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。				2
	授業	前回に続き、文字や数字の表示方法を学びます。 変数について確認し、C++での変数の利用について学びます。 変数の型について学びます。				
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。				2
3	事前学修	教科書 p.58～104 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。				2
	授業	データを入力する方法を学びます。 演算子について学びます。				
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。				2
4	事前学修	教科書 p.105～117 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。				2
	授業	演算子の優先順位と使い方を学びます。 型変換について学びます。				
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。				2

		今回の復習用問題集に取り組んで下さい。	
5	事前学修	教科書 p.118～140 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	関係演算子を用いた条件の表現方法について学びます。 if 文について学びます。	
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。	2
6	事前学修	教科書 p.141～156 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	複数の条件を判断する方法について学びます。 switch 文について学びます。	
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。	2
7	事前学修	教科書 p.157～168 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	for 文について学びます。	
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。	2
8	事前学修	教科書 p.169～179 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	while 文について学びます。 文のネストについて学びます。	
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。	2
9	事前学修	教科書 p.180～189 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	関数の定義と呼び出しについて学びます。 引数について学びます。	
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。	2
10	事前学修	教科書 p.190～200 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	前回に続き、引数について学びます。 戻り値について学びます。 関数の利用方法について学びます。	
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。	2
11	事前学修	教科書 p.201～220 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	関数の宣言について学びます。	
	事後学修	今回の基礎課題が終っていない人は作成して提出しましょう。 今回の復習用問題集に取り組んで下さい。	2
12	事前学修	教科書 p.221～244 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2

プログラミング演習Ⅰ Programming Practical 1

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		IBT104
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
テーマ: C++による構造化プログラミングの理解と実習 C++言語（ゲームプログラミングなどの講義などで使用する予定）を用いて、コンピュータに何らかの処理をさせるプログラムを作成するプログラミングについて学びます。コンピュータが理解する機械語と、人間の間を取り持つのがプログラミング言語です。C++は、その中でオブジェクト指向言語と呼ばれる種類の言語です。 コンピュータを動かすのはプログラム、そのプログラムの基本となるのが「逐次」「選択」「反復」という3つの制御構造です。これらは、古くからある手続き型言語だけでなく、C++のようなオブジェクト指向言語でも同様に基本となっています。多くのプログラミング言語に共通するこうした基本を、実際にコンピュータ上でプログラミング及び実行を繰り返す実習を通じて、身に付けます。また、より複雑なプログラムに必要とされる関数や配列について学びます。 講義は反転授業・演習として実施します。演習はLMS(POLITE)を利用して行ないます。						
授業における学修の到達目標						
(1) コンパイラ型言語について「作成⇒コンパイル⇒実行(⇒デバッグ)」という作業の流れに習熟すること。 (2) プログラムの3つの基本制御構造「逐次」「選択」「反復」を組み合わせたプログラムの作成に習熟すること。 (3) 配列や関数を利用して、多数のデータを繰り返し処理するプログラムの作成に習熟すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	・ シラバスを確認し授業の全体の内容を把握しておきましょう。 ・ 教科書 Lesson1 (p.1～p.26) を読んでプログラミングの手順を整理してきましょう。また、前期の講義で扱ったプログラミング言語(javascript など)との違いを確認しておきましょう。				2.0
	授業	・ ガイダンス: 講義の目標、講義の進め方を説明します。 ・ 講義を受講する上での環境設定・環境構築を行ないます。 ・ 構築した環境で簡単なプログラムを作成し実行します。				
	事後学修	・ 講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・ POLITE の第1 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。				2.0
2	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.27～p.68 です。				2.0
	授業	反転授業・演習 ・ 文字や数字の表示方法を学びます。 ・ 変数と型, C++での変数の利用について学びます。 ・ 標準入出力について学びます。				
	事後学修	・ 講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・ POLITE の第2 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。				2.0
3	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.70～p.93 です。				2.0

	授業	反転授業・演習 ・さまざまな演算とその優先順位について学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 3 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
4	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.94～p.117 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・型変換について学びます。 ・条件分岐の初歩として if 文を使ったプログラムを学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 4 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
5	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.118～p.138 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・ if ～ else, switch などの複雑な条件分岐、論理演算による条件の記述について学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 5 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
6	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.142～p.156 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・繰り返し構造(for, while, do) について学びます。 ・これまでの学習内容を整理し、構造化プログラミングについて学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 6 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
7	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.157～p.166 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・文の入れ子構造を理解し、複雑なプログラムに取り組みます。 ・ break や continue について学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 7 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
8	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.170～p.179 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・関数の仕組み、関数の定義と呼び出しについて学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 8 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
9	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.180～p.200 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・関数の「引数」と「戻り値」について学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 9 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
10	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.201～p.217 です。	2.0

	授業	反転授業・演習 ・関数の宣言(関数プロトタイプ)とその使い方を学びます。 ・デフォルト引数について学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 10 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
11	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.221～p.237 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・変数とアドレス、ポインタについて学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 11 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
12	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.238～p.253 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・引数の値渡しと参照渡しを学びます。 ・ポインタを引数とする関数について学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 12 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
13	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.256～p.266 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・配列について学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 13 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
14	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.266～p.283 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・配列とポインタについて学びます。 ・配列を引数とする関数について学びます。	
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 14 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0
15	事前学修	講義動画を聴講して、サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.284～p.299 です。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・文字列と配列の関係について学びます。	
	事後学修	POLITE の第 15 週復習用問題集に取り組み、完答しておきましょう。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の講義で出題される課題についてはループリックによって評価し、その結果を提示します。

POLITE の復習用問題集は即時採点されます。

教科書	書名：やさしい C++ 第 5 版(「やさしい」シリーズ), 著者名：高橋 麻奈, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：

参考書・Web サイト	教材の Web サイト内で提示します
単位修得が望ましい科目	ICT 入門, メディア技術演習, コンピュータ
備考	なし
担当教員の実務経験	柿並義宏 通算で 4 年間システムエンジニアとして, IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし, 開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。 伊藤正彦 2000 年から 2004 年にかけて IT 企業において画像データベースシステムを C++ で開発していた業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った開発に必要となるノウハウや知見を講義内で伝えていく。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。 佐々木洋平 通算で 15 年程度、大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また、専門分野では富岳などの大型計算機(スーパーコンピュータ)を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行っている。これら経験を踏まえて、現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。

プログラミング演習Ⅱ Programming Practical 2

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IBT201	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
テーマ: C++による大規模プログラム開発およびオブジェクト指向プログラミングの理解と実習						
プログラミング演習Ⅰからの継続講義として, コンピュータ実習を通して C++言語でのプログラミングについて学びます。						
大規模なプログラムの開発に必要なオブジェクト指向の考え方を身につけ, クラスを設計し利用できることを目指します。また, 一般的なプログラムに不可欠なファイルの入出力についても学びます。						
講義は反転授業・演習として実施します。演習は LMS(POLITE)を利用して行ないます。						
授業における学修の到達目標						
・オブジェクト指向言語について「作成⇒コンパイル⇒実行(⇒デバッグ)」という作業の流れに習熟します。						
・変数とスコープ, 構造体, クラス, ファイルの入出力について理解します。						
・大規模なプログラミングに向けて, ソースファイルの分割, インクルードファイル, ライブラリについて理解します。						
・学んだ文法を組み合わせ、より複雑なプログラムを作成できるように理解を深めます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	・シラバスを確認し授業の全体の内容を把握しておきましょう。 ・以後 Learning Management System (以下 LMS と略す) 上の各回に, 次回に向けた「予習と復習」が記載されているので, 基本的にその記述に従った事前学習, 事後学習を行う。				2.0
	授業	・プログラミング演習Ⅰの内容 (if, for, while, 関数, 配列等) を復習をします。 ・講義の目標と講義の進め方を理解します。プログラミング演習Ⅰの範囲の理解度について確認します。ソースプログラムの分割について学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。				
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の復習用問題集に取り組み, 完答しておきましょう。				2.0
2	事前学修	・講義動画を聴講して, サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.301~323 です。				2.0
	授業	反転授業・演習 ・変数のスコープルールと, 寿命について理解する。				
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の第 1 週復習用問題集に取り組み, 完答しておきましょう。				2.0
3	事前学修	・講義動画を聴講して, サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.324~332 です。				2.0
	授業	反転授業・演習 ・複数のファイルでソースプログラムを作成する方法を学びます。				
	事後学修	・講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・POLITE の復習用問題集に取り組み, 完答しておきましょう。				2.0

4	事前学修	・ 講義動画を聴講して、 サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p. 333~358 です。	2.0
	授業	反転授業・ 演習 ・ 列挙型、 構造体を理解し、 プログラムで使えるようになる。	
	事後学修	・ 講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・ POLITE の復習用問題集に取り組み、 完答しておきましょう。課題 1, 2 で未提出な物があれば取り組み、 提出する。	2.0
5	事前学修	・ 講義動画を聴講して、 サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p. 359~379 です。	2.0
	授業	反転授業・ 演習 ・ クラス、 オブジェクト、 メンバという概念（オブジェクト指向）を理解する。	
	事後学修	・ 講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・ POLITE の復習用問題集に取り組み、 完答しておきましょう。	2.0
6	事前学修	・ 講義動画を聴講して、 サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.380~395 です。	2.0
	授業	反転授業・ 演習 ・ 引数とオブジェクトについて学びます。 ・ コンストラクタについて学びます。	
	事後学修	・ 講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・ POLITE の復習用問題集に取り組み、 完答しておきましょう。	2.0
7	事前学修	・ 講義動画を聴講して、 サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。教科書 p.396~408 です。	2.0
	授業	反転授業・ 演習 ・ オブジェクトの配列、 デフォルト引数について学びます。 ・ 静的メンバについて学びます。	
	事後学修	・ 講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・ POLITE の復習用問題集に取り組み、 完答しておきましょう。	2.0
8	事前学修	・ 講義動画を聴講して、 サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.409~425 です。	2.0
	授業	反転授業・ 演習 ・ 新しいクラスの作成について学びます。 ・ 継承、 派生クラス、 基本クラスといった用語について理解することと、 基本クラスのコンストラクタをどのように扱うかを学びます。	
	事後学修	・ 講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・ POLITE の復習用問題集に取り組み、 完答しておきましょう。	2.0
9	事前学修	・ 講義動画を聴講して、 サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。範囲は教科書 p.426~443 です。	2.0
	授業	反転授業・ 演習 ・ 新しいクラスの作成について学びます。 ・ 仮想関数、 抽象クラスといった用語について学びます。	
	事後学修	・ 講義時間中に基礎課題の提出が終わっていない人はその日のうちに提出しましょう。 ・ POLITE の復習用問題集に取り組み、 完答しておきましょう。	2.0
10	事前学修	・ 講義動画を聴講して、 サンプルプログラムの作成と実行に取り組んでおきましょう。教科書 p.444~456 です。	2.0
	授業	反転授業・ 演習	

教科書	書名：やさしいC++ 第5版（「やさしい」シリーズ）, 著者名：高橋 麻奈, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	教材の Web サイト内で提示します。
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習, コンピュータ, プログラミング演習 I
備考	なし
担当教員の実務経験	伊藤正彦 2000 年から 2004 年にかけて IT 企業において画像データベースシステムを C++ で開発していた業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った開発に必要となるノウハウや知見を講義内で伝えていく。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

特別実習 A Special Practical Training A

担当教員	伊藤 マーティ (338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	実習	○		IBT202
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
デジタルイラストレーションは、近年イラスト制作の標準となりつつあります。ラフから完成までをパソコンやタブレットなどでシームレスに制作することは、デザイン・イラストレーション業界において必要不可欠なスキルとなっています。いくつかの標準的なアプリケーションがありますが、本講では無料アプリとして人気が高いアイビスペイントをメインにデジタルイラストレーションを本学で貸与する iPad と ApplePencil にて制作します。						
授業における学修の到達目標						
写真を元にイラストレーションを描き起こすフォトパッシュの制作体験を通し、イラストレーションを描く楽しさや基本技術を習得します。また、キャラクターデザインの基本制作を体験し、背景を含んだイラストレーションの総合制作を習得することを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスの内容を確認し、授業内容を把握しておく。 授業に必要なアプリをダウンロードし各自のノートパソコンにインストールしておく。				10
	授業	デジタルイラストレーションの可能性と有用性について ・ 1 日目の作業手順について				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	アイビスペイントの基本操作の確認 ・ イージーポーズのインポート手順				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
3	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	アイビスペイントでのトレース方法① ・ イージーポーズのインポート画像の活用				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	アイビスペイントでのトレース方法② ・ イージーポーズのインポート画像の活用				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
5	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	イージーポーズを下絵とした人物描画について ・ 表情、服装、ヘアスタイルなどを加える				
	事後学修	1 日目の授業内容を復習して、アイデアスケッチのバリエーションを描いてみる。				10
6	事前学修	1 日目のアイデアスケッチをもとに、実制作のための詳細用資料を集める。				10
	授業	1 日目の総評（振り返り） ・ 2 日目の作業手順について				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0

7	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	背景加工方法の解説①	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	背景加工方法の解説②	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
9	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	背景のトリミング ・ イージーポーズによるポーズ決定	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物の完成 ・ イージーポーズ画像のインポートと描きこみ	
	事後学修	2 日目の授業内容を復習する	10
11	事前学修	2 日目の人物画の背景のための写真素材を集める	10
	授業	フォトバッシュの基本オペレーションを学ぶ ・ 2 日目の総評（振り返り） ・ 3 日目の作業手順について	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物画に合わせたフォトバッシュを制作する ・ 元画像数点の合成による場面構成について	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
13	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	画像合成・フィルタリング ・ 人物描画（イージーポーズ画像のインポート）	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	作品の完成 ・ 全体の構成バランスチェック	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
15	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	プレゼンテーション・ディスカッション ・ 作品の完成、提出	
	事後学修	3 日間を通し、学んだことの復習	10

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 演習課題：100%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導します

教科書

参考書・Web サイト

◆アイビスペイントのオフィシャルサイト <https://ibispaint.com/>

	◆イージーポザーの使い方解説サイト https://smooth-shape.com/easy-pose
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	広告代理店に 7 年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業の CI やキャラクターデザイン、広告活動の制作を約 30 年間行ってきた。 2024 年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。DTP 演習、イラスト制作演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、高大連携授業、特別実習 A を担当している。

Web デザイン基礎演習 Web Design Basics Practical

担当教員	齋藤 一(122 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IBD101	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
Web デザインとは、主にパソコンやスマートフォン向けの Web ページをデザインすることを指します。見た目を中心としたグラフィックデザインの要素を多く含む一方で、Web アプリケーションの UI（ユーザインタフェース）など、ユーザの操作に応じて表示が変化するインタラクティブな Web ページへの対応も求められます。 また、見栄えが良く、分かりやすい Web ページをデザインするためには、Web デザインに関する基本的なルールや知識を学ぶ必要があります。本講義では、プロトタイピングツールを用いた Web デザインの実習を通して、Web デザインの基本的なルールやレイアウトについて学びます。						
授業における学修の到達目標						
・ Web デザインの基本的な工程やルールを理解する。 ・ プロトタイピングツール等を利用した基本的な Web デザインができるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読み、授業内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス: 本講義の学習目的や実習の方法を説明する				
	事後学修	授業の内容を復習し、Web デザインのプロセスについて理解を深める				2.0
2	事前学修	Web 教材「授業の準備と課題提出の方法」を事前に読んでおく				2.0
	授業	実習の準備: 実習のプロセス（制作プロセス、課題のアップロードの方法等）を説明する				
	事後学修	授業の内容を復習し、実習のプロセスを確認する				2.0
3	事前学修	Web 教材「Web とは何か？」を予め読んでくる				2.0
	授業	Web デザインのセオリー:Web デザインの理論（近接、整列、反復、コントラスト）を外観する。				
	事後学修	教材を読み返して Web デザインの理論について理解を深める				2.0
4	事前学修	Web 教材「プロトタイピングツールによる図形の描画」を予め読んでくる				2.0
	授業	プロトタイピングツールの基本操作 図形を描く実習を行う				
	事後学修	Web 教材を読み返して、プロトタイピングツールによるの基本操作について復習をしておく				2.0
5	事前学修	Web 教材「文字の入力」を予め読んでおく				2.0
	授業	文字の入力： 文字を使った課題制作の実習を通して、フォントの選択や使用方法を理解する				
	事後学修	Web 教材に示した URL 等を参考に、デザインで使用するフォントの種類や用途について、理解を深める				2.0
6	事前学修	Web 教材「シンプルな Web サイトのデザイン」を予め読んでおく				2.0
	授業	シンプルな Web サイトをデザインする実習を行う				
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する				2.0

7	事前学修	Web 教材「大学の紹介サイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	大学の紹介サイトをデザインする実習を行う	
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する	2.0
8	事前学修	オリジナルのデザインについて、様々なデザインを調べて、イメージを膨らませておく。	2.0
	授業	オリジナルの大学紹介サイトのデザインをする。	
	事後学修	自分の制作した作品や、他の履修者の制作した作品について、良い点や改善点などを話し合う。	2.0
9	事前学修	Web 教材「コーポレートサイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	コーポレートサイトをデザインする実習を行う	
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する	2.0
10	事前学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、オリジナルのデザイン案を考えておく	2.0
	授業	オリジナルのコーポレートサイトのデザイン： オリジナルのコーポレートサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
11	事前学修	Web 教材「スマートフォンサイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	スマートフォンサイトのデザイン： スマートフォンサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する	2.0
12	事前学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、オリジナルのスマートフォンサイトのデザイン案を考えておく	2.0
	授業	オリジナルのスマートフォンサイトのデザイン： オリジナルのスマートフォンサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
13	事前学修	Web 教材「カフェのサイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	カフェのサイトのデザインをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する	2.0
14	事前学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、オリジナルのカフェのサイトのデザイン案を考えておく	2.0
	授業	オリジナルのカフェのデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
15	事前学修	Web 教材を復習しておく。また、オリジナルのサイトデザインを考えておく	2.0
	授業	オリジナルサイトのデザイン： これまでの実習の集大成として、オリジナルのサイトをデザインする実習を行う	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ☐ 試験： % ☐ 小テスト： % ☐ レポート： % ☒ 演習課題：100% ☐ その他[]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
POLITE を通じてコメント等をフィードバックします。	
教科書	
参考書・Web サイト	沢田 俊介, Figma for デザインシステム デザインを中心としたプロダクト開発の仕組み作り, 翔泳社, 2024 阿部 文人, 今 聖菜, 田口 冬菜, 中川 小雪, これからはじめる Figma—Web・UI デザイン入門一, マイナビ出版, 2022 濱野 将 他, デザインからサイト構築まで Figma だけで Web 制作, 日経 BP, 2025
単位修得が望ましい科目	なし
備考	課題 (Web ページのデザイン) を重視して評価をします。制作の過程も評価の対象としますので, 途中まででしか出来上がっていない場合でも, 課題は必ず提出 (アップロード) するようにしましょう。
担当教員の実務経験	実務経験なし。

</

8	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	構成デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
9	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物クロッキーを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
10	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物クロッキーの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
11	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
12	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
13	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
14	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
15	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	漫画やイラストの歴史を紹介すると共に描き方のコツについて講義する。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
16	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	漫画デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
17	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	風景デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
18	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0

	授業	風景デッサンの続きを行う。講評会	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
19	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	細密デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
20	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	細密デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
21	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	絵画,アートについて講義する	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
22	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサンの描き方について紹介する。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
23	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像を行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
24	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
25	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
26	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
27	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像を行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
28	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0

29	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
30	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80 % ■その他 理解度（学んだ内容を画面に反映できているか）：10% 熱意（アドバイスに対し、修正や改善を試みる取り組み）：10%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題ごとに作品を並べての講評会を行います。 明確な正解はないため、よりよくなるためのアドバイスをその場にて行います。			
教科書			
参考書・Web サイト		特になし	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		必要教材の詳細は掲示で案内します。掲示を確認し、購入の必要な教材は購入してください。 ・鉛筆（3B F 3H） ・練りゴム ・カッター等	
担当教員の実務経験		芸術大学での教育経験を活かし、デッサンの肝となる部分をわかりやすく教授する。現札幌大谷大学芸術学部美術学科教授。	

メディアデザインの基礎演習 Media Design Basics Practical

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IBD103	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
WEB や広告を含むメディアデザインはコミュニケーションツールのとても大切な部門である。 本科目は、 座学と演習を交えた講義である。 座学ではより良い視覚伝達のための技術習得としてメディアデザインの基礎を学ぶ。「伝える」ことに必要なデザインの基本と、あらゆるメディアに活かし、制作できるようにするための基本を学ぶ。 一つのテーマにつき講義は 2 回行われる。授業前日までに座学動画を閲覧してもらい、1 週目は基礎課題とそれに伴うディスカッションをグループ内で行う。2 週目は当日までに応用課題を制作し、講義内ではその作品をもとにグループ内でディスカッションを行う。 最終課題では提示されたケースにあったデザイン制作を行う。						
授業における学修の到達目標						
・ デザインの基本的な要素（デザインの 4 原則・色彩・単純化・タイポグラフィ・ロゴ・コピー・コンセプト・ビジュアル・レイアウト）について理解できる。 ・ デザイン制作プロセスを理解し、テーマにあったデザインを自身で制作できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス デザインとは・ビジュアルコミュニケーション (座学・演習課題)				
	事後学修	授業内容の復習				2.0
2	事前学修	動画視聴				2.0
	授業	デザインの 4 原則（1） 基礎課題・ディスカッション				
	事後学修	応用課題				2.0
3	事前学修	応用課題				2.0
	授業	デザインの 4 原則（2） 応用課題・ディスカッション				
	事後学修	授業内容の復習				2.0
4	事前学修	動画視聴				2.0
	授業	色彩・CUD（1） 基礎課題・ディスカッション				
	事後学修	応用課題				2.0
5	事前学修	応用課題				2.0

	授業	色彩・CUD（２） 応用課題・ディスカッション	
	事後学修	授業内容の復習を行う	2.0
6	事前学修	動画視聴	2.0
	授業	単純化（１） 基礎課題・ディスカッション	
	事後学修	応用課題	2.0
7	事前学修	応用課題	2.0
	授業	単純化（２） 応用課題・ディスカッション	
	事後学修	授業内容の復習を行う	2.0
8	事前学修	動画視聴	2.0
	授業	タイポグラフィ・ロゴ（１） 基礎課題・ディスカッション	
	事後学修	応用課題	2.0
9	事前学修	応用課題	2.0
	授業	タイポグラフィ・ロゴ（２） 応用課題・ディスカッション	
	事後学修	授業内容の復習を行う	2.0
10	事前学修	動画視聴	2.0
	授業	コピー・コンセプト（１） 基礎課題・ディスカッション	
	事後学修	応用課題	2.0
11	事前学修	応用課題	2.0
	授業	コピー・コンセプト（２） 応用課題・ディスカッション	
	事後学修	授業内容の復習を行う	2.0
12	事前学修	動画視聴	2.0
	授業	ビジュアル・レイアウト（１） 基礎課題・ディスカッション	
	事後学修	応用課題	2.0
13	事前学修	応用課題	2.0
	授業	ビジュアル・レイアウト（２） 応用課題・ディスカッション	
	事後学修	授業内容の復習を行う	2.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	最終課題 デザイン制作（１） 基礎課題・ディスカッション	
	事後学修	デザイン制作	4.0
15	事前学修	デザイン制作	2.0
	授業	最終課題 デザイン制作（２） プレゼンテーション・ディスカッション	

	事後学修	授業内容の復習を行う	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			
□試験：0% □グループ討議参加度 0% □レポート：0% ■演習課題：100% □プレゼンテーション：0%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
成果物に対し POLITE を通じてコメントにてフィードバックを行う			
教科書			
参考書・Web サイト		特になし	
単位修得が望ましい科目		特になし	
備考		POLITE に掲載するスケジュールに持ち物が記載されているので確認してください。 筆記用具（鉛筆 or シャープペンシル、消しゴム）とノート PC は常に必ず持参すること。	
担当教員の実務経験		2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、Web/グラフィックともにデザインを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務を行う上で最低限必要なデザインの知識を教える。 担当者の一人は、建築計画・設計の過程で、コンペティション応募やクライアントに向けた数多くのポスター作成を行っており、また UX やデザイン心理学の側面からグラフィック・Web 等のデザインを検討してきた。また、カラーユニバーサルデザイン（CUD）を推進する NPO の理事も務めている。これらの経験を活かす形で、実務を行う上で最低限必要なデザインの知識を教える。	

デザインエレメンツ演習 Design Elements Practical

担当教員	伊藤 マーティ (338 研究室), 小川 陽 (非常勤), 金城 奈々子 (非常勤), 石上 光太郎 (非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	演習	○		IBD104
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		1 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
各種デザイン制作のベースとなる Adobe Illustrator,Adobe Photoshop の基本から本格使用までを, 演習課題を多数制作しながらじっくりと身につけ, 情報メディアにおけるデザインスキルの基本を磨く実践トレーニング。課題を通じて, マルチメディア表現, シミュレーション, 図形処理と画像処理, DTP (DeskTop Publishing) , Web デザインの基礎などの知識も学ぶ。最終課題としてオリジナルの作品を作る。課題毎に難易度がアップし, 講義で終わらない課題は宿題として課す。2 年生でのビジュアル構成演習, グラフィックデザイン演習と続くプロデザイナー教育の第一歩。						
授業における学修の到達目標						
Adobe Illustrator の基本的な使用方法を理解することができる。						
Adobe Photoshop の基本的な使用方法を理解することができる。						
illustratorr, Photoshop のソフトを組み合わせ、紙面のデザインを制作することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する				4.0
	授業	・ ガイダンス ・ Adobe illustrator の基本説明 (アプリケーションの画面説明・環境設定・新規作成)				
	事後学修	特になし				0.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-01 (illustrator を使用した作図_ぶどう・キーボード・扇)				
	事後学修	授業内容の復習を行う				4.0
3	事前学修	実習内容の確認を行う				4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-02 (illustrator を使用した作図_ト音記号)				
	事後学修	特になし				0.0
4	事前学修	特になし				0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-03 (illustrator を使用した作図_円・キューブ)				
	事後学修	授業内容の復習を行う				4.0
5	事前学修	実習内容の確認を行う				4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-04 (グラデーション)				
	事後学修	特になし				0.0
6	事前学修	特になし				0.0

	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-04 (ブレンドツール)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-05 (フォント テキストツール・段落)	
	事後学修	特になし	0.0
8	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-05 (フォント スレッドテキスト・回り込み)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
9	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-06 (キャラクターイラストの作成_ガイダンス)	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-06 (キャラクターイラストの作成)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-06 (キャラクターイラストの作成_仕上げ)	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-06 (フォント・テキストの活用)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe Photoshop の基本 (アプリケーションの画面説明・環境設定・新規作成)	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe Photoshop の基本課題 B-01 (牧場の空の入れ替え)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
15	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe Photoshop の基本課題 B-02 (画像の付け加え・変形・加工)	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe Photoshop の基本課題 B-03 (画像の加工・コラージュ)	

	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
17	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe Photoshop の最終課題 (コラージュ_企画)	
	事後学修	特になし	0.0
18	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe Photoshop の最終課題 (コラージュ_ラフ)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
19	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe Photoshop の最終課題 (コラージュ_加工)	
	事後学修	特になし	0.0
20	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe Photoshop の最終課題 (コラージュ_仕上げ)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
21	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の実践演習 C-01 (フライヤーのレイアウト/ガイダンス)	
	事後学修	特になし	0.0
22	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の実践課題 C-01 (フライヤーのレイアウト/メインビジュアル)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
23	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の実践課題 C-01 (フライヤーのレイアウト/各種情報)	
	事後学修	特になし	0.0
24	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の実践課題 C-01 (フライヤーのレイアウト/マップ)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
25	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成 ガイダンス)	
	事後学修	特になし	0.0
26	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成_企画)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
27	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0

	授業	・illustrator・Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成 ラフ)	
	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	特になし	0.0
	授業	・illustrator・Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成_企画 レイアウト)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
29	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・illustrator・Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成_企画 加工)	
	事後学修	特になし	0.0
30	事前学修	特になし	0.0
	授業	・illustrator・Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成_企画 仕上げ)	
	事後学修	これまでに課題で使用した機能・ツール等の復習を行う	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：0% □レポート：0% □小テスト：0% ■演習課題：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対しコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：イラレの5分ドリル 練習して身につける Illustrator の基本, 著者名：浅野 桜 (著), あさひな。(著), 高橋 としゆき (著), 出版社：翔泳社, 備考：
	書名：フォトショの5分ドリル 練習して身につける Photoshop の基本, 著者名：浅野 桜 (著), starmix (著), 楠田 諭史 (著), 出版社：翔泳社, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎演習
備考	特になし
担当教員の実務経験	[伊藤マーティ] 広告代理店に7年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業のCIやキャラクターデザイン、広告活動の制作を約30年間行ってきた。 2024年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。DTP 演習、イラスト制作演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、特別実習A(夏季集中講義・デジタルイラストレーション入門)、高大連携授業を担当している。

サウンドプログラミング演習 Sound Programming

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	講義	○		IBD202
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
コンピュータ音楽、マルチメディアアートの分野で広く使われているビジュアルプログラミング言語 Max8 の基本的なプログラミング手法を学ぶとともに、サウンド（音楽）プログラミングの概念を理解する。						
課題を通して、音のコントロールやアルゴリズム作曲、また、音作り（サンプリング、シンセサイズ）について学ぶ。						
さらに、音と画像処理やセンサーと音とのインタラクションについて実践的に学修する。						
授業における学修の到達目標						
サウンド（音楽）プログラミングの概念の理解、基礎的な Max8 によるプログラミングスキルの習得。また、それらを応用した（インタラクティブ）コンピュータ音楽の制作方法や美学について。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	コンピュータ音楽やインタラクティブアートについて調べる。				3.0
	授業	ガイダンス、サウンドプログラミングの概要。				
	事後学修					0.0
2	事前学修					0.0
	授業	Max8 のプログラミング手法について。				
	事後学修	Max 基礎オブジェクトの動作の復習、確認。				5.0
3	事前学修	音楽のシーケンスの概念を調べる				2.0
	授業	MIDI 情報のコントロール（シーケンスを作る）。				
	事後学修					0.0
4	事前学修					0.0
	授業	簡単なメロディのアルゴリズムをプログラムする				
	事後学修	自分のシーケンスを作り、音を操作するプログラムを作る。				6.0
5	事前学修	ドラムマシン、リズムマシンについてとその仕組みについて調べる。				2.0
	授業	ドラムマシンについて				
	事後学修					0.0
6	事前学修					0.0
	授業	ドラムマシンのプログラミング				
	事後学修	ドラムマシンのプログラミング：音を鳴らす順番やテンポと表現についての考察				6.0
7	事前学修	GM 音源とプログラムチェンジについて調べる				2.0
	授業	GM 音源と音色の変更（プログラムチェンジ）				
	事後学修					0.0
8	事前学修					0.0
	授業	テンポ、コード（和音）、ユニゾンとアレンジの可能性				
	事後学修	音色、テンポ、コード（和音）、ユニゾンの復習と表現の可能性の検討				6.0

9	事前学修	音色、テンポ、コード（和音）、ユニゾン等をカスタマイズしてアレンジを制作する	4.0
	授業	メロディとリズムを組み合わせ、アレンジの制作	
	事後学修		0.0
10	事前学修		0.0
	授業	メロディとリズムを組み合わせ、アレンジの制作	
	事後学修	メロディとリズムの組み合わせに、音色、テンポ、コード（和音）、ユニゾン等をカスタマイズしてアレンジを制作する	4.0
11	事前学修	シンセサイザーの原理を調べる	4.0
	授業	音声情報の処理、波形と音色。	
	事後学修		0.0
12	事前学修		0.0
	授業	シンセサイザーの基礎とプログラミング。	
	事後学修	波形の種類と名前、音色の特徴について復習する。	4.0
13	事前学修	音の合成手法についてどのようなものがあるか調べる	2.0
	授業	さまざまな音合成手法と音づくり	
	事後学修		0.0
14	事前学修		0.0
	授業	サンプリングと音響処理	
	事後学修	フィルター、変調、サンプリングによる音作りについて復習する	6.0
15	事前学修	Open Sound Control（OSC）プロトコルについて調べる	2.0
	授業	音パラメータのコントロールと MIDI やセンサーとの接続	
	事後学修		0.0
16	事前学修		0.0
	授業	アルゴリズム作曲とアンビエント音楽	
	事後学修	MIDI や OSC で変数を操作することによる表現の可能性の考察。	6.0
17	事前学修	アルゴリズム作曲、アンビエント音楽の概念の復習と立案	2.0
	授業	プログラムの分析とアンビエント音楽の制作	
	事後学修		0.0
18	事前学修		0.0
	授業	アルゴリズムによるアンビエント音楽の制作	
	事後学修	アルゴリズムによるアンビエント音楽の制作	6.0
19	事前学修	制作したプログラムを音ファイルとして保存、提出	4.0
	授業	アンビエント音楽のピアレビュー	
	事後学修	レビューについてレポート	2.0
20	事前学修		0.0
	授業	Jitter と画像処理	
	事後学修	Jitter でどんな表現が可能か調べる	2.0
21	事前学修	音映像のインタラクティブなマルチメディア表現について調べる	2.0
	授業	動画ファイルの音によるコントロール	
	事後学修		0.0

22	事前学修		0.0
	授業	画像の加工処理と音とのインタラクション	
	事後学修	画像の加工処理と音とのインタラクションに関する課題	6.0
23	事前学修		0.0
	授業	画像の色と音とのインタラクション	
	事後学修		0.0
24	事前学修		0.0
	授業	映像の時間処理（残像、ディレイ）	
	事後学修	画像の加工や色処理と音とのインタラクション課題に残像の要素も追加する	8.0
25	事前学修		0.0
	授業	画像の合成（クロマキー）	
	事後学修		0.0
26	事前学修		0.0
	授業	音と画像処理による作品制作	
	事後学修	画像の加工や色処理と音とのインタラクション課題に残像や合成要素も追加し、いろいろな表現の可能性を実験する	8.0
27	事前学修		0.0
	授業	音と画像処理による作品制作とフィードバック	
	事後学修		0.0
28	事前学修		0.0
	授業	音と画像処理による作品制作と提出	
	事後学修	画像の加工や色処理と音とのインタラクション課題に残像や合成要素も追加し、いろいろな表現の可能性を実験する	8.0
29	事前学修	画像の加工や色処理と音とのインタラクション課題提出	4.0
	授業	作品鑑賞会	
	事後学修		0.0
30	事前学修		0.0
	授業	作品鑑賞会	
	事後学修	音と画像処理による作品のピアレビューと音楽鑑賞に関するレポート。	4.0

成績評価の方法およびその基準

■レポート：25% ■演習課題：50% ■その他[ディスカッションや発表などの授業参加度：25%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中、または POLITE 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	『2061:Max オデッセイ』ノイマンピアノ リットーミュージック出版 その他、必要に応じて授業内で提示する。
単位修得が望ましい科目	『オーディオビジュアルアート』、『デジタルサウンド演習』（必須ではない）
備考	個人のコンピュータ持ち込み可能（Win/Mac）。ただし、Max は登録オーソライズ後、1 ヶ月のみフルバージョンが使える。その後は編集の保存ができなくなるの注意。サブスクリプション可。

	データの紛失や破損等による課題提出不可は認めない。そのようなことがないように、クラウドのストレージや USB メモリ等で各自データ管理はすること。
担当教員の実務経験	インタラクティブコンピュータ音楽の作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

図形科学の基礎 Descriptive Geometry

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	講義	○	IBD203	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
メディア表現系科目を学習するうえで共通の基礎となる図形科学の学習と演習の講義である。 図形科学の基礎である幾何学と立体図形表現の基礎となる図学について体系的学習を行う。 製図の基礎知識を応用し、講義で解題した内容に関して三角定規とコンパスを用いた用器作図による実習をする。 作図演習は、立体を正確に表現するうえで不可欠な正投象(正投影ともいう)と、立体をわかり易く表現する軸測投象や透視投象(遠近法)について課題を設定する。						
授業における学修の到達目標						
図形、空間、幾何学に関する基本的な知識と表現技法の習得を目標とする。 三次元空間内の図形を二次元平面に表現する「作図能力」と、二次元図から立体を読みとる「読図能力」の向上を図り、メディア表現系科目の図形科学的な問題に対する理解力と応用力を養う。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	図形科学の概要				
	事後学修	図形科学の概要についてレポートにまとめる				2
2	事前学修	正投象の概要についてテキストで予習をする				2
	授業	正投象の概要				
	事後学修	正投象の概要についてレポートにまとめる				2
3	事前学修	用器製図についてテキストで予習をする				2
	授業	用器製図				
	事後学修	用器製図についてレポートにまとめる				2
4	事前学修	直線の投象についてテキストで予習をする				2
	授業	直線の投象				
	事後学修	直線の投象についてレポートにまとめる				2
5	事前学修	作図のフォーマットについてテキストで予習をする				2
	授業	作図のフォーマット				
	事後学修	作図のフォーマットについてレポートにまとめる				2
6	事前学修	複数の直線の投象についてテキストで予習をする				2
	授業	複数の直線の投象				
	事後学修	複数の直線の投象についてレポートにまとめる				2
7	事前学修	複数の直線の性質についてテキストで予習をする				2
	授業	複数の直線の性質				
	事後学修	複数の直線の性質についてレポートにまとめる				2
8	事前学修	多面体の投象についてテキストで予習をする				2
	授業	多面体の投象				

	事後学修	多面体の投象についてレポートにまとめる	2
9	事前学修	三面図の作図についてテキストで予習をする	2
	授業	三面図の作図	
	事後学修	三面図の作図についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	平面の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	平面の投象	
	事後学修	平面の投象についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	平面上の点および直線についてテキストで予習をする	2
	授業	平面上の点および直線	
	事後学修	平面上の点および直線についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	図形の操作についてテキストで予習をする	2
	授業	図形の操作	
	事後学修	図形の操作についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	多面体の切断についてテキストで予習をする	2
	授業	多面体の切断	
	事後学修	多面体の切断についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	ラバットについてテキストで予習をする	2
	授業	ラバット	
	事後学修	ラバットについてレポートにまとめる	2
15	事前学修	展開図についてテキストで予習をする	2
	授業	展開図	
	事後学修	展開図についてレポートにまとめる	2
16	事前学修	曲線の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	曲線の描画	
	事後学修	曲線の描画についてレポートにまとめる	2
17	事前学修	円錐曲線の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	円錐曲線の描画	
	事後学修	円錐曲線の描画についてレポートにまとめる	2
18	事前学修	陰影の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	陰影の投象	
	事後学修	陰影の投象についてレポートにまとめる	2
19	事前学修	陰の交点の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	陰の交点の投象	
	事後学修	陰の交点の投象についてレポートにまとめる	2
20	事前学修	等軸測図の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の概要	
	事後学修	等軸測図の概要についてレポートにまとめる	2
21	事前学修	等軸測図の読み取りについてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の読み取り	
	事後学修	等軸測図の読み取りについてレポートにまとめる	2

22	事前学修	等軸測図の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の描画	
	事後学修	等軸測図の描画についてレポートにまとめる	2
23	事前学修	等軸測図上の円についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図上の円	
	事後学修	等軸測図上の円についてレポートにまとめる	2
24	事前学修	斜投象の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	斜投象の概要	
	事後学修	斜投象の概要についてレポートにまとめる	2
25	事前学修	斜投象の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	斜投象の描画	
	事後学修	斜投象の描画についてレポートにまとめる	2
26	事前学修	透視図の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	透視図の概要	
	事後学修	透視図の概要についてレポートにまとめる	2
27	事前学修	直接法による透視図についてテキストで予習をする	2
	授業	直接法による透視図	
	事後学修	直接法による透視図についてレポートにまとめる	2
28	事前学修	全透視の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	全透視の概要	
	事後学修	全透視の概要についてレポートにまとめる	2
29	事前学修	消去法による透視図についてテキストで予習をする	2
	授業	消去法による透視図	
	事後学修	消去法による透視図についてレポートにまとめる	2
30	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	試験および内容の解説	
	事後学修	試験の自己採点結果についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40% ■小テスト：15% ■演習課題：45%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに、誤った解答の傾向についても紹介する。

課題の提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	書名：基準課程 図学, 著者名：井野 智, 川田 孝之, 杉野目 章, 内山 武司, 早坂 洋史, 井畑 孝夫, その他, 出版社：共立出版, 備考：特になし
参考書・Web サイト	三次元造形ドリルー積み木で特訓 本格脳トレーニング・共立出版
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	製図用具(第一回講義で説明するので事前の購入は必須ではない)：三角定規 1 組(20cm 以上が望ましい), シャープペンシル(0.5 φ および 0.7 φ か 0.9 φ 等)もしくは鉛筆, コンパス
担当教員の実務経験	特になし

デジタルサウンド演習 Digital Sound Practical

担当教員	平山 晴花(128 研究室), 鐘撞 行孝(非常勤), 風間 泰弘(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	講義	○		IBD204
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
DAW（デジタルオーディオワークステーション）のソフトウェアである Studio One を使い、MIDI 情報とオーディオ情報処理の基礎を学ぶ。 また、特にポップスを中心とした音楽理論の基礎も学習し、楽器の使い方や音作り、アレンジ手法も学習する。後半は録音実習と具体音楽作品の制作を試みる。 グループワークによる作業や、作品発表、ディスカッションが含まれる。						
授業における学修の到達目標						
音楽制作ツール（DAW ソフトウェア）の使い方の基礎の修得。MIDI 情報と音情報の違いを理解する。音楽理論の基礎知識とポップスの楽曲構造を理解する。録音機材の使い方、具体音楽の美学について学ぶ。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	DAW とは何か、どんな種類があるかを調べる				4.0
	授業	ガイダンス				
	事後学修					0.0
2	事前学修					0.0
	授業	DAW と MIDI				
	事後学修	MIDI 情報について復習する				4.0
3	事前学修	楽譜の読み方を学習してくる				4.0
	授業	音楽理論の基礎（音程、音階、小節 etc.）				
	事後学修					0.0
4	事前学修					0.0
	授業	MIDI データのさまざまな入力方法				
	事後学修	さまざまな MIDI データの入力方法を復習する				4.0
5	事前学修	楽譜の表記と MIDI の情報の関係を考察する				4.0
	授業	MIDI データの入力				
	事後学修					0.0
6	事前学修					0.0
	授業	ポップスの比較と分析				
	事後学修	MIDI 入力の復習と課題				4.0
7	事前学修	ポップスの曲の構成を調べる				4.0
	授業	ポップスのコード理論				
	事後学修					0.0
8	事前学修					0.0

	授業	音波形データと編集	
	事後学修	簡単なメロディにコードをつけて比較する	4.0
9	事前学修	簡単なメロディにループ素材を入れてアレンジしてみる	3.0
	授業	楽曲アレンジメント①	
	事後学修		0.0
10	事前学修		0.0
	授業	楽曲アレンジメント②	
	事後学修	楽曲アレンジ制作	5.0
11	事前学修	ミキシングとは何かを調べる	2.0
	授業	ミキシングについて	
	事後学修		0.0
12	事前学修		0.0
	授業	ミキシング実習	
	事後学修	ミキシング課題	6.0
13	事前学修	楽曲の構想を練る	1.0
	授業	楽曲制作とフィードバック	
	事後学修		0.0
14	事前学修		0.0
	授業	楽曲制作とフィードバック	
	事後学修	楽曲制作	7.0
15	事前学修		0.0
	授業	楽曲制作とフィードバック	
	事後学修		0.0
16	事前学修		0.0
	授業	楽曲制作とフィードバック	
	事後学修	楽曲制作	8.0
17	事前学修	作品解説文を提出	3.0
	授業	作品発表会	
	事後学修		0.0
18	事前学修		0.0
	授業	作品発表会	
	事後学修	他の作品のフィードバックをレポートする	5.0
19	事前学修	録音するにはどんな機材や環境が必要かを調べる	2.0
	授業	録音機材についてと実習準備	
	事後学修		0.0
20	事前学修		0.0
	授業	録音機材についてと実習準備	
	事後学修	録音機材の使い方について復習する	6.0
21	事前学修	録音機材を借りて使える状態にセッティングする	3.0
	授業	録音実習	

	事後学修		0.0
	事前学修		0.0
22	授業	録音実習	
	事後学修	録音した素材の吟味、ファイルの整理	5.0
	事前学修	ノイズの概念について調べる	2.0
23	授業	録音素材聴く、編集	
	事後学修		0.0
	事前学修		0.0
24	授業	具体音楽作品についてと鑑賞、研究	
	事後学修	さまざまな具体音楽作品を調べて鑑賞、比較する	6.0
	事前学修	オーディオエフェクトについて調べる	2.0
25	授業	オーディオエフェクトと素材の編集	
	事後学修		0.0
	事前学修		0.0
26	授業	オーディオエフェクトと素材の編集	
	事後学修	エフェクトの名前、機能、違い、効果を復習する	6.0
	事前学修	録音した音素材から作品の構想を練る	2.0
27	授業	具体音楽作品制作	
	事後学修		0.0
	事前学修		0.0
28	授業	具体音楽作品制作とフィードバック	
	事後学修	具体音楽作品の制作	6.0
	事前学修	具体音楽作品の制作	6.0
29	授業	具体音楽作品制作とフィードバック	
	事後学修		0.0
	事前学修		0.0
30	授業	平山ゼミ音楽鑑賞会（具体音楽作品の発表）	
	事後学修	鑑賞レポート	2.0

成績評価の方法およびその基準

■レポート：25% ■演習課題：50% ■その他 [ディスカッション等での参加度 25%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Polite または授業中にフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	『ミュージッククリエイターハンドブック MIDI 検定公式ガイド』 Yamaha 出版社 他
単位修得が望ましい科目	『サウンドプログラミング演習』『オーディオビジュアルアート』（必須ではない）
備考	Studio One をインストールした個人のコンピュータで受講可能（Win/Mac）。
担当教員の実務経験	鐘撞行孝：ゴーン・ミュージック主宰。作曲、サウンドプロデューサー。（gone-music.com）

特別実習 B Special Practical Training B

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	実習	○		IBD205
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	冬期集中	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
3 D 映像の制作には必要不可欠となったモーションキャプチャシステムについての知識を体得することを目指します。本学所有のモーションキャプチャシステムを用い、実在する人の動きを取り込む手法について体験します。そして、3 D C G キャラクターを動かします。						
授業における学修の到達目標						
通常は触れることのできないであろうコンピュータグラフィックスの特殊な装置に触れ、操作することで、これまでとは違ったものの見方、考え方を養うことを目標とします。加えて、期限内に納品するという社会的責任について意識を高めることを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	メールの確認				2.0
	授業	ガイダンス・モーションキャプチャとは				
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ				2.0
2	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ				2.0
	授業	3D キャラクターモデル制作（VRoid Studio 説明）				
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ				2.0
3	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ				2.0
	授業	3D キャラクターモデル制作（作業）				
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ				2.0
4	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ				2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（チーム分け）				
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ				2.0
5	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ				2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（撮影）				
	事後学修	今日の振り返り				2.0
6	事前学修	資料の確認				2.0
	授業	モーションデータ編集（読み込み）				
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ				2.0
7	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ				2.0
	授業	モーションデータ編集（修正）				
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ				2.0
8	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ				2.0
	授業	モーションデータ編集（変換）				
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ				2.0

9	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ	2.0
	授業	Unity 作業（データ取り込み）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ	2.0
10	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ	2.0
	授業	3D モデルとモーションデータ反映	
	事後学修	今日の振り返り	2.0
11	事前学修	メールの確認	2.0
	授業	3D モデルのブラッシュアップ	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 5 回目と同じ	2.0
12	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 1 回目と同じ	2.0
	授業	Unity 作業（入れ替え）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 5 回目と同じ	2.0
13	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 1 回目と同じ	2.0
	授業	Unity 作業（カメラ設定）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 5 回目と同じ	2.0
14	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 1 回目と同じ	2.0
	授業	Unity 作業（録画）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 5 回目と同じ	2.0
15	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 1 回目と同じ	2.0
	授業	データ提出について	
	事後学修	締め切りまでに課題を提出する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：90% ■その他[グループワーク：10%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導する

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	3DCG 演習・ゲーム CG 演習
備考	授業資料として PDF を配布します。
担当教員の実務経験	3DCG 制作・クライアントワークの実務経験を生かし、機材の扱いからデータ編集まで丁寧な作業と確認を意識するよう指導する。

情報システム特別講義 Special Lectures on Information Systems

担当教員	内山 俊郎(117 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		ISC201	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
企業や組織体は、常に変動する経営環境に対応し、日進月歩する情報技術を取り入れて、経営と一体となった情報システムを実現し、その利活用による経営戦略の確立に努力している。企業や組織体の情報システムの現実の姿を知るために、産業界の各分野の第一線で活躍されている技術者や指導者(毎回変更の可能性あり)を招聘した最新の情報システムに関するオムニバス形式の講義である。1 回あたり 2.5 コマの講義なので 6 回で 15 コマに相当する。6 回とも違う業界の異なる講師なので内容に関係や順序関係はない。したがって事前と事後の学習は同じ内容になっている。授業計画に掲載したテーマは過去の例示であり、内容は開講年度ごとに異なるものとなる。						
授業における学修の到達目標						
大学で修得した科目内容と実際の企業や組織体での情報システムの現実の姿の差異を説明できるようになる。これによって自分の将来の仕事として考えられるかどうかの判断ができる。その結果、就職先や志望の業界をいち早く知ることにより効率的かつ効果的な就職活動を行えるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	「自動車のシステム開発」について事前調査する				2.0
	授業	「100 年に一度の変革期に直面している自動車の過去・現在・そして将来の姿とは？」 講義				
	事後学修	講義をレポート課題に備えて考えをまとめておく				2.0
2	事前学修	「自動車のソフトウェア」について事前調査する				2.0
	授業	「なぜソフトウェアがその命運を握っていると言われているのか？」 講義				
	事後学修	講義をレポート課題に備えて考えをまとめておく。				2.0
3	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う				2.0
	授業	レポート試験 0.5 コマ× 2 回分=1 コマ分				
	事後学修	2 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。				2.0
4	事前学修	システム開発のマネジメントについて（含：プロジェクトマネジメント）事前の調査をしておく				2.0
	授業	「マネジメント 3.0 と従来のマネジメントの違い」 講義				
	事後学修	レポートに備えて講義をまとめておく				2.0
5	事前学修	従来のシステム開発にけるマネジメントの課題と対応策について調べておく				2.0
	授業	アジャイル開発フレームワークのスクラムで自己組織化したチームについての講義とゲーム体験				
	事後学修	講義の体験ゲームのまとめとポイント整理して課題提出				2.0
6	事前学修	「アパレルブランド情報システム」 その 1 やトピックスについて事前調査する				2.0
	授業	「アパレルブランド情報システム」 その 1 講義				
	事後学修	「アパレルブランド情報システム」 その 1 のレポート課題に備えて考えをまとめておく				2.0
7	事前学修	「アパレルブランド情報システム」 その 2 やトピックスについて事前調査する				2.0
	授業	「アパレルブランド情報システム」 その 2 講義				
	事後学修	2 回分の講義を復習してレポート試験提出				2.0
8	事前学修	「鉄道を支える技術・システム」 のトピックスについて事前調査する				2.0

	授業	鉄道を支える技術・システムの現状 講義	
	事後学修	「鉄道を支える技術・システムの現状」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2.0
9	事前学修	鉄道を支える技術・システムの課題は何か調査しておく	2.0
	授業	鉄道を支える技術・システムの課題と将来 講義	
	事後学修	鉄道を支える技術・システムの課題と将来の講義をまとめてレポートに備える	2.0
10	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う	2.0
	授業	レポート試験 0.5 コマ×2 回分=1 コマ分	
	事後学修	2 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2.0
11	事前学修	「エストニアの電子政府」について事前調査する	2.0
	授業	「エストニアの電子政府」講義	
	事後学修	「エストニアの電子政府」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2.0
12	事前学修	「エストニアの医療情報システム」について事前調査する	2.0
	授業	「エストニアの医療情報システム」講義	
	事後学修	「エストニアの医療情報システム」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2.0
13	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う	2.0
	授業	レポート試験 0.5 コマ×2 回分=1 コマ分	
	事後学修	2 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2.0
14	事前学修	銀行サービスと銀行システムについて事前調査する	2.0
	授業	「デジタル時代の銀行サービスと銀行システム」講義	
	事後学修	講義のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2.0
15	事前学修	プロジェクトマネジメントとは何か、現状と課題について下調べする	2.0
	授業	「DX 時代に求められるプロジェクトマネジメントスタイルの変化」講義	
	事後学修	2 回分の講義を復習してレポート試験提出 総復習 6 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：100% ■その他[成績評価は、出席回数が2/3 以上（4 回以上。但し、公認欠席と特別欠席を除く）の受講生に対して実施する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題やレポートに関する質問に回答する。レポートに関しては講師がコメントを記載してフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験あり。実務経験のある非常勤講師から、情報システム活用したビジネスの最前線の話を講演する。学業で修得した内容と、社会での類似点と相違点について講師からリアルな実践的内容を具体的に講演してもらい知識の幅を広げてもらう。

メディアデザイン特別講義 -2026 年度休講- Special Lectures on Media Design

担当教員	安田 光孝 他(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			ISC202
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
隔年開催のため、2026 年度は休講となります。						

本講義では、情報メディアに関係する業界で実際に活躍している人を毎回招き、オムニバス形式で講義を行う。						
実社会で実務経験を積んだ人の生（ナマ）の話を聞くことは、これから学生諸君が自分のキャリアを考えるにあたり、非常に有益である。諸君はこれを機会に、社会とはどんなものか、仕事とはどんなものなのかを知り、また、今まで大学で習得した知識と技術を見つめ直して、自分が社会に出て行く上での準備につなげて欲しい。質問の時間も設けるので、積極的に質問して欲しい。						

行動とデザイン Behavior-conscious Design

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ISC203	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(3),(5)				
授業概要						
物をデザインする際に、人間の身体や心理特性を考慮することが重要です。本講義は、行動科学や生理学の知見を基に、実際のデザインに結びつける力を養うことを目的とします。行動科学とは、その名の通り、人間の行動を科学する学問で、心理学などの分野を内包し、我々の生活全般を科学的に分析するものです。本科目では、講義を通じ、これらの学問分野からデザインに生かせる知見を探し出し、現実空間の事象からバーチャル空間、デジタル環境までも対象に、デザインが人と環境のインタラクションにどのような影響を与えるかを考えます。 本科目は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を用いた自主学修支援を採用しています。事前学修としてビデオ教材等による予習（反転授業）が課せられている場合は、予習を前提に授業が進められます（宿題をやってこない授業についていけなくなります）。また、事後学修についても POLITE 上の指示に従って行うようになっています。 大学の授業は、受講者の主体的に学ぶ姿勢が非常に重要となります。そのため、本学開発のオリジナルアプリ「Kaiwa2」などノート PC やタブレット・スマートフォンなどのデバイスを用いた双方向型の授業やグループワーク、実験などの体験型授業も行います。						
授業における学修の到達目標						
市民としての倫理観と自覚を持ち社会に貢献できる人材や、人間や社会、文化を理解し人に優しいデザインを考えることができる優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 観察力を養い、日常の様々な事象からデザインのヒントを見出す力を身につける。 また、理論的なバックグラウンドを基に、人間の行動とデザインの関係を読み取る力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	なし				0.0
	授業	ガイダンス、導入；人間工学と行動科学				
	事後学修	人間工学と行動科学について復習し、 ノートを整理する。				2.0
2	事前学修	身の回りのものや空間のデザインに人間工学的な要素や行動科学的な視点を見出し、まとめる。				2.0
	授業	心理学の誕生				
	事後学修	心理学の誕生について復習し、 ノートを整理する。				2.0
3	事前学修	目の仕組みについて、POLITE の教材で予習し、その内容をまとめる。				1.0
	授業	視覚（１）目とカメラの違い ・周辺視の実験 ・盲点の実験				
	事後学修	視覚に関する授業内容について復習し、 ノートを整理する。				2.0
4	事前学修	POLITE の教材で予習する。				0.5
	授業	視覚（２）明るさへの対応				
	事後学修	視覚に関する本日の授業内容について復習し、 ノートを整理する。				2.0
5	事前学修	POLITE の指示に従って、各自、ベンハムゴマの実験をしてレポートを作成する。				2.0
	授業	色と明るさ ・分光実験				

	事後学修	色と明るさに関する授業内容について復習し、ノートを整理する。	2.0
6	事前学修	カラーユニバーサルデザインについて参考 Web サイトおよび POLITE の教材で予習する。	2.0
	授業	カラーユニバーサルデザイン	
	事後学修	カラーユニバーサルデザインに関する授業内容について復習し、ノートを整理する。	2.0
7	事前学修	POLITE の教材で予習する。	0.5
	授業	ゲシュタルト心理学	
	事後学修	ゲシュタルト心理学に関する授業内容について復習し、ノートを整理する。	1.5
8	事前学修	レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献を読む（1） ※ 1 冊の本を読むため、読むだけで少なくとも 10 時間以上かかることが予想されます。そのため数週間に分けて配置してあります。	4.0
	授業	錯視	
	事後学修	錯視に関する授業内容について復習し、ノートを整理する。	2.0
9	事前学修	POLITE の教材で予習する。レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献を読む（2）	4.0
	授業	3 次元空間の知覚(1) 奥行きの手がかり	
	事後学修	奥行きの手がかりなど授業内容について復習し、ノートを整理する。	2.0
10	事前学修	POLITE の教材で予習する。レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献を読む（3）	4.0
	授業	3 次元空間の知覚(2) ステレオスコープ	
	事後学修	ステレオスコープなど授業内容について復習し、ノートを整理する。	2.0
11	事前学修	POLITE の教材で予習する。レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献を読む（4）	4.0
	授業	感覚・知覚・認知(1) ものを認識する仕組み	
	事後学修	ものを認識する仕組みなど授業内容について復習し、ノートを整理する。	2.0
12	事前学修	POLITE の教材で予習する。レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献の内容を整理しまとめる。	2.5
	授業	感覚・知覚・認知(2), 脳科学最前線	
	事後学修	脳科学最前線など授業内容について復習し、ノートを整理する。	2.0
13	事前学修	POLITE の教材で予習する。アフォーダンスのレポートをまとめる。	4.0
	授業	生態心理学の考え方	
	事後学修	生態心理学の考え方について復習し、ノートを整理する。	1.0
14	事前学修	なし	0.0
	授業	生態心理学・アフォーダンス ・グループワーク	
	事後学修	アフォーダンスについて復習し、ノートを整理する。	1.0
15	事前学修	なし	0.0
	授業	UX（ユーザ・エクスペリエンス）・環境行動とデザイン	
	事後学修	UX（ユーザ・エクスペリエンス）・環境行動とデザインについて復習する。試験範囲について、ノートを整理する。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験：40% ■小テスト：10% ■レポート(2)：25% □演習課題： %

■その他[レポート(1)+グループワーク+日常的な宿題：25%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
授業中や POLITE 等でコメントします。	
教科書	
参考書・Web サイト	・視覚心理学への招待 見えの世界へのアプローチ, 大山正, サイエンス社 ・美と造形の心理学, 仲谷洋平・藤本浩一, 北大路書房 ・生態学的視覚論, J.J.ギブソン, サイエンス社 ・誰のためのデザイン 増補改訂版, ドナルド・ノーマン, 新曜社 ・アフォーダンス 新しい認知の理論, 佐々木正人, 岩波科学ライブラリ
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門 I
備考	出席を前提としています。授業の注意事項の説明を「初回のガイダンス」時に行いますので、必ず出席のこと。
担当教員の実務経験	担当者は環境行動学の専門家として、これまで空間の利用者の UX を研究し、人と環境のインタラクションを基本にした新しい考えを用いて約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。本科目では、現実空間の事象からバーチャル空間、デジタル環境までを対象に、デザインが人と環境のインタラクションにどのように影響を与えるかを考えさせる。その際の具体的な事例紹介などに、これまでの企画設計立案の経験を生かす。

Web プログラミング演習 Web Programming Practical

担当教員	谷口 文威 (226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IST202	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
近年、一般家庭でも潤沢な通信帯域を利用できるようになり、動画をダウンロードしたり、ストリーミングで見ることができるようになりました。動画共有サイトなどを利用したみなさんいらっしゃるのではないのでしょうか。そうした中、こんにちの情報メディアにおいて、Web アプリケーション（Web 上で動作するアプリケーション）は非常に重要な位置を占めるようになってきたと言えるでしょう。 この講義では、Web アプリケーションがどのようなものかを理解するために、簡単なものを作成します。プログラミング言語として PHP を利用します。実習では、まず「課題を理解し」、それに対してどのような処理が必要かという「解決方法を考える」ステップを重視します。そのうえで、「実際にプログラムとして実装し」、意図通りに動くか「動作させて改善する」サイクルを繰り返します。これらの工程を通じて、データベースを利用した Web アプリケーションの作成方法や、個々のアプリケーションの動作・連携について、実践的な理解を深めてもらいます。						
授業における学修の到達目標						
・ PHP プログラミング技術を習得する ・ PHP を利用して、動的な Web ページを作成できる ・ PHP を利用して、データベースを利用した Web アプリケーションを作成できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。POLITE の(1)ファイルのアップロード方法、(2) PHP のコードを書くためのソフトウェアの使用方法について予習する。				4
	授業	ガイダンス				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	PHP の基本：変数				
	事後学修	出題された課題を解き、PHP の変数について理解を深める。				4
3	事前学修	PHP の変数に値を与える方法について調査する。とくに、URL を利用した方法と、フォームを利用した方法について調べておく。また、PHP をつかって、あるページから別のページへ移動させる方法について調査する。				4
	授業	PHP の基本：URL から値を渡す、フォームを使って値を渡す				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	PHP の基本：プログラムを利用したページ遷移				
	事後学修	出題された課題を解き、外部からプログラムへの値の渡し方、ページ遷移を行うときの注意点について理解を深める。				4
5	事前学修	POLITE で if 文と配列について予習する。				4
	授業	PHP の復習：if 文の複雑な例				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
6	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0

	授業	PHP の復習：配列	
	事後学修	出題された課題を解き、if 文と配列にかんする理解を深める。	4
	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。	4
7	授業	PHP の復習：繰り返し	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
8	授業	PHP の復習：glob 関数、配列関数	
	事後学修	出題された課題を解き提出する。繰り返しと glob 関数、配列関数にかんする理解を深める。	4
	事前学修	HTML コーディングや Web デザイン基礎演習で行った CSS にかんして復習しておく。また、CSS3 について調査する。POLITE の該当ドキュメントも読み、事前学習課題を行う。	4
9	授業	CSS によるデザイン：CSS の基本、CSS3	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	授業	CSS によるデザイン：CSS グリッドレイアウト	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。CSS3 によるデザインについて理解を深める。	4
	事前学修	ファイルアップロードができるサイトを複数箇所調べ、どのような動作をするか調査する。また、POLITE の該当ドキュメントも読み、事前学習課題を行う。	4
11	授業	PHP でファイルのアップロード：filter_input() の導入	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	授業	PHP でファイルのアップロード：ファイルアップローダ完成	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。ファイルをアップロードするときの注意点について理解を深める。	4
	事前学修	SQL 入門を履修していた場合には、データベースの操作（とくに SELECT 文）について復習しておく。また、POLITE の該当ドキュメントも読み、事前学習課題を行う。	4
13	授業	データベースへの接続：SELECT 文の基本、すべての列を出力、NULL について、重複行を省く	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	授業	データベースへの接続：WHERE 句によるレコード選択	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。SELECT 文の基本的な扱い方について理解し、それを PHP から利用する方法についても理解を深める。	4
	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。PHP における比較演算子・算術演算子との違いをまとめておく。	4
15	授業	データベースへの接続：コメント、別名、比較演算子	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
16	授業	データベースへの接続：算術演算子	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。SQL における比較演算子、算術演算子について理解を深める。	4
	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。PHP における論理演算子についても調べておく。	4
17	授業	データベースへの接続：論理演算子	

	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
18	授業	データベースへの接続：集合関数	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。SQL における論理演算子、集合関数について理解を深める。	4
	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。PHP での配列の並び替えとも比較する。	4
19	授業	データベースへの接続：並び替え	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：INSERT 文、DELETE 文、UPDATE 文	
20	事後学修	出題された課題を解き、提出する。並び替えに関しては、PHP の配列の並び替えとの違いをまとめる。また、ここまでで学んだ SELECT、INSERT、DELETE、UPDATE 文の機能や文法についてまとめる。	4
	事前学修	クロスサイト・スクリプティングについて調査する。また、POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。	4
21	授業	Web アプリケーションの脆弱性：Web アプリケーションの入力処理、文字エンコーディング、正規表現による入力値検証	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：クロスサイト・スクリプティング	
22	事後学修	出題された課題を解き、提出する。また、PHP における正規表現と、他のプログラミング言語の正規表現との違いの有無について調査し、まとめる。クロスサイト・スクリプティング脆弱性の発生理由とその防御方法について理解を深める。	4
	事前学修	検索機能を持つ Web アプリを複数個調査する。また、ユーザ認証とは何かについても調査する。それに加えて、POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。	4
23	授業	Web アプリケーションの脆弱性：検索機能を持つアプリの作成	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースを使ったユーザ認証	
24	事後学修	出題された課題を解き、提出する。検索機能を実装するときの注意点、データベースを利用したユーザ認証の実装の考え方について理解を深める。	4
	事前学修	SQL インジェクションという語句について調査し、その事例についてまとめる。また、POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。	4
25	授業	Web アプリケーションの脆弱性：SQL インジェクション	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	ログイン関連機能の作成	
26	事後学修	出題された課題を解き、提出する。また、SQL インジェクション脆弱性の発生理由とその防御方法について理解を深める。	4
	事前学修	HTTP におけるリファラについて調査する。また、クロスサイト・リクエストフォージェリ（CSRF）という語句について調べ、事例を少なくとも 1 つ調べておく。また、POLITE の事前学習課題を行う。	4
27	授業	リファラ	

	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
28	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：クロスサイト・リクエストフォージェリ	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。CSRF 脆弱性の発生理由とその防御方法について理解を深める。また，リファラ以外の HTTP ヘッダについても調査し，まとめる。	4
29	事前学修	POLITE にある最終課題のドキュメントを読み，それに付け加える機能を複数個考えておく。また，今まで行ってきた脆弱性に対する防御方法を使うべき箇所はどこかについてもまとめておく。	4
	授業	最終課題の設計	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
30	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	最終課題の開発	
	事後学修	各自で考えた独自機能を加えた最終課題を仕上げ，提出する。	4
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100 % □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
講義中および POLITE によりフィードバックを行います。			
教科書			
参考書・Web サイト		講義中に参考図書をいくつか紹介します。また，POLITE でも紹介します。	
単位修得が望ましい科目		HTML コーディング演習，メディア技術演習，SQL 入門	
備考		なし	
担当教員の実務経験		実務経験なし	

インターンシップ Internship

担当教員	森川 悟(326 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMC311	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
インターンシップとは、学校でそれまでに習得した専門知識や技術をベースに、在学中の学生が実企業の職場において一定期間（実働 5 日間以上）の就業経験を積むことによって、実社会の生きた知識を学ぶ実習であり、以下のようなねらいがあります。 （1）就業体験を通して、専門的職業人としての労働の実態や社会で働くことの意味を理解し、自己の職業適性や将来設計について考える機会とする。 （2）職業人として必要な高度な知識や技術のレベルを肌で感じることによって学問の大切さを知り、大学生としてふさわしい学問レベルについて考える機会とする。 （3）業界や職種に関する知識を得ることにより、高い職業意識を養い、主体的な職業選択ができるようになる。 また、最後にはインターンシップで得られた成果を報告するためのプレゼンテーション会を学内で実施する。						
授業における学修の到達目標						
大学で学んだことを実際の職場の中でどのように活用することができるかということ、並びにどのような学習が必要であるか実務を通して知ることにより、その後の学習意欲を高めて、十分な学士力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認して科目の全体の内容を把握するとともに、説明会に参加して必要な準備について把握する				2.0
	授業	インターンシップ実施説明				
	事後学修	説明された内容を改めて確認する				2.0
2	事前学修	インターンシップ事前研修の内容を把握する				2.0
	授業	インターンシップ事前研修				
	事後学修	インターンシップ事前研修の内容を振り返る				2.0
3	事前学修	研修先企業に関する調査				2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ				
	事後学修	インターンシップ報告書の作成				2.0
4	事前学修	研修先企業からの指示に従う				2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ				
	事後学修	インターンシップ報告書の作成				2.0
5	事前学修	研修先企業からの指示に従う				2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ				
	事後学修	インターンシップ報告書の作成				2.0
6	事前学修	研修先企業からの指示に従う				2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ				
	事後学修	インターンシップ報告書の作成				2.0

7	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
8	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
9	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
10	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
11	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
12	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
13	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
14	事前学修	インターンシップ報告プレゼンテーションで必要な内容を確認する	2.0
	授業	インターンシップ報告プレゼンテーションの資料作成	
	事後学修	インターンシップ報告プレゼンテーション資料の改善	2.0
15	事前学修	インターンシップ報告プレゼンテーション準備	2.0
	授業	インターンシップ報告プレゼンテーション会実施	
	事後学修	インターンシップでの体験と報告プレゼンテーションの振り返りを行う	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：50 % □演習課題： %

■その他[受入企業の研修記録及び評価書：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

インターンシップ報告発表会において評価、コメントをします。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし。
単位修得が望ましい科目	特になし。
備考	・インターンシップ希望者は5月に行われる説明会に参加すること。説明会については別途掲示する。 ・平成21年度入学生以降は全員、学生教育研究災害傷害保険（学研災）及び学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）に加入済み。
担当教員の実務経験	実務経験無し

CGプログラミング CG Programming

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		IMC304
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		4 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
コンピュータの高度利用技術であり情報メディア工学の核をなす CG（コンピュータ・グラフィックス）の原理と理論を学び、その応用技術を実習課題の制作を通して修得することを目的とする。 2 次元 CG および 3 次元 CG の原理と表現技法を実習形式で学び、課題のプログラミングによって CG の作成技術を修得する。プログラミング言語は Java のグラフィックス機能に特化した IDE である Processing を予定している。						
授業における学修の到達目標						
2D, 3D の CG プログラミングに関して、どのような技術が使われているのかという知見を取得し、その数学的なモデルをプログラムへ実装する力を実習を通して養う。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	プログラミングによる CG 実装の概要				
	事後学修	講義資料を基に開発環境に関する復習をする				2
2	事前学修	POLITE で配布した描画関数の利用に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	描画関数の利用				
	事後学修	描画関数の利用に関してレポートにまとめる				2
3	事前学修	POLITE で配布した描画関数の応用に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	描画関数の応用				
	事後学修	描画関数の応用に関してレポートにまとめる				2
4	事前学修	POLITE で配布した 2D の座標変換に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	2D の座標変換				
	事後学修	2D の座標変換に関してレポートにまとめる				2
5	事前学修	POLITE で配布した 2D の合成変換に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	2D の合成変換				
	事後学修	2D の合成変換に関してレポートにまとめる				2
6	事前学修	POLITE で配布した 3D の座標変換に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	3D の座標変換				
	事後学修	3D の座標変換に関してレポートにまとめる				2
7	事前学修	POLITE で配布した 3D の合成変換に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	3D の合成変換				
	事後学修	3D の合成変換に関してレポートにまとめる				2
8	事前学修	POLITE で配布したワイヤーフレームモデルに関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	ワイヤーフレームモデル				
	事後学修	ワイヤーフレームモデルに関してレポートにまとめる				2
9	事前学修	POLITE で配布したポリゴンモデルに関するプログラムの動作確認をする				2

	授業	ポリゴンモデル	
	事後学修	ポリゴンモデルに関してレポートにまとめる	2
10	事前学修	POLITE で配布した投影の原理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	投影の原理	
	事後学修	投影の原理に関してレポートにまとめる	2
11	事前学修	POLITE で配布したビューポリュームに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	ビューポリューム	
	事後学修	ビューポリュームに関してレポートにまとめる	2
12	事前学修	POLITE で配布したシェーディングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	シェーディング	
	事後学修	シェーディングに関してレポートにまとめる	2
13	事前学修	POLITE で配布したテクスチャマッピングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	テクスチャマッピング	
	事後学修	テクスチャマッピングに関してレポートにまとめる	2
14	事前学修	POLITE で配布した CG アニメーションに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	CG アニメーション	
	事後学修	CG アニメーションに関してレポートにまとめる	2
15	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	試験	
	事後学修	講義全体の理解度についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 40% ■小テスト： 10% ■レポート：50% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にてレポートやプログラムの作成例を示すとともに、誤った内容の傾向についても紹介する。

レポートの提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ
備考	これまでプログラミングが苦手だった人も、本講義のようなビジュアルな出力結果を通して、プログラミングに対する理解度の向上が期待できます。
担当教員の実務経験	担当者は 1999～2005 年頃まで CG に関する外部企業との産学連携事業に携わっていた。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

インフォグラフィックス演習 Information Graphics

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	ISC301	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(5)				
授業概要						
インフォグラフィックスは information と graphics を組み合わせた造語であり、情報の直感的理解を目的とした視覚表現を指す。この授業では、インフォグラフィックスの成り立ちや、わかりやすさのためのポイントを理解しつつ、調査した情報を元にグラフ、地図、タイムラインなどのインフォグラフィックス作品を制作する。図解表現のために Adobe Illustrator（またそれに変わるソフト）を使用できることが望ましい。授業では、受講者同士のディスカッションや課題発表なども行う。						
授業における学修の到達目標						
・ グラフなど表現の違いの意味を適切に理解できること ・ データから発想を得たビジュアル表現を制作できるようになること ・ 自身の着眼に対し、適切な根拠を選択することができるようになること						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	インフォグラフィックという言葉調べる。また Web、映像、印刷物などでわかりやすくデータが示されているものを見つける。				2
	授業	ガイダンス 可視化表現のバリエーション、効果など				
	事後学修	講義メモの提出。				2
2	事前学修	面白いと思う事例を Web などを探す。				2
	授業	面白いと思う可視化事例収集・発表：事例収集				
	事後学修	探した事例の何が面白いかを言語化し、説明できるようにしておく。				2
3	事前学修	事例紹介の準備をしておく。				2
	授業	面白いと思う可視化事例収集・発表：発表とディスカッション				
	事後学修	自身がデータと共に紹介できる題材を探しておく。				2
4	事前学修	自身が素敵だ、有益だと思う物事について、具体的なデータを調べておく。				2
	授業	素敵だと思うもの・ことの可視化表現：計画				
	事後学修	調査データをまとめておく。				2
5	事前学修	どんなビジュアル表現が可能か、アイディアを出しておく。				2
	授業	素敵だと思うもの・ことの可視化表現：情報収集				
	事後学修	制作方法を検討しておく。				2
6	事前学修	ラフスケッチを進めておく。				2
	授業	素敵だと思うもの・ことの可視化表現：分析・可視化 1				
	事後学修	制作が遅れている場合は、進めておく。				2
7	事前学修	制作が遅れている場合は、進めておく。				2
	授業	素敵だと思うもの・ことの可視化表現：分析・可視化 2				
	事後学修	作品の説明を考えておく。				2
8	事前学修	発表準備を進めておく。				2

担当教員	齋藤 一 (122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		ISC302
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
教育や教材の効果・効率・魅力を高めるために、「教育・教材を設計する」システム的なアプローチに関する方法論を、インストラクショナル・デザインといいます。インストラクショナル・デザインを用いることで、教育が「誰に」「何を」「どこまで」「なぜ」「どのように」行われるのかを明確にし、何が達成されれば効果があったと言えるのかを整理することができます。						
本講義では、Web での学習を想定した教材制作の実習を通して、インストラクショナル・デザインの基礎を学びます。また、教材制作はグループワークを基本としますが、個人での制作も認めます。						
授業における学修の到達目標						
インストラクショナル・デザインの基礎概念を理解し、教材設計の観点から説明できる。						
Web での学習を想定した教材について、学習目標・評価方法を含めた設計を行い、教材を制作できる。						
形成的評価を用いて教材を改善し、そのプロセスと成果を適切にまとめることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読み、授業内容を把握する				2.0
	授業	教材をイメージする（教材の4条件）： インストラクショナルデザイン（ID）のプロセスを概観する				
	事後学修	授業を復習し、ID の理解を深める				2.0
2	事前学修	Web 教材（教材）を読み直し、自分たちが作りたい教材を考えておく				2.0
	授業	教材作りをイメージする（Plan-Do-See）： グループ（最大3名）を構成し、制作する教材のテーマを決める。				
	事後学修	制作する教材のテーマについて、教材に盛り込む内容を検討しておく				2.0
3	事前学修	Web 教材「教材の責任範囲を明らかにする」を事前によく読んでおく。				2.0
	授業	教材の責任範囲を明らかにする： 制作する教材の責任範囲（入口と出口）を決める				
	事後学修	設定した教材の責任範囲が適切かどうかを再検討する。				2.0
4	事前学修	Web 教材「相対評価と絶対評価」を事前によく読んでおく				2.0
	授業	相対評価と絶対評価： 相対評価と絶対評価の違いを説明し、制作する教材でどのような評価を行うべきかを検討する				
	事後学修	制作する教材の評価方法について再検討する				2.0
5	事前学修	Web 教材「テストを作成する」を事前によく読み、作成するテストの内容を考えておく				2.0
	授業	テストを作成する（事前／事後テスト）： 制作する教材のテストを作成する実習を行う				
	事後学修	作成したテストが、教材の責任範囲と照らし合わせて適切かどうかを検討する				2.0
6	事前学修	Web 教材「教材企画書の作成」を事前によく読み、企画書の内容を検討しておく				2.0
	授業	教材企画書の作成： 自分たちが制作した教材の企画書を作成する。また、他のチームと教材企画書を相互チェックする実				

POLITE を通じてコメント等をフィードバックします。	
教科書	
参考書・Web サイト	J.M.ケラー著 鈴木克明 監修 「学習意欲をデザインする」北大路書房 鈴木克明 著「教材設計マニュアル-独学を支援するために」北大路書房 稲垣忠・鈴木克明 編著「教師のためのインストラクショナルデザイン・授業設計マニュアル Ver.2」北大路書房 R.M.ガニェ他著, 鈴木克明他監訳「インストラクショナルデザイン原理」北大路書房
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習, HTML コーディング演習
備考	課題、特に制作した教材を重視して評価を行います。また、制作の過程も評価の対象とするため、完成途中であっても、課題は必ず提出するようにしてください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

プロジェクト・マネジメント Project Management

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ISC205	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
この講義では、デザイナー、クリエイター、プログラマーなどを目指すものが将来、ディレクター、プロデューサー、上級SE などへのキャリアステップを踏む上で身につけるべきプロジェクトマネジメント、スケジュール管理、チームビルディング、チームマネジメントなどについて学習する。 大学でのプロジェクトの中で、作ることをひとりではなくチームで行う際、どうすれば成功に結び付けられるのかをみんなで考える。 CDIO のフレームワークでは、CDIO の一連の流れに関する管理手法を講義で扱う。 ※この講義はグループでのディスカッションを多く含みます。						
授業における学修の到達目標						
・デザイナーやクリエイターが持つべきマネジメント能力、チームづくりの基本的な知識と考え方を身につける。 ・ディレクターやプロデューサーを目指す上で必要な知識と応用力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義の目的とスケジュールをみしておく				2
	授業	ガイダンス クリエイティブってなに？ 自分は何を武器にする？ →グループディスカッション				
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる				2
2	事前学修	なぜ、情報大を目指したか思い出しておく				2
	授業	情報大生として何を学ぶか？ →グループディスカッション				
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる				2
3	事前学修	PMBOK について調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 2 PMBOK の体系				
	事後学修	他に同じような体系がないか調べてみる				2
4	事前学修	スコープについて調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 3 スコープマネジメント				
	事後学修	スコープの具体例を調べてみる				2
5	事前学修	チームマネジメントについて調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 4 チームマネジメント				
	事後学修	どのような具体例があるか調べてみる				2
6	事前学修	工数とは何か、調べておく				2

	授業	プロジェクトマネジメント 5 工数計算とタイムマネジメント	
	事後学修	計算問題を行う	2
7	事前学修	工数計算のテストの準備をおこなう	2
	授業	プロジェクトマネジメント 6 工数計算の復習 →小テスト	
	事後学修	小テストの復習	2
8	事前学修	自分がどのようなコミュニケーションツールを使っているかリストしてみる。	2
	授業	プロジェクトマネジメント 7 コミュニケーションマネジメント	
	事後学修	自分であれば、どのようなコミュニケーションツールが最適か考えてみる	2
9	事前学修	どうやったらチームが活性化するか考えてみる	2
	授業	チームビルディング 1 ケース教材：チームが活性化するまでのプロセス →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
10	事前学修	フレームを調べてみる	2
	授業	チームビルディング 2 ケース教材：フレームを作ろう →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
11	事前学修	困ったちゃんとは？調べてみる	2
	授業	チームビルディング 3 ケース教材：困ったちゃんにならないために →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
12	事前学修	どうやったら信頼関係は作れるのだろうか。あるいは、壊れるのかを考えてみる。	2
	授業	チームビルディング 4 ケース教材：信頼関係はどう作る？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
13	事前学修	リーダーとは？リーダーシップとは何かを考えてみる。	2
	授業	チームビルディング 5 ケース教材：リーダーシップってどんなこと？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
14	事前学修	自分が意思を決定する際、どのように決めているのかを思い出してみる	2
	授業	チームビルディング 6 ケース教材：意思決定はどう行う？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
15	事前学修	コミュニケーションツールにはどんなものがあるか調べてみる	2

デザインシンキング Design Thinking

担当教員	安田 光孝(135 研究室), 近澤 潤(330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMC317	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
モノを作る（デザイン）上でいかに新しいものを産み出すか。 特に情報メディア分野の中でいかに新しいものを産み出すか、人間中心とデザイン思考のアプローチでその発想法とイノベーション創出の訓練を行う。ワークショップ形式の授業が中心となる。 CDIO のフレームワークでは、C: Conceive（構想・考え出すこと） と D: Design（設計）を講義で扱う。 ※この講義はランダムでメンバー構成されたグループワークが多くあります。						
授業における学修の到達目標						
・デザイン思考の基本を理解する ・デザイン思考のアプローチを実習を通し、体得する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義のスケジュールと目標に目を通す				2
	授業	ガイダンス デザイン思考とはなにか				
	事後学修	デザイン思考に関する周辺情報を調べてみる				2
2	事前学修	デザイン思考で産まれたものを調べてみる →レポートとして提出				2
	授業	デザイン思考で産まれたアイデアと事例紹介				
	事後学修	事例がどのように産まれたか、掘り下げて調べてみる				2
3	事前学修	デザイン思考のプロセスについて調べてみる				2
	授業	デザイン思考ショートワークショップ 1（課題抽出）				
	事後学修	ワークショップで行った課題抽出方法についてポイントはなにか考えてみる。				2
4	事前学修	デザイン思考のアイディエーションの方法について調べてみる				2
	授業	デザイン思考ショートワークショップ 2（アイディエーション）				
	事後学修	ワークショップで行ったアイディエーションについてポイントはなにか考えてみる。				2
5	事前学修	共感とは何かについて調べる				2
	授業	共感フェーズについて				
	事後学修	共感フェーズでのキーは何かを考える				2
6	事前学修	問題提起フェーズの基本について調べてみる				2
	授業	問題提起フェーズについて				
	事後学修	問題提起フェーズでのキーは何かを考える				2
7	事前学修	創造フェーズの基本について調べてみる				2
	授業	創造フェーズについて				
	事後学修	創造フェーズでのキーは何かを考える				2

8	事前学修	プロトタイプフェーズ・テストについての基本を調べる	2
	授業	プロトタイプフェーズ・テストについて	
	事後学修	プロトタイプフェーズ・テストのキーは何かを考えてみる	2
9	事前学修	デザイン思考のアプローチを復習しておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） 課題提示 提出物：グループで作成した課題設定書	
	事後学修	設定した課題を振り返って理解しておく	2
10	事前学修	ペルソナについて調べておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） 共感 - ペルソナ作成 提出物：グループで作成したペルソナ	
	事後学修	ペルソナでなぜ共感することが大切かを考える	2
11	事前学修	エンパシーマップについて調べておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） 共感 - エンパシーマップ作成 提出物：グループで作成したエンパシーマップ	
	事後学修	エンパシーマップでなぜ共感することが大切かを考える	2
12	事前学修	前回までに何の共感を得たかを復習しておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） 問題提起 提出物：グループで作成した問題提起書	
	事後学修	問題提起の中で、何が原因としてありそうかを復習しておく	2
13	事前学修	問題に対し、いくつかアイデアを考えておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） アイディエーション 提出物：グループで作成したプロダクトアイデア	
	事後学修	考え出したアイデアに競合がいるか調べる	2
14	事前学修	考え出したアイデアを膨らませられるか考えてみる	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） プロトタイピング 提出物：グループで作成した提案書ドラフト	
	事後学修	プロトタイプを説明できるようにしておく	2
15	事前学修	ワークショップで得たことを箇条書しておく	2
	授業	デザインシンキング実習（個人ワーク） アウトプット 提出物：個人で作成したプロダクト説明書	
	事後学修	デザイン思考のプロセスを全体的に振り返ってみる。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：30% ■演習課題：70% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートは採点し、返却する

デザインシンキング実習で作成した成果物は、作業の途中、及び、次回の講義時間に直接グループ及び個人にフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	アイリーニ・デザイン思考センターWeb サイト (https://designthinking.eireneuniversity.org/)
単位修得が望ましい科目	特になし

備考	特になし
担当教員の実務経験	担当者の一人は、アイリーニ・デザイン思考センターが提供するデザイン思考ファシリテータ養成プログラム、東京大学 i.School のイノベーション教育ファシリテータ養成プログラムを修了し、数々のデザイン思考ワークショップのファシリテータを行ってきた。その経験を講義で活用する。 また、フィンランド OAMK Lab に 6 ヶ月間招聘研究員として滞在した際に受けたワークショップ、手法も講義に還元する。 担当者の一人は、アイリーニ・デザイン思考センターが提供するデザイン思考ファシリテータ養成プログラムを終了し、デザイン思考ワークショップのファシリテータを行ってきた。また、一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務を経験している。

デザインシンキング（国際情報プログラム） Design Thinking

担当教員	安田 光孝(135 研究室), 近澤 潤(330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ISC303	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
「国際情報プログラム（IIP）」の学生だけが履修できます。 モノを作る（デザイン）上でいかに新しいものを産み出すか。 特に情報メディア分野の中でいかに新しいものを産み出すか、人間中心とデザイン思考のアプローチでその発想法とイノベーション創出の訓練を行う。ワークショップ形式の授業が中心となる。 CDIO のフレームワークでは、C: Conceive（構想・考え出すこと）と D: Design（設計）を講義で扱う。 ※講義は、日本語と英語を織り交ぜて行います。 ※この講義はランダムでメンバー構成されたグループワークが多くあります。						
授業における学修の到達目標						
・デザイン思考の基本を理解する ・デザイン思考のアプローチを実習を通し、体得する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義のスケジュールと目標に目を通す				2
	授業	ガイダンス デザイン思考とはなにか				
	事後学修	デザイン思考に関する周辺情報を調べてみる				2
2	事前学修	デザイン思考で産まれたものを調べてみる				2
	授業	デザイン思考で産まれたアイディアと事例紹介				
	事後学修	事例がどのように産まれたか、掘り下げて調べてみる				2
3	事前学修	デザイン思考のプロセスについて調べてみる				2
	授業	デザイン思考ショートワークショップ 1（課題抽出）				
	事後学修	ワークショップで行った課題抽出方法についてポイントはなにか考えてみる。				2
4	事前学修	デザイン思考のアイディエーションの方法について調べてみる				2
	授業	デザイン思考ショートワークショップ 2（アイディエーション）				
	事後学修	ワークショップで行ったアイディエーションについてポイントはなにか考えてみる。				2
5	事前学修	共感とは何かについて調べる				2
	授業	共感フェーズについて				
	事後学修	共感フェーズでのキーは何かを考える				2
6	事前学修	問題提起フェーズの基本について調べてみる				2
	授業	問題提起フェーズについて				
	事後学修	問題提起フェーズでのキーは何かを考える				2
7	事前学修	創造フェーズの基本について調べてみる				2

	(https://designthinking.eireneuniversity.org/)
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	担当者の一人は、アイリーニ・デザイン思考センターが提供するデザイン思考ファシリテータ養成プログラム、東京大学 i.School のイノベーション教育ファシリテータ養成プログラムを修了し、数々のデザイン思考ワークショップのファシリテータを行ってきた。その経験を講義で活用する。 また、フィンランド OAMK Lab に 6 ヶ月間招聘研究員として滞在した際に受けたワークショップ、手法も講義に還元する。

情報メディア特別演習Ⅱ Information Media Special Practical 2

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IMC320
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
高度に情報化された社会で、職業人として ICT を有効活用するために必要不可欠な基礎知識の定着を目的とした科目です。 コンピュータの基礎要素であるハードウェアとソフトウェアから始め、それらを意図した通りに動かすためのアルゴリズムとその実現手段であるプログラミングについて扱います。 その後、コンピュータを中心とした情報システムを支えるデータベース・ネットワーク・マルチメディア及び情報セキュリティについて取り扱います。 その後、情報システムの開発とそのマネジメントを学び、情報システム分野に関連する法規や標準について学びます。 講義は教科書に書いてある事をベースにスライドで補いながら進めますので、必ずメモを取る様にしてください。 成績は随時課す小テストの成果と必要に応じ課されるレポートをもとに評価します。 授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（LMS）」を利用して行います。						
授業における学修の到達目標						
ICT に関する基本的な知識の再確認をして定着させる事						
基本情報処理技術者試験の合格						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の準備、タブレット端末への電子教科書および特典アプリケーションのインストール				2
	授業	初修ガイダンス・資料映像の鑑賞				
	事後学修	指定した教科書の範囲の予習				2
2	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	ハードウェア				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
3	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	ソフトウェア				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
4	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	コンピュータで扱うデータ				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
5	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	アルゴリズムとデータ構造				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
6	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	システム開発				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
7	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	コンピュータシステム				

成績評価の方法およびその基準

☐試験： % ☒小テスト：100% ☐レポート： % ☐演習課題： %
☐その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

開講回ごとに課される小テストは、期限までに提出すること。期限内に提出があり、なおかつ合格点の達した場合のみ平常点に加算される。小テストは採点後の返却か、正解の提示（自己採点後の回収・返却）を必ず行い、復習と反復学習を常に促す。

311

単位修得が望ましい科目	なし
備考	この科目は、情報処理の促進に関する法律第 7 条第 1 項に基づき経済産業大臣が行う国家試験である情報処理技術者試験の内「基本情報処理技術者」を取得する上で必要な知識を扱っています。この科目で扱っていない内容を自主的に勉強する事によって、資格取得に役立ちます。
担当教員の実務経験	なし

情報メディア特別ゼミナールⅠ Information Media Special Seminar 1

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(326 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IMC323
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
情報メディア学科の学びおよびゼミナール活動におけるさらなる学びを追求するために、ゼミナールⅠを担当する教員による個別指導です。参加する個々の学生に応じて到達目標を設定し、取り組む内容を決定します。集中講義で行います。						
授業における学修の到達目標						
各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。						
授業計画						

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
2	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
3	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
4	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
5	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
6	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
7	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
8	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
9	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
10	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
11	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
12	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
13	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	

	事後学修	集中講義で行います。	2.0
14	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
15	事前学修	集中講義で行います。	2.0
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。			
教科書			
参考書・Web サイト		各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。	
単位修得が望ましい科目		各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。	
備考		特にありません。。	
担当教員の実務経験		各ゼミで到達目標が異なります。	

情報メディア特別ゼミナールⅡ Information Media Special Seminar 2

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 齋藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(326 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IMC407
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	冬期集中	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(4),(5)				
授業概要						
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、情報メディア学科の学びおよびゼミナール活動におけるさらなる学びの追求を行います。集中講義で行います。						
授業における学修の到達目標						
各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。						
授業計画						

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
2	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
3	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
4	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
5	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
6	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
7	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
8	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
9	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
10	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
11	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
12	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
13	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	

	事後学修	集中講義で行います。	2
14	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
15	事前学修	集中講義で行います。	2
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。			
教科書			
参考書・Web サイト		各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。	
単位修得が望ましい科目		各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		各ゼミで到達目標が異なります。	

卒業研究Ⅰ Graduate Seminar 1

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 辻 順平(223 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 島田 英二(137 研究室), 森川 悟(326 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 隼 田 尚彦(136 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC402
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、個人またはグループを対象にし、卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅰでは、どのようなテーマで、卒業論文・作品の制作をするかを決定するため、基礎となる調査を行う。また、調査内容についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。						
授業における学修の到達目標						
卒業研究を遂行するための基礎的な調査、適切な文献レビューができる。						
授業計画						

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し、学部における学習の発展的なまとめとして、卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定の調査と報告を行う。 担当教員は、担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い、さらに報告書の作成の為の議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
3	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
4	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
5	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
6	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
7	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
8	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
9	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
10	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
11	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
12	事前学修		
	授業	卒業研究	

	事後学修		
13	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
14	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
15	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容、発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。

報告書：80% 口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜、指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜、指示を行う。
備考	とくにありません。
担当教員の実務経験	担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

卒業研究Ⅱ Graduate Seminar 2

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 辻 順平(223 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 島田 英二(137 研究室), 森川 悟(326 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 隼 田 尚彦(136 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
	2 単位	ゼミ	○		IMC403	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、個人またはグループを対象にし、卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅱでは、各自またはグループで決めたテーマを研究または作成するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定を行う。また、研究資料・題材・研究手法・制作手法についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。						
授業における学修の到達目標						
卒業研究Ⅰでの理解を下に、研究または作成する為の研究計画を立案できる。						

授業計画			
回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し、学部における学習の発展的なまとめとして、卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定の調査と報告を行う。 担当教員は、担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い、さらに報告書の作成の為に議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
3	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
4	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
5	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
6	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
7	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
8	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
9	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
10	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
11	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
12	事前学修		

	授業	卒業研究	
	事後学修		
13	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
14	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
15	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
成績評価の方法およびその基準			
成果物や発表内容、発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。 報告書：80% 口頭試問：20%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
適宜、指示を行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		適宜、指示を行う。	
単位修得が望ましい科目		適宜、指示を行う。	
備考		とくにありません。	
担当教員の実務経験		担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。	

卒業研究Ⅲ Graduate Seminar 3

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 辻 順平(223 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 島田 英二(137 研究室), 森川 悟(326 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 隼 田 尚彦(136 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC405
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、個人またはグループを対象にし、卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅲでは、各自またはグループで決めた調査・分析・制作の実施・研究の実施を主に行い、結果を報告書などにまとめる。また、報告書の内容についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。						
授業における学修の到達目標						
実際に研究・制作に従事し、問題点・制作上の難点を明確にし、更なる研究・制作を行う						
授業計画						

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し、学部における学習の発展的なまとめとして、卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定の調査と報告を行う。 担当教員は、担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い、さらに報告書の作成の為の議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
3	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
4	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
5	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
6	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
7	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
8	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
9	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
10	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
11	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
12	事前学修		
	授業	卒業研究	

	事後学修		
13	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
14	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
15	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容、発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。

報告書：80% 口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜、指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜、指示を行う。
備考	とくになし。
担当教員の実務経験	担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

卒業研究Ⅳ Graduate Seminar 4

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 辻 順平(223 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 島田 英二(137 研究室), 森川 悟(326 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 隼 田 尚彦(136 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
	2 単位	ゼミ	○		IMC406	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、個人またはグループを対象にし、卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅳでは、Ⅰ, Ⅱ, Ⅲで行ってきたことを更に深め、研究または作成を仕上げる。また、作成した卒業論文に関するディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。						
授業における学修の到達目標						
指定された形式を守り、学術論文にふさわしい表現で卒論を書き上げる。また口頭試問では、説明でき且つ質問に的確に説明できることを目指す。						

授業計画			
回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し、学部における学習の発展的なまとめとして、卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定の調査と報告を行う。 担当教員は、担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い、さらに報告書の作成の為に議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
3	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
4	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
5	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
6	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
7	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
8	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
9	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
10	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
11	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
12	事前学修		

	授業	卒業研究	
	事後学修		
13	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
14	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
15	事前学修		
	授業	卒業研究	
	事後学修		
成績評価の方法およびその基準			
成果物や発表内容、発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。 報告書：80% 口頭試問：20%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
適宜、指示を行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		適宜、指示を行う。	
単位修得が望ましい科目		適宜、指示を行う。	
備考		とくにありません。	
担当教員の実務経験		担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。	

コンピュータゲーム開発論 Computer Game Development

担当教員	齊藤 智之(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		IST201	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(6)				
授業概要						
テーマ：ゲーム開発に必要な役割と具体的な開発手法について学習						
授業は「学習者適応 e-Learning システム（POLITE）を利用します						
授業における学修の到達目標						
1.ゲーム開発の制作過程を学ぶ						
2.プロジェクトを導く為の手法と心構えを学ぶ						
3.市場ニーズを捉え,成果に結びつく発想力を学ぶ						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゲーム開発の職種とその役割について調べてください				2.0
	授業	ガイダンス,ゲームのお仕事（クリエイター）				
	事後学修	ゲームクリエイターになるとしたら,どの職種に就くかを考え,詳しく調べてください				2.0
2	事前学修	どんなゲーム会社があるのかを調べてください				2.0
	授業	ゲームのお仕事（会社）				
	事後学修	ゲームクリエイターになったとして,自分がどんな会社に入社したいのかを考え,その会社を調べてください				2.0
3	事前学修	インディゲームとは何かを調べてください				2.0
	授業	インディゲームとは				
	事後学修	講義中で制作したインディゲームについて紹介するスライドに過不足がないか見直し,良いものになるように作りこんでください				2.0
4	事前学修	ゲームエンジンとは何かを調べてください				2.0
	授業	ゲームエンジンとは				
	事後学修	自分が好きなゲームは何のゲームエンジンで作られているのかを調べてください				2.0
5	事前学修	一番好きなゲームについて詳しく答えられるように準備してください				2.0
	授業	ゲームの役割について				
	事後学修	ゲームが人々の日常にどのような役割を果たせるのかを考えてください				2.0
6	事前学修	エンターテインメントとは何かを調べてください				2.0
	授業	アイデアの出し方				
	事後学修	お題を元にアイデアを出す訓練をしてください				2.0
7	事前学修	基本プレイ無料のゲームをプレイしてみてください				2.0
	授業	マネタイズとは				
	事後学修	ゲームを開発するために必要な費用について考察してください				2.0
8	事前学修	要件定義について調べてください				2.0
		カレーライスを作ってほしいと言われたらどうしたら良いかを考えてみてください				

SQL入門 Introduction to SQL

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習		IST203	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(5),(6)				
授業概要						
SQL は、リレーショナルデータベース（Relational Database）を利用するための言語です。本講では SQL を利用してリレーショナルデータベースを利用できるようになることを目標にしています。 はじめにリレーショナルデータベースの基礎的な知識を学習したうえで、ノート PC 等を利用して基本的な SQL を扱った演習に取り組みながら、リレーショナルデータベースの利用方法を身に付けていきます。具体的には、データモデルとデータベース管理システム、データ操作、データ定義、データ制御について扱います。また、データベース設計（正規化）についても扱う予定です。 なお、本講の内容は、「IT パスポート試験」「基本情報技術者試験」の学習につながります。						
授業における学修の到達目標						
ノート PC 等を利用して、コマンドラインツールから実際に SQL 文を実行することで、以下の操作を修得することが目標です。 （１）リレーショナルデータベースから目的のデータを取得する。 （２）リレーショナルデータベースにデータを挿入したり、データの更新、削除をする。 （３）リレーショナルデータベースにデータ管理のための構造や制約を定義する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握して下さい。				1
	授業	データベースシステム				
	事後学修	配布資料の第 1 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
2	事前学修	配布資料の第 2 章をよく読んでみましょう。				2
	授業	リレーショナルデータベース				
	事後学修	LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
3	事前学修	配布資料の第 3 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	SQL の概要と問合せの基本				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
4	事前学修	配布資料の第 4 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	問合せ結果の加工				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
5	事前学修	配布資料の第 5 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	複雑な条件による問合せ				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
6	事前学修	配布資料のこれまでの確認問題を見直しておきましょう。				2

	授業	これまでのまとめと確認	
	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。	2
7	事前学修	配布資料の第 7 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	SQL による集計処理	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
8	事前学修	配布資料の第 8 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	集合演算と表の結合	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
9	事前学修	配布資料の第 9 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	副問合せ	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
10	事前学修	配布資料の第 7 章から第 9 章までの確認問題を見直しておきましょう。	2
	授業	これまでのまとめと確認	
	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。	2
11	事前学修	配布資料の第 11 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	データの変更とトランザクション処理	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
12	事前学修	配布資料の第 12 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	正規化理論による表の設計	
	事後学修	授業中に取り組んだ課題を確認し、LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
13	事前学修	配布資料の第 13 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	表の作成と削除	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
14	事前学修	配布資料の第 14 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	インデックスと機密保護機能	
	事後学修	LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
15	事前学修	配布資料の全範囲にわたって、確認問題を見直しておきましょう。	3
	授業	これまでのまとめと確認	
	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：％ ■小テスト：15％ □レポート：％ ■演習課題：15％ ■その他[授業内テスト]：70％

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各演習、授業内テストについて、終了後の授業内で解答・解説を行うとともに、LMS 上でも解答・解説を行います。

教科書

参考書・Web サイト

朝井淳；データベースの気持ちができる SQL はじめの一步，技術評論社 (2015)
 北川博之；データベースシステム，オーム社 (2014)
 手塚忠則；やさしい SQL 入門 演習問題で学ぶデータベース操作法，カットシステム (2015)

	西村めぐみ；標準 SQL＋データベース入門－RDB と DB 設計，基本の力，技術評論社（2024） 増永良文；データベース入門 [第 2 版]，サイエンス社(2021) 三村かよこ；ゼロからわかる SQL 超入門，技術評論社 (2017)
単位修得が望ましい科目	ICT 入門，コンピュータ
備考	多くの時間でノート PC 等を利用し，学内に用意したオリジナル実習環境を利用した SQL 実習を行います。また，LMS のフィードバック機能等を活用し，理解度を確認しながら授業を進めていく予定です。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。データ分析の手法，データベースの仕組みが機能・性能に及ぼす影響など，実際にデータベースシステムを開発・運用する際に求められる基本的な知見を学生に還元できるよう授業を組み立てています。

SQL入門【再】 Introduction to SQL

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習		IMT204	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
SQL は、リレーショナルデータベース（Relational Database）を利用するための言語です。本講では SQL を利用してリレーショナルデータベースを利用できるようになることを目標にしています。 はじめにリレーショナルデータベースの基礎的な知識を学習したうえで、ノート PC 等を利用して基本的な SQL を扱った演習に取り組みながら、リレーショナルデータベースの利用方法を身に付けていきます。具体的には、データモデルとデータベース管理システム、データ操作、データ定義、データ制御について扱います。また、データベース設計（正規化）についても扱う予定です。 なお、本講の内容は、「IT パスポート試験」「基本情報技術者試験」の学習につながります。						
授業における学修の到達目標						
ノート PC 等を利用して、コマンドラインツールから実際に SQL 文を実行することで、以下の操作を修得することが目標です。 （１）リレーショナルデータベースから目的のデータを取得する。 （２）リレーショナルデータベースにデータを挿入したり、データの更新、削除をする。 （３）リレーショナルデータベースにデータ管理のための構造や制約を定義する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握して下さい。				1
	授業	データベースシステム				
	事後学修	配布資料の第 1 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
2	事前学修	配布資料の第 2 章をよく読んでみましょう。				2
	授業	リレーショナルデータベース				
	事後学修	LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
3	事前学修	配布資料の第 3 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	SQL の概要と問合せの基本				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
4	事前学修	配布資料の第 4 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	問合せ結果の加工				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
5	事前学修	配布資料の第 5 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	複雑な条件による問合せ				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
6	事前学修	配布資料のこれまでの確認問題を見直しておきましょう。				2
	授業	これまでのまとめと確認				

	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。	2
7	事前学修	配布資料の第 7 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	3
	授業	SQL による集計処理	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
8	事前学修	配布資料の第 8 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	集合演算と表の結合	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
9	事前学修	配布資料の第 9 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	副問合せ	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
10	事前学修	配布資料の第 7 章から第 9 章までの確認問題を見直しておきましょう。	2
	授業	これまでのまとめと確認	
	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。	2
11	事前学修	配布資料の第 11 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	データの変更とトランザクション処理	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
12	事前学修	配布資料の第 12 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	正規化理論による表の設計	
	事後学修	授業中に取り組んだ課題を確認し、LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
13	事前学修	配布資料の第 13 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	表の作成と削除	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
14	事前学修	配布資料の第 14 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	インデックスと機密保護機能	
	事後学修	LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
15	事前学修	配布資料の全範囲にわたって、確認問題を見直しておきましょう。	3
	授業	これまでのまとめと確認	
	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト：15% □レポート： % ■演習課題：15% ■その他[授業内テスト]：70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各演習、授業内テストについて、終了後の授業内で解答・解説を行うとともに、LMS 上でも解答・解説を行います。

教科書

参考書・Web サイト

朝井淳；データベースの気持ちがわかる SQL はじめの一步，技術評論社 (2015)
北川博之；データベースシステム，オーム社 (2014)
手塚忠則；やさしい SQL 入門 演習問題で学ぶデータベース操作法，カットシステム (2015)

	西村めぐみ；標準 SQL＋データベース入門－RDB と DB 設計，基本の力，技術評論社（2024） 増永良文；データベース入門 [第 2 版]，サイエンス社(2021) 三村かよこ；ゼロからわかる SQL 超入門，技術評論社 (2017)
単位修得が望ましい科目	ICT 入門，コンピュータ
備考	多くの時間でノート PC 等を利用し，学内に用意したオリジナル実習環境を利用した SQL 実習を行います。また，LMS のフィードバック機能等を活用し，理解度を確認しながら授業を進めていく予定です。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。データ分析の手法，データベースの仕組みが機能・性能に及ぼす影響など，実際にデータベースシステムを開発・運用する際に求められる基本的な知見を学生に還元できるよう授業を組み立てています。

インターネットの仕組み Internet Technologies

担当教員	広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義			IST204
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
インターネットは、現在の情報化社会を支える基盤として不可欠な存在になっている。通信ネットワークとしてのインターネットの仕組みと動作原理を学ぶことは、現在の情報通信ネットワークを理解する上で根幹となっている。この科目では、ローカルエリアネットワーク（LAN）を基礎として、インターネットの仕組みと動作原理を学び、インターネットを紹介した 1 対 1 あるいは 1 対多のコミュニケーションの方法を学習する。 基本的に対面による授業を実施する。						
授業における学修の到達目標						
OSI 参照モデル、インターネットの世界標準である TCP/IP プロトコルの仕組みと動作を理解し、通信ネットワークに関する全般的な知識、技術の修得を目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	「コンピュータ」（1 年次開講科目）を履修した人は、その復習を、未履修の人は、コンピュータの概要、2 進数、16 進数について学んでおく。				2
	授業	ガイダンス、インターネットの仕組み入門				
	事後学修	LMS 上に提示している第 1 回小テストに回答する。また 2 進数、10 進数、16 進数変換の練習問題（これも LMS 上に提示）を解く。（第 2 回以降も小テストは LMS 上に提示している）				2
2	事前学修	教科書の 1 章、2 章を読み内容を整理する。特に、教科書で示されている郵便配達例から、コンピュータネットワークにおける階層構造を整理する。				2
	授業	コンピュータネットワーク・階層構造				
	事後学修	コンピュータネットワークに関する用語をまとめ、階層構造の意義についてまとめる。 第 2 回小テストに回答する。				2
3	事前学修	教科書の 3 章「Web の仕組み」、4 章「HTTP」を読み内容を整理する。また、Web ブラウザから HTML ファイルを表示する方法についてまとめる。				2
	授業	Web の仕組みの概要と HTTP				
	事後学修	講義で学んだことに基づいて、Web ブラウザで URL を指定し、その Web ページが表示されるまでの仕組みをまとめ、事前学習の内容を更新する。 第 3 回小テストに回答する。				2
4	事前学修	教科書 5 章「物理層」の講義スライドを整理する。特に、教科書で示されている郵便配達例から、物理層の役割を整理する。				2
	授業	物理層				
	事後学修	物理層における役割をまとめる。特に、RS-232C を例にした bit の表現方法や、誤り検知についてもまとめること。 第 4 回小テストに回答する。				2
5	事前学修	教科書 6 章「データリンク層 1（フレーム）」を読み整理する。特に、教科書で示されている郵便配達例から、データリンク層の役割を理解する。				2
	授業	データリンク層（フレーム）				
	事後学修	フレームとは何か、これによりできることは何かをまとめる。また、ネットワーク接続のための機器				2

		について、それらの違いについてもまとめること。 第 5 回小テストに回答する。	
6	事前学修	教科書の 7 章「データリンク 2 層（メディアアクセス制御）」を読み整理する。特に、教科書で示されている郵便配達の例から、メディアアクセス制御とは何かについて理解する。	2
	授業	データリンク層（メディアアクセス制御）	
	事後学修	メディアアクセス制御の定義や種類についてまとめる。 第 6 回小テストに回答する。	2
7	事前学修	これまでの講義内容や、小テストで分からなかった箇所を調査する。	1
	授業	総合演習 1 （演習問題に回答する）	
	事後学修	総合演習 1 の分からなかった箇所について調査し、内容を理解する。	3
8	事前学修	教科書の 8 章「ネットワーク層 1（基本的な役割）」を読み整理する。特に、教科書で示されている郵便配達の例から、ネットワーク層の役割とは何かについて理解する。	2
	授業	ネットワーク層（基本的な役割）	
	事後学修	ネットワーク層とデータリンク層の対象の違いについてまとめる。また、ARP の動作原理についてもまとめる。 第 8 回小テストに回答する。	2
9	事前学修	教科書の 9 章「ネットワーク層 2（IP アドレス）」を読み整理する。この際、IP アドレスの中のネットワークを表す箇所と、個々のノードについて表す箇所があること、またその境界がどこであるかについて調査する。	2
	授業	ネットワーク層（IP アドレス）	
	事後学修	IP アドレスの仕組みについてまとめる。このとき、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレス、プライベートアドレス、グローバルアドレス、マルチキャストアドレスなど、IP アドレスの種類や役割について整理する。また、DHCP サーバの動作原理についてもまとめる。 第 9 回小テストに回答する。	2
10	事前学修	教科書の 10 章「ネットワーク層 3（ルーティング）」を読み整理する。特に、教科書で示されている郵便配達の例から、ルータの役割について理解する。	2
	授業	ネットワーク層（ルーティング）	
	事後学修	ルーティングとは何か、ルータの役割は何かについてそれぞれまとめる。 第 10 回小テストに回答する。	2
11	事前学修	これまでの講義内容や、小テストで分からなかった箇所を調査する。	1
	授業	総合演習 2 （演習問題に回答する）	
	事後学修	総合演習 2 の分からなかった箇所について調査し、内容を理解する。	3
12	事前学修	教科書の 11.1 節～11.3 節を読み整理する。特に、教科書で示されている郵便配達の例から、トランスポート層の必要性（ネットワーク層のみで発生しうる問題点）について理解する。	2
	授業	トランスポート層（セグメント）	
	事後学修	トランスポート層の役割、TCP と UDP の違いについてまとめる。 第 12 回小テストに回答する。	2
13	事前学修	教科書の 11.4 節、11.5 節を読み整理する。ポート番号の必要性について調査する。12 章「セッション層、プレゼンテーション層」を読み整理する。	2
	授業	トランスポート層（ポート）、セッション層・プレゼンテーション層	
	事後学修	ポート番号の役割、セッション層・プレゼンテーション層についてまとめる。 第 13 回小テストに回答する。	2

14	事前学修	教科書 13 章, 14 章, 15 章を読み整理する。	2
	授業	アプリケーション層, Web・ネットワークシステム	
	事後学修	アプリケーション層の概要についてまとめる。また, サーバ・クライアント型の方式と P2P の違い, DNS の仕組みについてまとめる。さらに, これまで学修した内容を基に, Web ブラウザに HTML が表示されるまでの一連の流れを OSI 参照モデルを意識しながらまとめる。 第 14 回小テストに回答する。	2
15	事前学修	これまでの講義内容や, 小テストで分からなかった箇所を調査する。	1
	授業	総合演習 3 (演習問題に回答する)	
	事後学修	総合演習 3 の分からなかった箇所について調査し, 内容を理解する。	3

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験: % ■小テスト: 40 % □レポート: % ■演習課題: 60 %

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

LMS(POLITE)上でフィードバックします。

教科書	書名: コンピュータネットワーク (情報工学テキストシリーズ 4), 著者名: 三木 光範 (編), 佐藤 健哉・昔農 凜太郎 (著), 出版社: 共立出版, 備考:
参考書・Web サイト	LMS(POLITE)上に掲載
単位修得が望ましい科目	コンピュータ, メディア技術演習, HTML コーディング演習
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

Web フロントエンド演習 Web Front-end Practical

担当教員	齋藤 健司(314 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IST205	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(2),(6)				
授業概要						
Web アプリケーションにおいて、ブラウザに表示され、ユーザが操作する部分を Web フロントエンドと呼びます。近年では Web フロントエンドにおいて、ブラウザの中で動作する JavaScript というプログラミング言語の役割が重要になってきています。演習課題では動的に変化する Web ページを作る方法、簡単なアニメーション、入力フォームなどのコントロール、プログラムで図を書く方法、サーバと通信する方法などを学びます。本実習科目では、HTML、CSS の仕組と JavaScript の機能を組合せて様々な機能を持つ Web フロントエンドを作るための基礎を学びます。						
授業における学修の到達目標						
演習課題に取り組みながら Web アプリケーションのフロントエンド開発に必要な技術を習得することを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	HTML,CSS についての知識を思い出し、基本的な Web ページを作成するための方法を確認しておく。				4
	授業	ガイダンス：HTML5 を用いたモバイルアプリとは何かを説明し、この授業で学習する項目を確認する。				
	事後学修	なし				
2	事前学修	なし				
	授業	開発環境の整備：これから演習でモバイルアプリを作成するために必要となる環境の整備をする。				
	事後学修	自宅でも演習を行うための環境を構築してみる。				4
3	事前学修	JavaScript という言語について、どのような言語なのかを調べておく。				4
	授業	コーディングと実行テストの方法の説明と確認：HTML、CSS、JavaScript の基本を確認してアプリの概要を学ぶ。				
	事後学修	なし				
4	事前学修	なし				
	授業	コーディングと実行テストの実践：簡単なアプリを作成して動作確認を行う。				
	事後学修	HTML5 のモバイルアプリの最小構成要素を確認して、今後の課題のテンプレートを作ってみる。				4
5	事前学修	Web ページを記述する HTML は、タグというものを使用して階層的なデータ構造を表現していることを復習しておく。				4
	授業	DOM(Document Object Model)の概念の理解と確認：Web ページの中を JavaScript で操作することの意味を理解する。				
	事後学修	なし				
6	事前学修	なし				
	授業	DOM(Document Object Model)の操作の応用：DOM の技術を利用して、動的な Web ページを作成する。				
	事後学修	要素(Element)を JavaScript で生成する方法、特定の要素を選択する方法、要素を変更、削除する方法を復習する。				4

7	事前学修	プログラムの同期，非同期について調べ，非同期のプログラミングがどんな場面で必要であるかを把握する。	4
	授業	JavaScript の非同期処理の理解と確認：JavaScript における，非同期なプログラミングの方法について説明する。	
	事後学修	なし	
8	事前学修	なし	
	授業	JavaScript の非同期処理の応用：JavaScript の非同期なプログラムを作成し，その仕組みを体得する。	
	事後学修	非同期呼び出しを用いて繰り返し実行されるプログラムを施策してみる。	4
9	事前学修	Web ページの中に入力欄やボタンやチェックボックスを作る方法を調べておく。	4
	授業	HTML による UI の仕組みの理解と確認：Web ページ中の UI と JavaScript のプログラムを連動させる方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	
10	事前学修	なし	
	授業	HTML による UI の作成：ボタンを押すとプログラムが実行され，様々な動作をする仕組みを作り上げてみる。	
	事後学修	入力欄やボタンのあるページを選びそのソースファイルを見て，UI の仕組みを読み解いてみる。	4
11	事前学修	マウスで絵が描けるような Web ページを探し出して，そのページのソースを見て canvas という要素が無いか確認する。	4
	授業	Canvas を用いた描画の仕組みの理解と確認：Web ページ内の canvas 要素に線を引いたり色を塗る方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	
12	事前学修	なし	
	授業	Canvas を用いた描画：canvas に図形を描くプログラムを作成し，マウスで線を引くなどの応用を試す。	
	事後学修	プログラムで自分の好きな図形を Web ページ中の canvas 要素に描くプログラムを作成してみる。	4
13	事前学修	ブラウザで実行される JavaScript のプログラムでページを閉じて消えないようなデータを保存する技術を調べてみる。	4
	授業	ローカルストレージの理解と確認：キーとバリューで値を保存する仕組みと利用の方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	
14	事前学修	なし	
	授業	ローカルストレージの利用：ローカルストレージを利用して Web ページのデザインや，オブジェクトを保存してみる。	
	事後学修	大学の実習室で保存したデータが自宅の PC には保存されていないことをプログラムで確認してみる。	4
15	事前学修	ブラウザ内で実行される JavaScript プログラムにはデータの通信に制限があるが，その理由を調べてみる。	4
	授業	HTTP 通信技術の理解と確認：HTTP 通信 API を使った通信を行うプログラムの構成を確認し理解する。	
	事後学修	なし	
16	事前学修	なし	
	授業	HTTP 通信技術の利用：HTTP 通信 API を用いて基本的なデータの送受信やファイルアップロードのプログラムを作成する。	

	事後学修	通信を行うための手順と、プログラムの構成を確認する。他のドメインとの通信がブロックされることを試してみる。	4
17	事前学修	WebAPI や各種 Web 上のサービスについて調べ、どのようなサービスが利用できるか調査してみる。	4
	授業	WebAPI, サービスの理解と確認：外部の WebAPI のサービスについて学ぶ。	
	事後学修	なし	
18	事前学修	なし	
	授業	WebAPI, サービスの利用：外部の WebAPI のサービスを利用したプログラムを作成する。	
	事後学修	授業で紹介したサービス以外のサービスを利用するプログラムを作成してみる。	4
19	事前学修	位置情報を利用したアプリケーションにはどのような物があるかを調べてみる。	4
	授業	位置情報の利用方法の理解と確認：Geolocation API と Google マップを利用する方法について学習する。	
	事後学修	なし	
20	事前学修	なし	
	授業	位置情報の利用：デバイスの現在の位置情報を取得し、地図に表示するアプリなどを作成する。	
	事後学修	大学以外の場所からモバイル端末と PC で実行確認をして、その結果を確認する。	4
21	事前学修	タッチイベントとマウスのイベントとの違いについて調べてみる。	4
	授業	タッチイベントの理解と確認：タッチイベントに含まれる情報と処理の方法について学習する。	
	事後学修	なし	
22	事前学修	なし	
	授業	タッチイベントの利用：タッチイベントの情報を表示するプログラムや画像を操作するプログラムを作成する。	
	事後学修	タッチイベントで絵を書くプログラムを改良して機能を追加してみる。	4
23	事前学修	X,Y,Z の 3 つの直行する軸が作る座標系によって、色々な 3 次元の情報が表せることを確認しておく。	4
	授業	加速度センサーの理解と確認：モバイルデバイスも向きや動きに関するイベントについて学習する。	
	事後学修	なし	
24	事前学修	なし	
	授業	加速度センサーの利用：モバイルデバイスの向きや動きを捉えて情報を表示したり図示するプログラムを作る。	
	事後学修	角度と回転速度(角速度)の違いや、速度と加速度の違いについて整理しておく。	4
25	事前学修	これまで勉強してきたことで、何が可能になったのかを整理しておく。	4
	授業	総合課題の演習(計画)：4 つの総合課題について説明し、これらの課題への取り組みについて計画をたてる。	
	事後学修	なし	
26	事前学修	なし	
	授業	総合課題の演習(調査)：総合課題を完成させるために必要となる技術を精査し、不明な部分を調査する。	
	事後学修	授業時間で調べきれなかったことを調べ、プログラムを作成するために足りないことが無いか確認する。	4
27	事前学修	総合課題を作成するのに必要となる技術についての解説を、授業の資料や Web で探しておく。	4
	授業	総合課題の演習(実装)：これまで調べた技術を用いて、総合課題の作品を実装する。	

フィジカルコンピューティング演習 Physical Computing Practical

担当教員	守 啓祐 (225 研究室), 湯村 翼 (315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IST206	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(6)				
授業概要						
テーマ：フィジカルコンピューティングで利用する IoT デバイスのプログラムを行う コンピュータを使う場合文字を入力するキーボードと場所を指示するポインティングデバイス（一般的にはマウス）を使って利用する方法が一般的ですが，人間同士のコミュニケーションと比較すると自然な方法というわけではありません。この科目ではヒトとヒトとが視覚，聴覚その他の感覚を使って対話する方法を学び，フィジカルコンピューティングで使用するマイクロコンピュータおよびマイクロコンピュータ経由で接続したセンサやアクチュエーター等の外部機器をコンピュータで利用する方法を電子回路の基礎から習得すします。この授業では，POLITE で提供された資料事前に学習する，反転授業や，実際の機器を使った実験やコンピュータ上のシミュレータ使い，メディアプログラミングの実際を学びます。						
授業における学修の到達目標						
フィジカルコンピューティングで使用するコンピュータに接続した外部機器の信号をコンピュータで利用する方法の基礎を習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	フィジカルコンピューティング概要前半の資料を調べる				2.0
	授業	フィジカルコンピューティング概要前半				
	事後学修	フィジカルコンピューティング概要前半の資料をまとめる				2.0
2	事前学修	フィジカルコンピューティング概要後半の資料を調べる				2.0
	授業	フィジカルコンピューティング概要後半				
	事後学修	フィジカルコンピューティング概要後半の資料をまとめる				2.0
3	事前学修	電子機器の取り扱い基礎前半の資料を調べる				2.0
	授業	電子機器の取り扱い基礎前半				
	事後学修	電子機器の取り扱い基礎前半の資料を調べる				2.0
4	事前学修	電子機器の取り扱い基礎後半の資料を調べる				2.0
	授業	電子機器の取り扱い基礎後半				
	事後学修	電子機器の取り扱い基礎後半の資料を調べる				2.0
5	事前学修	ソフトウェア環境の構築前半の資料を調べる				2.0
	授業	ソフトウェア環境の構築前半				
	事後学修	ソフトウェア環境の構築前半の資料をまとめる				2.0
6	事前学修	ソフトウェア環境の構築後半の資料を調べる				2.0
	授業	ソフトウェア環境の構築後半				
	事後学修	ソフトウェア環境の構築後半の資料をまとめる				2.0
7	事前学修	ブレッドボードと測定器の基礎前半の資料を調べる				2.0
	授業	ブレッドボードと測定器の基礎前半				
	事後学修	ブレッドボードと測定器の基礎前半の資料をまとめる				2.0

8	事前学修	ブレッドボードと測定器の基礎後半の資料を調べる	2.0
	授業	ブレッドボードと測定器の基礎後半	
	事後学修	ブレッドボードと測定器の基礎後半の資料をまとめる	2.0
9	事前学修	センサの概要前半の資料を調べる	2.0
	授業	センサの概要前半	
	事後学修	センサの概要前半の資料をまとめる	2.0
10	事前学修	センサの概要後半の資料を調べる	2.0
	授業	センサの概要後半	
	事後学修	センサの概要後半の資料をまとめる	2.0
11	事前学修	明るさを測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	明るさを測る前半	
	事後学修	明るさを測る前半の資料をまとめる	2.0
12	事前学修	明るさを測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	明るさを測る後半	
	事後学修	明るさを測る後半の資料をまとめる	2.0
13	事前学修	距離を測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	距離を測る前半	
	事後学修	距離を測る前半の資料をまとめる	2.0
14	事前学修	距離を測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	距離を測る後半	
	事後学修	距離を測る後半の資料をまとめる	2.0
15	事前学修	振動を検出する前半の資料を調べる	2.0
	授業	振動を検出する前半	
	事後学修	振動を検出する前半の資料をまとめる	2.0
16	事前学修	振動を検出する後半の資料を調べる	2.0
	授業	振動を検出する後半	
	事後学修	振動を検出する後半の資料をまとめる	2.0
17	事前学修	物体の色を測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	物体の色を測る前半	
	事後学修	物体の色を測る前半の資料をまとめる	2.0
18	事前学修	物体の色を測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	物体の色を測る後半	
	事後学修	物体の色を測る後半の資料をまとめる	2.0
19	事前学修	人を検知する前半の資料を調べる	2.0
	授業	人を検知する前半	
	事後学修	人を検知する前半の資料をまとめる	2.0
20	事前学修	人を検知する後半の資料を調べる	2.0
	授業	人を検知する後半	
	事後学修	人を検知する後半の資料をまとめる	2.0
21	事前学修	多軸の加速度を測る前半の資料を調べる	2.0

	いる。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゲームプログラミング演習 Computer Game Programming Practical

担当教員	森川 悟 (326 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング	
		4 単位	演習	○		IST207	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO	
情報メディア学科		選択		2 年	後期		
対応するディプロマポリシー		(2),(6)					
授業概要							
ゲーム制作を通してゲームプログラムのノウハウを学びます。簡単な処理を組み合わせたものから始まり、複雑なアルゴリズムを要するものまで、ゲームならではの独特なプログラムスタイルに慣れてもらうのが目的となります。 本演習においてはゲームエンジンをベースとし、ゲームをエンジンを制御するためのプログラミングを学びます。また、ゲームで使う画像などの素材作りも行います。							
授業における学修の到達目標							
ゲームならではのプログラムスタイルに慣れ、理解しすること。また、小規模なゲームを自分の力で書くことができるようになることを目標とします。							
授業計画							
回数	授業、事前・事後学修						時間
1	事前学修	講義概要を読む					4
	授業	ガイダンス、ゲーム業界の傾向					
	事後学修	連続授業のため無し					0.0
2	事前学修	連続授業のため無し					0.0
	授業	ツールの使い方(グラフィック)					
	事後学修	ツールを反復して使用する					4
3	事前学修	ゲームをプレイして、画像や音がどのように使われているかを観察する					4
	授業	ツールの使い方(グラフィックアニメーション)					
	事後学修	連続授業のため無し					0.0
4	事前学修	連続授業のため無し					0.0
	授業	ゲームエンジンの操作方法					
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する					4
5	事前学修	変数・関数について調べる					4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(変数)					
	事後学修	連続授業のため無し					0.0
6	事前学修	連続授業のため無し					0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(関数)					
	事後学修	変数・関数を反復して利用する					4
7	事前学修	名前空間・クラスについて調べる					4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(名前空間)					
	事後学修	連続授業のため無し					0.0
8	事前学修	連続授業のため無し					0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(クラス)					
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する					4

9	事前学修	継承について調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(継承)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(イベント)	
	事後学修	継承・イベント処理を反復して使用する	4
11	事前学修	衝突判定について調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(複雑な衝突判定)	
	事後学修	どんな図形でも衝突判定がとれるように反復して使用する	4
13	事前学修	シーンについて調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(シーン)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	オリジナル要素の作業量を検討する	4
15	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素を追加する)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素で面白くなったか検討する)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果、ゲームが面白くなったかを再度検討する	4
17	事前学修	制作したゲームをプレイしてみる。	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(テストプレイ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ゲームエンジンの高度な操作方法	
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する	4
19	事前学修	変数について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(変数)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(関数)	
	事後学修	変数・関数を反復して使用する	4
21	事前学修	名前空間について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(名前空間)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0

	授業	アクションゲームの制作(クラス)	
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する	4
	事前学修	タイルマップの仕組みを調べる	4
23	授業	アクションゲームの制作(タイルマップ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
24	授業	アクションゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	タイルマップ・衝突判定を反復して使用する	4
	事前学修	課題の工夫点を考える。いろいろなゲームをプレイし調査する	4
25	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
26	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の画像素材を作る)	
	事後学修	画像を良く見て、荒がないか確かめる	4
	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
27	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の音素材を作る)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
28	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を組み込む)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果としてバグが出ないかを調べる	4
	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
29	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の動作確認)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
30	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	
	事後学修	オリジナル要素を追加したゲームのテストプレイをおこなった感想をまとめる	4

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業の中で講評を行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている。パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか、ゲーム開発用ライブラリ、ゲーム開発用ツールなど、ゲーム開発全般の実務がある。これらの多く開発経験から得た知識を伝える

ゲーム制作演習 Game Programming Practical

担当教員	森川 悟 (326 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		IMT301
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	前期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
ゲーム制作を通してゲームプログラムのノウハウを学びます。簡単な処理を組み合わせたものから始まり、複雑なアルゴリズムを要するものまで、ゲームならではの独特なプログラムスタイルに慣れてもらうのが目的となります。 本演習においてはゲームプログラミング・演習よりも高度なゲームを作ります。						
授業における学修の到達目標						
ゲームならではのプログラムスタイルに慣れ、理解すること。また、小規模なゲームを自分の力で書くことができるようになることを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義概要を読む				4
	授業	ガイダンス, ゲーム業界の傾向				
	事後学修	連続授業のため無し				0.0
2	事前学修	連続授業のため無し				0.0
	授業	ツールの使い方				
	事後学修	ツールを反復して使用する				4
3	事前学修	ゲームをプレイして, アニメーションがどのように使われているかを観察する				4
	授業	高度なツールの使い方				
	事後学修	連続授業のため無し				0.0
4	事前学修	連続授業のため無し				0.0
	授業	ゲームエンジンの操作方法 画像,文字,UI について				
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する				4
5	事前学修	ゲームエンジンの操作方法 3D,ライト,カメラについて				4
	授業	ゲームエンジンで 3D,ライト,カメラを配置してみる				
	事後学修	連続授業のため無し				0.0
6	事前学修	連続授業のため無し				0.0
	授業	簡単なゲームの制作(関数)				
	事後学修	変数・関数を反復して利用する				4
7	事前学修	名前空間について調べる				4
	授業	簡単なゲームの制作(名前空間)				
	事後学修	連続授業のため無し				0.0
8	事前学修	連続授業のため無し				0.0
	授業	簡単なゲームの制作(クラス)				
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する				4

9	事前学修	継承について調べる	4
	授業	簡単なゲームの制作(継承)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(イベント)	
	事後学修	継承・イベント処理を反復して使用する	4
11	事前学修	衝突判定について調べる	4
	授業	簡単なゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(複雑な衝突判定)	
	事後学修	どんな図形でも衝突判定がとれるように反復して使用する	4
13	事前学修	シーンについて調べる	4
	授業	簡単なゲームの制作(シーン)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	オリジナル要素の作業量を検討する	4
15	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素を追加する)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素で面白くなったか検討する)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果、ゲームが面白くなったかを再度検討する	4
17	事前学修	制作したゲームをプレイしてみる。	4
	授業	簡単なゲームの制作(テストプレイ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ゲームエンジンのもっと高度な操作方法	
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する	4
19	事前学修	変数について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(変数)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(関数)	
	事後学修	変数・関数を反復して使用する	4
21	事前学修	名前空間について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(名前空間)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0

	授業	アクションゲームの制作(クラス)	
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する	4
	事前学修	マップの仕組みを調べる	4
23	授業	アクションゲームの制作(マップ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
24	授業	アクションゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	マップ・衝突判定を反復して使用する	4
	事前学修	課題の工夫点を考える。いろいろなゲームをプレイし調査する	4
25	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
26	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の画像素材を作る)	
	事後学修	画像を良く見て、荒がないか確かめる	4
	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
27	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の音素材を作る)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
28	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を組み込む)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果としてバグが出ないかを調べる	4
	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
29	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の動作確認)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
30	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	
	事後学修	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業の中で講評を行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 ゲームプログラミング演習
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている。パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか、ゲーム開発用ライブラリ、ゲーム開発用ツールなど、ゲーム開発全般の実務がある。これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゲーム開発の最新動向 Current Topics in Computer Game Development

担当教員	小林 貴樹(客員准教授)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMT302	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
国内ゲーム開発会社の最前線の情報が集まる業界イベント CEDEC からの最新情報や、ゲーム開発会社での各職種ごとの仕事について情報を得る。ゲーム開発に必要なプログラム言語と表現力に関する基礎知識を学習する。共通テーマに対して独自アイデアを検討しコーディングしたものをプレゼンテーションすることで問題点を把握し改善する。						
授業における学修の到達目標						
ゲーム開発のノウハウと最新のゲーム業界の技術動向を理解する。プログラム言語に関する基礎知識とゲームアプリケーションの開発ノウハウを学ぶ。実際にコーディングしたものを評価しあうことでより良いアプリケーションを開発する知識を身に着ける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	最新のゲーム業界の動向についての資料および WEB ページ等を確認				2
	授業	ゲーム開発の基礎				
	事後学修	業界状況を把握				2
2	事前学修	独自資料を確認				2
	授業	デザイナーの仕事				
	事後学修	デザインに関する課題				2
3	事前学修	独自資料を確認				2
	授業	ゲームデザイナーの仕事				
	事後学修	ゲームの企画に関する課題				2
4	事前学修	独自資料を確認				2
	授業	コンポーザーの仕事				
	事後学修	簡単な効果音作成の課題				2
5	事前学修	独自資料を確認				2
	授業	プログラマの仕事（品質管理と自動化）				
	事後学修	プログラマの仕事に関しての理解				2
6	事前学修	独自開発ツールの導入準備				2
	授業	ゲーム開発ツールの導入				
	事後学修	ゲーム開発環境の理解と簡単なデモ				2
7	事前学修	ツールによる簡単なサンプルづくり				2
	授業	ゲーム開発ツールの導入と試験				
	事後学修	ゲーム開発環境の理解とデモ作成				2
8	事前学修	ツールの理解				2
	授業	ツールによるゲーム開発				
	事後学修	ツールを使った簡単なデモづくり				2
9	事前学修	ツールの理解				2

	得ることが可能。

音声情報処理 Speech Processing

担当教員	広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		IMT303	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
今日、音声を含む音の情報は計算機で扱うことが一般的となり、スマートスピーカーや音声翻訳、AI による歌声合成など、人間と機械のインターフェースにおけるマルチモーダル・コミュニケーションは劇的な進化を遂げています。 本講義では、こうしたマルチメディア技術の柱の一つである音声情報処理について、単に理論を学ぶだけでなく、実際に音声データを処理するプログラム作成を通して学びます。数式による理解に留まらず、実際に音を操作するプログラムを構築することで、高度な実践力と応用知識の習得を目指します。						
授業における学修の到達目標						
- 音の可視化と解析: フーリエ変換を用いたスペクトログラムや音声から特徴量を抽出する過程を理解する。 - 音声の生成と加工: 音声合成、ボイスチェンジャやボコーダの実装を通して、プログラムによる音声データの加工について理解する。 - 認識と AI の活用: DP マッチングによる音声認識について理解し、ディープラーニング（ニューラルネットワーク）を用いた最新の音声分類・合成技術の基礎知識を修得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	物理学を学んだ事のある人は、その内容（とりわけ音、波動、電気について）復習しておく。線形代数、特にベクトルについて学んでおく。三角関数について学んでおく。				2
	授業	ガイダンスと環境構築 講義の目的、評価方法、音声情報処理の全体像を解説します。次回以降の順として、音声処理プログラムの実行、作成環境を構築します。				
	事後学修	Learning Management System（以下 LMS と略す。POLITE）に提示されているガイダンス資料の内容を確認する。自分の PC や Web ブラウザ上でのプログラム実行環境の動作に問題が無いことを確認する。				2
2	事前学修	LMS 第 2 回に示す「学習の範囲」、「学習のポイント」を読み、「学習の範囲」に示す教科書の範囲を読み、教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。三角関数と複素数の基本公式を復習しておく。				2
	授業	周波数特性とフーリエ変換 音声を周波数成分で捉える基礎を学びます。サイン波、フーリエ変換、逆フーリエ変換の数学的定義を理解し、音を視覚化するスペクトログラムの概念について学びます。				
	事後学修	単純なサイン波を生成し、フーリエ変換を行ってスペクトルを表示するコードを自力で作成してみる。				2
3	事前学修	LMS 第 3 回の「学習の範囲と学習の進め方」、「学習のポイント」を読んで、教科書の該当範囲を読み、教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。				2
	授業	スペクトログラムリーディング ベクトログラムから母音や子音の特徴を読み取るスペクトログラムリーディングを学びます。				
	事後学修	自分の声を録音してスペクトログラムを作成し、特定の音（「あ」と「い」など）のパターンを分析しみる。				2
4	事前学修	LMS 第 4 回の「学習の範囲と学習の進め方」、「学習のポイント」を読んで、教科書の該当範囲を読み、教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。				2

	授業	分析合成と加算合成 音を音符情報の MIDI に変換する手法や、サイン波を重ね合わせて音を作る加算合成を学びます。分析合成の概念と、音声のロバスト性（頑健性）について考察します。	
	事後学修	複数のサイン波を合成して楽器のような音を作るプログラムを作成し、周波数成分と聞こえ方の関係を実験してください。	2
5	事前学修	LMS 第 5 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで、教科書の該当範囲を読み、教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	音声の生成 声帯音源と声道フィルタの役割を理解し、音声生成の基本モデルであるソースフィルタ理論に基づき減算合成を用いたプログラムで音声生成について理解する。	
	事後学修	パルス波（音源）にデジタルフィルタ（声道）を適用し、母音のような音が生成されるプロセスをプログラムで確認してください。	2
6	事前学修	LMS 第 6 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで、教科書の該当範囲を読み、教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	日本語音声の特徴 日本語の有声音・無声音の違いや、破裂音、摩擦音、鼻音などの生成メカニズムを学びます。	
	事後学修	摩擦音（「さ」など）をシミュレートする雑音生成プログラムを作成し、フィルタ設定による音の違いを確認する。	2
7	事前学修	LMS 第 7 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで、教科書の該当範囲を読み、教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	音声認識の基礎技術 音声認識に不可欠なケプストラム分析や MFCC（メル周波数ケプストラム係数）を学びます。時間軸の伸縮に対応するための DP マッチングのアルゴリズムを理解します。	
	事後学修	DP マッチングのアルゴリズムを簡単な数値例で手計算し、その後プログラムで実装して発話速度の変化への対応を確認する。	2
8	事前学修	これまでの講義資料を振り返り、「フーリエ変換」「ソースフィルタ理論」「DP マッチング」を重点的に復習する。	2
	授業	前半のまとめと確認テスト 第 7 回までの内容を総括します。スペクトル分析、生成モデル、認識の基礎に関する理解度を測る中間確認テストを実施します。	
	事後学修	テストの内容を振り返り、間違えた箇所があればそれを特定し、該当する教科書の部分を再読して、不明な用語の整理を行う。	2
9	事前学修	LMS 第 9 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで、教科書の該当範囲を読み、教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	線形予測分析 声のスペクトル包絡を推定する線形予測法（LPC）について学ぶ。レビンソン・ダービンのアルゴリズムや、PARCOR・LSP 係数の物理的意味を理解する。	
	事後学修	LPC 係数からスペクトル包絡を描画するプログラムを作成し、第 2 回で学んだ FFT スペクトルと比較する。	2
10	事前学修	LMS 第 10 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで、教科書の該当範囲を読み、教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	音響特徴量の抽出 音声からパワー、ゼロ交差率、ピッチ、フォルマントなどの特徴を抽出する手法を学ぶ。自己相関関数を用いたピッチ抽出の仕組みを習得する。	
	事後学修	自身の録音データからピッチ軌跡を抽出するコードを実装し、イントネーションの変化が正しく描画	2

		されるか確認する。	
11	事前学修	LMS 第 11 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで, 教科書の該当範囲を読み, 教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	ボコーダと音声符号化 音声を効率的に伝送する符号化技術とボコーダについて学ぶ。LPC ボコーダの仕組みや, 分析フィルタ・合成フィルタを用いた音声処理の原理を理解する。	
	事後学修	特定の音声のスペクトル包絡と別の音源信号を組み合わせる「クロス合成」を試行し, その効果を考察する。	2
12	事前学修	LMS 第 12 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで, 教科書の該当範囲を読み, 教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	ボイスチェンジャの原理 声質を変化させるボイスチェンジャの仕組みについて学ぶ。ピッチとフォルマントを独立して制御する手法や, ヘリウムボイス効果の原理を体験を通して理解する。	
	事後学修	自分の声を異性やキャラクターの声に変換するプログラムを実装し, 各パラメータの影響を実験する。	2
13	事前学修	LMS 第 13 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで, 教科書の該当範囲を読み, 教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	音声合成とその進化 音コーパスベース合成から最新の AI 音声合成までを学ぶ。音素バランス文やアノテーションの重要性を理解し, 自然な発話を作るための統計的性質を学習する。	
	事後学修	既存の音声合成ライブラリを使用し, パラメータ調整によって感情表現（喜び, 悲しみ等）が可能か試行する。	2
14	事前学修	LMS 第 14 回の「学習の範囲と学習の進め方」, 「学習のポイント」を読んで, 教科書の該当範囲を読み, 教科書に提示されているプログラムを実行して内容を理解する。	2
	授業	ニューラルネットワークの活用 音声処理におけるディープラーニングの活用について学ぶ。データの作成, モデルの定義, 学習, 評価のプロセスを概観し, 音声分類の可能性を探る。	
	事後学修	ニューラルネットワークを用いた簡単な分類（男女判別等）のコードを動かし, 学習回数による精度の変化を確認する。	2
15	事前学修	全講義の資料, 教科書を読み返し, 特に後半の技術用語（LPC, ボコーダ, DNN 等）の仕組みを再確認する。	2
	授業	まとめと確認テスト 全 15 回の学習内容を総括します。おもに後半の技術（LPC, ボコーダ, AI 活用）を中心に, 理解度を問う確認テストを実施する。	
	事後学修	テストの内容を見直す。この講義で学んだ事柄（音声情報処理に限定しない）が自分自身にどのように役立つかを考える。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。（毎回の小テストと, 8, 15 回の試験）

■試験：60 % ■小テスト：40 % □レポート： % □演習課題： % □その他[]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

LMS でフィードバックする。（全体に対しては講義中に, テスト問題の振り返りなども行う）

教科書	書名：つくってわかる Python 音声処理プログラミング, 著者名：青木 直史, 出版社：講談社, 備考：
参考書・Web サイト	LMS(POLITE)上に掲載

単位修得が望ましい科目	物理学，メディアの行列，プログラミング演習 I，線形代数
備考	Python および MATLAB によるプログラミングがあるので，注意が必要
担当教員の実務経験	なし

画像情報処理 Image Processing

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IST208	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
本講義では学生が与えられたアプリケーションソフトウェア（Photoshop などの画像処理ソフトウェア）を単に利用するだけでなく、信号処理、画像処理のアルゴリズムを理解し、アプリケーション作成のためのプログラム能力も身に付けることを目標とします。原理を理解することで、アプリケーションソフトウェアの効果的、効率的な利用方法の習得が可能になります。なお、本科目を受講するためには、基礎知識として 1）数学知識、 2）プログラム知識などが必要です。講義のなかでは、実習を通してプログラムの知識を深めていきます。						
授業における学修の到達目標						
画像処理の基本概念の理解を目指します。理解を進めるために、自分で Python による画像処理プログラムを作成し動作を確認します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	画像処理の概要				
	事後学修	画像処理の概要に関してレポートにまとめる				2
2	事前学修	POLITE で配布した開発環境の説明に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	開発環境の説明				
	事後学修	開発環境の説明に関してレポートにまとめる				2
3	事前学修	POLITE で配布した画像ファイルの入出力に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像ファイルの入出力				
	事後学修	画像ファイルの入出力に関してレポートにまとめる				2
4	事前学修	POLITE で配布した画素へアクセスするプログラムに関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画素へアクセスするプログラム				
	事後学修	画素へアクセスするプログラムに関してレポートにまとめる				2
5	事前学修	POLITE で配布した画像のフォーマットに関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像のフォーマット				
	事後学修	画像のフォーマットに関してレポートにまとめる				2
6	事前学修	POLITE で配布した画像の統計量に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像の統計量				
	事後学修	画像の統計量に関してレポートにまとめる				2
7	事前学修	POLITE で配布した画像の濃度値補正に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像の濃度値補正				
	事後学修	画像の濃度値補正に関してレポートにまとめる				2
8	事前学修	POLITE で配布した画像の平滑化に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像の平滑化				
	事後学修	画像の平滑化に関してレポートにまとめる				2

9	事前学修	POLITE で配布した画像の勾配情報に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の勾配情報	
	事後学修	画像の勾配情報に関してレポートにまとめる	2
10	事前学修	POLITE で配布したフィルタ処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	フィルタ処理	
	事後学修	フィルタ処理に関してレポートにまとめる	2
11	事前学修	POLITE で配布した局所特微量に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	局所特微量	
	事後学修	局所特微量に関してレポートにまとめる	2
12	事前学修	POLITE で配布した画像の 2 値化に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の 2 値化	
	事後学修	画像の 2 値化に関してレポートにまとめる	2
13	事前学修	POLITE で配布した 2 値画像の利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	2 値画像の利用	
	事後学修	2 値画像の利用に関してレポートにまとめる	2
14	事前学修	POLITE で配布したテンプレートマッチングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	テンプレートマッチング	
	事後学修	テンプレートマッチングに関してレポートにまとめる	2
15	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	試験と内容の解説	
	事後学修	講義全体の理解度についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40% ■小テスト：10% ■レポート：50% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに、誤った解答の傾向についても紹介する。

課題の提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	
参考書・Web サイト	ディジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ
備考	これまでプログラミングが苦手だった人も、本講義のようなビジュアルな出力結果を通して、プログラミングに対する理解度の向上が期待できます。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

サイバーセキュリティの技術 Technology of Cyber Security

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		IST304
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(6)				
授業概要						
テーマ: 攻撃手法のメカニズム理解と防御技術の実証						
高度化・複雑化するサイバー攻撃に対抗するためには、攻撃者の手口（メカニズム）を技術レベルで深く理解する必要がある。本講義では、教科書『情報セキュリティの基礎』に基づき、セキュリティの基本概念から、暗号・認証・ネットワーク・システム・管理・法規に至るまでを網羅的に学習する。特に、CDIO プロセスの「Implement（実装）」を重視し、Google Colab を用いた閉鎖環境での演習（暗号、パケット解析、脆弱性検証等のシミュレーション）を行い、理論が実際に機能する様子を体験的に学習する。						
授業における学修の到達目標						
1. 共通鍵暗号，公開鍵暗号，デジタル署名，PKI などのセキュリティ基盤技術の動作原理を説明できる。						
2. ネットワークおよび Web アプリケーションに対する代表的な攻撃手法（盗聴，改ざん，インジェクション等）の仕組みを理解し，適切な対策を提示できる。						
3. Python (Google Colab) 上でセキュリティ技術の検証プログラムを実行・操作し，その挙動や効果を説明できる。						
4. 情報セキュリティマネジメント（リスクアセスメント，ISMS）の基礎および技術者が遵守すべき法規・倫理を理解し，組織的な対策の重要性を説明できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE に自己登録を行なう。講義動画を視聴し，Google Colab の基本操作(コードセルの実行方法)を習得する。				2.0
	授業	反転授業，演習: ガイダンスと【第 1 章 情報セキュリティの動向】 セキュリティ侵害の現状と CIA (機密性・完全性・可用性) の概念，および Google Colab の基本操作(コードセルの実行方法)を習得する。				
	事後学修	Google Colab で配布コード(Hello World 等)を実行・保存し，スクリーンショットを攻撃技術の悪用禁止に関する宣誓書(法的責任の所在を明確にする文書)と共に提出する。また，POLITE の事後課題に回答する。				2.0
2	事前学修	講義動画を視聴し，教科書「第 2 章」を読み，古典暗号の歴史に関する POLITE の予習課題に回答する。				2.0
	授業	反転授業，演習: 【第 2 章 暗号の基礎】 暗号の歴史(シーザー暗号等)と現代暗号への発展について解説する。				
	事後学修	Google Colab で配布された「シーザー暗号解読コード」を実行し，シフト数(鍵)を変更しながら復号結果が変わる様子を確認する。また，POLITE の事後課題に回答する。				2.0
3	事前学修	講義動画を視聴し，教科書「第 3 章」を読み，共通鍵暗号の仕組みに関する POLITE の予習課題に回答する。				2.0
	授業	反転授業，演習: 【第 3 章 共通鍵暗号】 DES/AES の構造，およびブロック暗号の利用モード (ECB/CBC/GCM) による安全性への影響を解説する。				
	事後学修	Google Colab で配布された「画像暗号化コード」を実行し，モード設定 (ECB/CBC) を書き換えて実行し，画像の見た目の違いを比較する。また，POLITE の事後課題に回答する。				2.0

4	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第4章」を読み、公開鍵暗号の鍵ペアの概念に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第4章 公開鍵暗号】 RSA 暗号および楕円曲線暗号 (ECC) の原理と、ハイブリッド暗号による通信の仕組みを解説する。	
	事後学修	配布された「RSA 鍵生成・暗号化コード」を実行し、鍵のビット長(1024/2048/4096)を変更して処理時間がどう変化するか計測実験を行う。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
5	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第5章」を読み、ハッシュ関数と署名の役割に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第5章 デジタル署名と PKI】 改ざん検知(ハッシュ関数)、本人確認(電子署名)、および PKI(認証局・証明書)の構造を解説する。	
	事後学修	配布された「ハッシュ値計算コード」を実行し、入力テキストを1文字変えただけでハッシュ値が激変する様子(雪崩効果)を確認する。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
6	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第6章」を読み、生体認証の種類と特徴に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第6章 バイオメトリック認証】 指紋・顔・静脈認証等の仕組みと精度指標 (FAR/FRR)、および FIDO などの次世代認証技術を解説する。	
	事後学修	配布された「簡易顔認証コード」を実行し、判定の閾値(Threshold)パラメータを変更することで、「他人の受入率」がどう変化するか実験する。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
7	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第7章」を読み、ステガノグラフィの概念に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第7章 情報ハイディング】 画像や音声に秘密情報を埋め込むステガノグラフィ技術と、電子透かしによる著作権保護について解説する。	
	事後学修	配布された「ステガノグラフィ実行コード」を用い、画像に埋め込むテキスト内容を書き換えて実行し、見た目に変化がないことを確認する。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
8	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第8章」を読み、アクセス制御モデル (DAC/MAC/RBAC) に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第8章 アクセス制御】 OS のファイルパーミッション、ファイアウォールによるパケットフィルタリング等の制御技術を解説する。	
	事後学修	配布された「パケットフィルタリング・シミュレータ」を実行し、許可 IP アドレスのリストを書き換えて、通信の可否が変わることを確認する。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
9	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第9章」を読み、マルウェアの種類に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第9章 不正プログラム対策】 ウイルス・ワーム・トロイの木馬の挙動と、バッファオーバーフロー等の脆弱性悪用を解説する。	
	事後学修	配布された「バッファオーバーフロー再現コード」を実行し、入力文字数を限界以上に増やすことでエラー(メモリ破壊)が発生する様子を観察する。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
10	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第10章」を読み、プライバシー情報の定義に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第10章 プライバシー保護】 個人情報保護法と、k-匿名化などのプライバシー保護データマイニング技術を解説する。	
	事後学修	配布された「k-匿名化処理コード」を実行し、k の値(一般化のレベル)を変更することで、データの特定困難性がどう変わるか実験する。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0

11	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第 11 章」を読み、セキュリティ評価基準 (CC) に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第 11 章 セキュリティ評価】 情報システムや製品の安全性を評価する国際標準 (ISO/IEC 15408) と、脆弱性の深刻度評価手法 (CVSS) を解説する。	
	事後学修	配布された「CVSS スコア計算コード」を実行し、攻撃元区分(ネットワーク/ローカル)などのパラメータを変更してスコアの変動を確認する。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
12	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第 12 章」を読み、情報セキュリティポリシーの構成に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第 12 章 情報セキュリティポリシー】 組織におけるセキュリティ対策の指針となる基本方針・対策基準・実施手順の策定を解説する。	
	事後学修	モデルケースとなる組織(大学等)を想定し、スマートフォン利用に関するセキュリティガイドラインを策定する(記述式課題)。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
13	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第 13 章」を読み、ソーシャルエンジニアリングの手口に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第 13 章 情報リテラシー】 ソーシャルエンジニアリング(人間の心理を突く攻撃)への対策と、Web 利用時の脅威(フィッシング等)について解説する。	
	事後学修	実際のフィッシングサイトの事例画像(配布資料)を観察し、本物と異なる点(URL やデザインの違和感)を指摘する課題に取り組む。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
14	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第 14 章」を読み、デジタルフォレンジックの手順に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第 14 章 デジタルフォレンジック】 インシデント発生時の原因究明を行うための証拠保全・解析技術とログ分析手法を解説する。	
	事後学修	配布された「ログ解析コード」を実行し、検索キーワードを指定して、攻撃の痕跡となるログ行を抽出する。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0
15	事前学修	講義動画を視聴し、教科書「第 15 章」を読み、サイバー犯罪に関連する法律に関する POLITE の予習課題に回答する。	2.0
	授業	反転授業、演習:【第 15 章 法制度】 不正アクセス禁止法、プロバイダ責任制限法などの関連法規を解説し、講義全体の総括を行う。	
	事後学修	最終確認課題(総合クイズ)に取り組み、学習内容の総括を行う。また、POLITE の事後課題に回答する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% ■小テスト：60% □レポート：0% ■演習課題：40% □その他[]：0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE 上の小テストは即時採点されフィードバックされる。

教科書	書名：情報セキュリティの基礎, 著者名：佐々木 良一 監修・手塚 悟 編著・石井 夏生利 著・稲葉 宏幸 著・上原 哲太郎 著・越前 功 著・岡崎 美蘭 著・岡田 仁志 著・岡本 栄司 著・小松 尚久 著・白勢 政明 著・瀬戸 洋一 著・高倉 弘喜 著・土井 洋 著・村上 康二郎 著, 出版社：共立出版, 備考：
参考書・Web サイト	齋藤 孝道, マスタリング TCP/IP 情報セキュリティ編, オーム社 徳丸 浩, 体系的に学ぶ 安全な Web アプリケーションの作り方 第 2 版, SB クリエイティブ 結城 浩, 暗号技術入門 第 3 版, SB クリエイティブ TAC 株式会社(情報処理講座) 編著, 情報セキュリティマネジメント, TAC 出版
単位修得が望ましい科	メディア技術演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ、コンピュータ、情報倫理、インターネットの仕

目	組み、暗号の数学
備考	2年後期「暗号の数学」「インターネットの仕組み」の履修を前提とする。
担当教員の実務経験	通算で15年程度、大学・大学院の部局ICT管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また、他大学と連携した学際研究拠点の公開サーバ複数台を構築し運用している。これらの経験を踏まえ、現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。

Webアプリケーション開発演習Ⅰ Web Application Development Practical 1

担当教員	藤原 孝幸他 (134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	演習	○		IMT306
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		4 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
本演習では、ユーザとインタラクションしながら動的に Web ページを生成、遷移させ、簡単なデータ処理を行う Web アプリケーションを開発します。 あわせて Web アプリケーション開発に必用となる言語、ライブラリ、フレームワークについて、PHP、Python、JavaScript、FastAPI、Web API 等も取り扱う予定です。 各テーマについて講義をした後に、実習として設定された課題に応じた Web アプリケーションを構築します。						
授業における学修の到達目標						
PHP をはじめとした動的な Web ページ実装に必用となる言語とその実装方法を実習を通して理解することを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	Web アプリケーション開発				
	事後学修	Web アプリケーション開発について学んだことをまとめる				2
2	事前学修	Web サーバの概要について配付資料で予習をする				2
	授業	Web サーバの概要				
	事後学修	Web サーバの概要について学んだことをまとめる				2
3	事前学修	Web の動的な処理について配付資料で予習をする				2
	授業	Web の動的な処理				
	事後学修	Web の動的な処理について学んだことをまとめる				2
4	事前学修	データベースの概要について配付資料で予習をする				2
	授業	データベースの概要				
	事後学修	データベースの概要について学んだことをまとめる				2
5	事前学修	PHP の概要について配付資料で予習をする				2
	授業	PHP の概要				
	事後学修	PHP の概要について学んだことをまとめる				2
6	事前学修	PHP の基礎について配付資料で予習をする				2
	授業	PHP の基礎				
	事後学修	PHP の基礎について学んだことをまとめる				2
7	事前学修	PHP の制御構造について配付資料で予習をする				2
	授業	PHP の制御構造				
	事後学修	PHP の制御構造について学んだことをまとめる				2
8	事前学修	PHP の応用的な処理について配付資料で予習をする				2
	授業	PHP の応用的な処理				
	事後学修	PHP の応用的な処理について学んだことをまとめる				2

9	事前学修	PHP での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP での処理実装例	
	事後学修	PHP での処理実装例について学んだことをまとめる	2
10	事前学修	PHP での簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする	2
	授業	PHP での簡易 Web アプリケーション	
	事後学修	PHP での簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる	2
11	事前学修	JavaScript の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の概要	
	事後学修	JavaScript の概要について学んだことをまとめる	2
12	事前学修	JavaScript の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の基礎	
	事後学修	JavaScript の基礎について学んだことをまとめる	2
13	事前学修	JavaScript の制御構造について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の制御構造	
	事後学修	JavaScript の制御構造について学んだことをまとめる	2
14	事前学修	JavaScript の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の応用的な処理	
	事後学修	JavaScript の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
15	事前学修	データベースの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの概要	
	事後学修	データベースの概要について学んだことをまとめる	2
16	事前学修	データベースの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの実装	
	事後学修	データベースの実装について学んだことをまとめる	2
17	事前学修	データベースの応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの応用的な処理	
	事後学修	データベースの応用的な処理について学んだことをまとめる	2
18	事前学修	PHP とデータベースの連携について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携	
	事後学修	PHP とデータベースの連携について学んだことをまとめる	2
19	事前学修	PHP とデータベースの連携の実装について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携の実装	
	事後学修	PHP とデータベースの連携の実装について学んだことをまとめる	2
20	事前学修	PHP とデータベースの連携の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携の応用的な処理	
	事後学修	PHP とデータベースの連携の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
21	事前学修	JSP とデータベースの連携について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP とデータベースの連携	
	事後学修	JSP とデータベースの連携について学んだことをまとめる	2
22	事前学修	JSP とデータベースの連携の実装について配付資料で予習をする	2

	授業	JSP とデータベースの連携の実装	
	事後学修	JSP とデータベースの連携の実装について学んだことをまとめる	2
	事前学修	JSP とデータベースの連携の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
23	授業	JSP とデータベースの連携の応用的な処理	
	事後学修	JSP とデータベースの連携の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
	事前学修	可視化ダッシュボード Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
24	授業	可視化ダッシュボード Web アプリの概要	
	事後学修	可視化ダッシュボード Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
	事前学修	可視化ダッシュボード Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
25	授業	可視化ダッシュボード Web アプリの実装	
	事後学修	可視化ダッシュボード Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
	事前学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
26	授業	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要	
	事後学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
	事前学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
27	授業	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装	
	事後学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
	事前学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
28	授業	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要	
	事後学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
	事前学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
29	授業	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装	
	事後学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
	事前学修	Web アプリケーション開発のまとめについて配付資料で予習をする	2
30	授業	Web アプリケーション開発のまとめ	
	事後学修	Web アプリケーション開発のまとめについて学んだことをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■演習課題：100 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題について演習中進捗状況を確認し実装方法等について議論・検討・指導することでフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習 メディア技術演習 プログラミング演習 I
備考	特になし
担当教員の実務経験	特になし

Webアプリケーション開発演習Ⅱ Web Application Development Practical 2

担当教員	藤原 孝幸他(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング	
		4 単位	演習	○		IMT307	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO	
情報メディア学科		選択		4 年	冬期集中		
対応するディプロマポリシー							
授業概要							
本演習では、ユーザとインタラクションしながら動的に Web ページを生成、遷移させ、簡単なデータ処理を行う Web アプリケーションを開発します。 あわせて Web アプリケーション開発に必用となる言語、ライブラリ、フレームワークについて、PHP、Python、JavaScript、FastAPI、Web API 等も取り扱う予定です。 各テーマについて講義をした後に、実習として設定された課題に応じた Web アプリケーションを構築します。							
授業における学修の到達目標							
PHP をはじめとした動的な Web ページ実装に必用となる言語とその実装方法を実習を通して理解することを目標とします。							
授業計画							
回数	授業、事前・事後学修						時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する					2
	授業	Web アプリケーション開発					
	事後学修	Web アプリケーション開発について学んだことをまとめる					2
2	事前学修	JavaScript での処理実装例について配付資料で予習をする					2
	授業	JavaScript での処理実装例					
	事後学修	JavaScript での処理実装例について学んだことをまとめる					2
3	事前学修	JavaScript の簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする					2
	授業	JavaScript の簡易 Web アプリケーション					
	事後学修	JavaScript の簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる					2
4	事前学修	JSP の概要について配付資料で予習をする					2
	授業	JSP の概要					
	事後学修	JSP の概要について学んだことをまとめる					2
5	事前学修	JSP の基礎について配付資料で予習をする					2
	授業	JSP の基礎					
	事後学修	JSP の基礎について学んだことをまとめる					2
6	事前学修	JSP の応用的な処理について配付資料で予習をする					2
	授業	JSP の応用的な処理					
	事後学修	JSP の応用的な処理について学んだことをまとめる					2
7	事前学修	JSP での処理実装例について配付資料で予習をする					2
	授業	JSP での処理実装例					
	事後学修	JSP での処理実装例について学んだことをまとめる					2
8	事前学修	JSP の簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする					2
	授業	JSP の簡易 Web アプリケーション					
	事後学修	JSP の簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる					2

9	事前学修	FastAPI の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI の概要	
	事後学修	FastAPI の概要について学んだことをまとめる	2
10	事前学修	FastAPI の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI の基礎	
	事後学修	FastAPI の基礎について学んだことをまとめる	2
11	事前学修	FastAPI の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI の応用的な処理	
	事後学修	FastAPI の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
12	事前学修	FastAPI での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI での処理実装例	
	事後学修	FastAPI での処理実装例について学んだことをまとめる	2
13	事前学修	Web API の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の概要	
	事後学修	Web API の概要について学んだことをまとめる	2
14	事前学修	Web API の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の基礎	
	事後学修	Web API の基礎について学んだことをまとめる	2
15	事前学修	Web API の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の応用的な処理	
	事後学修	Web API の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
16	事前学修	Web API での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API での処理実装例	
	事後学修	Web API での処理実装例について学んだことをまとめる	2
17	事前学修	PHP と Python の連携について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP と Python の連携	
	事後学修	PHP と Python の連携について学んだことをまとめる	2
18	事前学修	PHP と Python の連携による応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP と Python の連携による応用的な処理	
	事後学修	PHP と Python の連携による応用的な処理について学んだことをまとめる	2
19	事前学修	動的処理の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の基礎	
	事後学修	動的処理の基礎について学んだことをまとめる	2
20	事前学修	動的処理の実装について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の実装	
	事後学修	動的処理の実装について学んだことをまとめる	2
21	事前学修	動的処理の応用について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の応用	
	事後学修	動的処理の応用について学んだことをまとめる	2
22	事前学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要について配付資料で予習をする	2

	授業	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要	
	事後学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要について学んだことをまとめる	2
	事前学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装について配付資料で予習をする	2
23	授業	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装	
	事後学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装について学んだことをまとめる	2
	事前学修	写真を加工・編集する Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
24	授業	写真を加工・編集する Web アプリの概要	
	事後学修	写真を加工・編集する Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
	事前学修	写真を加工・編集する Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
25	授業	写真を加工・編集する Web アプリの実装	
	事後学修	写真を加工・編集する Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
	事前学修	修得単位確認 Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
26	授業	修得単位確認 Web アプリの概要	
	事後学修	修得単位確認 Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
	事前学修	修得単位確認 Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
27	授業	修得単位確認 Web アプリの実装	
	事後学修	修得単位確認 Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
	事前学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
28	授業	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要	
	事後学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
	事前学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
29	授業	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装	
	事後学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
	事前学修	Web アプリケーション開発のまとめについて配付資料で予習をする	2
30	授業	Web アプリケーション開発のまとめ	
	事後学修	Web アプリケーション開発のまとめについて学んだことをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■演習課題：100 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題について演習中進捗状況を確認し実装方法等について議論・検討・指導することでフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習 メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ
備考	特になし
担当教員の実務経験	特になし

Linux 演習 Introduction to Linux

担当教員	佐々木 洋平(222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IMC324	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
テーマ: Linux の知識と利用技術の基礎を実習を通し学びます。						
Linux は、スーパーコンピュータからクラウド上のサーバ、IoT 機器に至るまで幅広く利用されている OS です。本講義では、PC 上の仮想環境に Linux 環境を構築する実習を通して、CUI (Character User Interface) 環境でのコマンド操作、ファイル管理、権限設定、およびシェルスクリプトによる自動化の基礎を学びます。講義後半では、ネットワークサービスやデーモンの仕組みを理解し、Web サーバの構築・運用を通して実践的な ICT スキルを習得します。						
講義は反転授業・演習として実施します。演習は LMS(POLITE)を利用して行ないます。						
授業における学修の到達目標						
(1) 仮想環境への Linux の導入と、CUI での基本操作ができること。						
(2) ファイル操作、権限設定、プロセス管理などの管理者としての基礎知識を身につけること。						
(3) シェルスクリプトを作成し、定型作業を自動化できること。						
(4) ネットワークサービスの仕組みを理解し、サーバの構築・運用ができること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	・ シラバスを確認し、講義内容を把握しておくこと。 ・ POLITE にて指示したソフトウェアが導入されているか確認しておくこと。 ・ 教科書 Chapter01 の p.2～3 を精読し、Linux の利点と欠点を把握しておくこと。				2.0
	授業	・ 講義ガイダンス ・ Linux と FLOSS について				
	事後学修	POLITE の第 1 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2.0
2	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter01, 20, Appendix 01 対応)を視聴し、予習確認課題に回答すること。				2.0
	授業	反転授業・演習 ・ 仮想化ソフトウェア(VirtualBox)の導入 ・ Linux のインストールと SSH 接続設定 ・ パッケージ管理(apt)の基礎				
	事後学修	POLITE の第 2 回演習課題に合格するまで取り組むこと。				2.0
3	事前学修	POLITE の講義動画を聴講しつつ教科書 Chapter04(p.49～66), Chapter09(p.151～168) を精読し、記載されているコマンドを試しておくこと。				2.0
	授業	反転授業・演習 ・ ログイン, ログアウト, シャットダウン ・ シェルの基本操作				
	事後学修	POLITE の第 3 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2.0
4	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter04, 09 対応)を視聴し、予習確認課題に回答すること。				2.0
	授業	反転授業・演習 ・ ディレクトリ構造 (FHS)				

		・パーミッションと所有権 ・スーパーユーザ (root) と sudo コマンド	
	事後学修	POLITE の第 4 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
5	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter05, 06 対応)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・ファイル・ディレクトリの操作(cp,mv,rm,mkdir) ・ファイルの探し方(find)とマニュアル(man)の活用	
	事後学修	POLITE の第 5 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
6	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter07 対応)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・テキストエディタ(Vim)の基本操作 ・設定ファイルの編集	
	事後学修	POLITE の第 6 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
7	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter08, 10 対応)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・Bash の設定と環境変数 ・プロセス管理とジョブコントロール	
	事後学修	POLITE の第 7 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
8	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter11, 12 対応)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・標準入出力とリダイレクト,パイプ ・テキスト処理の初歩(cat,head,tail)	
	事後学修	POLITE の第 8 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
9	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter13, 14 対応)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・正規表現の基礎 ・高度なテキスト処理(grep,sed)	
	事後学修	POLITE の第 9 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
10	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter15, 16 対応)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・シェルスクリプト入門 ・変数と引数の利用	
	事後学修	POLITE の第 10 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
11	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Chapter17, 18 対応)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・シェルスクリプト応用(制御構造,関数) ・アーカイブと圧縮(tar,gzip)	
	事後学修	POLITE の第 11 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
12	事前学修	POLITE の講義動画(教科書 Appendix 01, ネットワークサービス基礎)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・ネットワークコンピューティングの基礎 ・SSH 接続とリモート操作 ・ネットワークサービスとデーモン(Daemon)の仕組み	

	事後学修	POLITE の第 12 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
13	事前学修	POLITE の講義動画(Web サーバ構築)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・ Web サーバ(Apache/Nginx)のインストール ・ ファイアウォールの設定とコンテンツ配置	
	事後学修	POLITE の第 13 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
14	事前学修	POLITE の講義動画(Web サービス運用)を視聴し, 予習確認課題に回答すること。	2.0
	授業	反転授業・演習 ・ Web サービスの運用管理 ・ ログファイルの確認とトラブルシューティング	
	事後学修	POLITE の第 14 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0
15	事前学修	POLITE の講義動画を視聴し、予習確認問題に回答すること。	2.0
	授業	・ これまでのまとめ ・ 今後に向けて(コンテナ技術、クラウド)	
	事後学修	POLITE の第 15 回演習課題に合格するまで取り組むこと。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100 % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の講義で出題される課題については即時採点し結果を提示・解説する。

シェルスクリプト課題についてはループリックに従い採点し、結果を返却する。

教科書	書名：新しい Linux の教科書 第 2 版, 著者名：三宅 英明, 大角 祐介, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	・ 宮原徹, 2024: Linux 標準教科書 Ver.4.0.0: LinuC（リナック）学習にも役立つ LPI-Japan 標準教科書シリーズ, https://linuc.org/textbooks/linux/ ・ 水野源, 2024: Linux をマスターしたい人のための実践 Ubuntu[第 2 版], 秀和システム, 978-4798073248
単位修得が望ましい科目	「コンピュータ」「メディア技術演習」「プログラミング演習Ⅰ」「プログラミング演習Ⅱ」「インターネットの仕組み」
備考	Linux の認定試験である LPIC もしくは LinuC の資格保持者はこの科目の単位を認定します。履修登録後にメールにて申し出てください。
担当教員の実務経験	Debian Project に参加し, Debian GNU/Linux の開発に 20 年ほど関わってきた。この経験に基づき, 単なるコマンド知識だけでなく, 実際の開発・運用現場で必要となる調査手法や実践的な技術を学生に伝えられる教育を実施する。

情報メディアのデータ処理 Information Media Data Processing

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IST306	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(6)				
授業概要						
○テーマ： Python を用いたデータ処理の理解と実習						
○概要： 現代はデータの時代です。このデータの時代において、データサイエンス、AI を含む様々な分野でデータを適切に扱える能力が求められています。この講義では様々な種類のデータを扱うための基本的な考え方、および、Python を用いたデータ処理のプログラミングについて学びます。						
授業における学修の到達目標						
様々な分野のデータに関して、基本的なデータ処理の手法の概要の理解を目指します。理解を深めるために、実習として自分で Python によるデータ処理のプログラムを作成し動作を確認します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握しておく				2.0
	授業	イントロダクションおよび開発環境の構築				
	事後学修	イントロダクションに出てきた事例を確認しておく				2.0
2	事前学修	開発環境の動作確認しておく				2.0
	授業	Python の基礎				
	事後学修	Polite に用意された Python の基礎に関する演習課題を提出する				2.0
3	事前学修	Python の基礎を復習しておく				2.0
	授業	Pandas の基礎				
	事後学修	Polite に用意された Pandas を用いた演習課題を提出する				2.0
4	事前学修	Pandas の基礎を復習しておく				2.0
	授業	可視化の基礎				
	事後学修	Polite に用意された可視化に関する演習課題を提出する				2.0
5	事前学修	可視化の基礎を復習しておく				2.0
	授業	テキストデータ処理の基礎				
	事後学修	Polite に用意されたテキストデータ処理に関する演習課題について、データの特徴を踏まえて適切な処理方法を検討し、手法を選択・実装した結果を簡潔にまとめて提出する				2.0
6	事前学修	テキストデータ処理の基礎を復習しておく				2.0
	授業	テキストデータ処理の応用				
	事後学修	Polite に用意されたテキストデータ処理に関する演習課題について、データの特徴を踏まえて適切な処理方法を検討し、手法を選択・実装した結果を簡潔にまとめて提出する				2.0
7	事前学修	時系列データにはどのようなものがあるか調査しておく				2.0
	授業	時系列データ処理				

	事後学修	Polite に用意された時系列データ処理に関する演習課題について、データの特徴を踏まえて適切な処理方法を検討し、手法を選択・実装した結果を簡潔にまとめて提出する	2.0
8	事前学修	地理情報とは何か調査しておく	2.0
	授業	地理情報データ処理の基礎	
	事後学修	Polite に用意された地理情報データ処理に関する演習課題について、データの特徴を踏まえて適切な処理方法を検討し、手法を選択・実装した結果を簡潔にまとめて提出する	2.0
9	事前学修	地理情報データ処理の基礎を復習しておく	2.0
	授業	地理情報データ処理の応用	
	事後学修	Polite に用意された地理情報データ処理に関する課題について、データの特徴を踏まえて適切な処理方法を検討し、手法を選択・実装した結果を簡潔にまとめて提出する	2.0
10	事前学修	画像処理にはどのようなものがあるか調査しておく	2.0
	授業	画像データ処理	
	事後学修	Polite に用意された画像データ処理に関する課題について、データの特徴を踏まえて適切な処理方法を検討し、手法を選択・実装した結果を簡潔にまとめて提出する	2.0
11	事前学修	音楽データ処理にはどのようなものがあるか調査しておく	2.0
	授業	音楽データ処理	
	事後学修	Polite に用意された音楽データ処理に関する課題について、データの特徴を踏まえて適切な処理方法を検討し、手法を選択・実装した結果を簡潔にまとめて提出する	2.0
12	事前学修	ネットワークデータとは何か調査しておく	2.0
	授業	ネットワークデータ処理	
	事後学修	Polite に用意されたネットワークデータ処理に関する課題について提出する	2.0
13	事前学修	デジタルアーカイブとは何か調査しておく	2.0
	授業	デジタルアーカイブ	
	事後学修	Polite に用意されたデジタルアーカイブに関する課題を提出する	2.0
14	事前学修	点群データとは何か調査しておく	2.0
	授業	点群データ処理	
	事後学修	Polite に用意された点群データ処理に関する課題を提出する	2.0
15	事前学修	これまでの全範囲に関して、配布資料を見直しまとめておく	2.0
	授業	これまでのまとめと確認	
	事後学修	講義全体を振り返り、各自で任意に選択したデータを対象として、講義で学んだ知識を用い、処理方法を自ら考えて設計・実装した結果を最終レポートとしてまとめる。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % ■レポート：50% ■演習課題：50% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
毎回の講義で出題される課題については、ルーブリックに基づき、データの捉え方、処理方針の妥当性、および実装結果を評価し、その結果を提示する。 レポートでは採点時に Polite 上でフィードバックを行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		Polite 内で都度提示する。	
単位修得が望ましい科目		プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ	
備考		なし	

担当教員の実務経験

2009 年以降、大学および国の研究所で情報可視化によるデータ分析に関する研究開発業務経験がある。そこで培ったノウハウや最先端の知見を講義内で伝えていく。

ビジュアル構成演習 Visual Composition Practical

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	ISD201	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
一年時に「デザインエレメンツ演習」で学習したデザインの基礎（コンセプトワーク,レイアウト,図形処理,画像処理,マルチメディア表現）を、さらに飛躍させる実習の場。Adobe Illustrator と Photoshop を使ったの高度なビジュアルデザインを制作し、しっかりとデザインの応用を身につけ、自己表現や個性的な表現力を身につける。さらに,コンセプトを理解し,それを的確に表現できるデザイナーとしての実力を確立する。どのような職種に就いても必ず役に立つ「わかりやすく、きれいに、人に伝える」技術を身につける。また,グラフィックデザインからマルチメディアへの展開を実践する。						
※本講義は前提として、デザインの基礎及び Adobe illustrator、Photoshop の活用に関する知識が必要となるため、「メディアデザインの基礎演習」「デザインエレメンツ演習」履修後の履修を強く推奨する。						
授業における学修の到達目標						
指定されたターゲットや商品・サービスの特徴に応じた作品制作ができるようになる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する				4.0
	授業	・ガイダンス ・illustrator の基本的な使い方おさらい ・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習① （課題説明・情報収集）				
	事後学修	特になし				0.0
2	事前学修	実習内容の確認を行う				2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習② （企画制作）				
	事後学修	実習内容をまとめる				4.0
3	事前学修	実習内容の確認を行う				4.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習③ （企画へのフィードバック）				
	事後学修	特になし				0.0
4	事前学修	実習内容の確認を行う				2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習④ （企画の修正）				
	事後学修	実習内容をまとめる				4.0
5	事前学修	実習内容の確認を行う				2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑤ （ラフ制作）				
	事後学修	特になし				0.0
6	事前学修	実習内容の確認を行う				2.0

	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑥ (ラフへのフィードバック)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑦ (ソフトを活用したデザインの制作)	
	事後学修	特になし	0.0
8	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑧ (ソフトを活用したデザインへのフィードバック)	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
9	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑨ (ソフトを活用したデザインの修正)	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑩ (仕上げ・提出)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習① (課題説明・情報収集)	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習② (企画制作)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習③ (企画へのフィードバック)	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習④ (企画の修正)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
15	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑤ (デザイン制作)	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑥ (デザインへのフィードバック)	

	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
17	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑦ (デザインの修正)	
	事後学修	特になし	0.0
18	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑧ (デザインの仕上げ)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
19	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	4.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑨ (提出資料の作成)	
	事後学修	特になし	0.0
20	事前学修	プレゼンテーションの練習	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑩ (プレゼンテーションを踏まえた修正・課題提出)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
21	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習① (課題説明・情報収集)	
	事後学修	特になし	0.0
22	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習② (企画制作)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
23	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習③ (企画へのフィードバック)	
	事後学修	特になし	0.0
24	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習④ (企画の修正)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
25	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑤ (デザイン制作)	
	事後学修	特になし	0.0
26	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑥ (デザインへのフィードバック)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
27	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0

	授業	・「公共広告ポスター」実習⑦ (デザインの修正)	
	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑧ (デザインの仕上げ)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
29	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑨ (提出資料の作成)	
	事後学修	特になし	0.0
30	事前学修	これまで制作した作品を整理する	2.0
	授業	全課題の振り返り・反省をまとめる	
	事後学修	特になし	0.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% □その他：0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物・発表内容に対しコメントによるフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	E ラーニング教材
単位修得が望ましい科目	本講義は前提として、デザインの基礎及び Adobe illustrator、Photoshop の活用に関する知識が必要となるため、「メディアデザインの基礎演習」「デザインエレメンツ演習」履修後の履修を強く推奨する。
備考	特になし。
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わらないデザイン制作の知識を学生に伝える。

色彩・デザイン演習 Color Design Practical

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室), 山本 佳美(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	ISD202	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
デザイン表現における視覚情報手段としての色の要素は、不可欠である。色の分類や色彩心理などの基本的な理解、カラーシステムの有効性、具体的な配色理論を取り上げ、オリジナル資料を用いながら、実践的な知識として学習する。授業ではほぼ毎回、演習課題に取り組み、具体的なトレーニング学習を行うことによって、各自の色彩感覚の向上のための表現テクニックを習得する。						
授業における学修の到達目標						
・ WAT9 を用いた客観的イメージと色彩との関係とを理解し、イメージに応じた配色を考えることができる ・ 色彩への興味を深め、自身の色彩感覚への興味と理解とを深める ・ 色彩検定 3 級程度の知識、デザイン応用力の習得						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスと授業概要の確認				4.0
	授業	【講義】ガイダンス【演習】配色課題の制作				
	事後学修	事後学修	連続授業のため記載なし			0.0
2	事前学修	事後学修	連続授業のため記載なし			0.0
	授業	【演習】配色課題の制作、グループディスカッション				
	事後学修	グループディスカッションの内容を振り返り、自身と他者の配色感覚の違いの理由を考える。				4.0
3	事前学修	教科書の該当箇所の精読。光源による色の色の違い、見え方の違いなどを自分なりに見つけておく。色の名前には、どのようなものがあるか調べておく。				4.0
	授業	【講義】色のはたらき、光と色（教科書 p.1-21）				
	事後学修	連続授業のため記載なし				0.0
4	事前学修	連続授業のため記載なし				0.0
	授業	【講義】慣用色名（教科書 p.128-135）				
	事後学修	教科書の該当箇所の精読。 眼の仕組み、色を識別する視細胞の名称などの用語の復習。				4.0
5	事前学修	教科書の該当箇所の精読。 照明の違うことによる印象や見え方の違いを調べたり、考えたりしてくる。				4.0
	授業	【講義】照明と光の混色（教科書 p.22-30） 【演習】混色演習 1				
	事後学修	連続授業のため記載なし				0.0
6	事前学修	連続授業のため記載なし				0.0
	授業	【演習】混色演習 2				
	事後学修	教科書の該当箇所の精読。照明の種類などの用語の復習。 演習課題が時間内に完成しない場合、次回までに提出。				4.0
7	事前学修	教科書の該当箇所の精読。				4.0

		色の鮮やか、薄さ、暗さなどを表すのに、どのような要素が影響していそうか考えておく。	
	授業	【講義】色の表示、PCCS（教科書 p.31-48）	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【講義】PCCS のトーン（教科書 p.46-48） 【演習】配色イメージと対応軸	
	事後学修	教科書の該当箇所の精読。各カラーシステムの考え方とパラメータの理解の確認。終了していない場合は課題の完成。	4.0
9	事前学修	教科書の該当箇所の精読。色や色の組み合わせを見たとき、どのような印象を表そうとしているか、意図を自分なりに考える。ファッション、インテリアの分野についても考える。	4.0
	授業	【講義】色彩心理（教科書 p.50-68）	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【講義】色彩調和（教科書 p.70-102） 【演習】色彩心理・色彩調査の内容確認課題	
	事後学修	教科書の該当箇所の精読。 配色方法のバリエーションと効果の確認。終了していない場合は課題の完成。	4.0
11	事前学修	教科書の該当箇所の精読。 自身や身の周りのファッションやインテリアの色の意図や効果を考えておく。	4.0
	授業	【講義】ファッション、インテリア（教科書 p.109-126）	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】ファッション、インテリアの配色課題	
	事後学修	教科書の該当箇所の精読。	4.0
13	事前学修	教科書、これまでの小テストのなどで、自身の理解を確認しておく。	4.0
	授業	【試験】これまでの教科書の内容の確認テストの実施	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【解説】試験の解説と自己採点	
	事後学修	練習問題などで自身の理解を確認。不明な点は教員に確認する。	4.0
15	事前学修	自身が考えるイメージと色の関連を考えておく。	4.0
	授業	【演習】SICS 配色カラーギャブラリー課題 制作 1	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
16	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】SICS 配色カラーギャブラリー課題 制作 2	
	事後学修	演習課題が遅れている場合は、進めてくる。	4.0
17	事前学修	配色感覚の個人差や個人差について調べておく。	4.0
	授業	【演習】SICS 配色カラーギャブラリー課題 分析 1	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
18	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】SICS 配色カラーギャブラリー課題 分析 2	

	事後学修	自身の色使いのクセや特徴について、自身の使っている色を踏まえて考える。課題制作が遅れている場合は完成させる。	4.0
19	事前学修	イメージのとらえ方（教科書 p.35-54）の精読	4.0
	授業	【講評】SICS 配色カラーギャブラリー課題 講評	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
20	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】9 イメージの配色の制作	
	事後学修	スライド資料などで、客観的にイメージを伝えるための9分類の内容の復習	4.0
21	事前学修	身の回りで用いられているもののターゲットと、色・形・色・素材・柄との関係を考えておく。良いサンプルがあった場合は、写真などを撮って記録しておく。	4.0
	授業	【演習】9 イメージの配色 講評	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
22	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】9 イメージに基づく、形・色・素材・柄のコラージュ制作 1	
	事後学修	事前に自身で考えた内容と、学習内容との同じだった点、異なった点をまとめておく。	4.0
23	事前学修	取り組みたい分野の広告を探し、9分類のいずれかに当てはまるか考えておく	4.0
	授業	【演習】9 イメージに基づく、形・色・素材・柄のコラージュ制作 2	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
24	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	【演習】9 イメージに基づく、形・色・素材・柄のコラージュ制作 3	
	事後学修	課題制作が遅れている場合は、完成させる。 不明な点は教員に確認する。	4.0
25	事前学修	広告やデザインの分野で、9分類に当てはまるデザインを見つけておく。	4.0
	授業	【講評】形・色・素材・柄のコラージュ 講評	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
26	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	【演習】広告のデザイン 企画	
	事後学修	課題制作が遅れている場合は、進めておく。 不明な点は教員に確認する。	4.0
27	事前学修	作品制作に必要なコラージュ素材を探して、用意しておく	4.0
	授業	【演習】広告のデザイン 制作 1	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
28	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	【演習】広告のデザイン 制作 2	
	事後学修	課題制作が遅れている場合は、進めておく。 不明な点は教員に確認する。	4.0
29	事前学修	自身の作品について、コンセプトや反省点などを言語化しておく。	4.0
	授業	【講評】広告デザイン 講評	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
30	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	【講義】カラーユニバーサルデザイン概論	

		【その他】作品返却	
	事後学修	CUD 支援のスマホアプリを使い、身の回りの人工物の配色を確認しておく。未提出課題がある場合は完成させ、提出する。	4.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			
■試験： 25% □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 75% ■その他[なし]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題回収後、解説を行います。			
教科書		書名：色彩検定 公式テキスト 3 級編, 著者名：, 出版社：, 備考：	
参考書・Web サイト		色彩検定 公式テキスト UD 級	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		・受講者は、教科書とカラーカード（新配色カード 199a）を購入してしてください（必須） ・スティックのり、ハサミ、カッター、色鉛筆、絵具の道具などを使用します ・課題は、欠席した場合でも提出してください	
担当教員の実務経験		色彩を含むヴィジュアルデザインに関して、企業でのワークショップ・講演の経験有り。（坂本牧葉） aft 色彩検定認定講師。色彩検定対策講座を受験した生徒は 1 0 0 % の合格率。パーソナルカラーリストの育成も行う。イメージコンサルタントやインテリアコーディネーターとしても活動中。各種コラムの執筆や企業向けセミナーも行う。（山本佳美）	

イラスト制作演習 Illustration

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室), 伊藤 マーティ(338 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	演習	○		ISD203
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
・ iPad と ApplePencil 用い、ibis Paint を駆使した実務的なイラストレーション制作を学ぶ。 ・ ターゲットや目的に応じた表現を考え、企画し、一定のクオリティで完成させるプロセスを課題制作を通して体験する。 ・ Web、印刷などの媒体に応じた解像度、カラーモード、画像形式などにも理解を深める。 ・ 授業課題は印刷物を想定したイラストルポや商業イラストレーションを想定したフラットデザインや、汎用性の高いフリー素材イラスト制作のなどを予定している。						
※制作課題が多く、全課題提出を単位取得条件とするため、安易な気持ちでの履修を勧めない。						
※イラストレーション制作の専門知識を取得し、将来的にイラストレーションに関する職業選択を望む者は履修を強く勧める。						
授業における学修の到達目標						
・ 商業用イラストの制作プロセスを学ぶ。 ・ 画像生成 AI を活用するスキル（プロンプトエンジニアリング）を向上させる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	授業概要資料を確認し、講師の作品を事前に閲覧				2.0
	授業	ガイダンス、講師作品紹介、iPad などの環境設定 ・ iPad 周辺の環境設定				
	事後学修	継続授業につきなし				0.0
2	事前学修	継続授業につきなし				0.0
	授業	生成 AI プロンプト演習、ワークシート提示（テーマ：餃子の作り方）				
	事後学修	ワークシートを完成させ、プロンプトを改善する				2.0
3	事前学修	アイデアノートを作成するための素材を集める				2.0
	授業	アイデアノート制作演習：フォーラムを使ったスクラップブック				
	事後学修	継続授業につきなし				0.0
4	事前学修	継続授業につきなし				0.0
	授業	アイデアノート制作演習：ibis Paint を使ったアイデアノート制作 ・ イラストルポ用のアイデアノート提出 ・ 対象となる商品を事前に購入してくる（江別銘菓、洋菓子、和菓子、パン、弁当など）				
	事後学修	授業で覚えたブックングを確認				2.0
5	事前学修	原稿内容を整理する				2.0
	授業	イラストルポ制作：ibis Paint を使ってイラストルポを制作① 前回のアイデアノートを基にイラストルポ作成				
	事後学修	継続授業につきなし				0.0
6	事前学修	継続授業につきなし				0.0

	授業	イラストルポ制作：ibis Paint を使ってイラストルポを制作② 前回のアイデアノートを基にイラストルポ作成	
	事後学修	調整と完成	2.0
7	事前学修	反射光と透過光について調べる	2.0
	授業	光と影の観察描写：ibis Paint を使って描写する ・光の透過と影について学ぶ	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
8	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	風景画の基本構図：ibis Paint を使って作画する ・写真からイラストを描く→水平、パース、分割法など	
	事後学修	授業で覚えた理論を振り返る	2.0
9	事前学修	線画のメリットを調べる	2.0
	授業	線表現の基礎：ibis Paint を使って描写する ・線表現とは？ ・線表現の必要性	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
10	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	線画を活用した風景描写：ibis Paint を使って作画する ・写真からイラストを描く	
	事後学修	調整と完成	2.0
11	事前学修	フラットデザインについて調べる	2.0
	授業	フラットデザインとは何か（座学）	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
12	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	フラットデザインの応用（構造物） ・構造物（家・車・家電）をフラットデザインのイラスト化をする	
	事後学修	フラットデザインの有用性について調べる	2.0
13	事前学修	キャラクターのアイデアフラッシュをする	2.0
	授業	フラットデザインの応用（キャラクター）：ibis Paint を使って描写する ・キャラクターをフラットデザインのイラスト化をする	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
14	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	フラットデザインの応用（キャラクター）：ibis Paint を使って描写する ・キャラクターをフラットデザインのイラスト化をする	
	事後学修	調整と完成	2.0
15	事前学修	商業イラストについて調べる	2.0
	授業	商業イラストとは？（座学）	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
16	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	商業イラスト制作（キャラクター中心）：ibis Paint を使って作画する ・牧場を紹介する水先案内人キャラクターを作る	
	事後学修	キャラクターのアイデアスケッチをする	2.0

17	事前学修	背景のアイデアフラッシュ	2.0
	授業	商業イラスト制作（風景と統合）：ibis Paint を使って作画する ・水先案内人キャラクター＋背景を組み合わせる牧場を紹介するイラスト	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
18	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	商業イラスト制作（風景と統合）：ibis Paint を使って作画する ・水先案内人キャラクター＋背景を組み合わせる牧場を紹介するイラスト	
	事後学修	調整と完成	2.0
19	事前学修	栗山町の背景資料を調査	2.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（ガイダンス） ・栗山町の方を招いて現状を知り、ニーズを企画する	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
20	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（ニーズと傾向、現状把握） ・栗山町の方を招いて現状を知り、ニーズを企画する	
	事後学修	ニーズに合う参考資料を収集	2.0
21	事前学修	必要なキーワードを洗い出し、アイデアをまとめる	2.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（プロンプト制作①） ・企画書（制作するもの・プロンプト記載）	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
22	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（プロンプト制作②）	
	事後学修	制作したキーワードリストを精査し、補足を加える	2.0
23	事前学修	制作したキーワード案を確認	2.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（イラストラフ制作①）	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
24	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（イラストラフ制作②）	
	事後学修	ラフ案を修正・ブラッシュアップ	2.0
25	事前学修	ラフ案を元に完成イメージを再確認	2.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（イラスト実制作①）	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
26	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（イラスト実制作②）	
	事後学修	完成度をさらに高める作業	2.0
27	事前学修	修正点を明確にする	2.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（イラスト実制作③）	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
28	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（イラスト実制作④）	
	事後学修	発表に向けた最終調整	2.0

29	事前学修	プレゼン原稿の草案を作成	2.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（発表準備・原稿制作）	
	事後学修	継続授業につきなし	0.0
30	事前学修	継続授業につきなし	0.0
	授業	ケーススタディ：栗山フリーイラスト素材（発表・講評）	
	事後学修	講評を基に改善案を考える	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験：0% □レポート：0% □小テスト：0% ■演習課題：100%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
演習課題に対するコメントによってフィードバックを行う			
教科書			
参考書・Web サイト		特に無いが、必要に応じ提示する	
単位修得が望ましい科目		・デザインエレメンツ・演習 ・ビジュアル構成演習 ・DTP 演習	
備考		・本講義は iPad を使用しますので、自分の作品などは基本的に Google ドライブなどのクラウドストレージにバックアップを行います。通信障害などに備え USB メモリーを用意しバックアップを取ることをお勧めします。 ・本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となるため、以下の科目の単位を取得していることが望ましい。 ・デザインエレメンツ・演習 ・ビジュアル構成演習 ・DTP 演習 ※受講人数が多い場合、履修制限を行う可能性があります。 ※基本的に iPad と ApplePencil は授業時間内のみに貸与しますが、自分で用意した iPad と ApplePencil を使用しても構いません。ただし、最新の ibis Paint がインストールされ、正常に動作することを自分で確認してください。	
担当教員の実務経験		[杉澤愛美 133 研究室] 研究分野は Web デザイン、グラフィックデザイン、UX・UI デザイン、ブランディングデザイン。本学大学院経営情報学研究科経営情報学専攻修士課程修了。制作会社で Web サイト、スマートフォンアプリ、ロゴマーク、ポスターなどの企画・制作に従事した後、北海道情報大学に赴任。 ----- [坂本牧葉 138 研究室] 色彩などの視覚デザイン、グループ学習、感性工学の研究に従事。 岐阜市民病院の小児科病棟の壁画制作（2015-2020）、子どもの未来社「ビブリオバトルガイドブック ルール改訂版」（2023）の挿絵執筆など、アート、デザイン・デザインの制作に携わっている。 2022 年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。イラスト演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、色彩・デザイン演習などを	

	担当している。 [伊藤マーティ #338 研究室] 広告代理店に 7 年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業の CI やキャラクターデザイン、広告活動の制作を約 30 年間行ってきた。 2024 年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。DTP 演習、イラスト制作演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、特別実習 A(夏季集中講義・デジタルイラストレーション入門)、高大連携授業を担当している。

Web制作演習 Web Creative Design Practical

担当教員	安田 光孝(135 研究室), 近澤 潤(330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	ISD204	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
この講義では Web 制作において、以下の 2 つの分野を演習形式で学びます。 CDIO のフレームワークでは、Conceive (構想)-Design (設計)-Implement (実行・実装/製作)を講義で扱う。 <Web マーケティングとクリエイティブ制作> 1. Web マーケティングとネット広告設計 SNS 広告の企画と設計手法, の開発手法を学びます 2. バナーと Web ページ (ランディングページ) 設計 Figma と HTML/CSS を使い, Web ページ (ランディングページ) 実際にデザイン・コーディングします。 <UX デザインとアプリ UI> 3. UX デザイン UX デザインとは ペーパープロトタイピング 4. スマホアプリ企画 スマホアプリの企画と画面デザイン手法を学びます ※開発は行いません。 ※Adobe Illustrator, Figma の使い方をマスターしていること、 HTML と CSS で Web ページをコーディングできることが前提です。						
授業における学修の到達目標						
・Web をマーケティングの手段として位置づけ、ネット広告戦略の立案とクリエイティブ制作ができるようになる ・Web サイト制作スキルの定着とサイトの企画・設計・デザイン・コーディングスキルを身につける。 ・UX デザイン手法とスマホアプリの企画・画面デザインができるようになる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義の目的とスケジュールを読んでおく				2
	授業	ガイダンス UX デザイン、Web 制作、そしてマーケティングの関係について				
	事後学修	講義の目的とスケジュールについて再度見直す UX デザイン、Web 制作、Web マーケティングの関係を理解する				2
2	事前学修	Web マーケティングとネット広告について調べておく				2
	授業	<Web マーケティングとクリエイティブ制作> Web マーケティングとネット広告				
	事後学修	Web マーケティングとネット広告について更に深く調べ知識を定着させる				2
3	事前学修	どんな画像広告 (バナー) があるか調べておく				2
	授業	練習課題: 画像広告 (バナー) を作成してみる 1				
	事後学修	画像広告 (バナー) の制作のポイントを振り返ってみる				2

4	事前学修	どんな画像広告（バナー）があるか調べておく	2
	授業	練習課題：画像広告（バナー）を作成してみる 2	
	事後学修	画像広告（バナー）の制作のポイントを振り返ってみる	2
5	事前学修	ネット広告の事例を調べておく	2
	授業	ネット広告の戦略立案 1：ネット広告戦略の調査 1	
	事後学修	ネット広告の事例を更に深く調べ知識を定着させる	2
6	事前学修	ネット広告の事例を調べておく	2
	授業	ネット広告の戦略立案 1：ネット広告戦略の調査 2（レポート課題）	
	事後学修	ネット広告の事例を更に深く調べ知識を定着させる	2
7	事前学修	商材を探しておく	2
	授業	ネット広告の戦略立案 2：調査に基づき、自分で商材を設定して、戦略と広告導線进行設計する 1	
	事後学修	設計した戦略と広告導線を見直してみる	2
8	事前学修	商材を探しておく	2
	授業	ネット広告の戦略立案 2：調査に基づき、自分で商材を設定して、戦略と広告導線进行設計する 2	
	事後学修	設計した戦略と広告導線を見直してみる	2
9	事前学修	画像広告（バナー）を作るポイントを調べておく	2
	授業	ネット広告のクリエイティブ制作 1：戦略と導線に基づき、画像広告（バナー）を制作する 1	
	事後学修	制作した画像広告（バナー）を見直してみる	2
10	事前学修	画像広告（バナー）を作るポイントを調べておく	2
	授業	ネット広告のクリエイティブ制作 1：戦略と導線に基づき、画像広告（バナー）を制作する 2	
	事後学修	制作した画像広告（バナー）を見直してみる	2
11	事前学修	ランディングページを作るポイントを調べておく	2
	授業	ネット広告のクリエイティブ制作 2：戦略と導線に基づき、Web ページ（ランディングページ）をデザインする 1	
	事後学修	デザインした画像広告（バナー）を見直してみる	2
12	事前学修	ランディングページを作るポイントを調べておく	2
	授業	ネット広告のクリエイティブ制作 2：戦略と導線に基づき、Web ページ（ランディングページ）をデザインする 2	
	事後学修	デザインした画像広告（バナー）を見直してみる	2
13	事前学修	ユーザー調査について調べておく	2
	授業	ネット広告のクリエイティブ制作 3：制作した広告クリエイティブをユーザー（履修者）に使ってもらい、フィードバックをもらう＜グループワーク＞	
	事後学修	ユーザー調査で分かったことを整理しておく	2
14	事前学修	デザインしたランディングページに修正点がないか考えておく	2
	授業	ネット広告のクリエイティブ制作 3：ユーザーからのフィードバックを元にデザインを修正する	
	事後学修	修正したランディングページを見直してみる	2
15	事前学修	HTML/CSS を復習しておく	2
	授業	ネット広告のクリエイティブ制作 4：Web ページ（ランディングページ）をコーディングする 1	
	事後学修	コーディングしたランディングページを見直す	2
16	事前学修	HTML/CSS を復習しておく	2

	授業	ネット広告のクリエイティブ制作 4 : Web ページ（ランディングページ）をコーディングする 2	
	事後学修	コーディングしたランディングページを完成させる	2
	事前学修	<UX デザインとアプリ UI> UX デザインについて調べておく	2
17	授業	UX デザインの基礎（1） ヒトとモノ	
	事後学修	UX デザインのポイントを掴む	2
	事前学修	UX デザインについて調べておく	2
18	授業	UX デザインの基礎（2） 誰のためのデザインか	
	事後学修	UX デザインのポイントを掴む	2
	事前学修	ペーパープロトタイピングについて調べておく	2
19	授業	ペーパープロトタイピング（1）概念	
	事後学修	ペーパープロトタイピングのポイントを掴む	2
	事前学修	ペーパープロトタイピングについて調べておく	2
20	授業	ペーパープロトタイピング（2）手法	
	事後学修	ペーパープロトタイピングの手法のポイントを掴む	2
	事前学修	ペーパープロトタイピングの手法を復習しておく	2
21	授業	ペーパープロトタイピング（3）実習 1 二人組となり、質問シート作成	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
	事前学修	うまくやるようにはどのようにすればいいか考えておく	2
22	授業	ペーパープロトタイピング（3）実習 2 ヒアリング調査	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
	事前学修	成果物準備	2
23	授業	ペーパープロトタイピング（3）実習 3 課題抽出から修正 →成果物提出	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
	事前学修	自分の持っているアプリの UI をよく見ておく	2
24	授業	スマホアプリの企画 先行例調査 二人組になり、実習を行う	
	事後学修	他に事例がないか調べてみる	2
	事前学修	企画の基礎アイデアを考えておく	2
25	授業	スマホアプリの企画 企画立案	
	事後学修	企画に足りない点がないかもう一度チェックする	2
	事前学修	スマホアプリトップの UI 事例を調べておく	2
26	授業	スマホアプリの画面デザイン（1）トップ画面 1 ラフ案を考える	
	事後学修	完成度を上げる	2
27	事前学修	スマホアプリトップの UI 事例を調べておく	2

	授業	スマホアプリの画面デザイン（1）トップ画面 2 詳細デザインを仕上げる	
	事後学修	完成度を上げる	2
28	事前学修	スマホアプリサブ画面の UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン（2）サブ画面 1 ラフ案を考える	
	事後学修	完成度を上げる	2
29	事前学修	スマホアプリサブ画面の UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン（2）サブ画面 2 詳細デザインを仕上げる	
	事後学修	完成度を上げる	2
30	事前学修	発表の準備	2
	授業	最終作品発表	
	事後学修	講義全体のふりかえり	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100%

■その他[] %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビューやプレゼンテーション時にコメントをフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	その都度指示する。
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習，HTML コーディング演習
備考	グループワークは、2 人でチームを組んでもらう予定です。あらかじめチームを決めておいてもらえるとスムーズです。
担当教員の実務経験	1994 年から 2007 年まで Web 制作会社で 100 以上の案件を経験した。また、それ以降も最新技術の体得を心がけ、常にアップデートしてきた。そこで得た手法とツールを学生に紹介し、現場に近い形で開発訓練を実施する。

3DCG 演習 3DCG Practical

担当教員	川田 孝之(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	ISD205	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：3DCG ソフトを使用した 3D コンテンツ作成のための基礎演習						
映画やゲーム、VFX（視覚効果）における必須の技術に 3 D C G があります。ハリウッド映画やゲーム制作で使用される本格的な 3 D C G ソフトウェアを用いて 3 D C G 作品制作の基礎を学びます。また、これら演習（実習）を通じて 3 D C G の原理等への理解を深めることを目的とします。さらに、制作物への思いを他者へ正確に伝えられることを目指し、最終課題の制作物についてプレゼンテーションを行います。このプレゼンテーションの準備をする過程で自分の作品の意図を一番効果的に他者に伝わるようなコンテンツの作成をします。						
授業における学修の到達目標						
3DCG ソフトウェアは立体像作品制作のための道具です。道具をうまく使いこなすことができれば、制作にかかる時間の短縮と、作品の品質向上につながります。本演習では、3DCG ソフトウェアである 3dsMax（オブジェクト指向）を使い、基本的な機能を理解するとともにモデリングからレンダリングまでの一連の操作に慣れることを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	3 DCG について調べる				2.0
	授業	ガイダンス・注意事項、基本操作（3DCG とは、教育版の入手、インストール、作品紹介）				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 回目と同じ				2.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 回目と同じ				2.0
	授業	ガイダンス・基本操作（3DCG の制作手順、起動と画面操作、テンプレートファイルの作成、課題提出のルール）				
	事後学修	自分の気になる分野を調べるとともに基本操作の復習をする				2.0
3	事前学修	モデリングについて調べる				2.0
	授業	基本操作：モデリング 1（モデリングの基本的な行い方と変換（移動・回転・スケール）、変換ギズモと座標系）				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 4 回目と同じ				2.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業であり 3 回目と同じ				2.0
	授業	基本操作：モデリング 1（編集可能ポリゴン、モディファイヤ、モデリングの流れ）例題 1、練習 1				
	事後学修	モデリングの課題 1 を完成させる				2.0
5	事前学修	いろいろなモデリングの方法について調べる				2.0
	授業	基本操作：モデリング 2（モディファイヤ+スプライン+合成オブジェクト+編集可能ポリゴン）				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 6 回目と同じ				2.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業であり 5 回目と同じ				2.0
	授業	基本操作：モデリング 2（モディファイヤ+スプライン+ブール演算+編集可能ポリゴン）例題 1～10、練習 1				
	事後学修	モデリングの課題 2 を完成させる				2.0
7	事前学修	レンダリング（マテリアル、マップ、レンダリング）について調べる				2.0

	授業	基本操作：レンダリング1－マテリアル1－（標準（旧形式）マテリアルによる質感設定の流れとスキャンラインレンダリング）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり8回目と同じ	2.0
8	事前学修	2コマ続きの授業であり7回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング1－マテリアル1－（標準マテリアルによる質感設定（ガラス、金属、磁器）+スキャンラインレンダリング）例題1～3、練習1	
	事後学修	レンダリングの課題3を完成させる	2.0
9	事前学修	レンダリング（マテリアル、マップ、レンダリングエンジン）の仕組みについて調べる	2.0
	授業	基本操作：レンダリング2－マテリアル2－（標準マテリアル+レイトレースマテリアル+スキャンラインレンダリング）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり10回目と同じ	2.0
10	事前学修	2コマ続きの授業であり9回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング2－マテリアル2（標準（旧形式）マテリアルによる質感設定の流れとスキャンラインレンダリング）例題1～4、練習1	
	事後学修	レンダリングの課題4を完成させる	2.0
11	事前学修	カメラ（標準カメラとフィジカルカメラ）とフィジカルマテリアルについて調べる	2.0
	授業	基本操作：レンダリング3－カメラ・マテリアル3－（フィジカルカメラ+フィジカルマテリアル（プリセットで質感設定））	
	事後学修	2コマ続きの授業であり12回目と同じ	2.0
12	事前学修	2コマ続きの授業であり11回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング3－カメラ・マテリアル3－（フィジカルカメラ+フィジカルマテリアル+ARTレンダラー）例題1～3、練習1	
	事後学修	フィジカルマテリアル+ARTレンダラーによるレンダリングの課題5完成させる	2.0
13	事前学修	ライティング（標準ライトとフォトメトリックライト）と各種レンダラーについて調べる	2.0
	授業	基本操作：レンダリング4－ライティング・マテリアル4－（ライティング+フィジカルマテリアルのカスタマイズ+ARTレンダラー）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり14回目と同じ	2.0
14	事前学修	2コマ続きの授業であり13回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング4－ライティング・マテリアル4－（フォトメトリックライト+フィジカルカメラ+フィジカルマテリアル+ARTレンダラー）例題1～2、練習1	
	事後学修	フィジカルカメラとフォトメトリックライトを配置し、独自のカスタマイズした質感を設定した課題6を完成させる	2.0
15	事前学修	外観用のライティング（サンポジショナシステム）、環境マップについて調べる	2.0
	授業	基本操作：レンダリング5（外観用ライティング）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり16回目と同じ	2.0
16	事前学修	2コマ続きの授業であり15回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング5－外観用ライティング－（外観用ライティング：サンポジショナ、サン＆スカイ環境マップ+ART、Arnoldレンダラー）	
	事後学修	外観用のライティング（サンポジショナシステム）を使用した課題7を完成させる	2.0
17	事前学修	アニメーションの基本用語を調べる。キネマティクス（FK、IK）について調べる	2.0
	授業	アニメーション（キーフレームアニメーションの基本操作）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり18回目と同じ	2.0

18	事前学修	2コマ続きの授業であり17回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション（位置とスケールのアニメーション演習：キーフレームアニメーションの基本操作）	
	事後学修	位置とスケールのアニメーションを応用した課題8を完成させる	2.0
19	事前学修	最終課題の制作のためのスケッチ、三面図、透視図法について調べる。また制作物を観察するまたは資料を集める	2.0
	授業	最終課題制作1（テーマ（キーワード）の決定、ラフスケッチ、三面図の作成、イメージ透視図または等測図の作成）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり20回目と同じ	2.0
20	事前学修	2コマ続きの授業であり19回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作1（制作するモノの計測等、三面図の作成、エスキス（下書き）チェック）	
	事後学修	制作するモノの三面図を完成させ、何度も書き直して考えをまとめていく	2.0
21	事前学修	最終課題で製作するモノのモデリング手順及び作業量を確認する	2.0
	授業	最終課題制作2（エスキスチェック及びスキャンとターゲットのモデリングの開始）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり22回目と同じ	2.0
22	事前学修	2コマ続きの授業であり21回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作2（制作するモノのモデリング）	
	事後学修	最終課題のモデリングを完成する	2.0
23	事前学修	最終制作課題の MATERIAL 作成手順を確認する、使用する MATERIAL の種類に合わせカメラ、ライト、レンダリングエンジンについて確認する	2.0
	授業	最終課題制作3（ターゲットの MATERIAL の計画と設定）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり24回目と同じ	2.0
24	事前学修	2コマ続きの授業であり23回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作3（ターゲットの MATERIAL の設定、レンダリング環境の設定）	
	事後学修	最終課題の MATERIAL の種類と見え方について再検討する	2.0
25	事前学修	最終課題のライティング、カメラ配置の手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作4（ライティング（フォトメトリックライトとカメラ（フィジカルカメラの設定をしとレンダリングの確認）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり26回目と同じ	2.0
26	事前学修	2コマ続きの授業であり25回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作4（カメラ・ライティングの強度、露出を調整して、レンダリング結果を確認）	
	事後学修	最終課題のライティング、カメラを完成させ、レンダリングを完成させる	2.0
27	事前学修	プレゼンの項目について確認する	2.0
	授業	最終課題制作5（プレゼン資料作成）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり28回目と同じ	2.0
28	事前学修	2コマ続きの授業であり27回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作5（プレゼン資料作成つづき）	
	事後学修	プレゼン資料で過不足が無いかを検討する	2.0
29	事前学修	プレゼン発表の準備（制作意図を伝えるのに充分か？）	2.0
	授業	最終課題制作6（制作物のプレゼン資料の修正）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり30回目と同じ	2.0
30	事前学修	2コマ続きの授業であり29回目と同じ	2.0

	授業	最終課題制作 6（制作物のプレゼン発表）	
	事後学修	最終制作物の資料整理と作品の提出	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： %]■練習・演習課題： 55% ■その他[最終制作物のプレゼンテーションなど：45%]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業内で提出課題の講評をおこないます。			
教科書			
参考書・Web サイト		・ 世界一わかりやすい 3dsMax 操作と 3DCG 制作の教科書	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		・ 授業では市販の教科書は使用せず、シラバスの各テーマに沿った独自作成の教材（PDF の資料）及びファイルを使用して授業を進めていきます。毎回授業ではこの PDF に沿って説明し、例題等の実演を通して理解を深めてもらいます。 ・ 例題、練習問題は演習時間内で、課題は事後学習として各自制作して提出してもらいます。 ・ PDF の資料（含むファイル等）は POLITE または seiryu 等で配布しますのでアップロードされたら各自ダウンロードしてください。教材の PDF 資料に訂正、追加の修正等があった場合は、都度改訂版をアップロードしますので POLITE から最新版を閲覧してください。 ・ 事情があり最終課題制作のプレゼンテーションが難しい場合は配慮しますので事前に必ず申し出てください。	
担当教員の実務経験		川田：建築物等の設計業務で使用している CAD（AutoCAD）、BIM（Revit）及び CG（3dsMax）の経験を活かし、効率的・効果的な作成を指導 ※ 1 CAD：Computer Aided Design ※ 2 BIM：Building Information Modeling ※ 3 CG：Computer Graphics	

3DCG演習 3DCG Practical

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	演習	○		ISD205
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
映画やゲームにおける必須の技術に 3 D C G があります。ハリウッド映画やゲーム制作で使用される本格的な 3 D C G ソフトウェアを用いて 3 D C G 作品制作の基礎を学びます。また、これら演習（実習）を通じて 3 D C G の原理等への理解を深めることを目的とします。						
授業における学修の到達目標						
3DCG ソフトウェアは立体像作品制作のための道具です。道具をうまく使いこなすことができれば、制作にかかる時間の短縮と、作品の品質向上につながります。本講義では、3DCG ソフトウェアである Maya を使い、基本的な機能を理解するとともに、テーマに沿った静止画とアニメーションを作成することを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	3 DCG について調べる				2.0
	授業	ガイダンス・Maya 基本操作（Maya 撮影練習課題）				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 回目と同じ				2.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 回目と同じ				2.0
	授業	ガイダンス・Maya 基本操作（Maya 撮影練習課題）つづき				
	事後学修	自分の気になる分野を調べるとともに基本操作の復習をする				2.0
3	事前学修	モデリングについて調べる				2.0
	授業	机とイスのモデリング作業				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 4 回目と同じ				2.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業であり 3 回目と同じ				2.0
	授業	机とイスのモデリング作業つづき				
	事後学修	モデリング課題の作業				2.0
5	事前学修	マテリアル、テクスチャについて調べる				2.0
	授業	机とイスのモデリング作業（ライティング）				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 6 回目と同じ				2.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業であり 5 回目と同じ				2.0
	授業	机とイスのモデリング作業（ライティング）つづき				
	事後学修	課題を完成させる・提出				2.0
7	事前学修	レンダリングについて調べる				2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 8 回目と同じ				2.0
8	事前学修	2 コマ続きの授業であり 7 回目と同じ				2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題つづき				
	事後学修	モデリング課題の作業				2.0

9	事前学修	ライティングについて調べる	2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題（マテリアル）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 1 0 回目と同じ	2.0
10	事前学修	2 コマ続きの授業であり 9 回目と同じ	2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題（マテリアル） つづき	
	事後学修	課題を完成させる・提出	2.0
11	事前学修	課題の項目について確認する	2.0
	授業	テーマ「身近なもの（大学構内）」課題の制作（モデリング）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 1 2 回目と同じ	2.0
12	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 1 回目と同じ	2.0
	授業	テーマ「身近なもの（大学構内）」課題の制作つづき	
	事後学修	モデリング作業	2.0
13	事前学修	課題の項目について確認する	2.0
	授業	テーマ「身近なもの（大学構内）」課題の制作（モデリング・マテリアル）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 1 4 回目と同じ	2.0
14	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 3 回目と同じ	2.0
	授業	テーマ「身近なもの（大学構内）」課題の制作（モデリング・マテリアル） つづき	
	事後学修	モデリング・マテリアルの作業	2.0
15	事前学修	課題の項目について確認する	2.0
	授業	テーマ「身近なもの（大学構内）」課題の制作（UV 展開）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 1 6 回目と同じ	2.0
16	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 5 回目と同じ	2.0
	授業	テーマ「身近なもの（大学構内）」課題の制作（UV 展開） つづき	
	事後学修	UV 展開の作業	2.0
17	事前学修	課題の項目について確認する	2.0
	授業	テーマ「身近なもの（大学構内）」課題の制作（レンダリング）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 1 8 回目と同じ	2.0
18	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 7 回目と同じ	2.0
	授業	テーマ「身近なもの（大学構内）」課題の制作（レンダリング） つづき	
	事後学修	課題を完成させる	2.0
19	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作 1（バウンドアニメーション）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 0 回目と同じ	2.0
20	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 9 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作 1（バウンドアニメーション） つづき	
	事後学修	提出する課題の作業	2.0
21	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作 2（バウンドアニメーション）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 2 回目と同じ	2.0
22	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 1 回目と同じ	2.0

	授業	アニメーション課題制作 2 (パウンドアニメーション) つづき	
	事後学修	提出する課題の作業	2.0
23	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作 3 (パウンドアニメーション)	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 4 回目と同じ	2.0
24	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 3 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作 3 (パウンドアニメーション) つづき	
	事後学修	課題を完成させる	2.0
25	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作 1 (キャラクターアニメーション)	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 6 回目と同じ	2.0
26	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 5 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作 1 (キャラクターアニメーション) つづき	
	事後学修	提出する課題の作業	2.0
27	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作 2 (キャラクターアニメーション)	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 8 回目と同じ	2.0
28	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 7 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作 (キャラクターアニメーションつづき)	
	事後学修	提出する課題の作業	2.0
29	事前学修	課題を完成させる	2.0
	授業	アニメーション課題 (キャラクターアニメーション) 講評会	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 3 0 回目と同じ	2.0
30	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 9 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題 (キャラクターアニメーション) 講評会つづき	
	事後学修	全ての制作物の資料整理と提出	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[プレゼンテーションなど： %]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で提出課題の講評をおこないます。

教科書	
参考書・Web サイト	・世界一わかりやすい Maya はじめてのモデリングの教科書
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Maya 以外のモデリングソフトを使用しても構いません。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社での実務経験を活かし、効率的・効果的な作成を指導する。実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゲームCG演習 Computer Graphics and Computer Game Design Practical

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	ISD209	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
本授業では、前半はドット絵を中心とした 2D アクションゲームの制作を行い、アニメーションの知識とゲーム制作の基礎を学びます。後半は 3D モデリングとモーションの制作を行い、ゲーム制作に使える 3D 技術を学びます。どちらの課題もオンデマンド教材による反転授業（自宅で予習し、授業でさらに深める）となり、最終的にオリジナルのゲームやキャラクターアニメーション制作に繋げることを目指します。						
授業における学修の到達目標						
・ Unity によるアクションゲームの 2D グラフィックを制作する ・ Blender による 3D モデリングやモーション制作の知識と技術を習得する ・ 独自のキャラクターデザインや世界観を構築する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の流れを把握する				2.0
	授業	授業のガイダンス				
	事後学修	ガイダンスの振り返り				2.0
2	事前学修	配布資料の確認				2.0
	授業	Unity 起動・サンプルゲーム確認				
	事後学修	企画を考える				2.0
3	事前学修	配布資料の確認				2.0
	授業	企画・グラフィック制作 1				
	事後学修	グラフィック制作（キャラクターデザイン）				2.0
4	事前学修	配布資料の確認				2.0
	授業	グラフィック制作 2（背景デザイン）				
	事後学修	グラフィック制作（背景）				2.0
5	事前学修	配布資料の確認				2.0
	授業	グラフィック制作 3（UI デザイン）				
	事後学修	グラフィック制作（UI デザイン）				2.0
6	事前学修	配布資料の確認				2.0
	授業	Unity で画像差し替え 1				
	事後学修	ゲームの動作チェック				2.0
7	事前学修	配布資料の確認				2.0
	授業	Unity で画像差し替え 2・レベルデザイン				
	事後学修	ゲームの動作チェック				2.0
8	事前学修	配布資料の確認				2.0
	授業	ビルド・課題提出				
	事後学修	ゲームの完成データを提出する				2.0

映画制作演習 Filmmaking Practical

担当教員	島田 英二(137 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 河原大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	演習	○		ISD206
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
実写の映像コンテンツ制作における基礎的な理論と表現技法について、短編映画・短編映像などを題材に鑑賞・解説や構造分析を行い、映像を「見る側」から「作る側」へ視点を移行していきます。 基礎的な知識や技術（制作スキル）の定着を目標として随時、講義・制作演習を行います。 演習では学生はグループに分かれ、実際に課題制作（映像、写真、音、アイデアなど）に挑戦します。与えられたテーマに対して、企画作り、準備、撮影、編集を行い作品を完成させ、出来上がった作品はグループ毎に発表し、互いに鑑賞批評を行います。チーム内でアイデアを出したり演出や効果を考えたりといったグループワークを含むほか、絵コンテを描いたり、制作機材としてデジタルカメラやデジタルビデオカメラ、三脚、PC 等を使用します。実習機材の台数に限りがあるため、希望者多数の場合は調整を行う場合があります。						
アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。						
・グループワーク						
・プレゼンテーション						
・実習、実験、フィールドワーク						
・チーム基盤学習						
・ワークショップ						
授業における学修の到達目標						
1. 映画・映像の作られ方が分かる						
2. 映画・映像のみかたを深める						
3. 専門用語や映像制作の理論を習得する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス（実習に関するオリエンテーション、授業のチーム分け等）				
	事後学修	実習内容をまとめる、グループのチームワークを整える				2.0
2	事前学修	実習内容を確認する				2.0
	授業	企画ワークショップ（ビデオカメラで映像を撮ってみる）				
	事後学修	ワークショップの内容をまとめる				2.0
3	事前学修	ソフトウェアに関する情報を収集する				2.0
	授業	デジタルムービー基礎（ソフトウェア（Adobe Premiere Pro）の使い方）				
	事後学修	ソフトウェア（Adobe Premiere Pro）の使い方をまとめる				2.0
4	事前学修	ビデオカメラの操作、撮り方について情報を収集する				2.0
	授業	デジタルムービー基礎（ビデオカメラの詳しい使い方、動きを撮ってみる）				
	事後学修	ビデオカメラの操作、撮り方についてまとめる、撮影を振り返る				2.0
5	事前学修	撮影・音声収録の基礎・実践 2 の台本の読み込み、撮影計画を立てる、小道具等の準備				2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践 1 2 分程度の映像シーケンスの撮影 前半（～1 分まで）				

	事後学修	撮影前半の振り返り、効果的な演出方法を検討する	2.0
6	事前学修	撮影後半部分の台本の読み込み、撮影計画を立てる、 絵コンテの確認、効果的な演出方法を検討する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践1（2分程度の映像シーケンスの撮影 後半（1分～2分まで））	
	事後学修	撮影後半の振り返り、演出方法、進行管理の反省	2.0
7	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践1：映像の編集（2分程度の映像シーケンスの編集 前半（～1分まで））	
	事後学修	映像編集（前半部分）の見直し、完成品のイメージを深める	2.0
8	事前学修	編集素材の収集、SE・BGM選曲、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践1：映像の編集（2分程度の映像シーケンスの編集 後半（1分～2分まで））	
	事後学修	映像編集（後半部分）の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
9	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（前半 チーム1～5まで）	
	事後学修	各チームの作品（前半 チーム1～5まで）についての情報や感想をまとめる	2.0
10	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、 作品の見方を深める	2.0
	授業	講評会（後半 チーム6～9まで）、総評	
	事後学修	各チームの作品（後半 チーム6～9まで）についての情報や感想をまとめる、撮影・音声収録の基礎・実践1で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
11	事前学修	撮影方法（同ポジション撮影）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践2（同ポジション撮影の企画）	
	事後学修	同ポジション撮影の企画についてまとめる	2.0
12	事前学修	撮影方法（同ポジション映像）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践2（同ポジション映像）の撮影	
	事後学修	撮影方法（同ポジション映像）についてまとめる	2.0
13	事前学修	編集方法（同ポジション映像）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践2（同ポジション映像）の編集	
	事後学修	編集方法（同ポジション映像）についてまとめる	2.0
14	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（チーム1～9まで）	
	事後学修	撮影・音声収録の基礎・実践2（同ポジション映像）で学んだことをレポートにまとめる	2.0
15	事前学修	撮影方法（CM模写）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践3（CM模写）の企画	
	事後学修	撮影方法（CM模写）の企画についてまとめる	2.0
16	事前学修	撮影方法（CM模写）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践3（CM模写）の撮影	
	事後学修	撮影方法（CM模写）についてまとめる	2.0
17	事前学修	編集方法（CM模写）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践3（CM模写）の編集	

	事後学修	編集方法（CM 模写）についてまとめる	2.0
18	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（チーム 1～9 まで）	
	事後学修	撮影・音声収録の基礎・実践 3（CM 模写）で学んだことをレポートにまとめる	2.0
19	事前学修	制作進行管理の項目出し、情報収集	2.0
	授業	制作進行管理基礎	
	事後学修	制作進行管理のまとめ	2.0
20	事前学修	資料の読み込み、指定された WEB ページを熟読する	2.0
	授業	映画史 1（映画の誕生期）	
	事後学修	映画史 1（映画の誕生期）のまとめ	2.0
21	事前学修	シナリオのカット割り	2.0
	授業	絵コンテ制作	
	事後学修	絵コンテのまとめ、ブラッシュアップ	2.0
22	事前学修	資料の読み込み、指定された WEB ページの熟読	2.0
	授業	映画史 2（ハリウッド黄金期、技術の発展）	
	事後学修	映画史 2（ハリウッド黄金期、技術の発展）	2.0
23	事前学修	企画制作、シナリオ制作	2.0
	授業	最終課題制作 1（企画）	
	事後学修	企画の選別、ブラッシュアップ	2.0
24	事前学修	シナリオ案の制作、プロット	2.0
	授業	最終課題制作 1（脚本・絵コンテ）	
	事後学修	シナリオのブラッシュアップ、絵コンテ制作	2.0
25	事前学修	撮影計画、絵コンテの確認、小道具等の準備	2.0
	授業	最終課題制作 2（撮影 前半（～1 分まで））	
	事後学修	撮影前半の振り返り、効果的な演出方法を検討する	2.0
26	事前学修	撮影後半部分の台本の読み込み、撮影計画を立てる、 絵コンテの確認、効果的な演出方法を検討する	2.0
	授業	最終課題制作 2（撮影 後半（1 分～2 分まで））	
	事後学修	撮影後半の振り返り、演出方法、進行管理の反省	2.0
27	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	最終課題制作 3（編集 前半（～1 分まで））	
	事後学修	映像編集（前半部分）の見直し、完成品のイメージを深める	2.0
28	事前学修	編集素材の収集、SE・BGM 選曲、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	最終課題制作 3（編集 後半（1 分～2 分まで））	
	事後学修	映像編集（後半部分）の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
29	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	最終課題制作講評会（前半 チーム 1～5 まで）	
	事後学修	各チームの作品（前半 チーム 1～5 まで）についての情報や感想をまとめる	2.0
30	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、 作品の見方を深める	2.0

	授業	最終課題制作講習会（後半 チーム6～9まで）	
	事後学修	各チームの作品（後半 チーム6～9まで）についての情報や感想をまとめる、最終課題制作・この講義で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。 グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行います。			
□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題： 80% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題発表時に適宜、解説し全体にフィードバックします。レポートのまとめを授業内で解説・共有します。			
教科書			
参考書・Web サイト		『トムさんの映像の撮影でたいせつなこと』 トム・シュレプル（著）（株）スノウバグズ 『一人でもできる映画の撮り方』 西村雄一郎（著）洋泉社 『ハリウッドディレクティングバイブル—映画を監督するための9つのステップ』 マーク・トラビス（著），Mark Travis（原著），岡田勲（翻訳）愛育社	
単位修得が望ましい科目		発想法演習，デッサン，Web アニメーション基礎演習	
備考		映像を見る力や映像を読み取る力を付けたい人，映像制作をしたい人への基礎コースです。 一回の密度が高いので自己責任で出席をきちんと管理すること。3分の2以上の出席を必須条件とし，課題作品を提出しない者（チーム）は成績評価の対象としません。	
担当教員の実務経験		2001年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作，映画製作といった実務経験をもとに，そこで得た知識，技術，ツールを学生に教える。	

アニメーション演習 Animation Filmmaking Practical

担当教員	大島 慶太郎 (320 研究室), 河原 大 (322 研究室), 島田 英二 (137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	ISD207	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：アニメーション表現による作品制作						
本講義では、アニメーション表現を用いた映像作品制作における基礎的な表現手法及び、多様な表現手段について講義・演習を行う。動きをともなう視覚的な表現による意思疎通や情報伝達という視点から、多岐に渡るアニメーション表現について理解し、現代における視覚的なコンテンツ制作におけるアニメーションの活用性について視野を広げ、作品制作に取り組む。						
授業における学修の到達目標						
・アニメーション作品制作における基礎的な表現技法を習得する。 ・アニメーション表現を基軸とした視覚的表現領域におけるリテラシーを獲得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	アニメーション表現について調べる。				4.0
	授業	ガイダンス、講義スケジュール及び、課題作品への取り組み方等の解説				
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。				0.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。				0.0
	授業	作品鑑賞及び、解説を通じてアニメーション表現の世界について学ぶ。				
	事後学修	鑑賞作品についてまとめる。				4.0
3	事前学修	動く映像について調べる。				4.0
	授業	アニメーションの原理についての講義を通じて、フレームバイフレームのアニメーション構造を学ぶ。				
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。				0.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。				0.0
	授業	アナログメディアを用いたワークショップを通じて、アニメーション原理を体験し理解を深める。				
	事後学修	動く映像の仕組みについてまとめる。				4.0
5	事前学修	アニメーション表現メタモルフォーゼについて調べる。				4.0
	授業	アニメーション表現メタモルフォーゼについて、参考作品の鑑賞及び、解説通じて学ぶ。				
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。				0.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。				0.0
	授業	アニメーション制作課題メタモルフォーゼの制作実習。				
	事後学修	メタモルフォーゼの表現方法についてまとめる。				4.0
7	事前学修	アニメーションの速度や変化について調べる。				4.0
	授業	動きや変化による質感の表現について、参考作品の鑑賞及び、解説通じて学ぶ。				
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。				0.0
8	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。				0.0

	授業	アニメーション制作課題バウンズボールの制作実習。	
	事後学修	動きの質についてまとめる。	4.0
9	事前学修	モーショングラフィックスについて調べる。	4.0
	授業	アニメーション制作課題モーショングラフィックスの制作実習。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
10	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題モーショングラフィックスの仕上げ提出。	
	事後学修	モーショングラフィックスの表現方法を練習する。	4.0
11	事前学修	ストップモーションアニメーションについて調べる。	4.0
	授業	ストップモーションアニメーションについて、参考作品の鑑賞及び、解説通じて学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
12	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの出題、グループによる企画制作。	
	事後学修	ピクシレーションの企画をまとめる。	4.0
13	事前学修	ピクシレーションの為のロケハンをする。	4.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの撮影実習。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
14	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの撮影実習及び、コンポジット実習。	
	事後学修	撮影素材をグループで確認する。	4.0
15	事前学修	仕上げに必要な素材（音声や画像）を準備する。	4.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの編集実習及び、再撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
16	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの編集実習及び、仕上げ作業。	
	事後学修	ストップモーションアニメーションの表現方法についてまとめる。	4.0
17	事前学修	映像と音声について調べる。	4.0
	授業	古典的なアニメーションの動きとサウンドの表現について、参考作品の鑑賞及び、解説通じて学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
18	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	最先端のアニメーションの動きとサウンドの表現について、参考作品の鑑賞及び、解説通じて学ぶ。	
	事後学修	アニメーションの動きとサウンドの表現についてまとめる。	4.0
19	事前学修	アニメーション作品の構想を練る。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題、テーマに沿った作品制作の企画及び、リサーチ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
20	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題、テーマに沿った作品制作の企画プレゼンテーション。	
	事後学修	企画の修正やブラッシュアップをする。	4.0
21	事前学修	アニメーション制作の為のリサーチや技術テストをする。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題、イメージボードとコンテを作成する。	

	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
22	授業	アニメーション作品制作課題，イメージボードとコンテのプレゼンテーション。	
	事後学修	イメージボードとコンテの修正やブラッシュアップをする。	4.0
	事前学修	作品素材を作成する。	4.0
23	授業	アニメーション作品制作課題，動画コンテ作成又は，撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
24	授業	アニメーション作品制作課題，動画コンテ作成又は，撮影の確認をする。	
	事後学修	動画コンテ作成又は，撮影の不足部分を補う作業をする。	4.0
	事前学修	作画の為の下準備やリサーチ，撮影のための準備をする。	4.0
25	授業	アニメーション作品制作課題，作画作業又は，撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
26	授業	アニメーション作品制作課題，進捗プレビューチェック。	
	事後学修	修正箇所やスケジュールの確認をする。	4.0
	事前学修	タイトルデザインを構想する。	4.0
27	授業	アニメーション作品制作課題，タイトルデザインの素材作成，編集の準備。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
28	授業	アニメーション作品制作課題，タイトルデザイン及び，編集。	
	事後学修	タイトル及び，編集の修正箇所の確認をする。	4.0
	事前学修	作画，撮影，素材制作等の不足部分を補う作業をする。	4.0
29	授業	アニメーション作品制作課題，編集と仕上げ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
30	授業	アニメーション作品プレゼンテーション及び，講評。	
	事後学修	各受講者の成果作品を視聴する。自作との比較・検証。	4.0

☐試験： % ☐小テスト： % ☒レポート：20% ☒演習課題：80% ☐その他[]

課題の進捗を適宜確認しながら、個別にアドバイスする。

参考書・Web サイト	なし

必須ではないが事前にオーディオビジュアルアート、ビジュアルエフェクト演習を履修することを強く薦める。その他、グラフィック系科目の履修を薦める。

使用する実習室の状況により、受講者数の制限をすることがあります。履修希望者が教室の座席数を超えた場合は、オーディビジュアルアート、ビジュアルエフェクト演習の履修者及び、その成績順にて履修者を選定します。

	ける基礎的な技法から応用的な表現まで幅広く指導できる。

ビジュアルエフェクト演習 Visual Effects Practical

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室), 近藤 寛史(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	ISD208	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：モーショングラフィックス及び、コンポジットによる映像表現 現代の多様な映像コンテンツ制作において必要不可欠なモーショングラフィックスや特殊効果などの映像加工技術、表現について講義、演習を行う。 講義では、映像作品や広告映像などの制作事例を通して企画立案から視覚的な表現展開、作品化について映像デザインの観点から解説する。また、映像表現の最新動向についても触れる。 演習では、主に Adobe After Effects を用いた映像制作に取り組む。						
授業における学修の到達目標						
様々なビジュアル素材を用いた映像表現の制作フローを理解し、映像コンテンツの実践的な制作技術を習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	Adobe After effects について調べる				2.0
	授業	ガイダンス, Adobe After effects についての解説講義。 主に関連する映像作品の紹介。				
	事後学修	Adobe After effects の特徴についてまとめる				2.0
2	事前学修	広告映像について調べる。				2.0
	授業	最新の広告映像の作品鑑賞及び、解説講義。				
	事後学修	最新の広告映像の Adobe After effects を用いた制作例についてまとめる。				2.0
3	事前学修	ミュージックビデオについて調べる。				2.0
	授業	最新のミュージックビデオの作品鑑賞及び、解説講義。				
	事後学修	最新のミュージックビデオの Adobe After effects を用いた制作例についてまとめる。				2.0
4	事前学修	撮影及び、マスク処理について調べる。				2.0
	授業	撮影及び、マスク処理による映像作品の鑑賞及び、解説講義。				

参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	オーディオビジュアルアート，映画基礎演習，グラフィック系科目
備考	Adobe AfterEffects による映像表現・映像作品制作を主体としたスキルアップ及び，応用的な作品制作に根ざした実習内容となります。映像系及び，デザイン系のクリエイティブ志向の高い学生向けの実習レベルに設定しています。 履修登録人数に制限を設けており，履修希望者が多い場合は，『単位が望ましい科目』の成績上位者を優先します。
担当教員の実務経験	実写映像の合成処理やモーショングラフィックスを駆使したコンテンツ制作を行う現役の映像ディレクター・映像作家である。実制作の経験をもとに表現ツールの基礎的な操作方法から，最先端の表現技法まで幅広く指導できる。

PA技術演習 PA Systems

担当教員	平山 晴花(128 研究室), 鐘撞 行孝(非常勤), 風間 泰弘(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	ISD210	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
コンサートやライブパフォーマンス、舞台芸術などには欠かせない PA（Public Address）技術について実践的に学ぶ。また同時に、照明機材の基礎知識と操作に関しても取り扱う。 集中講義期間を通して、簡単な舞台制作または演出を行なう（Ex. コンサートの演出 and/or シアター作品の演出）。						
授業における学修の到達目標						
音響学の基礎知識として、音の発生や伝播、音の聞こえ方、電気音響について理解する。また、マイクの種類と適切なマイク選択、音響機材のセッティングと配線方法等、音響機材の使い方の基礎知識を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	PA（Public Address）に必要な知識とスキルを調べておく				2.0
	授業	理論：音の基本的性質と聴覚器官の仕組み				
	事後学修	音の発生・伝播・受聴について復習する				2.0
2	事前学修	音響機材について調べる				2.0
	授業	理論：音の伝播と音の電気信号化（マイク、ミキサー、スピーカー）				
	事後学修	音波の電気信号への変換、電気信号の音波への変換、それに必要な機材について復習する				2.0
3	事前学修	音を増幅したり、調整する機材と役割を調べる				2.0
	授業	理論：音信号処理と増幅（フィルター、イコライザー、アンプ）、スピーカーの種類と特性				
	事後学修	フィルター、イコライザー、アンプ（アンプリファイアー）について復習する				2.0
4	事前学修	エフェクターの役割や種類について調べる				2.0
	授業	理論：リバーブと物理的・心理的音響効果				
	事後学修	リバーブとディレイによる効果を復習する				2.0
5	事前学修	音のサンプリングについて調べる				2.0
	授業	理論：音の記録と再生、ノイズと種類				
	事後学修	ノイズの概念、種類、軽減方法について復習する				2.0
6	事前学修	音響系のケーブルについて調べる				2.0
	授業	実習（Day 2）：スピーカー、ミキサーの配置と配線、マイクを立てる				
	事後学修	マイク、ミキサー、スピーカーの結線方法について復習する				2.0
7	事前学修	音の響きやすい場所、響きにくい場所にはそれぞれどんなところがあるか、部屋の大きさや素材などを考察する				2.0
	授業	実習（Day 2）：入力から出力までの音の流れを理解する、現場の音響特性の分析				
	事後学修	音の入力から電子音としての出力までに必要な機材や音の流れについての復習				2.0
8	事前学修	電気抵抗（インピーダンス）について調べる				2.0
	授業	実習（Day 2）：音作り①（マイク選択と配置、指向性、DI ボックス）				

	事後学修	マイクの種類、指向性、DI ボックスの使い方について復習する	2.0
9	事前学修	オーディオミキサーの使い方について調べる	2.0
	授業	実習（Day 2）：音作り②（ゲイン、イコライズ etc.）	
	事後学修	音量、音色の調整方法について復習する	2.0
10	事前学修	リバーブ効果の設定に必要なパラメータの種類について調べる	2.0
	授業	実習（Day 2）：音作り③（リバーブ、バランス etc.）	
	事後学修	必要なリバーブ感を得るためのパラメータの設定値を復習する	2.0
11	事前学修	ギター、サックス、ドラムはそれぞれどこから音が出るかを調べる。	2.0
	授業	実習（Day 3）：楽器ごとに適切なマイクを選択し配置する	
	事後学修	楽器に応じたマイキングについて復習する	2.0
12	事前学修	入力音から出力音までの音作り過程を復習する	2.0
	授業	実習（Day 3）：ミキサーで適切に音処理し音作りをする	
	事後学修	音量設定、音色作りで使用した機能とパラメータ値を復習する	2.0
13	事前学修	会場が必要と感じられるリバーブ量を考察する	2.0
	授業	実習（Day 3）：リバーブエフェクトを追加し音響を整える	
	事後学修	演奏者、オーディエンス双方にとって適切なリバーブ量について復習する	2.0
14	事前学修	録音方法と録音機材の使い方、ノイズ対策を調べる	2.0
	授業	実習（Day 3）：演奏を聞きながら微調整、録音を準備する	
	事後学修	演奏者、オーディエンス双方にとって適切な音響とはどのようなものか復習する	4.0
15	事前学修		0.0
	授業	実習（Day 3）：実演、録音	
	事後学修	PA エンジニアに関するレポート	2.0

成績評価の方法およびその基準

■レポート：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Polite や実践での直接指導によりフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	小瀬高夫、須藤浩著 『PA 入門 基礎が身に付く PA の教科書』 リットーミュージック ほか
単位修得が望ましい科目	
備考	集中講義の扱いですが、開講日程はイレギュラーな可能性があります。 詳細は平山@128 (hirayama@do-johodai.ac.jp) まで聞いてください。
担当教員の実務経験	風間ヤスヒロ：セピアムーンレコーズ主宰。作曲、サウンドプロデューサー。 鐘撞行孝：ゴーン・ミュージック主宰。作曲、サウンドプロデューサー。

DTP 演習 DTP Practical

担当教員	伊藤 マーティ (338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義	○		ISD301
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(2),(3),(5),(6)				
授業概要						
印刷業界の現場で行われているテクノロジーやルールを学習し、作品作りで実習する。 DTP（DeskTop Publishing / DeskTop Prepress）とは、コンピュータによる出版を意味する。書籍、新聞、広告デザイン印刷物などの編集に際して行うデザイン、割り付けなどの作業をコンピュータ上で行い、印刷機やプリンターで出力を行うこと。印刷は現代のデジタルコンテンツのベースアイテムとしてとらえることができる。その中でも、印刷物を「デザイン」する作業は表現すべての元を創り上げる大事な部分です。また印刷完成までには、ひとつのデータが多くの作業工程と人の手と機械を介し仕上がることを理解し、基本を知った上でデザインデータを仕上げることを身につける。講義、実習、課題提出を組み合わせた講座とする。 本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となるため、メディアデザインの基礎・演習/デザインエレメンツ・演習/ビジュアル構成演習の講義受講後の履修が望ましい。						
授業における学修の到達目標						
デザイン分野を志す学生には、印刷物制作の基本である DTP を活用したデザイン制作力を身につけることを目標とする。また、デザイン分野を専攻しない学生に対しても、印刷デザインに関する基礎知識や感覚を社会で活かせるよう、現代のデジタルコンテンツの重要要素である DTP の知識と技術を習得することを目指している。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する				2.0
	授業	・ 授業ガイダンス ・ ファイリングの必要性和運用について学ぶ 【自分のシンボルマーク】 ・ 単純画像を用いた自分のシンボルマーク作り				
	事後学修	授業内容をまとめ復習する				2.0
2	事前学修	Adobe illustrator の利用方法を復習する				2.0
	授業	【自分のシンボルマーク】 ・ DTP の基本構造の構築について学ぶ ・ 画像素材の解像度、リンク・埋め込みなど ・ 画像切り抜き方法のおさらい				
	事後学修	授業内容をまとめ復習する				2.0
3	事前学修	素材となる写真準備 実習内容の確認を行う				2.0
	授業	【ポストカード】 ・ 写真の取り扱い方法を実践する ・ 写真を使ったデザインを考える ・ スマホ→PC への写真の取り込み方（ドライブ or Gmail）				
	事後学修	授業内容をまとめ復習する				2.0
4	事前学修	実習内容の確認を行う				2.0
	授業	【ポストカード】				

		・レイアウトやフォント、デザインの4原則などに気を付けてデータ制作する ・入稿データの制作	
	事後学修	授業内で制作しきれなかった部分を完成させる	2.0
5	事前学修	自身が作成したポストカードデザインを見直す。誤りがあれば修正を行う。	2.0
	授業	マージン・トラップなどページに関するルールとオペレーションについて学ぶ	
	事後学修	授業内容をまとめ復習する	2.0
6	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【フライヤーデザイン】① フライヤーデザインの制作手順と内容	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【フライヤーデザイン】② フライヤーデザインのベースフォーマットの作り方	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
8	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【フライヤーデザイン】③ フライヤーデザインの作業手順について フライヤーデザインの下絵の貼り付け方	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
9	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【フライヤーデザイン】④ フライヤーデザインの制作に関して フライヤーデザインの提出方法の確認	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
10	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【小冊子デザイン】① ガイダンス 小冊子デザインの実データ製作時の注意点	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【小冊子デザイン】② 小冊子デザインのための画像解像度を整える方法	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
12	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【小冊子デザイン】③ 小冊子デザインの画像加工について	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【小冊子デザイン】④ 小冊子デザインの文字組みや効果について	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
14	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0

15	授業	【封筒デザイン】① ガイダンス・封筒デザインの作り方	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【封筒デザイン】② 全課題の振り返り、クオリティアップ	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■演習課題：100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE 内のフォーラム機能によりフィードバックを行う。フォーラムで完成が確認できた段階で POLITE 内の提出フォルダに完成課題を提出する。			
教科書			
参考書・Web サイト		デザインエレメンツにて教科書として使用した下記の参考書を薦める ・書名:『イラレの 5 分ドリル 練習して身につける Illustrator の基本』 著者名:浅野 桜 (著), あさひな。(著), 高橋 としゆき (著), 出版社:翔泳社 ・書名:『フォトショの 5 分ドリル 練習して身につける Photoshop の基本』 著者名:浅野 桜 (著), starmix (著), 楠田 諭史 (著), 出版社:翔泳社	
単位修得が望ましい科目		・メディアデザインの基礎演習 ・デザインエレメンツ演習 ・ビジュアル構成演習 ・イラスト制作演習	
備考		・本講義は印刷物を扱うため、印刷ができる環境が必要です。 ・印刷は自宅・本学、コンビニエンスストアでのプリンター等を活用してください。 ・本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提です。 ※デザインエレメンツ演習の内容よりも、より詳しく AdobeIllustrator や Photoshop のオペレーションを行う事から、これらのアプリケーション操作が苦手な場合には履修をお勧めしません。 ※受講人数が多い場合、履修制限を行う可能性があります。	
担当教員の実務経験		広告代理店に 7 年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業の CI やキャラクターデザイン、広告活動の制作を約 30 年間行ってきた。 2024 年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。DTP 演習、イラスト制作演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、高大連携授業、特別実習 A を担当している。	

映像制作プロジェクト Filmmaking Project

担当教員	大島 慶太郎 (320 研究室), 河原 大 (322 研究室), 島田 英二 (137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IPC203	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：チーム又は、個人によるプロジェクト形式の映像制作						
本プロジェクト演習では、映画制作や映像制作、アニメーション表現の基礎に加え、様々な情報技術、デザインスキル等も活用しながら、プロジェクト形式での映像コンテンツ制作に取り組みます。映像作品の企画・制作・発表までの一連の流れをチーム又は、個人によるプロジェクトとして完遂し、その過程の中で、企画力・制作スキル・チームワーク・プロジェクト管理能力・プレゼンテーション能力・問題解決能力などを体得します。						
授業における学修の到達目標						
企画力、制作スキル、チームワーク、プロジェクト管理能力、プレゼンテーション能力を培い、プロジェクト型の映像コンテンツ制作に向けた総合的かつ応用的な知識の理解とスキルを身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	グループでプロジェクトに取り組みたい場合、受講者は事前にグループの構想ができていることが望ましい。但し人数配分の関係で調整される場合がある。また個人で取り組みことでも問題はない。				4.0
	授業	ガイダンス、本講義におけるプロジェクト制作の取り組み方について解説する。				
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。				0.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。				0.0
	授業	課題制作 1 についての講義及び、映像資料の鑑賞。				
	事後学修	確定したグループメンバーとの連絡先共有及び、親交を深める。各自の得意分野や制作したい作品についてディベートする。				4.0
3	事前学修	作品プランについて意見交換する。				4.0
	授業	制作課題 1 についての企画立案をする。				
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。				0.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。				0.0
	授業	制作課題 1 についての企画立案及び、企画のチェックを受ける。				
	事後学修	企画内容の共有をする。				4.0
5	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。				4.0
	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び、素材制作。				
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。				0.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。				0.0
	授業	撮影及び、素材制作。				
	事後学修	制作作業の状況の共有。				4.0
7	事前学修	進捗状況の確認、編集の準備。				4.0
	授業	コンボジット、編集作業。				
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。				0.0

8	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	編集作業，進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ，ムービーファイルの書き出し。	4.0
9	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
	授業	課題制作 1 作品プレゼンテーション。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
10	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作 1 作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0
11	事前学修	課題制作 1 作品の反省点を共有する。	4.0
	授業	課題制作 2 についての講義。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
12	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作 2 についての映像資料の鑑賞。	
	事後学修	制作したい作品についてディベートする。	4.0
13	事前学修	作品プランについて意見交換する。	4.0
	授業	制作課題 2 についての企画立案をする。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
14	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	制作課題 2 についての企画立案及び，企画のチェックを受ける。	
	事後学修	企画内容の共有をする。	4.0
15	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。	4.0
	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び，素材制作。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
16	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	撮影及び，素材制作。	
	事後学修	制作作業の状況の共有。	4.0
17	事前学修	進捗状況の確認，編集の準備。	4.0
	授業	コンポジット，編集作業。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
18	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	編集作業，進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ，ムービーファイルの書き出し。	4.0
19	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
	授業	課題制作 2 作品プレゼンテーション。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
20	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作 2 作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0
21	事前学修	課題制作 2 作品の反省点を共有する。	4.0

	授業	課題制作 3 についての講義。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
22	授業	課題制作 2 についての映像資料の鑑賞。	
	事後学修	制作したい作品についてディベートする。	4.0
	事前学修	作品プランについて意見交換する。	4.0
23	授業	制作課題 3 についての企画立案をする。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
24	授業	制作課題 2 についての企画立案及び、企画のチェックを受ける。	
	事後学修	企画内容の共有をする。	4.0
	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。	4.0
25	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び、素材制作。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
26	授業	撮影及び、素材制作。	
	事後学修	制作作業の状況の共有。	4.0
	事前学修	進捗状況の確認、編集の準備。	4.0
27	授業	コンポジット、編集作業。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
28	授業	編集作業、進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ、ムービーファイルの書き出し。	4.0
	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
29	授業	課題制作 3 作品プレゼンテーション。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
30	授業	課題制作 3 作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビュー、発表、チームミーティングの中でコメントします。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習、ビジュアルエフェクト演習
備考	特になし。
担当教員の実務経験	様々な映像分野のコンテンツ制作を行う現役の映画監督、エンターテインメントコンテンツ開発者、映像作家である。実制作の経験をもとにプロジェクトベースの映像企画・制作について幅広

	く指導できる。

Web制作プロジェクト Web Design Project

担当教員	安田 光孝(135 研究室), 斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IPC204	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
Web 制作演習で培った Web サイト制作の基礎的なテクニックを更に発展させ、 サイト全体を戦略に基づいて構築する訓練を行う。						
ケースメソッドによる（場合によっては、リアルな）実践課題を用い、 調査をもとに Web 戦略を策定して、 設計、 デザイン、 HTML/CSS によるコーディングの演習を行う。						
CDIO のフレームワークでは、 Conceive (構想)-Design (設計)-Implement (実行・実装/製作)を講義で扱う。 Operate (運用・活用) の代わりに江別市への提案を行う。						
※Figma, Adobe Illustrator, Photoshop の使い方をマスターしていることと, HTML と CSS を使いこなせることが前提です。ソフトの使い方やコーディングを学ぶ講義ではありません。						
※この講義は、グループワークを多く含みます。						
授業における学修の到達目標						
Web デザインを単なるデザインから、 ソリューション（解決策） 提供の手段として活用できるまでの応用力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義の目的、 スケジュールについて確認しておく				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	講義内容を再確認する				2
2	事前学修	Web 制作のプロセスを復習する				2
	授業	チーム分け ケース（事例）についての調査				
	事後学修	授業で調べたことを振り返る				2
3	事前学修	提示資料を事前に見ておく				2
	授業	ケース（事例）の把握と課題分析 ＊履修者の学習状況に応じて、 ケースではなく個別テーマを設ける場合があります。				
	事後学修	提示資料を再確認し、 制作する Web サイトのイメージをふくらませる				2
4	事前学修	ペルソナとはなにか、 調べておく				2
	授業	ペルソナの策定 今まで調査した内容からペルソナの候補を複数挙げる				
	事後学修	それぞれのペルソナを掘り下げしてみる				2
5	事前学修	それぞれのペルソナを見直す				2
	授業	ペルソナの策定 複数のペルソナから一つのペルソナに絞る				

	事後学修	絞ったペルソナについて掘り下げしてみる	2
6	事前学修	コンセプトのアイディア出しをする	2
	授業	サイトコンセプト策定 ペルソナを訴求するコンセプトを考える	
	事後学修	複数のコンセプトを検証する	2
7	事前学修	複数のコンセプトを検証する	2
	授業	サイトコンセプト策定 ペルソナを訴求するコンセプトを決定する	
	事後学修	決定したコンセプトを更に掘り下げしてみる	2
8	事前学修	コンテンツのアイディアを考える	2
	授業	サイトマップ作成 ペルソナに訴求するコンテンツを考える	
	事後学修	他にコンテンツがないか調べる	2
9	事前学修	コンテンツをすべて洗い出す	2
	授業	サイトマップ作成 挙がったコンテンツをもとにサイトの全体像を設計する	
	事後学修	サイトマップで補足がないか調べる	2
10	事前学修	トップページの要素を考えてみる	2
	授業	ワイヤーフレーム作成 サイトマップに基づき、トップページのワイヤーフレームを作成する	
	事後学修	トップページの要素で抜け落ちがないか確認する	2
11	事前学修	サブページで共通する要素を考えてみる	2
	授業	ワイヤーフレーム作成 サイトマップに基づき、各ページのワイヤーフレームを作成する	
	事後学修	各ページのワイヤーフレームを見直す	2
12	事前学修	デザインのテイストを考えてみる	2
	授業	トップデザイン作成 ラフ案作成	
	事後学修	カラーを複数検討してみる	2
13	事前学修	ラフ案のパターンを考えてみる	2
	授業	コンテンツページデザイン作成 ラフ案作成	
	事後学修	デザイン案の最終テイストを確認する	2
14	事前学修	提案書の構成を考える	2
	授業	提案書作成 課題・問題提起・コンセプト・コンテンツ	
	事後学修	提案書の前半の内容を見直す	2
15	事前学修	後半の内容を検討する	2
	授業	提案書作成 サイトマップ・ワイヤーフレーム・デザイン案（ラフ）	
	事後学修	提案書を見直し、完成度を上げる	2
16	事前学修	プレゼンテーションの練習を行う	2

	授業	提案書プレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返りを行う	2
17	事前学修	提案書の修正点を挙げてみる	2
	授業	提案書見直し 課題・問題提起・コンセプト・コンテンツ	
	事後学修	提案書の修正を見直す	2
18	事前学修	提案書後半の修正点を挙げてみる	2
	授業	提案書見直し サイトマップ・ワイヤーフレーム・デザイン案（ラフ）	
	事後学修	提案書全体を見直す	2
19	事前学修	Web サイト開発のプロセスを調べてみる	2
	授業	サイト開発を本格化する際の注意事項	
	事後学修	講演でのメモを見直し、関係事項を調べてみる	2
20	事前学修	ラフデザイン案を見直しておく	2
	授業	トップデザイン案作成	
	事後学修	トップデザインの完成度を上げる	2
21	事前学修	コンテンツページのラフ案を見直しておく	2
	授業	コンテンツページデザイン案作成	
	事後学修	コンテンツページのデザインの完成度を上げる	2
22	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	トップページコーディング HTML 記述	
	事後学修	HTML の復習をする	2
23	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	トップページコーディング CSS 記述	
	事後学修	CSS の復習をする	2
24	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング HTML 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	HTML の復習をする	2
25	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング CSS 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	CSS の復習をする	2
26	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング HTML 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	HTML の復習をする	2
27	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング	

		CSS 記述 (2 ページ程度分)	
	事後学修	CSS の復習をする	2
28	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング CSS 記述	
	事後学修	CSS の復習をする	2
29	事前学修	プレゼンの準備を行う	2
	授業	最終プレゼンテーション (クラスの半分)	
	事後学修	プレゼンの振り返りを行う (次回の発表の学生は発表準備)	2
30	事前学修	プレゼンの準備を行う (プレゼン終了者は反省点などを整理する)	2
	授業	最終プレゼンテーション (クラスの残り半分)	
	事後学修	プレゼンの振り返りを行う	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			
■演習課題：100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
レビューやプレゼンテーション時にコメントをフィードバックします。			
教科書			
参考書・Web サイト		1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座 Mana (著) SB クリエイティブ	
単位修得が望ましい科目		Web 制作演習	
備考		グループワークでは、2-3 人で自由にチームを組んでもらう予定です。	
担当教員の実務経験		1994 年から 2007 年まで Web 制作会社で 100 以上の案件を経験した。また、それ以降も最新技術の体得を心がけ、常にアップデートしてきた。そこで得た手法とツールを学生に紹介し、現場に近い形で開発訓練を実施する。	

メディアアート制作プロジェクト Media Art Project

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 佐野 和哉(132 研究室), 守 啓祐(225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	演習	○		IMC310
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
テーマ：メディア・アートを作成する メディアアート制作プロジェクトでは、メディアアートコースの学生とメディアプログラミングコースの学生からなるプロジェクトにより、メディアアート作品の制作に取り組みます。グラフィックや映像・アニメーション、3 DCG などのデザインとプログラミングや電子工作などのテクノロジーを融合させ、魅力的な作品の制作を行います。						
授業における学修の到達目標						
グループワークによる作品制作におけるディスカッションを通じてコミュニケーション能力を向上させる。作品の企画および展示会での発表を通じて、プレゼンテーション能力を向上させる。魅力的なメディアアートの作品制作手法を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	メディアアートについて調べる				2
	授業	ガイダンス（メディアアートとは）				
	事後学修	メディアアートについてまとめる				2
2	事前学修	自分の参画できる分野について整理する				2
	授業	ガイダンス（授業の進め方、プロジェクト）				
	事後学修	本講義におけるプロジェクトについて整理する				2
3	事前学修	メディアアートの事例を調べる				2
	授業	メディアアートの動向（世界のメディアアート）				
	事後学修	興味のあるメディアアートについてまとめる				2
4	事前学修	メディアアートの事例を調べる				2
	授業	メディアアートの動向（身近なメディアアート）				
	事後学修	興味のあるメディアアートについてまとめる				2
5	事前学修	自分の持つスキル、身につけたいスキルについてのプレゼン準備				2
	授業	スキルプレゼン（前半）				
	事後学修	プレゼンでの質問、コメントをまとめる				2
6	事前学修	自分の持つスキル、身につけたいスキルについてのプレゼン準備				2
	授業	スキルプレゼン（後半）、チーム編成				
	事後学修	プレゼンでの質問、コメントをまとめる				2
7	事前学修	企画案を考える				2
	授業	企画（プレスト：アイデア出し）				
	事後学修	プレストの内容をまとめる				2
8	事前学修	企画案を考える				2

	授業	企画（ターゲット設定）	
	事後学修	プレストの内容をまとめる	2
9	事前学修	企画案と似たものを調べる	2
	授業	企画（調査：サービス）	
	事後学修	関連技術・事例をまとめる	2
10	事前学修	企画案と似たものを調べる	2
	授業	企画（調査：技術）	
	事後学修	関連技術・事例をまとめる	2
11	事前学修	企画を実現するために必要なことを考える	2
	授業	企画（実現可能性：できること）	
	事後学修	実現可能性についてまとめる	2
12	事前学修	企画を実現するために必要なことを考える	2
	授業	企画（実現可能性：できないこと）	
	事後学修	実現可能性についてまとめる	2
13	事前学修	プレゼン準備	2
	授業	企画発表（前半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
14	事前学修	プレゼン準備	2
	授業	企画発表（後半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
15	事前学修	技術的課題を考える	2
	授業	制作物の設計	
	事後学修	技術的課題をまとめる	2
16	事前学修	役割分担・スケジュールリングを考える	2
	授業	役割分担・スケジュールリング	
	事後学修	役割分担・スケジュールについてまとめる	2
17	事前学修	試作の方法を考える	2
	授業	試作：担当技術について	
	事後学修	試作の問題点をまとめる	2
18	事前学修	担当の技術を確認する	2
	授業	試作：個々の試作をあわせる	
	事後学修	試作の問題点をまとめる	2
19	事前学修	個々の制作の準備	2
	授業	制作：個々の制作に取り組む	
	事後学修	個々の制作についてまとめる	2
20	事前学修	個々の制作の準備	2
	授業	制作：個々の制作を完成させる	
	事後学修	個々の制作についてまとめる	2
21	事前学修	実施テストに向けての注意点を考える	2
	授業	制作：全体を統合する	

	事後学修	実施テストについてまとめる	2
	事前学修	実施テストに向けての注意点を考える	2
22	授業	制作：実施テスト	
	事後学修	実施テストについてまとめる	2
	事前学修	展示方法について考える	2
23	授業	展示方法（アイデア出し）	
	事後学修	展示方法についてまとめる	2
	事前学修	展示方法について考える	2
24	授業	展示方法（設計）	
	事後学修	展示方法についてまとめる	2
	事前学修	プレゼンの準備	2
25	授業	プロジェクト最終プレゼン（前半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
	事前学修	プレゼンの準備	2
26	授業	プロジェクト最終プレゼン（後半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
	事前学修	必要な機材を確認する	2
27	授業	成果展示会（準備）	
	事後学修	機材の管理を確認する	2
	事前学修	必要な機材を確認する	2
28	授業	成果展示会（設置）	
	事後学修	機材の管理を確認する	2
	事前学修	展示の最終確認	2
29	授業	成果展示会と相互評価（投票システムを用いた相互投票）	
	事後学修	展示会での質問・コメントをまとめる	2
	事前学修	展示の最終確認	2
30	授業	成果展示会（撤収）	
	事後学修	展示会での質問・コメントをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：％ ■小テスト：10％ ■レポート：30％ □演習課題：％ ■その他[グループワーク：10% 発表：20% 成果物：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントをする

教科書	
参考書・Web サイト	作品の内容に関連した参考資料を適宜指導する
単位修得が望ましい科目	デザイン系の学生は発想法演習，3DCG 演習，ビジュアルエフェクト演習，アニメーション基礎演習，デジタルサウンド演習，デザインプログラミング演習 テクノロジー系の学生はメディアプログラミング演習，CG プログラミング，画像情報処理

備考	優秀作品は本学メディアデザイン展の出展作品として選定される
担当教員の実務経験	守啓祐 該当科目につき、関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし、該当科目に反映させている。 隼田尚彦 コンサルタント会社の客員研究員として総合研究開発機構主幹のプロジェクトを始めとする様々なプロジェクトの企画立案に従事し、また環境行動学の専門家として、これまで空間とそこにいる人とのインタラクションを基本にした新しい考えを用いて約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。メディアアートは、空間全体の設計も含むインスタレーション作品の制作もあり、これらの企画立案設計の経験を生かして教育を実施する。

ゲーム制作プロジェクト Game Making Project

担当教員	森川 悟(326 研究室), 河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IMC308	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
2～3人でチームを作り、あらかじめ定められたテーマを元にゲームを制作します。ゲーム作品は大規模なイベントでの展示を想定したものとします。 ゲームを制作する際は企画を立て、スケジュールを組み、ゲーム制作現場に近い制作工程で作業を行います。						
授業における学修の到達目標						
チーム制作を通じてコミュニケーション能力の向上させ、スケジュール管理のノウハウを得る。ゲーム作品の企画発表や展示会を通じてプレゼンテーション能力を向上させる。基本的なゲーム作品の制作手法を身に着ける						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゲームをいろいろやってみる				4
	授業	ガイダンス（ゲーム制作とは）				
	事後学修	連続授業のため無し				0.0
2	事前学修	連続授業のため無し				0.0
	授業	ガイダンス（講義の進めかた）				
	事後学修	自分の作りたいゲームがこの講義に相応しいかを考える				4
3	事前学修	自身のスキルをまとめる				4
	授業	スキルに偏りが無いようにチームを編成する				
	事後学修	連続授業のため無し				0.0
4	事前学修	連続授業のため無し				0.0
	授業	イベント展示されているゲームの動向				
	事後学修	イベントで展示するゲームについて、自分なりの考えをまとめる				4
5	事前学修	アーケードゲームについて調べる				4
	授業	アーケードゲームの動向				
	事後学修	連続授業のため無し				0.0
6	事前学修	連続授業のため無し				0.0
	授業	企画を作る（アイデア出し）				
	事後学修	アイデア出しの問題点をまとめる				4
7	事前学修	企画の類似作品が無いか調べる				4
	授業	企画を作る（パワーポイント制作）				
	事後学修	連続授業のため無し				0.0
8	事前学修	連続授業のため無し				0.0
	授業	企画発表会(前半)				
	事後学修	企画発表での感想や問題点をまとめる				4
9	事前学修	企画発表の準備をする。発表の練習をする				4

	授業	企画発表会(後半)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の分担を決める	
	事後学修	分担に漏れがないか確認し、問題点をまとめる	4
11	事前学修	スケジュールを考える	4
	授業	メンバー全員でスケジュールを作る	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作する(前半)	
	事後学修	スケジュールに問題がないかまとめる	4
13	事前学修	個々の制作の準備	4
	授業	制作する(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作する(後半)	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	4
15	事前学修	制作物が動作するように準備する	4
	授業	制作物の動作をチェックする	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表	
	事後学修	中間発表で得た意見をまとめる	4
17	事前学修	中間発表で得た意見を元に問題点をリストアップする	4
	授業	制作物の質やスケジュールに問題がないか検討する	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(前半)	
	事後学修	制作物の動作チェックを行う	4
19	事前学修	個々の制作の準備	4
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(後半)	
	事後学修	制作物の動作チェックを行う	4
21	事前学修	スケジュールに遅延がないかまとめる	4
	授業	メンバー全員でスケジュールを再確認する	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の品質チェック(前半)	

	事後学修	制作物の品質に問題がないかまとめる	4
	事前学修	制作物が動作するように準備する	4
23	授業	制作物の品質チェック(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
24	授業	制作物の品質チェック(前半)	
	事後学修	制作物の品質に問題がないかまとめる	4
	事前学修	プレゼンテーションの資料を作成する	4
25	授業	最終発表(前半)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
26	授業	最終発表(後半)	
	事後学修	最終発表で得た意見やアドバイスをまとめる	4
	事前学修	個々の制作の準備	4
27	授業	最終発表で得た結果を元に制作物を改良する(前半)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
28	授業	最終発表で得た結果を元に制作物を改良する(後半)	
	事後学修	制作物の問題点をまとめる	4
	事前学修	展示の事前準備を行う	4
29	授業	制作物の展示を行う(アンケートで感想を貰う)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
	事前学修	連続授業のため無し	0.0
30	授業	制作物の撤収を行う	
	事後学修	撤収に問題点がないかまとめる	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては、グループ内での行動について
自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う
■ 演習課題：50% ■ その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントをする

教科書	
参考書・Web サイト	参考資料は適宜開示する
単位修得が望ましい科目	コンピュータゲーム開発論, ゲームプログラミング・演習, ゲームCG演習, ゲーム制作演習
備考	なし
担当教員の実務経験	森川 ゲーム開発を20年間行っている。パッケージソフトは10数本の開発に携わったほか、ゲーム開発用ライブラリ、ゲーム開発用ツールなど、ゲーム開発全般の実務がある。これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

	河原 Unity による iOS・Android 用ゲーム制作での実務経験を元に、グラフィックの仕様など制作現場で注意する事例を紹介しながら授業を行う。

アプリ制作プロジェクト Application Development Project

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室), 谷口 文威 (226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IMC306	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
本講義ではアプリ(モバイルを含む OS 上で動作するソフトウェアアプリケーション)の企画から制作, 発表・報告までの一連の流れについてチーム・プロジェクトとして完遂します。企画と実装を通して, 「課題を理解し」「解決方法を考え」「実際にプログラムとして実装し」「動作させて改善する」の一連のプロセスを体験します。その過程の中で、企画力, 制作スキル, チームワーク, プロジェクト管理, そして, プレゼンテーション能力を養います。						
授業における学修の到達目標						
アプリケーション開発のための技術を身につけ, チームとしてプロジェクトを遂行できるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。既存のさまざまなアプリについて調査する				4
	授業	ガイダンス, チーム決め				
	事後学修	なし				
2	事前学修	なし				
	授業	ガイダンス内容の復習。チーム内連絡手段の確認。アプリケーションの事例とソリューションという考え方				
	事後学修	アプリケーションで解決できそうな世の中の問題について考え, チーム内で制作したいアプリケーションについて話し合う				4
3	事前学修	アプリケーション開発で利用できる技術, 開発環境について調査する。選定した技術に関する予習				4
	授業	アプリケーション開発で用いられる技術, 開発環境の紹介と技術選定				
	事後学修	なし				
4	事前学修	なし				
	授業	デザインについて学び、アートとの違いを確認する				
	事後学修	チーム内で、制作するアプリのデザインについて考え, 開発環境について詳しく調査し, 学習を開始する				4
5	事前学修	ソフトウェア開発におけるプロジェクトの計画について調べる				4
	授業	プロジェクトの計画を考える, 選定した技術に関する学習				
	事後学修	なし				
6	事前学修	なし				
	授業	プロジェクトの計画を考える, 選定した技術に関する学習				
	事後学修	チーム内でのプロジェクト計画の共有をする				4
7	事前学修	プロジェクトの遂行に必要なこと、不要なことを考察する				4
	授業	プロジェクトの計画の改善, 選定した技術に関する学習				
	事後学修	なし				
8	事前学修	なし				

	授業	アプリケーションの利用体験について考察してデザインを改善させる	
	事後学修	担当教員からユースケースの内容に関するフィードバックを受けて、デザインの内容の改善案を考える	4
	事前学修	プロジェクト内容の報告のために、報告のための情報を	4
9	授業	アプリケーションの制作準備。あわせて報告のための準備も行う	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
10	授業	次週の報告の準備を仕上げる。発表担当者などについても打ち合わせる	
	事後学修	チーム内での企画発表資料の共有をする。企画発表資料の改善案を考える	4
	事前学修	企画報告の準備を行う	4
11	授業	企画報告（前半）	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
12	授業	企画報告（後半）	
	事後学修	担当教員から報告に関するフィードバックを受けて、発表のフィードバック内容の振り返りを行う。	4
	事前学修	教材用 Web サイトの「MVP(Minimum Viable Product)」に関する説明を読む	4
13	授業	アプリケーションのデザインにおいて見直しの必要がある箇所を抽出	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
14	授業	デザインの見直しにもとづく、プロジェクトの計画の再検討	
	事後学修	担当教員から MVP の内容に関するフィードバックを受けて、MVP の内容の改善案を考える	4
	事前学修	プロジェクト管理について調べ、自分たちのプロジェクトに生かせないか考える	4
15	授業	プロジェクト管理について再考する。あわせて制作を進める	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
16	授業	プロジェクト管理について再考する。あわせて制作を進める	
	事後学修	プロジェクト管理について実践できることを探し実践する	4
	事前学修	プロジェクトの進行における問題点を整理しておく	4
17	授業	問題点の共有を行い、アプリケーションの制作を進める	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
18	授業	問題点の共有を行い、アプリケーションの制作を進める	
	事後学修	技術的な問題点については自己学習を行なう	4
	事前学修	技術的な問題点で解決できなかった部分をまとめておく	4
19	授業	現状を踏まえて、制作するアプリについての再検討を行う	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
20	授業	再検討したアプリの内容に従い、プロジェクトの計画についても修正を行う	
	事後学修	チームにおけ自分の役割を確認して準備を進める	4
21	事前学修	アプリケーションの完成に向けて、問題点が無いか再確認する	4

	授業	中間発表・アプリケーションのデモンストレーション（前半）	
	事後学修	デモンストレーションにおける問題点の共有、または準備	
	事前学修	デモンストレーションにおける問題点の共有、または準備	
22	授業	中間発表・アプリケーションのデモンストレーション（後半）	
	事後学修	アプリケーションの完成に向けて、問題点が無いか再確認する	4
	事前学修	チームでのアプリケーションについての情報交換	4
23	授業	円滑な会議の方法、制作中のアプリケーションの問題点や課題を明らかにするためのチーム会議、アプリケーションの開発	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
24	授業	問題点や課題の解決方法についてチームで話し合い考える。アプリケーションの開発	
	事後学修	明らかになった問題点や課題をまとめてチームで共有し、問題点や課題の解決に取り組む	4
	事前学修	アプリケーションの動作確認と調整	4
25	授業	制作したアプリケーションの評価方法を考えて評価の計画を立てる、アプリケーションの開発	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
26	授業	アプリケーション評価の実施。最終プレゼンテーションの準備	
	事後学修	アプリケーションの動作確認と調整	4
	事前学修	プレゼンテーションの改善点をピックアップする	4
27	授業	プレゼンテーションの準備	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
28	授業	プレゼンテーションの内容の改善	
	事後学修	チーム内でプレゼンテーション資料の共有をする	4
	事前学修	プレゼンテーションの準備を行う	4
29	授業	プレゼンテーション（前半）	
	事後学修	なし	
	事前学修	なし	
30	授業	プレゼンテーション（後半）	
	事後学修	発表のフィードバック内容の振り返りを行う	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

演習課題については作成するアプリケーションの評価である。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：70% ■その他[グループワーク：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

チームごとに、プロジェクトの計画や、制作しているアプリケーションの内容、発表資料などに対してフィードバックを行います。

教科書

参考書・Web サイト

講義中に参考図書をいくつか紹介します。また、POLITE でも紹介します。

単位修得が望ましい科目

Web フロントエンド演習

備考	この授業ではアプリケーションの内容としてゲーム認めていない。また、Web アプリについての基礎知識を必要とするので事前に Web フロントエンド演習の履修を推奨する。
担当教員の実務経験	谷口文威 実務経験なし 齋藤健司 実務経験なし

ネットワーク演習 Networking Practical

担当教員	広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	演習	○		IMT305
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
小規模コンピュータネットワークを構築し、実習を通してコンピュータネットワークの通信について学ぶ。複数台のルータや各種サーバーでネットワークを構成して、いくつかのプロトコルの動作を実査に確認することで、ネットワーク通信の技術・知識の獲得を目指す。						
授業における学修の到達目標						
・ TCP/IP を理解し小規模なコンピュータネットワークの設計ができる。 ・ ルーターの設定を行い小規模なコンピュータネットワークを構築できる。 ・ OS 上にネットワーク通信サービスを配置することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。POLITE に提示する授業前の準備（実習環境の準備）についての案内を読み、準備を進める。				2.0
	授業	ガイダンス コンピュータネットワークに関する知識の確認をする。				
	事後学修	LMS に掲載する第 1 回資料「講義の目的」について復習する。LMS に提示される実習環境の準備に取り組む。				2.0
2	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は Ethernet に関わる部分を復習する。未履修者は、インターネットなどを使って Ethernet について調べる。				2.0
	授業	Ethernet についての知識の獲得（あるいは復習）				
	事後学修	LMS に掲載する第 2 回資料「LAN」について復習する。LMS に提示される宿題に取り組む。LMS に提示される実習環境の準備に取り組む。				2.0
3	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は Internet Protocol に関わる部分を復習する。未履修者は、インターネットなどを使って Internet Protocol について調べる。				2.0
	授業	Internet Protocol についての知識の獲得（あるいは復習）				
	事後学修	LMS に掲載する第 3 回資料「IP」について復習する。 LMS に提示される宿題に取り組む。 LMS の必要な回の部分に宿題を提示するので、以下では、「LMS に提示される宿題に取り組む。」という記述は省略する。				2.0
4	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者はルーティングテーブルについて具体的な IP アドレスを用いて復習する。未履修者は、インターネットなどを使って ルーティングテーブルの役割について調べる。				2.0
	授業	ルーティングテーブルと Default gateway と Static route についての知識の獲得（あるいは復習）				
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。				2.0
5	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者はプライベート IP アドレスと NAT について復習する。未履修者は、インターネットなどを使って Network Address Translation について調べる。				2.0
	授業	ルーターの基本機能の確認				
	事後学修	LMS に掲載する第 5 回資料「ルーターの役割」について復習する。				2.0

6	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は DHCP について復習する。未履修者は、インターネットなどを使って DHCP の役割について調べる。	2.0
	授業	実習用機材（ツール、ソフトウェア）の確認と、基本設定を行う。	
	事後学修	LMS に掲載する第 6 回資料「ブロードバンドルータの機能」について復習する。	2.0
7	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は ICMP について復習する。未履修者は、インターネットなどを使って ping コマンドの使い方について調べる。	2.0
	授業	ルータを用いてネットワークを構成し、通信の確認をする。	
	事後学修	LMS に掲載する第 7 回資料「ネットワーク通信の確認方法」について復習する。	2.0
8	事前学修	インターネットなどを使ってパケットフィルタリングについて調べる。	2.0
	授業	IP フィルタリング機能について調べ、使用する機材（ソフトウェア）上でどのようにフィルタリング設定するか調べる。	
	事後学修	LMS に掲載する第 8 回資料「パケットフィルタリング」について復習する。	2.0
9	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」を読む。（単独でのプロジェクト、実機を使用する場合、グループワークをする場合などを想定）	2.0
	授業	2 台ルータを用いて 3 つのセグメントを接続するように IP アドレスの配置を設計する。3 つのセグメントにわたる通信の確認方法を設計する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて、ネットワークの設計を行う。	2.0
10	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて、ネットワークの設計を行う。（前回事後学習から継続）	2.0
	授業	設計したネットワークが稼働するように、必要な設定を行う。正常な通信が行われていることを確認する手順を考える。	
	事後学修	実際に作成したネットワークのそれぞれの機器におけるルーティングテーブルについて、設計図と比較して実際のものがどうだったか確認し、差があればその原因について考察する。	2.0
11	事前学修	LMS に掲載する第 11 回資料「通信の確認」を読む。	2.0
	授業	前回考えた通信の確認手順で通信の状況を確認する。 授業中に指示するフィルターを設定し、その後、通信の確認を行う。	
	事後学修	LMS に掲載する第 11 回資料「通信の確認」について復習する。	2.0
12	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて、プロジェクト 1 のまとめを準備する。	2.0
	授業	プロジェクト 1 のまとめをする。	
	事後学修	プロジェクト 1 のまとめを「レポート」として LMS に提出する。	2.0
13	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 1 で作成したネットワークに、ネットワーク上のサービスをするサーバーを使いする構成を検討する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」に基づいて、ネットワーク通信サービスの設計を行う。	2.0
14	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」に基づいて、ネットワーク通信サービスの設計を行う。（前回事後学習から継続）	2.0
	授業	検討したネットワークサービスについて、設計図を作成する。必要な機材等を確認する。	
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。LMS に提示される宿題に取り組む。	2.0
15	事前学修	LMS に掲載する第 15 回資料「通信サービス」を読む。	2.0
	授業	作成した設計図について、実現可能か検討する。到達目標を設定する。	
	事後学修	LMS に掲載する第 15 回資料「通信サービス」について復習する。	2.0

16	事前学修	LMS に掲載する第 16 回資料「通信サービスと OS」を読む。	2.0
	授業	設計図に基づいて実際に環境を構築する。（複数回を要する）	
	事後学修	LMS に掲載する第 16 回資料「通信サービスと OS」について復習する。	2.0
17	事前学修	LMS に掲載する第 17 回資料「OS とパケットフィルタリング」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 2 の設計図に基づいて実際に環境を構築する。（複数回を要する） 安全な通信サービス提供について検討し、適切なパケットフィルタリング設定の準備をする。	
	事後学修	LMS に掲載する第 17 回資料「OS とパケットフィルタリング」について復習する。	2.0
18	事前学修	前回資料「OS とパケットフィルタリング」に基づいて、自分が設計したネットワーク通信サービスに適したパケットフィルタリングを設計する。	2.0
	授業	設計したパケットフィルタリングを必要な機器上で設定する。通信の確認をする。	
	事後学修	通信サービスとパケットフィルタリングの設定について概要をまとめ、プロジェクト 2 の「レポート」として LMS に提出する。	2.0
19	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 1 より規模の大きなネットワーク構成を目指す。仮想環境の場合は複数のノードを使って、実環境の場合は他の受講者、あるいは受講者グループ（グループ構成時）と調整をしながら、ネットワーク間の接続を行う。複数ルーターの接続時に必要となる（ルーター間で共有すべき）情報が何かについても検討する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」に基づいて、ネットワークと通信サービスの設計を行う。	2.0
20	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」に基づいて、ネットワークと通信サービスの設計を行う（前回時事後学習から継続）	2.0
	授業	改めてネットワークの設計と通信サービスの設計を行う。（機材等の制約下で可能な限りプロジェクト 1, 2 と異なる設計を検討する。）	
	事後学修	プロジェクト 1, 2 に基づいて、必要な設定情報について検討する。	2.0
21	事前学修	検討した設定情報に基づいて、今回の作業手順を考え、手順書としてまとめる。	2.0
	授業	全ての（グループ構成時は自分の担当範囲の）ネットワーク機器、OS 等の設定を行う。	
	事後学修	事前に検討した作業手順についてプロジェクト 1, 2 に比べて効率的だったか、より効率的に作業する方法はないか検討する。	2.0
22	事前学修	ある（グループ構成時は自分の担当する）ネットワークと他の（実機の場合他の人の、グループ構成時は自分の担当する）ネットワークを接続する際に必要となる情報は何かを考えておく。	2.0
	授業	複数のルーター（実機では他の受講者との、グループ構成時は他の受講者グループとの）間には設定書を取り交わすのみで、通信が提供できるように、設定書のための情報をまとめる。	
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。LMS に提示される宿題に取り組む。	2.0
23	事前学修	LMS に掲載する第 23 回資料「ルーティングプロトコル」を読む。	2.0
	授業	前回考察した情報に基づいて、（実機時は他の受講者の、グループ構成時は他の受講者グループの）作成したネットワークとの接続に必要な設定情報をドキュメントとしてまとめ情報交換をする。 ルーティングプロトコルの採用について、接続相手と相談を開始する。（次回に決定する）	
	事後学修	LMS に掲載する第 23 回資料「ルーティングプロトコル」について復習する。接続相手との相談に基づいて採用すべきルーティングプロトコルを検討する。	2.0
24	事前学修	採用を希望するルーティングプロトコルを使用する際に必要となる情報を整理しておく。（この時点ではまだ接続相手との交渉中という想定）	2.0
	授業	接続相手との相談で、採用するルーティングプロトコルを決定し、共有すべき情報を確認する。	
	事後学修	採用が決まったプロトコルについて、なるべく詳細に学習する。	2.0

教科書	
参考書・Web サイト	なし（LMS 上で、適宜提示する）
単位修得が望ましい科目	インターネットの仕組み（事実上必須），Linux 演習
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

プロジェクトⅠ Project 1

担当教員	齋藤 一(122 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IPC310	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本授業は、これまでに学生が取り組んできた地域連携・制作・実践的プロジェクト活動を対象に、そのプロセスと成果を振り返り、学びを統合・再構築することを目的とする冬期集中科目です。 江別市をはじめとする道内地域を対象とした既存のプロジェクト活動を題材として、「課題設定の妥当性」「調査・企画・制作・運用のプロセス」「チームワークやコミュニケーション」「地域に対する有用性・社会的意義」といった観点から多面的に分析・省察（リフレクション）を行います。これまでの実践を学術的・教育的視点から整理し、言語化・可視化することを重視します。最終的には、成果報告書の作成を通して、自身のプロジェクト経験を次の学修・卒業研究・社会実践へとつなげることを目指します。						
授業における学修の到達目標						
・ これまでに取り組んできた地域連携型プロジェクトを、PBL の観点から体系的に振り返ることができる。 ・ 課題設定・調査・企画・制作・運用の各段階における自身およびチームの取り組みを客観的に分析できる。 ・ プロジェクト活動を通して得られた専門的スキルおよび汎用的能力（協働性・コミュニケーション能力等）を言語化できる。 ・ 地域に対して提示したソリューションや成果物の有用性・限界を評価し、改善点を考察できる。 ・ 振り返りの結果を、報告書として論理的にまとめ、他者に説明できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	これまで参加したプロジェクトを整理しておく（資料収集）				2.0
	授業	授業の目的と振り返りの視点の共有				
	事後学修	対象とするプロジェクトを決定し概要をまとめる				2.0
2	事前学修	プロジェクトの背景・地域課題を整理				2.0
	授業	プロジェクト概要の共有と相互レビュー				
	事後学修	フィードバックを反映し整理				2.0
3	事前学修	課題設定・調査プロセスの振り返り				2.0
	授業	課題設定の妥当性と調査方法の検討				
	事後学修	分析内容を文章化				2.0
4	事前学修	企画・設計段階の振り返り				2.0
	授業	企画プロセスの共有とディスカッション				
	事後学修	企画の改善点・学びを整理				2.0
5	事前学修	制作・実装プロセスの整理				2.0
	授業	制作過程における工夫・課題の分析				
	事後学修	成果物とプロセスの関係をまとめる				2.0
6	事前学修	チームワーク・役割分担の振り返り				2.0
	授業	協働・コミュニケーションの観点からの省察				
	事後学修	自己評価・相互評価の整理				2.0

7	事前学修	地域との関わり・反応を整理	2.0
	授業	地域に対する有用性・社会的意義の検討	
	事後学修	評価結果の文章化	2.0
8	事前学修	中間振り返り資料の作成	2.0
	授業	中間発表・意見交換	
	事後学修	コメントを反映	2.0
9	事前学修	プロジェクト全体の構造整理	2.0
	授業	成功点・課題点の整理	
	事後学修	最終報告書構成案作成	2.0
10	事前学修	報告書執筆	2.0
	授業	成果報告書作成指導	
	事後学修	執筆継続	2.0
11	事前学修	報告書ブラッシュアップ	2.0
	授業	ドラフト講評	
	事後学修	報告書のブラッシュアップ	2.0
12	事前学修	最終報告書完成	2.0
	授業	成果報告書提出	
	事後学修	発表準備	2.0
13	事前学修	発表準備	2.0
	授業	成果発表	
	事後学修	振り返り整理	2.0
14	事前学修	全体振り返り	2.0
	授業	総括ディスカッション	
	事後学修	自己省察レポート作成	2.0
15	事前学修	最終省察	2.0
	授業	振り返り	
	事後学修	次の学修への展望整理	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： 0% □小テスト： -% ■レポート：60% ■演習課題：40% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を通じた情報提供・情報共有・課題に対するフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	とくになし
単位修得が望ましい科目	各関連領域のプロジェクト科目（Web 制作プロジェクト等）
備考	備考 プロジェクトには、それぞれ担当教員が必要です。解決したい課題（制作する作品等）に合わせて、指導してもらえる教員（ゼミ担当教員等）を探して、科目担当者に報告してください。指導教員が見つからない場合等は、科目担当教員に相談に来てください。
担当教員の実務経験	Web ディレクター、グラフィックデザイナー、映像クリエイター、プログラマー、エンジニア、プランナーなどの背景を持つ教員が、各自の実務経験を生かしてプロジェクト活動を指導します。

プロジェクトⅡ Project 2

担当教員	齋藤 一(122 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IPC311	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本授業は、これまでに組んできた学内外の実践的プロジェクトを対象に、その内容・プロセス・成果を体系的に振り返り、学びを高度化することを目的とする冬期集中科目です。企画立案、設計、制作、運用といった一連のプロジェクト活動を改めて俯瞰し、「課題設定や意思決定の妥当性」「制作・実装プロセスにおける工夫や課題」「チームワーク、役割分担、プロジェクト管理」「成果物の完成度や社会的・実践的価値」について、クリティカルに分析・省察（リフレクション）を行います。 本授業では、これまでのプロジェクト経験を言語化・構造化し、次の学修や社会実践につなげるための整理と発展に重点を置きます。						
授業における学修の到達目標						
・これまでに取り組んだプロジェクト活動を、目的・過程・成果の観点から体系的に整理できる。 ・課題設定、企画、制作、運用、管理の各段階について、成功点と課題点を客観的に分析できる。 ・プロジェクトを通じて身につけた専門的スキルおよび汎用的能力（クリティカルシンキング、コミュニケーション能力、プロジェクト管理能力等）を言語化できる。 ・成果物や提案内容の価値・限界を多角的に評価し、改善や発展の可能性を考察できる。 ・振り返りの結果を、報告書および発表として論理的にまとめ、他者に説明できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	これまで参加したプロジェクトの整理				2.0
	授業	本授業の目的と振り返りの視点の共有				
	事後学修	対象プロジェクトの選定・概要整理				2.0
2	事前学修	プロジェクトの背景・課題設定の整理				2.0
	授業	課題設定と目的の妥当性に関する共有・ディスカッション				
	事後学修	分析内容の文章化				2.0
3	事前学修	企画立案・設計プロセスの振り返り				2.0
	授業	意思決定プロセスの検討				
	事後学修	企画段階の学びの整理				2.0
4	事前学修	制作・実装プロセスの整理				2.0
	授業	制作過程における工夫・技術的課題の分析				
	事後学修	制作プロセスの省察				2.0
5	事前学修	プロジェクト管理・工程管理の振り返り				2.0
	授業	スケジュール管理・役割分担の検討				
	事後学修	改善点の整理				2.0
6	事前学修	チームワーク・コミュニケーションの振り返り				2.0
	授業	協働に関するディスカッション				
	事後学修	自己評価・相互評価の整理				2.0

7	事前学修	成果物・提案内容の整理	2.0
	授業	成果物の完成度・有用性の分析	
	事後学修	評価結果の文章化	2.0
8	事前学修	中間振り返り資料作成	2.0
	授業	中間発表・相互レビュー	
	事後学修	コメント反映	2.0
9	事前学修	プロジェクト全体構造の整理	2.0
	授業	成功要因・課題要因の整理	
	事後学修	最終報告書構成案作成	2.0
10	事前学修	成果報告書執筆	2.0
	授業	報告書作成指導	
	事後学修	執筆継続	2.0
11	事前学修	報告書ブラッシュアップ	2.0
	授業	ドラフト講評	
	事後学修	報告書ブラッシュアップ	2.0
12	事前学修	発表準備	2.0
	授業	成果発表	
	事後学修	コメント整理	2.0
13	事前学修	最終省察	2.0
	授業	総括ディスカッション	
	事後学修	省察レポート作成	2.0
14	事前学修	将来展望整理	2.0
	授業	次の学修・社会実践への展開検討	
	事後学修	最終レポートの執筆	2.0
15	事前学修	最終レポートの執筆	2.0
	授業	振り返り	
	事後学修	最終レポート完成	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： 0% □小テスト： 0% ■レポート：60% ■演習課題： 40% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を通じた情報提供・情報共有・課題に対するフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	とくになし
単位修得が望ましい科目	各関連領域のプロジェクト科目（Web 制作プロジェクト等）、プロジェクトⅠ
備考	本科目は、通常の履修と異なり、プロジェクト指導教員から履修の指示があったもののみが履修登録できます。
担当教員の実務経験	Web ディレクター、グラフィックデザイナー、映像クリエイター、プログラマー等の実務経験を有する教員が、実践的プロジェクトの振り返りと省察を指導する。

ステップアッププロジェクトⅢ 2024 年度以降の入学生は、「プロジェクトⅢ」になります。 Step-up Project 3

担当教員	齋藤 一 (122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		IMC404
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		4 年	冬期集中	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
本授業は、取り組んできた実践的プロジェクト活動を対象に、その成果とプロセスを総合的・批判的に振り返り、4 年間の学修を統合することを目的とする冬期集中科目です。企画調査、設計、制作、運用といった一連のプロジェクト活動について、「課題設定や意思決定の妥当性」「技術的・表現的な到達点と限界」「プロジェクト管理・チーム運営」「成果物や提案の社会的・実践的価値」を多角的に分析・省察（リフレクション）します。						
授業における学修の到達目標						
・ これまでに取り組んできた複数のプロジェクト活動を俯瞰し、全体像として整理できる。 ・ 課題設定、企画、制作、運用、評価の各段階における意思決定を批判的に分析できる。 ・ 自身が身につけた専門的スキルおよび汎用的能力（プロジェクト管理能力、コミュニケーション能力等）を体系的に説明できる。 ・ 成果物・提案内容の社会的意義や実践的価値、限界を評価できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	過去の PBL の事例などを調査する。				2
	授業	本科目の位置づけ共有				
	事後学修	授業内容を振り返える。				2
2	事前学修	プロジェクト背景・目的整理				2
	授業	プロジェクト概要共有とディスカッション				
	事後学修	整理内容の文章化				2
3	事前学修	課題設定・調査プロセスの振り返り				2
	授業	課題設定の妥当性検討				
	事後学修	分析整理				2
4	事前学修	企画・設計段階の整理				2
	授業	意思決定プロセスの検討				
	事後学修	企画段階の省察				2
5	事前学修	制作・実装プロセス整理				2
	授業	技術的・表現的工夫の分析				
	事後学修	課題点の整理				2
6	事前学修	プロジェクト管理・工程管理振り返り				2
	授業	管理面の成功点・改善点検討				
	事後学修	改善視点の文章化				2
7	事前学修	チームワーク・役割分担整理				2
	授業	協働とリーダーシップの省察				
	事後学修	自己評価・相互評価整理				2

8	事前学修	成果物・提案内容整理	2
	授業	成果物の完成度・有用性分析	
	事後学修	評価結果整理	2
9	事前学修	中間振り返り資料作成	2
	授業	中間発表・相互レビュー	
	事後学修	コメント反映	2
10	事前学修	プロジェクト全体構造整理	2
	授業	成功要因・課題要因の総括	
	事後学修	最終報告書構成案作成	2
11	事前学修	成果報告書執筆	2
	授業	報告書作成指導	
	事後学修	執筆継続	2
12	事前学修	報告書ブラッシュアップ	2
	授業	ドラフト講評	
	事後学修	報告書ブラッシュアップ	2
13	事前学修	発表準備	2
	授業	成果発表（前半チーム）	
	事後学修	コメント整理	2
14	事前学修	発表準備	2
	授業	成果発表（後半チーム）	
	事後学修	コメント整理	2
15	事前学修	最終レポートの執筆準備	2
	授業	最終レポート制作	
	事後学修	最終レポート完成	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：％ □小テスト：％ ■レポート：60％ ■演習課題：40％ □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を通じた情報提供・情報共有・課題に対するフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	とくになし
単位修得が望ましい科目	各関連領域のプロジェクト科目（Web 制作プロジェクト等）、プロジェクトⅠ、プロジェクトⅡ
備考	本科目は、通常の履修と異なり、ゼミ担当教員などプロジェクト指導教員から履修の指示があった者のみが履修登録できます。
担当教員の実務経験	Web ディレクター、グラフィックデザイナー、映像クリエイター、プログラマー、エンジニア、プランナーなどの背景を持つ教員が、各自の実務経験を生かしてプロジェクト活動を指導します。

プロジェクトトライアル Project Workshop

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 向田 茂(125 研究室), 藤本 直樹(220 研究室), 棚橋 二郎(335 研究室), 佐瀬 雄治(331 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IPC309	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本科目は、学科横断型のプロジェクト学習科目です。専門的な背景の異なる学生とチームを組み、課題を解決するプロジェクト学習に集中的に取り組めます。グループワークを通じて、与えられた課題に対する解決策を検討・提案します。 授業の最後には、それまでの各チームの成果について、プレゼンテーションを行います。 授業の事前学修等では、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」などを活用し、本プロジェクト学習に必要な知識を身につけて上でプロジェクトに取り組んでもらいます。 プロジェクトに取り組むことで、チームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを伸ばします。						
授業における学修の到達目標						
これまで培ってきた専門的知識や技術などの個人的スキルを活かしつつ、グループワークや発表を通じて、ディスカッションやプレゼンテーション能力を向上させます。 専門が多岐にわたる学生の混成チームにより、異なる視点や立場の人との協働作業の進め方を身につけます。自己紹介準備（スキルと得意分野の自己申告）、「プロジェクトとは」および「企画立案及び企画書の作成方法」について、POLITE の教材で事前学修する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自己紹介準備（スキルと得意分野の自己申告）、「プロジェクトとは」および「企画立案及び企画書の作成方法」について、POLITE の教材で事前学修する。				6
	授業	ガイダンス「プロジェクトとは」・アイスブレイク。テーマの選定				
	事後学修	課題について、現状の問題点を調べる				1
2	事前学修	課題について、先行事例を調べる				1
	授業	グループ内で共有し、アイディア出しを行う。				
	事後学修	仮想ユーザーに対する調査内容を検討する				1
3	事前学修	仮想ユーザーに対する調査内容を引き続き検討する				0.5
	授業	仮想ユーザーに対する調査を行うとともに、問題点や先行事例の掘り下げを行う。				
	事後学修	調査結果を基に、必要な要件が何かを調べる。				2
4	事前学修	工程管理の方法について、POLITE の教材で事前学修する。自分の持つスキルに関するプレゼンの準備を行う。				3
	授業	どのような解決策を提案するか考え、グループとしての解決策のアイディア出しを行う（企画案のブレスト）。				
	事後学修	メンバーのスキルプレゼン資料に目を通す。				0.5
5	事前学修	作業工程を検討する。企画案を掘り下げる。				1
	授業	作業工程を確認し、併せて、プロジェクトの内容に関連する技術的課題を考える。				
	事後学修	実現可能性について検討（できること・できないことを明確化）する				1

6	事前学修	試作の方法を検討する。	0.5
	授業	仮想ユーザーに対する調査を行う	
	事後学修	調査の結果と試作方法に関する検討結果をもとに、試作の問題点をまとめ、各自の担当部分について詳細を検討する。	4
7	事前学修	試作：各自担当部分について	7
	授業	作業の成果を持ち寄ってグループで共有し、改善策を考えた上で、試作を続ける。	
	事後学修	試作を続ける。	1
8	事前学修	引き続き試作を続ける。	0.5
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し、確認し、グループ内でのディスカッションを基に、試作を改良する。	
	事後学修	試作の改良を続ける。	1
9	事前学修	引き続き試作の改良を続ける。	0.5
	授業	プレゼンに向けた制作に取り組む。進捗状況や問題点を共有する。	
	事後学修	グループ内の指摘事項を考慮して、制作を進める。	6
10	事前学修	プレゼンテーションの方法について、POLITEの教材で事前学修する。引き続き制作に取り組む。	8
	授業	個別の進捗状況等を確認し、必要に応じてスケジュールを調整する。引き続き制作に取り組む。	
	事後学修	引き続き制作に取り組む。	1
11	事前学修	各自の作業を完了する。	0.5
	授業	成果物を完成させる。	
	事後学修	成果物の利点・欠点などを分析・考察する。	1
12	事前学修	分析結果を基に、今後の展望を考えまとめる。	0.5
	授業	プレゼン資料の作成	
	事後学修	プレゼン資料の作成	4
13	事前学修	発表準備と練習	2.5
	授業	発表練習、成果発表会（前半チーム）	
	事後学修	レビュー結果をまとめる	1
14	事前学修	なし	0.0
	授業	成果発表会（後半チーム）	
	事後学修	レビュー結果をまとめる	1
15	事前学修	なし	0.0
	授業	発表会での質問・コメントをまとめ、必要に応じて対応策を検討する。フィードバックを基に、学外コンテスト等への参加を計画する。チーム内のピアレビューを行う。	
	事後学修	プロジェクトの振り返りレポートを作成する。	3

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：％ ■小テスト：10％ ■レポート：30％ □演習課題：％ ■その他[グループワーク：10％，発表：20％，成果物：30％]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントする。

教科書

参考書・Web サイト	POLITE からリンクまたは告知
単位修得が望ましい科目	難易度の高い科目であり，短期集中で企画からプロトタイピングまでを行うため，各学科の特徴的な専門科目を高いレベルで習得していること。
備考	なし
担当教員の実務経験	担当者の一人は，1993 年から 1996 年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として，総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案，バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また，1998 年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し，新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 担当者の一人は 1989 年より 2006 年までシステムエンジニアとしてプログラムやシステムの設計・開発に従事した。 担当者の一人は，医療法人にて企画職・事務長として法人内の組織管理・企画・運営業務に従事した。 これらの様々な企画立案・開発等の実務経験を生かし，プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え，受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

BI とビッグデータ I Business Intelligence and Big Data 1

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	講義		UWC311	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
現代社会では SNS、ウェブサイトデータ、モノのインターネット(IoT)、センサーによる観測データをはじめとして、多種多様かつ膨大なデータ（いわゆるビッグデータ）が入手可能な環境にある。特に企業では、内外から蓄積されたデータから戦略的な情報を読み取り、経営の意思決定に活用するビジネスインテリジェンス（BI）の発想が重要となる。本講義では、我々が直面する諸問題をビッグデータの分析を通して解決に導くデータサイエンスの見方について、R 環境を用いた計算機の実習を通して修得する。						
授業における学修の到達目標						
1. データサイエンスの基本的な見方や方法を理解し、説明することができる						
2. データの構造に応じた適切な処理や分析を計算機を用いて実践できる						
3. 現実の問題をデータに基づいて客観的に評価し、問題の解決に導くことができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	「ビッグデータ」時代において背景となる IoT の現状、および大規模データを提供する環境の現状について学習する				
	事後学修	1 回目講義の宿題を行う				2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	R 言語で 1 次元データを可視化する技術について学習する				
	事後学修	1 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、2 回目講義の宿題を行う				2.0
3	事前学修	2 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	R 言語で多次元データを可視化する方法について学習する				
	事後学修	2 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、3 回目講義の宿題を行う				2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	観測データの分布の特徴を推定する方法について学習する				
	事後学修	3 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、4 回目講義の宿題を行う				2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	データより相関関係を調べる技術について学習する				
	事後学修	4 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、5 回目講義の宿題を解く				2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	統計モデルとは何かを学習する				

	事後学修	5 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 6 回目講義の宿題を解く	2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	統計モデルの選択指標(AIC)について学習する	
	事後学修	6 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 7 回目講義の宿題を解く	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	線形モデルをデータにあてはめる方法, およびモデルを用いた予測の方法について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 8 回目講義の宿題を解く	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	時系列データとその相関構造について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 9 回目講義の宿題を解く	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	データより周期を推定する方法(スペクトル)について学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 10 回目講義の宿題を解く	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	定常な時系列モデルを用いた予測法について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 11 回目講義の宿題を解く	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	非定常な時系列モデルを用いた予測法について学習する	
	事後学修	11 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 12 回目講義の宿題を解く	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケートデータの分布を可視化する方法を学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 13 回目講義の宿題を解く	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケート分布の差異を調べるための t-検定法について学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 14 回目講義の宿題を解く	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケート分布の差異を調べるための順位検定法について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 15 回目講義の宿題を解き, POLITE で確認する	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			
■宿題：60% ■最終課題：40%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
レポート課題は, 解決のヒント, あるいは解答例を学習ポータル (POLITE) にアップしますので, 確認しながら学習を進め			

てください。解決方法がどうしてもわからない場合には、教員に相談してください。	
教科書	書名：データサイエンス演習 (改訂版), 著者名：甬喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	本科目は学部横断型科目のひとつで、統計や確率の基礎知識を必要とします。「確率・統計Ⅰ」, 「確率・統計Ⅱ」の単位取得が望まれますが、取得していない場合には、関係する科目を並行して学習しながら進めて下さい。
備考	計算機を用いた実習が主体となります。
担当教員の実務経験	企業の研究所に所属し、データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。本講義では、データ科学の基本的な枠組みについて紹介します。統計学や確率論を基礎として、現象をデータを手がかりとして理解していくための科学的な方法を R 言語を通して紹介することとあわせて、企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介したいと思います。

BI とビッグデータ II Business Intelligence and Big Data 2

担当教員	内山 俊郎(117 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	UWC312	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
現代社会では、SNS、ウェブサイトデータ、IoT、センサーデータ等、多種多様かつ膨大なデータ（いわゆるビッグデータ）が入手可能な環境にある。特に企業では、企業内外から蓄積されたデータを、役に立つ情報に変換し、意思決定に活用する手法（BI；ビジネスインテリジェンス）が重要である。本講義では、実データを使った実験や実習を行い、BI やビッグデータに関する理論的フレームワークを学習する。						
授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）を利用して行います。事前学修では教科書だけでなく、POLITE の資料を見て予習してください。						
授業における学修の到達目標						
・ 行動ログデータや文書データについて、どのように表現されるのか（疎行列）を知る。 ・ 解析に必要なベクトル，行列，それらの演算について理解し，プログラム上で使えるようになる。 ・ ナイーブベイズ分類器について理解し，文書データについて適用できるようになる。 ・ 文書についてはクラスタリングと分類，行動ログについてはレコメンド技術について知る。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読んで学習の流れを知り，行列表現，転置，行列操作などについて振り返り，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。				2
	授業	ビッグデータの収集と蓄積がどのように行われているかを理解する。具体例である行動ログデータや文書データがどのようなものであるか，疎行列で表せること，などを知る。講義の流れを知り，最初に確率や対数尤度などの数学的理解が必要なことを知る。				
	事後学修	講義の流れを振り返り，数学に関して理解不足の点があれば，追いつくための学習計画を立てること。				2
2	事前学修	講義資料を見て，確率論と確率モデルについて調べ，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。				2
	授業	講義資料を読んで，確率論と確率モデルについて学び，例題や演習問題に取り組むこと。				
	事後学修	例題や演習問題の結果を実習ノートにまとめること。授業中に解けなかった問題，追加の問題について解くこと。				2
3	事前学修	実験，実習に必要な仮想マシンのダウンロードと使うための準備を行うこと。				2
	授業	フルーツポンチを使ったデータ生成，分類実験を行う。対数事後確率の電卓による計算実習を行う。仮想マシンの使い方と，解析用のプログラムについて知る。				
	事後学修	仮想マシン上でのプログラム実行方法を理解したものは，発展課題であるプログラムによる実験（データ数と分類精度の関係）を行い，実験結果を実習ノートにまとめること。				2
4	事前学修	確率，確率モデル，など解析に必要な数学について振り返り，これまでの演習問題を解くなど小テストに向けた準備をすること。				2
	授業	確率，確率モデル，など解析に必要な数学の理解を求める小テストを実施する。仮想マシンの使い方と，解析用のプログラムについて知る。フルーツポンチの実験に必要なプログラムの説明を受ける。				
	事後学修	小テストの解答と解説を読み，間違えた問題についてやり直し，理解を深めること。発展課題であるプログラムによる実験（データ数と分類精度の関係）を行い，実験結果を実習ノートにまとめるこ				2

		と。	
5	事前学修	行列表現，転置，行列操作などについて振り返り，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	行動ログデータの解析について学ぶ。そのために必要となる疎行列表現について知り，プログラムを使った疎行列作成実習を行う。C++において行列演算ライブラリ eigen を使う方法について学ぶ。	
	事後学修	プログラムを使った疎行列作成実習の結果について実習ノートにまとめること。	2
6	事前学修	ビッグデータの活用事例である行動ログから推薦（オススメ）を行うための技術について，講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	行動ログから推薦（オススメ）を行うための技術について学ぶ。これまでの研究，レコメンドシステムの4つのタスクについて知る。研究に広く用いられている映画に対する評価のデータを使った実験を準備する。	
	事後学修	解析環境がある仮想マシンに，映画に対する評価のデータをダウンロードし，必要な準備を行うこと。	2
7	事前学修	解析環境がある仮想マシンにおいて，行列表現の読み書き，疎行列の読み書きについて，実験に必要な情報を整理しておくこと。	2
	授業	映画の評価データを処理するプログラムの書き方について学ぶ。レコメンドに使う「相関」の意味と，算出方法について学ぶ。実験を行う。	
	事後学修	プログラムと処理のフローチャート（自分の言葉でノートに書くこと）との対応を確認すること。実験結果を実習ノートにまとめること。	2
8	事前学修	レコメンドに使う「相関」の意味と，算出方法について，講義資料や例を見て，自分でも動かして理解すること。	2
	授業	相関をレコメンドに使う考え方を知る。評価の無いデータへの対応，評価の予測値の計算式について知る。	
	事後学修	評価の予測値の計算式について，自分の言葉で実習ノートに書くこと。	2
9	事前学修	相関を使ったユーザベース協調フィルタリング，アイテムベース協調フィルタリングについて，講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	相関を使ったユーザベース協調フィルタリング，アイテムベース協調フィルタリングについて学ぶ。プログラムによる実験を行う。推薦された映画の妥当性について考える。	
	事後学修	実験結果を見て，推薦された映画の妥当性について考えること。	2
10	事前学修	推薦された映画の妥当性について，理由が納得できる，意外であったものなどを探し，実習ノートにまとめること。	2
	授業	推薦結果の評価方法について知る。プログラムによる評価実習を行う。	
	事後学修	プログラムによる評価実習の結果について実習ノートにまとめること。	2
11	事前学修	潜在因子モデルによる推薦について講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	潜在因子モデルによる推薦について学ぶ。プログラムによる実習を行う。レコメンド技術の分類について知る。	
	事後学修	プログラムによる実習の結果について実習ノートにまとめること	2
12	事前学修	文書データの解析について講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	ビッグデータの活用事例である文書データの解析について知る。疎行列で文書データが表せること，データの読み込みについては行動ログと同様であることを理解する。解析用のデータを準備を始める。	
	事後学修	解析用の文書データをダウンロードして展開し，事前処理を行うこと。ストップワードの除去による	2

		影響を調べる実習を行い、結果を実習ノートにまとめること。	
13	事前学修	解析に必要なプログラムやコマンドについて整理しておくこと。	2
	授業	文書データの解析に用いる単語の分布について知り、球面クラスタリングを理解する。プログラムにより球面クラスタリングの実習を行う。	
	事後学修	実習結果を実習ノートにまとめること。	2
14	事前学修	情報理論的クラスタリングについて講義資料を読み、理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	情報理論的クラスタリングについて知る。プログラムにより情報理論的クラスタリングを行う。クラスタリングの評価について学び、評価実験を行う。	
	事後学修	実習結果を実習ノートにまとめること。	2
15	事前学修	競合学習による球面クラスタリングや情報理論的クラスタリングについて講義資料を読み、理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	競合学習による球面クラスタリングや情報理論的クラスタリングを行い、k-means タイプのアルゴリズムとの性能差について実験を行う。	
	事後学修	実験結果を実習ノートにまとめ、実習ノートをレポートとして提出すること。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 25% ■小テスト： 25% ■レポート：20% ■演習課題： 30% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストについては正解を示し解説をすることで、レポートについてはコメントを返すことで行う。

教科書	書名：わかりやすいデータ解析入門（第3版），著者名：内山俊郎，出版社：ムイスリ出版，備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	線形代数Ⅰ・Ⅱ，確率論、統計学
備考	確率と統計および線形代数について，解析に必要な技術について説明するが，一度学習していることを前提としており，これらについて理解度を確かめる小テストを実施する。
担当教員の実務経験	2006 年から 2012 年度まで企業の研究所に所属し，文書データ解析，レコメンダの研究を行うとともに，これら研究の成果を関連事業会社において利用可能なものとする実用化（プロダクト化）を行い，事業会社への技術支援を行った。これら実務において，実用化プロジェクトに関わり，これらの技術を現場において適用する過程を見てきた。これら実務経験を生かす形で，講義の中で示す技術の実応用例などを学生に伝え，技術の先にある現場の様子が想像できるような教育を実施する。

クリエイティブ・マネジメント【再】 Creative Management

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMD302	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
この講義では、デザイナー、クリエイター、プログラマーなどを指すものが将来、ディレクター、プロデューサー、上級SE などへのキャリアステップを踏む上で身につけるべきプロジェクトマネジメント、スケジュール管理、チームビルディング、チームマネジメントなどについて学習する。 大学生活の中で、作ることをひとりではなくチームで行う際、どうすれば成功に結び付けられるのかをみんなで考える。CDIO のフレームワークでは、CDIO の一連の流れに関する管理手法を講義で扱う。 ※この講義はグループでのディスカッションを多く含みます。						
授業における学修の到達目標						
・デザイナーやクリエイターが持つべきマネジメント能力、チームづくりの基本的な知識と考え方を身につける。 ・ディレクターやプロデューサーを目指す上で必要な知識と応用力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義の目的とスケジュールをみしておく				2
	授業	ガイダンス クリエイティブってなに？ 自分は何を武器にする？ →グループディスカッション				
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる				2
2	事前学修	なぜ、情報大を目指したか思い出しておく				2
	授業	情報大生として何を学ぶか？ →グループディスカッション				
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる				2
3	事前学修	PMBOK について調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 2 PMBOK の体系				
	事後学修	他に同じような体系がないか調べてみる				2
4	事前学修	スコープについて調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 3 スコープマネジメント				
	事後学修	スコープの具体例を調べてみる				2
5	事前学修	チームマネジメントについて調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 4 チームマネジメント				
	事後学修	どのような具体例があるか調べてみる				2
6	事前学修	工数とは何か、調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 5 工数計算とタイムマネジメント				

	事後学修	計算問題を行う	2
7	事前学修	工数計算のテストの準備をおこなう	2
	授業	プロジェクトマネジメント 6 工数計算の復習 →小テスト	
	事後学修	小テストの復習	2
8	事前学修	自分がどのようなコミュニケーションツールを使っているかリストしてみる。	2
	授業	プロジェクトマネジメント 7 コミュニケーションマネジメント	
	事後学修	自分であれば、どのようなコミュニケーションツールが最適か考えてみる	2
9	事前学修	どうやったらチームが活性化するか考えてみる	2
	授業	チームビルディング 1 ケース教材：チームが活性化するまでのプロセス →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
10	事前学修	フレームを調べてみる	2
	授業	チームビルディング 2 ケース教材：フレームを作ろう →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
11	事前学修	困ったちゃんとは？調べてみる	2
	授業	チームビルディング 3 ケース教材：困ったちゃんにならないために →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
12	事前学修	どうやったら信頼関係は作れるのだろうか。あるいは、壊れるのかを考えてみる。	2
	授業	チームビルディング 4 ケース教材：信頼関係はどう作る？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
13	事前学修	リーダーとは？リーダーシップとは何かを考えてみる。	2
	授業	チームビルディング 5 ケース教材：リーダーシップってどんなこと？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
14	事前学修	自分が意思を決定する際、どのように決めているのかを思い出してみる	2
	授業	チームビルディング 6 ケース教材：意思決定はどう行う？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
15	事前学修	コミュニケーションツールにはどんな物があるか調べてみる	2
	授業	チームビルディング 7 ケース教材：チームの中のコミュニケーション	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○ テーマ クリエイティブ・ソリューション ○ 概 要 メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。 世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイデア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。 ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通し、CDIO のフレームワークの、Conceive（構想）-Design（設計）-Implement（実行・実装/製作）-Operate（運用・活用）のすべてを講義で扱う。Operate（運用・活用）に関しては、発表や展示だけで終わる場合もある。 ゼミナールⅠでは、課題解決型プロジェクト学習を行う上での基本知識習得とそれを実際に試すトライアル課題を実施します。 ※Adobe Illustrator, Figma, HTML, CSS の知識が必要です。 ※Web やアプリを使ったビジネスや、マーケティングに興味がある学生も歓迎します。 ※デザインが不得手でも、VR、映像、音楽などや、PHP, JavaScript などを得意とする学生も歓迎します。						
授業における学修の到達目標						
1. プロデュース力 リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。 2. クリエイティブ力 デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。 3. マネージメント力 チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。 4. コミュニケーション力 リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。 5. ビジネス力 Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間

1	事前学修	ゼミナールIの趣旨とスケジュールを把握しておく	2
	授業	ガイダンス 課題解決型プロジェクト学習でどのように学んでいくか？	
	事後学修	課題解決型プロジェクト学習の具体例を探してみる	2
2	事前学修	課題解決型プロジェクト学習のメリットとデメリットを考えてみる	2
	授業	課題解決型プロジェクト学習のメリットと落とし穴（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	デメリットに対する対策を考えてみる	2
3	事前学修	コミュニケーションはチームにどう影響するかを考えてみる	2
	授業	グループワークの方法 コミュニケーション（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	どのようにすればゼミナールのチームでのコミュニケーションが活性化するか考えてみる	2
4	事前学修	ガントチャートとタスクリストについて調べてみる	2
	授業	グループワークの方法 スケジュール管理（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	ガントチャートとタスクリストのアプリをスマートフォンにインストールする	2
5	事前学修	クオリティとスケジュールの関係について考えておく	2
	授業	グループワークの方法 クオリティ管理（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	クオリティを上げるにはどのようにすればいいか、考えてみる	2
6	事前学修	ドキュメンテーションするメリットを考えてみる	2
	授業	グループワークの方法 ドキュメンテーション（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	ゼミナールのチームでのドキュメンテーションの具体的なツールを探してみる	2
7	事前学修	チームとグループの違いについて考えておく	2
	授業	チームビルディングの方法 チームとグループの違い（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	チームであるためには何が必要か考えてみる	2
8	事前学修	学生のチームづくりを考えたときにどのような過程を経るのか、紙に書いてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チームの形成プロセス（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	効率的なチームビルディングを行うには何が大切か考えてみる。	2
9	事前学修	チームの活性化するときなどのようなときか、考えてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チームの活性化（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	ゼミナールのチームを活性化させるためには何が大切か、考えてみる	2
10	事前学修	役割分担をすることはどのようなメリットがあるか考えてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チーム内での役割分担（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	自分はゼミでどのような役割を果たせるか、考えてみる	2
11	事前学修	コミットメントとはなにか調べておく	2
	授業	チームビルディングの方法 コミットメントの重要性（講義の後、グループディスカッション）	

	事後学修	学生におけるコミットメントとはどのようなことか、考えてみる	2
12	事前学修	リーダーシップとは何か、考えておく	2
	授業	リーダーとリーダーシップ リーダーシップの形（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	自分のリーダーシップのスタイルを考えてみる	2
13	事前学修	リーダーとは何かを考えてみる	2
	授業	リーダーとリーダーシップ リーダーとは？（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	自分はどのようなリーダーになれるのか、考えてみる	2
14	事前学修	チームのメリットを考えておく	2
	授業	チームで取り組むことのメリット（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	どうしたらメリットを最大化できるか考えてみる	2
15	事前学修	チームのデメリットを考えておく	2
	授業	チームで取り組むことのデメリット（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	デメリットに対する対策を考えてみる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜、指示する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社、IT コンサルティングファームの実務経験をもとに、そこで得た知識、技術、ツールを学生に教える。また、実務時代のネットワークを活用し、学生と外部有識者をつなげ、現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○ テーマ クリエイティブ・ソリューション ○ 概 要 メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。 世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイディア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。 ゼミナールⅡでは、課題解決型プロジェクト学習を行う上での基本知識習得とそれを実際に試すトライアル課題を実施します。 ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通し、CDIO のフレームワークの、Conceive (構想)-Design (設計)-Implement (実行・実装/製作)-Operate (運用・活用) のすべてを講義で扱う。Operate (運用・活用) に関しては、発表や展示だけで終わる場合もある。 ※Adobe Illustrator, Figma, HTML, CSS の知識が必要です。 ※Web やアプリを使ったビジネスや、マーケティングに興味がある学生も歓迎します。 ※デザインが不得手でも、VR, 映像、音楽などや、PHP, JavaScriptなどを得意とする学生も歓迎します。						
授業における学修の到達目標						
1. プロデュース力 リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。 2. クリエイティブ力 デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。 3. マネージメント力 チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。 4. コミュニケーション力 リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。 5. ビジネス力 Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間

1	事前学修	プロジェクト学習について調べておく	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題提起	
	事後学修	課題を読み込み、理解する	2
2	事前学修	課題を読み込み理解する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題の理解と全体での共有 →チーム分け	
	事後学修	同じような課題が他にないか調べてみる	2
3	事前学修	二次調査を行う	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 周辺調査	
	事後学修	二次調査を行う	2
4	事前学修	現地調査・ヒアリングの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング	
	事後学修	現地調査・ヒアリングのまとめ	2
5	事前学修	アイデアをどんどん出してみる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング	
	事後学修	アイデアを整理する	2
6	事前学修	整理したアイデアを俯瞰してみる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューション案絞る	
	事後学修	ソリューション案を掘り下げてみる	2
7	事前学修	ソリューション案を整理する	2
	授業	プロジェクト課題1 ソリューション案を提案書としてまとめる	
	事後学修	提案書の完成度を上げる	2
8	事前学修	プロトタイプの製作順序を考える	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 全体設計を行う	
	事後学修	全体設計の完成度を上げる	2
9	事前学修	詳細設計の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計を行う	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
10	事前学修	詳細設計の完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計の完成度を上げる	

	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
11	事前学修	設計の全体を振り返る	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを作成する	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
12	事前学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプの完成度をあげる	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
13	事前学修	プロトタイプの評価の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを評価する	
	事後学修	プロトタイプの評価をまとめる	2
14	事前学修	プロトタイプの評価をみて、改善点を考えてみる	2
	授業	プレゼンテーションの準備をする	
	事後学修	プレゼンテーションの準備をする	2
15	事前学修	プレゼンテーションの練習をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション 講評と振り返り	
	事後学修	プレゼンテーションを振り返る プロジェクト全体を振り返る	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜、指示する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社、IT コンサルティングファームの実務経験をもとに、そこで得た知識、技術、ツールを学生に教える。また、実務時代のネットワークを活用し、学生と外部有識者をつなげ、現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミナールⅢ では、 道内外の地域等から課題解決型プロジェクト学習の実践課題を用意し、 1 年をかけて実施していきます。 ○ テーマ クリエイティブ・ソリューション ○ 概 要 メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。 世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイディア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。 ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ を通し、CDIO のフレームワークの、Conceive (構想)-Design (設計)-Implement (実行・実装/製作)-Operate (運用・活用) のすべてを講義で扱う。Operate (運用・活用) に関しては、発表や展示だけで終わる場合もある。 ※Adobe Illustrator, Figma, HTML, CSS の知識が必要です。 ※Web やアプリを使ったビジネスや、マーケティングに興味がある学生も歓迎します。 ※デザインが不得手でも、VR、映像、音楽などや、PHP, JavaScriptなどを得意とする学生も歓迎します。						
授業における学修の到達目標						
1. プロデュース力 リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。 2. クリエイティブ力 デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。 3. マネージメント力 チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。 4. コミュニケーション力 リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。 5. ビジネス力 Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間

1	事前学修	ゼミナールⅢの趣旨とスケジュールを把握しておく	2
	授業	ガイダンス 課題解決型プロジェクト学習でどのように学んでいくか？	
	事後学修	ゼミナールⅠとⅡで行った課題解決型プロジェクト学習を振り返ってみる	2
2	事前学修	プロジェクト学習について調べておく	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題提起	
	事後学修	課題を読み込み、理解する	2
3	事前学修	課題を読み込み理解する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題の理解と全体での共有 →チーム分け	
	事後学修	同じような課題が他にないか調べてみる	2
4	事前学修	二次調査をはじめめる	2
	授業	事前の二次調査を行う ネット調査	
	事後学修	二次調査を更に掘り下げる	2
5	事前学修	文献があるか調べる	2
	授業	事前の二次調査を行う 文献調査	
	事後学修	文献を読む	2
6	事前学修	現地調査・ヒアリングの対象を洗い出す	2
	授業	現地調査・ヒアリングの準備を行う	
	事後学修	調査用のツールなどを準備する	2
7	事前学修	調査用のツールなどを準備する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング ステイクホルダー対象	
	事後学修	調査・ヒアリングの結果をまとめる	2
8	事前学修	調査用のツールなどを準備する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング ステイクホルダー以外の周辺調査	
	事後学修	調査・ヒアリングの結果をまとめる	2
9	事前学修	結果からどのような課題が挙げられるか考える	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング 一人でアイデアを出してみる	
	事後学修	アイデアをまとめてみる	2
10	事前学修	グループでのプレストの準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング グループでのアイデア出し	

	事後学修	アイデアをチームでまとめてみる	2
11	事前学修	まとめたアイデアをよく読んでおく	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューション案絞る	
	事後学修	絞ったソリューション案を掘り下げてみる	2
12	事前学修	提案書作成の準備	2
	授業	プロジェクト課題 1 ソリューション案を提案書としてまとめる	
	事後学修	提案書の作成の続き	2
13	事前学修	提案書作成の続き	2
	授業	プロジェクト課題 1 ソリューション案を提案書としてまとめる 提案発表の準備	
	事後学修	発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	プロジェクト課題 1 提案発表会（前半グループ）	
	事後学修	発表の振り返り	2
15	事前学修	発表の準備	2
	授業	プロジェクト課題 1 提案発表会（後半グループ）	
	事後学修	発表の振り返り	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 □試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク]70%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じ適宜、指示する	
単位修得が望ましい科目		ゼミナールⅡ	
備考		PC を所有していることが好ましい。	
担当教員の実務経験		1994 年からの Web 制作会社、IT コンサルティングファームの実務経験をもとに、そこで得た知識、技術、ツールを学生に教える。また、実務時代のネットワークを活用し、学生と外部有識者をつなげ、現場の最新の情報などが得られるようにしている。	

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミナールⅣでは、ゼミナールⅢにつづき、道内外の地域等から課題解決型プロジェクト学習の実践課題を用意し、1 年をかけて実施していきます。 ○ テーマ クリエイティブ・ソリューション ○ 概 要 メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。 世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイディア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。 ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通し、CDIO のフレームワークの、Conceive (構想)-Design (設計)-Implement (実行・実装/製作)-Operate (運用・活用) のすべてを講義で扱う。Operate (運用・活用) に関しては、発表や展示だけで終わる場合もある。 ※Adobe Illustrator, Figma, HTML, CSS の知識が必要です。 ※Web やアプリを使ったビジネスや、マーケティングに興味がある学生も歓迎します。 ※デザインが不得手でも、VR、映像、音楽などや、PHP, JavaScript など得意とする学生も歓迎します。						
授業における学修の到達目標						
1. プロデュース力 リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。 2. クリエイティブ力 デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。 3. マネージメント力 チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。 4. コミュニケーション力 リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。 5. ビジネス力 Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間

1	事前学修	ゼミナールⅢを思い返し、提案書を見直しておく	2
	授業	プロジェクト課題1（ゼミナールⅢのつづき） 提案書振り返り・修正	
	事後学修	提案書を修正する	2
2	事前学修	プロトタイプ製作順序を考える	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 全体設計を行う	
	事後学修	全体設計の完成度を上げる	2
3	事前学修	詳細設計の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計を行う	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
4	事前学修	詳細設計の完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計の完成度を上げる	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
5	事前学修	設計の全体を振り返る	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを作成する	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
6	事前学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプの完成度をあげる	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
7	事前学修	プロトタイプの評価の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを評価する	
	事後学修	プロトタイプの評価をまとめる	2
8	事前学修	プロトタイプの評価を分析する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロトタイプの評価から修正点を洗い出す	
	事後学修	修正点をまとめる	2
9	事前学修	全体設計での修正点をまとめる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 全体設計の見直し	
	事後学修	全体設計の見直し	2

10	事前学修	詳細設計での修正点をまとめる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 詳細設計の見直し	
	事後学修	詳細設計の見直し	2
11	事前学修	開発の準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業 デザイン	
	事後学修	作業を進める	2
12	事前学修	作業を進める	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業 コーディング	
	事後学修	作業を進める	2
13	事前学修	作業を進める	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業 統合作業	
	事後学修	作業を進める	2
14	事前学修	プレゼンテーションの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション（クラスの前半グループ） 講評	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2
15	事前学修	プレゼンテーションの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション（クラスの後半グループ） 講評	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜、指示する
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅢ
備考	PCを所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994年からのWeb制作会社、ITコンサルティングファームの実務経験をもとに、そこで得た知識、技術、ツールを学生に教える。また、実務時代のネットワークを活用し、学生と外部有識

	者とをつなげ、現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ：「データと人、人と人、データとデータとをつなぐ」 コミュニケーション技術としての情報可視化を学ぶ						
○概要						
ビッグデータの時代に、情報メディア技術として求められるものは何であろう？その一つである、情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組んでもらいます。						
（１） データ可視化・分析：様々なデータを使った、目的に応じた可視化手法を構想・設計し,インタラクティブな視覚的情報分析・伝達手法を身に着けることを目指します。グループディスカッションなどを通して課題解決に取り組みます。データとしては、時空間・時系列データ、地理情報データ、ネットワークデータ、スポーツデータ、写真、映画、音楽に関するデータなど様々なものを取り扱います。						
（２） 新たなデバイス用いた情報可視化：AR/VR デバイスなど新しいデバイスを用いた情報可視化手法を提案し開発に取り組みます。						
（３） デジタルアーカイブと可視化：ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築していきます。						
なお、ゼミ内での発表や対外的な発表の機会を通じて、他者からのフィードバックを得ながら、可視化手法やシステムの評価・改善にも取り組みます。						
本格的な開発には Python、C#、JavaScript、Java などを用いますが、初めからすべてを知っている必要はありません。						
授業における学修の到達目標						
（１） 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ財産を身に着けることを目標とします。スキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に付けてもらいます。						
（２） 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とします。						
（３） 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	身につけたい技術、やりたいことを考える				2.0
	授業	ガイダンス、情報共有環境の設定				
	事後学修	情報共有環境を確認する				2.0
2	事前学修	自己紹介プレゼン準備				2.0
	授業	自己紹介プレゼン				
	事後学修	自己紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる				2.0
3	事前学修	Python について基本情報を調べておく				2.0
	授業	データ前処理基礎演習 1（環境と文法）				
	事後学修	演習と課題を提出する				2.0

4	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	データ前処理基礎演習2（データ処理）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
5	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	データ前処理応用演習1（データ分析）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
6	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	データ前処理応用演習2（データ収集）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
7	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	可視化入門・多変量データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
8	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	可視化入門・時間データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
9	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	可視化入門・地理情報データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
10	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	可視化入門・ネットワーク・階層データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
11	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	可視化入門・インタラクション手法（基礎）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
12	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	可視化入門・インタラクション手法（応用）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
13	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	可視化課題制作演習	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
14	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	聴講レポートを提出する	2.0
15	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	可視化課題制作演習発表会	
	事後学修	発表会の結果を反映したレポートを提出する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度および議論へ積極的な参加などゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について、口頭あるいはオンラインで行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Python、Unity+C#、JavaScript、あるいは Processing+Java を用いた開発が必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要な知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC326	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
○テーマ：「データと人、人と人、データとデータとをつなぐ」 コミュニケーション技術としての情報可視化を学ぶ						
○概要						
ビッグデータの時代に、情報メディア技術として求められるものは何であろう？その一つである、情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組んでもらいます。						
(1) データ可視化・分析：様々なデータを使った、目的に応じた可視化手法を構想・設計し、インタラクティブな視覚的情報分析・伝達手法を身に着けることを目指します。グループディスカッションなどを通して課題解決に取り組みます。データとしては、時空間・時系列データ、地理情報データ、ネットワークデータ、スポーツデータ、写真、映画、音楽に関するデータなど様々なものを取り扱います。						
(2) 新たなデバイス用いた情報可視化：AR/VR デバイスなど新しいデバイスを用いた情報可視化手法を提案し開発に取り組みます。						
(3) デジタルアーカイブと可視化：ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築していきます。						
なお、ゼミ内での発表や対外的な発表の機会を通じて、他者からのフィードバックを得ながら、可視化手法やシステムの評価・改善にも取り組みます。						
本格的な開発には Python、C#、JavaScript、Java などを用いますが、初めからすべてを知っている必要はありません。						
授業における学修の到達目標						
(1) 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とします。スキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に着けてもらいます。						
(2) 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とします。						
(3) 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	プレゼンテーションに関する参考資料の予習				2.0
	授業	プレゼンテーション講習				
	事後学修	プレゼンテーション講習資料の復習				2.0
2	事前学修	論文サーベイに関する参考資料の予習				2.0
	授業	論文サーベイ講習				
	事後学修	論文サーベイ講習資料の復習				2.0
3	事前学修	前週までの内容を復習する				2.0
	授業	インタフェース技術演習・Unity をつかった UI				
	事後学修	演習と課題を提出する				2.0
4	事前学修	前週の内容を復習する				2.0

	授業	インタフェース技術演習・Unityをつかった可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
5	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	インタフェース技術演習・UnityをつかったAR／VR	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
6	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	インタフェース技術演習・Processing 入門	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
7	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	インタフェース技術演習・Processing による画像処理	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
8	事前学修	前週の内容を復習する	2.0
	授業	インタフェース技術演習・Processing による可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
9	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2.0
	授業	技術紹介プレゼン（情報可視化）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2.0
10	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2.0
	授業	技術紹介プレゼン（ユーザインタフェース）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2.0
11	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2.0
	授業	技術紹介プレゼン（データ工学）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2.0
12	事前学修	文章執筆環境設定	2.0
	授業	技術文章の書き方演習	
	事後学修	演習と課題を提出する	2.0
13	事前学修	卒研の企画について検討する	2.0
	授業	卒研企画検討	
	事後学修	検討内容をレポートにまとめる	2.0
14	事前学修	卒研企画書プレゼンの準備	2.0
	授業	卒研企画書プレゼン	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2.0
15	事前学修	卒研発表会のプログラム確認	2.0
	授業	卒業研究発表会の聴講	
	事後学修	聴講内容をレポートにまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他[課題・レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度および議論への積極的な参加などゼミ内での活動・貢献等(20%)]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について、口頭あるいはオンラインで行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Unity + C#、Python、 JavaScript、あるいは Tableau を用いた開発が必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要な知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ						
(1) 情報可視化に関する研究開発						
(2) ユーザインタフェースに関する研究開発						
(3) データ工学に関する研究開発						
○概要						
情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組む。可視化技術、AR/VRなどを用いた新しいユーザインタフェース技術の研究開発を行う。また、ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築する。最終的な研究成果は論文としてまとめ、発表を通じて評価を受ける。						
授業における学修の到達目標						
(1) 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とするスキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に着ける。						
(2) 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とする。						
(3) 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナールⅡの全体の内容を把握する				2.0
	授業	ゼミナールⅡの概要				
	事後学修	ゼミナールⅡの全体の内容について整理する				2.0
2	事前学修	プレゼンテーションの復習として「自己紹介のスライド」を作成				2.0
	授業	プレゼンテーションの復習				
	事後学修	発表の良かった点・改善できそうな点をまとめる				2.0
3	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる				2.0
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（情報可視化）				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2.0
4	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる				2.0
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（ユーザインタフェース）				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2.0
5	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる				2.0
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（データ工学）				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2.0
6	事前学修	卒研テーマの目的の設定について報告資料をまとめる				2.0
	授業	卒研テーマの目的の設定				

	事後学修	卒研テーマの目的の設定についてレポートにまとめる	2.0
7	事前学修	システム概要を発表の前までにまとめる	2.0
	授業	実装するシステムの概要（情報可視化、ユーザインタフェース）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
8	事前学修	システム概要について発表の前までにまとめる	2.0
	授業	実装するシステムの概要（情報可視化、データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
9	事前学修	実装内容について発表の前までにまとめる	2.0
	授業	プロトタイプ実装の進捗（情報可視化、ユーザインタフェース）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
10	事前学修	実装内容について発表の前までにまとめる	2.0
	授業	プロトタイプ実装の進捗（情報可視化、データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
11	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2.0
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2.0
12	事前学修	企画発表会での発表資料を作成する	2.0
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（1回目）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
13	事前学修	企画発表会での発表資料を作成する	2.0
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（2回目）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
14	事前学修	企画発表会での発表について準備する	2.0
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
15	事前学修	発表会での発表に関して報告資料としてまとめる	2.0
	授業	発表会に関する報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度および議論への積極的な参加などゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について、口頭あるいはオンラインで行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ、情報メディアのデータ処理
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Unity + C#、Python、 JavaScript、 Tableau を用いた開発を前提とするが、個別に指導する予定である。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験が

	ある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要となる知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC409	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ						
(1) 情報可視化に関する研究開発						
(2) ユーザインタフェースに関する研究開発						
(3) データ工学に関する研究開発						
○概要						
情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組む。可視化技術、AR/VRなどを用いた新しいユーザインタフェース技術の研究開発を行う。また、ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築する。最終的な研究成果は論文としてまとめ、発表を通じて評価を受ける。						
授業における学修の到達目標						
(1) 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とするスキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に着ける。						
(2) 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とする。						
(3) 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	文章の書き方に関する資料を復習する				2.0
	授業	卒研発表会の発表資料の準備の仕方				
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方について復習する				2.0
2	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめる				2.0
	授業	実験・評価方法（情報可視化、ユーザインタフェース）				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2.0
3	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめる				2.0
	授業	実験・評価方法（情報可視化、データ工学）				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2.0
4	事前学修	実験・評価の進捗資料をまとめる				2.0
	授業	評価実験の進捗（情報可視化、ユーザインタフェース）				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2.0
5	事前学修	実験・評価の進捗資料をまとめる				2.0
	授業	評価実験の進捗（情報可視化、データ工学）				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2.0
6	事前学修	プロトタイプ追加機能について資料をまとめる				2.0
	授業	評価実験に基づいたプロトタイプ追加機能の検討				

	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
7	事前学修	プロトタイプ追加機能の実装報告資料をまとめる	2.0
	授業	評価実験に基づいたプロトタイプ追加機能の実装報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2.0
8	事前学修	卒業論文の目次構成構想をまとめる	2.0
	授業	卒業論文の構成の議論	
	事後学修	議論内容を基に、目次を完成させ、小論執筆を開始	2.0
9	事前学修	小論の見直し	2.0
	授業	小論の相互チェック（1回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2.0
10	事前学修	小論の見直し	2.0
	授業	小論の相互チェック（2回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2.0
11	事前学修	卒研発表会の成果物の準備をする	2.0
	授業	卒研発表会の成果物の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2.0
12	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備をする	2.0
	授業	卒研発表会の発表資料の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2.0
13	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（1回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2.0
14	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（2回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2.0
15	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（3回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度および議論への積極的な参加などゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について、口頭あるいはオンラインで行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Unity + C#、Python、 JavaScript、 Tableau を用いた開発を前提とするが、個別に指導する予定である。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験が

	ある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要となる知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○概要 アニメーションや 3DCG, ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて, 新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか, 誰が求めているのか, どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し, コンテンツを企画・制作することで, モノ作りの知識や技術を学びます。また, 制作したコンテンツを発表する機会を重要視するので, 魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。 ○テーマ アニメーション, 3DCG, デジタルゲーム制作, エンターテインメント, 地方発信						
授業における学修の到達目標						
・制作するテーマを自ら設定し, その企画の良さを伝える ・企画したコンテンツを制作し, 進捗を発表する ・教員やゼミ生からの助言を分析し, 問題点を解決する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自己紹介のプレゼン資料を用意する				2.0
	授業	・ガイダンス（前期の活動の説明） ・自己紹介（1 人あたり 4 分, 質疑応答 3 分）				
	事後学修	今後のゼミ活動の計画を立てる				2.0
2	事前学修	前期課題制作の準備をする				2.0
	授業	前期課題制作のテーマ発表 1（1 人あたり 5 分, 質疑応答 3 分）				
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する				2.0
3	事前学修	前期課題制作の準備をする				2.0
	授業	前期課題制作のテーマ発表 2（1 人あたり 5 分, 質疑応答 3 分）				
	事後学修	前期課題のテーマを確定する				2.0
4	事前学修	発表会の準備をする				2.0
	授業	前期課題の中間発表会 1（1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する				2.0
5	事前学修	発表会の準備をする				2.0
	授業	前期課題の中間発表会 2（1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に改善点をまとめる				2.0
6	事前学修	プロトタイプの制作				2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 1（1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分）、プリプロダクション終了				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
7	事前学修	プロトタイプの制作				2.0

	授業	プロトタイプに進捗報告 2 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
8	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 3 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)、 α 版の発表	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
9	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 4 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
10	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 5 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)、 β 版の発表	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
11	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	前期課題ゼミ内発表会 1 (1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	前期課題ゼミ内発表会 2 (1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	卒業研究企画発表会のプログラムを確認する	2.0
	授業	卒業研究企画発表会 1 の聴講	
	事後学修	レポート提出	2.0
14	事前学修	卒業研究企画発表会のプログラムを確認する	2.0
	授業	卒業研究企画発表会 2 の聴講	
	事後学修	レポート提出	2.0
15	事前学修	夏休み期間のスケジュールを検討する	2.0
	授業	夏休み期間のスケジュール発表 (1 人あたり 10 分)	
	事後学修	前期を振り返り, やり忘れたことがあれば夏休み期間に終わらせておく	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け, それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ, 適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習, アニメーション演習, ゲーム CG 演習, 3DCG 演習, ゲーム制作プロジェクト, 映像制作プロジェクト
備考	3・4 年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社での実務経験を元に, 実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC326	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
○概要 アニメーションや 3DCG，ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて，新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか，誰が求めているのか，どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し，コンテンツを企画・制作することで，モノ作りの知識や技術を学びます。また，制作したコンテンツを発表する機会を重要視するので，魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。 ○テーマ アニメーション，3DCG，デジタルゲーム制作，エンターテインメント，地方発信						
授業における学修の到達目標						
・制作するテーマを自ら設定し，その企画の良さを伝える ・企画したコンテンツを制作し，進捗を発表する ・教員やゼミ生からの助言を分析し，問題点を解決する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	夏休み中に企画やプロトタイプを改善し，ここまでの成果を発表する準備を行う				2.0
	授業	・ガイダンス（後期の活動の説明） ・ここまでの進捗報告（1 人あたり 3 分，質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に今後の制作スケジュール全体を見直す				2.0
2	事前学修	後期課題制作の準備をする				2.0
	授業	後期課題制作のテーマ発表 1（1 人あたり 5 分，質疑応答 3 分）				
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する				2.0
3	事前学修	後期課題制作の準備をする				2.0
	授業	後期課題制作のテーマ発表 2（1 人あたり 5 分，質疑応答 3 分）				
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する				2.0
4	事前学修	発表会の準備をする				2.0
	授業	前期課題の中間発表会 1（1 人あたり 4 分，質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に改善点をまとめる				2.0
5	事前学修	発表会の準備をする				2.0
	授業	前期課題の中間発表会 2（1 人あたり 4 分，質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に改善点をまとめる				2.0
6	事前学修	プロトタイプの制作				2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 1（1 人あたり 3 分，質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
7	事前学修	プロトタイプの制作				2.0

	授業	プロトタイプに進捗報告 2 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
8	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 3 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
9	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 4 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
10	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 5 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
11	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	後期課題ゼミ内発表会 1 (1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	後期課題ゼミ内発表会 2 (1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	卒研テーマの準備	2.0
	授業	卒研テーマの発表 1 (1 人あたり 5 分, 質疑応答 3 分)	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0
14	事前学修	卒研テーマの準備	2.0
	授業	卒研テーマの発表 2 (1 人あたり 5 分, 質疑応答 3 分)	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0
15	事前学修	卒研テーマの準備	2.0
	授業	卒研テーマの発表 3 (1 人あたり 5 分, 質疑応答 3 分)	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け、それに対しアドバイスをを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習, アニメーション演習, ゲーム CG 演習, 3DCG 演習, ゲーム制作プロジェクト, 映像制作プロジェクト
備考	3・4 年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社での実務経験を元に、実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○概要 アニメーションや 3DCG, ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて, 新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか, 誰が求めているのか, どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し, コンテンツを企画・制作することで, モノ作りの知識や技術を学びます。また, 制作したコンテンツを発表する機会を重要視するので, 魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。 ○テーマ アニメーション, 3DCG, デジタルゲーム制作, エンターテインメント, 地方発信						
授業における学修の到達目標						
・制作するテーマを自ら設定し, その企画の良さを伝える ・企画したコンテンツを制作し, 進捗を発表する ・教員やゼミ生からの助言を分析し, 問題点を解決する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	卒研企画発表会の準備				2.0
	授業	・ガイダンス（前期の活動の説明） ・ゼミ内卒研企画発表会（1 人あたり 4 分, 質疑応答 3 分）				
	事後学修	今後のゼミ活動の計画を立てる				2.0
2	事前学修	卒業研究のために先行研究リサーチ				2.0
	授業	卒業研究のためのリサーチ報告 1（1 人あたり 5 分, 質疑応答 3 分）				
	事後学修	追加リサーチ				2.0
3	事前学修	卒業研究のために先行研究リサーチ				2.0
	授業	卒業研究のためのリサーチ報告 2（1 人あたり 5 分, 質疑応答 3 分）				
	事後学修	卒業研究のテーマを確定する				2.0
4	事前学修	ゼミ内中間発表会の準備				2.0
	授業	ゼミ内中間発表会 1（1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
5	事前学修	ゼミ内中間発表会の準備				2.0
	授業	ゼミ内中間発表会 2（1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
6	事前学修	プロトタイプの制作				2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 1（1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
7	事前学修	プロトタイプの制作				2.0

	授業	プロトタイプに進捗報告 2 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
8	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 3 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
9	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 4 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
10	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプに進捗報告 5 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
11	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	ゼミ内発表会 (1 人あたり 4 分, 質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	小論文作成の準備	2.0
	授業	小論文の作成	
	事後学修	校正および教員のチェック	2.0
13	事前学修	卒研企画発表会の準備をする	2.0
	授業	卒研企画発表会 1 (複数ゼミ合同の発表会)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
14	事前学修	卒研企画発表会の準備をする	2.0
	授業	卒研企画発表会 2 (複数ゼミ合同の発表会)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	夏休み期間のスケジュールを検討する	2.0
	授業	卒研企画発表会の振り返りと夏休み期間のスケジュールを発表する (1 人あたり 10 分)	
	事後学修	前期を振り返り, やり忘れたことがあれば夏休み期間に終わらせておく	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験: % □小テスト: % □レポート: % ■演習課題: 80% ■その他[プレゼンテーション: 20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け, それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習, アニメーション演習, ゲーム CG 演習, 3DCG 演習, ゲーム制作プロジェクト, 映像制作プロジェクト
備考	3・4 年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社での実務経験を元に, 実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC409	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○概要 アニメーションや 3DCG, ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて, 新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか, 誰が求めているのか, どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し, コンテンツを企画・制作することで, モノ作りの知識や技術を学びます。また, 制作したコンテンツを発表する機会を重要視するので, 魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。						
○テーマ アニメーション, 3DCG, デジタルゲーム制作, エンターテインメント, 地方発信						
授業における学修の到達目標						
・制作するテーマを自ら設定し, その企画の良さを伝える ・企画したコンテンツを制作し, 進捗を発表する ・教員やゼミ生からの助言を分析し, 問題点を解決する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	夏休み中に企画やプロトタイプを改善し, ここまでの成果を発表する準備を行う				2.0
	授業	・ガイダンス (後期の活動の説明) ・ここまでの進捗報告 (1 人あたり 3 分, 質疑応答 5 分)				
	事後学修	助言を元に今後の制作スケジュール全体を見直す				2.0
2	事前学修	作品の制作を行う				2.0
	授業	ここまでの進捗報告 (進捗 30%)				
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う				2.0
3	事前学修	作品の制作を行う				2.0
	授業	ここまでの進捗報告 (進捗 40%)				
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う				2.0
4	事前学修	作品の制作を行う				2.0
	授業	ここまでの進捗報告 (進捗 50%)				
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う				2.0
5	事前学修	発表会の準備				2.0
	授業	ゼミ内中間発表会 1 (1 人あたり 8 分, 質疑応答 5 分)				
	事後学修	助言を元にスケジュールの見直し				2.0
6	事前学修	発表会の準備				2.0
	授業	ゼミ内中間発表会 2 (1 人あたり 8 分, 質疑応答 5 分)				
	事後学修	助言を元にスケジュールの見直し				2.0
7	事前学修	作品の制作を行う				2.0

	授業	ここまでの進捗報告（進捗 60%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
8	事前学修	作品の制作を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 70%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
9	事前学修	作品の制作を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 80%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
10	事前学修	作品の制作を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 90%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
11	事前学修	発表会の準備	2.0
	授業	ゼミ内卒研発表会 1（1 人あたり 8 分，質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	発表会の準備	2.0
	授業	ゼミ内卒研発表会 2（1 人あたり 8 分，質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	小論文作成の準備	2.0
	授業	小論文の指導	
	事後学修	小論文の修正	2.0
14	事前学修	卒業研究発表会の準備，発表練習をする	2.0
	授業	卒業研究発表会の展示準備 1	
	事後学修	ここまですを振り返り，問題があれば修正する	2.0
15	事前学修	卒業研究発表会の準備，発表練習をする	2.0
	授業	卒業研究発表会の展示準備 2	
	事後学修	ここまですを振り返り，問題があれば修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け，それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ，適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習，アニメーション演習，ゲーム CG 演習，3DCG 演習，ゲーム制作プロジェクト，映像制作プロジェクト
備考	3・4 年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社での実務経験を元に，実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
興味あるテーマについて調査し、それらをプレゼンテーションにまとめて発表する。また、Python を用い、データを統計処理、解釈し、発表する。						
授業における学修の到達目標						
・ 様々なデータを統計処理し、グラフを作成できる ・ 調査結果を分かりやすくプレゼンできる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	興味あるテーマ1について調査する				2
	授業	テーマ1を報告する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
2	事前学修	興味あるテーマ2について調査する				2
	授業	テーマ2を報告する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
3	事前学修	論文1を読み、まとめる				2
	授業	論文1を紹介する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
4	事前学修	論文2を読み、まとめる				2
	授業	論文2を紹介する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
5	事前学修	論文3を読み、まとめる				2
	授業	論文3を紹介する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
6	事前学修	Python をインストールする				2
	授業	簡単な計算を実行する				
	事後学修	プログラムを再確認する				2
7	事前学修	前回の復習をする				2
	授業	画面に文字を表示する				
	事後学修	プログラムを再確認する				2
8	事前学修	前回の復習をする				2
	授業	ファイルの読み込みを行う				
	事後学修	プログラムを再確認する				2
9	事前学修	前回の復習をする				2
	授業	変数・データ型について学習する				

	事後学修	プログラムを再確認する	2
10	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	リストについて学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
11	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	条件分岐について学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
12	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	繰り返しについて学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
13	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	import について学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
14	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	実データの解析を行う	
	事後学修	解析結果をまとめる	2
15	事前学修	プレゼン資料を用意する	2
	授業	解析結果を発表する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[成果発表 60%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミのコメントを通じて行う

教科書	
参考書・Web サイト	授業時に指示する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	通算で4年間システムエンジニアとして、IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
Arduino, Raspberry Pi 等を用いて, センサーを開発し, IoT 機器の基礎を学ぶ. 開発したセンサーを用いて, 身近な環境データを収集する.						
授業における学修の到達目標						
・ 自らのアイデアで IoT 機器を開発できる. ・ 製作した IoT 機器についてプレゼンテーションで適切に紹介できる.						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミでの活動について調べる				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	ガイダンスを聞いて, 製作するセンサーの概要を考える				2
2	事前学修	LED を点灯させる方法を調べる				2
	授業	LED の点灯				
	事後学修	LED 点灯の応用を考える				2
3	事前学修	温度センサーの使用方法を調べる				2
	授業	温度センサーを使った気温計測				
	事後学修	温度センサー利用の応用を考える				2
4	事前学修	サーボモータについて調べる				2
	授業	半固定抵抗を用いたサーボモータの制御				
	事後学修	サーボモータ利用の応用を考える				2
5	事前学修	Cds セルについて調べる				2
	授業	Cds セルを用いた明るさの計測				
	事後学修	Cds セルの応用を考える				2
6	事前学修	スイッチについて調べる				2
	授業	スイッチを用いたキーボードの製作				
	事後学修	スイッチの応用を考える				2
7	事前学修	モーターについて調べる				2
	授業	モーターの制御				
	事後学修	モーター利用の応用を考える				2
8	事前学修	圧電スピーカについて調べる				2
	授業	圧電スピーカを用いた音声信号の取得				
	事後学修	圧電スピーカの応用を考える				2
9	事前学修	傾斜スイッチについて調べる				2
	授業	傾斜スイッチを利用				

	事後学修	傾斜スイッチの応用を考える	2
10	事前学修	データ処理に必要な数学について調べる	2
	授業	データ処理方法	
	事後学修	データ処理に必要な数学の復習をする	2
11	事前学修	計測したい環境を決める	2
	授業	計測対象の調査	
	事後学修	調査対象についてまとめる	2
12	事前学修	これまでの授業で製作したセンサーを用意する	2
	授業	センサーの処理回路を製作	
	事後学修	センサーの動作を確認する	2
13	事前学修	これまでの授業で製作したセンサーを用意する	2
	授業	センサーを用いた計測	
	事後学修	計測結果をまとめる	2
14	事前学修	処理方法を事前に調査する	2
	授業	データ処理実践	
	事後学修	取得できたデータをグラフにまとめる	2
15	事前学修	プレゼン資料を用意する	2
	授業	計測結果を発表する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[成果発表 60 %]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミでの議論，レポートの添削を通して，学生にフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	授業で指示する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	発表の内容だけではなく，ゼミ内での活動，貢献等を総合的に評価する。
担当教員の実務経験	通算で4年間，システムエンジニアとして，IT企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
IoT, 宇宙, 自然現象データ等を題材とした調査研究を実施する. その研究内容を人前でプレゼンテーションし, ディスカッションし, 他の人に自分の考えを伝えるトレーニングを行う.						
授業における学修の到達目標						
・ 調査, 研究の基本を身に付ける ・ 自分の主張を分かりやすく説明できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナールⅢの全体の内容を把握する				2
	授業	ゼミナールⅢの概要				
	事後学修	ゼミナールⅢの全体の内容について整理する				2
2	事前学修	研究内容概要についてのプレゼンテーションを用意する				2
	授業	研究内容概要について発表する				
	事後学修	指摘されたことをまとめる				2
3	事前学修	指摘されたことを踏まえたプレゼンテーションを用意する				2
	授業	研究内容概要について発表する				
	事後学修	指摘されたことをまとめる				2
4	事前学修	先行研究を調査する				2
	授業	先行研究を発表する				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
5	事前学修	質疑を踏まえ, 先行研究を再調査する				2
	授業	先行研究を発表する				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
6	事前学修	研究目的をまとめる				2
	授業	研究目的を発表する				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
7	事前学修	質疑を踏まえ, 研究目的をまとめる				2
	授業	研究目的を発表する				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
8	事前学修	これまでの発表を踏まえ, データ解析, 実装を行う				2
	授業	データ解析, 実装の発表を行う				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
9	事前学修	指摘を踏まえ, データ解析, 実装を行う				2
	授業	データ解析, 実装の発表を行う				

	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
10	事前学修	指摘を踏まえ、データ解析、実装を行う	2
	授業	データ解析、実装の発表を行う	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
11	事前学修	指摘を踏まえ、データ解析、実装を行う	2
	授業	データ解析、実装の発表を行う	
	事後学修	指摘を踏まえ、データ解析、実装を行う	2
12	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会での発表資料を作成す	2
13	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会リハーサル	
	事後学修	企画発表会発表資料を修正する	2
14	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会	
	事後学修	質疑についてまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関して報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告を行う	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション 60%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業ごとに口頭、POLITE、Slack でフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業で提示する
単位修得が望ましい科目	プログラミング系科目
備考	特になし
担当教員の実務経験	通算で4年間システムエンジニアとして、IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
IoT, 宇宙, 自然現象データ等を題材とした調査研究を実施する. その研究内容を人前でプレゼンテーションし, ディスカッションし, 他の人に自分の考えを伝えるトレーニングを行う. また, それらを卒業研究論文としてまとめ, 書く力を身に付ける.						
授業における学修の到達目標						
・ 調査, 研究の基本を身に付ける ・ 自分の主張を分かりやすく説明できる ・ 文章を通じて自分の主張を論述できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナールⅣの全体の内容を把握する				2
	授業	ゼミナールⅣの概要				
	事後学修	ゼミナールⅣの全体の内容について整理する				2
2	事前学修	実験・評価方法について検討する				2
	授業	実験・評価方法を議論する				
	事後学修	議論内容を整理する				2
3	事前学修	実験・評価方法について検討する				2
	授業	実験・評価方法を議論する				
	事後学修	議論内容を整理する				2
4	事前学修	実験・評価を行う				2
	授業	実験・評価結果を発表する				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2
5	事前学修	評価結果を踏まえ, データ解析, 実装を行う				2
	授業	修正点を報告する				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2
6	事前学修	評価結果を踏まえ, データ解析, 実装を行う				2
	授業	修正点を報告する				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2
7	事前学修	評価結果を踏まえ, データ解析, 実装を行う				2
	授業	修正点を報告する				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2
8	事前学修	卒業論の構成を考える				2
	授業	卒業論の構成を議論する				
	事後学修	議論を踏まえ, 目次を完成させる				2

9	事前学修	小論を執筆する	2
	授業	小論をチェックする	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
10	事前学修	小論を見直す	2
	授業	修正された小論をチェックする	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
11	事前学修	卒業研究発表に向け、解析結果・製作物をまとめる	2
	授業	解析結果・製作物を紹介する	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整し、小論を提出する	2
12	事前学修	卒業研究発表会の準備をする	2
	授業	卒業研究発表会のリハーサルを行う	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
13	事前学修	卒業研究発表会の準備をする	2
	授業	卒業研究発表会のリハーサルを行う	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
14	事前学修	卒業研究発表会の準備をする	2
	授業	卒業研究発表会で発表する	
	事後学修	質疑についてまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関して報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告を行う	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション 60%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業ごとに口頭、POLITE、Slack でフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業で提示する
単位修得が望ましい科目	プログラミング系科目
備考	特になし
担当教員の実務経験	通算で4年間システムエンジニアとして、IT企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
【テーマ】 サービスデザイン・イノベーション 【概要】 企業や地域・官公庁等と協働して、コンテンツ開発による課題解決を行います。 学生はチームを結成し、半年～1 年間のプロジェクト活動として取り組みます。 プロジェクトは、デザイン思考 (Design Thinking) のプロセスに則って、共感（問題の発見），定義，概念化（企画立案・提案），試作，テストを繰り返し行いながら、制作・実装・評価・改善を行います。 開発コンテンツは、Web サイトを中心に、映像，音楽，グラフィック，パッケージ，3DCG 等を想定しており，所属学生のスキルやプロジェクトの内容に準じて決定します。						
授業における学修の到達目標						
<前に踏み出す力> 一定の行動について，主体的に取り組み，周囲に働きかけて巻き込むことができ，目的を持って行動することができる。 <考え抜く力> 課題を発見し，見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ，その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。 <チームで働く力> 他の学生の意見をしっかりと傾聴でき，お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ，反対意見に対しても柔軟に対応することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの趣旨・スケジュールを把握する				2
	授業	ガイダンス・シラバスの説明				
	事後学修	説明内容をまとめる				2
2	事前学修	プロジェクトとは何かを考える				2
	授業	プロジェクト型学習の解説				
	事後学修	プロジェクト型学習についてまとめる				2
3	事前学修	円滑なコミュニケーションについて考える				2
	授業	コミュニケーションの方法に関する解説・実践（コンセンサスゲーム）				
	事後学修	コミュニケーションについてまとめる				2
4	事前学修	発想法・思考法について調べてリストアップする				2
	授業	さまざまな発想法・思考法の解説				
	事後学修	授業で取り上げた発想法・思考法についてまとめる				2
5	事前学修	前回の授業の内容を整理し，挑戦する発想法・思考法を選ぶ				2

	授業	さまざまな発想法・思考法の実践	
	事後学修	気に入った発想法・思考法を見つけて、自分のテーマでもう一度実践する	2
6	事前学修	リーダーシップについて調べる	2
	授業	リーダーシップの解説	
	事後学修	リーダーシップについてまとめる	2
7	事前学修	プロジェクト活動に役立つツールについて調べる	2
	授業	プロジェクト活動に必要なツールの操作方法・情報共有方法の解説	
	事後学修	情報共有の重要性についてまとめる	2
8	事前学修	協調性・協働性について調べる	2
	授業	協調性・協働性の解説	
	事後学修	協調性・協働性についてまとめる	2
9	事前学修	連携先の企業・官公庁のことを調べる	2
	授業	連携先の企業・官公庁との顔合わせ・ヒアリング	
	事後学修	ヒアリングした内容をまとめる	2
10	事前学修	収集した情報から問題を発見する	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
11	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
12	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
13	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションのまとめ・資料づくり	
	事後学修	作成した資料の修正点を見つける	2
14	事前学修	資料を修正する	2
	授業	<共感（問題の発見）> 問題点に関する中間発表	
	事後学修	これまでの振り返りを行い、反省点をまとめる。	2
15	事前学修	前回の内容を確認する	2
	授業	<共感（問題の発見）> 中間発表に対するフィードバック	
	事後学修	フィードバックで指摘を受けた点について、今後の対策を練る	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク] 70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、授業内でフィードバックを行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC303	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
【テーマ】 サービスデザイン・イノベーション 【概要】 企業や地域・官公庁等と協働して、コンテンツ開発による課題解決を行います。 学生はチームを結成し、半年～1 年間のプロジェクト活動として取り組みます。 プロジェクトは、デザイン思考 (Design Thinking) のプロセスに則って、共感（問題の発見），定義，概念化（企画立案・提案），試作，テストを繰り返し行いながら，制作・実装・評価・改善を行います。 開発コンテンツは，Web サイトを中心に，映像，音楽，グラフィック，パッケージ，3DCG 等を想定しており，所属学生のスキルやプロジェクトの内容に準じて決定します。						
授業における学修の到達目標						
<前に踏み出す力> 一定の行動について，主体的に取り組み，周囲に働きかけて巻き込むことができ，目的を持って行動することができる。 <考え抜く力> 課題を発見し，見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ，その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。 <チームで働く力> 他の学生の意見をしっかりと傾聴でき，お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ，反対意見に対しても柔軟に対応することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの趣旨・スケジュールを把握する				2
	授業	ガイダンス・シラバスの説明				
	事後学修	説明内容をまとめる				2
2	事前学修	デザイン思考の特徴を調べる				2
	授業	デザイン思考の解説				
	事後学修	デザイン思考を自分の言葉で説明できるよう，まとめる				2
3	事前学修	問題の発見に関する資料を見直す				2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して，抽出した問題点に対する解決策を見つける				
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる				2
4	事前学修	議事録を確認して，内容を思い出す				2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して，抽出した問題点に対する解決策を見つける				
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる				2

5	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
6	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
7	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
8	事前学修	担当ページの作成を進める	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
9	事前学修	担当ページの作成を進める	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
10	事前学修	良いプレゼンテーションの事例を、YouTube からみつける	2
	授業	プレゼンテーションの解説	
	事後学修	プレゼンテーションについてまとめる	2
11	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションの練習	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
12	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションの練習	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
13	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションのリハーサル	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
14	事前学修	資料に修正点がないかを最終確認する	2
	授業	連携企業・官公庁へのプレゼンテーション	
	事後学修	質問内容についてまとめる	2
15	事前学修	質問内容について確認する	2
	授業	プレゼンテーションに対するフィードバック	
	事後学修	フィードバックで指摘を受けた点について、今後の対策を練る	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク] 70%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			

その都度、授業内でフィードバックを行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
【テーマ】 サービスデザイン・イノベーション 【概要】 企業や地域・官公庁等と協働して、コンテンツ開発による課題解決を行います。 学生はチームを結成し、半年～1 年間のプロジェクト活動として取り組みます。 プロジェクトは、デザイン思考 (Design Thinking) のプロセスに則って、共感（問題の発見），定義，概念化（企画立案・提案），試作，テストを繰り返し行いながら，制作・実装・評価・改善を行います。 開発コンテンツは，Web サイトを中心に，映像，音楽，グラフィック，パッケージ，3DCG 等を想定しており，所属学生のスキルやプロジェクトの内容に準じて決定します。						
授業における学修の到達目標						
<前に踏み出す力> 一定の行動について，主体的に取り組み，周囲に働きかけて巻き込むことができ，目的を持って行動することができる。 <考え抜く力> 課題を発見し，見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ，その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。 <チームで働く力> 他の学生の意見をしっかりと傾聴でき，お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ，反対意見に対しても柔軟に対応することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅢの趣旨・スケジュールを把握する				2
	授業	ガイダンス・シラバスの説明				
	事後学修	説明内容をまとめる				2
2	事前学修	プロジェクトとは何かを考える				2
	授業	プロジェクト型学習の解説				
	事後学修	プロジェクト型学習についてまとめる				2
3	事前学修	円滑なコミュニケーションについて考える				2
	授業	コミュニケーションの方法に関する解説・実践（コンセンサスゲーム）				
	事後学修	コミュニケーションについてまとめる				2
4	事前学修	発想法・思考法について調べてリストアップする				2
	授業	さまざまな発想法・思考法の解説				
	事後学修	授業で取り上げた発想法・思考法についてまとめる				2
5	事前学修	前回の授業の内容を整理し，挑戦する発想法・思考法を選ぶ				2

	授業	さまざまな発想法・思考法の実践	
	事後学修	気に入った発想法・思考法を見つけて、自分のテーマでもう一度実践する	2
6	事前学修	リーダーシップについて調べる	2
	授業	リーダーシップの解説	
	事後学修	リーダーシップについてまとめる	2
7	事前学修	プロジェクト活動に役立つツールについて調べる	2
	授業	プロジェクト活動に必要なツールの操作方法・情報共有方法の解説	
	事後学修	情報共有の重要性についてまとめる	2
8	事前学修	協調性・協働性について調べる	2
	授業	協調性・協働性の解説	
	事後学修	協調性・協働性についてまとめる	2
9	事前学修	連携先の企業・官公庁のことを調べる	2
	授業	連携先の企業・官公庁との顔合わせ・ヒアリング	
	事後学修	ヒアリングした内容をまとめる	2
10	事前学修	収集した情報から問題を発見する	2
	授業	＜共感（問題の発見）＞ グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
11	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	＜共感（問題の発見）＞ グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
12	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	＜共感（問題の発見）＞ グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
13	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	＜共感（問題の発見）＞ グループディスカッションのまとめ・資料づくり	
	事後学修	作成した資料の修正点を見つける	2
14	事前学修	資料を修正する	2
	授業	＜共感（問題の発見）＞ 問題点に関する中間発表	
	事後学修	これまでの振り返りを行い、反省点をまとめる。	2
15	事前学修	前回の内容を確認する	2
	授業	＜共感（問題の発見）＞ 中間発表に対するフィードバック	
	事後学修	フィードバックで指摘を受けた点について、今後の対策を練る	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク] 70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、授業内でフィードバックを行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
【テーマ】 サービスデザイン・イノベーション						
【概要】 企業や地域・官公庁等と協働して、コンテンツ開発による課題解決を行います。 学生はチームを結成し、半年～1 年間のプロジェクト活動として取り組みます。 プロジェクトは、デザイン思考 (Design Thinking) のプロセスに則って、共感（問題の発見），定義，概念化（企画立案・提案），試作，テストを繰り返し行いながら、制作・実装・評価・改善を行います。 開発コンテンツは、Web サイトを中心に、映像，音楽，グラフィック，パッケージ，3DCG 等を想定しており，所属学生のスキルやプロジェクトの内容に準じて決定します。						
授業における学修の到達目標						
＜前に踏み出す力＞ 一定の行動について，主体的に取り組み，周囲に働きかけて巻き込むことができ，目的を持って行動することができる。						
＜考え抜く力＞ 課題を発見し，見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ，その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。						
＜チームで働く力＞ 他の学生の意見をしっかりと傾聴でき，お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ，反対意見に対しても柔軟に対応することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールの趣旨・スケジュールを把握する				2
	授業	ガイダンス・シラバスの説明				
	事後学修	説明内容をまとめる				2
2	事前学修	デザイン思考の特徴を調べる				2
	授業	デザイン思考の解説				
	事後学修	デザイン思考を自分の言葉で説明できるよう，まとめる				2
3	事前学修	問題の発見に関する資料を見直す				2
	授業	＜定義・概念化＞ グループディスカッションを通して，抽出した問題点に対する解決策を見つける				
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる				2
4	事前学修	議事録を確認して，内容を思い出す				2
	授業	＜定義・概念化＞ グループディスカッションを通して，抽出した問題点に対する解決策を見つける				
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる				2

5	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
6	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
7	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
8	事前学修	担当ページの作成を進める	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
9	事前学修	担当ページの作成を進める	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
10	事前学修	良いプレゼンテーションの事例を、YouTube からみつける	2
	授業	プレゼンテーションの解説	
	事後学修	プレゼンテーションについてまとめる	2
11	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションの練習	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
12	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションの練習	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
13	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションのリハーサル	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
14	事前学修	資料に修正点がないかを最終確認する	2
	授業	連携企業・官公庁へのプレゼンテーション	
	事後学修	質問内容についてまとめる	2
15	事前学修	質問内容について確認する	2
	授業	プレゼンテーションに対するフィードバック	
	事後学修	フィードバックで指摘を受けた点について、今後の対策を練る	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク] 70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、授業内でフィードバックを行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本ゼミでは、韓国の IT・コンテンツ産業（オンラインゲーム産業, K-pop の IT 戦略, ウェブトゥーン産業等）や多言語 Web サイト制作, 韓国語・韓国事情に関する研究を通じて, グローバルに活躍できる IT 人材の育成を目指す。研究テーマの設定から調査・分析, 成果の制作・発信までを一貫して行うとともに, 大学祭での研究展示・イベントや韓国ゼミ合宿等を通じて, 実践的な知識と応用力の習得を図る。						
授業における学修の到達目標						
・ 韓国の IT・コンテンツ産業に関する総合的知識を身につけることができる。 ・ 文章作成能力, プレゼンテーション能力を鍛え, 論理的に発表できるようになる。 ・ ハングルと基礎的な文法を理解し, 身近な話題について簡単な会話ができるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し, 授業の全体の内容を把握する				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	配布された資料を読み, 復習する				2
2	事前学修	自分の研究テーマについて考える				2
	授業	研究テーマの発表と意見交換				
	事後学修	討論に基づいて研究テーマを修正する				2
3	事前学修	自分の研究テーマについて考える				2
	授業	研究テーマの発表と意見交換				
	事後学修	討論に基づいて研究テーマを修正する				2
4	事前学修	各自, 航空券, ホテル, 訪問したい場所などを調べておく				2
	授業	韓国合宿の事前準備（航空券・ホテル予約, 訪問先決定）				
	事後学修	追加調査				2
5	事前学修	各自, スケジュールを立てる				2
	授業	韓国合宿の事前準備（スケジュールの調整）				
	事後学修	追加調査				2
6	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う				2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 情報収集				
	事後学修	学習内容を整理する				2
7	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う				2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 情報収集：担当者による発表と意見交換				
	事後学修	学習内容を整理する				2
8	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う				2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 情報収集：担当者による発表と意見交換				
	事後学修	学習内容を整理する				2

9	事前学修	文献を精読し、疑問点を整理しつつ発表の準備を行う	2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 情報収集：担当者による発表と意見交換	
	事後学修	学習内容を整理する	2
10	事前学修	文献を精読し、疑問点を整理しつつ発表の準備を行う	2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 情報収集：担当者による発表と意見交換	
	事後学修	学習内容を整理する	2
11	事前学修	研究計画案を考える	2
	授業	研究計画書の作成	
	事後学修	誤字脱字・表現を改めてチェックし、研究計画書を完成させる	2
12	事前学修	パワーポイント資料を作成し、発表の準備をする	2
	授業	研究計画の発表と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2
13	事前学修	パワーポイント資料を作成し、発表の準備をする	2
	授業	研究計画の発表と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2
14	事前学修	発表会のテーマや背景を事前に調べ、質問やコメントを用意する	2
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（1 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講し、感想をレポートにまとめる	2
15	事前学修	発表会のテーマや背景を事前に調べ、質問やコメントを用意する	2
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（2 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講し、感想をレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：40% ■その他[発表：20%, グループワーク：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○		IPC303	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO	
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	○	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)					
授業概要							
ゼミナールⅠに引き続き実施します。							
本ゼミでは、韓国の IT・コンテンツ産業（オンラインゲーム産業, K-pop の IT 戦略, ウェブトゥーン産業等）や多言語 Web サイト制作, 韓国語・韓国事情に関する研究を通じて、グローバルに活躍できる IT 人材の育成を目指す。研究テーマの設定から調査・分析, 成果の制作・発信までを一貫して行うとともに、大学祭での研究展示・イベントや韓国ゼミ合宿等を通じて、実践的な知識と応用力の習得を図る。							
授業における学修の到達目標							
・ 韓国の IT・コンテンツ産業に関する総合的知識を身につけることができる。 ・ 文章作成能力, プレゼンテーション能力を鍛え, 論理的に発表できるようになる。 ・ ハングルと基礎的な文法を理解し, 身近な話題について簡単な会話ができるようになる。							
授業計画							
回数	授業、事前・事後学修						時間
1	事前学修	・ シラバスを確認し, 授業の全体の内容を把握する ・ 蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントのテーマを考える					2
	授業	・ ガイダンス ・ 蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントのテーマの設定, 企画立案					
	事後学修	配布された資料を読み, 復習する					2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベントに必要な準備作業, 運営等について考える					2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントの準備					
	事後学修	話しあった議論をまとめる					2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベントに必要な準備作業, 運営等について考える					2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントの準備, リハーサル					
	事後学修	話しあった議論をまとめる					2
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントを振り返り, 課題を明確にする					2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベント後の振り返り					
	事後学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベント企画の成果や反省点等をまとめる					2
5	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う					2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 収集した情報やデータの分析					
	事後学修	学習内容を整理する					2
6	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う					2
	授業	進捗報告, 韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 収集した情報やデータの分析					
	事後学修	学習内容を整理する					2
7	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う					2
	授業	進捗報告, 韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 収集した情報やデータの分析					

	事後学修	学習内容を整理する	2
8	事前学修	文献を精読し、疑問点を整理しつつ発表の準備を行う	2
	授業	進捗報告、韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読、収集した情報やデータの分析	
	事後学修	学習内容を整理する	2
9	事前学修	文献を精読し、疑問点を整理しつつ発表の準備を行う	2
	授業	進捗報告、韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読、収集した情報やデータの分析	
	事後学修	学習内容を整理する	2
10	事前学修	過年度の卒業研究・制作報告集に目を通しておく	2
	授業	卒業研究・制作報告書の書き方講習	
	事後学修	学習内容を整理する	2
11	事前学修	中間報告書のアウトラインを考えておく	2
	授業	中間報告書の作成：アウトライン	
	事後学修	作成したものの誤字脱字・表現を改めてチェックし、完成させる	2
12	事前学修	プレゼン資料の作成方法について確認しておく	2
	授業	中間報告書の作成：PPT 用スライド資料	
	事後学修	誤字脱字・表現を改めてチェックし、報告書を完成させる	2
13	事前学修	発表の準備をする	2
	授業	中間報告と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2
14	事前学修	発表の準備をする	2
	授業	中間報告と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2
15	事前学修	発表の準備をする	2
	授業	中間報告と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：40% ■その他[発表：20%，グループワーク：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本ゼミでは、韓国の IT・コンテンツ産業（オンラインゲーム産業, K-pop の IT 戦略, ウェブトゥーン産業等）や多言語 Web サイト制作, 韓国語・韓国事情に関する研究を通じて、グローバルに活躍できる IT 人材の育成を目指す。研究テーマの設定から調査・分析, 成果の制作・発信までを一貫して行うとともに、大学祭での研究展示・イベントや韓国ゼミ合宿等を通じて、実践的な知識と応用力の習得を図る。						
授業における学修の到達目標						
・ 韓国の IT・コンテンツ産業に関する総合的知識を身につけることができる。 ・ 文章作成能力, プレゼンテーション能力を鍛え, 論理的に発表できるようになる。 ・ ハングルと基礎的な文法を理解し, 身近な話題について簡単な会話ができるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し, 授業の全体の内容を把握する				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	配布された資料を読み, 復習する				2
2	事前学修	1 年間の研究成果をまとめる				2
	授業	1 年間の研究成果のプレゼンと意見交換				
	事後学修	討論に基づいて研究内容を修正する				2
3	事前学修	1 年間の研究成果をまとめる				2
	授業	1 年間の研究成果のプレゼンと意見交換				
	事後学修	討論に基づいて研究内容を修正する				2
4	事前学修	各自, 航空券, ホテル, 訪問したい場所などを調べておく				2
	授業	韓国合宿の事前準備（航空券・ホテル予約, 訪問先決定）				
	事後学修	追加調査				2
5	事前学修	各自, スケジュールを立てる				2
	授業	韓国合宿の事前準備（スケジュールの調整）				
	事後学修	追加調査				2
6	事前学修	企画発表会の発表資料（word）の準備				2
	授業	企画発表会の発表資料（word）の作成				
	事後学修	企画発表会の発表資料（word）の修正				2
7	事前学修	企画発表会の発表資料（word）の準備				2
	授業	進捗報告, 企画発表会の発表資料（word）の作成				
	事後学修	企画発表会の発表資料（word）の修正				2
8	事前学修	企画発表会の発表資料（word）の準備				2
	授業	進捗報告, 企画発表会の発表資料（word）の作成				
	事後学修	企画発表会の発表資料（word）の修正				2

9	事前学修	企画発表会の発表資料（word）の準備	2
	授業	進捗報告, 企画発表会の発表資料（word）の作成	
	事後学修	企画発表会の発表資料（word）の修正	2
10	事前学修	企画発表会のプレゼンスライドの準備	2
	授業	企画発表会のプレゼンスライドの作成	
	事後学修	企画発表会のプレゼンスライドの修正	2
11	事前学修	企画発表会のプレゼンスライドの準備	2
	授業	進捗報告, 企画発表会のプレゼンスライドの作成	
	事後学修	企画発表会のプレゼンスライドの修正	2
12	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し（1回目）	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（1回目）	
	事後学修	発表の振り返り	2
13	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し（2回目）	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（2回目）	
	事後学修	発表の振り返り	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	卒業研究企画発表会（1週目）	
	事後学修	発表の振り返り	2
15	事前学修	発表の準備	2
	授業	卒業研究企画発表会（2週目）	
	事後学修	発表の振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：40% ■その他[発表：20%, グループワーク：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○		IMC409	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO	
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)					
授業概要							
ゼミナールⅢに引き続き実施します。							
本ゼミでは、韓国の IT・コンテンツ産業（オンラインゲーム産業, K-pop の IT 戦略, ウェブトゥーン産業等）や多言語 Web サイト制作, 韓国語・韓国事情に関する研究を通じて、グローバルに活躍できる IT 人材の育成を目指す。研究テーマの設定から調査・分析, 成果の制作・発信までを一貫して行うとともに、大学祭での研究展示・イベントや韓国ゼミ合宿等を通じて、実践的な知識と応用力の習得を図る。							
授業における学修の到達目標							
・韓国の IT・コンテンツ産業に関する総合的知識を身につけることができる。 ・文章作成能力, プレゼンテーション能力を鍛え, 論理的に発表できるようになる。 ・ハングルと基礎的な文法を理解し, 身近な話題について簡単な会話ができるようになる。							
授業計画							
回数	授業、事前・事後学修						時間
1	事前学修	・シラバスを確認し, 授業の全体の内容を把握する ・蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントのテーマを考える					2
	授業	・ガイダンス ・蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントのテーマの設定, 企画立案					
	事後学修	配布された資料を読み, 復習する					2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベントに必要な準備作業, 運営等について考える					2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントの準備					
	事後学修	話しあった議論をまとめる					2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベントに必要な準備作業, 運営等について考える					2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントの準備, リハーサル					
	事後学修	話しあった議論をまとめる					2
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントを振り返り, 課題を明確にする					2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベント後の振り返り					
	事後学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベント企画の成果や反省点等をまとめる					2
5	事前学修	小論の準備					2
	授業	卒業研究の小論についての説明					
	事後学修	卒業研究の小論の書き方について見直す					2
6	事前学修	小論の準備					2
	授業	小論の作成					
	事後学修	小論の修正					2
7	事前学修	小論の準備					2
	授業	進捗報告, 小論の作成					

	事後学修	小論の修正	2
8	事前学修	小論の準備	2
	授業	進捗報告, 小論の作成	
	事後学修	小論の修正	2
9	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック (1 回目)	
	事後学修	小論の修正	2
10	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック (2 回目)	
	事後学修	小論の修正	2
11	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック (3 回目)	
	事後学修	小論の修正	2
12	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの準備	2
	授業	卒業研究発表会のプレゼンスライドの作成	
	事後学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの修正	2
13	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの見直し (1 回目)	2
	授業	卒業研究発表会のプレゼンリハーサル (1 回目)	
	事後学修	発表の振り返り	2
14	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの見直し (2 回目)	2
	授業	卒業研究発表会のプレゼンリハーサル (2 回目)	
	事後学修	発表の振り返り	2
15	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの見直し (3 回目)	2
	授業	卒業研究発表会のプレゼンリハーサル (3 回目)	
	事後学修	発表の振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：40% ■その他[発表：20%, グループワーク：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
人や物の形、動きを測る、創る。サイエンスとアート、エンジニアリングの融合を目指します。						
技術を駆使して「魅せる」を考えます。デザインとテクノロジーの両方あるいはいずれかに取り組み、魅せるためのモノ・コトの制作に取り組みます。						
・エンジニアリング（顔画像処理、メディアアート） a. デジタルカメラで撮影された人物を、画像処理技術を用いて加工します。 b. さまざまなデバイスを利用した、人とコンピュータのインタラクションを実現します。 c. AI を用いた認識や追跡を実現します。						
メディアアートや合成アルゴリズムの提案、認知心理学的分析などに取り組みます。 プログラミング言語（C++言語など）に抵抗がないことが望ましいです。						
・デザイン（3D CG、メディアアート） a. 3Dソフト等を用い、実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。 b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。						
個人のスキルアップとグループワークを通してデザインとテクノロジーを融合した作品の制作や地域貢献、社会貢献を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、AI などを用いて、役に立つもの、心が豊かになるものを創っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。						
授業における学修の到達目標						
個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールで身につけたい技術を調べる				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	ゼミナールでの情報共有のための各種手続き				2
2	事前学修	自己紹介プレゼンの準備				2
	授業	自己紹介プレゼン				
	事後学修	自己紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる				2
3	事前学修	よいプレゼンについて調べる				2
	授業	よいプレゼンの方法を考える				
	事後学修	自己紹介プレゼンの修正				2
4	事前学修	プロジェクションマッピングの方法について調べる				2

	授業	プロジェクションマッピングをやってみる	
	事後学修	プロジェクションマッピングの確認する	2
5	事前学修	UNITY について調べる	2
	授業	インタラクティブアプリの設計・制作	
	事後学修	アプリを作る方法について確認する	2
6	事前学修	AI について調べる	2
	授業	AI による学習	
	事後学修	AI による学習について確認する	2
7	事前学修	興味のある技術を考える	2
	授業	興味のある技術の調査と紹介プレゼン制作	
	事後学修	興味のある技術の紹介プレゼン制作	2
8	事前学修	興味のある技術の紹介を考える	2
	授業	興味のある技術の紹介プレゼン制作	
	事後学修	興味のある技術紹介プレゼンの確認	2
9	事前学修	興味のある技術の紹介プレゼンの練習	2
	授業	興味のある技術の紹介プレゼン	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
10	事前学修	作品についてイメージを膨らませる	2
	授業	課題 作品制作（1）設計	
	事後学修	設計の振り返り	4
11	事前学修	作品の実装について準備する	2
	授業	課題 作品制作（2）実装	
	事後学修	デバッグ	4
12	事前学修	運用場面のイメージを膨らませる	4
	授業	課題 作品制作（3）実施	
	事後学修	実施の振り返り	2
13	事前学修	なし	
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（1 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート）	2
14	事前学修	なし	
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（2 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート）	2
15	事前学修	なし	
	授業	夏期休暇期間の活動計画	
	事後学修	夏期休暇期間の活動の確認	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 40% ■その他[グループワーク： 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
人や物の形、動きを測る、創る。サイエンスとアート、 エンジニアリングの融合を目指します。						
技術を駆使して「魅せる」を考えます。デザインとテクノロジーの両方あるいはいずれかに取り組み、魅せるためのモノ・コトの制作に取り組みます。						
・ エンジニアリング（顔画像処理、 メディアアート、 AI） a. デジタルカメラで撮影された人物を、 画像処理技術を用いて加工します。 b. さまざまなデバイスを利用した、 人とコンピュータのインタラクションを実現します。 c. AI を用いた認識や追跡を実現します。 メディアアートや合成アルゴリズムの提案、 認知心理学的分析などに取り組みます。 プログラミング言語（C++言語など）に抵抗がないことが望ましいです。						
・ デザイン（3D C G、メディアアート） a. 3 Dソフト等を用い、 実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。 b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。						
個人のスキルアップとグループワークを通してデザインとテクノロジーを融合した作品の制作や地域貢献、社会貢献を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、AI などを用いて、役に立つもの、心が豊かになるものを創っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。						
授業における学修の到達目標						
個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	前期・4年生卒業研究企画発表会を聴講しての検討				2
	授業	前期・4年生卒業研究企画発表会についてのディスカッション				
	事後学修	次年度の自分の行動についてレポート				2
2	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備				2
	授業	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン				
	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）				2
3	事前学修	生成 AI について調べる				2
	授業	生成 AI の活用法				
	事後学修	生成 AI の活用方法について確認する				2
4	事前学修	論文の書き方について調べる				2

	授業	論文の書き方	
	事後学修	論文の書き方について確認する	2
5	事前学修	学術論文とはなにかを調べる	2
	授業	学術論文を読む	
	事後学修	論文の理解を深める	2
6	事前学修	発表スライドの内容を検討する	2
	授業	紹介スライドを作成する	
	事後学修	発表練習	2
7	事前学修	発表スライドの準備	2
	授業	論文紹介	
	事後学修	質問・コメントの整理	2
8	事前学修	卒業論文の手引きの確認	2
	授業	卒業論文の書き方講習	
	事後学修	小論文の書き方の確認	2
9	事前学修	卒業研究について考える	2
	授業	卒業研究について考える（ディスカッション）	
	事後学修	卒業研究について考える	2
10	事前学修	なし	
	授業	過去の卒業研究の調査	
	事後学修	卒業研究について整理する	2
11	事前学修	卒業研究に関する提案プレゼン内容の検討	2
	授業	卒業研究に関する提案プレゼンスライド制作	
	事後学修	プレゼンスライドの確認	2
12	事前学修	卒業研究に関する提案プレゼン準備	4
	授業	卒業研究に関する提案プレゼン	
	事後学修	卒業研究に関する提案に対する反省	2
13	事前学修	1年の振り返りプレゼン準備	2
	授業	1年の振り返りプレゼンスライド制作	
	事後学修	1年の振り返りプレゼンスライドの確認	2
14	事前学修	1年の振り返りプレゼン発表準備	2
	授業	1年の振り返りプレゼン	
	事後学修	1年の振り返りとこれからの目標をまとめる（レポート）	2
15	事前学修	春休み中の課題提案プレゼン準備	2
	授業	春休み中の課題提案プレゼン	
	事後学修	春休み中の課題の取り組み開始	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 40% ■その他[グループワーク： 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
人や物の形、動きを測る、創る。サイエンスとアート、エンジニアリングの融合を目指します。						
技術を駆使して「魅せる」を考えます。デザインとテクノロジーの両方あるいはいずれかに取り組み、魅せるためのモノ・コトの制作に取り組みます。						
・エンジニアリング（顔画像処理、メディアアート、AI） a. デジタルカメラで撮影された人物を、画像処理技術を用いて加工します。 b. さまざまなデバイスを利用した、人とコンピュータのインタラクションを実現します。 c. AI を用いた認識や追跡を実現します。						
メディアアートや合成アルゴリズムの提案、認知心理学的分析などに取り組みます。 プログラミング言語（C++言語など）に抵抗がないことが望ましいです。						
・デザイン（3D CG、メディアアート） a. 3Dソフト等を用い、実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。 b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。						
個人のスキルアップとグループワークを通してデザインとテクノロジーを融合した作品の制作や地域貢献、社会貢献を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、AI などを用いて、役に立つもの、心が豊かになるものを創っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。						
授業における学修の到達目標						
個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	3 年生での取り組みを振り返る				1
	授業	ガイダンス				
	事後学修	これからの 1 年の取り組みを計画する				1
2	事前学修	よいプレゼンについて調べる				1
	授業	よいプレゼンについて				
	事後学修	これまでのプレゼン資料を見直す				1
3	事前学修	自分の研究テーマについてプレゼン準備				2
	授業	研究テーマについてプレゼン・ディスカッション				
	事後学修	得た意見を確認する				2
4	事前学修	よい文章について調べる				2

	授業	論文の書き方	
	事後学修		2
5	事前学修	企画書（研究計画）の書き方について調べる	2
	授業	企画書（研究計画）の作成について	
	事後学修	企画書（研究計画）の書き方について確認する	2
6	事前学修	企画書（研究計画）案を検討する	2
	授業	企画書（研究計画）を作成する	
	事後学修	企画書（研究計画）を確認する	2
7	事前学修	就職活動についての報告資料をまとめる	2
	授業	就職活動の状況について報告する	
	事後学修	自分の取り組み状況の問題点・課題についてまとめる	2
8	事前学修	作成した企画書（研究計画）を見直す	2
	授業	企画書を相互に確認し、伝わり方や問題点について考える（1回目）	
	事後学修	企画書（研究計画）を修正する	2
9	事前学修	作成した企画書（研究計画）を見直す	2
	授業	企画書を相互に確認し、伝わり方や問題点について考える（2回目）	
	事後学修	企画書（研究計画）を修正する	2
10	事前学修	企画発表会のプレゼン資料をまとめる	2
	授業	企画発表会のプレゼンスライドの制作	
	事後学修	企画発表会のポウレゼンスライドを確認する	2
11	事前学修	企画発表会のプレゼン資料を作成する	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（1回目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
12	事前学修	1回目のプレゼンで受けた質問・コメントを参考にプレゼン資料を修正する	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（2回目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
13	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し	4
	授業	卒業研究企画発表会（1週目）	
	事後学修	企画発表会での発表に対する質問・コメントおよび他の人の発表をまとめる	2
14	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し	4
	授業	卒業研究企画発表会（2週目）	
	事後学修	企画発表会での発表に対する質問・コメントおよび他の人の発表をまとめる	2
15	事前学修	夏期休暇期間の取り組みについて考える	2
	授業	夏期休暇期間の研究計画の作成	
	事後学修	夏期休暇期間の取り組みを確認する	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 40% ■その他[グループワーク 30%]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
適宜対面で指導			
教科書			

参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC409	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
人や物の形、動きを測る、創る。サイエンスとアート、エンジニアリングの融合を目指します。						
技術を駆使して「魅せる」を考えます。デザインとテクノロジーの両方あるいはいずれかに取り組み、魅せるためのモノ・コトの制作に取り組みます。						
・エンジニアリング（顔画像処理、メディアアート、AI） a. デジタルカメラで撮影された人物を、画像処理技術を用いて加工します。 b. さまざまなデバイスを利用した、人とコンピュータのインタラクションを実現します。 c. AI を用いた認識や追跡を実現します。						
メディアアートや合成アルゴリズムの提案、認知心理学的分析などに取り組みます。 プログラミング言語（C++言語など）に抵抗がないことが望ましいです。						
・デザイン（3D C G、メディアアート） a. 3 D ソフト等を用い、実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。 b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。						
個人のスキルアップとグループワークを通してデザインとテクノロジーを融合した作品の制作や地域貢献、社会貢献を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、AI などを用いて、役に立つもの、心が豊かになるものを創っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。						
授業における学修の到達目標						
個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	なし				0
	授業	ガイダンス				
	事後学修	後期のスケジュールについて確認する				1
2	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備				2
	授業	前期・夏季休暇の取り組みについての報告プレゼン				
	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）				1
3	事前学修	卒業論文の手引きの確認				2
	授業	卒業論文の書き方講習				
	事後学修	卒業論文の目次を考える				2
4	事前学修	自身の就職活動についてまとめる				1

	授業	就職活動について（ディスカッション）	
	事後学修	就職活動への取り組む姿勢や心構えをまとめる	1
	事前学修	現在の卒業研究のテーマ・目的・方法・進捗状況を整理する	2
5	授業	卒業研究の研究計画の整理と進捗報告準備（ディスカッション）	
	事後学修	指摘を踏まえて進捗報告プレゼン資料の構成を作成する	2
	事前学修	卒業研究進捗報告プレゼンの準備	2
6	授業	卒業研究進捗報告プレゼン（1週目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
	事前学修	卒業研究進捗報告プレゼンの準備	2
7	授業	卒業研究進捗報告プレゼン（2週目）	
	事後学修	他者の卒業研究について理解を深める	2
	事前学修	研究の要点をまとめる	2
8	授業	卒業研究の小論についての説明	
	事後学修	卒業研究の小論の書き方について見直す	2
	事前学修	小論の準備	4
9	授業	小論相互チェック（1回目）	
	事後学修	指摘された内容について確認・修正	2
	事前学修	小論の準備	2
10	授業	小論相互チェック（2回目）	
	事後学修	指摘された内容について確認・修正	2
	事前学修	小論の準備	2
11	授業	小論相互チェック（3回目）	
	事後学修	指摘された内容について確認・修正	2
	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	4
12	授業	卒業研究発表会リハーサル（1回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	4
	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（2回目）	2
13	授業	卒業研究発表会リハーサル（2回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2
	事前学修	卒業論文の手引きの確認	2
14	授業	卒論執筆と提出の解説	
	事後学修	卒論執筆と提出の確認	2
	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（3回目）	2
15	授業	卒業研究発表会リハーサル（3回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 40% ■その他[グループワーク 30%]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
適宜対面で指導			
教科書			

参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ: 卒業研究に備えて研究遂行に必要な技能を習得します。						
演習を通じて、文献調査手法や科学技術文章の読み書き・プレゼンテーション技能といった基礎技能およびそのためのソフトウェアの使い方を学びます。計算機を「普段使いの文房具」「有用な外部記憶装置」として活用できるようになることが本ゼミナールの目標です。						
ゼミのキーワードは「FLOSS」「ICT セキュリティ」「情報可視化」「数値計算手法」「大規模データ処理」ですが、それ以外でも興味がある事であれば研究に邁進してもらってかまいません。						
授業における学修の到達目標						
- 自身が必要とする計算機環境の構築・運用ができるようになること。 - 科学技術文章の読み書きが行なえるようになること。 - 情報を適切にプレゼンテーションする技能を習得すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	- タッチタイピングができるようになっておくこと(不慣れな人は練習を開始し、前期のうちに習得すること)。 - 事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと。				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	現在自身が取得している技術について整理しておくこと。				2
2	事前学修	自己紹介プレゼンテーションの準備をすること				2
	授業	自己紹介プレゼンテーション				
	事後学修	プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。				2
3	事前学修	- 情報共有手段の確認をしておくこと - 事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと				2
	授業	文書作成環境構築				
	事後学修	ゼミでの作業内容をまとめ、共有すること。				2
4	事前学修	事前配布資料を読み、必要となるソフトウェアをインストールしておくこと。				2
	授業	技術文章作成演習				
	事後学修	作成した文章を校正し提出すること。				2
5	事前学修	事前配布資料を読み必要となるソフトウェアをインストールしておくこと。				2
	授業	文献調査・整理演習				
	事後学修	興味のある文献を調査収集し始めること。				2
6	事前学修	第 5 回に調査した興味のある書籍・論文を整理しておくこと。				2
	授業	テクニカルリーディング演習				
	事後学修	- 興味のある文献を調査収集し始めること。				2

		- 収集した文献の要約を作成し整理すること。	
7	事前学修	自身が収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第1回プレゼンテーション演習(1)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
8	事前学修	自身が収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第1回プレゼンテーション演習(2)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
9	事前学修	事前配布資料を読み、必要となるソフトウェアをインストールしておくこと。	2
	授業	計算機演習: 仮想環境とネットワーク	
	事後学修	- 文書を整理し共有すること。 - 文献収集と整理を続けること。	2
10	事前学修	事前配布資料を読み、必要となるソフトウェアをインストールしておくこと。	2
	授業	計算機演習: 版管理と自動化	
	事後学修	- 文書を整理し共有すること。 - 文献収集と整理を続けること。	2
11	事前学修	収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第2回プレゼンテーション演習(1)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
12	事前学修	収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第2回プレゼンテーション演習(2)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
13	事前学修	収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第3回プレゼンテーション演習(1)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
14	事前学修	収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第3回プレゼンテーション演習(2)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
15	事前学修	企画発表会のプログラムを確認しておくこと	2
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	- 卒業研究企画発表会の聴講レポートを提出すること。 - 文献収集と整理を続けること。	2
成績評価の方法およびその基準			
■その他[課題レポート(40%), プレゼンテーション(40%), ゼミ内での議論, 貢献など(20%)]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
その都度、口頭あるいはオンラインで情報をフィードバックする。			
教科書			

参考書・Web サイト	講義時に都度指示する。
単位修得が望ましい科目	なし。
備考	連絡にはメールと slack を利用する。1 日に複数回確認すること。
担当教員の実務経験	通算で 15 年程度，大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また，他大学と連携した学際研究拠点の公開サーバを複数台，構築し運用しており，専門分野では大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行っている。これら経験を踏まえて現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ: 卒業研究に備えて研究遂行に必要な技能を習得します。						
ゼミナールⅠに引き続き、卒業研究に備えて研究遂行に必要な技能を習得します。演習や少人数プロジェクト制作を通じて、文献調査手法や科学技術文章の読み書き・プレゼンテーション技能といった基礎技術を磨きます。						
ゼミのキーワードは「FLOSS」「ICT セキュリティ」「情報可視化」「数値計算手法」「大規模データ処理」ですが、それ以外でも興味がある事であれば研究に邁進してもらってかまいません。						
授業における学修の到達目標						
- 自身・グループでのプロジェクト開発・進捗管理ができるようになること。						
- 科学技術文章の読み書きが行なえる様になること。						
- 情報を適切にプレゼンテーションする技能を習得すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自分が取り組みたいテーマを考えておくこと。				2
	授業	・ガイダンス ・プロジェクト演習 1: チーム分け				
	事後学修	協同作業環境を確認しておくこと。				2
2	事前学修	テーマに関連のある書籍・論文を調査し始めること。				2
	授業	プロジェクト演習 1: 文献調査、テーマ検討				
	事後学修	- 関連文献を調査し、整理しておくこと。 - 発表テーマを検討すること。				2
3	事前学修	- テーマに関連のある書籍・論文を調査し続けること。 - 必要に応じて開発環境を構築しておくこと。				2
	授業	プロジェクト演習 1: 研究開発				
	事後学修	- 研究開発を進めること - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
4	事前学修	- 関連のある書籍・論文を調査し続けること。 - 必要に応じて開発環境を構築しておくこと。				2
	授業	プロジェクト演習 1: 研究開発(2)				
	事後学修	- 研究開発を進めること - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
5	事前学修	研究開発内容をまとめ、プレゼンテーションを準備しておく。				2
	授業	プロジェクト演習 1: 発表会				
	事後学修	- 質疑・コメントを整理し回答しておくこと。 - 次に自分が取り組みたいテーマを考えておくこと。				2
6	事前学修	事前学修資料を確認しておくこと。				2

	授業	- プロジェクト演習 1 の振り返り - プロジェクト演習 2: チーム分け	
	事後学修	協同作業環境を確認しておくこと。	2
7	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し始めること。	2
	授業	プロジェクト演習 2: 文献調査、テーマ検討	
	事後学修	- 関連文献を調査し、整理しておくこと。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
8	事前学修	- 関連のある書籍・論文を調査し続けること。 - 必要に応じて開発環境を構築しておくこと。	2
	授業	プロジェクト演習 2: 研究開発(1)	
	事後学修	- 研究開発を進めること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
9	事前学修	- 関連のある書籍・論文を調査し続けること。 - 必要に応じて開発環境を構築しておくこと。	2
	授業	プロジェクト演習 2: 研究開発(2)	
	事後学修	- 研究開発を進めること。 - 関連のある書籍・論文を調査し始めること。	2
10	事前学修	研究開発内容をまとめ、プレゼンテーションを準備しておく。	2
	授業	プロジェクト演習 2: 発表会	
	事後学修	- 質疑・コメントを整理し回答しておくこと。 - 次に自分が取り組みたいテーマを考えておくこと。	2
11	事前学修	事前学修資料を確認しておくこと。	2
	授業	- プロジェクト演習 2 の振り返り - 卒業研究テーマの検討	
	事後学修	関連文献を調査し、整理しておくこと。	2
12	事前学修	関連文献を調査し、整理しておくこと。	2
	授業	卒業研究テーマの検討: 先行研究の整理	
	事後学修	- 関連文献を調査し、整理しておくこと。 - 必要に応じて開発環境を構築すること。	2
13	事前学修	関連文献を調査し、整理しておくこと。	2
	授業	卒業研究テーマの検討: テーマ選定	
	事後学修	関連文献を調査し、整理しておくこと。	2
14	事前学修	卒業研究発表回のプログラムを確認しておくこと	2
	授業	卒業研究発表会の聴講	
	事後学修	卒研発表会での発表についてレポートにまとめること	2
15	事前学修	卒業研究に向けたアイデアをまとめたショートプレゼンを準備しておくこと。	2
	授業	振り返りおよび卒業研究に向けたアイデア発表	
	事後学修	卒業研究のアイデアを精査すること。	2

成績評価の方法およびその基準

■その他[課題レポート(40%), プレゼンテーション(40%), ゼミ内での議論、貢献など(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、口頭あるいはオンラインで情報をフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	講義時に都度指示する。
単位修得が望ましい科目	なし。
備考	連絡にはメールと slack を利用する。1 日に複数回確認すること。
担当教員の実務経験	通算で 15 年程度，大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また，他大学と連携した学際研究拠点の公開サーバを複数台，構築し運用しており，専門分野では大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行っている。これら経験を踏まえて現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	佐々木 洋平(222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ: 卒業研究・卒業制作のための知識と技術を修得すること。						
ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡの学修内容に基づき、各自でテーマを決めて調査・研究開発に取り組みます。人によって取り組む課題は様々ですが、ゼミのキーワードは「FLOSS 開発」「ICT セキュリティ」「情報可視化」「数値計算手法」「大規模データ処理」ですが、それ以外でも興味がある事であれば研究に邁進してもらってかまいません。						
授業における学修の到達目標						
- 自主的に問題設定・調査・研究を行ない、恒常的に学び続けられるようになること。						
- 科学技術文章の読み書きが行なえるようになること。						
- 情報を適切にプレゼンテーションする技能を習得すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡで修得した技術を確認しておくこと。				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	全体スケジュールを確認しておくこと。				2
2	事前学修	プレゼンテーションの復習として「自己紹介のスライド」を作成しておくこと。				2
	授業	自己紹介プレゼンテーション				
	事後学修	プレゼンの良かった点・改善できそうな点をまとめること。				2
3	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し始めること。				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査の報告(1)				
	事後学修	- 発表内容、質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
4	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査の報告(2)				
	事後学修	- 発表内容、質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
5	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査の報告(3)				
	事後学修	- 発表内容、質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
6	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査の報告(4)				
	事後学修	- 発表内容、質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
7	事前学修	卒研の「目的」を設定するための資料をまとめること。				2
	授業	卒研テーマの設定				

	事後学修	- 卒研テーマの目的の設定についてレポートにまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
8	事前学修	実験設定や開発するシステムの概要をまとめること。	2
	授業	研究手法，システムの検討(1)	
	事後学修	- 発表内容，質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
9	事前学修	実験設定や開発するシステムの概要をまとめること。	2
	授業	研究手法，システムの検討(2)	
	事後学修	- 発表内容，質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
10	事前学修	実験設定や開発するシステムの概要をまとめること。	2
	授業	研究手法，システムの検討(3)	
	事後学修	- 発表内容，質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
11	事前学修	企画発表会の発表資料を準備すること。	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル(1)	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2
12	事前学修	企画発表会での発表資料を作成すること。	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル (2)	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2
13	事前学修	企画発表会での発表資料を作成すること。	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル (3)	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2
14	事前学修	企画発表会の発表資料を準備すること。	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2
15	事前学修	発表会での発表を報告資料としてまとめること。	2
	授業	企画発表会に関する報告	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2

成績評価の方法およびその基準

■その他[課題レポート(40%)，プレゼンテーション(40%)，ゼミ内での議論，貢献など(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度，口頭あるいはオンラインで情報をフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	講義時に都度指示する。
単位修得が望ましい科目	なし。
備考	連絡にはメールと slack を利用する。1 日に複数回確認すること。
担当教員の実務経験	通算で 15 年程度，大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また，他大学と連携した学際研究拠点の公開サーバを複数台，構築し運用しており，専門分野では大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行っている。これら経験を踏まえて現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC409	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ: 卒業研究・卒業制作を行ない完遂させること。						
ゼミナールⅢから継続して、各自で定めたテーマを決めて研究開発に取り組みます。人によって取り組む課題は様々ですが、ゼミのキーワードは「FLOSS 開発」「ICT セキュリティ」「情報可視化」「数値計算手法」「大規模データ処理」です。上記のキーワード以外でも興味がある事であれば研究に邁進してもらってかまいません。						
授業における学修の到達目標						
- 自主的に問題設定・調査・研究を行ない、恒常的に学び続けられるようになること。						
- 科学技術文章の読み書きが行なえるようになること。						
- 情報を適切にプレゼンテーションする技能を習得すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	技術文書の書き方を復習しておくこと。				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	卒研(小論文，発表会)について確認しておくこと。				2
2	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめること。				2
	授業	実験・評価方法の発表(1)				
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。				2
3	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめること。				2
	授業	実験・評価方法の発表(2)				
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。				2
4	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめること。				2
	授業	実験・評価方法の発表(3)				
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。				2
5	事前学修	実験・機能の追加について資料をまとめること。				2
	授業	実験・機能の追加についての検討				
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。				2
6	事前学修	実験・機能の追加について資料をまとめること。				2
	授業	実験・機能の追加についての実装				
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。				2
7	事前学修	卒業論文の目次構成構想をまとめること。				2
	授業	卒業論文の構成の議論				
	事後学修	議論内容を基に目次を完成させ，小論執筆を開始すること。				2
8	事前学修	小論の見直しをすること。				2
	授業	小論の相互チェック (1)				

	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ修整すること。	2
9	事前学修	小論の見直しをすること。	2
	授業	小論の相互チェック (2)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ修整すること。	2
10	事前学修	卒研: 成果物の準備をすること	2
	授業	卒研: 成果物の整理	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ修整すること。	2
11	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備をすること	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
12	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンを準備すること。	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル(1)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
13	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンを準備すること。	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル(1)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
14	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンを準備すること。	2
	授業	卒業研究会発表リハーサル(2)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
15	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンを準備すること。	2
	授業	卒業研究会発表リハーサル(3)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2

成績評価の方法およびその基準

■その他[課題レポート(40%), プレゼンテーション(40%), ゼミ内での議論, 貢献など(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度, 口頭あるいはオンラインで情報をフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	講義時に都度指示する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	連絡にはメールと slack を利用する。1 日に複数回確認すること。
担当教員の実務経験	通算で 15 年程度, 大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また, 他大学と連携した学際研究拠点の公開サーバを複数台, 構築し運用しており, 専門分野では大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行っている。これら経験を踏まえて現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	斎藤 一 (122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
「デザイン」と「テクノロジー」を融合した、 「観光」や「教育」に向けた Web・アプリ・ゲーム制作 本ゼミでは、個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。 作品の種類は、Web、アプリ、デジタルゲーム、アナログゲーム、ポスター、パンフレット、プロジェクションマッピング、インスタレーションなど多岐にわたり、解決したい課題（主に観光・教育分野）に応じて、ディスカッションを通して決定します。 主要な研究・制作テーマ 1. AI を活用した Web・スマートフォンアプリ開発 人間同士、あるいは人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで、新しい価値を生み出すアプリケーションの開発を目指します。AI（人工知能）などのテクノロジーを活用し、デザイン性にも配慮した Web サイトやアプリの制作を行います。 2. 教育・学習支援に関する研究／インストラクショナル・デザインに基づく教材制作 教育や学習における課題を調査し、ICT を活用することでその解決を目指します。また、インストラクショナル・デザイン（ID）に基づき、Web 制作技術、CMS、LMS などを用いた教育・学習教材の制作にも取り組みます。 3. ゲーミフィケーションに関する研究 ゲームデザインの考え方を活用する手法をゲーミフィケーションといいます。また、シリアスゲームとは、社会的課題の解決を目的としたゲームを指します。本ゼミでは、観光や教育分野を対象としたゲームの活用について研究します。 4. フィールドワークに基づいた作品制作 フィールドワークとは、現地を実際に訪れ、資料収集や関係者へのヒアリング、アンケート調査などを行い、客観的な成果を得るための学術的手法です。地域における課題を調査し、IT を活用して課題解決を目指す作品（アプリ、Web サイト、パンフレット等）の制作を行います。						
授業における学修の到達目標						
・自ら制作テーマや目標を設定し、自発的に活動しましょう。 ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決していきましょう。 ・既存研究や作品を十分に調査をし、自分の作りたい作品について企画を立てましょう。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスや研究室のサイト（参考サイトに URL を記載）を確認し、ゼミ活動の概要を把握しておきましょう				2.0
	授業	前期 ガイダンス： ゼミナールⅠの活動について説明します				
	事後学修	今後のゼミ活動（何を制作するのか等）の計画を立てましょう				2.0
2	事前学修	自己紹介プレゼンの準備をしておきましょう				2.0

	授業	自己紹介プレゼンをしよう！： 各自自己紹介のプレゼンテーションをしてもらいます。	
	事後学修	今後のプロジェクト活動のために、自己紹介プレゼンの内容を振り返り、ゼミナールメンバーの名前や興味のある研究分野等を把握しておきましょう	2.0
	事前学修	コンテストへの作品応募にむけて、どのコンテストにどのような作品で申し込みをするのかを考えておきましょう。	2.0
3	授業	コンテストの応募にむけて、コンテストの過去の作品の調査等を調査します。	
	事後学修	授業時間で調べきれなかった作品などを、家庭学習の時間も使って調査し、制作する作品のイメージを膨らませましょう。	2.0
	事前学修	コンテストへの応募作品について、コンセプトを考えておきましょう。	2.0
4	授業	コンテストの応募作品のコンセプトを決めます。	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備をしておきましょう。	2.0
	事前学修	コンテスト向けの作品制作の準備をしておきましょう	2.0
5	授業	コンテストに応募する作品を制作します	
	事後学修	作品の質を高めるため、授業以外の時間も使い、ディテイルアップをしましょう。	2.0
	事前学修	制作中の作品について、更に作品の質を高めるためには何をすればよいのかを検討しておきましょう。	2.0
6	授業	引き続き、コンテスト投稿に向けた作品制作を行います 作品の投稿に向けたドキュメント作成も行います。	
	事後学修	投稿前の作品やドキュメントの最終チェックをしましょう。	2.0
	事前学修	作品について、客観的に、振り返りを行っておきましょう。	2.0
7	授業	投稿した作品についてのプレゼンテーションを行います。	
	事後学修	他のメンバーの作った作品をレビューしましょう。	2.0
	事前学修	新たな作品づくりに向けて、世の中の作品のレビューを改めて行いましょう。	2.0
8	授業	Web やゲームやアプリ等、既存作品のレビュー（コンテンツ研究会）を行います。	
	事後学修	他の学生がレビューした作品で、印象に残った作品などを、自分でも調べてみましょう。	2.0
	事前学修	これまでのゼミ活動を一旦振り返っておきましょう。	2.0
9	授業	コンテストでの経験を活かし、スキルアップしたい課題を各自決めていきます。	
	事後学修	各自が設定したスキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
	事前学修	引き続き、スキルアップ課題に取り組みましょう	2.0
10	授業	スキルアップ課題の進捗を報告してもらいます。	
	事後学修	引き続き、スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
	事前学修	引き続き、スキルアップ課題に取り組みましょう	2.0
11	授業	スキルアップ課題の成果を発表してもらいます。	
	事後学修	課題の内容を振り返り、次の作品づくりに活かしましょう。	2.0
	事前学修	レクリエーションの準備をしておきましょう。	2.0
12	授業	企画・実施・評価のトレーニングの一環としてのレクリエーションを行います。レクリエーションの内容はゼミ生同士の話し合いを元に決定します。	
	事後学修	これまでのゼミ活動を一旦振り返っておきましょう。	2.0
	事前学修	グループワークに向けた事前準備をしておきましょう。	2.0
13	授業	グループワーク（提示した課題に対するディスカッション）を行います。	

	事後学修	グループワークの課題に取り組みましょう	2.0
14	事前学修	引き続き、グループワークの課題に取り組みましょう。 オンラインのコミュニケーションツールを活用して、グループのメンバーとの打ち合わせも行いましょう。	2.0
	授業	グループワーク（ディスカッション）の結果をプレゼンテーションします。他のグループの発表について、質問をすることで、課題に対する理解を深めましょう。	
	事後学修	グループワークの内容を振り返っておきましょう	2.0
15	事前学修	ゼミナールⅠのゼミ活動について、個人的に振り返っておきましょう	2.0
	授業	ゼミナールⅠの振り返りを行います。	
	事後学修	前期を振り返りつつ、休み期間の作品制作の内容を検討しておきましょう	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% ■演習課題：90% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
ゼミでの発表資料や制作した作品等を、POLITE や Google ドライブ等にアップしてもらいます。 ゼミ中や POLITE を通じて、発表や作品に対するコメントをフィードバックします。			
教科書			
参考書・Web サイト		斎藤一ゼミ Web サイト： https://wine.do-johodai.ac.jp/	
単位修得が望ましい科目		HTML コーディング演習，Web デザイン基礎演習，インストラクショナルデザイン演習，Web 制作プロジェクト	
備考		3・4年生一緒にゼミ活動を行います。4年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。	
担当教員の実務経験		実務経験なし	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	斎藤 一 (122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
「デザイン」と「テクノロジー」を融合した 「観光」や「教育」に向けた Web・アプリ・ゲーム制作 本ゼミでは、個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。 作品の種類は、Web、アプリ、デジタルゲーム、アナログゲーム、ポスター、パンフレット、プロジェクションマッピング、インスタレーションなど多岐にわたり、解決したい課題（主に観光・教育分野）に応じて、ディスカッションを通して決定します。 主要な研究・制作テーマ 1. AI を活用した Web・スマートフォンアプリ開発 人間同士、あるいは人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで、新しい価値を生み出すアプリケーションの開発を目指します。AI（人工知能）などのテクノロジーを活用し、デザイン性にも配慮した Web サイトやアプリの制作を行います。 2. 教育・学習支援に関する研究／インストラクショナル・デザインに基づく教材制作 教育や学習における課題を調査し、ICT を活用することでその解決を目指します。また、インストラクショナル・デザイン（ID）に基づき、Web 制作技術、CMS、LMS などを用いた教育・学習教材の制作にも取り組みます。 3. ゲーミフィケーションに関する研究 ゲームデザインの考え方を活用する手法をゲーミフィケーションといいます。また、シリアスゲームとは、社会的課題の解決を目的としたゲームを指します。本ゼミでは、観光や教育分野を対象としたゲームの活用について研究します。 4. フィールドワークに基づいた作品制作 フィールドワークとは、現地を実際に訪れ、資料収集や関係者へのヒアリング、アンケート調査などを行い、客観的な成果を得るための学術的手法です。地域における課題を調査し、IT を活用して課題解決を目指す作品（アプリ、Web サイト、パンフレット等）の制作を行います。						
授業における学修の到達目標						
・自ら制作テーマや目標を設定し、自発的に活動しましょう。 ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決していきましょう。 ・企画したサイトやアプリ等を制作し、いろいろな人に評価をしてもらいましょう。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	休み期間の活動を振り返っておきましょう。作品制作の進捗状況なども各自で確認しておきましょう。				2.0
	授業	ガイダンスを行います。また、各自、休み中の活動について報告をしてもらいます。				
	事後学修	後期の（とくにゼミ展示に向けた）制作活動について、計画を立てておきましょう。				2.0
2	事前学修	リクリエーションの内容をゼミ生同士で話し合っておきましょう				2.0

	授業	企画・実施・評価のトレーニングの一環として、リクリエーションを行います。またこの取組を通じて、ゼミ生同士の親睦を深めます。	
	事後学修	リクリエーションの内容を振り返っておきましょう。	2.0
	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう	2.0
3	授業	ゼミ展示に向けて作品制作を行います。	
	事後学修	授業時間以外の時間も使って、作品制作を行いましょう。	2.0
	事前学修	引き続き、大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう	2.0
4	授業	ゼミ展示にむけた、作品制作の進捗状況を確認します。	
	事後学修	引き続き、大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう	2.0
	事前学修	ゼミ展示の実施に向けて、作品の評価フォームの準備など、最終の準備を行いましょう。	2.0
5	授業	ゼミ展示を実施します。展示を見てくれた方に対して、作品のレビュー（評価）をしてもらいましょう。	
	事後学修	作品のレビューをまとめ、作品をアップデートしましょう。	2.0
	事前学修	ゼミ展示の個人的な振り返りを行っておきましょう。	2.0
6	授業	ゼミ展示の振り返りを行います。	
	事後学修	ゼミ展示の経験を通して、更にスキルアップするための課題を探しましょう。	2.0
	事前学修	後期のスキルアップ課題を決めておきましょう。	2.0
7	授業	設定したスキルアップ課題について説明をしてもらいます。	
	事後学修	スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
	事前学修	引き続き、スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
8	授業	スキルアップ課題の進捗報告をしてもらいます。	
	事後学修	ゼミ中での、教員や他のメンバーのコメントを参考に、スキルアップ課題をブラッシュアップしましょう。	2.0
	事前学修	スキルアップ課題の成果をまとめたプレゼン資料を作成しましょう。	2.0
9	授業	スキルアップ課題の成果報告をしてもらいます。	
	事後学修	ゼミ中の成果報告で得られたコメント等を参考に、各自で課題の振り返りを行いましょう。	2.0
	事前学修	コンテンツ研究会に向けた発表準備をしておきましょう。	2.0
10	授業	コンテンツ研究会（既存作品のレビュー）を実施します。	
	事後学修	他のメンバーの発表で、参考になった作品について、自分でも調査をしてみましょう。	2.0
	事前学修	前回発表を行わなかったメンバーは、発表の準備をしておきましょう。発表済みのメンバーは、振り返りを行ってください。	2.0
11	授業	引き続き、コンテンツ研究会（既存作品のレビュー）を行います。	
	事後学修	他のメンバーの発表で、参考になった作品について、自分でも調査をしてみましょう。	2.0
	事前学修	卒業研究発表会や4年生の作品の成果発表会のプログラムを確認し、聴講プランを立てましょう。	2.0
12	授業	卒業研究発表会や4年生の作品成果発表会を聴講します。	
	事後学修	4年生たちの卒業研究や作品制作についての感想をまとめておきましょう。	2.0
	事前学修	自身の次年度の作品制作についてイメージをしながら、聴講プランの見直しをしましょう。	2.0
13	授業	引き続き、卒業研究発表会や4年生の作品成果発表会を聴講します。	
	事後学修	4年生たちの卒業研究や作品制作についての感想をレポートとしてまとめて提出しましょう。	2.0
	事前学修	卒業研究または4年次の制作テーマを考えましょう	2.0
14	授業	次年度の制作・研究テーマ案をプレゼンテーションしてもらいます。	

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
「デザイン」と「テクノロジー」を融合した 「観光」や「教育」に向けた Web・アプリ・ゲーム制作 本ゼミでは、個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。 作品の種類は、Web、アプリ、デジタルゲーム、アナログゲーム、ポスター、パンフレット、プロジェクションマッピング、インスタレーションなど多岐にわたり、解決したい課題（主に観光・教育分野）に応じて、ディスカッションを通して決定します。 主要な研究・制作テーマ 1. AI を活用した Web・スマートフォンアプリ開発 人間同士、あるいは人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで、新しい価値を生み出すアプリケーションの開発を目指します。AI（人工知能）などのテクノロジーを生かし、デザイン性にも配慮した Web サイトやアプリの開発を行います。 2. 教育・学習支援に関する研究／インストラクショナル・デザインに基づく教材制作 教育や学習における課題を調査し、ICT を活用することでその解決を目指します。また、インストラクショナル・デザイン（ID）に基づき、Web 制作技術、CMS、LMS などを用いた教育・学習教材の制作も行います。 3. ゲーミフィケーションに関する研究 ゲームデザインの考え方を活用する手法をゲーミフィケーションといいます。また、シリアスゲームとは、社会的課題の解決を目的として利用されるゲームを指します。本ゼミでは、観光や教育分野を対象としたゲームの活用について研究しています。 4. フィールドワークに基づいた作品制作 フィールドワークとは、現地を実際に訪れ、資料収集や関係者へのヒアリング、アンケート調査などを行い、客観的な成果を得るための学術的手法です。フィールドワークを通して地域における課題を調査し、IT を活用して課題解決を目指す作品（アプリ、Web サイト、パンフレット等）を制作します。						
授業における学修の到達目標						
・自ら制作テーマや目標を設定し、自発的に活動しましょう。 ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決していきましょう。 ・企画したサイトやアプリ等を制作し、いろいろな人に評価をしてもらいましょう。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスや研究室のサイト（参考サイトに URL を記載）を確認し、ゼミ活動の概要を把握しておきましょう				2.0
	授業	前期 ガイダンス： 4 年目のゼミナールの活動について説明します				
	事後学修	今後のゼミ活動（関連研究や作品の調査等を含む）の計画を立てましょう				2.0

2	事前学修	自己紹介プレゼン（3年生の新ゼミ生向け）の準備をしておきましょう	2.0
	授業	3年生の新ゼミ生向けに自己紹介のプレゼンテーションをしてもらいます。	
	事後学修	今後のプロジェクト活動のために、自己紹介プレゼンの内容を振り返り、ゼミナールメンバーの名前や興味のある研究分野等を把握しておきましょう。	2.0
3	事前学修	作品制作の参考とするために、既存作品の調査を行いましょう。	2.0
	授業	既存作品の調査を行います。	
	事後学修	ひきつづき、既存作品の調査を行いましょう。他のゼミ生が調べている作品なども参考にしながら、視野を広げて、調査を進めましょう	2.0
4	事前学修	調査した作品について説明するスライドづくりをはじめましょう。	2.0
	授業	ひきつづき、既存作品の調査を行います。また、調査結果の発表に向けた資料作りをします。	
	事後学修	調査結果の発表資料をつくりましょう。	2.0
5	事前学修	発表資料の最終チェックを行いましょう。	2.0
	授業	調査した作品を説明する、プレゼンテーションを行います。	
	事後学修	他のゼミ生が説明した作品で、興味を持った内容を、自分でも追調査し、理解を深めましょう。	2.0
6	事前学修	未発表のメンバーは、発表資料の最終チェックを行いましょう。 発表済みのメンバーは、他のゼミ生が説明した作品で、興味を持った内容を、自分でも追調査し、理解を深めましょう。	2.0
	授業	調査した作品を説明する、プレゼンテーション（二週目）を行います。	
	事後学修	他のゼミ生が説明した作品で、興味を持った内容を、自分でも追調査し、理解を深めましょう。	2.0
7	事前学修	フィールドワークをするエリアや内容を事前に調べておきましょう。	2.0
	授業	フィールドワークを実施します。 （フィールドワークが困難な場合などは、Webを利用した調べ学習を行います。）	
	事後学修	フィールドワーク中に調査した資料をよく読み、課題を発見しましょう。	2.0
8	事前学修	フィールドワークが無事に終了するよう、各自、ベストを尽くしましょう。	2.0
	授業	引き続き、フィールドワークを実施します。	
	事後学修	収集した資料を整理しておきましょう。整理した資料をもとに発見した課題も整理しておきましょう。	2.0
9	事前学修	技術・デザイン勉強会で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会	
	事後学修	勉強会の内容を復習しておきましょう。	2.0
10	事前学修	技術・デザイン勉強会（二回目）で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう。	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会（二回目）	
	事後学修	勉強会（二回目）の内容を復習しておきましょう。	2.0
11	事前学修	企画プレゼンの準備をしましょう。	2.0
	授業	企画プレゼンの準備	
	事後学修	引き続き、企画プレゼンに向けた準備をしましょう。	2.0
12	事前学修	企画プレゼンの資料の最終確認をしておきましょう。	2.0
	授業	企画プレゼン	
	事後学修	企画プレゼン時に、ゼミ生や教員から得られたコメントを参考に、企画をブラッシュアップしましょう。	2.0
13	事前学修	プロトタイプ開発の準備をしておきましょう。	2.0

	授業	プロトタイプ開発	
	事後学修	引き続き、プロトタイプ開発をすすめてみましょう。	2.0
	事前学修	プロトタイプの評価に向けた準備をはじめましょう。	2.0
14	授業	プロトタイプ開発（第二週）	
	事後学修	プロトタイプの開発が終了できるようにしましょう。	2.0
	事前学修	プロトタイプの評価の準備をしておきましょう。	2.0
15	授業	制作したプロトタイプの評価会を行います。	
	事後学修	プロトタイプの評価会で得られたコメントをまとめておきましょう。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% ■演習課題：100% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE のゼミナールのページを通じて、コメント等をフィードバックします。			
教科書			
参考書・Web サイト		斎藤一ゼミ Web サイト： https://wine.do-johodai.ac.jp/	
単位修得が望ましい科目		HTML コーディング演習，Web デザイン基礎演習， インストラクショナルデザイン演習， Web 制作プロジェクト	
備考		3 ・ 4 年生一緒にゼミ活動を行います。3 年生のゼミの時間も時間を空けておいってください。	
担当教員の実務経験		実務経験なし	

成績評価の方法およびその基準

☐試験： % ☐小テスト： % ☒レポート：10% ☒演習課題：100% ☐その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE のゼミナールのページを通じて、コメント等をフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	斎藤一ゼミ Web サイト： https://wine.do-johodai.ac.jp/
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習， Web デザイン基礎演習， インストラクショナルデザイン演習， Web 制作プロジェクト
備考	3 ・ 4 年生一緒にゼミ活動を行います。 3 年生のゼミの時間も時間を空けておいってください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
「デザイン」と「テクノロジー」を融合した 「観光」や「教育」に向けた Web・アプリ・ゲーム制作 本ゼミでは、個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。 作品の種類は、Web、アプリ、デジタルゲーム、アナログゲーム、ポスター、パンフレット、プロジェクションマッピング、インスタレーションなど多岐にわたり、解決したい課題（主に観光・教育分野）に応じて、ディスカッションを通して決定します。 主要な研究・制作テーマ 1. AI を活用した Web・スマートフォンアプリ開発 人間同士、または人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで、新しい価値を生み出すアプリケーションの開発を目指します。AI（人工知能）などのテクノロジーを生かし、デザイン性にも配慮した Web サイトやアプリの開発を行います。 2. 教育・学習支援に関する研究／インストラクショナル・デザインに基づく教材制作 教育や学習における課題を調査し、ICT を活用することでその解決を目指します。また、インストラクショナル・デザイン（ID）に基づき、Web 制作技術、CMS、LMS などを用いた教育・学習教材の制作にも取り組みます。 3. ゲーミフィケーションに関する研究 ゲームデザインの考え方を活用する手法をゲーミフィケーションといいます。また、シリアスゲームとは、社会的課題の解決を目的として利用されるゲームを指します。本ゼミでは、観光や教育分野を対象としたゲームの活用について研究します。 4. フィールドワークに基づいた作品制作 フィールドワークとは、現地を実際に訪れ、資料収集や関係者へのヒアリング、アンケート調査などを行い、客観的な成果を得るための学術的手法です。フィールドワークを通して地域における課題を調査し、IT を活用して課題解決を目指す作品（アプリ、Web サイト、パンフレット等）を制作します。						
授業における学修の到達目標						
・自ら制作テーマや目標を設定し、自発的に活動しましょう。 ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決していきましょう。 ・企画したサイトやアプリ等を制作し、いろいろな人に評価をしてもらいましょう。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	休み期間の活動を振り返っておきましょう。作品制作の進捗状況なども各自で確認しておきましょう。				2.0
	授業	ガイダンスを行います。また、各自、休み中の活動について報告をしてもらいます。				
	事後学修	後期の（とくにゼミ展示に向けた）制作活動について、計画を立てておきましょう。				2.0
2	事前学修	リクリエーションの内容をゼミ生同士で話し合っておきましょう				2.0

	授業	授業 リクリエーションを通じて、ゼミ生同士の親睦を深めます。	
	事後学修	リクリエーションの内容を振り返っておきましょう。	2.0
3	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けて卒業制作の展示準備を行いましょう	2.0
	授業	ゼミ展示に向けて卒業制作（β版）の展示を目指します。	
	事後学修	授業時間以外の時間も使って、制作を行いましょう。	2.0
4	事前学修	引き続き、大学祭のゼミ展示に向けた制作を行いましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示にむけた、卒業制作の進捗状況を確認します。	
	事後学修	引き続き、大学祭のゼミ展示に向けた制作を行いましょう。	2.0
5	事前学修	ゼミ展示の実施に向けて、作品の評価フォームの準備など、最終の準備を行いましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示を実施します。展示を見てくれた方に対して、作品のレビュー（評価）をしてもらいましょう。	
	事後学修	作品のレビューをまとめ、作品をアップデートしましょう。	2.0
6	事前学修	ゼミ展示の個人的な振り返りを行っておきましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示の振り返りを行います。	
	事後学修	ゼミ展示での評価を踏まえて、卒業制作（β版）の改善点を明らかにしましょう。	2.0
7	事前学修	卒業制作の完成を目指して、評価で得られた改善点を改善していきましょう。	2.0
	授業	卒業制作の完成を目指します。進捗状況を報告し、ゼミ生同士で作品についてのディスカッションを行います。	
	事後学修	ゼミでのディスカッションで得られた意見をまとめて、作品制作に活かしましょう。	2.0
8	事前学修	卒業制作の完成を目指して作業をしておきましょう。	2.0
	授業	卒業制作の進捗報告を行います。	
	事後学修	ゼミで得られた意見をまとめて、作品制作に活かしましょう。	2.0
9	事前学修	技術・デザイン勉強会で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会	
	事後学修	勉強会の内容を復習しておきましょう。	2.0
10	事前学修	技術・デザイン勉強会（二回目）で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会（二回目）	
	事後学修	勉強会（二回目）の内容を復習しておきましょう。	2.0
11	事前学修	リクリエーションの内容を決めておきましょう。	2.0
	授業	リクリエーションを実施します。リクリエーションの内容はゼミ生同士で話し合って決めておきます。	
	事後学修	リクリエーションを振り返りましょう。	2.0
12	事前学修	最終制作（卒業制作の完成）をすすめましょう。	2.0
	授業	最終制作の作業をすすめます。	
	事後学修	引き続き、最終制作をすすめましょう。	2.0
13	事前学修	最終制作の進捗を報告できるようにしておきましょう。	2.0
	授業	最終制作の進捗報告を行います。	
	事後学修	最終制作のプレゼンテーションに向けた準備を始めましょう。	2.0
14	事前学修	最終制作のプレゼンテーションの準備を完了させましょう。	2.0
	授業	最終制作のプレゼンテーションを行います。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ						
視覚芸術、感性工学の分野から、魅力的な表現や有用な情報発信に向けた能力の向上に取り組みます。コンテストへの応募やグループワークを通して、実践的な企画力やコミュニケーション力を身につける。						
○概要						
イラストレーション、グラフィックデザインの分野を起点として、私たちの生活に新しい価値の提示を目指し、有用かつ魅力的な表現や提案企画する能力を身につける。						
前期は、イラストレーション作品の制作（5 課題を予定）を中心に行う。後期は統計・実験デザインの基礎を学び、感性工学に基づいた発想やコンセプト作りなどを習得する。ゼミ活動として、プロジェクト制作に取り組む場合がある。						
各個人の表現力を高めながら、他者とのディスカッションや、作品紹介などを通して、発想力のあるデザイナー、イラストレーターを目指す。また、テーマに応じて、さまざまな発想・表現ができる柔軟性を身につけつつグループワークでは、他者と協働する能力を身につける。						
授業における学修の到達目標						
個人においての表現、発想力を向上させる。また同時に、他者と協力したり、意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ、社会で活躍するクリエイターを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールで身につけたい技術について調べる				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	ゼミで取り組める内容について確認する				2
2	事前学修	キャラクターや身の回りの人物表現の頭身（プロポーション）を観察しておく				2
	授業	人物描写のポイント、頭身の変化のさせ方に関するレクチャー、ラフスケッチと制作				
	事後学修	頭身を変化させた人物表現の課題制作				2
3	事前学修	制作プロセスで考えたこと、工夫したことを言語化しておく				2
	授業	頭身を変化させた人物表現の課題制作の講評				
	事後学修	頭身変化による印象の違いとかき分け方の確認				2
4	事前学修	身の回りのキャラクター表現について、その必然性を考えておく				2
	授業	キャラクターデザイン（1）ラフと制作				
	事後学修	キャラクター制作課題を進めておく				2
5	事前学修	キャラクター紹介を説明できるよう、考えておく				2
	授業	キャラクターデザイン（2）講評				
	事後学修	キャラクターのメディア展開を考える				2
6	事前学修	パース（一点透視図法）の描写方法について調べておく				2
	授業	一点透視図法を使った、空間表現の練習				

	事後学修	一点透視図法の作画方法を確認しておく	2
7	事前学修	図法を使った空間表現でどのようなことが可能か、考えておく	2
	授業	一点透視図法を使った、空間表現の応用・講評	
	事後学修	授業内容の確認	2
8	事前学修	色彩によるイメージの違いを感じられる例を集めておく	2
	授業	3色のみのイラスト表現（1）ラフ・制作	
	事後学修	制作課題を進めておく	2
9	事前学修	自身の作品コンセプトを言語化しておく	2
	授業	3色のみのイラスト表現（2）講評	
	事後学修	多色の場合と、色数を限定した場合との印象や機能の違いを考えておく	2
10	事前学修	書籍の装丁デザインの工夫を観察しておく。装画を書きたい本を探しておく	2
	授業	本の装画・挿絵（1）ガイダンス、ビブリオバトルの説明、自身の読んで面白かった本の書き出し	
	事後学修	ビブリオバトルのルール確認	2
11	事前学修	ビブリオバトルの準備	2
	授業	本の装画・挿絵（2）ビブリオバトル、本の装画・挿絵の検討 蒼天祭（大学祭）展示計画の検討（1）展示テーマ	
	事後学修	自身の本の紹介の反省、他者の本の紹介の工夫されていた点を考えておく	2
12	事前学修	制作方法を検討しておく	2
	授業	本の装画・挿絵（3）制作 蒼天祭（大学祭）展示計画の検討（2）展示規模・作品数	
	事後学修	作品のブラッシュアップ	2
13	事前学修	制作意図を言語化しておく	2
	授業	本の装画・挿絵（4） 蒼天祭（大学祭）展示計画の検討（3）展示方法・役割の検討	
	事後学修	装画・挿絵に合うフォントを考える	2
14	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業進捗報告準備	2
	授業	4年生卒業研究企画発表会聴講（1週目）	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業	2
15	事前学修	ゼミ紹介案の検討（夏休みのイベント準備）	2
	授業	4年生卒業研究企画発表会聴講（2週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート） 未提出課題の提出	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：50% ■その他[グループワーク：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：色彩・デザイン演習，ビジュアル構成演習
備考	なし

担当教員の実務経験

グラフィックデザイン，イラストレーションなどの制作実務経験を活かし，実用性とクオリティとを両立させた制作について指導する.

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC303	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ						
視覚芸術，感性工学の分野から，魅力的な表現や有用な情報発信に向けた能力の向上に取り組みます。コンテストへの応募やグループワークを通して，実践的な企画力やコミュニケーション力を身につける。						
○概要						
イラストレーション，グラフィックデザインの分野を起点として，私たちの生活に新しい価値の提示を目指し，有用かつ魅力的な表現や提案企画する能力を身につける。						
前期は，イラストレーション作品の制作（5 課題を予定）を中心に行う。後期は統計・実験デザインの基礎を学び、感性工学に基づいた発想やコンセプト作りなどを習得する。ゼミ活動として、プロジェクト制作に取り組む場合がある。						
各個人の表現力を高めながら，他者とのディスカッションや，作品紹介などを通して，発想力のあるデザイナー，イラストレーターを目指す。また，テーマに応じて，さまざまな発想・表現ができる柔軟性を身につけつつグループワークでは，他者と協働する能力を身につける。						
授業における学修の到達目標						
個人においての表現，発想力を向上させる。また同時に，他者と協力したり，意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ，社会で活躍するクリエイターを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討				2
	授業	ゼミ紹介案の企画・設計				
	事後学修	ゼミ紹介の準備				2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告準備				2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告プレゼン				
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告での指摘についての対応				2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備				2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル				
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサルでの問題についての対応				2
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省				2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省				
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）				2
5	事前学修	可能なら参考書に目を通す				2
	授業	統計・実験デザインの基礎（1）質的変数・量的変数、正規分布				
	事後学修	講義内容の復習				2
6	事前学修	可能なら参考書に目を通す				2
	授業	統計・実験デザインの基礎（2）統計的有意、t 検定				

	事後学修	講義内容の復習	2
7	事前学修	可能なら参考書に目を通す	2
	授業	統計・実験デザインの基礎 (3) カイ二乗検定：適合度の検定	
	事後学修	講義内容の復習	2
8	事前学修	可能なら参考書に目を通す	2
	授業	統計・実験デザインの基礎 (4) カイ二乗検定：独立性の検定	
	事後学修	講義内容の復習	2
9	事前学修	可能なら参考書に目を通す	2
	授業	統計・実験デザインの基礎 (5) 分散分析	
	事後学修	講義内容の復習	2
10	事前学修	可能なら参考書に目を通す	2
	授業	統計・実験デザインの基礎 (6) 多重比較 (トゥーキーの方法)	
	事後学修	講義内容の復習	2
11	事前学修	心理統計を使って実験したい内容を考えておく	2
	授業	統計・実験デザインの基礎 (7) 実験デザインの実習、総括	
	事後学修	講義内容の復習	2
12	事前学修	関心のある制作分野について調べておく	2
	授業	デザイン制作 (1) 統計的手法を使ったデザイン提案、ガイダンス	
	事後学修	講義内容の復習	2
13	事前学修	企画書の書き方を調べておく	2
	授業	デザイン制作 (2) 統計的手法を使ったデザイン提案、企画書の制作	
	事後学修	講義内容の復習	2
14	事前学修	プレゼンテーションの要点を調べておく	2
	授業	デザイン制作 (3) 統計的手法を使ったデザイン提案、企画書のブラッシュアップ	
	事後学修	講義内容の復習	2
15	事前学修	プレゼン準備	2
	授業	デザイン制作 (4) プレゼンテーション・講評 今年度の総括	
	事後学修	講義内容の復習	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 20% ■演習課題： 50% ■その他[グループワーク： 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：色彩・デザイン演習，ビジュアル構成演習
備考	なし
担当教員の実務経験	グラフィックデザイン，イラストレーションなどの制作実務経験を活かし，実用性とクオリティとを両立させた制作について指導する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ 人の生活に寄り添った、有用なデザイン提案を目指します。感性工学の知識、ビジュアル表現、デジタル技術などを応用して新たな提案をするための表現力、発想力を養います。						
○概要 視覚表現と工学の分野で、新しく魅力的な表現、価値の創造に取り組みます。 具体的には、2つのグループのうちの一つまたは複数に所属し、自らテーマを設定し活動します。						
1.研究分野 新規性のある研究テーマの開拓、分析に重きをおく。 UI・UX、感性工学、視覚表現の伝達などの分野の調査・研究に取り組む。						
2.制作分野 魅力的で完成度の高いビジュアル表現の制作に重きをおく。 イラストレーション、グラフィックデザイン、デジタルアートなどの分野での制作に取り組む。						
志望する進路・適性などにに基づき、いずれかのグループに分かれますが、共に課題や制作に取り組みます。 研究分野では、学外の研究会などでの研究発表を行う場合があります。制作分野では、産学連携事業やコンテスト応募などを学外への作品発表を課題として指導する場合があります。						
授業における学修の到達目標						
個人における表現、発想力を向上させる。また同時に、他者と協力したり、意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ、社会で活躍するクリエイターを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	3年生での取り組みを振り返る				2.0
	授業	ガイダンス				
	事後学修	これからの1年の取り組みを計画する				2.0
2	事前学修	ビブリオバトルについて調べておく				2.0
	授業	アイスブレイク（ビブリオバトル）				
	事後学修	紹介内容と他者からのコメントをまとめる				2.0
3	事前学修	1年間の取り組みのプレゼン準備				2.0
	授業	1年間の取り組みについてのプレゼン				
	事後学修	質問・コメントをまとめる				2.0
4	事前学修	よいプレゼンについて調べる				2.0
	授業	よいプレゼンの方法の講習				
	事後学修	先週のプレゼン資料を見直す				2.0

5	事前学修	自身が興味のあるクリエイター、研究/制作分野について調べる	2.0
	授業	自身が興味のある研究/制作分野について発表する	
	事後学修	質疑の内容を整理しておき、回答できなかったことを調べておく	2.0
6	事前学修	自分の研究テーマについて整理する	2.0
	授業	研究テーマについてグループでブレスト	
	事後学修	ブレストで出た意見をまとめる	2.0
7	事前学修	卒業研究/制作で取り組むテーマを考え、プレゼンの準備	2.0
	授業	卒業研究/制作で取り組むについてのプレゼン	
	事後学修	卒業研究/制作で取り組むテーマについてのプレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
8	事前学修	就職活動についての報告資料をまとめる	2.0
	授業	就職活動の状況について報告する	
	事後学修	自分の取り組み状況の問題点・課題についてまとめる	2.0
9	事前学修	企画書（研究/制作計画）の書き方について調べる	2.0
	授業	企画書（研究/制作計画）の作成について	
	事後学修	企画書（研究/制作計画）を作成する	2.0
10	事前学修	作成した企画書（研究/制作計画）を見直す	2.0
	授業	企画書を相互に確認し、伝わり方や問題点について考える（1回目）	
	事後学修	企画書（研究/制作計画）を修正する	2.0
11	事前学修	修正した企画書（研究/制作計画）を見直す	2.0
	授業	企画書を相互に確認し、伝わり方や問題点について考える（2回目）	
	事後学修	企画書（研究/制作計画）を修正する	2.0
12	事前学修	企画発表会のプレゼン資料を作成する	2.0
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（1回目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
13	事前学修	1回目のプレゼンで受けた質問・コメントを参考にプレゼン資料を修正する	2.0
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（2回目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
14	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し	2.0
	授業	卒業研究/制作企画発表会（1週目）	
	事後学修	企画発表会での発表に対する質問・コメントおよび他の人の発表をまとめる	2.0
15	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し	2.0
	授業	卒業研究/制作企画発表会（2週目）	
	事後学修	企画発表会での発表に対する質問・コメントおよび他の人の発表をまとめる	2.0

☐試験： % ☐小テスト： % ☒レポート： 30% ☒演習課題： 70% ☐その他[]

面談より適宜、フィードバックする

参考書・Web サイト	なし

備考	なし
担当教員の実務経験	グラフィックデザイン， イラストレーションなどの制作実務経験を活かし， 実用性とクオリティとを両立させた制作について指導する.

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ						
人の生活に寄り添った、有用なデザイン提案を目指します。感性工学の知識、ビジュアル表現、デジタル技術などを応用して新たな提案をするための表現力、発想力を養います。						
○概要						
視覚表現と工学の分野で、新しく魅力的な表現、価値の創造に取り組みます。						
具体的には、2つのグループのうちの一つまたは複数に所属し、自らテーマを設定し活動します。						
1.研究分野						
新規性のある研究テーマの開拓、分析に重きをおく。						
UI・UX、感性工学、視覚表現の伝達などの分野の調査・研究に取り組む。						
2.制作分野						
魅力的で完成度の高いビジュアル表現の制作に重きをおく。						
イラストレーション、グラフィックデザイン、デジタルアートなどの分野での制作に取り組む。						
志望する進路・適性などにに基づき、いずれかのグループに分かれますが、共に課題や制作に取り組みます。						
研究分野では、学外の研究会などでの研究発表を行う場合があります。制作分野では、産学連携事業やコンテスト応募などを学外への作品発表を課題として指導する場合があります。						
授業における学修の到達目標						
個人においての表現、発想力を向上させる。また同時に、他者と協力したり、意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ、社会で活躍するクリエイターを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討				2.0
	授業	ゼミ紹介案の企画・設計				
	事後学修	ゼミ紹介の準備				2.0
2	事前学修	卒業/制作論文の手引きの確認				2.0
	授業	卒業/制作論文の書き方講習				
	事後学修	卒業/制作論文の目次を作成する				2.0
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備				2.0
	授業	3年生の蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル対応				
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の問題に対するサポート				2.0
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省				2.0
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省				
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）				2.0

5	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備	2.0
	授業	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン	
	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）	2.0
6	事前学修	卒業研究/制作進捗報告プレゼンの準備	2.0
	授業	卒業研究/制作進捗報告プレゼン	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
7	事前学修	研究/制作の要点をまとめる	2.0
	授業	小論の執筆，試作の制作	
	事後学修	小論の初稿を完成する。試作を完成させる。	2.0
8	事前学修	小論の見直し，試作の見直し	2.0
	授業	小論，試作の相互チェック（1回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
9	事前学修	指摘をもとに小論，試作の修正	2.0
	授業	小論，試作の相互チェック（2回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
10	事前学修	指摘をもとに小論，試作の修正	2.0
	授業	小論，試作の相互チェック（3回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
11	事前学修	卒論の手引きを読み，小論のフォーマットを確認する	2.0
	授業	小論のフォーマットの相互チェック	
	事後学修	小論フォーマットの間違いを修正する	2.0
12	事前学修	卒業研究/制作の進捗を整理	2.0
	授業	卒業研究/制作のスケジュール確認	
	事後学修	卒業研究/制作のスケジュールを見直す	2.0
13	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（1回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0
14	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（2回目）	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（2回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0
15	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（3回目）	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（3回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 20% ■演習課題： 50% ■その他〔グループワーク：30%〕

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

面談で適宜、フィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	色彩・デザイン演習，ビジュアル構成・演習，イラスト制作演習

備考	なし
担当教員の実務経験	グラフィックデザイン， イラストレーションなどの制作実務経験を活かし， 実用性とクオリティとを両立させた制作について指導する.

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	三浦 洋 (221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC302	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
情報社会を生きるには、情報に関わる各種機器を使いこなす技術だけではなく、幅広い文化リテラシーが必要であり、その基礎となる教養を身につける必要がある。そのため、このゼミでは、哲学や芸術の教養や英語力を身につけることを目的として多角的に授業を行う。						
同時に、情報社会では高度なコミュニケーション能力が求められることから、ゼミの中での対話や討論を通して言語表現能力を高める学習や、他者の意見を聞いて理解する能力を高める学習も取り入れる。また、とくに書き言葉としての英語に対するリテラシーも高めるよう英文講読も行う。						
授業における学修の到達目標						
1 哲学、芸術、マスメディアの基本的なあり方を説明できる。						
2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表現できる。						
3 現代英語の標準的な文章を読解できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	文化リテラシーの意義				
	事後学修	文化リテラシーの意義について復習する				2.0
2	事前学修	配布された資料集のうち、現代哲学における個別主義の基本的な説明（英文）を読む				2.0
	授業	現代哲学における個別主義の基本				
	事後学修	現代哲学における個別主義の基本を復習する				2.0
3	事前学修	配布された資料集のうち、現代哲学における個別主義の多様性についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	現代哲学における個別主義の多様性				
	事後学修	現代哲学における個別主義の多様性を復習する				2.0
4	事前学修	配布された資料集のうち、ダンシーの個別主義の着想についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	ダンシーの個別主義の着想				
	事後学修	ダンシーの個別主義の着想を復習する				2.0
5	事前学修	配布された資料集のうち、ダンシーの個別主義の問題点についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	ダンシーの個別主義の問題点				
	事後学修	ダンシーの個別主義の問題点を復習する				2.0
6	事前学修	配布された資料集のうち、マクダウェルの個別主義の着想についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	マクダウェルの個別主義の着想				
	事後学修	マクダウェルの個別主義の着想を復習する				2.0
7	事前学修	配布された資料集のうち、マクダウェルの個別主義の問題点についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	マクダウェルの個別主義の問題点				
	事後学修	マクダウェルの個別主義の問題点を復習する				2.0
8	事前学修	配布された資料集のうち、ウィギンズの個別主義の着想についての説明（英文）を読む				2.0

	授業	ウィギンズの個別主義の着想	
	事後学修	ウィギンズの個別主義の着想を復習する	2.0
9	事前学修	配布された資料集のうち、ウィギンズの個別主義の問題点についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	ウィギンズの個別主義の問題点	
	事後学修	ウィギンズの個別主義の問題点を復習する	2.0
10	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の着想についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の着想	
	事後学修	芸術哲学における個別主義の着想を復習する	2.0
11	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の多様性についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の多様性	
	事後学修	芸術哲学における個別主義の多様性を復習する	2.0
12	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の多様性についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の多様性	
	事後学修	芸術哲学における個別主義の多様性を復習する	2.0
13	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の歴史についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の歴史	
	事後学修	芸術哲学における個別主義の歴史を復習する	2.0
14	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の問題点についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の問題点	
	事後学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の問題点についての説明を読む	2.0
15	事前学修	配布された資料集のうち、個別主義の今後の展開についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	個別主義の今後の展開	
	事後学修	個別主義の今後の展開を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験と演習課題については、授業の中で答案や提出物を講評し、改善すべき点について解説する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	芸術論、哲学
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	三浦 洋 (221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ			IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
情報社会を生きるには、情報に関わる各種機器を使いこなす技術だけではなく、幅広い文化リテラシーが必要であり、その基礎となる教養を身につける必要がある。そのため、このゼミでは、新聞などのマスメディアに関する知識とともに、哲学や芸術の教養や英語力を身につけることを目的として多角的に授業を行う。 同時に、情報社会では高度なコミュニケーション能力が求められることから、ゼミの中での対話や討論を通して言語表現能力を高める学習や、他者の意見を聞いて理解する能力を高める学習も取り入れる。また、とくに書き言葉としての英語に対するリテラシーも高めるよう英文講読も行う。						
授業における学修の到達目標						
1 マスメディア、哲学、芸術の基本的なあり方を説明できる。						
2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表現できる。						
3 現代英語の標準的な文章を読解できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	マスメディアの意義				
	事後学修	マスメディアの意義について復習する				2.0
2	事前学修	配布された資料集のうち、マスメディア論の基本についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	マスメディア論の基本				
	事後学修	マスメディア論の基本を復習する				2.0
3	事前学修	配布された資料集のうち、マスメディア論の歴史についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	マスメディア論の歴史				
	事後学修	マスメディア論の歴史を復習する				2.0
4	事前学修	配布された資料集のうち、19 世紀のマスメディア論についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	19 世紀のマスメディア論				
	事後学修	19 世紀のマスメディア論を復習する				2.0
5	事前学修	配布された資料集のうち、20 世紀前半のマスメディア論についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	20 世紀前半のマスメディア論				
	事後学修	20 世紀前半のマスメディア論を復習する				2.0
6	事前学修	配布された資料集のうち、20 世紀後半のマスメディア論についての説明（英文）を読む				2.0
	授業	20 世紀後半のマスメディア論				
	事後学修	20 世紀後半のマスメディア論を復習する				2.0
7	事前学修	配布された資料集のうち、16 世紀フランドル絵画のメディア性についての説明（和文）を読む				2.0
	授業	16 世紀フランドル絵画のメディア性				
	事後学修	16 世紀フランドル絵画のメディア性を復習				2.0
8	事前学修	配布された資料集のうち、17 世紀フランドル絵画のメディア性についての説明（和文）を読む				2.0

	授業	17 世紀フランドル絵画のメディア性	
	事後学修	17 世紀フランドル絵画のメディア性を復習する	2.0
9	事前学修	配布された資料集のうち、18 世紀の詩画論についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	18 世紀の詩画論	
	事後学修	18 世紀の詩画論を復習する	2.0
10	事前学修	配布された資料集のうち、19 世紀の詩画論についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	19 世紀の詩画論	
	事後学修	19 世紀の詩画論を復習する	2.0
11	事前学修	配布された資料集のうち、英字新聞の政治ニュース面についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	英字新聞の政治ニュース面	
	事後学修	英字新聞の政治ニュース面の意義を復習する	2.0
12	事前学修	配布された資料集のうち、英字新聞の社会ニュース面についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	英字新聞の社会ニュース面	
	事後学修	英字新聞の社会ニュース面の意義を復習する	2.0
13	事前学修	配布された資料集のうち、英字新聞の文化ニュース面についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	英字新聞の文化ニュース面	
	事後学修	英字新聞の文化ニュース面の意義を復習する	2.0
14	事前学修	配布された資料集のうち、英字新聞の芸術ニュース面についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	英字新聞の芸術ニュース面	
	事後学修	英字新聞の芸術ニュース面の意義を復習する	2.0
15	事前学修	配布された資料集のうち、コミュニケーションの意義についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	コミュニケーションの意義	
	事後学修	コミュニケーションの意義を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験と演習課題については、授業の中で答案や提出物を講評し、改善すべき点について解説する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	芸術論、哲学
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	三浦 洋 (221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ			IMC408
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
情報社会を生きるには、情報に関わる各種機器を使いこなす技術だけではなく、幅広い文化リテラシーが必要であり、その基礎となる教養を身につける必要がある。そのため、このゼミでは、哲学や芸術の教養や英語力を身につけることを目的として多角的に授業を行う。 同時に、情報社会では高度なコミュニケーション能力が求められることから、ゼミの中での対話や討論を通して言語表現能力を高める学習や、他者の意見を聞いて理解する能力を高める学習も取り入れる。また、とくに書き言葉としての英語に対するリテラシーも高めるよう英文購読も行う。						
授業における学修の到達目標						
1 哲学、芸術、マスメディアの基本的なあり方を説明できる。 2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表現できる。 3 現代英語の標準的な文章を読解できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する				2.0
	授業	文化リテラシーの意義				
	事後学修	文化リテラシーの意義について復習する				2.0
2	事前学修	配布された資料集のうち、モダニズムとポストモダニズムの基本的な説明(英文)を読む				2.0
	授業	モダニズムとポストモダニズムの基本				
	事後学修	モダニズムとポストモダニズムの基本を復習する				2.0
3	事前学修	配布された資料集のうち、モダニズムとポストモダニズムの多様性についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	モダニズムとポストモダニズムの多様性				
	事後学修	モダニズムとポストモダニズムの多様性を復習する				2.0
4	事前学修	配布された資料集のうち、哲学のモダニズムの基本についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	哲学のモダニズムの基本				
	事後学修	哲学のモダニズムの基本を復習する				2.0
5	事前学修	配布された資料集のうち、哲学のモダニズムの多様性についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	哲学のモダニズムの多様性				
	事後学修	哲学のモダニズムの多様性を復習する				2.0
6	事前学修	配布された資料集のうち、美術のモダニズムの基本についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	美術のモダニズムの基本				
	事後学修	美術のモダニズムの基本を復習する				2.0
7	事前学修	配布された資料集のうち、美術のモダニズムの多様性についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	美術のモダニズムの多様性				
	事後学修	美術のモダニズムの多様性を復習する				2.0
8	事前学修	配布された資料集のうち、音楽のモダニズムの基本についての説明(英文)を読む				2.0

	授業	音楽のモダニズムの基本	
	事後学修	音楽のモダニズムの基本を復習する	2.0
9	事前学修	配布された資料集のうち、音楽のモダニズムの多様性についての説明(英文)を読む	2.0
	授業	音楽のモダニズムの多様性	
	事後学修	音楽のモダニズムの多様性を復習する	2.0
10	事前学修	配布された資料集のうち、文学のモダニズムの基本についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	文学のモダニズムの基本	
	事後学修	文学のモダニズムの基本を復習する	2.0
11	事前学修	配布された資料集のうち、文学のモダニズムの多様性についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	文学のモダニズムの多様性	
	事後学修	文学のモダニズムの多様性を復習する	2.0
12	事前学修	配布された資料集のうち、演劇のモダニズムの基本についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	演劇のモダニズムの基本	
	事後学修	演劇のモダニズムの基本を復習する	2.0
13	事前学修	配布された資料集のうち、演劇のモダニズムの多様性についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	演劇のモダニズムの多様性	
	事後学修	演劇のモダニズムの多様性を復習する	2.0
14	事前学修	配布された資料集のうち、出版のモダニズムの基本についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	出版のモダニズムの基本	
	事後学修	出版のモダニズムの基本を復習する	2.0
15	事前学修	配布された資料集のうち、出版のモダニズムの多様性についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	出版のモダニズムの多様性	
	事後学修	出版のモダニズムの基本を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験と演習課題については、授業の中で答案や提出物を講評し、改善すべき点について解説する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	芸術論、哲学
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	三浦 洋 (221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
情報社会を生きるには、情報に関わる各種機器を使いこなす技術だけではなく、幅広い文化リテラシーが必要であり、その基礎となる教養を身につける必要がある。そのため、このゼミでは、哲学や芸術の教養や英語力を身につけることを目的として多角的に授業を行う。						
同時に、情報社会では高度なコミュニケーション能力が求められることから、ゼミの中での対話や討論を通して言語表現能力を高める学習や、他者の意見を聞いて理解する能力を高める学習も取り入れる。また、とくに書き言葉としての英語に対するリテラシーも高めるよう英文購読も行う。						
授業における学修の到達目標						
1 哲学、芸術、マスメディアの基本的なあり方を説明できる。						
2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表現できる。						
3 現代英語の標準的な文章を読解できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する				2.0
	授業	ジャーナリズムの意義				
	事後学修	ジャーナリズムの意義について復習する				2.0
2	事前学修	配布された資料のうち、ジャーナリズム論の基本についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	ジャーナリズム論の基本				
	事後学修	ジャーナリズム論の基本を復習する				2.0
3	事前学修	配布された資料のうち、ジャーナリズム論の歴史についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	ジャーナリズム論の歴史				
	事後学修	ジャーナリズム論の歴史を復習する				2.0
4	事前学修	配布された資料のうち、19 世紀のジャーナリズム論についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	19 世紀のジャーナリズム論				
	事後学修	19 世紀のジャーナリズム論を復習する				2.0
5	事前学修	配布された資料のうち、20 世紀前半のジャーナリズム論についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	20 世紀前半のジャーナリズム論				
	事後学修	20 世紀前半のジャーナリズム論を復習する				2.0
6	事前学修	配布された資料のうち、20 世紀後半のジャーナリズム論についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	20 世紀後半のジャーナリズム論				
	事後学修	20 世紀後半のジャーナリズム論を復習する				2.0
7	事前学修	配布された資料のうち、21 世紀のジャーナリズム論についての説明(英文)を読む				2.0
	授業	21 世紀のジャーナリズム論				
	事後学修	21 世紀のジャーナリズム論を復習する				2.0
8	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の共同体論についての説明(和文)を読む				2.0

	授業	政治哲学の共同体論	
	事後学修	政治哲学の共同体論を復習する	2.0
9	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の家政論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の家政論	
	事後学修	政治哲学の家政論を復習する	2.0
10	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の経済論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の経済論	
	事後学修	政治哲学の経済論を復習する	2.0
11	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の国家論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の国家論	
	事後学修	政治哲学の国家論を復習する	2.0
12	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の王制論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の王制論	
	事後学修	政治哲学の王制論を復習する	2.0
13	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の共和制論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の共和制論	
	事後学修	政治哲学の共和制論を復習する	2.0
14	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の貴族制論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の貴族制論	
	事後学修	政治哲学の貴族制論を復習する	2.0
15	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の民主制論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の民主制論	
	事後学修	政治哲学の民主制論を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験と演習課題については、授業の中で答案や提出物を講評し、改善すべき点について解説する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	芸術論、哲学
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
リレーショナルデータベースの利用方法を、演習を通して学びます。						
授業における学修の到達目標						
リレーショナルデータベースの利用目的、主要な機能について指摘できる。 基本的な SQL 文を利用できる。 リレーショナルデータベースを中心としたデータ管理に関する初歩的な具体例を実装できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義概要や LMS で授業の目的、到達目標を確認しておきましょう。				1
	授業	ガイダンス、データベースとは				
	事後学修	参考文献を読むなどして、RDBMS の機能をまとめておきましょう。				3
2	事前学修	LMS の資料に目を通しておきましょう。				1
	授業	データモデリングとデータベース設計				
	事後学修	参考文献を読むなどして、データモデリングの手順をまとめておきましょう。				3
3	事前学修	PostgreSQL について調べておきましょう。				2
	授業	PostgreSQL インストールと成績管理データベース定義				
	事後学修	演習で利用するすべてのデータのインポートを完了させておきましょう。				2
4	事前学修	「SQL 入門」の配布資料などで、基本的な問合せ処理の方法を確認しておきましょう。				2
	授業	成績管理データベース・単純質問とグループ化				
	事後学修	問合せ処理演習を完了させておきましょう。				2
5	事前学修	「SQL 入門」の配布資料などで、結合質問と副問合せ方法を確認しておきましょう。				2
	授業	成績管理データベース・結合質問と副問合せ				
	事後学修	結合質問と副問合せによる問合せ処理演習を完了させておきましょう。				2
6	事前学修	「SQL 入門」の配布資料などで、トランザクションの必要性和実現方法を確認しておきましょう。				2
	授業	成績管理データベース・トランザクション処理				
	事後学修	トランザクション管理演習を完了させておきましょう。				2
7	事前学修	LMS の資料を読んで、販売管理の内容を確認しておきましょう。				2
	授業	販売管理データベース構築・機密保護機能				
	事後学修	演習で利用するすべてのデータのインポートを完了させておきましょう。				2
8	事前学修	SQL による問合せ方法を整理しておきましょう。				2
	授業	販売管理データベース・問合せとストアドファンクション				
	事後学修	問合せ処理演習を完了させておきましょう。				2
9	事前学修	「SQL 入門」の配布資料などで、データ分析用 SQL を確認しておきましょう。				2
	授業	販売管理データベース・分析用 SQL				

	事後学修	データ分析演習を完了させておきましょう。	2
10	事前学修	「SQL 入門」の配布資料などで、インデックスについて確認しておきましょう。	2
	授業	MovieLens25M データセットを利用した索引効果の実験	
	事後学修	索引効果の実験を完了させておきましょう。	2
11	事前学修	LMS の資料を読んで、Java 言語の基本について確認しておきましょう。	2
	授業	Java(制御・配列・String)	
	事後学修	Java 言語の基本演習を完了させておきましょう。	2
12	事前学修	LMS の資料を読んで、Java 言語の集約型の扱い、及び例外処理について確認しておきましょう。	2
	授業	Java(集約型・例外処理)	
	事後学修	Java 言語のプログラミング演習を完了させておきましょう。	2
13	事前学修	参考文献を読んで、JDBC の役割について調べておこう。	2
	授業	JDBC インストール+Sample プログラム	
	事後学修	JDBC の動作確認を完了させておきましょう。	2
14	事前学修	聴講するセッションのプログラムを確認しておきましょう。	1
	授業	卒研企画発表会聴講	
	事後学修	聴講結果をレポートにまとめて、LMS から提出しましょう。	3
15	事前学修	発表会のプログラムを参照して、聴講するセッションを決めましょう。	1
	授業	卒研企画発表会聴講	
	事後学修	聴講結果をレポートにまとめて、LMS から提出しましょう。	3

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習に関する提出物についてはゼミナールの時間中のほか、LMS を通じて、フィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	北川博之；データベースシステム 改訂 2 版、オーム社 (2020) 西村めぐみ；標準 SQL+データベース入門、技術評論社 (2024) 増永良文；データベース入門、サイエンス社 第 2 版 (2021) その他、授業中もしくは LMS 上で、それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ICT 入門、コンピュータ、SQL 入門、プログラミング演習 I、Web プログラミング演習
備考	「基本情報技術者試験」に合格する上で必要な知識を扱っています。自主的な勉強を追加することにより資格取得が可能です。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間、民間企業で通信制御系システム開発、及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や、実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう、随時伝えていきます。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
リレーショナルデータベースによるアプリケーションを，Java 言語を使って実装します。実装成果をプレゼンテーションとレポートで発表します。						
授業における学修の到達目標						
リレーショナルデータベースと Java 言語を活用したアプリケーションを実装できる。 実行したアプリケーションについて，プレゼンテーション，レポートで発表できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	JDBC による Java プログラムの内容とその動作を確認しておきましょう。				1
	授業	DB プログラミング（前期の確認，DAO と DTO）				
	事後学修	DB プログラミング（前期の確認，DAO と DTO）				1
2	事前学修	LMS の説明に目を通し，パラメータマーカを使った問合せを確認しておきましょう。				1
	授業	DB プログラミング（パラメータマーカの使い方）				
	事後学修	課題プログラムを完成させ，動作確認を完了させておきましょう。				3
3	事前学修	LMS の説明に目を通し，データ挿入を使った問合せを確認しておきましょう。				1
	授業	DB プログラミング（データ更新処理とトランザクション管理）				
	事後学修	課題プログラムを完成させ，動作確認を完了させておきましょう。				3
4	事前学修	LMS の説明に目を通し，Swing による画面生成の方法を確認しておきましょう。				1
	授業	Java による GUI プログラミング（画面生成）				
	事後学修	課題プログラムを完成させ，動作確認を完了させておきましょう。				3
5	事前学修	LMS の説明資料をよく読んで，イベント処理の実装方法を確認しておきましょう。				1
	授業	Java による GUI プログラミング（イベント処理）				
	事後学修	課題プログラムを完成させ，動作確認を完了させておきましょう。				3
6	事前学修	開発する DB アプリケーションの概要を確認しておきましょう。				1
	授業	MyApp(students テーブル) の一覧表示プログラム				
	事後学修	課題プログラムを完成させ，動作確認を完了させておきましょう。				3
7	事前学修	パラメータマーカを使った問合せを確認しておきましょう。				1
	授業	MyApp（students テーブル）の条件検索プログラム				
	事後学修	課題プログラムを完成させ，動作確認を完了させておきましょう。				3
8	事前学修	データ挿入を使った問合せを確認しておきましょう。				1
	授業	MyApp（students テーブル）のデータ追加プログラム				
	事後学修	課題プログラムを完成させ，動作確認を完了させておきましょう。				3
9	事前学修	開発する DB アプリケーションの概要を確認しておきましょう。				1
	授業	掲示板アプリケーション開発（DB 定義）				

	事後学修	ClientTool から、データベースが正しく定義されていることを確認しておきましょう。	3
10	事前学修	データ挿入を使った問合せを確認しておきましょう。	1
	授業	掲示板アプリケーション開発（投稿機能）	
	事後学修	投稿機能が正しく動作するように、制作を完了させておきましょう。	3
11	事前学修	全件表示の問合せ方法と JLabel での結果表の表示方法を確認しておきましょう。	1
	授業	掲示板アプリケーション開発（閲覧機能）	
	事後学修	閲覧機能が正しく動作するように、制作を完了させておきましょう。	3
12	事前学修	新たな機能を検討し、その実装方法を整理しておきましょう。	2
	授業	掲示板アプリケーション開発（新たな機能）	
	事後学修	新たな機能が正しく動作するように、制作を完了させておきましょう。	4
13	事前学修	LMS の説明資料をよく読んで、スライドの構成・内容を構想しておきましょう。	2
	授業	成果発表会準備（発表スライド作成指導）	
	事後学修	発表用スライドを完成させておきましょう。	2
14	事前学修	発表用スライドを利用した、発表リハーサルを行いましょう。	2
	授業	成果発表会	
	事後学修	質疑応答の結果を整理しておきましょう。	2
15	事前学修	LMS の説明資料をよく読んで、報告書の内容を構想しておきましょう。	1
	授業	報告書作成指導、卒研テーマについて	
	事後学修	報告書を完了させておきましょう。卒論テーマの検討を始めましょう。	3

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習に関する提出物、プレゼンテーション、及びレポートについて、ゼミナールの時間中のほか、LMS を通じて、フィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中、もしくは LMS 上で、それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ, ICT 入門, コンピュータ, SQL 入門, Web プログラミング演習
備考	「基本情報技術者試験」に合格する上で必須な知識を扱っています。自主的な勉強を追加することにより資格取得が可能です。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間、民間企業で通信制御システム開発、及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や、実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう、随時伝えていきます。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
以下の 2 種類のいずれかに該当するテーマを設定し、プログラミング技術を駆使して、その成果を目に見える形に具現化します。テーマは個人で設定してもよいし、グループで設定しても構いません。ただし、グループは 3 名以内で構成するものとし、担当範囲が明確になるように作業を分担できることを条件とします。 ・テーマ (1) データ工学分野における要素技術の改良や新しい試みに関するアイディアの提案と検証、要素技術の実装方法や評価方法に関するアイディアの提案と検証を目指します。 ・テーマ (2) 既存の技術を活用した新しい応用、ユニークな応用、有用な応用システムの構築を目指します。						
授業における学修の到達目標						
卒業研究・卒業制作に相応しいテーマの設定し、テーマを具現化するための妥当な作業計画を立案し、要件定義、外部設計、内部設計、プログラミング、データ管理等のスキルを身に付けることを目指します。 また、取り組むテーマの意義や概要、実現方法を正しく伝える方法を身に付けることも目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	テーマ案を検討しておきましょう。				2
	授業	ガイダンス（1 年間のスケジュール確認等）				
	事後学修	「卒業研究の手引き」の 1 章，2 章を通読しましょう。				2
2	事前学修	「卒業研究の手引き」の 3 章を通読してきましょう。				2
	授業	テーマ検討，ディスカッション，及び参考文献の検索				
	事後学修	検討結果をまとめ，LMS に提出しましょう。				2
3	事前学修	各種文献を参考に，ソフトウェア開発の方法について調査してきましょう。				2
	授業	ソフトウェア開発の方法について				
	事後学修	ソフトウェア開発の方法についてまとめ，LMS に提出しましょう。				2
4	事前学修	WBS とガントチャートについて調査してきましょう。				2
	授業	プロジェクト管理の方法について				
	事後学修	開発スケジュールを WBS・ガントチャートにまとめ，LMS に提出しましょう。				2
5	事前学修	UML を調査し，ユースケース図，クラス図，シーケンス図を確認してきましょう。				2
	授業	ソフトウェアの文書化				
	事後学修	卒業研究のテーマを文書化してみよう。				2
6	事前学修	卒業研究のテーマをプレゼンする準備をしてきましょう。				2
	授業	卒業研究テーマの発表と議論				
	事後学修	文書化した内容を改訂し，LMS に提出しましょう。				2
7	事前学修	実装方式，実装技術，必要なデータについて検討しておきましょう。				2
	授業	実装方式の検討				

	事後学修	開発環境の準備を完了しておきましょう。	2
8	事前学修	確認の必要な要素技術を検討しておきましょう。	2
	授業	要素技術の確認方法と環境，データの準備	
	事後学修	必要なアルゴリズムやテストプログラムの準備を完了しておきましょう。	2
9	事前学修	テスト用データ準備をしておきましょう。	2
	授業	要素技術の確認	
	事後学修	確認のために準備したプログラム，データ，及び確認結果等を LMS に提出しましょう。	2
10	事前学修	進捗報告の準備をしましょう。	2
	授業	進捗報告とスケジュールの確認	
	事後学修	進捗報告とスケジュールの確認，及びそれに対するコメント等をまとめ，LMS に提出しましょう。	2
11	事前学修	卒研に関する外部仕様（UI 関連）を検討しましょう。	2
	授業	外部仕様の文書化（UI 関連）	
	事後学修	外部仕様（UI 関連）の文書化を完了しておきましょう。	2
12	事前学修	卒研に関する外部仕様（データ関連）を検討しましょう。	2
	授業	外部仕様の文書化（データ関連）	
	事後学修	外部仕様（データ関連）の文書化を完了しておきましょう。	2
13	事前学修	卒業研究企画発表会に向けた準備をしましょう。	2
	授業	企画発表会のリハーサル	
	事後学修	企画発表会向け資料を改善して，LMS に提出しましょう。	2
14	事前学修	発表内容を確認し，発表練習をしましょう。	3
	授業	卒業研究企画発表会（発表）	
	事後学修	発表でいただいたコメントを整理して，LMS に提出しましょう。	2
15	事前学修	発表プログラムを確認し，聴講セッションを決めましょう。	1
	授業	卒業研究企画発表会（聴講）	
	事後学修	発表内容と感想を整理して，LMS に提出しましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：35% □演習課題： % ■その他[成果物への取組み：30%，プレゼンテーション：15%，発表会参加：20%]
 グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

設計書等の提出物についてはゼミナールの時間中のほか，LMS を通じて，フィードバックを行います。進捗報告や発表会でのプレゼンテーションでは，その都度，他のゼミ生との質疑応答の場や教員からのコメントによって，成果へのフィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中，もしくは LMS 上で，それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ・Ⅱ，SQL 入門，プログラミング演習Ⅰ，Web プログラミング演習
備考	データベース管理システムや Web サーバをインストールした研究・開発環境が必要になる可能性が高いので，各自で十分なスペックのノート PC を持参して，授業に参加できることが望ましいと考えています。

担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や，実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう，随時伝えていきます。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミナールⅢで設定した以下の２種類のいずれかに該当するテーマへの取り組みは完了させ、その成果を卒業論文としてまとめ、発表します。 ・テーマ（１） データ工学分野における要素技術の改良や新しい試みに関するアイディアの提案と検証、要素技術の実装方法や評価方法に関するアイディアの提案と検証を目指します。 ・テーマ（２） 既存の技術を活用した新しい応用，ユニークな応用，有用な応用システムの構築を目指します。						
授業における学修の到達目標						
プログラムをはじめとする成果物の作成を通じて，プログラミング技術をはじめとした，それぞれの作成スキルを身に付けることを目指します。 さらに得られた成果を正しく伝える方法を身に付けることも目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	進捗報告の準備をしてきましょう。				2
	授業	活動進捗報告とスケジュールの発表及び検討				
	事後学修	後期のスケジュール案を改訂しておきましょう。				2
2	事前学修	第１イテレーションの目標を設定しましょう。				2
	授業	第１イテレーション：前半進捗チェック・質疑				
	事後学修	改修を完了しておきましょう。				2
3	事前学修	第１イテレーションの目標を確認しておきましょう。				2
	授業	第１イテレーション：後半進捗チェック・質疑				
	事後学修	第１イテレーションの開発を完了しておきましょう。				2
4	事前学修	デモンストレーションの準備をしてきましょう。				2
	授業	第１イテレーション進捗報告会・デモンストレーション				
	事後学修	不具合とその原因を確認しておきましょう。				2
5	事前学修	第２イテレーションの目標を設定しましょう。				2
	授業	第２イテレーション：前半進捗チェック・質疑				
	事後学修	改修を完了しておきましょう。				2
6	事前学修	第２イテレーションの目標を確認しておきましょう。				2
	授業	第２イテレーション：後半進捗チェック・質疑				
	事後学修	第２イテレーションの開発を完了しておきましょう。				2
7	事前学修	デモンストレーションの準備をしてきましょう。				2
	授業	第２イテレーション進捗報告会・デモンストレーション				
	事後学修	不具合とその原因を確認しておきましょう。				2

8	事前学修	第3 イテレーションの目標を設定しましょう。	2
	授業	第3 イテレーション：前半進捗チェック・質疑	
	事後学修	改修を完了しておきましょう。	2
9	事前学修	第3 イテレーションの目標を確認しておきましょう。	2
	授業	第3 イテレーション：後半進捗チェック・質疑	
	事後学修	第3 イテレーションの開発を完了しておきましょう。	2
10	事前学修	デモンストレーションの準備をしてきましょう。	2
	授業	成果発表会（デモンストレーション）及び議論	
	事後学修	議論の結果をまとめ、発表会資料とともに LMS に提出しましょう。	2
11	事前学修	過去の小論集に目を通してきましょう。	2
	授業	小論文執筆指導	
	事後学修	小論文執筆の掟を確認しておきましょう。	2
12	事前学修	第1 版の原稿を LMS に提出しておきましょう。	2
	授業	小論文改善（第1 版の作成）	
	事後学修	担当教員からのコメントを参考に、第2 版以降の原稿を作成しましょう。	2
13	事前学修	改善した第2 版以降の原稿を LMS に提出しましょう。	1
	授業	小論文完成と提出	
	事後学修	担当教員に内容の確認を受け、完成版を LMS に提出しましょう。	3
14	事前学修	研究発表のポイントに目を通してきましょう。	2
	授業	ゼミ内卒研発表会指導と準備	
	事後学修	発表会に向けた助言、資料を参考に、発表内容、手順、資料を改善しておきましょう。	2
15	事前学修	ゼミ内卒研発表会の資料を用意し、発表練習をしてきましょう。	2
	授業	ゼミ内卒研発表会リハーサル	
	事後学修	リハーサルの結果をもとに発表資料を改善し、LMS に提出しましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% □演習課題： % ■その他[成果物への取組み：40%，プレゼンテーション：20%，発表会参加：20%]

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プログラム等の提出物についてはゼミナールの時間中のほか、LMS を通じて、フィードバックを行います。

進捗報告や発表会でのプレゼンテーションでは、その都度、他のゼミ生との質疑応答の場や教員からのコメントによって、成果へのフィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中、もしくは LMS 上で、それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ，SQL 入門，プログラミング演習Ⅰ，Web プログラミング演習
備考	データベース管理システムや Web サーバをインストールした研究・開発環境が必要になる可能性が高いので、各自で十分なスペックのノート PC を持参して、授業に参加できることが望ましいと考えています。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間、民間企業で通信制御系システム開発、及び民間企業の研究所でデータベース

	システムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や、実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう、随時伝えていきます。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。						
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作						
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作						
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究						
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究						
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究						
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究						
○ 概 要						
研究テーマは、ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは、ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず、人とロボットを代表とするような機械との人工知能（A I）的なインタラクション、人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。						
授業における学修の到達目標						
問題解決をするための方法や技術を考え出す事が出来、実行した内容を正しく文章としてまとめ伝えることができるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	研究テーマの案を複数検討する				2.0
	授業	研究テーマの概要について説明，議論する				
	事後学修	ゼミナールで行う研究テーマの概要についてまとめる				2.0
2	事前学修	ゼミナールの概要について調査する				2.0
	授業	ゼミナールの概要について議論する				
	事後学修	ゼミナールの概要についてまとめる				2.0
3	事前学修	研究テーマを調査する対象について調査する				2.0
	授業	研究テーマを調査する対象を列挙する				
	事後学修	研究テーマを調査する対象についてまとめる				2.0
4	事前学修	新聞の概要について調査する				2.0
	授業	新聞の概要について議論する				
	事後学修	新聞の概要についてまとめる				2.0
5	事前学修	新聞の構成について調査する				2.0
	授業	新聞の構成について調査する				
	事後学修	新聞の構成についてまとめる				2.0
6	事前学修	論文の種類について調査する				2.0

	授業	論文の種類について調査する	
	事後学修	論文の種類について調査する	2.0
7	事前学修	論文の種類について調査する	2.0
	授業	論文の種類について調査する	
	事後学修	論文の種類について調査する	2.0
8	事前学修	文献の入手方法について調査する	2.0
	授業	文献の入手方法について議論する	
	事後学修	文献の入手方法についてまとめる	2.0
9	事前学修	興味のある1つ目の文献について調査する	2.0
	授業	興味のある1つ目の文献について議論する	
	事後学修	興味のある1つ目の文献についてまとめる	2.0
10	事前学修	興味のある1つ目の文献を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある1つ目の文献について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある1つ目の文献についてまとめる（前半）	2.0
11	事前学修	興味のある1つ目の文献を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある1つ目の文献について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある1つ目の文献についてまとめる（後半）	2.0
12	事前学修	他人の興味のある発表を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある発表についてまとめる（前半）	2.0
13	事前学修	他人の興味のある発表を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある発表についてまとめる（後半）	2.0
14	事前学修	発表に対してのコメントに対する調査をする	2.0
	授業	発表に対してのコメントに対して議論する	
	事後学修	発表に対してのコメントをまとめる	2.0
15	事前学修	これまでの取り組みについて調査する	2.0
	授業	これまでの取り組みについて議論する	
	事後学修	これまでの取り組みについてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[輪講でおこなうため、テーマの調査能力、それから発表を行うためのプレゼンテーション能力、疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出、返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	資料等のやり取りはPOLITEまたは共有ディレクトリ、メールにより行うので使い方を確認しておくこと。

担当教員の実務経験

該当科目に付き、測定用の機材の作成を行い、論文作成を行ってきた。また、関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし、該当科目に反映させている。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。						
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作						
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作						
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究						
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究						
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究						
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究						
○ 概 要						
研究テーマは、ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは、ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず、人とロボットを代表とするような機械との人工知能（A I）的なインタラクション、人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。						
授業における学修の到達目標						
問題解決をするための資料の存在や探し方を習得し適切に調査できるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	論文の構成について調査する				2.0
	授業	論文の構成について議論する				
	事後学修	論文の構成についてまとめる				2.0
2	事前学修	序論（はじめに）の書き方について調査する				2.0
	授業	序論（はじめに）の書き方について議論する				
	事後学修	序論（はじめに）の書き方についてまとめる				2.0
3	事前学修	本論（本文）の書き方について調査する				2.0
	授業	本論（本文）の書き方について議論する				
	事後学修	本論（本文）の書き方についてまとめる				2.0
4	事前学修	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方について調査する				2.0
	授業	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方について議論する				
	事後学修	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方についてまとめる				2.0
5	事前学修	参考文献の書き方について調査する				2.0
	授業	参考文献の書き方について議論する				
	事後学修	参考文献の書き方についてまとめる				2.0
6	事前学修	要旨（概要、あらまし）の書き方について調査する				2.0
	授業	要旨（概要、あらまし）の書き方について議論する				

	事後学修	要旨（概要、あらまし）の書き方についてまとめる	2.0
7	事前学修	謝辞，付録その他の書き方について調査する	2.0
	授業	謝辞，付録その他の書き方について議論する	
	事後学修	謝辞，付録その他の書き方についてまとめる	2.0
8	事前学修	目次，図録の目次，索引の書き方について調査する	2.0
	授業	目次，図録の目次，索引の書き方について議論する	
	事後学修	目次，図録の目次，索引の書き方についてまとめる	2.0
9	事前学修	図の書き方について調査する	2.0
	授業	図の書き方について議論する	
	事後学修	図の書き方についてまとめる	2.0
10	事前学修	表の書き方について調査する	2.0
	授業	表の書き方について議論する	
	事後学修	表の書き方についてまとめる	2.0
11	事前学修	キャプション（説明文；見出し）の書き方について調査する	2.0
	授業	キャプション（説明文；見出し）の書き方について議論する	
	事後学修	キャプション（説明文；見出し）の書き方についてまとめる	2.0
12	事前学修	句読点の使い方について調査する	2.0
	授業	句読点の使い方について議論する	
	事後学修	句読点の使い方についてまとめる	2.0
13	事前学修	外来語の表記について調査する	2.0
	授業	外来語の表記について議論する	
	事後学修	外来語の表記についてまとめる	2.0
14	事前学修	学術用語の表記について調査する	2.0
	授業	学術用語の表記について議論する	
	事後学修	学術用語の表記についてまとめる	2.0
15	事前学修	ゼミナールの取り組みについて調査する	2.0
	授業	ゼミナールの取り組みについて議論する	
	事後学修	ゼミナールの取り組みについてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[輪講でおこなうため，テーマの調査能力，それから発表を行うためのプレゼンテーション能力，疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出，返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	該当科目に付き，測定用の機材の作成を行い，論文作成を行ってきた。また，関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし，該当科目に反映させている。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。						
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作						
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作						
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究						
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究						
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究						
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究						
○ 概 要						
研究テーマは、ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは、ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず、人とロボットを代表とするような機械との人工知能（A I）的なインタラクション、人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。						
授業における学修の到達目標						
問題解決をするための資料の存在や探し方を習得し適切に調査できるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	具体的な研究テーマの案を複数検討する				2.0
	授業	具体的な研究テーマの概要について説明，議論する				
	事後学修	ゼミナールで行う研究テーマの概要についてまとめる				2.0
2	事前学修	具体的なゼミナールの概要について調査する				2.0
	授業	具体的なゼミナールの概要について議論する				
	事後学修	ゼミナールの概要についてまとめる				2.0
3	事前学修	具体的な研究テーマを調査する対象について調査する				2.0
	授業	具体的な研究テーマを調査する対象を列挙する				
	事後学修	研究テーマを調査する対象を列挙する				2.0
4	事前学修	具体的な新聞の概要について調査する				2.0
	授業	具体的な新聞の概要について議論する				
	事後学修	新聞の概要についてまとめる				2.0
5	事前学修	具体的な新聞の構成について調査する				2.0
	授業	具体的な新聞の構成について調査する				
	事後学修	新聞の構成についてまとめる				2.0
6	事前学修	具体的な論文の種類について調査する				2.0
	授業	具体的な論文の種類について調査する				

	事後学修	論文の種類についてまとめる	2.0
7	事前学修	具体的な論文の種類について調査する	2.0
	授業	具体的な論文の種類について調査する	
	事後学修	論文の種類について調査する	2.0
8	事前学修	文献の入手方法について調査する	2.0
	授業	文献の入手方法について議論する	
	事後学修	文献の入手方法についてまとめる	2.0
9	事前学修	興味のある1つ目の文献について調査する	2.0
	授業	興味のある1つ目の文献について議論する	
	事後学修	興味のある1つ目の文献についてまとめる	2.0
10	事前学修	興味のある1つ目の文献を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある1つ目の文献について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある1つ目の文献についてまとめる（前半）	2.0
11	事前学修	興味のある1つ目の文献を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある1つ目の文献について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある1つ目の文献についてまとめる（後半）	2.0
12	事前学修	他人の興味のある発表を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある発表についてまとめる（前半）	2.0
13	事前学修	他人の興味のある発表を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある発表についてまとめる（後半）	2.0
14	事前学修	発表に対してのコメントに対する調査をする	2.0
	授業	発表に対してのコメントに対して議論する	
	事後学修	発表に対してのコメントをまとめる	2.0
15	事前学修	これまでの取り組みについて調査する	2.0
	授業	これまでの取り組みについて議論する	
	事後学修	これまでの取り組みについてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

⇒□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出、返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	該当科目に付き、測定用の機材の作成を行い、論文作成を行ってきた。また、関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし、該当科目に反映させている。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。						
1.生体情報や音声、画像を利用したコンピュータの操作						
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作						
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究						
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究						
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究						
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究						
○ 概 要						
研究テーマは、ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは、ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず、人とロボットを代表とするような機械との人工知能（A I）的なインタラクション、人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。						
授業における学修の到達目標						
問題解決をするための資料の存在や探し方を習得し適切に調査できるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	論文の構成について調査する				2.0
	授業	論文の構成について議論する				
	事後学修	論文の構成についてまとめる				2.0
2	事前学修	序論（はじめに）の書き方について調査する				2.0
	授業	序論（はじめに）の書き方について議論する				
	事後学修	序論（はじめに）の書き方についてまとめる				2.0
3	事前学修	本論（本文）の書き方について調査する				2.0
	授業	本論（本文）の書き方について議論する				
	事後学修	本論（本文）の書き方についてまとめる				2.0
4	事前学修	結論（むすび、おわりに、まとめ）の書き方について調査する				2.0
	授業	結論（むすび、おわりに、まとめ）の書き方について議論する				
	事後学修	結論（むすび、おわりに、まとめ）の書き方についてまとめる				2.0
5	事前学修	参考文献の書き方について調査する				2.0
	授業	参考文献の書き方について議論する				
	事後学修	参考文献の書き方についてまとめる				2.0
6	事前学修	要旨（概要、あらまし）の書き方について調査する				2.0
	授業	要旨（概要、あらまし）の書き方について議論する				

	事後学修	要旨（概要、あらまし）の書き方についてまとめる	2.0
7	事前学修	謝辞，付録その他の書き方について調査する	2.0
	授業	謝辞，付録その他の書き方について議論する	
	事後学修	謝辞，付録その他の書き方についてまとめる	2.0
8	事前学修	目次，図録の目次，索引の書き方について調査する	2.0
	授業	目次，図録の目次，索引の書き方について議論する	
	事後学修	目次，図録の目次，索引の書き方についてまとめる	2.0
9	事前学修	図の書き方について調査する	2.0
	授業	図の書き方について議論する	
	事後学修	図の書き方についてまとめる	2.0
10	事前学修	表の書き方について調査する	2.0
	授業	表の書き方について議論する	
	事後学修	表の書き方についてまとめる	2.0
11	事前学修	キャプション（説明文；見出し）の書き方について調査する	2.0
	授業	キャプション（説明文；見出し）の書き方について議論する	
	事後学修	キャプション（説明文；見出し）の書き方についてまとめる	2.0
12	事前学修	句読点の使い方について調査する	2.0
	授業	句読点の使い方について議論する	
	事後学修	句読点の使い方についてまとめる	2.0
13	事前学修	外来語の表記について調査する	2.0
	授業	外来語の表記について議論する	
	事後学修	外来語の表記についてまとめる	2.0
14	事前学修	学術用語の表記について調査する	2.0
	授業	学術用語の表記について議論する	
	事後学修	学術用語の表記についてまとめる	2.0
15	事前学修	ゼミナールの取り組みについて調査する	2.0
	授業	ゼミナールの取り組みについて議論する	
	事後学修	ゼミナールの取り組みについてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[輪講でおこなうため，テーマの調査能力，それから発表を行うためのプレゼンテーション能力，疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出，返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	該当科目に付き，測定用の機材の作成を行い，論文作成を行ってきた。また，関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし，該当科目に反映させている。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IPC302	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
身近な「数学」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、教えます。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。なお、自分以外の発表を聞くことも重要です。						
授業における学修の到達目標						
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の選定				2
	授業	オリエンテーション				
	事後学修	教科書の選定				2
2	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
3	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
4	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
5	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
6	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
7	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
8	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
9	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				

	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	半年の総括	
	事後学修	発表した内容の整理	2
成績評価の方法およびその基準			
パワーポイントなどのプレゼン用資料，発表への質問への準備準備状況，発表次の質問への対応などを総合的に判断する。 100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
いつでも質問に対応し，プレゼン時に適宜指導を行います。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要な資料はゼミ中に伝えます。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ			IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
ゼミナールⅠに引き続き、身近な「数学」を学ぶゼミです。教科書を新たにすることも可能ですから、各自教科書を決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、教えます。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。						
授業における学修の到達目標						
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の選定				2
	授業	オリエンテーション				
	事後学修	教科書の選定				2
2	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と準備				2
3	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と準備				2
4	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と準備				2
5	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と準備				2
6	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表した内容の整理と準備				
	事後学修	発表				2
7	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と準備				2
8	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				
	事後学修	発表した内容の整理と準備				2
9	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表				

	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	発表の総括	
	事後学修	半年間で発表した内容の整理	2
成績評価の方法およびその基準			
パワーポイントなどのプレゼン用資料，発表への質問への準備準備状況，発表次の質問への対応などを総合的に判断する。 100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
いつでも質問に対応し，プレゼン時に適宜指導を行います。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて，資料はゼミ中に伝えます。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
卒業論文を書くために使用する LaTeX の修得を行います。LaTeX は、プログラムすることにより文章を作成（組み版）するツールです。さほど難しいプログラムはありません。この LaTeX を使って実際に本を作成する会社が多々あります。現在は LaTeX Live という LaTeX が主流です。これを学んで下さい。						
授業における学修の到達目標						
LaTeX の書式の基礎を知り、具体的な文章を書けることです。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	LaTeX を調べて下さい。				2
	授業	LaTeX とは				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
2	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	LaTeX のインストール				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
3	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	LaTeX を使う				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
4	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	表の作成				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
5	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	数式の記述				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
6	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	課題 3				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
7	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	図や画像				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
8	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	目次，索引，参考文献				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
9	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	縦組み				

	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
10	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	複雑な文章	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
11	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 1	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
12	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 2	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
13	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 3	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
14	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 4	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
15	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 5	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2

成績評価の方法およびその基準

パワーポイントなどのプレゼン用資料，発表への質問への準備準備状況，発表次の質問への対応などを総合的に判断する。
100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

常に質問に答えます。

教科書	
参考書・Web サイト	土屋勝 著「LaTeX はじめの一步 Windows11/10 対応 (やさしいプログラミング)」カットシステム，2022 年 10 月 水谷正大 著「LaTeX 超入門 ゼロからはじめる理系の文書作成術」ブルーバックス，2020 年 7 月
単位修得が望ましい科目	ありません。
備考	ありません。
担当教員の実務経験	ありません。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IMC409	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミナールⅢ で学んだ LaTeX 学び直し, それを使って組み版を実際に行い卒論を仕上げる準備をします。						
授業における学修の到達目標						
具体的な本を決め, どのような形で作られているかを知り, 参考にする。目標は短くても良いので本を作成する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅢ の振り返り				2
	授業	LaTeX の課題 6				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
2	事前学修	前回のゼミの振り返り				2
	授業	LaTeX の課題 7				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
3	事前学修	前回のゼミの振り返り				2
	授業	LaTeX の課題 8				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
4	事前学修	前回のゼミの振り返り				2
	授業	LaTeX の課題 9				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
5	事前学修	前回のゼミの振り返り				2
	授業	LaTeX の課題 10				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
6	事前学修	前回のゼミの振り返り				2
	授業	参考にする本の選定				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
7	事前学修	前回のゼミの振り返り				2
	授業	本の内容の理解				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
8	事前学修	前回のゼミの振り返り				2
	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いてみる (1)				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
9	事前学修	前回のゼミの振り返り				2
	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いてみる (2)				
	事後学修	ゼミの振り返り				2
10	事前学修	前回のゼミの振り返り				2

	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いてみる (3)	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
11	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いてみる (4)	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
12	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いて完成させる。	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
13	授業	作りたい本の内容を手書きで作成する。	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
14	授業	作りたい本の内容を手書きで作成する。	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
15	授業	手書きで作成した内容を LaTeX で作成する。	
	事後学修	ゼミの振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

パワーポイントなどのプレゼン用資料，発表への質問への準備準備状況，発表次の質問への対応などを総合的に判断する。
100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

いつでも質問に答えます。

教科書	
参考書・Web サイト	土屋勝 著「LaTeX はじめの一步 Windows11/10 対応 (やさしいプログラミング)」カットシステム，2022 年 10 月 水谷正大 著「LaTeX 超入門 ゼロからはじめる理系の文書作成術」ブルーバックス，2020 年 7 月
単位修得が望ましい科目	ゼミナール III
備考	ありません。
担当教員の実務経験	ありません。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC302	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミは、この「伝える」を学ぶゼミです。各自資料を準備し、ゼミで発表をして貰います。資料は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った資料を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。						
授業における学修の到達目標						
資料に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	資料の選定				2
	授業	オリエンテーション				
	事後学修	資料の選定				2
2	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表の整理と発表の準備				2
3	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表の整理と発表の準備				2
4	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表の整理と発表の準備				2
5	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表の整理と発表の準備				2
6	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表の整理と発表の準備				2
7	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表の整理と発表の準備				2
8	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表の整理と発表の準備				2
9	事前学修	発表の準備				2

	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
15	事前学修	これまでの発表内容の整理	2
	授業	これまでの総括	
	事後学修	改善点の明確化	2

成績評価の方法およびその基準

発表の準備状況と発表内容を総合的に判断する。100%

* 準備状況：レポート内容、レポート提出期限等 50%

* 発表内容：プレゼン全般（周囲へ趣旨を明確に伝えることができたか、発声、姿勢、表情等）50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

いつでも質問に対応し、発表時に適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	特にありません。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	特にありません。
担当教員の実務経験	特にありません。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ			IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミは、ゼミナールⅠの内容を踏まえて、この「伝える」を学ぶゼミです。各自資料を準備し、ゼミで発表をして貰います。資料は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った資料を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。						
授業における学修の到達目標						
資料に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
2	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
3	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
4	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
5	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
6	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
7	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
8	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
9	事前学修	発表の準備				2

	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	これまでの発表内容の整理	2
	授業	1年間の総括	
	事後学修	改善点の明確化	2

成績評価の方法およびその基準

発表の準備状況と発表内容を総合的に判断する。100%

* 準備状況：レポート内容、レポート提出期限等 50%

* 発表内容：プレゼン全般（周囲へ趣旨を明確に伝えることができたか、発声、姿勢、表情等）50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

質問にはいつでも対応します。ゼミの中でもコメントします。

教科書	
参考書・Web サイト	特にありません。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	特にありません。
担当教員の実務経験	特にありません。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ			IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミは、ゼミナールⅠ・Ⅱの内容を踏まえて、この「伝える」を学ぶゼミです。各自資料を準備し、ゼミで発表をして貰います。資料は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った資料を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。						
授業における学修の到達目標						
資料に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	資料の選定				2
	授業	オリエンテーション				
	事後学修	資料の選定				2
2	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
3	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
4	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
5	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
6	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
7	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
8	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
9	事前学修	発表の準備				2

	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	これまでの発表内容の整理	2
	授業	これまでの総括	
	事後学修	改善点の明確化	2

成績評価の方法およびその基準

発表の準備状況と発表内容を総合的に判断する。100%

* 準備状況：レポート内容、レポート提出期限等 50%

* 発表内容：プレゼン全般（周囲へ趣旨を明確に伝えることができたか、発声、姿勢、表情等）50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

いつでも質問に対応し、発表時に適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	特にありません。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	特にありません。
担当教員の実務経験	特にありません。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IMC409	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミは、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容を踏まえて、この「伝える」を学ぶゼミです。各自資料を準備し、ゼミで発表をして貰います。資料は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った資料を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。						
授業における学修の到達目標						
資料に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
2	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
3	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
4	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
5	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
6	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
7	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
8	事前学修	発表の準備				2
	授業	発表と議論				
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備				2
9	事前学修	発表の準備				2

	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	これまでの発表内容の整理	2
	授業	これまでの総括	
	事後学修	改善点の明確化	2

成績評価の方法およびその基準

発表の準備状況と発表内容を総合的に判断する。100%

* 準備状況：レポート内容、レポート提出期限等 50%

* 発表内容：プレゼン全般（周囲へ趣旨を明確に伝えることができたか、発声、姿勢、表情等）50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

いつでも質問に対応し、発表時に適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	特にありません。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	特にありません。
担当教員の実務経験	特にありません。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
学生があらかじめ立案した活動計画に沿って、ゼミナール活動を自主的・自発的・自律的に遂行していく。活動のテーマ・計画は「ゼミ生自身」が決定する。また、ゼミ活動の主体は「ゼミ生自身」である。円滑なゼミナール活動の遂行のために担当教員は学生の自主性を損なうことがないよう最小限の助言を行い、質、量、ともに最大化した成果物の産出を期待する。また、プレゼンテーションやドキュメンテーションに関しては個々人の能力が向上するようノウハウを提供し、それらの能力を鍛錬する。						
授業における学修の到達目標						
自主的・自発的・自律的なゼミナール活動の遂行 プレゼンテーション・ドキュメンテーション能力の鍛錬						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	レポート「ゼミ活動指針・計画」(A4 判 2 頁)の提出 ゼミナール活動とプレゼンテーションの事前準備				2
	授業	初顔合わせ、事前ガイダンス 初回プレゼンテーションについての説明 班分け(2 班)と輪番(発表／聴講)の決定				
	事後学修	(全員) 初回プレゼンテーションの準備				2
2	事前学修	(全員) 初回プレゼンテーションの準備				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ゼミ活動計画の概要説明と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
3	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
4	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
5	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
6	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備				2

		(次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	
15	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [ゼミ活動への取り組み全般, プレゼンテーションと質疑応答, ドキュメンテーションへの評価]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表内容や成果物に対し, 都度, 口頭あるいはオンラインで行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて適宜指示する	
単位修得が望ましい科目		1～2 年時配当の全ての必修科目	
備考		1～2 年時配当の必修科目の単位を全て取得しており, 取りこぼしがないこと。その他, 2 年時終了時点総取得単位数が 80 に限りなく近いこと。ニュースフォーラムやメッセージなどの LMS による通信機能や E メールなどの手段により, ゼミ生は常にゼミ担当教員とコンスタントに連絡が通じ, 決して長期間の消息不明状態に陥ることがないように, これを強く要請する。	
担当教員の実務経験		なし	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
学生があらかじめ立案した活動計画に沿って、ゼミナール活動を自主的・自発的・自律的に遂行していく。活動のテーマ・計画は「ゼミ生自身」が決定する。また、ゼミ活動の主体は「ゼミ生自身」である。円滑なゼミナール活動の遂行のために担当教員は学生の自主性を損なうことがないよう最小限の助言を行い、質、量、ともに最大化した成果物の産出を期待する。また、プレゼンテーションやドキュメンテーションに関しては個々人の能力が向上するようノウハウを提供し、それらの能力を鍛錬する。						
授業における学修の到達目標						
自主的・自発的・自律的なゼミナール活動の遂行 プレゼンテーション・ドキュメンテーション能力の鍛錬						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナール活動 プレゼンテーションの事前準備				2
	授業	(全員) 初回プレゼンテーション (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
2	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
3	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
4	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
5	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
6	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備				2

		(次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	
15	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [ゼミ活動への取り組み全般, プレゼンテーションと質疑応答, ドキュメンテーションへの評価]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表内容や成果物に対し, 都度, 口頭あるいはオンラインで行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて適宜指示する	
単位修得が望ましい科目		「ゼミナールI」と, 前述の各ゼミナール科目で単位取得が望ましい科目として指定されているもの	
備考		1~2年時配当の必修科目の単位を全て取得しており, 取りこぼしが無いこと。3年前期終了時点総取得単位数が100に限りなく近いこと。ニュースフォーラムやメッセージなどのLMSによる通信機能やEメールなどの手段により, ゼミ生は常にゼミ担当教員とコンスタントに連絡が通じ, 決して長期間の消息不明状態に陥ることがないよう, これを強く要請する。	
担当教員の実務経験		なし	

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
学生があらかじめ立案した活動計画に沿って、ゼミナール活動を自主的・自発的・自律的に遂行していく。活動のテーマ・計画は「ゼミ生自身」が決定する。また、ゼミ活動の主体は「ゼミ生自身」である。円滑なゼミナール活動の遂行のために担当教員は学生の自主性を損なうことがないよう最小限の助言を行い、質、量、ともに最大化した成果物の産出を期待する。また、プレゼンテーションやドキュメンテーションに関しては個々人の能力が向上するようノウハウを提供し、それらの能力を鍛錬する。						
授業における学修の到達目標						
自主的・自発的・自律的なゼミナール活動の遂行 プレゼンテーション・ドキュメンテーション能力の鍛錬						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナール活動 プレゼンテーションの事前準備				2
	授業	(全員) 初回プレゼンテーション (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
2	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
3	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
4	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
5	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
6	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備				2

		(次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	
	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
15	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [ゼミ活動への取り組み全般, プレゼンテーションと質疑応答, ドキュメンテーションへの評価]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表内容や成果物に対し, 都度, 口頭あるいはオンラインで行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて適宜指示する	
単位修得が望ましい科目		「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」と, 前述の各ゼミナール科目で単位取得が望ましい科目として指定されているもの	
備考		1～2 年時配当の必修科目の単位を全て取得しており, 取りこぼしが無いこと。3 年前期終了時点総取得単位数が 100 に限りなく近いこと。ニュースフォーラムやメッセージなどの LMS による通信機能や E メールなどの手段により, ゼミ生は常にゼミ担当教員とコンスタントに連絡が通じ, 決して長期間の消息不明状態に陥ることがないよう, これを強く要請する。	
担当教員の実務経験		なし	

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
学生があらかじめ立案した活動計画に沿って、ゼミナール活動を自主的・自発的・自律的に遂行していく。活動のテーマ・計画は「ゼミ生自身」が決定する。また、ゼミ活動の主体は「ゼミ生自身」である。円滑なゼミナール活動の遂行のために担当教員は学生の自主性を損なうことがないよう最小限の助言を行い、質、量、ともに最大化した成果物の産出を期待する。また、プレゼンテーションやドキュメンテーションに関しては個々人の能力が向上するようノウハウを提供し、それらの能力を鍛錬する。						
授業における学修の到達目標						
自主的・自発的・自律的なゼミナール活動の遂行 プレゼンテーション・ドキュメンテーション能力の鍛錬						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナール活動 プレゼンテーションの事前準備				2
	授業	(全員) 初回プレゼンテーション (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
2	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
3	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
4	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
5	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)				
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行				2
6	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備				2

		(次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
7	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
8	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
9	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
10	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
11	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
12	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約) 最終発表のためのプレゼンテーションの準備 最終報告のためのドキュメンテーションの準備	
	事後学修	ゼミナール活動の終了と取りまとめ	2
13	事前学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2
	授業	最終発表のためのプレゼンテーションの指導 最終報告のためのドキュメンテーションの指導	
	事後学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2
14	事前学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2

	授業	最終発表のためのプレゼンテーションの指導 最終報告のためのドキュメンテーションの指導	
	事後学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2
15	事前学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2
	授業	最終発表のためのプレゼンテーションの最終確認 最終報告のためのドキュメンテーションの最終確認	
	事後学修	最終報告のためのドキュメンテーションの最終作業 最終発表のためのプレゼンテーションの最終作業	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [ゼミ活動への取り組み全般, プレゼンテーションと質疑応答, ドキュメンテーションへの評価]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表内容や成果物に対し, 都度, 口頭あるいはオンラインで行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて適宜指示する	
単位修得が望ましい科目		「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅢ」と, 前述の各ゼミナール科目で単位取得が望ましい科目として指定されているもの	
備考		1～2 年時配当の必修科目の単位を全て取得しており, 取りこぼしが無いこと。3 年前期終了時点総取得単位数が 100 に限りなく近いこと。ニュースフォーラムやメッセージなどの LMS による通信機能や E メールなどの手段により, ゼミ生は常にゼミ担当教員とコンスタントに連絡が通じ, 決して長期間の消息不明状態に陥ることがないように, これを強く要請する。	
担当教員の実務経験		なし	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	森川 悟 (326 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ ゲームコンテンツの制作						
○概要 現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが、それらを深く掘り下げ、そこから知見を得て、自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。 制作するコンテンツは、モバイル、PC などのデジタルゲームコンテンツのみならず、カードを用いたアナログゲームや、A R などのデジタル技術とアナログゲームをあわせたものも『新しい遊びの提案』がある場合は許可する。 ゼミナールⅠではチームでゲームを作品を作る。						
授業における学修の到達目標						
ゲーム作品を企画し制作することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールの概要について調べる				2
	授業	ガイダンス(制作全般)				
	事後学修	ガイダンスで得た内容をまとめる				2
2	事前学修	ゼミナールの概要について調べる				2
	授業	ガイダンス(企画の立て方)				
	事後学修	ガイダンスで得た内容をまとめる				2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る				2
	授業	制作物 1 を作るためのチーム分け				
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがいないか検討する				2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る(チームディスカッション)				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する				

	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める	2
	授業	制作物のスケジュールを作る	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	制作物の進捗を確認し,スケジュールを見直す	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物発表(検討会)	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% ■その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	森川 悟 (326 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ ゲームコンテンツの制作 ○概要 現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが、それらを深く掘り下げ、そこから知見を得て、自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。 ゼミナールⅡではゼミナールⅠでの経験を踏まえたものを制作する。 ゼミナールⅡはゼミナールⅠと同様にチームでゲーム制作を行う。						
授業における学修の到達目標						
ゲーム作品を企画し制作することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点をまとめる				2
	授業	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点を話し合う				
	事後学修	話し合いの意見をまとめる				2
2	事前学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点を再度まとめる				2
	授業	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点の解決方法を考える				
	事後学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点の解決方法をまとめる				2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る				2
	授業	新しく制作物を作るためのチーム分けを行う				
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがいないか検討する				2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る(ディスカッション)				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	森川 悟 (326 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ ゲームコンテンツの制作						
○概要 現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが、それらを深く掘り下げ、そこから知見を得て、自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。 ゼミナールⅢでは、ゼミナールⅠ・Ⅱでの経験を踏まえてさらに高度なものを制作する。 ゼミナールⅢは個人でゲーム制作を行う。						
授業における学修の到達目標						
ゲーム作品を企画し個人で制作することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点をまとめる				2
	授業	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点を話し合う				
	事後学修	話し合いの意見をまとめる				2
2	事前学修	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点を再度まとめる				2
	授業	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点の解決方法を考える				
	事後学修	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点の解決方法をまとめる				2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る				2
	授業	新しく制作物を作るためのチーム分けを行う				
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがいないか検討する				2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る(ディスカッション)				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2

8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める	2
	授業	制作物のスケジュールを作る	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物の検討会を行う	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% ■その他[グループワーク : 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている。パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか、ゲーム開発用ライブラリ、ゲーム開発用ツールなど、ゲーム開発全般の実務がある。これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	森川 悟 (326 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ ゲームコンテンツの制作						
○概要 現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが、それらを深く掘り下げ、そこから知見を得て、自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。 ゼミナールⅣでは、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲでの経験を踏まえてさらに高度なものを制作する。 ゼミナールⅣはゼミナールⅢで学んだことを生かし、さらに高度なゲーム制作を個人で行う。						
授業における学修の到達目標						
ゲーム作品を企画し個人で制作することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点をまとめる				2
	授業	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点を話し合う				
	事後学修	話し合いの意見をまとめる				2
2	事前学修	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点を再度まとめる				2
	授業	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点の解決方法を考える				
	事後学修	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点の解決方法をまとめる				2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る				2
	授業	新しく制作物を作るためのチーム分けを行う				
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがいないか検討する				2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る(ディスカッション)				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める				2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する				
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる				2

8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める	2
	授業	制作物のスケジュールを作る	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物の検討会を行う	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% ■その他[グループワーク : 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている。パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか、ゲーム開発用ライブラリ、ゲーム開発用ツールなど、ゲーム開発全般の実務がある。これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミの全体研究として、ビジュアルデザインとプロモーション・UX 研究を中心に行う。 その対象となる商品あるいは会社の分析、マーケティングリサーチによる市場の分析、プロモーション企画とコンセプトの作成、それらを的確に表現したデザイン表現の展開がメインテーマとなっている。 展開方法は V.I の作成、グラフィックデザイン、Web デザイン、 イラストレーション、 アニメーションなど多岐にわたり、様々な表現を組み合わせる展開することが求められる。 上記の研究において、研究成果を発表する手段としてのプレゼンテーション技術にも磨きをかける。特に Power point 等を使ってのプレゼンテーションでは、画像制作における効果的な表現と、的確で明快な口頭説明の技術を習得する。						
ゼミナールⅠでは課題に対する分析・企画を行い、中間発表を実施した上でゼミナールⅡの最終プレゼンに向けた改善点を明確にする。						
授業における学修の到達目標						
・与えられた課題に対し分析・企画の行い方を身に着ける ・自分が考えた企画を相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスの確認				2.0
	授業	・ガイダンス ・メンバー自己紹介（アイスブレイク）				
	事後学修	特になし				0.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	広告研究 ・概要説明、チーム決定				
	事後学修	チーム内でのミーティング・概要の振り返り				2.0
3	事前学修	研究対象となりうる商品・サービスを調査				2.0
	授業	広告研究 ・対象となるサービス決定				
	事後学修	メンバーと話し合った内容のまとめ				2.0
4	事前学修	決定したサービスに関する情報を調べる				2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（1）データ収集				
	事後学修	収集したデータのまとめ				2.0
5	事前学修	対象サービスのターゲット像を考える				2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（2）仮コンセプトの決定				
	事後学修	決定したコンセプトをメンバー内で共有できているか確認				2.0
6	事前学修	アンケート項目を考える				2.0

	授業	広告研究 ・企業、商品分析（３）アンケート内容の作成	
	事後学修	アンケート内容の整理	2.0
7	事前学修	アンケート内容をまとめた資料の作成	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（４）アンケート内容の修正	
	事後学修	アンケートの修正内容を確認する	2.0
8	事前学修	アンケートの修正内容を反映させる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（５）アンケート内容の確定	
	事後学修	配布用の用紙のデザインをまとめる	2.0
9	事前学修	アンケート実施計画をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（６）アンケート実施	
	事後学修	アンケート実施に関する反省	2.0
10	事前学修	アンケート結果をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（６）アンケート結果集計	
	事後学修	集計した情報をまとめる	2.0
11	事前学修	集計した情報を見て気になるところをまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（６）アンケート結果分析	
	事後学修	分析結果についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
12	事前学修	分析内容を元にどんなコンセプトが適切かアイデアをまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・調査内容を踏まえた企画の作成（１）コンセプト決定	
	事後学修	決定したコンセプトについてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
13	事前学修	広告企画アイデアをまとめる	4.0
	授業	広告研究 ・調査内容を踏まえた企画の作成（２）広告企画制作	
	事後学修	企画内容についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
14	事前学修	広告企画内容のプレゼンテーション（中間報告）用資料の作成	4.0
	授業	広告研究 ・広告企画プレゼンテーション（中間報告）	
	事後学修	プレゼンテーションの反省	2.0
15	事前学修	プレゼンテーションでもらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・広告企画の修正	
	事後学修	もれなく修正できているか確認	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： 0% □小テスト： 0 % □レポート： 0% □演習課題： 0% ■その他[グループワーク 50% プレゼンテーション 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
進捗をプレゼンテーションしてもらい、そのコメントによってフィードバックを行う	
教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習 グラフィック制作プロジェクト
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わらない広告やコンテンツ制作の知識を学生に伝える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
ゼミの全体研究として、 ビジュアルデザインとプロモーション・UX 研究を中心に行う。 その対象となる商品あるいは会社の分析、 マーケティングリサーチによる市場の分析、 プロモーション企画とコンセプトの作成、 それらを的確に表現したデザイン表現の展開がメインテーマとなっている。 展開方法は V.I の作成、 グラフィックデザイン、 Web デザイン、 イラストレーション、 アニメーションなど多岐にわたり、 様々な表現を組み合わせる展開することが求められる。 上記の研究において、 研究成果を発表する手段としてのプレゼンテーション技術にも磨きをかける。特に Power point 等を使っのプレゼンテーションでは、 画像制作における効果的な表現と、 的確で明快な口頭説明の技術を習得する。 この講義では、ゼミナールⅠで中間報告まで行った企画の改善とビジュアルデザインの制作、最終プレゼンを実施する。						
授業における学修の到達目標						
予算やスケジュールなど具体的に実行できる企画内容の制作スキルを身に着ける 企画に沿ったビジュアルデザインの制作スキルを身に着ける 相手に理解してもらいやすいプレゼンテーションスキルを身に着ける						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	事前学習 ゼミナールⅠ 広告企画の最終確認				2.0
	授業	広告研究 ・ 広告企画の確定				
	事後学修	確定した広告企画についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する				2.0
2	事前学修	今後のタスクをまとめる				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①役割分担・スケジュールの確定				
	事後学修	役割分担・スケジュールを資料にまとめる				2.0
3	事前学修	自分担当の作業をスケジュールどおりに完了する				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①メインビジュアル ラフの制作				
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる				2.0
4	事前学修	ラフを修正する				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①メインビジュアル ラフの発表				
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる				2.0
5	事前学修	もれなく修正できているか確認				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①メインビジュアル ラフの修正				
	事後学修	ラフの最終確認				2.0
6	事前学修	メインビジュアルを完成させる				2.0

	授業	広告研究 ・デザイン制作①メインビジュアル 完成	
	事後学修	確定したメインビジュアルについてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
7	事前学修	自分担当の作業をスケジュールどおりに完了する	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
8	事前学修	途中経過発表準備	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの途中経過発表	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
9	事前学修	もれなく修正できているか確認	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの修正	
	事後学修	最終確認	2.0
10	事前学修	プレゼンテーション企画書の内容を考える	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション企画書作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
11	事前学修	発表の役割分担	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション発表練習	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
12	事前学修	発表練習	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション発表	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
13	事前学修	もれなく修正できているか確認	2.0
	授業	広告研究 ・これまでの活動の報告書作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
14	事前学修	作成した報告書の見直し	2.0
	授業	広告研究 ・これまでの活動の報告書修正	
	事後学修	もれなく修正できているか確認	2.0
15	事前学修	これまでの活動の反省	2.0
	授業	広告研究 ・活動のふりかえり・まとめ	
	事後学修	対象サービスの企業へ報告書の送付	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： 0% □小テスト： 0 % □レポート： 0% □演習課題： 0% ■その他[グループワーク 50% プレゼンテーション 50%]			

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
企画・作品をプレゼンテーションしてもらい、そのコメントによってフィードバックを行う	
教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習 グラフィック制作プロジェクト ゼミナールⅠ
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わらない広告やコンテンツ制作の知識を学生に伝える。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 個人・またはチームでの学外コンテスト応募を目的とした作品制作を行う。 1 年間通してコンテスト・イベント情報のリサーチ、制作スケジュールの決定、制作、応募を行う。参加するコンテスト・イベントの種類は問わないが、締切・規模によって複数のコンテスト応募を推奨する場合がある。 スケジュールと照らし合わせ、現在の進捗を都度ゼミ内で報告・ディスカッションを行う。また、活動内容をまとめプレゼンテーションを行う。 ※授業計画は実施内容を一連の活動の流れとして記載するが、各コンテスト・イベントの開催時期によってそれぞれのスケジュールは前後する。						
授業における学修の到達目標						
・ 自発的に課題設定、計画、制作までの一連の流れを行うことができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス 今後のスケジュール				
	事後学修	自分でやりたい制作ジャンルを検討する				2.0
2	事前学修	コンテスト・イベントの事前リサーチを行う				2.0
	授業	参加コンテスト・イベントの決定 個人制作、チーム制作どちらかを確定する				
	事後学修	参加概要を良く確認する				2.0
3	事前学修	自身の 1 年間のスケジュールを決める				2.0
	授業	コンテスト・イベントまでのスケジュールの確定				
	事後学修	改めて見直し、再修正を行う				2.0
4	事前学修	レクリエーション内容の検討				2.0
	授業	ゼミメンバー内のレクリエーション実施				
	事後学修	レクリエーションの振り返りを行う				2.0
5	事前学修	制作物のアイデアを考える				2.0
	授業	企画① 制作物のアイデア発表				
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる				2.0
6	事前学修	修正にあたって追加調査を行う				2.0
	授業	企画② 制作物のアイデアの修正				
	事後学修	改めて見直し、再修正を行う				2.0
7	事前学修	プレゼンテーション資料にまとめる				2.0
	授業	企画③ 修正を加えた制作物のアイデアの発表				

	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
8	事前学修	プレゼンテーション資料にまとめる	2.0
	授業	企画④ 制作物アイデアの確定	
	事後学修	制作にあたって足りないスキルを調べる	2.0
9	事前学修	足りないスキルについて自己学習を行う	2.0
	授業	スキルに対する自己学習で不明な点をゼミメンバー、教員に共有し、対応策を検討する。（図書の選定、参考 Web サイト探しなど）	
	事後学修	もらった意見に伴い、自己学習方法を変更し、学習する。	2.0
10	事前学修	今後の詳細な制作スケジュールを作成する	2.0
	授業	制作①ラフ案の作成 進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
11	事前学修	改善点をラフに反映させる	2.0
	授業	制作②ラフ案の修正 進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	プロトタイプの作成にとりかかる	2.0
	授業	制作③プロトタイプの作成 進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	プロトタイプの改善を行う	2.0
	授業	制作④プロトタイプの修正 進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
14	事前学修	本制作に着手し、進行させる	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 (illustrator・Photoshop 等のツールを使った制作)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	制作物の改善を行う	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 (illustrator・Photoshop 等のツールを使った制作の修正)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： 0% □小テスト： 0 % □レポート： 0% □演習課題： 0% ■その他[グループワーク 50% プレゼンテーション 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションへのコメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務に近い世の中に必要とされるコンテンツ制作の知識を

	学生に伝える。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
（１）学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 ゼミナールⅢに引き続き、学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作を行う。 1 年間通してコンテスト・イベント情報のリサーチ、制作スケジュールの決定、制作、応募を行う。参加するコンテスト・イベントの種類は問わないが、締切・規模によって複数のコンテスト応募を推奨する場合がある。 スケジュールと照らし合わせ、現在の進捗を都度ゼミ内で報告・ディスカッションを行う。また、活動内容をまとめプレゼンテーションを行う。 （２）課題解決をもとにした企画提案の実施 チームで課題の発見とその解決策の提案・実施を行う。 本学大学祭での成果発表および企画実施を目標とする。 テーマは自由であり、学生自身で取り組む内容を考える。 ※授業計画は実施内容を一連の活動の流れとして記載するが、それぞれのスケジュールは前後する可能性がある。						
授業における学修の到達目標						
・ 自発的に課題設定、計画、制作までの一連の流れを行うことができる ・ 他の学生の発表をみて、客観的な意見を伝えることができる ・ チームで協力し、課題分析・企画、提案、実施までを自発的に行うことができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	取り組みたい課題・企画アイデアをまとめる				2.0
	授業	課題・企画アイデアについてディスカッションする				
	事後学修	ディスカッション内容の整理				2.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	ディスカッションによる企画の確定 タスクの整理・役割分担				
	事後学修	役割ごとに連絡方法を整理する。リーダーを決める				4.0
3	事前学修	チームごとに準備を進める				2.0
	授業	準備情報の共有・ディスカッション（１）				
	事後学修	チーム内での問題を明確にし、解決策をたてる				2.0
4	事前学修	解決策の実施				2.0
	授業	準備情報の共有・ディスカッション（２）				
	事後学修	チーム内での問題を明確にし、解決策をたてる				2.0
5	事前学修	解決策の実施				2.0
	授業	準備情報の共有・ディスカッション（３）				
	事後学修	解決策の実施				2.0
6	事前学修	企画の実施				4.0

	授業	企画の反省点について発表し、今後の課題をディスカッションする。	
	事後学修	反省した内容を資料に残しておく	2.0
	事前学修	特になし	0.0
7	授業	現在のゼミの広報計画に関するディスカッション ・問題点の洗い出し ・解決策の提案	
	事後学修	ディスカッション内容を資料にまとめる	2.0
	事前学修	改善アイデアをまとめる	2.0
8	授業	改善アイデアのディスカッション 実施内容の決定	
	事後学修	実施内容に沿って作業を行う	2.0
	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作物の改善を行う	2.0
9	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作①制作物の進捗報告 (テスト可能なレベルまで完成させる)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作物の改善を行う	2.0
10	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作①制作物の進捗報告 (簡易なユーザーテストの実施)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作物の改善を行う	2.0
11	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作①制作物の進捗報告 (ユーザーテスト結果の改善)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作物の改善を行う	2.0
12	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作①制作物の進捗報告 (制作物の完成)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 応募概要の復習	2.0
13	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 応募概要に則っているか確認し応募準備を行う	
	事後学修	講義終了後あらためて見直し、応募を行う	2.0
	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 プレゼンテーションの準備を行う	2.0
14	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 応募内容と応募結果報告(プレゼンテーション)を行う	

	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	ゼミ活動を振り返り、プレゼンテーションの準備を行う	2.0
	授業	これまでのゼミ活動の報告（プレゼンテーション）を行う	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： 0% □小テスト： 0 % □レポート： 0% □演習課題： 0% ■その他[グループワーク 50% プレゼンテーション 50%]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
プレゼンテーションへのコメントによりフィードバックを行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		特になし	
単位修得が望ましい科目		特になし	
備考		特になし	
担当教員の実務経験		2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務に近い世の中に必要とされるコンテンツ制作の知識を学生に伝える。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	伊藤 マーティ (338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ： 「アートマネジメントと制作を通じて、アートの実践的理解と企画力を養う」 ○概要： 1.アートマネジメントの基礎研究 ・アートイベントの企画・運営に必要な理論や知識を学ぶ。 ・アート業界におけるマネジメントの役割を理解する。 2.アイデア創出ワークショップ ・ブレインストーミングやデザイン思考などの手法を活用し、創造的なアイデアを生み出すためのプロセスを学ぶ。 ・個人作業とグループ作業を通じて、多様な視点から発想を広げる。 3.実践型アートワークショップ ・水彩、ウッドクラフトなどのアナログ技法と生成 AI や ChatGDP/Copilot などの AI のプロンプトの作り方、Procreate や ibis Paint などのデジタルドローイングなどを学びながら、アイデアを具体的な作品として形にするプロセスを体験する。 4.イベントの企画・運営実習 ・ゼミ主催のアートイベントを企画し、アイデア出しから運営までの流れを体験する。 ・役割分担、予算管理、広報活動などの実務スキルを磨く。 5.アート系イベントの見学・ネットワーク形成 ・学内外のアートイベントを見学し、現場での運営・表現の実態を学ぶ。 ・アーティストや運営者との交流を通じて、多様な視点を取り入れる。 ※グラフィック系(Adobe Illustrator, Adobe Photoshop など)、ペイント系(Procreate, Crip Studio Paint, ibis Paint など)のソフトの知識があると制作に役立ちます。 ※制作するものによって、ゲーミングパソコン、iPad、Apple Pencil が必要になります。 ※アナログ制作を研究する場合には、絵の具、筆、パレットなどの画材が必要になります。 ※すべての履修生はスケッチブックと 4B 以上の鉛筆を必要とします。						
授業における学修の到達目標						
1.アートマネジメントの基礎知識の習得 ・アートイベントを成功させるための企画・運営スキルを身につける。 2.アイデア創出力の向上 ・創造的なアイデアを生み出すための手法を学び、実践的に活用できる能力を養う。 3.アート作品制作の技術向上 ・水彩、ウッドクラフトなどのアナログ技法と生成 AI や ChatGPT/Copilot などの AI のプロンプトの作り方、Procreate や ibis Paint などのデジタルドローイングなどを取り入れたアート技法を習得し、独自の作品を制作する。 4.イベント企画運営の実践力向上 ・アイデアを具体的なイベントに昇華させる力を身につけ、チームで成果を達成する。 5.国内外のアートシーンへの理解 ・視察やディスカッションを通じて、国内外のアートイベントの特徴を把握し、自身の企画に反映させる。 6.総合的なアートとマネジメントの能力向上 ・創造性とマネジメント力を統合し、アートイベントを企画・運営できるスキルを獲得する。						
授業計画						

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し、研究テーマの方向性を考える	2.0
	授業	ガイダンス・自己紹介・研究テーマ発表	
	事後学修	他のゼミ生の研究テーマを参考に自身のテーマを調整する	2.0
2	事前学修	アートイベントとは何かを調べる	2.0
	授業	アートマネジメント入門① 「アートマネジメントとは」	
	事後学修	アートが人々に与える影響を考える	2.0
3	事前学修	SCARTS/札幌資料館で開催中の催事を事前に調べる	2.0
	授業	アートマネジメント入門②「アートマネジメントの実例」 SCARTS/札幌資料館見学	
	事後学修	アートの力で解決できることは無いか考える	2.0
4	事前学修	ゼミ T シャツのカラーを決める	2.0
	授業	実践型ワークショップ①「ゼミ T シャツ制作」	
	事後学修	写真撮影、制作レポート	2.0
5	事前学修	水彩画の作例を調べる	2.0
	授業	実践型ワークショップ②「水彩技法」	
	事後学修	ワークショップで描いた技法を使って習作を作成する	2.0
6	事前学修	ミーティング内容のチェック	2.0
	授業	ゼミ展ミーティング/制作①	
	事後学修	各担当の内容確認/制作作業	2.0
7	事前学修	各担当の内容確認/制作作業の継続	2.0
	授業	ゼミ展ミーティング/制作②	
	事後学修	個人作品制作の継続作業	2.0
8	事前学修	各担当の内容確認/制作作業の継続	2.0
	授業	ゼミ展ミーティング/制作③	
	事後学修	搬入手順確認	2.0
9	事前学修	ゼミ展で気づいたことをまとめる	2.0
	授業	ゼミ展を終えて	
	事後学修	ゼミ展での自分の動きや気づきについてレポート	2.0
10	事前学修	アートミーティングでの気づきをまとめる	2.0
	授業	アートミーティングを終えてのディスカッション	
	事後学修	アートミーティングでの自分の動きや気づきについてレポート	2.0
11	事前学修	小樽について調べる	2.0
	授業	小樽アートツアー準備	
	事後学修	ゼミで決めたことの確認	2.0
12	事前学修	個人作品制作	2.0
	授業	メイカーズ情報大(夏)準備	
	事後学修	個人作品制作の継続作業	2.0
13	事前学修	メイカーズ情報大を終えての感想をまとめる	2.0

	授業	メイカーズ情報大(夏)を終えてのディスカッション	
	事後学修	レポート制作	2.0
	事前学修	個人作品をまとめる	2.0
14	授業	ファイリングについて	
	事後学修	アイデアのファイリングをする	2.0
	事前学修	備品・必要準備の確認	2.0
15	授業	屋外活動実習	
	事後学修	収納・出納・メンテナンス確認	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：10% ■グループワーク：60%、■学習意欲、出席率、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

作品制作・発表・出展などについては随時解説及び評価します。レポートはコメントによるフィードバック。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ提示
単位修得が望ましい科目	・メディアデザインの基礎・演習 ・デザインエレメンツ・演習 ・イラスト制作演習 ・DTP 演習 ・特別実習 A
備考	PC もしくは iPad を持っていることが望ましい
担当教員の実務経験	広告代理店に7年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業のCIやキャラクターデザイン、広告活動の制作を約30年間行ってきた。 2024年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。DTP 演習、イラスト制作演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、特別実習A(夏季集中講義・デジタルイラストレーション入門)、高大連携授業を担当している。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	伊藤 マーティ (338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC326	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
○テーマ： 「アートマネジメントと制作を通じて、アートの実践的理解と企画力を養う」 ○概要： 1.アートマネジメントの基礎研究 ・アートイベントの企画・運営に必要な理論や知識を学ぶ。 ・アート業界におけるマネジメントの役割を理解する。 2.アイデア創出ワークショップ ・ブレインストーミングやデザイン思考などの手法を活用し、創造的なアイデアを生み出すためのプロセスを学ぶ。 ・個人作業とグループ作業を通じて、多様な視点から発想を広げる。 3.実践型アートワークショップ ・水彩、ウッドクラフトなどのアナログ技法と生成 AI や ChatGDP/Copilot などの AI のプロンプトの作り方、Procreate や ibis Paint などのデジタルドローイングなどを学びながら、アイデアを具体的な作品として形にするプロセスを体験する。 4.イベントの企画・運営実習 ・ゼミ主催のアートイベントを企画し、アイデア出しから運営までの流れを体験する。 ・役割分担、予算管理、広報活動などの実務スキルを磨く。 5.アート系イベントの見学・ネットワーク形成 ・学内外のアートイベントを見学し、現場での運営・表現の実態を学ぶ。 ・アーティストや運営者との交流を通じて、多様な視点を取り入れる。 ※グラフィック系(Adobe Illustrator, Adobe Photoshop など)、ペイント系(Procreate, Crip Studio Paint, ibis Paint など)のソフトの知識があると制作に役立ちます。 ※制作するものによって、ゲーミングパソコン、iPad、Apple Pencil が必要になります。 ※アナログ制作を研究する場合には、絵の具、筆、パレットなどの画材が必要になります。 ※すべての履修生はスケッチブックと 4B 以上の鉛筆を必要とします。						
授業における学修の到達目標						
1.アートマネジメントの基礎知識の習得 ・アートイベントを成功させるための企画・運営スキルを身につける。 2.アイデア創出力の向上 ・創造的なアイデアを生み出すための手法を学び、実践的に活用できる能力を養う。 3.アート作品制作の技術向上 ・水彩、ウッドクラフトなどのアナログ技法と生成 AI や ChatGPT/Copilot などの AI のプロンプトの作り方、Procreate や ibis Paint などのデジタルドローイングなどを取り入れたアート技法を習得し、独自の作品を制作する。 4.イベント企画運営の実践力向上 ・アイデアを具体的なイベントに昇華させる力を身につけ、チームで成果を達成する。 5.国内外のアートシーンへの理解 ・視察やディスカッションを通じて、国内外のアートイベントの特徴を把握し、自身の企画に反映させる。 6.総合的なアートとマネジメントの能力向上 ・創造性とマネジメント力を統合し、アートイベントを企画・運営できるスキルを獲得する。						
授業計画						

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	新栄台秋祭りで気づいたことをまとめる	2.0
	授業	新栄台秋祭りを終えて/学祭企画ミーティング	
	事後学修	ミーティングの内容を確認	2.0
2	事前学修	学祭の準備計画を見直す	2.0
	授業	学祭準備	
	事後学修	制作継続など	2.0
3	事前学修	小樽企画の実施要項を確認	2.0
	授業	小樽企画案制作①	
	事後学修	ゼミでまとめた内容の確認	2.0
4	事前学修	小樽企画の実施要項を確認	2.0
	授業	小樽企画案制作②	
	事後学修	ゼミでまとめた内容の確認	2.0
5	事前学修	コスプレスケッチの実施要項を確認	2.0
	授業	コスプレスケッチ準備	
	事後学修	搬出・会計など	2.0
6	事前学修	コスプレスケッチでの反省点をメモする	2.0
	授業	コスプレスケッチを終えてのディスカッション	
	事後学修	レポート制作	2.0
7	事前学修	現在開催中のアート催事を事前に調べる	2.0
	授業	アートマネジメント入門③「アートマネジメントの実例」札幌市内アート展見学企画	
	事後学修	ミーティングで得た情報を見返す	2.0
8	事前学修	アイデアノートの作例を調べる	2.0
	授業	実践型ワークショップ③「アイデアノート」	
	事後学修	習作を作成する	2.0
9	事前学修	見学レポート作成	2.0
	授業	アートマネジメント入門④「アートマネジメントの実例」札幌内アート展見学を終えて	
	事後学修	アートマネジメントについてレポートする	2.0
10	事前学修	アイデアノートの作例を調べる	2.0
	授業	実践型ワークショップ③「アイデアノート」	
	事後学修	習作を作成する	2.0
11	事前学修	作品制作企画作成	2.0
	授業	個人作品制作企画書作成	
	事後学修	企画書作成の継続作業	2.0
12	事前学修	企画書作成の継続作業	2.0
	授業	個人作品制作	
	事後学修	個人作品制作の継続作業	2.0
13	事前学修	個人作品制作	2.0
	授業	メイカーズ情報大(冬)準備	

	事後学修	個人作品制作の継続作業	2.0
14	事前学修	アイデアノートの作例を調べる	2.0
	授業	ゼミ展/卒研のアイデアノート発表① ミニ展示会作品企画	
	事後学修	ゼミでの意見をまとめ反映	2.0
15	事前学修	アイデアノートの作例を調べる	2.0
	授業	ゼミ展/卒研のアイデアノート発表② ミニ展示会作品企画	
	事後学修	ゼミでの意見をまとめ反映	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 ■レポート：10% ■グループワーク：60%、■学習意欲、出席率、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価：30%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
作品制作・発表・出展などについては随時解説及び評価します。レポートはコメントによるフィードバック。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じ提示	
単位修得が望ましい科目		・メディアデザインの基礎・演習 ・デザインエレメンツ・演習 ・イラスト制作演習 ・DTP 演習 ・特別実習 A	
備考		PC もしくは iPad を持っていることが望ましい	
担当教員の実務経験		広告代理店に7年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業のCIやキャラクターデザイン、広告活動の制作を約30年間行ってきた。 2024年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。DTP 演習、イラスト制作演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、特別実習 A(夏季集中講義・デジタルイラストレーション入門)、高大連携授業を担当している。	

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	伊藤 マーティ (338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ： 「アートマネジメントと制作を通じて、アートの実践的理解と企画力を養う」 ○概要： 1.アートマネジメントの基礎研究 ・アートイベントの企画・運営に必要な理論や知識を学ぶ。 ・アート業界におけるマネジメントの役割を理解する。 2.アイデア創出ワークショップ ・ブレインストーミングやデザイン思考などの手法を活用し、創造的なアイデアを生み出すためのプロセスを学ぶ。 ・個人作業とグループ作業を通じて、多様な視点から発想を広げる。 3.実践型アートワークショップ ・水彩、ウッドクラフトなどのアナログ技法と生成 AI や ChatGDP/Copilot などの AI のプロンプトの作り方、Procreate や ibis Paint などのデジタルドローイングなどを学びながら、アイデアを具体的な作品として形にするプロセスを体験する。 4.イベントの企画・運営実習 ・ゼミ主催のアートイベントを企画し、アイデア出しから運営までの流れを体験する。 ・役割分担、予算管理、広報活動などの実務スキルを磨く。 5.アート系イベントの見学・ネットワーク形成 ・学内外のアートイベントを見学し、現場での運営・表現の実態を学ぶ。 ・アーティストや運営者との交流を通じて、多様な視点を取り入れる。 ※グラフィック系(Adobe Illustrator, Adobe Photoshop など)、ペイント系(Procreate, Crip Studio Paint, ibis Paint など)のソフトの知識があると制作に役立ちます。 ※制作するものによって、ゲーミングパソコン、iPad、Apple Pencil が必要になります。 ※アナログ制作を研究する場合には、絵の具、筆、パレットなどの画材が必要になります。 ※すべての履修生はスケッチブックと 4B 以上の鉛筆を必要とします。						
授業における学修の到達目標						
1.アートマネジメントの基礎知識の習得 ・アートイベントを成功させるための企画・運営スキルを身につける。 2.アイデア創出力の向上 ・創造的なアイデアを生み出すための手法を学び、実践的に活用できる能力を養う。 3.アート作品制作の技術向上 ・水彩、ウッドクラフトなどのアナログ技法と生成 AI や ChatGPT/Copilot などの AI のプロンプトの作り方、Procreate や ibis Paint などのデジタルドローイングなどを取り入れたアート技法を習得し、独自の作品を制作する。 4.イベント企画運営の実践力向上 ・アイデアを具体的なイベントに昇華させる力を身につけ、チームで成果を達成する。 5.国内外のアートシーンへの理解 ・視察やディスカッションを通じて、国内外のアートイベントの特徴を把握し、自身の企画に反映させる。 6.総合的なアートとマネジメントの能力向上 ・創造性とマネジメント力を統合し、アートイベントを企画・運営できるスキルを獲得する。						
授業計画						

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスの内容を確認して、研究テーマの方向性を考える	2.0
	授業	ガイダンス 研究テーマ発表	
	事後学修	他のゼミ生の研究テーマを参考に自身のテーマを調整する	2.0
2	事前学修	ゼミ展作品制作	2.0
	授業	ゼミ展作品制作①	
	事後学修	作品制作継続作業	2.0
3	事前学修	SCARTS/札幌資料館で開催中の催事を事前に調べる	2.0
	授業	アートマネジメント入門④「アートマネジメントの実例」SCARTS/札幌資料館見学	
	事後学修	気づいたこと、取り入れたいことなどをレポートする	2.0
4	事前学修	作品制作継続作業	2.0
	授業	ゼミ展作品制作②	
	事後学修	作品制作継続作業	2.0
5	事前学修	作品制作継続作業	2.0
	授業	ゼミ展作品制作③	
	事後学修	作品制作継続作業	2.0
6	事前学修	ミーティング内容のチェック	2.0
	授業	ゼミ展ミーティング/制作①	
	事後学修	各担当の内容確認/制作作業	2.0
7	事前学修	各担当の内容確認/制作作業の継続	2.0
	授業	ゼミ展ミーティング/制作②	
	事後学修	個人作品制作の継続作業	2.0
8	事前学修	各担当の内容確認/制作作業の継続	2.0
	授業	ゼミ展ミーティング/制作③	
	事後学修	搬入手順確認	2.0
9	事前学修	ゼミ展で気づいたことをまとめる	2.0
	授業	ゼミ展を終えてのディスカッション	
	事後学修	ゼミ展での自分の動きや気づきについてレポート	2.0
10	事前学修	アートミーティングでの気づきをまとめる	2.0
	授業	アートミーティングを終えてのディスカッション	
	事後学修	アートミーティングでの自分の動きや気づきについてレポート	2.0
11	事前学修	プレゼンテーションの方法について調べる	2.0
	授業	プレゼンテーション技法①	
	事後学修	プレゼンテーションに必要なことをまとめる	2.0
12	事前学修	前回のプレゼンテーションを踏まえて、2度目をどうするのかプランする	2.0
	授業	プレゼンテーション技法②	
	事後学修	プレゼンテーションのまとめを考える	2.0
13	事前学修	プレゼンテーションの実例を調べる	2.0

	授業	プレゼンテーションの実例①	
	事後学修	プレゼンテーションの実例の感想レポート	2.0
	事前学修	プレゼンテーションの実例を調べる	2.0
14	授業	プレゼンテーション実例②	
	事後学修	プレゼンテーションの実例の感想レポート	2.0
	事前学修	備品・必要準備の確認	2.0
15	授業	屋外活動実習	
	事後学修	収納・出納・メンテナンス確認	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：10% ■グループワーク：60%、■学習意欲、出席率、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

作品制作・発表・出展などについては随時解説及び評価します。レポートはコメントによるフィードバック。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ提示
単位修得が望ましい科目	・メディアデザインの基礎・演習 ・デザインエレメンツ・演習 ・イラスト制作演習 ・DTP 演習 ・特別実習 A
備考	PC もしくは iPad を持っていることが望ましい
担当教員の実務経験	広告代理店に7年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業のCIやキャラクターデザイン、広告活動の制作を約30年間行ってきた。 2024年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。DTP 演習、イラスト制作演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、特別実習A(夏季集中講義・デジタルイラストレーション入門)、高大連携授業を担当している。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	伊藤 マーティ (338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ： 「アートマネジメントと制作を通じて、アートの実践的理解と企画力を養う」 ○概要： 1.アートマネジメントの基礎研究 ・アートイベントの企画・運営に必要な理論や知識を学ぶ。 ・アート業界におけるマネジメントの役割を理解する。 2.アイデア創出ワークショップ ・ブレインストーミングやデザイン思考などの手法を活用し、創造的なアイデアを生み出すためのプロセスを学ぶ。 ・個人作業とグループ作業を通じて、多様な視点から発想を広げる。 3.実践型アートワークショップ ・水彩、ウッドクラフトなどのアナログ技法と生成 AI や ChatGDP/Copilot などの AI のプロンプトの作り方、Procreate や ibis Paint などのデジタルドローイングなどを学びながら、アイデアを具体的な作品として形にするプロセスを体験する。 4.イベントの企画・運営実習 ・ゼミ主催のアートイベントを企画し、アイデア出しから運営までの流れを体験する。 ・役割分担、予算管理、広報活動などの実務スキルを磨く。 5.アート系イベントの見学・ネットワーク形成 ・学内外のアートイベントを見学し、現場での運営・表現の実態を学ぶ。 ・アーティストや運営者との交流を通じて、多様な視点を取り入れる。 ※グラフィック系(Adobe Illustrator, Adobe Photoshop など)、ペイント系(Procreate, Crip Studio Paint, ibis Paint など)のソフトの知識があると制作に役立ちます。 ※制作するものによって、ゲーミングパソコン、iPad、Apple Pencil が必要になります。 ※アナログ制作を研究する場合には、絵の具、筆、パレットなどの画材が必要になります。 ※すべての履修生はスケッチブックと 4B 以上の鉛筆を必要とします。						
授業における学修の到達目標						
1.アートマネジメントの基礎知識の習得 ・アートイベントを成功させるための企画・運営スキルを身につける。 2.アイデア創出力の向上 ・創造的なアイデアを生み出すための手法を学び、実践的に活用できる能力を養う。 3.アート作品制作の技術向上 ・水彩、ウッドクラフトなどのアナログ技法と生成 AI や ChatGPT/Copilot などの AI のプロンプトの作り方、Procreate や ibis Paint などのデジタルドローイングなどを取り入れたアート技法を習得し、独自の作品を制作する。 4.イベント企画運営の実践力向上 ・アイデアを具体的なイベントに昇華させる力を身につけ、チームで成果を達成する。 5.国内外のアートシーンへの理解 ・視察やディスカッションを通じて、国内外のアートイベントの特徴を把握し、自身の企画に反映させる。 6.総合的なアートとマネジメントの能力向上 ・創造性とマネジメント力を統合し、アートイベントを企画・運営できるスキルを獲得する。						
授業計画						

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	新栄台秋祭りで気づいたことをまとめる	2.0
	授業	新栄台秋祭りを終えて/学祭企画ミーティング	
	事後学修	ミーティングの内容を確認	2.0
2	事前学修	学祭の準備計画を見直す	2.0
	授業	学祭準備	
	事後学修	制作継続など	2.0
3	事前学修	小樽企画の実施要項を確認	2.0
	授業	小樽企画案制作①	
	事後学修	ゼミでまとめた内容の確認	2.0
4	事前学修	小樽企画の実施要項を確認	2.0
	授業	小樽企画案制作②	
	事後学修	ゼミでまとめた内容の確認	2.0
5	事前学修	コスプレスケッチの実施要項を確認	2.0
	授業	コスプレスケッチ準備	
	事後学修	搬出・会計など	2.0
6	事前学修	コスプレスケッチでの反省点をメモする	2.0
	授業	コスプレスケッチについてのディスカッション	
	事後学修	レポート制作	2.0
7	事前学修	現在開催中のアート催事を事前に調べる	2.0
	授業	アートマネジメント入門③「アートマネジメントの実例」札幌市内アート展見学企画	
	事後学修	ミーティングで得た情報を見返す	2.0
8	事前学修	アイデアノートの作例を調べる	2.0
	授業	実践型ワークショップ③「アイデアノート」	
	事後学修	習作を作成する	2.0
9	事前学修	見学レポート作成	2.0
	授業	アートマネジメント入門④「アートマネジメントの実例」札幌内アート展見学を終えてのディスカッション	
	事後学修	アートマネジメントについてレポートする	2.0
10	事前学修	アイデアノートの作例を調べる	2.0
	授業	実践型ワークショップ③「アイデアノート」	
	事後学修	習作を作成する	2.0
11	事前学修	作品制作企画作成	2.0
	授業	個人作品制作企画書作成	
	事後学修	企画書作成の継続作業	2.0
12	事前学修	企画書作成の継続作業	2.0
	授業	個人作品制作	
	事後学修	個人作品制作の継続作業	2.0
13	事前学修	個人作品制作	2.0

	授業	メイカーズ情報大(冬)準備	
	事後学修	個人作品制作の継続作業	2.0
	事前学修	作品企画書の作例を調べる	2.0
14	授業	実践型ワークショップ④「作品企画書などの制作」	
	事後学修	習作を作成する	2.0
	事前学修	ゼミ活動についてまとめる	2.0
15	授業	ゼミ活動について感想をディスカッション	
	事後学修	感想レポートを作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：10% ■グループワーク：60%、■学習意欲、出席率、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

作品制作・発表・出展などについては随時解説及び評価します。レポートはコメントによるフィードバック。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ提示
単位修得が望ましい科目	・メディアデザインの基礎・演習 ・デザインエレメンツ・演習 ・イラスト制作演習 ・DTP 演習 ・特別実習 A
備考	PC もしくは iPad を持っていることが望ましい
担当教員の実務経験	広告代理店に7年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業のCIやキャラクターデザイン、広告活動の制作を約30年間行ってきた。 2024年より北海道情報大学・情報メディア学科の講師として勤務。DTP 演習、イラスト制作演習、メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ演習、ビジュアル構成演習、特別実習A(夏季集中講義・デジタルイラストレーション入門)、高大連携授業を担当している。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：短編映像作品又は、映像を用いたコンテンツの企画・制作						
映像系の基礎科目などで培った知識、技術を活かし映像系の小作品の制作に取り組む。						
上映・放映型の映像作品やアニメーション作品、展示型の映像作品やメディアアート、 ミュージックライブやパフォーミングアートでの映像系演出などについて、 各々の企画に照らし合わせてリサーチし作品化への理解を深める。						
授業における学修の到達目標						
オリジナルの小作品を制作する。多様な映像表現の発表機会や形態について理解する。各々の作品制作における技法上の課題点や表現性を見出す。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ				2.0
	授業	作品のコンセプト設計				
	事後学修	リサーチ				2.0
2	事前学修	プロポーザル発表準備				2.0
	授業	プロポーザル発表 意見交換				
	事後学修	意見交換まとめ				2.0
3	事前学修	作品形態と発表方法についてのリサーチ				2.0
	授業	作品形態と発表方法の検討・リサーチ				
	事後学修	作品形態と発表方法の見直し、修正など				2.0
4	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備				2.0
	授業	イメージボード・プレビズ				
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し、修正				2.0
5	事前学修	企画発表準備				2.0
	授業	企画発表 意見交換				
	事後学修	意見交換まとめ				2.0
6	事前学修	素材制作のためのリサーチ				2.0
	授業	素材制作				
	事後学修	制作作業				2.0
7	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
8	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	大島 慶太郎 (320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
テーマ：映像作品又は、映像を用いたコンテンツの企画・制作及び、発表 ゼミナールⅠでの小作品の制作経験をもとに、発表・発信を目的とする作品の企画・制作に取り組む。作品制作における手法及び、発表形態（上映・展示・ライブなど）についての課題を設け、制作過程での実験的な技法研究を通じて、各々の表現手段の確立を目指す。						
授業における学修の到達目標						
オリジナルの作品を制作し、発表する。自身の表現手段の確立及び、発表形態を実現する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ				2.0
	授業	作品のコンセプト設計				
	事後学修	発表形態のリサーチ				2.0
2	事前学修	企画発表準備				2.0
	授業	企画発表 意見交換				
	事後学修	意見交換まとめ				2.0
3	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備				2.0
	授業	イメージボード・プレビズ				
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し、修正				2.0
4	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
5	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
6	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
7	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
8	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
9	事前学修	進捗報告の準備				2.0

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：短編映像作品又は、映像を用いたコンテンツの企画・制作						
映像系の基礎科目などで培った知識、技術を活かし映像系の小作品の制作に取り組む。						
上映・放映型の映像作品やアニメーション作品、展示型の映像作品やメディアアート、 ミュージックライブやパフォーミングアートでの映像系演出などについて、 各々の企画に照らし合わせてリサーチし作品化への理解を深める。						
授業における学修の到達目標						
オリジナルの小作品を制作する。多様な映像表現の発表機会や形態について理解する。各々の作品制作における技法上の課題点や表現性を見出す。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ				2.0
	授業	作品のコンセプト設計				
	事後学修	リサーチ				2.0
2	事前学修	プロポーザル発表準備				2.0
	授業	プロポーザル発表 意見交換				
	事後学修	意見交換まとめ				2.0
3	事前学修	作品形態と発表方法についてのリサーチ				2.0
	授業	作品形態と発表方法の検討・リサーチ				
	事後学修	作品形態と発表方法の見直し、修正など				2.0
4	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備				2.0
	授業	イメージボード・プレビズ				
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し、修正				2.0
5	事前学修	企画発表準備				2.0
	授業	企画発表 意見交換				
	事後学修	意見交換まとめ				2.0
6	事前学修	素材制作のためのリサーチ				2.0
	授業	素材制作				
	事後学修	制作作業				2.0
7	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
8	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：映像作品又は、映像を用いたコンテンツの企画・制作及び、発表 ゼミナールⅠでの小作品の制作経験をもとに、発表・発信を目的とする作品の企画・制作に取り組む。作品制作における手法及び、発表形態（上映・展示・ライブなど）についての課題を設け、制作過程での実験的な技法研究を通じて、各々の表現手段の確立を目指す。						
授業における学修の到達目標						
オリジナルの作品を制作し、発表する。自身の表現手段の確立及び、発表形態を実現する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ				2.0
	授業	作品のコンセプト設計				
	事後学修	発表形態のリサーチ				2.0
2	事前学修	企画発表準備				2.0
	授業	企画発表 意見交換				
	事後学修	意見交換まとめ				2.0
3	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備				2.0
	授業	イメージボード・プレビズ				
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し、修正				2.0
4	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
5	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
6	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
7	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
8	事前学修	制作作業				2.0
	授業	制作作業				
	事後学修	制作作業				2.0
9	事前学修	進捗報告の準備				2.0

	授業	進捗報告 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
10	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
11	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
12	事前学修	作品プレゼンテーション準備	2.0
	授業	作品プレゼンテーション 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
13	事前学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
	授業	発表準備（上映・展示・ライブなど）	
	事後学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
14	事前学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
	授業	発表準備（上映・展示・ライブなど）	
	事後学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
15	事前学修	作品発表準備	2.0
	授業	作品発表 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら、個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習， アニメーション基礎演習， ビジュアルエフェクト演習， 映像制作プロジェクト
備考	特にない。
担当教員の実務経験	様々な映像表現技法を駆使したコンテンツ制作の経験が豊富であり， アニメーション表現， 映像表現について研究している。映像メディアを用いた応用的な表現手段について幅広く指導できる。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ			IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。最初の数回は各種基礎技術の講義と演習を行い、モバイルと Web のアプリでどのようなことができるのかを把握します。また、UI/UX という概念について学習します。その後、各自のテーマを決め、それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら、対象のプラットフォームに対する理解や、プログラミング技術に対する理解を深めます。						
授業における学修の到達目標						
・ モバイルアプリまたは Web アプリにかんする基礎的な知識を説明できる ・ 基礎的なモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ Web API を用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ データベースを用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ UI/UX とは何か説明できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスや事前に通知されているゼミ専用ページの資料を読む				2
	授業	ガイダンス：ゼミナールⅠを行うにあたって必要なものの説明と作業				
	事後学修	ガイダンスで説明されたものを各自次回までに準備する				2
2	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	モバイルアプリの基本				
	事後学修	自分の作りたいアプリに向いているかどうかの検討を行う				2
3	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web アプリの基本				
	事後学修	自分の作りたいアプリに向いているかどうかの検討を行う				2
4	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web API を利用した Web アプリ				
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う				2
5	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web アプリにおける認証・認可				
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用するかどうか、必要性の検討を行う				2
6	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	画面遷移：モバイルアプリと Web アプリにおける画面遷移について理解する				
	事後学修	自分の作りたいアプリではどのように行うべきかを検討する				2
7	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	モバイルアプリにおける「制約」という考え方				
	事後学修	自分の作りたいアプリではどのように行うべきかを検討する				2
8	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2

	授業	Web API を利用したモバイルアプリ	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
9	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	データベースの基本	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
10	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web アプリにおけるデータベース操作	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
11	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリにおけるデータベース操作	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
12	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	UI 設計の基本	
	事後学修	自分の作りたいアプリに合わせ、主要部分の UI 設計を（試しに）行ってみる	2
13	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	夏休み課題の検討	
	事後学修	ゼミでの議論をもとに夏休み課題の内容を検討しなおし、その結果をゼミ専用ページに書く	2
14	事前学修	公開された発表会予定から、どの発表を見るのかを検討する	2
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	聴講した発表の内容をまとめる。また、疑問に思った点や自分のアプリに採用したいと思った点などがあれば調査する	2
15	事前学修	前回の事後学習で行った内容をゼミ専用ページにまとめる	2
	授業	卒業研究企画発表会について議論	
	事後学修	議論を振り返り、新たにわかったことや後日調査すべきことなどをまとめておく	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% ■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ゼミナールⅠの時間にフィードバックする。または、メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	ゼミ中に適宜提示する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	谷口 文威 (226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IMC326	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。各自のテーマ（作成するアプリ）を決め、それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら、対象のプラットフォームに対する理解や、プログラミング技術に対する理解を深めます。						
授業における学修の到達目標						
・ デバイスに応じた UI を設計できる ・ Web アプリをデプロイできる ・ バージョン管理システムを利用できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	発表資料の作成と発表練習を行う				2
	授業	夏休み課題の成果発表				
	事後学修	ゼミ中に受けた質問等で答えきれなかった事項について調査する				2
2	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web アプリのデプロイ				
	事後学修	他のアプリ（たとえば夏休み課題等）のデプロイについて試してみる				2
3	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	バージョン管理システム git の導入				
	事後学修	別のソースコードを git で管理してみる（またはその事前調査を行う）				2
4	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	バージョン管理システム Web アプリの利用				
	事後学修	自作アプリに適用可能かを検討し、可能であれば適用する。その結果をゼミ専用ページにまとめる				2
5	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	後期に制作するアプリの検討				
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとに、アプリの企画をブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる				2
6	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web アプリの設計（機能）				
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる				2
7	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web アプリの設計（画面遷移）				
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる				2
8	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2

	授業	作成した Web アプリのデプロイ	
	事後学修	デプロイにおける注意点や実際に起こったトラブルなどをゼミ専用ページにまとめる	2
9	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成した Web アプリの講評・議論	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘等について、答えきれなかった項目について調査し、ゼミ専用ページにまとめる	2
10	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの設計（機能）	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
11	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの設計（画面遷移）	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
12	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの開発	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
13	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成したモバイルアプリのデプロイ	
	事後学修	デプロイにおける注意点や実際に起こったトラブルなどをゼミ専用ページにまとめる	2
14	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成したモバイルアプリの講評・議論	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘等について、答えきれなかった項目について調査し、ゼミ専用ページにまとめる	2
15	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	4 年生で行う課題のテーマ選定	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘を受けて、テーマの細かな内容を検討しなおし、その結果をゼミ専用ページにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% ■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ゼミナールⅡの時間にフィードバックする。または、メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	ゼミ中に適宜提示する
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。最初の数回は各種基礎技術の講義と演習を行い、モバイルと Web のアプリでどのようなことができるのかを把握します。また、UI/UX という概念について学習します。その後、各自のテーマを決め、それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら、対象のプラットフォームに対する理解や、プログラミング技術に対する理解を深めます。最終的には卒業制作としてアプリを制作することを目標とします。						
授業における学修の到達目標						
・ モバイルアプリまたは Web アプリにかんする基礎的な知識を説明できる ・ 基礎的なモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ Web API を用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ データベースを用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ UI/UX とは何か説明できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスや事前に通知されているゼミ専用ページの資料を読む				2
	授業	ガイダンス：ゼミナールⅢを行うにあたって必要なものの説明と作業				
	事後学修	ガイダンスで説明されたものを各自次回までに準備する				2
2	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	プレゼンテーションの復習				
	事後学修	各自の発表の良かった点・改善できそうな点についてまとめる				2
3	事前学修	調査内容をまとめる				2
	授業	卒業制作アプリ企画概要発表				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2
4	事前学修	調査内容をまとめる				2
	授業	卒業制作アプリの先行事例調査				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2
5	事前学修	調査内容をまとめる				2
	授業	卒業制作アプリの需要調査				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2
6	事前学修	調査内容をまとめる				2
	授業	卒業制作アプリの具体的な内容発表				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2
7	事前学修	調査内容をまとめる				2
	授業	卒業制作アプリの UI 検討結果報告				
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる				2

8	事前学修	調査内容をまとめる	2
	授業	卒業制作アプリの機能検討結果報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
9	事前学修	実装を進める	2
	授業	卒業制作アプリの進捗報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
10	事前学修	実装内容について発表の前までにまとめる	2
	授業	卒業制作アプリの概要報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
11	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	企画発表会用の小論を準備する	2
	授業	企画発表会リハーサル（小論）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
13	事前学修	企画発表会での発表資料を作成する	2
	授業	企画発表会リハーサル（プレゼン）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
14	事前学修	企画発表にかんして準備する	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表について報告資料をまとめる	2
	授業	発表会にかんする報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% ■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ゼミナールⅢの時間にフィードバックする。または、メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	Web プログラミング演習
備考	実装言語は各自と教員とで相談の上決定する
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ			IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。最初の数回は各種基礎技術の講義と演習を行い、モバイルと Web のアプリでどのようなことができるのかを把握します。また、UI/UX という概念について学習します。その後、各自のテーマを決め、それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら、対象のプラットフォームに対する理解や、プログラミング技術に対する理解を深めます。最終的には卒業制作としてアプリを制作することを目標とします。						
授業における学修の到達目標						
・ モバイルアプリまたは Web アプリにかんする基礎的な知識を説明できる ・ 基礎的なモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ Web API を用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ データベースを用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ UI/UX とは何か説明できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	文章の書き方にかんする資料を復習する				2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備の仕方				
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方について復習する				2
2	事前学修	卒業制作アプリの UI の評価方法について資料をまとめる				2
	授業	卒業制作アプリの UI の評価方法				
	事後学修	発表内容、 質疑についてまとめる				2
3	事前学修	UI 評価の進捗資料をまとめる				2
	授業	UI 評価の進捗報告				
	事後学修	発表内容、 質疑についてまとめる				2
4	事前学修	卒業制作アプリの機能の評価方法について資料をまとめる				2
	授業	卒業制作アプリの機能の評価方法				
	事後学修	発表内容、 質疑についてまとめる				2
5	事前学修	機能評価の進捗資料をまとめる				2
	授業	機能評価の進捗報告				
	事後学修	発表内容、 質疑についてまとめる				2
6	事前学修	卒業制作アプリの追加機能について資料をまとめる				2
	授業	評価による卒業制作アプリの追加機能の検討				
	事後学修	発表内容、 質疑についてまとめる				2
7	事前学修	追加機能の実装報告資料をまとめる				2
	授業	追加機能の実装報告				
	事後学修	発表内容、 質疑についてまとめる				2

8	事前学修	卒業論文の目次構成構想をまとめる	2
	授業	卒業論文の構成の議論	
	事後学修	議論内容をもとに目次を完成させ、小論執筆を開始する	2
9	事前学修	小論の見直し	2
	授業	小論の構成チェックと「はじめに」にかんする議論	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
10	事前学修	小論の見直し	2
	授業	小論の相互チェック	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
11	事前学修	卒業制作アプリの動作について準備	2
	授業	卒業制作アプリの動作発表	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
12	事前学修	卒業研究発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	卒業研究発表会の発表資料の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
13	事前学修	卒業研究発表会リハーサル発表準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（1回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
14	事前学修	卒業研究発表会リハーサル発表準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（2回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
15	事前学修	卒業研究発表会リハーサル発表準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（3回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% ■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ゼミナールⅣの時間にフィードバックする。または、メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	Web プログラミング演習
備考	実装言語は各自と教員とで相談の上決定する
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ Internet of Things（IoT）：実社会におけるさまざまなデータをセンサーによって取得し、インターネットを経由してサーバーに収集・活用する技術。 ○概要 Raspberry Pi 等のマイコンを用いて、IoT に関する基本的な技術を演習形式で学ぶ。単に勉強するだけではなく、講義で学んだ内容をベースにグループワークでも作品制作を行う。講義の最終回では、制作した作品についてのデモ発表会も行う。						
授業における学修の到達目標						
・卒業研究に備え、主に IoT 分野における研究活動に向けた基礎的知識を身に付ける。 ・研究開発に必要なスキルを身に付け、既存のアイデアをプログラムによって再現できる。 ・数式を読み解き、プログラム上で表現できる技術を身に付ける。 ・共同で開発するためのスキルを習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	Raspberry Pi①：セットアップ				
	事後学修	授業中に終わらなかった部分について完了させる				2
2	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	Raspberry Pi②：GPIO の基本（LED 出力）				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2
3	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	Raspberry Pi③：デジタル入力				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2
4	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	Raspberry Pi④：アナログ入力				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2
5	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	Raspberry Pi⑤：モーター				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2
6	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	画像処理①: OpenCV				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2
7	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	画像処理②：物体検出と YOLO				

	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む	2
8	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	サーバ①：Flask	
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む	2
9	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	サーバ②：IoT とクラウドサーバ	
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む	2
10	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT チーム開発をスタートさせる	
	事後学修	チーム制作を進める	2
11	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT チーム開発の経過報告と開発作業	
	事後学修	チーム制作を進める	2
12	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT チーム開発の中間報告	
	事後学修	チーム制作を進める	2
13	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	卒研企画発表会（見学 1 日目）	
	事後学修	チーム制作を進める	2
14	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	卒研企画発表会（見学 2 日目）	
	事後学修	デモ発表会に向けて資料作成を進める	2
15	事前学修	デモ発表会に向けて資料を完成させる	2
	授業	IoT チーム開発：デモ発表会	
	事後学修	これまでの課題を復習し、不明点を無くしておく	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： 0% ■演習課題：50% ■その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度対面またはオンラインで指導する

教科書	
参考書・Web サイト	・ Simon Monk 著、水原文 訳「Raspberry Pi クックブック 第 4 版」O'REILLY ・ 北山 直洋 「Python で始める OpenCV 4 プログラミング」カットシステム
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，メディア技術演習，メディアプログラミング演習，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステム開発や展示等の経験に基づいて、実戦的な研究開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ 機械学習：人工知能分野の中核をなすニューラルネットワークや強化学習などの基盤技術の総称。 マルチエージェントシステム（MAS）：人の活動や社会現象を仮想的にシミュレーションするためのプラットフォーム。 ○概要 機械学習や MAS の基本的な技術を演習形式で学ぶ。単に勉強するだけではなく、講義で学んだ内容をベースにグループワークでも作品制作を行う。講義の最終回では、制作した作品についてのプレゼンテーションも行う。また、前期のゼミナールⅠで制作した作品を蒼天祭や学外のコンテストで出展する。						
授業における学修の到達目標						
・卒業研究に備え、主に機械学習やマルチエージェントシミュレーション分野における研究活動に向けた基礎的知識を身に付ける。 ・研究開発に必要なスキルを身に付け、既存のアイデアをプログラムによって再現できる。 ・数式を読み解き、プログラム上で表現できる技術を身に付ける。 ・共同で開発するためのスキルを習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	前期で作った作品の蒼天祭での展示方法についてチームで相談しておく				2
	授業	蒼天祭の準備①				
	事後学修	次回までに準備するものをチームで相談しておく				2
2	事前学修	チーム開発を進めておく				2
	授業	蒼天祭の準備②				
	事後学修	展示を完成させるためにチームで作業を行う				2
3	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	OpenAI API①：Chat Completion API				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2
4	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	OpenAI API②：API と自作サービスを組み合わせる				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2
5	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	音声認識と Whisper				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2
6	事前学修	事前学習資料に目を通しておく				2
	授業	深層学習入門①：PyTorch で深層学習を動かしてみよう				
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む				2

7	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	深層学習入門②：ニューラルネットワークの基本	
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む	2
8	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	深層学習入門③：ニューラルネットワークの学習方法	
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む	2
9	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	深層学習入門④：転移学習とファイン・チューニング	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作のためのテーマを決める	2
10	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	強化学習	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作を進める	2
11	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	MAS①：マルチエージェントシステムとは	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作を進める	2
12	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	MAS②：古典的なシミュレーションを実装	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作を進める	2
13	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	MAS③：歩行者シミュレーション	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作を進める	2
14	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	MAS④：テーマパーク問題	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・次回の発表会に向けた資料を作成する	2
15	事前学修	発表会に向けた資料を完成させる	2
	授業	グループ制作発表会	
	事後学修	コメントを元に卒業研究のアイデアを精査する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： 0% ■演習課題：50% ■その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度対面またはオンラインで指導する

教科書

参考書・Web サイト

・ 掌田 津耶乃「Python/JavaScript による OpenAI プログラミング」ラトルズ
・ 小川 雄太郎「つくりながら学ぶ！ PyTorch による発展ディープラーニング」マイナビブックス
・ 大内 東, 川村 秀憲, 山本 雅人「マルチエージェントシステムの基礎と応用—複雑系工学の計算

	パラダイム」コロナ社 ・山影 進，服部正太 編「コンピュータのなかの人工社会 マルチエージェント シミュレーションモデルと複雑系」共立出版 ・山影 進「人工社会構築指南 artisoc によるマルチエージェント・シミュレーション入門 改訂新版（人工社会の可能性）」書籍工房早山
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，メディア技術演習，メディアプログラミング演習，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステム開発や展示等の経験に基づいて，実戦的な研究開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ IoT（Internet of Things）分野の研究，マルチエージェントシステム，機械学習およびこれらの融合的研究。						
○概要 下記の 3 テーマに関連して独自の研究テーマを選定し，新しいシステム開発や評価実験を行い新たな知見を得る。前期は先行研究の調査を踏まえてテーマを洗練させ，プロトタイプシステムを開発する。後期では実際に提案システムを開発し，考察を行う。 ゼミにおいては毎週ディスカッションを行い，研究の内容を洗練させていく。						
1. IoT 実社会におけるさまざまなデータをセンサーによって取得し，インターネットを経由してサーバーに収集・活用する技術について学ぶ。						
2. マルチエージェントシステム 社会現象を仮想的にシミュレーションするためのプラットフォームであるマルチエージェントシステムについて学ぶ。						
3. 機械学習 人工知能実現のための基礎的な技術であるニューラルネットワークや強化学習などの技術を学ぶ。						
授業における学修の到達目標						
・ 研究開発に必要なスキルを身に付け，独自のアイデアをプログラムや作品として具現化できる。 ・ 数式を読み解き，プログラム上で表現できる技術を身に付ける。 ・ 自分で計画を立ててプロジェクトを推し進めるためのマネジメント技術を習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	3 年生での取り組みを振り返る				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	これからの 1 年の取り組みを計画する				2
2	事前学修	事前資料に目を通しておく				2
	授業	研究テーマの検討・先行研究調査の方法について				
	事後学修	授業内容を踏まえて研究テーマを検討し、関連する先行研究を調査する				2
3	事前学修	発表のための準備を行う				2
	授業	先行研究調査の内容の発表①				
	事後学修	・ コメントを整理して，追加の調査を行う ・ 研究アイデアを検討して資料にまとめる				2
4	事前学修	発表のための準備を行う				2
	授業	先行研究調査の内容の発表②				
	事後学修	・ コメントを整理して，追加の調査を行う ・ 研究アイデアを検討して資料にまとめる				2

5	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	先行研究調査の内容の発表③	
	事後学修	・コメントを整理して、追加の調査を行う ・研究アイデアを検討して資料にまとめる	2
6	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究アイデアの発表・ディスカッション①	
	事後学修	・コメントを整理して、研究アイデアを修正する ・アイデアを実現させるための方法について検討し、研究を進める	2
7	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究アイデアの発表・ディスカッション②	
	事後学修	・コメントを整理して、研究アイデアを修正する ・アイデアを実現させるための方法について検討し、研究を進める	2
8	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究アイデアの発表・ディスカッション③	
	事後学修	・コメントを整理して、研究アイデアを修正する ・アイデアを実現させるための方法について検討し、研究を進める	2
9	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究アイデアの発表・ディスカッション④	
	事後学修	・コメントを整理して、研究アイデアを修正する ・アイデアを実現させるための方法について検討し、研究を進める	2
10	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究アイデアの発表・ディスカッション⑤	
	事後学修	・コメントを整理して、研究アイデアを修正する ・アイデアを実現させるための方法について検討し、研究を進める	2
11	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究アイデアの発表・ディスカッション⑥	
	事後学修	・コメントを整理して、研究アイデアを修正する ・アイデアを実現させるための方法について検討し、研究を進める	2
12	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	提案システムの試作および結果のディスカッション①	
	事後学修	コメントを整理して、適宜研究の方向性を修正する	2
13	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	提案システムの試作および結果の議論②	
	事後学修	コメントを整理して、適宜研究の方向性を修正する	2
14	事前学修	発表のための準備を行う。	2
	授業	提案システムの試作および結果の議論③	
	事後学修	コメントを整理して、適宜研究の方向性を修正する	2
15	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究室中中間発表会	
	事後学修	コメントを整理して、後半に向けて改めて研究計画を精査する	2
成績評価の方法およびその基準			

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ						
IoT（Internet of Things）分野の研究，マルチエージェントシステム，機械学習およびこれらの融合的研究。						
○概要						
下記の 3 テーマに関連して独自の研究テーマを選定し，新しいシステム開発や評価実験を行い新たな知見を得る。前期は先行研究の調査を踏まえてテーマを洗練させ，プロトタイプシステムを開発する。後期では実際に提案システムを開発し，考察を行う。						
ゼミにおいては毎週ディスカッションを行い，研究の内容を洗練させていく。						
1. IoT						
実社会におけるさまざまなデータをセンサーによって取得し，インターネットを経由してサーバーに収集・活用する技術について学ぶ。						
2. マルチエージェントシステム						
社会現象を仮想的にシミュレーションするためのプラットフォームであるマルチエージェントシステムについて学ぶ。						
3. 機械学習						
人工知能実現のための基礎的な技術であるニューラルネットワークや強化学習などの技術を学ぶ。						
授業における学修の到達目標						
・ 研究開発に必要なスキルを身に付け，独自のアイデアをプログラムや作品として具現化できる。						
・ 数式を読み解き，プログラム上で表現できる技術を身に付ける。						
・ 自分で計画を立ててプロジェクトを推し進めるためのマネジメント技術を習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	発表のための準備を行う。				2
	授業	卒業研究発表会に向けた研究計画の発表				
	事後学修	コメントを整理して，後半に向けて改めて研究計画を精査する				2
2	事前学修	発表のための準備を行う				2
	授業	提案システムの開発および結果の議論①				
	事後学修	・ コメントを整理して，適宜研究の方向性を修正する ・ 提案システムの開発および実験を進める				2
3	事前学修	発表のための準備を行う				2
	授業	提案システムの開発および結果の議論②				
	事後学修	・ コメントを整理して，適宜研究の方向性を修正する ・ 提案システムの開発および実験を進める				2
4	事前学修	発表のための準備を行う				2
	授業	提案システムの開発および結果の議論③				
	事後学修	・ コメントを整理して，適宜研究の方向性を修正する ・ 提案システムの開発および実験を進める				2

5	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	提案システムの開発および結果の議論④	
	事後学修	・コメントを整理して、適宜研究の方向性を修正する ・提案システムの開発および実験を進める	2
6	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	提案システムの開発および結果の議論⑤	
	事後学修	・コメントを整理して、適宜研究の方向性を修正する ・提案システムの開発および実験を進める	2
7	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	論文の骨子についての議論①	
	事後学修	コメントを整理して、適宜論文の骨子を修正する	2
8	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	論文の骨子についての議論②	
	事後学修	コメントを整理して、適宜論文の骨子を修正する	2
9	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	論文の骨子についての議論③	
	事後学修	コメントを整理して、適宜論文の骨子を修正する	2
10	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究内容まとめ①	
	事後学修	コメントの内容を元にまとめを修正する	2
11	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究内容まとめ②	
	事後学修	コメントの内容を元にまとめを修正する	2
12	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究内容まとめ③	
	事後学修	コメントの内容を元にまとめを修正する	2
13	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル①	
	事後学修	コメントの内容を元に発表資料を修正する	2
14	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル②	
	事後学修	コメントの内容を元に発表資料を修正する	2
15	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル③	
	事後学修	コメントの内容を元に発表資料を修正する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度対面またはオンラインで指導する

教科書

参考書・Web サイト

なし

単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，メディア技術演習，メディアプログラミング演習，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステム開発や展示等の経験に基づいて，実戦的な研究開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ ショートフィルム、映像とデザイン、映像とコミュニケーション、プロダクション・デザイン、映像と教育						
○ 概要 映像作品を創り、発表する。伝えたいことは何か、魅力的な作品をいかにして作り出すか、コンセプトをしっかりと詰め、人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、画像加工ソフト、グラフィックソフト、動画編集ソフト等）を使い、アイデアから脚本、絵コンテ、撮影計画、撮影、動画編集、およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。						
※パソコンの基礎知識、Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。						
アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・プロジェクト学習						
授業における学修の到達目標						
・映像作品の企画・制作ができる ・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる ・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる ・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる ・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス：ゼミナールⅠの活動について説明します				
	事後学修	ゼミ活動（何を制作するのか等）の計画				2.0
2	事前学修	コンテストへの作品応募にむけてのアイデア出し				2.0
	授業	グループ分け、撮影する作品についてのディスカッション				
	事後学修	会議で決まった内容をまとめる				2.0
3	事前学修	新聞記事を選ぶ、発表準備				2.0
	授業	自分が選んだ新聞記事についてのプレゼンテーション				
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り				2.0
4	事前学修	コンテストへの応募作品のコンセプト制作				2.0

	授業	コンテストの応募作品のコンセプトの決定、ディスカッション	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備、プロット制作、脚本執筆 会議で決まった内容をまとめる	2.0
5	事前学修	新聞記事を選ぶ、発表準備	2.0
	授業	自分が選んだ新聞記事についてのプレゼンテーション（2回目）	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2.0
6	事前学修	撮影準備、グループ会議	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、映像演出の計画	
	事後学修	撮影スケジュールを立てる	2.0
7	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（前半）（0～1分半）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
8	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（後半）（1分半～3分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
9	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（仮編集）	
	事後学修	映像編集の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
10	事前学修	BGM、SE等の選曲、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（本編集）	
	事後学修	コンテスト作品の完成、課題のレポート作成	2.0
11	事前学修	フィールドワークの情報収集、グループ分け	2.0
	授業	フィールドワーク（記録撮影）	
	事後学修	撮影の振り返り、撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
12	事前学修	グループディスカッションの準備、テーマの選定	2.0
	授業	グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
13	事前学修	卒業研究企画発表会の情報収集	2.0
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	卒業研究企画発表会の感想をまとめる、レポート作成	2.0
14	事前学修	レクリエーションの準備、内容の検討	2.0
	授業	レクリエーション、グループワーク、ゼミの仲間と親睦を深める	
	事後学修	レクリエーションの内容の振り返り	2.0
15	事前学修	前期のゼミ活動について振り返り（個人）	2.0
	授業	前期の振り返り	
	事後学修	夏休みの作品制作の内容、プロジェクトの進行管理	2.0

成績評価の方法およびその基準

学習の成果（■レポート：5% ■演習課題：80%）、および■その他[15% ゼミ内での活動や貢献度、発表、作品、グループワークでの協調性・積極性、課題への取り組み方、思考の深さ、学習への関心度、発表での論理的説明力、などの総合評

価] グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習、アニメーション演習、映像制作プロジェクト
備考	3・4年生一緒にゼミ活動を行います。4年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	2001年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに, そこで得た知識, 技術, ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
○テーマ ショートフィルム、映像とデザイン、映像とコミュニケーション、プロダクション・デザイン、映像と教育 ○概要 映像作品を創り、発表する。伝えたいことは何か、魅力的な作品をいかにして作り出すか、コンセプトをしっかりと詰め、人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、画像加工ソフト、グラフィックソフト、動画編集ソフト等）を使い、アイデアから脚本、絵コンテ、撮影計画、撮影、動画編集、およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。 ※パソコンの基礎知識、Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。 アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・プロジェクト学習						
授業における学修の到達目標						
・映像作品の企画・制作ができる ・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる ・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる ・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる ・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	夏休み期間の活動の振り返り				2.0
	授業	後期ガイダンス、夏休みに制作した作品の発表				
	事後学修	後期の制作活動についての計画				2.0
2	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けた準備、ディスカッション				2.0
	授業	ゼミ展示に向けた作品制作				
	事後学修	ゼミ展示の振り返り				2.0
3	事前学修	課題映像作品の事前視聴、ワークシート記入				2.0
	授業	課題映像作品の分析、ブレイクダウン				
	事後学修	課題映像作品の見方のまとめ				2.0
4	事前学修	映画祭の情報収集、スケジュールリング				2.0

	授業	フィールドワーク（映画祭参加）	
	事後学修	フィールドワークの振り返り、レポート作成	2.0
	事前学修	コンテストへの応募作品のコンセプト制作	2.0
5	授業	コンテストの応募作品のコンセプトの決定	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備、プロット作成、脚本執筆、グループ会議	2.0
	事前学修	会議で決まった内容をまとめる	2.0
6	授業	脚本のブレイクダウン、グループディスカッション	
	事後学修	脚本のリライト、映像演出のアイデア出し	2.0
	事前学修	グループディスカッションの準備、テーマのブラッシュアップ	2.0
7	授業	グループディスカッション、ファシリテーション	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
	事前学修	撮影準備、グループディスカッション	2.0
8	授業	脚本のブレイクダウン、映像演出の計画	
	事後学修	ショットリストの作成、撮影スケジュールを立てる、仮香盤表の作成	2.0
	事前学修	キャスティングのイメージを固める	2.0
9	授業	キャスティング、テスト制作	
	事後学修	ロケーション・ハンティング、絵コンテ作成、香盤表作成	2.0
	事前学修	グループディスカッションの準備	2.0
10	授業	グループディスカッション、撮影計画	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
	事前学修	撮影の準備、各種手配	2.0
11	授業	撮影（前半）（0～7分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り、チームワークの反省	2.0
	事前学修	撮影の準備、各種手配、作業のアップデート	2.0
12	授業	撮影（後半）（8分～15分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
13	授業	編集（仮編集）	
	事後学修	映像編集の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
	事前学修	BGM、SE等の選曲、編集作業、絵コンテの確認など	2.0
14	授業	編集（本編集）	
	事後学修	コンテスト作品のブラッシュアップ、完成	2.0
	事前学修	これまでのゼミ活動の振り返り（個人）	2.0
15	授業	後期の振り返り（グループ）	
	事後学修	卒業研究にむけた準備、レポート作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

学習の成果（■レポート：5% ■演習課題：80%）、および■その他[15% ゼミ内での活動や貢献度、発表、作品、グループワークでの協調性・積極性、課題への取り組み方、思考の深さ、学習への関心度、発表での論理的説明力、などの総合評価]

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習、アニメーション演習、映像制作プロジェクト
備考	3・4年生一緒にゼミ活動を行います。3年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	2001年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに、そこで得た知識, 技術, ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ ショートフィルム、映像とデザイン、映像とコミュニケーション、プロダクション・デザイン、映像と教育 ○概要 映像作品を創り、発表する。伝えたいことは何か、魅力的な作品をいかにして作り出すか、コンセプトをしっかりと詰め、人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、画像加工ソフト、グラフィックソフト、動画編集ソフト等）を使い、アイデアから脚本、絵コンテ、撮影計画、撮影、動画編集、およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。 ※パソコンの基礎知識、Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。 アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・プロジェクト学習						
授業における学修の到達目標						
・映像作品の企画・制作ができる ・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる ・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる ・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる ・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる ・3 年時のゼミナールで身につけたスキルを使用して適切なアドバイスを出すことができる ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決することができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス：4 年生でのゼミナールの活動について				
	事後学修	今後のゼミ活動について計画を立てる				2.0
2	事前学修	作品制作にむけてのアイデア出し				2.0
	授業	作品についてのディスカッション				
	事後学修	会議で決まった内容、参考になったことをまとめる				2.0
3	事前学修	3 年時に学んだプレゼンテーション技術の予習				2.0
	授業	プレゼンテーション技術の確認、アップデート				

	事後学修	プレゼンテーション技術の復習	2.0
4	事前学修	既存作品の調査、技術の調査	2.0
	授業	既存作品の調査、発表	
	事後学修	既存作品の調査発表のふりかえり	2.0
5	事前学修	作品企画の情報収集	2.0
	授業	既存作品の調査、発表	
	事後学修	既存作品の調査発表のふりかえり	2.0
6	事前学修	撮影技術の予習	2.0
	授業	撮影技術の確認、コーチング、アップデート	
	事後学修	撮影技術の復習	2.0
7	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（前半）（0～1分半）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
8	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（後半）（1分半～3分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
9	事前学修	作品のコンセプト制作	2.0
	授業	作品のコンセプトの決定、ディスカッション	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備、プロット制作、脚本執筆 会議で決まった内容をまとめる	2.0
10	事前学修	プレゼンテーションの情報収集	2.0
	授業	プレゼンテーションの進捗報告	
	事後学修	プレゼンテーションの修正、準備	2.0
11	事前学修	フィールドワークの情報収集、グループ分け	2.0
	授業	フィールドワーク（記録撮影）	
	事後学修	撮影の振り返り、撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
12	事前学修	プレゼンテーション技術の予習	2.0
	授業	プレゼンテーション技術の確認、アップデート	
	事後学修	プレゼンテーション技術の復習	2.0
13	事前学修	作品プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	作品プレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り、ブラッシュアップ	2.0
14	事前学修	レクリエーションの準備、内容の検討	2.0
	授業	レクリエーション、グループワーク、ゼミの仲間と親睦を深める	
	事後学修	レクリエーションの内容の振り返り	2.0
15	事前学修	前期のゼミ活動について振り返り（個人）	2.0
	授業	前期の振り返り	
	事後学修	夏休みの作品制作の内容、プロジェクトの進行管理	2.0

成績評価の方法およびその基準

学習の成果（■レポート：5% ■演習課題：80%）、および■その他[15% ゼミ内での活動や貢献度、発表、作品、グループワークでの協調性・積極性、課題への取り組み方、思考の深さ、学習への関心度、発表での論理的説明力、などの総合評価] グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習、アニメーション演習、映像制作プロジェクト、ゼミナール 12
備考	3・4年生一緒にゼミ活動を行います。3年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	2001 年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに, そこで得た知識, 技術, ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ ショートフィルム、映像とデザイン、映像とコミュニケーション、プロダクション・デザイン、映像と教育						
○ 概要 映像作品を創り、発表する。伝えたいことは何か、魅力的な作品をいかにして作り出すか、コンセプトをしっかりと詰め、人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、画像加工ソフト、グラフィックソフト、動画編集ソフト等）を使い、アイデアから脚本、絵コンテ、撮影計画、撮影、動画編集、およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。						
※パソコンの基礎知識、Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。						
アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・プロジェクト学習						
授業における学修の到達目標						
・映像作品の企画・制作ができる ・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる ・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる ・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる ・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる ・3 年時のゼミナールで身につけたスキルを使用して適切なアドバイスを出すことができる ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決することができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	休み期間の活動の振り返り。作品制作の進捗状況の確認				2.0
	授業	後期ガイダンス、休み中の活動についての報告				
	事後学修	フィードバックをもとに後期の制作活動について計画を立てる				2.0
2	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けての展示準備				2.0
	授業	大学祭のゼミ展示に向けての進捗報告、ディスカッション				
	事後学修	授業時間以外の時間も使って制作を行うこと				2.0
3	事前学修	後期の制作活動について計画を立てる				2.0
	授業	後期の制作活動についての計画				

	事後学修	後期の制作活動についての計画のアップデート	2.0
4	事前学修	映画祭参加準備	2.0
	授業	映画祭参加、フィールドワーク	
	事後学修	参加した内容をまとめる	2.0
5	事前学修	勉強会の対象作品を事前視聴する	2.0
	授業	作品勉強会、ディスカッション	
	事後学修	得られた知見をまとめる	2.0
6	事前学修	対象技術の予習、機材準備	2.0
	授業	技術講習、コーチング	
	事後学修	講習内容の復習	2.0
7	事前学修	グループディスカッションの準備、テーマのブラッシュアップ	2.0
	授業	グループディスカッション、ファシリテーション、コーチング	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
8	事前学修	撮影準備、グループディスカッション	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、映像演出の計画、コーチング	
	事後学修	ショットリストの作成、撮影スケジュールを立てる、仮巻盤表の作成、チェック	2.0
9	事前学修	作品制作を進める	2.0
	授業	作品の進捗報告	
	事後学修	制作の準備、計画のアップデート	2.0
10	事前学修	グループディスカッション（2回目）の準備、テーマのブラッシュアップ	2.0
	授業	グループディスカッション（2回目）、ファシリテーション、コーチング	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
11	事前学修	最終制作（卒業制作の完成）を進める	2.0
	授業	最終制作の作業	
	事後学修	引き続き、最終制作を進める	2.0
12	事前学修	最終制作の進捗報告の準備	2.0
	授業	最終制作の進捗報告	
	事後学修	最終制作のプレゼンテーションに向けた準備	2.0
13	事前学修	最終制作プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	最終制作のプレゼンテーション（グループ1）	
	事後学修	フィードバックを元に作品をブラッシュアップ	2.0
14	事前学修	最終制作プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	最終制作のプレゼンテーション（グループ2）	
	事後学修	フィードバックを元に作品をブラッシュアップ	2.0
15	事前学修	これまでのゼミ活動の振り返り	2.0
	授業	後期の振り返り、自己評価これまでのゼミ活動を振り返り、今後に活かしましょう。	
	事後学修	これまでのゼミ活動を振り返り、ゼミナールでの学びを総括しよう	2.0

成績評価の方法およびその基準

学習の成果（■レポート：5% ■演習課題：80%）、および■その他[15% ゼミ内での活動や貢献度、発表、作品、グループワークでの協調性・積極性、課題への取り組み方、思考の深さ、学習への関心度、発表での論理的説明力、などの総合評

価] グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映画制作演習、アニメーション演習、映像制作プロジェクト、ゼミナール 12
備考	3・4年生一緒にゼミ活動を行います。3年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	2001 年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに, そこで得た知識, 技術, ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	湯村 翼 (315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
卒業研究に備え、アイデアを具現化するためのプロトタイプ制作に必要なスキルを身に付けます。具体的には p5.js、M5Stack、TouchDesigner、Teachable Machine といったツールの使い方を習得したり、演習を通じてライティング、リーディング、プレゼンテーションの基礎スキルを磨きます。						
授業における学修の到達目標						
・ プロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる ・ プレゼンテーションやライティングを用い、情報を適切に伝えることができる ・ 卒業研究に備え、研究活動に関する基礎的知識を身に付ける						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自己紹介の準備を行う				2
	授業	ゼミガイダンス・自己紹介				
	事後学修	ゼミを通じて身に付けたい技術を考える				2
2	事前学修	p5.js についてインターネットで調べる				2
	授業	p5.js 演習				
	事後学修	p5.js 演習の作成物をブラッシュアップする				2
3	事前学修	学会、論文についてインターネットで調べる				2
	授業	アカデミック入門(学会とは、論文とは、論文の探し方など)				
	事後学修	興味のある論文を探す				2
4	事前学修	p5.js 演習の成果発表準備を行う				2
	授業	p5.js 演習成果発表				
	事後学修	演習のふりかえりを行う				2
5	事前学修	M5Stack についてインターネットで調べる				2
	授業	M5Stack 演習				
	事後学修	M5Stack 演習の作成物をブラッシュアップする				2
6	事前学修	テクニカルリーディングについてインターネットで調べる				2
	授業	テクニカルリーディング演習				
	事後学修	興味のある論文を読む				2
7	事前学修	M5Stack 演習の成果発表準備を行う				2
	授業	M5Stack 演習成果発表				
	事後学修	演習のふりかえりを行う				2
8	事前学修	TouchDesigner についてインターネットで調べる				2
	授業	TouchDesigner 演習				
	事後学修	TouchDesigner 演習の作成物をブラッシュアップする				2

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
センサとビジュアル表示を組み合わせたインタラクティブシステムの開発を少人数チームで行います。アイデアを具現化するためのプロトタイプ制作をチームで実施し、チームでのプロジェクト進行を行うために必要なスキルを身に付けます。						
授業における学修の到達目標						
・ 複数の要素を組み合わせたシステムのプロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる ・ 少人数のチームでの制作において、開発および進行管理を行うことができるようになる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	チーム制作プロジェクトで実施したいテーマを考える				2
	授業	チーム制作プロジェクト 1：チームビルディング				
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
2	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
	授業	チーム制作プロジェクト 2：作品アイデア出し				
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
3	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
	授業	チーム制作プロジェクト 3：テーマ選定				
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
4	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
	授業	チーム制作プロジェクト 4：制作（概要設計）				
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
5	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
	授業	チーム制作プロジェクト 5：制作（インタフェース設計）				
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
6	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
	授業	チーム制作プロジェクト 6：制作（詳細設計）				
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
7	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
	授業	チーム制作プロジェクト 7：制作（概要実装）				
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
8	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
	授業	チーム制作プロジェクト 8：制作（インタフェース実装）				
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める				2
9	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める				2

	授業	チーム制作プロジェクト9：制作（詳細実装）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
10	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト10：制作（単体テスト）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
11	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト11：制作（結合テスト）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
12	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト12：制作（ブラッシュアップ）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
13	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト13：作品発表会準備	
	事後学修	チーム制作プロジェクトの作品発表会準備を進める	2
14	事前学修	チーム制作プロジェクトの作品発表会準備を進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト14：作品発表会	
	事後学修	チーム制作プロジェクトのふりかえりを行う	2
15	事前学修	研究室展示会の出展準備を行う	2
	授業	研究室展示会準備	
	事後学修	研究室展示会の準備を行う	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100 % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ、メディアプログラミング演習、デザインプログラミング演習、ゲーム制作演習、インターネットの仕組み、Linux 演習
備考	なし
担当教員の実務経験	電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算14年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ						
「サイバー空間」「物理空間」「人」の3つの関係性で世界を捉え新しい未来を作る研究を対象とし、「人とコンピュータの新しいインタフェースの開発」「物理空間センシングによるデータの収集と活用」といった研究に取り組んでいきます。						
○概要						
人間とコンピュータと物理を統合的に取り扱う Cyber-Physical-Human Interaction の研究に取り組み、研究を通じて最先端の技術を習得します。研究では、例えば						
・ 赤外線センサを用いた物体認識						
・ HMD 向けの文字入力インタフェースの開発						
・ 家具や壁を移動できる住宅の開発						
・ 人工衛星データと環境センサを組み合わせた農業のスマート化						
といったテーマに取り組めます。						
授業における学修の到達目標						
・ プロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる						
・ プレゼンテーションやライティングを用い、情報を適切に伝えることができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる				2
	授業	研究テーマの選定（導入）				
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える				2
2	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる				2
	授業	研究テーマの選定（作業・議論）				
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える				2
3	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる				2
	授業	研究テーマの選定（まとめ）				
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える				2
4	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる				2
	授業	関連研究テーマの調査（導入）				
	事後学修	関連研究の内容を整理する				2
5	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる				2
	授業	関連研究テーマの調査（作業・議論）				
	事後学修	関連研究の内容を整理する				2
6	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる				2
	授業	関連研究テーマの調査（まとめ）				
	事後学修	関連研究の内容を整理する				2

7	事前学修	研究骨子について考えをまとめる	2
	授業	研究骨子の作成（導入）	
	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2
8	事前学修	研究骨子について考えをまとめる	2
	授業	研究骨子の作成（作業・議論）	
	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2
9	事前学修	研究骨子について考えをまとめる	2
	授業	研究骨子の作成（まとめ）	
	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2
10	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2
	授業	実験システムの設計（導入）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2
11	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2
	授業	実験システムの設計（作業・議論）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2
12	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2
	授業	実験システムの設計（まとめ）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2
13	事前学修	研究企画について考えをまとめる	2
	授業	研究企画発表会準備（導入）	
	事後学修	研究企画発表会の準備を進める	2
14	事前学修	研究企画について考えをまとめる	2
	授業	研究企画発表会準備（作業・議論）	
	事後学修	研究企画発表会の準備を進める	2
15	事前学修	研究企画発表会でのコメントを整理する	2
	授業	研究企画発表会ふりかえり	
	事後学修	研究企画発表会でのコメントを元に今後のアクションを検討する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100 % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ、メディアプログラミング演習、デザインプログラミング演習、ゲーム制作演習、インターネットの仕組み、Linux 演習
備考	なし
担当教員の実務経験	電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
○テーマ						
「サイバー空間」「物理空間」「人」の 3 つの関係性で世界を捉え新しい未来を作る研究を対象とし、「人とコンピュータの新しいインタフェースの開発」「物理空間センシングによるデータの収集と活用」といった研究に取り組んでいきます。						
○概要						
人間とコンピュータと物理を統合的に取り扱う Cyber-Physical-Human Interaction の研究に取り組み、研究を通じて最先端の技術を習得します。 研究では、例えば						
・ 赤外線センサを用いた物体認識						
・ HMD 向けの文字入力インタフェースの開発						
・ 家具や壁を移動できる住宅の開発						
・ 人工衛星データと環境センサを組み合わせた農業のスマート化						
といったテーマに取り組めます。						
授業における学修の到達目標						
・ プロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる						
・ プレゼンテーションやライティングを用い、情報を適切に伝えることができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	実験システムについて考えをまとめる				2
	授業	実験システムの実装（導入）				
	事後学修	実験システムの内容を整理する				2
2	事前学修	実験システムについて考えをまとめる				2
	授業	実験システムの実装（作業・議論）				
	事後学修	実験システムの内容を整理する				2
3	事前学修	実験システムについて考えをまとめる				2
	授業	実験システムの実装（仕上げ）				
	事後学修	実験システムの内容を整理する				2
4	事前学修	実験について考えをまとめる				2
	授業	実験（準備）				
	事後学修	実験結果を整理する				2
5	事前学修	実験について考えをまとめる				2
	授業	実験（作業・議論）				
	事後学修	実験結果を整理する				2
6	事前学修	実験について考えをまとめる				2
	授業	実験（まとめ）				
	事後学修	実験結果を整理する				2

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。 主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり、研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが、他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。 毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。						
授業における学修の到達目標						
コンピュータに取りこむことができる、画像、映像、音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。 さらに、人が利用することもふまえ、どのように情報を可視化すればよいか、その応用手法を追求する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナール 1 の全体の内容を把握する				2
	授業	ゼミナール 1 の概要				
	事後学修	ゼミナール 1 の概要についてレポートにまとめる				2
2	事前学修	配付資料でゼミ内での ICT について予習する				2
	授業	ゼミ内での ICT				
	事後学修	ゼミ内での ICT についてレポートにまとめる				2
3	事前学修	配付資料で技術文章について予習する				2
	授業	技術文章				
	事後学修	技術文章についてレポートにまとめる				2
4	事前学修	配付資料で学術論文について予習する				2
	授業	学術論文				
	事後学修	学術論文についてレポートにまとめる				2
5	事前学修	配付資料で学術論文の調査について予習する				2
	授業	学術論文の調査				
	事後学修	学術論文の調査についてレポートにまとめる				2
6	事前学修	配付資料で学術論文の調査報告について予習する				2
	授業	学術論文の調査報告				
	事後学修	学術論文の調査報告についてレポートにまとめる				2
7	事前学修	配付資料でゼミでのプレゼンテーションについて予習する				2
	授業	ゼミでのプレゼンテーション				
	事後学修	ゼミでのプレゼンテーションについてレポートにまとめる				2
8	事前学修	ゼミ Web ページで配布した Python による開発環境の解説に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	入門講座：Python による開発環境の解説				
	事後学修	Python による開発環境の解説についてレポートにまとめる				2

9	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像ファイルの入出力に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像ファイルの入出力	
	事後学修	画像ファイルの入出力についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の統計分析に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像の統計分析	
	事後学修	画像の統計分析についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の 2 値化に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像の 2 値化	
	事後学修	画像の 2 値化についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	ゼミ Web ページで配布した 2 値画像処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：2 値画像処理	
	事後学修	2 値画像処理についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	学祭でのゼミ展示についてやってみたいものを考え、内容を整理しておく	2
	授業	学祭での展示内容の検討	
	事後学修	学祭での展示内容の検討についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	学祭でのゼミ展示内容について構成や必要となるシステム等を調査する	2
	授業	展示内容の企画	
	事後学修	展示内容の企画についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	学祭のゼミ展示内容について実装の流れをまとめてくる	2
	授業	展示システム実装の作業内容確認	
	事後学修	展示システム実装の作業内容確認についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

■レポート： 40% ■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系統)、Java もしくは Python プログラミングが必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC326	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。 主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり，研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが，他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。						
毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。						
授業における学修の到達目標						
コンピュータに取りこむことができる，画像，映像，音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。 さらに，人が利用することもふまえ，どのように情報を可視化すればよいか，その応用手法を追求する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	学祭のゼミ展示システムの大枠を実装する				2
	授業	学祭展示の準備				
	事後学修	学祭展示の準備についてレポートにまとめる				2
2	事前学修	ゼミ Web ページで配布したオブジェクトの検出に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	入門講座：オブジェクトの検出				
	事後学修	オブジェクトの検出についてレポートにまとめる				2
3	事前学修	ゼミ Web ページで配布したフィルタ処理に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	入門講座：フィルタ処理				
	事後学修	フィルタ処理についてレポートにまとめる				2
4	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の局所特徴量に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	入門講座：画像の局所特徴量				
	事後学修	画像の局所特徴量についてレポートにまとめる				2
5	事前学修	ゼミ Web ページで配布したテンプレートマッチングに関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	入門講座：テンプレートマッチング				
	事後学修	テンプレートマッチングについてレポートにまとめる				2
6	事前学修	ゼミ Web ページで配布した外部ライブラリの利用に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	入門講座：外部ライブラリの利用				
	事後学修	外部ライブラリの利用についてレポートにまとめる				2
7	事前学修	ゼミ Web ページで配布した顔検出に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	入門講座：顔検出				
	事後学修	顔検出についてレポートにまとめる				2
8	事前学修	ゼミ Web ページで配布したカメラ画像処理に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	入門講座：カメラ画像処理				
	事後学修	カメラ画像処理についてレポートにまとめる				2

9	事前学修	ゼミ Web ページで配布した動画からのオブジェクト検出に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：動画からのオブジェクト検出	
	事後学修	動画からのオブジェクト検出についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	ゼミ Web ページで配布した動画を用いた手法に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：動画を用いた手法	
	事後学修	動画を用いた手法についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	ゼミ Web ページで配布した RGB-D カメラに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：RGB-D カメラ	
	事後学修	RGB-D カメラについてレポートにまとめる	2
12	事前学修	ゼミ Web ページで配布した距離画像処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：距離画像処理	
	事後学修	距離画像処理についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	ゼミ Web ページで配布した簡易モーションキャプチャの利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：簡易モーションキャプチャの利用	
	事後学修	簡易モーションキャプチャの利用についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	ゼミ Web ページで配布した RGB-D カメラを用いた応用事例に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：RGB-D カメラを用いた応用事例	
	事後学修	RGB-D カメラを用いた応用事例についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	ゼミ Web ページで配布した音声の利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：音声の利用	
	事後学修	ゼミナール 2 で得た知見についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系統)、Java もしくは Python プログラミングが必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。 主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり、研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが、他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。 毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。						
授業における学修の到達目標						
コンピュータに取りこむことができる、画像、映像、音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。 さらに、人が利用することもふまえ、どのように情報を可視化すればよいか、その応用手法を追求する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナール3の全体の内容を把握する				2
	授業	ゼミナール3の概要				
	事後学修	ゼミナール3の概要についてレポートにまとめる				2
2	事前学修	卒研テーマの企画案についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	卒研テーマの企画案				
	事後学修	卒研テーマの企画案についてレポートにまとめる				2
3	事前学修	卒研テーマにおける先行事例調査方針についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査				
	事後学修	卒研テーマにおける先行事例調査についてレポートにまとめる				2
4	事前学修	先行事例の調査結果(概要)についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	先行事例の調査結果(概要)				
	事後学修	先行事例の調査結果(概要)についてレポートにまとめる				2
5	事前学修	先行事例の調査結果(実装)についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	先行事例の調査結果(実装)				
	事後学修	先行事例の調査結果(実装)についてレポートにまとめる				2
6	事前学修	先行事例の調査結果(評価方法)についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	先行事例の調査結果(評価方法)				
	事後学修	先行事例の調査結果(評価方法)についてレポートにまとめる				2
7	事前学修	先行事例の調査結果(問題点)についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	先行事例の調査結果(問題点)				
	事後学修	先行事例の調査結果(問題点)についてレポートにまとめる				2
8	事前学修	卒研テーマの目的の設定についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	卒研テーマの目的の設定				
	事後学修	卒研テーマの目的の設定についてレポートにまとめる				2

9	事前学修	企画書・発表資料についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	企画書・発表資料	
	事後学修	企画書・発表資料についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	卒研テーマの全体の構成についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研テーマの全体の構成	
	事後学修	卒研テーマの全体の構成についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	企画書の準備をする	2
	授業	企画書の準備	
	事後学修	企画書の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	企画発表会に向けた発表練習について準備する	2
	授業	企画発表会に向けた発表練習	
	事後学修	企画発表会に向けた発表練習についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	企画発表会での発表について準備する	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	企画発表会での発表についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関してゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告	
	事後学修	ゼミナール3全体についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系統), Java もしくは Python プログラミングが必要になるので, 関連する技術も含め, それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。 主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり、研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが、他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。						
毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。						
授業における学修の到達目標						
コンピュータに取りこむことができる、画像、映像、音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。 さらに、人が利用することもふまえ、どのように情報を可視化すればよいか、その応用手法を追求する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	配付資料にてゼミナール 4 の概要を把握する				2
	授業	ゼミナール 4 の概要				
	事後学修	ゼミナール 4 の概要についてレポートにまとめる				2
2	事前学修	卒論執筆の手順についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	卒論執筆の手順				
	事後学修	卒論執筆の手順についてレポートにまとめる				2
3	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備の仕方				
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方についてレポートにまとめる				2
4	事前学修	実装するシステムの概要についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	実装するシステムの概要				
	事後学修	実装するシステムの概要についてレポートにまとめる				2
5	事前学修	全体の処理フローの検討についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	全体の処理フローの検討				
	事後学修	全体の処理フローの検討についてレポートにまとめる				2
6	事前学修	システム構築の状況についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	システム構築の状況				
	事後学修	システム構築の状況についてレポートにまとめる				2
7	事前学修	データセットの準備についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	データセットの準備				
	事後学修	データセットの準備についてレポートにまとめる				2
8	事前学修	高度な実験・評価方法についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	高度な実験・評価方法				
	事後学修	高度な実験・評価方法についてレポートにまとめる				2

9	事前学修	評価実験の進捗についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	評価実験の進捗	
	事後学修	評価実験の進捗についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	小論の準備についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	小論の準備	
	事後学修	小論の準備についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	卒研発表会の成果物の準備をする	2
	授業	卒研発表会の成果物の準備	
	事後学修	卒研発表会の成果物の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備	
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	卒研発表会に向けた発表練習の準備をする	2
	授業	卒研発表会に向けた発表練習	
	事後学修	卒研発表会に向けた発表練習についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	卒研発表会での発表の準備をする	2
	授業	卒研発表会での発表	
	事後学修	卒研発表会での発表についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	卒研発表会に関する報告についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研発表会に関する報告	
	事後学修	卒研発表会に関する報告についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系統), Java もしくは Python プログラミングが必要になるので, 関連する技術も含め, それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
複数のプロジェクトチームに分かれ、 3 ・ 4 年生合同チームでプロジェクトを遂行します。 グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。						
授業における学修の到達目標						
市民としての倫理観と自覚を持ち、社会に貢献できる人材や社会、文化、倫理的な側面を理解し、国際感覚に優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 グループワークがスムーズに行える。 クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。 プロジェクト管理の基礎を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自己紹介プレゼン準備				4
	授業	ガイダンス・自己紹介プレゼン（卒研を行うものは、卒研テーマの第一案の発表を含む）				
	事後学修	プロジェクトテーマについて、検討する。				2
2	事前学修	プロジェクトテーマについて、検討する。				2
	授業	各種プロジェクトの進め方・プロジェクト申請の仕方・MCC の使い方を学ぶ				
	事後学修	復習				1
3	事前学修	指定された新聞記事について、意見をまとめてくる。				2
	授業	記事を基にディスカッションを行い、クリティカルシンキングの練習を行う。				
	事後学修	グループワークを振り返る。				1
4	事前学修	指定された雑誌の記事を読み、関連する文献を調べて、問題点や解決策について意見をまとめてくる。				4
	授業	記事をグループでマインドマップにまとめ、議論する。参加プロジェクトを決定する。				
	事後学修	グループワークを振り返る。				1
5	事前学修	参加プロジェクトについて検討する。				2
	授業	プロジェクトの企画案を練る。				
	事後学修	企画案について再考する。				2
6	事前学修	企画案について再考する。				2
	授業	企画の設計				
	事後学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。				2
7	事前学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。				2
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
8	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4

	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
9	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	中間発表	
	事後学修	振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プレゼンの準備	4
	授業	期末発表	
	事後学修	発表会の振り返り	1
15	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ，発想法演習，プロジェクトトライアルⅠ，デザインプログラミング 卒業研究を希望する学生は、行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり、根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は、年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので、デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・3年生全員の課題として、ゼミホームページなどを制作してもらいます。 ・芸術の森など、各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は、1993年から1996年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核と

	した福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC326	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
複数のプロジェクトチームに分かれ、 3・4 年生合同チームでプロジェクトを遂行します。 グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。						
授業における学修の到達目標						
市民としての倫理観と自覚を持ち、社会に貢献できる人材や社会、文化、倫理的な側面を理解し、国際感覚に優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 グループワークがスムーズに行える。 クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。 プロジェクト管理の基礎を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
2	事前学修	ゼミ展示に関するアイディア出し				2
	授業	ゼミ展示に関する議論				
	事後学修	ゼミ展示についてのアイディア深掘り				2
3	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				2
	授業	ゼミ展示の決定・プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
4	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
5	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
6	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
7	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				4
8	事前学修	プレゼン準備				4
	授業	後期中間発表				

	事後学修	発表会の振り返り	1
9	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
15	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	最終発表会	
	事後学修	振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ，発想法演習，プロジェクトトライアルⅠ，デザインプログラミング 卒業研究を希望する学生は、行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり、根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は、年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので、デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・3年生全員の課題として、ゼミホームページなどを制作してもらいます。 ・芸術の森など、各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は、1993年から1996年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約20棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。

	これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
複数のプロジェクトチームに分かれ、 3・4 年生合同チームでプロジェクトを遂行します。 グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。						
授業における学修の到達目標						
市民としての倫理観と自覚を持ち、社会に貢献できる人材や社会、文化、倫理的な側面を理解し、国際感覚に優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 グループワークがスムーズに行える。 クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。 プロジェクト管理の基礎を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自己紹介プレゼン準備				4
	授業	ガイダンス・自己紹介プレゼン（卒研を行うものは、卒研テーマの第一案の発表を含む）				
	事後学修	プロジェクトテーマについて、検討する。				2
2	事前学修	プロジェクトテーマについて、検討する。				2
	授業	各種プロジェクトの進め方・プロジェクト申請の仕方・MCC の使い方を学ぶ				
	事後学修	復習				1
3	事前学修	指定された新聞記事について、意見をまとめてくる。				2
	授業	記事を基にディスカッションを行い、クリティカルシンキングの練習を行う。				
	事後学修	グループワークを振り返る。				1
4	事前学修	指定された雑誌の記事を読み、関連する文献を調べて、問題点や解決策について意見をまとめてくる。				4
	授業	記事をグループでマインドマップにまとめ、議論する。参加プロジェクトを決定する。				
	事後学修	グループワークを振り返る。				1
5	事前学修	参加プロジェクトについて検討する。				2
	授業	プロジェクトの企画案を練る。				
	事後学修	企画案について再考する。				2
6	事前学修	企画案について再考する。				2
	授業	企画の設計				
	事後学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。				2
7	事前学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。				2
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
8	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4

	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
9	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	中間発表	
	事後学修	振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プレゼンの準備	4
	授業	期末発表	
	事後学修	発表会の振り返り	1
15	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ，発想法演習，プロジェクトトライアルⅠ，デザインプログラミング，メディアプログラミング演習 卒業研究を希望する学生は、行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり、根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は、年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので、デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・芸術の森など、各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は、1993年から1996年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核と

	した福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
複数のプロジェクトチームに分かれ、 3・4 年生合同チームでプロジェクトを遂行します。 グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。						
授業における学修の到達目標						
市民としての倫理観と自覚を持ち、社会に貢献できる人材や社会、文化、倫理的な側面を理解し、国際感覚に優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 グループワークがスムーズに行える。 クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。 プロジェクト管理の基礎を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
2	事前学修	ゼミ展示に関するアイデア出し				2
	授業	ゼミ展示に関する議論				
	事後学修	ゼミ展示についてのアイデア深掘り				2
3	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				2
	授業	ゼミ展示の決定・プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
4	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
5	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
6	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
7	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				4
8	事前学修	プレゼン準備				4
	授業	後期中間発表				

	事後学修	発表会の振り返り	1
9	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
15	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	最終発表会	
	事後学修	振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ，発想法演習，プロジェクトトライアルⅠ，デザインプログラミング，メディアプログラミング演習 卒業研究を希望する学生は、行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり、根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は、年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので、デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・メディアアートやまちづくりイベントなどの企画・制作などを行います。 ・芸術の森など、各種展示会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は、1993年から1996年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約20棟の高齢者福祉施設等

	の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
日本語及び日本の風俗習慣について学ぶ。講義形式で実施するが、毎回テーマについて受講生が討論し考える機会を多く設け、卒論テーマの決定につながるようにしていく。日本語と中国語や英語との比較を通してそれぞれの言語の特徴をとらえ、卒論テーマの決定につながるようにしていく。日本語と中国語や英語との比較を通してそれぞれの言語の特徴をとらえ、卒論テーマの決定につながるようにしていく。日本語と中国語や英語との比較を通してそれぞれの言語の特徴をとらえ、卒論テーマの決定につながるようにしていく。 とともに、言語感覚も磨いていく。日本の風俗習慣に関し、他国との比較もしつつ、国際感覚を身につける。4 年生や他ゼミとの合同授業も実施し、意見交換の場を設ける。POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修してほしい。 コース後半では教員が指定したテーマについての調査・発表も実施する。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語及び日本の風俗習慣について学び、より深く学びたいテーマを探す。 2 日本語と外国語の比較を通して、それぞれの言語の特徴をとらえ、言語感覚を磨く。 3 日本の風俗習慣を他国と比較し、国際感覚を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自己紹介を考えてくる				2.0
	授業	オリエンテーション、自己紹介、日本人の姓名				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
2	事前学修	和食のマナーについて調べてくる				2.0
	授業	和食のマナー（4 年生との合同授業）				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
3	事前学修	日本語の特徴について調べてくる				2.0
	授業	世界の中の日本語				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
4	事前学修	中国語の文字について調べてくる				2.0
	授業	中国語の文字、音声 1				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
5	事前学修	中国茶について調べてくる				2.0
	授業	中国茶体験 1				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
6	事前学修	中国語の音声について調べてくる				2.0
	授業	中国語の音声 2、中国の大学生の生活				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
7	事前学修	洋食のマナーについて調べてくる				2.0
	授業	洋食のマナー（4 年生との合同授業）				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
8	事前学修	中国茶器について調べてくる				2.0

	授業	中国茶体験 2	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
9	事前学修	卒業研究の資料を読んでくる	2.0
	授業	卒業研究のための準備（廣奥ゼミとの合同授業）	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
10	事前学修	日本語の辞書で関心のある言葉を調べてくる	2.0
	授業	日本語の語彙 1（語種、語彙の数え方、辞書）	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
11	事前学修	中国料理について調べてくる	2.0
	授業	調査・発表の説明、料理の中国語	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
12	事前学修	オノマトペについて調べてくる	2.0
	授業	日本語の語彙 2（語種別の特徴、位相、オノマトペ）	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
13	事前学修	指定されたテーマについて調査してくる	2.0
	授業	発表 1	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
14	事前学修	指定されたテーマについて調査してくる	2.0
	授業	発表 2	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
15	事前学修	卒業研究のテーマについて考えてくる	2.0
	授業	4 年生の卒業研究中間報告会への参加	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■演習課題： 100%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミナールⅠの学びをもとに、各人がより深く学びたいテーマを探してそれに関して調査、発表を行う。各人の発表テーマはクラスで共有し、検討する。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 ゼミナールⅠでの学習内容をもとに、より深く学びたいテーマを探して調査、発表を行う。 2 他のゼミ生の発表内容を聞き、適切なコメントを述べる力をつける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	卒業研究の資料を読んてくる				2.0
	授業	履修指導、オリエンテーション、卒業研究について				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
2	事前学修	卒業研究のための資料を読んてくる				2.0
	授業	文献の調べ方				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
3	事前学修	興味のある文献を探してくる				2.0
	授業	文献検索 1、個人面談 1				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
4	事前学修	興味のある文献を探してくる				2.0
	授業	文献検索 2、個人面談 2				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
5	事前学修	興味のある文献を探して発表できるようにしてくる				2.0
	授業	文献まとめ発表 1				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
6	事前学修	興味のある文献を探して発表できるようにしてくる				2.0
	授業	文献まとめ発表 2				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
7	事前学修	これまでの学習から興味のあるテーマについて考えてくる				2.0
	授業	文献、情報検索サイトで関心のあるテーマ探し 1				
	事後学修	探したテーマについてのミニレポートの作成				2.0
8	事前学修	探したテーマについて調べてくる				2.0
	授業	文献、情報検索サイトで関心のあるテーマ探し 2				
	事後学修	探したテーマについてのミニレポートの作成				2.0
9	事前学修	探したテーマについて調べてくる				2.0

	授業	文献、情報検索サイトで関心のあるテーマ探し 3	
	事後学修	探したテーマについてのミニレポートの作成	2.0
10	事前学修	発表準備	2.0
	授業	各自選んだテーマに関する発表 1	
	事後学修	ゼミでの意見交換を元に調査をすすめる	2.0
11	事前学修	発表準備	2.0
	授業	各自選んだテーマに関する発表 2	
	事後学修	ゼミでの意見交換を元に調査をすすめる	2.0
12	事前学修	発表準備	2.0
	授業	各自選んだテーマに関する発表 3	
	事後学修	ゼミでの意見交換を元に調査をすすめる	2.0
13	事前学修	発表準備	2.0
	授業	各自選んだテーマに関する発表 4	
	事後学修	ゼミでの意見交換を元に調査をすすめる	2.0
14	事前学修	発表準備	2.0
	授業	各自選んだテーマに関する発表 5	
	事後学修	ゼミでの意見交換を元に調査をすすめる	2.0
15	事前学修	発表準備	2.0
	授業	各自選んだテーマに関する発表 6	
	事後学修	ゼミでの意見交換を元に調査をすすめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■演習課題： 100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	ゼミナール I
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
卒業論文作成に向けて各人がテーマを決定し、研究計画書に沿って調査・研究を進める。調査・研究の進捗状況はその都度発表する。各人の発表テーマはクラスで共有し、検討する。日本の風俗習慣に関する 3 年生との合同授業も実施し、意見交換の場を設ける。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 卒業研究のテーマを決定する。 2 調査・研究のために必要な能力を身につける。 3 プレゼン能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	興味のあるテーマについて考えてくる				2.0
	授業	オリエンテーション、履修指導、研究計画書の作成方法の説明				
	事後学修	研究計画書の作成方法の復習				2.0
2	事前学修	和食のマナーについて調べてくる				2.0
	授業	和食のマナー（3 年生との合同授業）				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
3	事前学修	研究計画書を作成してくる				2.0
	授業	研究計画書の作成				
	事後学修	研究計画書を仕上げる				2.0
4	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 1				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
5	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 2				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
6	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 3				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
7	事前学修	洋食のマナーについて調べてくる				2.0
	授業	洋食のマナー（3 年生との合同授業）				
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成				2.0
8	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	卒業研究中間発表会の説明、準備				
	事後学修	発表内容をまとめる				2.0

9	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 4	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
10	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 5	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
11	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 6	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
12	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 7	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
13	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 8	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
14	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 9	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
15	事前学修	発表準備をしてくる	2.0
	授業	卒業研究中間発表会（3年生聴講）	
	事後学修	発表会のコメントに基づき調査・研究を進める	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■演習課題： 100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ゼミナールⅢ に引き続き、卒業論文作成に向けて各人が研究計画書に沿って調査・研究を進める。調査・研究の進捗状況はその都度発表する。各人の発表テーマはクラスで共有し、検討する。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 調査・研究のために必要な能力を身につける。 2 プレゼン能力を身につける。 3 論文執筆能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	オリエンテーション、調査・研究の進捗状況の発表 1				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
2	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 2				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
3	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 3				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
4	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 4				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
5	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 5				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
6	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める				2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 6				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める				2.0
7	事前学修	卒業論文作成方法について調べてくる				2.0
	授業	卒業論文作成の説明、卒業論文執筆 1				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める				2.0
8	事前学修	卒業論文作成を進める				2.0
	授業	卒業論文執筆 2				
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める				2.0

9	事前学修	卒業論文作成を進める	2.0
	授業	卒業論文執筆 3	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める	2.0
10	事前学修	卒業論文作成を進める	2.0
	授業	卒業論文執筆 4	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める	2.0
11	事前学修	卒業論文作成を進める	2.0
	授業	卒業論文執筆 5	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める	2.0
12	事前学修	発表内容をまとめてくる	2.0
	授業	卒業研究発表会準備 1	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに発表準備を進める	2.0
13	事前学修	発表内容をまとめてくる	2.0
	授業	卒業研究発表会準備 2	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに発表準備を進める	2.0
14	事前学修	発表準備をしてくる	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル 1	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに発表準備を進める	2.0
15	事前学修	発表準備をしてくる	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル 2	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに発表準備を進める	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■演習課題： 100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
3-4 年を通じて電子音楽関連領域について研究を深めつつ、電子音楽作品、メディアアート作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探究します。また、そのような作品がどのように社会的課題解決のキーとなり得るかについて検討します。						
3 年前期では、新しいソフトウェア、ツール、機材の使い方の習得とそれによる表現の可能性を模索します。						
授業における学修の到達目標						
電子音楽や先端芸術表現、サウンドデザインに関する知識とその創作スキルの向上を目指す。プレゼンテーション、ディスカッションを通じ、他の研究や創作に関する知見を広める。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	さまざまな音楽や芸術表現に触れる				1.0
	授業	ガイダンスとスタジオユーザミーティング：G スタジオや音響機材の紹介				
	事後学修	マインドマップの制作。作品鑑賞などジャーナル（日記）をつける。				3.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察①：マインドマップをもとにヒアリングとディスカッション				
	事後学修	ディスカッションをもとに、表現や研究、ツールについて調べる。				4.0
3	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察②：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、表現や研究、ツールについて調べる。グループディスカッションの準備。				4.0
4	事前学修	特になし				0.0
	授業	グループディスカッション：自分の関心のある表現、研究、ツールについて共有する				
	事後学修	ディスカッションで得た情報について調べたり、アイデアを発展させる。				4.0
5	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察③：研究課題のディスカッション				
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験				4.0
6	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察④：研究課題のディスカッション				
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験、中間発表の準備				4.0
7	事前学修	特になし				0.0
	授業	中間発表、ディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、ソフトウェアやツールの実験や制作を進める				4.0
8	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑤：研究課題のディスカッション				
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験				4.0

9	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑥：研究課題のディスカッション	
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑦：研究課題のディスカッション	
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA や音響機材の実習	
	事後学修	PA や音響機材の使い方の復習	4.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑧：研究課題のディスカッション	
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験、発表のための音響や機材のシステム図の制作	4.0
13	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA 機材のセットアップとリハーサル（ディスカッション）	
	事後学修	全体のシステムとセットアップの考察	4.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA 機材のセットアップとリハーサル	
	事後学修	全体のシステムとセットアップの考察	4.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	作品発表会とディスカッション	
	事後学修	作品についての考察、新しい課題に関するレポート	4.0

成績評価の方法およびその基準

■ 演習課題（作品や研究）：50 % ■ その他[発表会の内容や制作資料、ディスカッション等での参加度]：50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個別に対面でフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業内で配布。
単位修得が望ましい科目	芸術演習（音楽）、デジタルサウンド、デジタルサウンド演習
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、テクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
3-4 年を通じて電子音楽関連領域について研究を深めつつ、電子音楽作品、メディアアート作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探究します。また、そのような作品がどのように社会的課題解決のキーとなり得るかについて検討します。						
3 年後期では、これまでに習得したツールを組み合わせる、または新しい創作スキルの修得を実践的に学びつつ、表現分野の研究にはどのようなものがあるか、または社会的課題解決における創作物の役割について考察していきます。また、3 年後期の課題はイベント形式で行われる発表会で発表します。						
授業における学修の到達目標						
電子音楽や先端芸術表現の知識と、作品の創作スキルの向上を目指す。また、ライブイベントに関連する機材の扱いやイベント運営スキルを身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	マインドマップの制作（前期の反省、関心キーワード）				2.0
	授業	課題研究と考察①：マインドマップをもとにヒアリングとディスカッション				
	事後学修	創作アイディアを思考する。表現分野に関する研究や研究方法論について調べる。				2.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察②：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。表現分野に関する研究や研究方法論について調べる。				4.0
3	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察③：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。表現や創作を活かした課題解決の検討。				4.0
4	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察④：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。表現や創作を活かした課題解決の検討。				4.0
5	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑤：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。自分の研究課題の設定。				4.0
6	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑥：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。自分の研究課題の明確化。中間発表の準備。				4.0
7	事前学修	特になし				0.0
	授業	中間発表とディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作実験と考察を進める。				4.0
8	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑦：研究課題のディスカッション				

	事後学修	研究や創作のプレゼン方法と効果について比較検討する。	4.0
9	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA 機材の検討、ステージ転換の検討、リハーサル準備	
	事後学修	各役割のスタッフごとにミーティング（舞台転換確認や打ち合わせ、機材確認）	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	Soniclt コンサートリハーサル	
	事後学修	リハーサルの反省から作品や企画運営について再検討する（グループ）	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	Soniclt コンサートリハーサル	
	事後学修	リハーサルの反省から作品や企画運営について再検討する（グループ）	4.0
12	事前学修	イベント会場の設営	2.0
	授業	Soniclt コンサートの運営と実演	
	事後学修	コンサートの反省や今後の課題の検討	2.0
13	事前学修	作品アーカイブの制作（含: ミックスダウン、ポストプロダクション etc.）	2.0
	授業	作品のポストプロダクションとアーカイブについて	
	事後学修	作品のポストプロダクションとアーカイブ作業	2.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	作品アーカイブについてのフィードバック	
	事後学修	作品のポストプロダクションとアーカイブ作業	4.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	アーカイブのディスカッション、1 年間のまとめと今後の課題について	
	事後学修	アーカイブをファイナライズ。提出またはパブリケーション。	4.0

成績評価の方法およびその基準

■ 演習課題（作品や研究）：50 % ■ その他[発表会の内容や制作資料、ディスカッション等での参加度]：50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

対面でフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業内で配布や指示。
単位修得が望ましい科目	芸術演習（音楽）、デジタルサウンド・演習、デジタルサウンド、ゼミナール I
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、テクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
電子音楽や先端芸術領域について研究を深めつつ、作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探索します。また、そのような作品がどのように社会的課題解決のキーとなり得るかについて検討します。 4 年前期では、研究テーマと先行研究の調査と、どのような作品制作を通じて課題に取り組んでいくのかについて考察実践していきます。また、中間および最終発表会やディスカッションを通して、研究作品の見せ方および社会とのつながり方についても検討します。						
授業における学修の到達目標						
電子音楽領域の知識、関連ソフトウェアや創作ツールの修得、創作スキルの向上、創造的思考力の向上。プレゼンテーション、ディスカッションを通じクリティカルな視点の修得。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅡでの作品や研究について振り返る				1.0
	授業	過去の作品についてのディスカッションと研究課題の考察				
	事後学修	今学期の創作研究課題を考え、資料を用意する（作品や表現のリサーチ、研究のリサーチ、自分が関心があるテーマは何か）				3.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察①：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、研究課題とアプローチ（具体的方法）を検討				4.0
3	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察②：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）				4.0
4	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察③：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）				4.0
5	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察④：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）				4.0
6	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑤：研究課題のディスカッション				
	事後学修	これまでの実験の成果や進捗をまとめ、中間発表の準備（スライド、作品等）				4.0
7	事前学修	特になし				0.0
	授業	中間発表会とディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）				4.0
8	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑥：研究課題のディスカッション				

	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
9	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑦：研究課題のディスカッション	
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑧：研究課題のディスカッション	
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑨：研究課題のディスカッションと、発表に向けた考察	
	事後学修	創作や研究課題を進めつつ、最適な発表や展示の形態を考察する。発表に必要な機材やセットアップの資料を制作。	4.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑩：研究課題と発表に関するディスカッション	
	事後学修	これまでの成果をまとめ（スライド、作品）、発表の準備	4.0
13	事前学修	特になし	0.0
	授業	研究発表会リハーサル	
	事後学修	配線やセットアップの点検、発表資料のアップデート	4.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	研究発表会①	
	事後学修	フィードバックをもとに自分の研究をどのようにアップデートできるか考察する。	4.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	研究発表会②	
	事後学修	フィードバックをもとに自分の研究をどのようにアップデートできるか考察する。	4.0

成績評価の方法およびその基準

■演習課題（作品や研究）：50% ■その他[発表会の内容や制作資料、ディスカッション等での参加度]：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に個別で対面指導

教科書	
参考書・Web サイト	適宜授業内で提示する。
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド演習、芸術演習、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
電子音楽や先端芸術領域について研究を深めつつ、作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探求します。また、そのような作品がどのように社会的課題解決のキーとなり得るかについて検討します。 4 年後期では創作を進展させつつ、研究テーマに関する独自の視点やアプローチ、表現の工夫について言語化します。そして、卒業発表会において最終的なプレゼンテーションを行います。						
授業における学修の到達目標						
電子音楽、先端芸術領域の知識、関連ソフトウェアや創作ツールの修得、創作スキルの向上、創造的思考力の向上。プレゼンテーション、ディスカッションを通じクリティカルな視点の修得。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	前期発表会の反省点や今後の方針を検討する。				2.0
	授業	課題研究と考察①：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）				4.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察②：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）				4.0
3	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察③：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）				4.0
4	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察④：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）				4.0
5	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑤：研究課題のディスカッション				
	事後学修	これまでの実験の成果や進捗をまとめ、中間発表の準備（スライド、作品等）				4.0
6	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑥：中間発表の資料のフィードバック、ディスカッション				
	事後学修	中間発表のための資料のアップデート				4.0
7	事前学修	特になし				0.0
	授業	中間発表とディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）				4.0
8	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑦：研究課題のディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）				4.0

9	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑧：研究課題のディスカッション	
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑨：研究課題のディスカッション	
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑩：研究課題と発表に関するディスカッション	
	事後学修	研究成果のまとめ、発表に必要な機材やセットアップの資料を制作。	4.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル①（グループ1）	
	事後学修	配線やセットアップの点検、発表資料のアップデート	4.0
13	事前学修	特になし	0.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル②（グループ2）	
	事後学修	配線やセットアップの点検、発表資料のアップデート	4.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	卒業研究発表会①	
	事後学修	他の研究を見聞、体験し、知見を広める。自分の研究の反省やアップデート。	4.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	卒業研究発表会②	
	事後学修	他の研究を見聞、体験し、知見を広める。自分の研究の反省やどのように今後に活かせるかを検討する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

■演習課題（作品や研究）：50% ■その他[発表会の内容や制作資料、ディスカッション等での参加度]：50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中に個別で対面指導

教科書	
参考書・Web サイト	適宜授業内で提示する。
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド演習、芸術演習、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年、国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは、「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして、データの利活用方法に関する基礎研究と、計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。「ゼミナールⅠ」では、データサイエンスの基盤となる方法や技術の学習・実習を通して、次年度の本格的な研究に向けた準備を行います。						
授業における学修の到達目標						
1. データを通して現象をみることができる						
2. データサイエンスの基本的な考え方や具体的な方法が説明できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスをみて、1 年間のゼミ活動の流れを把握する				2.0
	授業	ガイダンス (ゼミ活動の流れと計画)				
	事後学修	研究テーマの検討をはじめ				2.0
2	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査をはじめ				2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 1 回)				
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして、研究テーマに関する理解を深める				2.0
3	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続				2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 2 回)				
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして、研究テーマに関する理解を深める				2.0
4	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続				2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 3 回)				
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして、研究テーマに関する理解を深める				2.0
5	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続				2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 4 回)				
	事後学修	講義におけるアドバイスを参考にして、研究テーマに関する理解を深める				2.0
6	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続				2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 5 回)				
	事後学修	講義におけるアドバイスを参考にして、研究テーマに関する理解を深める				2.0
7	事前学修	研究テーマに基づいて、Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を開始し、報告用資料を作成				2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (第 1 回)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、現象やデータに関する理解を深める				2.0
8	事前学修	Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を継続、報告用資料を作成				2.0

	授業	現象の調査, およびデータの収集 (第 2 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める	2.0
	事前学修	Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を継続, 報告用資料を作成	2.0
9	授業	現象の調査, およびデータの収集 (第 3 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める	2.0
	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
10	授業	データ分析の方法論 (可視化の方法)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
11	授業	データ分析の方法論 (関係性を把握する方法)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
12	授業	データ分析の方法論 (統計的なモデル化の方法, 1 回目)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
13	授業	データ分析の方法論 (統計的なモデル化の方法, 2 回目)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
14	授業	データ分析の方法論 (統計モデルの応用)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
	事前学修	報告会用の資料(スライド)を作成する	2.0
15	授業	研究活動に関する報告会を実施	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして研究内容を振り返り, 後期の研究活動の参考にする	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■演習課題: 100% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題の進捗を確認しながら, 個別にアドバイスします。			
教科書		書名: データサイエンス演習 (改訂版), 著者名: 甫喜本 司, 出版社: 学術図書出版社, 備考:	
参考書・Web サイト		CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)	
単位修得が望ましい科目		BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目	
備考		学習内容を説明した後, 受講者が個別に教員と検討する形で進められます。	
担当教員の実務経験		1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わって きました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をは じめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立つ ているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年、国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは、「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして、データの利活用方法に関する基礎研究と、計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。 「ゼミナールⅡ」では、「ゼミナールⅠ」で学んだ内容の上に、現実の現象をデータより分析する際に必要となるデータの分析技術について学習・実習を行いながら、次年度の本格的な研究に向けた準備を行います。						
授業における学修の到達目標						
1. データサイエンスの基本的な考え方や具体的な方法が説明できる						
2. 計算機でデータの構造に応じた処理や分析を行うためのプログラミングができる						
3. データ分析の結果に基づいて現象を適切に評価できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 1 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
2	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 2 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
3	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 3 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
4	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 4 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
5	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 5 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
6	事前学修	入手した観測データより、分析用のデータセットを整備、報告用資料を作成				2.0
	授業	分析データの整備 (第 1 回)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続				2.0
7	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続、報告用資料を作成				2.0
	授業	分析データの整備 (第 2 回)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続				2.0
8	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続、報告用資料を作成				2.0

	授業	分析データの整備 (第 3 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 作業を継続	2.0
9	事前学修	R 環境を用いて、データの分析を開始する	2.0
	授業	データの分析と評価 (第 1 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 分析や評価で不明な点の理解を深める	2.0
10	事前学修	データ分析, 評価に関する作業を継続し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データの分析と評価 (第 2 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 分析や評価で不明な点の理解を深める	2.0
11	事前学修	研究テーマとして設定した問題を解決するための方法について考えてみる	2.0
	授業	データ分析に基づく問題の解決 (第 1 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
12	事前学修	応用問題の検討を継続し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データ分析に基づく問題の解決 (第 2 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
13	事前学修	応用問題の検討を継続し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データ分析に基づく問題の解決 (第 3 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
14	事前学修	これまでの研究経過をまとめて、報告会用のスライドを作成する	2.0
	授業	報告会用スライドの作成	
	事後学修	アドバイスを参考にして, スライドの作成を継続する	2.0
15	事前学修	スライドの作成作業を継続する	2.0
	授業	成果報告会	
	事後学修	コメントを基に, より発展的な問題点を検討する	2.0

成績評価の方法およびその基準

■演習課題： 100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら, 個別, あるいは POLITE を通じてアドバイスします。

教科書	書名：データサイエンス演習 (改訂版), 著者名：甬喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	プログラミング実習系の科目, BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数
備考	学習内容を説明した後, 受講者が個別に教員と検討する形で進められます。
担当教員の実務経験	1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わって きました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をは じめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立つ ているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年、国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは、「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして、データの利活用方法に関する基礎研究と、計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。 「ゼミナールⅢ」「ゼミナールⅣ」では、現実の様々な問題をデータの分析を通して解決することを大きな目標とします。具体的には、現実の問題を発掘するところからスタートし、解決するために必要となる方法の検討や開発、分析結果の検討を通して、問題の解決を行うというプロセスを1年間かけて行います。「ゼミナールⅢ」では、問題の発掘からデータを整備する段階までのプロセスを進めていきます。						
授業における学修の到達目標						
1. データ分析の結果に基づいて現象を適切に評価できる						
2. 計算機でデータの構造に応じた処理や分析を行うためのプログラミングができる						
3. データサイエンスの技術をとおして、現実の問題を解決することができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールⅠで実施した内容を参考にしながら、研究活動の計画案を考える				2.0
	授業	研究計画案の作成 (1 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、研究計画を再考、修正する				2.0
2	事前学修	修正した研究計画の案について研究計画書を更新				2.0
	授業	研究計画案の作成 (2 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、研究計画を再考、修正する				2.0
3	事前学修	修正した研究計画の案について研究計画書を更新				2.0
	授業	研究計画案の作成 (3 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、研究計画を再考、修正する				2.0
4	事前学修	研究計画に基づいて、Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を開始し、報告用資料を作成				2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (1 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、現象やデータに関する理解を深める				2.0
5	事前学修	Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を継続、報告用資料を作成				2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (2 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、現象やデータに関する理解を深める				2.0
6	事前学修	Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を継続、報告用資料を作成				2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (3 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、現象やデータに関する理解を深める				2.0
7	事前学修	Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を継続、報告用資料を作成				2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (4 回目の検討)				

	事後学修	アドバイスを参考にして、現象やデータに関する理解を深める	2.0
8	事前学修	Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	現象の調査, およびデータの収集 (5 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、現象やデータに関する理解を深める	2.0
9	事前学修	収集した観測データより、分析用データの整備作業を開始	2.0
	授業	分析データの整備 (1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続	2.0
10	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	分析データの整備 (2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続	2.0
11	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	分析データの整備 (3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続	2.0
12	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	分析データの整備 (4 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続	2.0
13	事前学修	分析用データセットの整備作業を完成させる	2.0
	授業	報告会用のスライドを準備 (1 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、報告会用のスライド作成を始める	2.0
14	事前学修	アドバイスを参考にしてスライドの作成・改訂を続ける	2.0
	授業	報告会用のスライドを準備 (2 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にしてスライドの作成・改訂を続ける	2.0
15	事前学修	アドバイスを参考にしてスライドの作成・改訂を続ける	2.0
	授業	報告会の実施	
	事後学修	アドバイスを参考にしてこれまでの作業内容を振り返り、課題となる点について検討する	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■演習課題：100% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題の進捗を確認しながら、個別にアドバイスします。			
教科書			
参考書・Web サイト		CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)	
単位修得が望ましい科目		BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目	
備考		学習内容を説明した後, 受講者が個別に教員と検討する形で進められます。	
担当教員の実務経験		1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し、データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは、データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をはじめとする基礎学習と並行して、企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。	

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年、国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは、「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして、データの利活用方法に関する基礎研究と、計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。 「ゼミナールⅣ」では、「ゼミナールⅢ」で整備してきた実際のデータを基に、問題を解決するために必要となる方法の検討を行うと共に、この方法を実行した結果を評価しながら、自分の力で問題の解決を行うというプロセスを実施します。また、1 年間の研究を通して得られた研究成果を発表することを目標とします。						
授業における学修の到達目標						
1. データ分析の結果に基づいて現象を適切に評価できる						
2. 計算機でデータの構造に応じた処理や分析を行うためのプログラミングができる						
3. データサイエンスの技術をとおして、現実の問題を解決することができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	「ゼミナールⅢ」の報告会におけるアドバイスを参考にしながら、これまでにやってきた研究内容を振り返る				2.0
	授業	今後の研究計画に関する立案				
	事後学修	アドバイスを参考に、計画書を作成				2.0
2	事前学修	データ分析の計画について考え、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (1 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考に、データの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
3	事前学修	データ分析、評価に関する作業を継続し、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (2 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考に、データの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
4	事前学修	データ分析、評価に関する作業を継続し、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (3 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考に、データの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
5	事前学修	データ分析、評価に関する作業を継続し、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (4 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考に、データの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
6	事前学修	データ分析、評価に関する作業を継続し、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (5 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考に、データの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
7	事前学修	研究テーマの達成に向けて、問題の解決方法を考える				2.0
	授業	データに基づく問題解決に向けた検討 (1 回目)				

	事後学修	アドバイスを参考にして、問題となっている点の理解を深める	2.0
8	事前学修	問題の解決方法を引き続き検討し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データに基づく問題解決に向けた検討 (2 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、問題となっている点の理解を深める	2.0
9	事前学修	問題の解決方法を引き続き検討し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データに基づく問題解決に向けた検討 (3 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、問題となっている点の理解を深める	2.0
10	事前学修	問題の解決方法を引き続き検討し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データに基づく問題解決に向けた検討 (4 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、問題となっている点の理解を深める	2.0
11	事前学修	研究成果を整理し、研究報告会用のスライドを作成する	2.0
	授業	研究報告会用スライドの作成 (1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、スライドの作成・改訂を行う	2.0
12	事前学修	アドバイスを参考にして、スライドの作成・改訂を継続	2.0
	授業	研究報告会用スライドの作成 (2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、スライドの作成・改訂を行う	2.0
13	事前学修	アドバイスを参考にして、スライドの作成・改訂を継続	2.0
	授業	研究報告会用スライドの作成 (3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、スライドの作成・改訂を行う	2.0
14	事前学修	報告会の準備を行う (グループ 1)	2.0
	授業	研究報告会 (1 回目, グループ 1)	
	事後学修	コメントを基に、より発展的な問題点を検討する	2.0
15	事前学修	報告会の準備を行う (グループ 2)	2.0
	授業	研究報告会 (1 回目, グループ 2)	
	事後学修	コメントを基に、より発展的な問題点を検討する	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■ 演習課題 : 100% □ その他 []			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題の進捗を確認しながら、個別にアドバイスします。			
教科書			
参考書・Web サイト		CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)	
単位修得が望ましい科目		BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目	
備考		学習内容を説明した後, 受講者が個別に教員と検討する形で進められます。	
担当教員の実務経験		1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をはじめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：スポーツデータサイエンスの世界						
スポーツに関する様々な要素を数値化し、得られた情報の伝達方法、表現方法、分析方法などを学ぶ。また、様々な測定機器についてその使用方法や応用法について理解を深める。						
授業における学修の到達目標						
・スポーツデータを適切に扱い、処理することができる。 ・様々な測定機器の使用方法について理解することができる。 ・自身の卒業研究に向けた計画を立てることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	スポーツデータサイエンスについてインターネットで調べる				2
	授業	スポーツデータサイエンスとは				
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる				2
2	事前学修	実際のスポーツ現場でデータがどのように扱われているのかを調べる				2
	授業	スポーツデータサイエンスの基礎				
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる				2
3	事前学修	実際のスポーツ現場でどのようなデータ解析が用いられているのかを調べる				2
	授業	データ解析の実践				
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる				2
4	事前学修	指導者が求めるデータとはどのようなものかを調べる				2
	授業	スポーツデータ活用の応用と課題				
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる				2
5	事前学修	測定機器の種類を調べる				2
	授業	測定機器の役割と基本概念の解説				
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる				2
6	事前学修	測定機器の種類を調べる				2
	授業	主要な測定機器の種類と使用方法				
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる				2
7	事前学修	文献からスポーツデータを調べる				2
	授業	測定実践とデータの記録				
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる				2
8	事前学修	データのフィードバック方法を調べる				2
	授業	測定結果の応用とフィードバック				
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる				2

9	事前学修	スポーツデータサイエンスに関する論文を探し内容をまとめる	2
	授業	先行研究の調査・発表	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめる	2
10	事前学修	スポーツデータサイエンスに関する論文を探し内容をまとめる	2
	授業	先行研究の調査から課題を設定する・発表	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめる	2
11	事前学修	スポーツデータサイエンスに関する論文を探し内容をまとめる	2
	授業	得られた課題から地震の研究テーマを設定する	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめる	2
12	事前学修	モーションキャプチャシステムの原理について調べる	2
	授業	モーションキャプチャシステムとは	
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる	2
13	事前学修	モーションキャプチャシステムの活用方法について調べる	2
	授業	モーションキャプチャシステムの使用方法	
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる	2
14	事前学修	卒業研究の実験に向けた計画を立てる	2
	授業	実験計画書の作成	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめ、計画を見直す	2
15	事前学修	卒業研究の実験に向けた計画を立てる	2
	授業	実験計画内容の発表	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめ、計画を見直す	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	2014 年から 2016 年にかけて青森県スポーツ科学センターに勤務し、スポーツ科学および健康分野における理論的知識と実践的技術を活用して、一般市民からアスリートに至るまで多様な層への支援を実施した。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：スポーツを対象とした実験手法を身に着ける						
スポーツに関する様々な要素を数値化し、得られた情報の伝達方法、表現方法、分析方法などを学ぶ。また、様々な測定機器についてその使用方法や応用法について理解を深める。さらに、卒業研究に向けた実験への準備を行う。						
授業における学修の到達目標						
・ スポーツデータを適切に扱い、処理することができる。 ・ 様々な測定機器の使用方法について理解することができる。 ・ 自身の卒業研究に向けた計画を立てることができる。 ・ 卒業研究に向けた実験を行う。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	スポーツバイオメカニクスについて調査する				2
	授業	スポーツバイオメカニクスとは				
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる				2
2	事前学修	各種スポーツとスポーツバイオメカニクスとの関係を調査する				2
	授業	スポーツバイオメカニクスの基礎概念と重要性				
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる				2
3	事前学修	各種スポーツとスポーツバイオメカニクスとの関係を調査する				2
	授業	力学の基本法則の応用				
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる				2
4	事前学修	各種スポーツとスポーツバイオメカニクスとの関係を調査する				2
	授業	骨格と筋肉の役割				
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる				2
5	事前学修	どのようなウェアラブル機器があるのか調査する				2
	授業	ウェアラブル機器の基礎とスポーツ科学への応用				
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる				2
6	事前学修	加速度センサーについて調査する				2
	授業	ウェアラブル機器を用いたデータ収集と分析の基礎				
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる				2
7	事前学修	心拍数センサーについて調査する				2
	授業	ウェアラブル機器を活用した実践演習				
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる				2
8	事前学修	自身の実験計画書を修正する				2
	授業	相互に発表し合い自身の計画をブラッシュアップする				

	事後学修	発表内で出た意見を計画書に反映させる	2
9	事前学修	実験計画書の確認をする	2
	授業	予備実験 1 を実施する	
	事後学修	実験データをまとめる	2
10	事前学修	予備実験 1 のデータを PC に入力する	2
	授業	予備実験 1 のデータを解析する	
	事後学修	解析結果をまとめる	2
11	事前学修	結果報告用の資料を作成する	2
	授業	予備実験 1 のデータを発表する	
	事後学修	発表内で出た意見をもとに考察する	2
12	事前学修	自身の実験の準備を行う	2
	授業	予備実験 2 を実施	
	事後学修	実験で得られたデータをまとめる	2
13	事前学修	予備実験 2 のデータを PC に入力する	2
	授業	予備実験 2 のデータを解析する	
	事後学修	解析結果をまとめる	2
14	事前学修	結果報告用の資料を作成する	2
	授業	予備実験 2 のデータを発表する	
	事後学修	発表内で出た意見をもとに考察する	2
15	事前学修	結果報告用の資料を作成する	2
	授業	本実験の研究計画を発表する	
	事後学修	発表内で出た意見をもとに考察する	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
その都度口頭あるいはオンラインで行う			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて適宜紹介する	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		なし	
担当教員の実務経験		2014 年から 2016 年にかけて青森県スポーツ科学センターに勤務し、スポーツ科学および健康分野における理論的知識と実践的技術を活用して、一般市民からアスリートに至るまで多様な層への支援を実施した。	

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC408
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：スポーツデータの解析方法と倫理的配慮について学ぶ						
本講義の初期段階では、スポーツ科学の基礎理論の紹介と研究の全体像の理解を目指す。第 1 回目の講義では、スポーツ科学の概要と講義計画の説明に加え、研究の重要性について議論する。						
第 2 回から第 5 回にかけては、研究テーマに基づいた実験計画の作成を行う。研究目的と仮説の設定に重点を置き、実験計画の作成に必要な先行研究のレビューを行う。この過程を通じて、学生は自身の研究計画案を作成する。						
第 6 回から第 10 回までは実験の準備に焦点を当てる。実験デザインの基礎、サンプルサイズの計算方法、実験機器の使い方を学び、実験準備の実践的なスキルを身につける。この段階で、学生は実験準備を具体的に進める。						
第 11 回から第 15 回にかけては、実験の実施とデータ収集を行う。実験手順の確認、安全管理の重要性に加え、データ収集方法と問題発生時の対処法について学ぶ。この期間中、学生は実験データの整理と初歩的なデータ分析を行う。						
授業における学修の到達目標						
・スポーツ科学の研究テーマを選定し、その研究問題を特定できるようになる。						
・学生は実験デザインの基本原則を理解し、適切なサンプルサイズの計算、実験機器の選定と使用方法についての知識を習得し、実験実施に向けた具体的な準備を行えるようになる。						
・実験プロトコルに従って実験を安全かつ効率的に実施し、収集したデータを整理・分析する基本的な能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	スポーツ科学の基礎に関する文献の読解				2
	授業	スポーツ科学の概要、講義計画の説明、研究の重要性				
	事後学修	研究テーマの選定に関する予備調査				2
2	事前学修	実験デザインの基本用語を調べる				2
	授業	実験デザインの基本概念				
	事後学修	自分が興味を持つスポーツ動作に基づいた簡単な実験デザインを作成				2
3	事前学修	実験研究におけるバイアスの種類を調べる				2
	授業	バイアスの種類とその影響				
	事後学修	講義内容を振り返る				2
4	事前学修	因果関係を検証するための基本的な方法を調べる				2
	授業	因果関係を検証するための実験デザイン				
	事後学修	講義内容を振り返る				2
5	事前学修	スポーツ科学における代表的な実験研究の種類を調査する				2
	授業	観察研究について				
	事後学修	講義内容を振り返る				2
6	事前学修	スポーツ科学における代表的な実験研究の種類を調査する				2
	授業	介入研究について				
	事後学修	講義内容を振り返る				2

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
テーマ：スポーツデータのまとめ方と発表方法を身につける						
第 1 回から第 5 回までは、収集した実験データの解析に注力する。統計学の基礎から始め、使用する統計ソフトウェアの操作方法までを学び、データの統計解析方法と結果の解釈について理解を深める。						
第 6 回から第 10 回では、研究論文の作成を行う。科学的論文の構造、データの提示方法、考察の作成方法について学び、研究成果を論文としてまとめる技術を習得する。						
第 11 回から第 15 回は、発表会資料の作成と発表練習に焦点を当てる。効果的なプレゼンテーション技術とパワーポイントの使い方を学び、発表資料の作成方法を理解する。最終的に、クラス内での発表会を実施し、フィードバックを受けることで、学生は研究発表の経験を積む。						
授業における学修の到達目標						
・ 学生は統計学の基本原理を理解し、使用する統計ソフトウェアの操作技術を習得し、解析結果の解釈とその科学的意義を把握できるようになる。						
・ 学生は科学的論文の構造と書き方を理解し、自らの研究成果を論文としてまとめる能力を習得する。						
・ 研究成果を効果的に伝えるためのプレゼンテーションスキルを習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	統計学の基本的な概念（平均、分散、標準偏差）の予習				2
	授業	統計学の基礎理論について解説し、基本的な統計指標の計算方法を学ぶ				
	事後学修	講義で扱った統計指標の計算問題を解き、理解を深める				2
2	事前学修	統計ソフトウェアの基本操作について事前資料を確認				2
	授業	使用する統計ソフトウェアの操作方法を習得し、簡単なデータ入力と分析を行う				
	事後学修	講義中に扱ったデータセットを用い、ソフトウェア操作を復習				2
3	事前学修	相関係数や回帰分析の基本的な概念を予習				2
	授業	相関分析と回帰分析の手法を解説し、ソフトウェアでの実践を行う				
	事後学修	自身のデータを用い、相関分析と回帰分析を実施				2
4	事前学修	仮説検定の基本的な概念と用語（p 値、有意水準）を学習				2
	授業	仮説検定の基礎理論を学び、t 検定やカイ二乗検定の実践を行う				
	事後学修	講義資料を参考に、仮説検定の練習問題を解く				2
5	事前学修	データ可視化の基本的な方法について調査				2
	授業	統計解析結果の可視化方法を学び、グラフの作成を実践				
	事後学修	自身のデータを用いて、統計解析結果をグラフで表現				2
6	事前学修	科学論文の一般的な構成（序論、方法、結果、考察）について予習				2
	授業	科学的論文の構造と執筆の基本ルールを学ぶ				
	事後学修	自身の研究テーマを基に、序論のドラフトを作成				2
7	事前学修	参考文献の検索方法と引用規則を確認				2

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
ICT 分野では、とりわけ新しい知識の獲得を継続して行くことが重要となっています。他の講義で学ぶよりも、主体的に行動して知識の獲得に取り組み、得られたものを人に広めることも大切です。 この講義では、そうした主体的な学習行動ができ、卒業後も自律的に学習できるようになるために、興味の発見、調査、まとめ、発表のサイクルを何度か繰り返します。 ICT 分野のキーワードについて調べ、それについてプレゼンテーションをし、他の受講者を交えたディスカッションを行います。 なお、続くゼミナールⅡを経て、卒業研究に結びつけるための活動（ソフトウェアの試作品開発等）も行います。 （ゼミナールⅠ・Ⅱ、4 年次のゼミナールⅢ・Ⅳを通して卒業研究に取り組みます。4 年次の卒業研究Ⅰ～Ⅳとの関係については講義中に説明します。）						
授業における学修の到達目標						
・ ICT 分野に興味を持ち、自分の選択した事柄について、自主的に調査し一定の知識を獲得した後、それをまとめて他の人に説明できる力を身につける。 ・ プレゼンテーションの技術、論理的に記述する技術を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので、1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上、毎回は空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。 テーマ設定、調査、まとめ、発表のサイクルを少なくとも 2 回繰り返します。受講者数によって回数はかわりますし、各回のディスカッションの様子によっても変化します。 第 1 サイクルは、提示される ICT 関連キーワードから、各自一つを選択しそれについて調査をします。自分の発表回の前には、プレゼンテーションの準備、配布資料の作成を行います。 第 2 サイクルは、自分自身で興味の持てるキーワードを設定し、調査、まとめ、発表を行います。その後、そのキーワードに関連した何らかの試作品（プログラムの例題のようなもので良い）を作成する作業をします。 第 3 サイクルは、第 2 サイクルで選んだキーワードに関して、教員から与えられた条件のもとより詳しい調査と、発表時にデモンストレーションできるような試作品作成に取り組みます。 第 1 回目は、事前学習は必要ありません。 この回に記載する事前学修時間は、事前学修の総量です。準備作業が多いことから事前学修時間が多くなっています。時間は自分で立てる計画（下記参照）に基づいて配分して下さい。 第 2 サイクルの途中で夏期休業となりますが、その間に上記試作品作りに取り組みます。その取り組み時間もこの事前学修時間として想定しています。				30
	授業	ガイダンスと第 1 サイクルのキーワード選択 Learning Management System（以下 LMS と略す）への登録作業の指示があります。今後のゼミナール活動の基本形（調査、まとめ、発表のサイクル）について理解します。 事前学修、事後学修に求められることについての説明があります。				
	事後学修	第 1 回目は、LMS への登録作業と、LMS 上で第 1 サイクルのキーワード選択を行います。				30

		選択したキーワードについて調査を開始します。 この回に記載する事前学修時間は、事後学修の総量です。主に、自分の発表時の質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には、その内容について自分でも調査をします。 時間は自分で配分して下さい。	
2	事前学修	調査方法を検討し、発表までの計画を立てます。	0
	授業	キーワード選択結果を確認し、発表までの計画について発表します。 第1サイクルの発表の順番を決めます。	
	事後学修	各自、自分の計画に基づいて調査活動を行います。	0
3	事前学修	3回目以降、調査活動を継続します。 発表の回が近づいたらプレゼンテーションと配布資料の準備をします。 発表が終了した人は、次のサイクルに入ります。	0
	授業	発表担当者は発表、それ以外の人は質疑応答、ディスカッションに参加します。	
	事後学修	自分の発表時の質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には、その内容について自分でも調査をします。	0
4	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
5	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
6	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
7	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
8	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
9	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
10	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
11	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
12	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	

	事後学修	第 3 回項目参照	0
13	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
14	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
15	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他 100% [調査への取り組み方, プレゼンテーションとその内容, 質疑応答への対応で評価する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時の質疑応答で行うが, LMS, SNS, 電子メールも用いることもある。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	(ゼミ配属決定後に登録する)ゼミのメーリングリストにより配信される電子メールを必ず読む。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC326
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
ICT 分野では、とりわけ新しい知識の獲得を継続して行くことが重要となっています。他の講義で学ぶよりも、主体的に行動して知識の獲得に取り組み、得られたものを人に広めることも大切です。 この講義では、そうした主体的な学習行動ができ、卒業後も自律的に学習できるようになるために、興味の発見、調査、まとめ、発表のサイクルを何度か繰り返します。 ICT 分野のキーワードについて調べ、それについてプレゼンテーションをし、他の受講者を交えたディスカッションを行います。						
ゼミナールⅠでは、提示されたキーワードから選択して調査という形でしたが、ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠでの活動を踏まえて、自ら興味を持ったテーマについて調査しプレゼンテーションをするサイクルと、4 年次のゼミナールⅢ,Ⅳ,卒業研究Ⅰ~Ⅳ に繋がるようなより具体的なテーマについて調査しプレゼンテーションをするサイクルを経て、ソフトウェアの試作品開発等にも取り組みます。 (ゼミナールⅠ・Ⅱ、4 年次のゼミナールⅢ・Ⅳ を通して卒業研究に取り組みます。4 年次の卒業研究Ⅰ~Ⅳ との関係については講義中に説明します。)						
授業における学修の到達目標						
・ ICT 分野に興味を持ち、自分の選択した事柄について、自主的に調査し一定の知識を獲得した後、それをまとめて他の人に説明できる力を身につける。 ・ プレゼンテーションの技術、論理的に記述する技術を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので、1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上、毎回は空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。				30
		テーマ設定、調査、まとめ、発表のサイクルを少なくとも 2 回繰り返します。受講者数によって回数はかわりますし、各回のディスカッションの様子によっても変化します。				
		第 1 サイクルは、自分自身で興味の持てるテーマを設定し、調査、まとめ、発表を行います。				
		第 2 サイクルは、第 2 サイクルで選んだテーマを基礎として、教員から与えられた条件のもとより詳しい調査と、発表時にデモンストレーションができるような試作品作成に取り組みます。				
		第 1 回目は、事前学習は必要ありません。				
		注意：				
		この回に記載する事前学修時間は、事前学修の総量です。準備作業が多いことから事前学修時間が多くなっています。時間は自分で立てる計画（下記参照）に基づいて配分して下さい。				
		第 2 サイクルの途中で夏期休業となりますが、その間に上記試作品作りに取り組みます。その取り組み時間もこの事前学修時間として想定しています。				
	授業	ガイダンスと第 1 サイクルのテーマ設定				
		今後のゼミナール活動の基本形（調査、まとめ、発表のサイクル）について理解します。				
	事後学修	第 1 回は、自分で決めたテーマに基づいて調査を開始します。				30

		注意： この回に記載する事前学修時間は、事後学修の総量です。主に、自分の発表時の質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には、その内容について自分でも調査をします。 時間は自分で配分して下さい。	
2	事前学修	調査方法を検討し、発表までの計画を立てます。	0
	授業	テーマ選択結果を確認し、発表までの計画について発表します。（2回目にテーマが重複する場合などの調整をします） 第1サイクルの発表の順番を決めます。	
	事後学修	各自、自分の計画に基づいて調査活動を行います。	0
3	事前学修	3回目以降、調査活動を継続します。 発表の回が近づいたらプレゼンテーションと配布資料の準備をします。 発表が終了した人は、次のサイクルに入ります。	0
	授業	発表担当者は発表、それ以外の人は質疑応答、ディスカッションに参加します。	
	事後学修	発表担当者は発表、それ以外の人は質疑応答、ディスカッションに参加します。 1サイクルは8～10回を想定しています。	0
4	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
5	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
6	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
7	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
8	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
9	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
10	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
11	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
12	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	

	事後学修	第 3 回項目参照	0
13	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
14	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
15	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他 100% [調査への取り組み方, プレゼンテーションとその内容, 質疑応答への対応で評価する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時の質疑応答で行うが, LMS, SNS, 電子メールも用いることもある。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	ゼミのメーリングリストにより配信される電子メールを必ず読む。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
卒業研究Ⅰ～Ⅳ と連動して展開します。						
研究のテーマ設定に必要な情報の収集と実施可能な計画を立案します。						
主体的に行動して知識を獲得し、 具体的な研究テーマの設定を目指します。そのテーマについてプレゼンテーションを行い議論の後決定します。決定後は、 その目的に到達可能な方法を具体的に検討して研究計画を立案します。この研究計画についてもプレゼンテーションをして議論し実際に研究に着手します。ここまでの過程が早く終了する人は、 その後研究の進捗状況についてプレゼンテーションしその内容について議論していきます。						
授業における学修の到達目標						
・ 目的を明確にした研究テーマの設定に取り組む 0 ことで、 自主的に課題設定し解決方法を探索する力を身につける。						
・ 計画立案能力を身につける。						
・ プレゼンテーションの技術、 論理的に記述する技術を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので、1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上、 毎回は空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。				30
	研究テーマを設定しプレゼンテーションと議論、 テーマ決定後は計画を立案しプレゼンテーションと議論というサイクルを必要であれば複数回繰り返していきます。受講者数や進捗によって実施回はかわりますし、 各回のディスカッションの様子によっても変化します。					
	第 1 回は、 事前学修は必要ありません。					
2	授業	この回に記載する事前学修時間は、 事前学修の総量です。時間は自分の活動に基づいて配分して下さい。				30
	授業方針、 卒業研究実施要領等について説明します。					
	Learning Management System（以下 LMS と略す）への登録作業の指示があります。今後のゼミナール及び卒業研究活動の方針について理解します。					
3	事後学修	事前学修、 事後学修に求められることについての説明があります。				0
	第 1 回目は、 LMS や各種利用サービスへの登録作業をし、 授業中に説明のあった活動方針に基づいて研究テーマ設定のための調査を行います。					
	この回に記載する事後学修時間は、 事後学修の総量です。主に、 自分のプレゼンテーション資料の準備、 質疑応答のまとめ、 教員からの指示による追加作業、 自主的な振り返りを行います。可能であれば研究テーマに沿って調査、 研究を実施します。					
4	事前学修	時間は自分で配分して下さい。				0
	テーマ設定、 計画立案を実施し、 そのプレゼンテーション資料作成などの作業を行います。					
	ゼミナールⅡの時点で研究テーマを明確にしていた人から順に、 テーマについてプレゼンテーションとディスカッションをします。テーマ決定後は、 研究目的達成のための具体的な計画についてのプレゼンテーションとディスカッションをします。					
5	事後学修	テーマ設定、 計画立案を実施し、 そのプレゼンテーション資料作成などの作業を行います。				0
	ゼミナールⅡの時点で研究テーマを明確にしていた人から順に、 テーマについてプレゼンテーションとディスカッションをします。テーマ決定後は、 研究目的達成のための具体的な計画についてのプレゼンテーションとディスカッションをします。					
	テーマ設定、 計画立案を実施し、 そのプレゼンテーション資料作成などの作業を行います。					

3	事前学修	3 回目以降、テーマが決定するまであるいは研究計画が承認されるまで、調査研究活動を継続します。	0
	授業	発表担当者は発表、それ以外の人は質疑応答、ディスカッションに参加します。	
	事後学修	自分の発表時の質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。テーマが決定するまであるいは研究計画が承認されるまで、調査研究活動を継続します。	0
4	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
5	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
6	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
7	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
8	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
9	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
10	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
11	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
12	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
13	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
14	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	0
15	事前学修	第 3 回項目参照	0
	授業	第 3 回項目参照	

	事後学修	第 3 回項目参照	0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [研究活動への取り組み方, プレゼンテーションとその内容, 質疑応答への対応で評価する。] なお研究テーマ, 計画の内容についての評価は卒業研究Ⅰ・Ⅱで行う。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表時の質疑応答で行うが, LMS, SNS, 電子メールも用いることもある。			
教科書			
参考書・Web サイト		なし	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		なし	
担当教員の実務経験		なし	

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
卒業研究Ⅰ～Ⅳ と連動して展開します。						
研究計画に沿って研究活動（主にプログラム等の開発・制作）を行いその進捗状況をプレゼンテーションしそれについての議論をすることで、 各々定めた研究目標の達成を目指します。						
必要に応じて計画を見直しつつ研究テーマに基づいた活動（プログラム等の開発・制作、資料収集、調査、考察）をします。研究の進捗が一定程度に達した後、卒業論文執筆については使用するツールを含めたレクチャーを受けた後、論文を執筆します。						
なお、ゼミナールⅢでの活動が学修の到達目標に達していない場合は、ゼミナールⅢの授業内容を継続します。（研究テーマや計画が未定のまま先へ進むことはありません）						
授業における学修の到達目標						
・立案した計画を実行する力を身につける。						
・（テーマによって異なるが）必要となる開発，調査，議論の方法を身につける。						
・プレゼンテーションの技術，論理的に記述する技術を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので，1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上，毎回は空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。卒業研究の進捗状況についてのプレゼンテーションを少なくとも 2 回実施します。どの回になるかは進捗状況および受講者数によって変わります。担当回に合わせて事前・事後の学習量を調整してください。 第 1 回目は，事前学習は必要ありません。 注意： この回に記載する事前学修時間は，事前学修の総量です。各回の時間は自律的に調整してください。				30
	授業	研究活動の見通し，各種期限についての説明をうけて研究計画の見直しをします。				
	事後学修	この回に記載する事後学修時間は，事後学修の総量です。主に，自分のプレゼンテーション資料の準備，質疑応答のまとめ，教員からの指示による追加作業，自主的な振り返りを行います。可能であれば研究テーマに沿って調査，研究を実施します。 時間は自分で配分して下さい。 第 1 回は，研究計画の見直し作業の継続と修正作業をします。				30
2	事前学修	見直した研究計画に従って研究活動を行います。研究の進捗状況報告の準備などをします。				0
	授業	以後，持ち回りで研究の進捗状況についてプレゼンテーションします。				
	事後学修	各自研究計画に基づいて研究活動を行います。				0
3	事前学修	第 2 回項目参照				0
	授業	第 2 回項目参照				
	事後学修	第 2 回項目参照				0
4	事前学修	第 2 回項目参照				0
	授業	第 2 回項目参照				

	事後学修	第 2 回項目参照	0
5	事前学修	第 2 回項目参照	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 2 回項目参照	0
6	事前学修	第 2 回項目参照	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 2 回項目参照	0
7	事前学修	第 2 回項目参照	0
	授業	研究の進捗状況にもよりますが、卒業論文執筆に使用するツールを含めたレクチャーがあります。	
	事後学修	卒業論文執筆に使用するツールの動作確認、試用等、執筆の準備をします。	0
8	事前学修	研究計画に従って研究活動を行います。卒業論文を執筆します。研究の進捗状況報告の準備などを行います。	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	各自研究計画に基づいて研究活動、あるいは卒業論文執筆を行います。	0
9	事前学修	第 8 回項目参照	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	0
10	事前学修	第 8 回項目参照	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	0
11	事前学修	第 8 回項目参照	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	0
12	事前学修	第 8 回項目参照	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	0
13	事前学修	第 8 回項目参照	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	0
14	事前学修	研究計画に従って研究活動を行います。卒業論文を執筆します。卒牛研究発表会の準備をします。	0
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	研究計画に従って研究活動を行います。卒業論文を執筆します。卒牛研究発表会の準備をします。	0
15	事前学修	研究計画に従って研究活動を行います。卒業論文を執筆します。卒牛研究発表会の準備をします。	0
	授業	卒業研究発表会において卒業研究活動についての最終報告をします。	
	事後学修	発表会における質疑応答内容を反映して制作物についての修正、論文の修正を行います。	0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他 100% [研究活動への取り組み方、プレゼンテーションとその内容、質疑応答への対応で評価する。]

なお研究内容、論文の内容についての評価は卒業研究 III・IV で行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時の質疑応答で行うが、LMS、SNS、電子メールも用いることもある。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	齋藤 健司(314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC302
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本研究室では人工知能技術をベースにし、この応用システムを幅広く扱ってゆく。はじめに人工知能を使ったシステム構築を行う上で必要となるプログラミング言語や、論理学、Web アプリケーションの周辺技術を実習を通して学ぶ。そしてこれらの技術を応用して、仮想環境(Virtual Environment)や、ロボット、e-Learning システムなどの研究テーマを選び、プレゼンテーションとディスカッションを通して研究を練り、便利で賢い機能を実現するために人工知能の要素を活用してゆく。						
授業における学修の到達目標						
人工知能に関係する基礎技術を学びこれを問題解決に結び付ける力をつけることを目標とする。特にディスカッションを通して問題の発見と解決を行い、専門的な内容を他に伝えられるプレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	人工知能について調べ、自分のやりたい研究について考えておく。簡単な自己紹介の内容を考えておく。				2
	授業	ゼミについてのガイダンスを行う。簡単な自己紹介も行う。				
	事後学修	ゼミにおける学習について注意しておくべき項目をまとめて今後の学習で参照できるようにしておく。				2
2	事前学修	人工知能についての各種技術についてゼミで用意する資料や Web 上の資料を調べておく。				2
	授業	人工知能技術に関する課題を設定し、この課題に対する演習をしてもらう。				
	事後学修	課題の内容を復習し、研究でも使えるようにしっかり修得する。				2
3	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
4	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
5	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
6	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
7	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
8	事前学修	第 2 回参照				2

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IPC303
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		必修	○	3 年	後期	
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本研究室では人工知能技術の応用システムを幅広く扱っていきます。その人工知能を使ったシステムを構築するために必要となるプログラミング技術や、論理学、Web アプリケーションの周辺技術を実習を通して学びます。用意された課題を一人で取り組むだけでなく、わからない所を質問したり教え合う事でより良い解決方法を学びます。						
授業における学修の到達目標						
課題の中に設定された問題を見極めて、その問題を解決するための技術要素を探し出し、一つ一つの技術要素を理解した上で組合せて問題の解決を目指します。自分で解決できない時には、教師や他の学生とコミュニケーションを通して知識を得られるようにします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	人工知能についての各種技術についてゼミで用意する資料や Web 上の資料を調べておきます。				2
	授業	演習を通して人工知能に関する技術を習得します。				
	事後学修	時間内にできなかった事の完成と、課題の内容を復習し、卒業研究でも使えるようにしっかり修得する。				2
2	事前学修	第 1 回参照				2
	授業	第 1 回参照				
	事後学修	第 1 回参照				2
3	事前学修	第 1 回参照				2
	授業	第 1 回参照				
	事後学修	第 1 回参照				2
4	事前学修	第 1 回参照				2
	授業	第 1 回参照				
	事後学修	第 1 回参照				2
5	事前学修	第 1 回参照				2
	授業	第 1 回参照				
	事後学修	第 1 回参照				2
6	事前学修	第 1 回参照				2
	授業	第 1 回参照				
	事後学修	第 1 回参照				2
7	事前学修	第 1 回参照				2
	授業	第 1 回参照				
	事後学修	第 1 回参照				2
8	事前学修	第 1 回参照				2
	授業	第 1 回参照				
	事後学修	第 1 回参照				2

9	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
10	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
11	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
12	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
13	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
14	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
15	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題を提出すると同時に結果についてゼミ内で報告してもらい、その場で指導を行います。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	実際に動作するシステムを作成してみたいという強い意志のある学生を歓迎します。演習で作成した物は大学祭での展示や、その他のイベントでも活用します。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	齋藤 健司(314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	前期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本研究室では人工知能技術の応用システムを幅広く扱っていきます。仮想環境(Virtual Environment)や、ロボット、e-Learning システムなどの人工知能と関連のあるテーマを選択し、各自の興味を踏まえてそれぞれの調査・作業の詳細を、議論を通して決定します。次に最終目標を定めて、これを達成するための計画を立てます。各自調査・作業を進めながら順番に進捗報告のプレゼンテーションを行います。プレゼンテーション後にはディスカッションを行い、これを通して問題点の洗い出しや作業の進展やより良い研究ができるようにしていきます。						
授業における学修の到達目標						
議論を通して目標を定め、計画的に目標を達成する力を付けることを到達目標とします。その過程で、一つの事を深く考えること、自分で根気良く調査すること、探しても答が見付からない問題を持てる知識を応用して解決しようとするに取り組んで欲しい。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	Web などを活用し、人工知能に関連するテーマの調査と、自分のやりたい事の調査をしておきます。				2
	授業	教員や他のゼミ生との議論を通して、取り組むべきテーマと目標を明確化し、目標到達のための計画を練ります。				
	事後学修	ゼミで議論したテーマと目標・計画を整理し、次回のゼミに備えます。				2
2	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				
	事後学修	第 1 回参照。				2
3	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				
	事後学修	第 1 回参照。				2
4	事前学修	計画に従い、調査・作業を行います。自分の順番の時には進捗報告の資料を作ります。				2
	授業	進捗報告を行い自分の調査や作業の次のステップを見極め、他のゼミ生の議論にも参加します。				
	事後学修	ゼミの時間で得たヒントについて深く調査したり、新しい着想を試すなどして作業を進めます。				2
5	事前学修	第 4 回参照。				2
	授業	第 4 回参照。				
	事後学修	第 4 回参照。				2
6	事前学修	第 4 回参照。				2
	授業	第 4 回参照。				
	事後学修	第 4 回参照。				2
7	事前学修	第 4 回参照。				2
	授業	第 4 回参照。				
	事後学修	第 4 回参照。				2

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	齋藤 健司(314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○		IMC409
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	4 年	後期	○
対応するディプロマポリシー		(1),(2),(3),(4),(5),(6)				
授業概要						
本研究室では人工知能技術の応用システムを幅広く扱っていきます。仮想環境(Virtual Environment)や、ロボット、e-Learning システムなどの人工知能と関連のあるテーマを選択し、各自の興味を踏まえてそれぞれの調査・作業の詳細を、議論を通して決定します。次に最終目標を定めて、これを達成するための計画を立てます。各自調査・作業を進めながら順番に進捗報告のプレゼンテーションを行います。プレゼンテーション後にはディスカッションを行い、これを通して問題点の洗い出しや作業の進展やより良い研究ができるようにしていきます。						
授業における学修の到達目標						
議論を通して目標を定め、計画的に目標を達成する力を付けることを到達目標とします。その過程で、一つの事を深く考えること、自分で根気良く調査すること、探しても答が見付からない問題を持てる知識を応用して解決しようとするに取り組んで欲しい。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	計画に従い、調査・作業を行います。自分の順番の時には進捗報告の資料を作ります。				2
	授業	進捗報告を行い自分の調査や作業の次のステップを見極め、他のゼミ生の議論にも参加します。				
	事後学修	ゼミの時間で得たヒントについて深く調査したり、新しい着想を試すなどして作業を進めます。				2
2	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				
	事後学修	第 1 回参照。				2
3	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				
	事後学修	第 1 回参照。				2
4	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				
	事後学修	第 1 回参照。				2
5	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				
	事後学修	第 1 回参照。				2
6	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				
	事後学修	第 1 回参照。				2
7	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				
	事後学修	第 1 回参照。				2
8	事前学修	第 1 回参照。				2
	授業	第 1 回参照。				

	事後学修	第 1 回参照。	2
9	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
10	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
11	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
12	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
13	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
14	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
15	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミの時間中に行うプレゼンテーションに対して指導を行い、ゼミ時間外でも質問に対応します。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	本当にやってみたいテーマを探り出して、楽しく熱中して取り組んで欲しいです。
担当教員の実務経験	なし

マレーシア短期留学 Short-term Study Abroad (Malaysia)

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	OGI101	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
世界中の多くの国で英語が話されています。英語が第一言語として話される海外の国は、ジャマイカやトリニダード・トバゴを含めて 19 ヶ国あります。55 ヶ国が第二言語として英語を話します。そのため、世界には母語話者よりも非母語話者の方が英語を話すことが多いのです。シンガポール、マレーシア、インド、ナイジェリア、フィリピンなどの国々は独自の言語を持っていますが、多くの場合、英語を使用しています。 本学には、マレーシアで英語スキルと文化理解を向上させるための短期言語・文化コースを提供しています。 マレーシアはにぎやかな多国籍文化の国で、人口のおよそ 3 分の 2 が英語を話します。今年の 9 月上旬にマレーシアのクアラルンプールにある UCSI 大学に 1 年生 10 名に行ってほしいと思っています。HIU は世界における国際感覚とフレンドシップを育むことを大切に思っています。今年は 10 人の 1 年生が午前中は英語の勉強、午後は文化的なイベントを体験できます。（学校の都合で英語の勉強と文化体験は逆順番になる可能性もあります） **** IT 工場見学（Industry 4.0）もありますので、非常に価値がある短期留学です。 https://polite.do-johodai.ac.jp/moodle/course/view.php?id=819#section-2 本学での授業回数：5 回 現地での授業回数：10 回						
授業における学修の到達目標						
第一の目的は、英語だけの環境に身をおくことにより現時点での自己の英語力を認識し、今後の英語学習の方向性を見つけることです。また第二の目的は、多国籍の人を通じ英語でコミュニケーションする能力を身につけ、国際感覚に慣れてもらうことを目標としています。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	1・インターネットでマレーシアを調べること				2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(1) ----- ・マレーシアについて（文化・言語・宗教・地理・歴史・社会）（ディスカッション・説明）				
	事後学修	1・授業中に出た情報をインターネットで確認すること 2・追加情報をノートに記録				2
2	事前学修	1・POLITE「マレーシア短期留学」コースに載せてある(マレーシア短期留学ガイダンスブック)をダウンロードして、読むこと 2・分からないところノートの記録すること				2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(2) ----- ・マレーシア短期留学ガイダンスブック（ディスカッション・説明）				
	事後学修	1・もう一度(マレーシア短期留学ガイダンスブック)を読むこと 2・大事と思ったところノートに記録すること				2
3	事前学修	1・POLITE「マレーシア短期留学」コースに載せてある(あんしんガイドブック)と(学研災付帯海外留学傷害保険の説明)をダウンロードして、読むこと				2

	授業	本学：マレーシアに行く前授業(3) ----- ・ あんしんガイドブック・学研災付帯海外留学傷害保険について（ディスカッション・説明）	
	事後学修	1・もう一度(あんしんガイドブック)と(学研災付帯海外留学傷害保険の説明)を読むこと 2・大事と思ったところノートに記録すること	2
4	事前学修	1・ノートに記録してる情報を全部読むこと 2・分からないことまだあれば、授業中に確認するため、ハイライトすること	2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(4) ----- ・ 2023 年度マレーシア短期留学報告会のビデオを見る ・ 大事と思った情報があれば、ビデオを見ながらノートに記録すること	
	事後学修	1・ノートに記録してる情報を全部読むこと 2・もう一度報告会のビデオを見ろこと（リンクは POLITE）	2
5	事前学修	1・マレーシア空港で必要と思った質問を考えて、日本語と英語でノートに記録すること	2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(5) ----- ・ 空港で使える英語の練習	
	事後学修	1・授業中に出了言葉・質問・文章・の練習（ノートを読むこと） 2・言い方の練習	2
6	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(1) ----- *UCSI の都合で、授業の流れまだ後悔してない ・ 午前 授業 ・ 午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶すること	2
7	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(2) ----- ・ 午前 授業 ・ 午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
8	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(3) ----- ・ 午前 授業 ・ 午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
9	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(4) ----- ・ 午前 授業 ・ 午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
10	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2

	授業	現地：UCSI での授業(5) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
11	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(6) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
12	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと ・UCSI の発表のテーマを考えること	2
	授業	現地：UCSI での授業(7) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶すること 2・UCSI の発表のテーマを考えること	2
13	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと 2・UCSI の発表の内容を考えること	2
	授業	現地：UCSI での授業(8) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶すること 2・UCSI の発表の内容を考えること	2
14	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと 2・UCSI の発表を準備すること	2
	授業	現地：UCSI での授業(9) ----- ・午前 授業 ー 発表の準備 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶すること 2・UCSI の発表を練習すること	2
15	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと 2・UCSI の発表を準備すること	2
	授業	現地：UCSI での授業(10) ----- ・午前 授業 ー UCSI の発表（英語） ・午後 文化	
	事後学修	1・12月の海外事情発表会の内容考えること 2・発表のテーマとプランニングすること	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 ■事前授業：20% ■レポート：30%（帰国後に提出となる） ■その他：30%（現地語学研修機関での成績） ■報告会でのプレゼンテーション：20%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
事前授業が終わったら、資料（宿題等）、採点して、返します。 帰国してからディブリーフィングセッションがあります。 ライングループ（と個人）でフィードバック・アドヴァイス・相談も可能です。 報告会(12月)でレポートの点数を教えます。	
教科書	書名：現地（マレーシア）で配布する, 著者名：未定, 出版社：, 備考：現地で配布する・英語の教科書
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	国際情報入門、および English for Communication または English for Media／English for Business／English for Systems／English for Medicine
備考	学生選抜は(1)マレーシア短期留学受講申込書の中に自己アピール記入欄、(2)授業中の態度、(3)表現力、(4)最終面接で行われます。
担当教員の実務経験	なし

海外語学・文化研修（フィンランド編） Overseas Language and Culture Course (Finland)

担当教員	安田 光孝 他(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	実験, 実習	○	OGI201	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中	
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
※この講義の履修を検討している人は、あらかじめ安田（135 研究室）に相談してください。						
この講義は 8 月に実施するおよそ 2 週間のフィンランド留学プログラムである。						
フィンランドに実際に赴き、現地の大学が提供するプログラムに参加し、その講義と異文化体験を通じて、日常英会話力をつける。また、異文化を理解する寛容性を身につける。						
帰国後、報告レポートの提出と報告発表会を実施する。						
<注意事項>						
・引率はありません。渡航前に渡航と現地生活のための事前講義を行います。						
・国際情報プログラム正課生のみ参加可能（2 年生以上）						
・英語力に関する要件あり（CEFR B1※レベル以上）						
※CEFR B1：英検 2 級相当。仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。（引用：BRITISH COUNCIL CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠））						
授業における学修の到達目標						
・フィンランド文化と価値観に触れることにより、国際的視野を広げる						
・現地での講義及び現地学生との交流等により、英語力を向上させる						
・現地企業見学や起業家からの講演等により、アントレプレナーシップ精神を醸成させる						
・フィンランドにおける IT 活用事例の学習と体験を通じて、IT 分野の知見を広げる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	フィンランドについて調べておく				2
	授業	フィンランドとオウル市の基礎知識				
	事後学修	フィンランドとオウル市について更に調べてみる				2
2	事前学修	渡航の準備で何が必要か調べておく				2
	授業	渡航と現地生活のための準備について				
	事後学修	渡航と現地生活について更に調べ、準備を進める				2
3	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する				2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 1				
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる				2
4	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する				2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 2				
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる				2
5	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する				2

	授業	フィンランドにて、プログラム受講 3	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
6	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 4	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
7	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 5	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
8	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 6	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
9	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 7	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
10	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 8	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
11	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 9	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
12	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 10	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
13	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 11	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
14	事前学修	次の講義の内容を把握し、準備する	2
	授業	フィンランドにて、プログラム受講 12	
	事後学修	受講した講義の内容をふりかえり、知見の定着をはかる	2
15	事前学修	発表の準備を行う	2
	授業	報告発表会を実施	
	事後学修	留学全体をふりかえる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：50% □演習課題： % ■その他[発表]：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

日本に連絡できる手段を設けておき、必要に応じ、サポートとフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示する
単位修得が望ましい科目	
備考	

担当教員の実務経験

オウル応用科学大学に客員研究員として、2017 年（6 ヶ月）と 2023 年（5 ヶ月）の 2 回赴任している。

海外事情（オーストラリア編） Global Studies (Australia)

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	実験, 実習	○	OGI102	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	冬期集中	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
海外事情（オーストラリア編）						
本科目では、英語運用能力の向上や欧米文化への理解を深めるとともに、IT 分野の学びや留学に関する基礎知識を身につけ、国際的なコミュニケーション力を養うことを目的としています。出発前には、学内での事前学修があり、修了することで単位に反映されます。						
プログラムの具体的な内容は、本学とオーストラリアの協定校が協議のうえ決定します。現在、詳細を調整中であり、確定次第あらためてお知らせします。主な学習ポイントは、英語力・コミュニケーション力の強化、そして異文化理解です。参加を希望する学生は、選考において一定の英語力が求められます。						
・ 為替レートや国際情勢の変動により、航空券代や滞在費が大きく変動する場合があります。 本学では一部の費用を支援していますが、留学は有意義である一方、相応の費用負担が発生する点をご理解ください。						
・ 学生は、本学から最大 15 万円までの貸与を受けられる場合があります（返済時期は後日設定）。						
・ 参加者が規定の人数に達しない場合、プログラムは実施されません （必要人数は年度により異なりますのでご確認ください）。						
・ 実施期間は、1 月下旬から 2 月上旬までの 2 週間程度を予定しています。						
・ 期間は、協定校の都合により変更となる場合があります。						
・ 新しい情報が入り次第、シラバスを随時更新します。						
授業における学修の到達目標						
・ 英語のみの環境を通して現時点の英語力を把握し、今後の学習方針を立てられるようになる。						
・ 多様な背景をもつ人々と英語で円滑にコミュニケーションできる力を身につける。						
・ 外国での生活・学習経験を通して、外国語による実践的なコミュニケーション力と学習意欲を高める。						
・ IT スキルの重要性和、それらが国際的に応用可能な能力であることを理解する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	1. インターネットでオーストラリアを調べること				2
	授業	本学：オーストラリアに行く前授業(1) ----- オーストラリアについて（文化・言語・宗教・地理・歴史・社会）のディスカッション・説明				
	事後学修	1・授業中に得た情報をインターネットで確認すること 2・追加情報をノートに記録				2
2	事前学修	1・POLITE「海外事情（オーストラリア編）」コースに載せてある「海外事情（オーストラリア編）」ころノートの記録すること				2
	授業	本学：オーストラリアに行く前授業(2) ----- 「海外事情（オーストラリア編）」ガイダンスブックのディスカッション・説明				
	事後学修	1・もう一度「海外事情（オーストラリア編）」ガイダンスブック)を読むこと 2・大事と思ったところノートに記録すること				2

3	事前学修	1・POLITE「海外事情（オーストラリア編）」コースに載せてある(あんしんガイドブック)と(学研災付帯海外留学傷害保険の説明)をダウンロードして、読むこと	2
	授業	本学：オーストラリアに行く前授業(3) ----- あんしんガイドブック・学研災付帯海外留学傷害保険について のディスカッション・説明	
	事後学修	1・もう一度(あんしんガイドブック)と(学研災付帯海外留学傷害保険の説明)を読むこと 2・大事と思ったところノートに記録すること	2
4	事前学修	1・ノートに記録してる情報を全部読むこと 2・分からないことまだあれば、授業中に確認するため、ハイライトすること	2
	授業	本学：オーストラリアに行く前授業(4) ----- 2023 年度海外事情・アメリカ編報告会のビデオを見る ・大事と思った情報があれば、ビデオを見ながらノートに記録すること	
	事後学修	1・ノートに記録してる情報を全部読むこと 2・もう一度報告会のビデオを見ること（リンクは POLITE）	2
5	事前学修	1・オーストラリアの空港で必要と思った質問を考えて、日本語と英語でノートに記録すること	2
	授業	本学：オーストラリアに行く前授業(5) ----- 空港で使える英語の練習	
	事後学修	1・授業中に出了言葉・質問・文章・の練習（ノートを読むこと） 2・言い方の練習	2
6	事前学修	授業内容に関係する資料に目を通し、必要な準備を行う。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 1	
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、要点を整理する。	2
7	事前学修	指定された事前資料を確認し、予備知識を整理しておく。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 2	
	事後学修	授業で扱った情報を確認し、理解を補強しておく。	2
8	事前学修	当日の学習に備え、関連情報を読み、理解を深めておく。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 3	
	事後学修	学習内容を見直し、不明点を整理しておく。	2
9	事前学修	学修テーマに関わる基本事項を確認し、学習の土台を整えておく。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 4	
	事後学修	当日のテーマに関する知識をまとめ、理解を深めておく。	2
10	事前学修	課題資料を読み、授業で扱う内容を把握しておく。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 5	
	事後学修	授業で得た内容を整理し、次回に向けて確認を行う。	2
11	事前学修	学習に必要な語彙や表現を確認し、基礎理解を高めておく。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 6	
	事後学修	当日の学修成果を振り返り、必要に応じて復習しておく。	2
12	事前学修	事前に提示された内容を読み、授業に向けて要点を押さえておく。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 7	
	事後学修	学んだ内容を整理し、関連資料を読み直しておく。	2

13	事前学修	当日扱うテーマに関連した情報を調べ、理解を深めておく。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 8	
	事後学修	授業中に扱った語彙や表現を確認し、定着を図る。	2
14	事前学修	授業で必要となる知識を確認し、準備を整えておく。	2
	授業	海外実習（オーストラリア編）現地 9	
	事後学修	当日の要点をまとめ、翌日の学習につながるよう整理しておく。	2
15	事前学修	報告会で扱う内容を整理し、発表に必要な資料を準備しておく。	2
	授業	本学での海外事情オーストラリア編報告会	
	事後学修	報告会で共有した内容を振り返り、今後の学びに生かす点をまとめておく。	2

成績評価の方法およびその基準

■事前授業：20% ■レポート：30%（帰国後に提出となる） ■その他：30%（現地語学研修機関での成績） ■報告会でのプレゼンテーション：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前授業で提出された資料（課題等）は採点後に返却する。
 帰国後のディブリーフィングセッションにて追加のフィードバックを行う。
 必要に応じて、LINE グループおよび個別でのフィードバックや相談も受け付ける。
 12 月の報告会にてレポートの得点を通知する。

教科書	
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	国際情報入門、および English for Communication（旧 Communication1） または English for Media／English for Business／English for Systems／English for Medicine （旧シラバスでは Speaking 1、Speaking 2、Communication 2 に相当）
備考	未定
担当教員の実務経験	未定

課題解決型国際 WS International Problem Solving Workshop

担当教員	栗原 純一 他 (307 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	実験, 実習	○	OGI301	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		3 年	夏期集中	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
国際情報演習、プロジェクトトライアル、国際コラボレーション A/B に続く PBL 科目で、国際コラボレーションと同様に、海外他校との協働で実施するワークショップである。国際コラボレーションで英語を用いたワークショップ経験を積んだ学生を主な対象とする。Singapore Polytechnic が主催する Learning Express に参加し、専門の異なるメンバーで構成された国際混成チームで現地の地域課題解決に取り組む課題解決型学習である。デザインシンキングのプロセスを用い、現地調査やインタビューを通じて課題を発見し、共感に基づく解決策の創出と提案を行う。協働的学習を通して、課題発見力、創造的思考力、実践的な問題解決力、異文化理解力および英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。						
授業における学修の到達目標						
1.デザインシンキングを用いて、現地の地域課題を適切に設定できる。						
2.国際混成チームで協働し、課題解決に主体的に取り組める。						
3.調査結果を基に、創造的な解決策を構想・提案できる。						
4.英語での議論や発表を通じて、異文化環境で意思疎通ができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	PBL および Learning Express の目的を理解する				2.0
	授業	事前準備①：授業ガイダンス、Learning Express の概要理解、PBL とデザインシンキングの基礎				
	事後学修	授業内容と学修目標を振り返る				2.0
2	事前学修	現地の社会・文化・地域課題について調査する				2.0
	授業	事前準備②：現地理解（社会・文化・課題）、英語での協働準備				
	事後学修	事前準備で得た知見を整理する				2.0
3	事前学修	自己紹介内容と自身の強みを英語で準備する				2.0
	授業	現地①：オリエンテーション、国際混成チーム編成、プログラム全体説明				
	事後学修	チーム形成の過程を振り返る				2.0
4	事前学修	デザインシンキングのプロセスを理解する				2.0
	授業	現地②：デザインシンキング概説、課題領域の理解、チームビルディング				
	事後学修	学んだ手法の活用方法を整理する				2.0
5	事前学修	フィールドワークの目的と質問項目を準備する				2.0
	授業	現地③：現地フィールドワーク①（観察・ヒアリング、共感フェーズ）				
	事後学修	観察・インタビュー内容を整理する				2.0
6	事前学修	調査結果を整理し、課題仮説を検討する				2.0
	授業	現地④ 現地フィールドワーク②、インサイト整理、課題仮説の設定				
	事後学修	インサイトと課題設定を整理する				2.0
7	事前学修	地域課題の事例を調査する				2.0
	授業	現地⑤ 課題定義、問題文（Problem Statement）の作成				

	事後学修	Problem Statement を整理する	2.0
8	事前学修	アイデア創出手法を確認する	2.0
	授業	現地⑥：アイデア創出（Ideation）、ブレインストーミング	
	事後学修	創出したアイデアを整理・分類する	2.0
9	事前学修	解決策の評価基準を整理する	2.0
	授業	現地⑦：アイデアの具体化、解決策の選定	
	事後学修	選定した解決策と理由を整理する	2.0
10	事前学修	プロトタイプ事例を調査する	2.0
	授業	現地⑧：プロトタイプ作成①（構想・設計）	
	事後学修	試作内容と改善点を整理する	2.0
11	事前学修	検証方法と評価観点を確認する	2.0
	授業	現地⑨：プロトタイプ作成②（改善・検証）	
	事後学修	フィードバック内容を整理する	2.0
12	事前学修	検証結果を整理する	2.0
	授業	現地⑩：解決策の検証、フィードバック反映	
	事後学修	解決策の修正内容を整理する	2.0
13	事前学修	最終発表資料を準備する	2.0
	授業	現地⑪：最終提案準備（資料作成・発表練習）	
	事後学修	発表準備の過程を振り返る	2.0
14	事前学修	最終発表のリハーサルを行う	2.0
	授業	現地⑫：最終発表・成果共有、振り返り	
	事後学修	成果と課題を振り返る	2.0
15	事前学修	学内報告用資料を準備する	2.0
	授業	事後活動：学内報告会、学修成果の振り返りと自己評価	
	事後学修	本授業全体の学修成果を振り返る	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[国際チームでの協働状況、課題解決プロセスおよび最終発表・報告内容を総合的に評価する。]：100%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各課題や発表に対して、教員および現地ファシリテータから口頭およびコメントによるフィードバックを行い、振り返りを通じて学修改善につなげる。

教科書

参考書・Web サイト

Singapore Polytechnic "SP Learning Express":
<https://sp-cdio-centreforteaching.sp.edu.sg/our-work/sp-learning-express/>

単位修得が望ましい科目

国際コラボレーション A/B、デザインシンキング

備考

海外でのプログラム開催時期によっては、後期の授業と重なる可能性があります。なお、海外渡航の旅費等の一部は補助しますが、現地活動費を含めて費用の一部は自己負担してもらいます。

担当教員の実務経験

実務経験なし

ICT入門（国際情報プログラム） Introduction to ICT

担当教員	広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IBC103	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		必修	○	1 年	前期	
対応するディプロマポリシー		(2)				
授業概要						
テーマ：ICT の基礎技術を習得する 現在の情報化社会においてコンピューターを自由自在に利活用できる技術は必要不可欠なものになっています。コンピューターを自由自在に利活用するとは、単にソフトウェアの使い方がわかるということだけではなく、自分に必要なコンピュータ環境を自ら構築し、その中で必要とされるソフトウェアを自由自在に操ることができるということを意味します。本講義では、自分に必要とされるコンピュータ環境の作成方法、及び、必須とされるソフトウェアの使い方を実習により学習します。授業には、LMS（POLITE）及び貸与 PC を用いる。						
授業における学修の到達目標						
コンピューターとはどのようなものであるかを理解し、また、自分の目的に合ったコンピューター環境の作成方法、更に、その環境、及び、ソフトウェアの利用技術を習得することを目標とする。 国際情報プログラムとして、コンピューターの環境を他言語表示に変更して実習を行う。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。本学 P C の利用方法を把握しておく。				2
	授業	ガイダンス、コンピューターとは、大学のコンピュータ環境				
	事後学修	POLITE の第 1 回目講義資料「コンピューターとは、大学のコンピュータ環境」を復習する				2
2	事前学修	テキストを利用し、Windows のウィンドウの操作、エクスプローラの操作を把握しておく。				2
	授業	Windows の操作基礎 -ウィンドウの操作、エクスプローラの操作 実習				
	事後学修	POLITE の第 2 回目講義資料「Windows の操作基礎 -ウィンドウの操作、エクスプローラの操作」を復習する				2
3	事前学修	テキストを利用し、Windows におけるファイルのコピー、移動、ファイルの圧縮などの基本操作について把握しておく。				2
	授業	Windows の操作基礎 -ファイルの操作 実習				
	事後学修	POLITE の第 3 回目講義資料「Windows の操作基礎 -ファイルの操作」を復習する				2
4	事前学修	テキストを利用し、Windows の設定画面における環境設定方法やコントロールパネルによる環境設定方法を把握しておく。				2
	授業	Windows の環境設定 実習				
	事後学修	POLITE の第 4 回目講義資料「Windows の環境設定」を復習する				2
5	事前学修	Windows のコマンドプロンプトの基本的な使い方、基本的なコマンドについて把握しておく。				2
	授業	Windows の操作基礎 -コマンドプロンプトの使い方 実習				
	事後学修	POLITE の第 5 回目講義資料「Windows の操作基礎 -コマンドプロンプトの使い方」を復習する				2
6	事前学修	情報倫理とは何か、情報倫理に関係する内容を事前調査しておく。				2

	授業	情報倫理ビデオ教材視聴	
	事後学修	テキスト「スライドで学ぶ ICT 入門」の情報倫理の章を読み復習する	2
7	事前学修	テキストを利用し、メーラの使い方、PCメールの基本的な書き方について把握しておく。	2
	授業	メールの正しい書き方 実習	
	事後学修	POLITE の第 7 回目講義資料「メールの正しい書き方」を復習する	2
8	事前学修	テキストを利用し、インターネットにはどのような情報が存在し、どのように利用することで学習や作業の効率化が図れるか事前調査しておく。	2
	授業	インターネットの使い方	
	事後学修	POLITE の第 8 回目講義資料「インターネットの使い方」を復習する	2
9	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Word の基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Word 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 9 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Word 基礎編-」を復習する	2
10	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Word を利用した美しく整った文書の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Word 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 10 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Word 応用編-」を復習する	2
11	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel の基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 11 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 基礎編-」を復習する	2
12	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel における関数を利用した計算方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 12 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編-」を復習する	2
13	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel における条件付き書式やピボットテーブルについて把握しておく。また、プレゼンテーションとは何かを把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- + Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 13 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- + Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-」を復習する	2
14	事前学修	テキストを利用し、Microsoft PowerPoint の基本的な利用方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 応用編-	
	事後学修	POLITE の第 14 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 応用編-」を復習する	2
15	事前学修	テキストを利用し、Microsoft PowerPoint を利用した効果的なプレゼンテーション資料の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 実践編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 15 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 実践編-」を復習する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト：20% □レポート： % ■演習課題：80% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
LMS (POLITE) により課題に対する評価をフィードバックする	
教科書	書名：【電子教科書】スライドで学ぶ ICT 入門 Windows11/Office2021, 著者名：長尾光悦, 出版社：コロナ社, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	基本的には全学部学科で実施している ICT 入門に沿って展開するが、国際情報プログラムの科目としてコンピューターの多言語（他の言語をオプションとして追加）での扱いを必須とする。毎回貸与 PC が必要となるので、忘れずに充電して携帯すること。
担当教員の実務経験	なし

Introduction to Global Information (国際情報入門) Introduction to Global Information

担当教員	樫 達 他(118 研究室), 樫 達 他(136 研究室), 樫 達 他(317 研究室), 樫 達 他(319 研究室), 樫 達 他(337 研究室), 樫 達 他(308 研究室), 樫 達 他(323 研究室), 樫 達 他(135 研究室), 樫 達 他(128 研究室), 樫 達 他(137 研究室), 樫 達 他(310 研究室), 樫 達 他(218 研究室), 樫 達 他(307 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	実験, 実習	○	OGI103	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		1 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
国際情報プログラムの概要を紹介するとともに, IT 分野の国際的な動向に焦点を当て, 最新の情報やトレンドについて詳しく解説する。受講者は, 本プログラムにおける国際的な体験を通じて, ツールとしての言語力や国際感覚を養うことで広がる世界がどのようなものかを学ぶ。講義は POLITE を利用して行う。						
授業における学修の到達目標						
・ 国際社会で通用する複眼的視点及び論理的思考力を身につけることができる。 ・ 世界の IT 業界のトレンド動向について学び, 技術的な知識やスキルの最新動向について理解を深めることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し, 授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	ガイダンス・国際情報プログラムとは				
	事後学修	授業全体の振り返り				2.0
2	事前学修	(1) まず、質問「What is information?」に答え、5～6 語で書く。 (2) 短い動画を視聴し、もう一度「What is information?」と自分に問いかける。(動画は POLITE で視聴し、内容を確認しておく。) (3) 答えをサポートする理由を含め、3～4 文でまとめる。授業中に発表する可能性あり (対面授業のみ)。				2.0
	授業	What is “global information”? What is “information” anyway? 「“グローバル情報”って何? “情報”って何?」 (オンデマンド授業: 動画は POLITE で視聴し、内容を確認しておく)				
	事後学修	(1) 「What is information?」の質問に答えられるか振り返る。答えられなければ、「What is Global Information?」の問いにも答えられないことになる。 (2) グローバル情報の専門家を目指す場合、必要なスキルは何か考え、書き出してみる。				2.0
3	事前学修	Have you ever talked in English online (Zoom, Chat, etc.)? When? Where? With whom? Why?				2.0
	授業	"Hybrid" English Discussion (in-class + online)				

		hands-on in-class experience!	
	事後学修	How did it go? Write down pluses and minuses of today's "hybrid class" experience!	2.0
4	事前学修	世界のあいさつ・自己紹介のフレーズを調べる	2.0
	授業	グローバル社会を生き抜く力としての複言語能力	
	事後学修	講義を参考に、グローバル社会を生き抜くための言語能力について自分の意見をまとめる。	2.0
5	事前学修	POLITE に掲載する資料について、「重要だ」「なるほど」と思ったり、「これはどうか」と疑問に感じたところにアンダーラインを引きながら、読む。	2.0
	授業	グローバル時代のキャリア形成	
	事後学修	事前資料や講義用プリントを基に、授業の内容の理解を深める。	2.0
6	事前学修	POLITE に掲載する資料を読み、海外で仕事をするための基礎知識を調べる。	2.0
	授業	海外で仕事をするには	
	事後学修	授業内容も参照し、英文履歴書を作成し、学生時代に積んでおきたい経験について簡単なレポート（日本語可）をまとめる。	2.0
7	事前学修	POLITE に掲載する資料を読み、一般的な英語の科学技術論文の様式について調べる。	2.0
	授業	最新技術を英語で学ぶ・発信する方法について学習する	
	事後学修	指定した英語論文の概要をまとめる。	2.0
8	事前学修	アントレプレナーシップについて基本的な内容を日本語で調べておく	2.0
	授業	アントレプレナーシップとは	
	事後学修	授業で習った内容を含め、アントレプレナーシップの本質は何かを英語でまとめてみる。	2.0
9	事前学修	アートコラボレーションについてどんな試みがあるのか調べる（国内外問わず）。	2.0
	授業	Sound Art Collaboration Projects	
	事後学修	授業で理解した内容について英語でアウトプットしてみる（口頭/記述）	2.0
10	事前学修	国際映画祭について基本的な内容を日本語で調べておく 指示された（映像）資料を視聴する	2.0
	授業	国際映画祭における国際交流とは	
	事後学修	国際映画祭について学んだことや自分の意見をまとめる	2.0
11	事前学修	POLITE に掲載するスライドを学習する。	2.0
	授業	グローバル時代の企業経営	
	事後学修	授業ノートを基に、授業の内容の理解を深める。	2.0
12	事前学修	・POLITE に配信する資料やスライドを学習する。 ・中国 IT 企業（ファーウェイなど）の最新資料を調べておく。	2.0
	授業	中国 IT 企業の技術と世界戦略	
	事後学修	各資料を基にオンデマンド授業の内容を理解したうえで、自分の意見をまとめる。	2.0
13	事前学修	POLITE に配信する資料を学習する。	2.0
	授業	身近な医学を英語で学ぶ・発信する	
	事後学修	講義内容を英語でまとめたり課題提出で理解を深める。	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載した資料を読み、興味があればリンク先の参考文献なども読んでおく。	2.0
	授業	地球規模の課題とサステナビリティ	
	事後学修	地球規模の課題に対して、人や国によって異なる考え方があることを理解したうえで、自分の意見をまとめる。	2.0
15	事前学修	今までの資料を振り返ってみる。	2.0

	授業	国際情報プログラム受講に向けて	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り, 国際情報プログラムについての理解を深める。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
☐ 試験： % ☐ 小テスト： % ☒ レポート：100% ☐ 演習課題： % ☐ その他[]			
※英語で書いたレポートは高得点を与える。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
レポートに対する評価・コメントによりフィードバックを行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		特になし	
単位修得が望ましい科目		特になし	
備考		特になし	
担当教員の実務経験		担当者の一人は、日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験やアメリカやオーストラリアなどの海外大学における勤務経験、海外福祉法人や政府に対するコンサルティング経験を授業に活かします。	

国際情報概論 Global Information

担当教員	隼田 尚彦 他(136 研究室), 隼田 尚彦 他(310 研究室), 隼田 尚彦 他(128 研究室), 隼田 尚彦 他(135 研究室), 隼田 尚彦 他(137 研究室), 隼田 尚彦 他(323 研究室), 隼田 尚彦 他(307 研究室), 隼田 尚彦 他(218 研究室), 隼田 尚彦 他(338 研究室), 隼田 尚彦 他(123 研究室), 隼田 尚彦 他(304 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		OGI202
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CD10
情報メディア学科		選択		2 年	前期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
国際情報プログラムにおける必修科目です。						
国際情報プログラムで自律的に国際感覚を養うための基礎を学ぶ。主な言語として英語を使用し、各分野の国際的な動向を学ぶとともに、英語力の向上を体感する。オムニバス科目として実施する。講義は POLITE を利用して行う。						
授業における学修の到達目標						
主に英語を使用する専門授業を理解し、英語も用いる基本的なディスカッションができる。 各分野の国際的な動向を理解し、他者に説明できる。						
上記 2 点を到達目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスの内容を確認し、授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	ガイダンス				
	事後学修	授業内容のノートを整理する				2.0
2	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する				2.0
	授業	多国籍企業の経営戦略				
	事後学修	授業内容のノートを整理する				2.0
3	事前学修	英語実力テストに向けて準備する				2.0
	授業	英語実力テスト				
	事後学修	復習する				2.0
4	事前学修	Prepare the content of the class materials on the POLITE.				2.0
	授業	Let's Discuss Collaborations!				
	事後学修	Output of what you have achieved today.				2.0

5	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	アントレプレナーシップを体現してきた人々	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
6	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	世界の映像作品に見る映像表現と技術	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
7	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	歩行分析と医療について	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
8	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	衛星データで観る世界と地域の課題	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
9	事前学修	POLITE に配信する資料を読んで予習する	2.0
	授業	ヒトの疾患の発生機構について	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
10	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	留学の心構えと、留学生活	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
11	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	アメリカ西海岸のアニメーションスタジオやアートについて	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
12	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	天文学分野における国際協力	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
13	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	物理学と世界	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	Apple 製品に見る UX の考え方	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0
15	事前学修	POLITE に掲載する授業資料の内容を予習する	2.0
	授業	まとめ・国際情報演習に向けて	
	事後学修	授業内容のノートを整理する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： 0% □小テスト： 0% ■各回で課せられるレポート、または演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内及び POLITE 上でフィードバックを行う。

教科書

参考書・Web サイト

適宜、POLITE 及び授業内で指示する

単位修得が望ましい科目

Introduction to Global Information, Communication I, Speaking I

備考	国際情報プログラム（IIP）必修科目。 IIP に登録された学生のみ受講可能。主として英語で授業を行います。
担当教員の実務経験	国際的な実務経験・研究経験のある教員を中心に、その体験も踏まえて主に英語で授業を行う。

国際情報演習 Global Information Practical

担当教員	福沢 康弘 他(310 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		2 単位	演習	○		OGI203
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		2 年	後期	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
国際情報プログラムにおける必修科目です。						
国際情報概論での学びを基に、グループワークを通じてクリティカル・シンキングや国際的な視点からの考え方を養います。主な使用言語は英語。						
授業における学修の到達目標						
各分野の国際的な動向を理解し、他者に説明できる。						
自身の見解を英語で主張すると同時に、他者の見解を英語で聞いて理解し、意見交換ができる。						
上記 2 点を到達目標とする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE に掲載された文献を読み、ディスカッションに備える				2.0
	授業	グローバル戦略における I-R フレームワークをテーマにディスカッションを行う				
	事後学修	ディスカッションの内容をまとめ、次回授業での発表に備える				2.0
2	事前学修	POLITE に掲載された文献を読み、ディスカッションに備える				2.0
	授業	グローバル戦略における CAGE フレームワークをテーマにディスカッションを行う				
	事後学修	第 1 回、第 2 回の授業を総括してレポートを作成する				2.0
3	事前学修	POLITE に掲載された資料を読み、グループワークに備える				2.0
	授業	デザイン思考とグループアイディエーション（理論と実践）				
	事後学修	グループワークの内容を振り返り、次回授業に備える				2.0
4	事前学修	グループで作成した資料を読み、グループ発表に備える				2.0
	授業	デザイン思考とグループアイディエーション（グループ発表）				
	事後学修	グループワークを振り返り、良かった点、悪かった点をまとめる				2.0
5	事前学修	Prepare the content of the class materials on the POLITE.				2.0
	授業	Collaboration Practice 1 (Production Process)				
	事後学修	Progress each collaboration project.				2.0
6	事前学修	Progress each collaboration project.				2.0
	授業	Collaboration Practice 2 (Finalise and Presentation)				
	事後学修	Summarise your achievement.				2.0
7	事前学修	POLITE に掲載された資料を読み、グループワークに備える				2.0
	授業	UI /UX の視点から見たデザイン分析（グループワーク）				
	事後学修	グループワークの内容を振り返り、次回授業に備える				2.0
8	事前学修	グループで作成した資料を読み、グループ発表に備える				2.0
	授業	UI /UX の視点から見たデザイン検討とプレゼンテーション（グループワーク・発表）				
	事後学修	グループワークを振り返り、良かった点、悪かった点をまとめる				2.0
9	事前学修	POLITE に掲載された資料を読み、グループワークに備える				2.0

	授業	映像作品制作の準備、撮影	
	事後学修	グループワークの内容を振り返り、次回授業に備える	2.0
	事前学修	POLITE に掲載された資料を読み、グループワークに備える	2.0
10	授業	映像作品制作の仕上げ、発表	
	事後学修	グループワークを振り返り、良かった点、悪かった点をまとめる	2.0
	事前学修	POLITE に掲載された資料を読み、グループワークに備える	2.0
11	授業	AI と医療や教育との関連についての資料について、グループごとに要点をまとめて発表資料を作成する	
	事後学修	グループワークの内容を振り返り、次回授業に備える	2.0
	事前学修	グループで作成した資料を読み、グループ発表に備える	2.0
12	授業	AI と医療や教育との関連について、グループごとにプレゼンテーションを行う	
	事後学修	グループワークを振り返り、良かった点、悪かった点をまとめる	2.0
	事前学修	POLITE に掲載された資料を読み、グループワークに備える	2.0
13	授業	宇宙情報の活用によるサステナビリティへの貢献についてグループワークを行う	
	事後学修	グループワークの内容をまとめ、次回授業での発表に備える	2.0
	事前学修	グループで作成した資料を読み、グループワークに備える	2.0
14	授業	宇宙情報の活用によるサステナビリティへの貢献についてグループごとにプレゼンテーションを行う	
	事後学修	グループワークの振り返りを行い、レポートにまとめる	2.0
	事前学修	POLITE に配信する資料を学習し、グループワークに備える	2.0
15	授業	講師が提案する疾患に関する課題に関してグループワークを行う	
	事後学修	グループワークの内容を振り返りレポートのにまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物については POLITE に掲載し、添削の上、個別に指導を行う。

学生の発表に対しては、その場で指摘を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	Introduction to Global Information, Communication I, Speaking I, 国際情報概論
備考	特になし
担当教員の実務経験	< 隼田尚彦 > 日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験やアメリカやオーストラリアなどの海外大学における勤務経験、海外福祉法人や外国政府に対するコンサルティング経験を授業に活かします。

グローバルヘルスリテラシー -2026 年度休講- Global Health Literacy

担当教員	JOEL RIAN 他(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング	
		2 単位	演習			OGI302	
開 講 学 科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO	
情報メディア学科		選択		3 年	未定		
対応するディプロマポリシー							
授業概要							
This course explores health-related topics from a layman's (beginner's) perspective. Weekly on-demand lecture videos are accompanied by comprehension quizzes, and explore a variety of themes, including diet, sleep habits, mental health, health professionals, medications, insurance, getting older, and international perspectives on these themes.							

グローバルインターンシップ Global Internship

担当教員	SIMON THOLLAR 他 (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		10 単位	演習	○	OGI303	
開 講 学 科		種 別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
情報メディア学科		選択		3 年	夏期又は冬期集中	○
対応するディプロマポリシー						
授業概要						
授業のテーマ：グローバル情報プロフェッショナルになる 「グローバルインターンシップ」プログラムは、学生が企業、教育機関、国際的な日系企業などに自主的に応募して参加する制度である。承認された場合、学生は現地で最低 5 日間（約 40 時間）のインターンシップを行う。 事前・事後研修を通して、学生は大学での学修内容とインターンシップ経験を振り返り、将来のキャリア形成に活用する。 なお、本プログラムの履修には CEFR B2 程度以上の英語力を必要とし、研修先によっては、より厳しい要件が課される場合がある。						
授業における学修の到達目標						
1. 国際的な実務経験を通して、グローバルな視点で情報を捉え活用する力を身につける。 2. 研修レポートおよびプレゼンテーションの作成を通じて、分析力・記述力・発信力を高める。 3. 大学での学修内容とインターンシップ経験を関連づけ、将来のキャリア形成に必要な判断力と課題対応力を養う。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	インターンシップの概要と目的を事前資料で確認しておく。				2
	授業	インターンシップの意義と「グローバル情報専門職」として求められる視点を整理する。				
	事後学修	今日扱ったテーマを踏まえ、自身の参加目的を簡潔にまとめておく。				2
2	事前学修	自分の関心分野に関連する業界や国際的な組織の基礎情報を確認する。				2
	授業	受入機関の種類や一般的なインターンシップ業務について学び、学修内容との関連を考える。				
	事後学修	志望する業界や企業に関する基礎情報を整理する。				2
3	事前学修	インターンシップ応募に必要な英語表現や書式を確認しておく。				2
	授業	応募書類（CV・志望理由）の構成と表現を学び、作成方針を固める。				
	事後学修	授業内容を基に、応募書類のドラフトを作成する。				2
4	事前学修	面談・連絡時に想定される質問事項をまとめておく。				2
	授業	面談・連絡に必要なコミュニケーションスキルと実践的対応を確認する。				
	事後学修	面談で話す内容を要点のみ整理し、準備する。				2
5	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。				2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 1				
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。				2
6	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。				2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 2				
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。				2
7	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。				2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 3				
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。				2

8	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。	2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 4	
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。	2
9	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。	2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 5	
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。	2
10	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。	2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 6	
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。	2
11	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。	2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 7	
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。	2
12	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。	2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 8	
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。	2
13	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。	2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 9	
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。	2
14	事前学修	インターンシップ準備・課題・ジャーナルの更新を行う。	2
	授業	グローバルインターンシップ：現地 10	
	事後学修	当日の学習内容を振り返り、課題とジャーナルの更新を行う。	2
15	事前学修	プレゼンテーション内容と最終レポートの要点を整理し、発表準備を整える。	2
	授業	インターンシップ成果のプレゼンテーションを行い、学修内容を共有する。	
	事後学修	最終レポートを提出し、プログラム全体を振り返って学修成果をまとめる。	2

成績評価の方法およびその基準

■インターンシップ評価：50% ■レポート：20% ■インターンシップ報告：20% ■ジャーナル：10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前授業で提出された資料（課題等）は採点后に返却する。
 帰国後のディブリーフィングセッションにて追加のフィードバックを行う。
 必要に応じて、LINE グループおよび個別でのフィードバックや相談も受け付ける。
 報告会にてレポートの得点を通知する。

教科書	
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	国際情報演習、国際情報概論、国際情報入門、English for Communication（旧 Communication 1）、 または English for Media／English for Business／English for Systems／English for Medicine （旧シラバスでは Speaking 1・Speaking 2・Communication 2 に相当）
備考	未定
担当教員の実務経験	未定